

坪井遺跡 II

—(仮称)長野原ショッピングセンター建設工事に伴う発掘調査報告書—

2000

群馬県吾妻郡長野原町教育委員会

坪井遺跡 II

—(仮称)長野原ショッピングセンター建設工事に伴う発掘調査報告書—

2000

群馬県吾妻郡長野原町教育委員会



SK06検出状況



SK35出土土器



SK06出土土器



磨製石斧



アクセサリ類



SI05出土土器



SI06出土土器

序 文

現在、長野原町はハッ場（やんば）ダム建設という大事業に全町を上げて取り組んでおります。その中で、貴重な文化遺産を後世に正しく伝えるべく調査し、保存・活用を行えるよう考えております。

本町では、群馬県教育委員会文化財保護課の指導のもと、全町を対象にした遺跡詳細分布調査を三ヶ年かけて実施しました。その結果、数多くの遺跡が存在することが確認されています。

今回の坪井遺跡II発掘調査は、詳細分布調査の結果を踏まえた上で、(仮称)長野原ショッピングセンター造成に伴う調査であります。

この調査により縄文時代前期から後期におよぶ住居跡群や土坑群など当時のムラの一部が明らかとなり、出土品でも縄文土器や石器・アクセサリ類など他地域との交流を窺わせる貴重な資料が多数出土しました。また、平安時代の住居跡から墨書土器が出土するなど予想を上回る成果を得ることができました。

最後になりますがこの調査を実施するにあたり、御指導の先生方、長野原商業開発株式会社、作業に取り組まれたみなさん並びに関係各位に対し厚く御礼申し上げますとともに、本書が広く活用され文化財の保護に役立つことを願い序文といたします。

平成12年3月

長野原町教育委員会

教育長 金子 宥 卷

例 言

1. 本書は、群馬県吾妻郡長野原町大字大津に所在する坪井遺跡の発掘調査報告書である。
2. 調査は（仮称）長野原ショッピングセンター建設工事に伴う事前調査として、長野原商業開発株式会社の委託を受けた長野原町教育委員会が実施した。
3. 発掘調査から調査報告書作成に至るまでの調査事業費は、長野原商業開発株式会社の全額負担による。
4. 調査は発掘調査を平成10年5月7日から8月31日迄、整理調査及び報告書作成を平成10年9月1日から平成12年3月28日迄の期間実施した。
5. 本遺跡の出土遺物ならびに凶面・写真は全て長野原町教育委員会が保管している。
6. 本書は富田孝彦が編集した。執筆は第IV章・第V章－3以外は富田が行った。
7. 調査において以下の項目の一部を委託した。

表土掘削：（株）吉沢建設

測量・航空写真・打製石斧実測トレース：（株）測研

8. 本書における石器の石質鑑定は飯島静夫氏（群馬地質研究会）、石器の総合的分類は野口淳氏（前明治大学助手・現国際日本文化研究センター講師）に依頼し、野口氏からは玉稿を賜った（V章－3）。
9. 発掘調査、整理調査及び報告書作成にあたり、次の方々、団体から御指導・御協力を賜った。（五十音順敬称略）

新井順二・飯島静男・石田 真・大川明子・大西雅広・大平理恵・小野和之・小川卓也・黒岩文夫・
小林克次・坂寄富士夫・佐藤雅一・清水 豊・鈴木徳雄・関 俊明・関根慎二・早田 勉・高島英之・
高橋政充・田中 雄・谷藤保彦・堤 隆・賛田 明・野口 淳・能登 健・長谷川福司・藤巻幸雄・
藤森英二・松島栄治・松原孝志・水沢教子・山口逸弘・若狭 徹・綿田弘実・群馬県教育委員会・
（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団・縄文セミナーの会

10. 調査組織は次のとおりである。

教育長 金子宥巻

課長 桜井守夫（平成10年度）

浅見俊雄（平成11年度）

補佐 篠原智彦（平成10年度）

市村敬司（平成10年度）

林 敏則（平成11年度）

係長 白石光男

調査担当者 富田孝彦（平成10年度主事補、11年4月～主事、同年10月～主任）

調査参加者

吾妻綾子・内海吉朗・大塚通代・大塚敏吉・及川 穰・加島正一・加部良子・唐沢美恵子・熊川千恵子
黒岩一夫・黒岩峰吉・黒岩由美子・小林大吉・桜井幸司・桜井光照・佐藤二郎・篠原満治・嶋村和作
下屋和孝・瀬川一昭・瀬川春江・竹内優子・富沢一二・萩原久子・萩原 弘・蜂須賀慶三郎・
蜂須賀忠行・平井義政・藤井 光・藤本多美子・山口正太郎・渡辺重雄

凡 例

1. 本書で使用した地図は1：5,000「吾妻川流域平面図7」（建設省関東地方建設局八ツ場ダム工事事務所1986）、1：50,000地形図「草津」（国土地理院1997）である。
2. 挿図の方位は磁北を示す。
3. 挿図の縮尺については下記の通りであり、各挿図中に示してある。

遺 構	住居跡・掘立柱建物跡……………1/60	列石・溝・道路状遺構……………1/40
	炉・埋甕・屋外埋設遺構・土坑……………1/30	
遺 物	復元土(陶)器・礫石器類(石皿・磨石等)……………1/4	
	土(陶)器片・打製石斧類(石斧・削器等)……………1/3	
	土(銅)製品・剥片石器類(石鏃・石錘・石匙等)……………1/2	
4. 遺構の略号については以下の通りである。

SB：掘立柱建物跡 SD：溝状遺構 SF：道路状遺構 SI：住居跡 SK：屋外埋設遺構・土坑
5. 挿図中（主に遺物出土状況図）内の（ ）内の数値は縄文時代石器一覧表の整理番号と一致する。
6. 住居跡事実記載中の床面積はタマヤ計測システム株式会社製「Super PLANIX β」により5度計測した平均値を採った。
7. 挿図に図示した遺物は、観察表にその内容を記してある。観察表における法量はく >内は復元値、（ ）内は現存高を表わす。
8. 土器の色調に関しては、「新版標準土色帖1995年後期版」（編・著小山正忠・竹原秀雄、監修農林水産省農林水産技術会議事務局、色票監修財団法人日本色彩研究所）の色名を参考にした。
9. 遺構・遺物実測図中のスクリーントーン・記号は下記の通りである。

遺構



地山

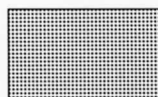


炉(竈)・焼土範囲

遺物 (土器)



繊維



赤彩範囲



須恵(陶磁)器

遺物 (石器)



摩耗・磨面範囲



敲打範囲

●土器

▲石器 (自然礫含む)

目 次

序
例 言
凡 例

I 章 調査概要

1. 調査に至る経緯…………… 1
2. 調査の方法と経過…………… 2

II 章 遺跡の立地と環境

1. 遺跡の位置…………… 5
2. 周辺の遺跡…………… 5
3. 既往の調査…………… 8
4. 基本層序…………… 8

III 章 検出された遺構と遺物

1. 縄文時代前期初頭の遺構と遺物……………19
 - (1) 概 要……………19
 - (2) 竪穴式住居跡……………19
 - (3) 土 坑……………19
2. 縄文時代中期後半の遺構と遺物……………26
 - (1) 概 要……………26
 - (2) 配石遺構……………27
 - (3) 竪穴式(敷石)住居跡……………34
 - (4) 屋外埋設遺構 ……………112
 - (5) 土 坑 ……………123
3. 縄文時代後期の遺構と遺物 ……………143
 - (1) 概 要 ……………143
 - (2) 土 坑 ……………143
4. 弥生時代の遺構と遺物 ……………144
 - (1) 概 要 ……………144
 - (2) 土 坑 ……………144

5. 平安時代の遺構と遺物 ……………144
 - (1) 概 要 ……………144
 - (2) 竪穴式住居跡 ……………144
 - (3) 掘立柱建物跡 ……………148
6. 中世以降及び時期不明の遺構と遺物 ……………148
 - (1) 概 要 ……………148
 - (2) 配石遺構 ……………148
 - (3) 集石遺構 ……………148
 - (4) 溝状遺構 ……………150
 - (5) 道路状遺構 ……………150
 - (6) 不明遺構・土坑 ……………151
7. 遺構外出土遺物 ……………154

IV 章 自然科学分析

1. 坪井遺跡の土層とテフラ ……………161
2. 黒耀石石器の原産地推定 ……………163

V 章 まとめ ……………169

(付編)坪井遺跡1次調査出土の弥生中期土器…179

観察表

写真図版

挿 図 目 次

第 1 図	調査地点図 (S = 1/5,000)	1	第 59 図	SI07出土遺物実測図 1	72
第 2 図	遺跡の位置と周辺の遺跡 (S = 1/50,000)	6	第 60 図	SI07出土遺物実測図 2	73
第 3 図	グリッド設定図	8	第 61 図	SI08実測図	74
第 4 図	基本土層 (9	第 62 図	SI08出土遺物実測図 1	75
第 5 図	1区全体図〈上面〉(S = 1/200)	11	第 63 図	SI08出土遺物実測図 2	76
第 6 図	1区全体図〈下面〉(S = 1/200)	13	第 64 図	SI09実測図	77
第 7 図	2区全体図〈上面〉(S = 1/200)	15	第 65 図	SI09遺物出土状況図	78
第 8 図	2区全体図〈下面〉(S = 1/200)	17	第 66 図	SI09出土遺物実測図 1	79
第 9 図	SI12実測図・出土遺物実測図	20	第 67 図	SI09出土遺物実測図 2	80
第 10 図	SK18・21実測図	21	第 68 図	SI09出土遺物実測図 3	81
第 11 図	SK28・SK35実測図	23	第 69 図	SI10・11実測図 1	83
第 12 図	SK43・SK50実測図	24	第 70 図	SI10・11実測図 2	84
第 13 図	土坑出土石器実測図	24	第 71 図	SI10・11遺物出土状況図	85
第 14 図	土坑出土土器実測図	25	第 72 図	SI10出土遺物実測図 1	86
第 15 図	列石焼土遺物出土状況図	26	第 73 図	SI10出土遺物実測図 2	87
第 16 図	弧状石列実測図 (S = 1/40)	28	第 74 図	SI10出土遺物実測図 3	88
第 17 図	立石(SK44)実測図(S = 1/40・1/30)	29	第 75 図	SI10出土遺物実測図 4	89
第 18 図	列石焼土出土土器 1	30	第 76 図	SI10出土遺物実測図 5	90
第 19 図	列石焼土出土土器 2	31	第 77 図	SI10出土遺物実測図 6	91
第 20 図	列石焼土出土土器 1	32	第 78 図	SI10出土遺物実測図 7	92
第 21 図	列石焼土出土土器 2	33	第 79 図	SI11出土遺物実測図	93
第 22 図	SI01実測図・出土遺物実測図	34	第 80 図	SI13実測図	94
第 23 図	SI02・04実測図 1	36	第 81 図	SI13出土遺物実測図	96
第 24 図	SI02・04実測図 2	37	第 82 図	SI14実測図	97
第 25 図	SI02・04遺物出土状況図	38	第 83 図	SI14遺物出土状況図	98
第 26 図	SI02出土遺物実測図 1	39	第 84 図	SI14出土遺物実測図 1	99
第 27 図	SI02出土遺物実測図 2	40	第 85 図	SI14出土遺物実測図 2	100
第 28 図	SI02出土遺物実測図 3	41	第 86 図	SI15実測図・出土遺物実測図	101
第 29 図	SI02出土遺物実測図 4	42	第 87 図	SI16実測図	101
第 30 図	SI02出土遺物実測図 5	43	第 88 図	SI17実測図	103
第 31 図	SI04出土遺物実測図	44	第 89 図	SI17出土遺物実測図 1	104
第 32 図	SI03実測図	45	第 90 図	SI17出土遺物実測図 2	105
第 33 図	SI03遺物出土状況図	46	第 91 図	SI18実測図	106
第 34 図	SI03出土遺物実測図 1	47	第 92 図	SI18出土遺物実測図 1	108
第 35 図	SI03出土遺物実測図 2	48	第 93 図	SI18出土遺物実測図 2	109
第 36 図	SI03出土遺物実測図 3	49	第 94 図	SI19実測図	110
第 37 図	SI03出土遺物実測図 4	50	第 95 図	SI19出土遺物実測図 1	111
第 38 図	SI03出土遺物実測図 5	51	第 96 図	SI19出土遺物実測図 2	112
第 39 図	SI03出土遺物実測図 6	52	第 97 図	屋外埋設遺構実測図 1	114
第 40 図	SI05実測図 1	53	第 98 図	屋外埋設遺構実測図 2	115
第 41 図	SI05実測図 2	54	第 99 図	屋外埋設遺構実測図 3	116
第 42 図	SI05遺物出土状況図 1	55	第100図	屋外埋設遺構出土遺物実測図 1	117
第 43 図	SI05遺物出土状況図 2	56	第101図	屋外埋設遺構出土遺物実測図 2	118
第 44 図	SI05出土遺物実測図 1	57	第102図	屋外埋設遺構出土遺物実測図 3	119
第 45 図	SI05出土遺物実測図 2	58	第103図	屋外埋設遺構出土遺物実測図 4	120
第 46 図	SI05出土遺物実測図 3	59	第104図	屋外埋設遺構出土遺物実測図 5	121
第 47 図	SI05出土遺物実測図 4	60	第105図	屋外埋設遺構出土遺物実測図 6	122
第 48 図	SI05出土遺物実測図 5	61	第106図	屋外埋設遺構出土遺物実測図 7	123
第 49 図	SI05出土遺物実測図 6	62	第107図	屋外埋設遺構出土遺物実測図 8	124
第 50 図	SI05出土遺物実測図 7	63	第108図	SK02・07・08・09実測図	126
第 51 図	SI05出土遺物実測図 8	64	第109図	SK10・14・15実測図	127
第 52 図	SI06実測図	65	第110図	SK16・17・19・20・23実測図	129
第 53 図	SI06遺物出土状況図	66	第111図	SK22・24・25・26実測図	131
第 54 図	SI06出土遺物実測図 1	67	第112図	SK27・29・30・31・34実測図	132
第 55 図	SI06出土遺物実測図 2	68	第113図	SK32・33・37~39実測図	134
第 56 図	SI06出土遺物実測図 3	69	第114図	SK36・40~42実測図	136
第 57 図	SI06出土遺物実測図 4	70	第115図	SK45~47 51・52・58実測図	138
第 58 図	SI07実測図	71	第116図	土坑出土遺物実測図 1	139
			第117図	土坑出土遺物実測図 2	140

第118図	土坑出土遺物実測図 3	141	第131図	遺構外出土遺物実測図 2	157
第119図	土坑出土遺物実測図 4	142	第132図	遺構外出土遺物実測図 3	158
第120図	SK13実測図・出土遺物実測図	143	第133図	遺構外出土遺物実測図 4	159
第121図	SK12実測図・出土遺物実測図	144	第134図	遺構外出土遺物実測図 5	160
第122図	SI20実測図	145	第135図	土層柱状図	162
第123図	SI20出土遺物実測図	146	第136図	関東・中部地方の黒耀石原石資料 採取地点 (小林1999)	164
第124図	SB01実測図	147	第137図	関東・中部地方の黒耀石原産地判別図 1	166
第125図	1号配石実測図	149	第138図	坪井遺跡出土遺物の原産地推定結果 1	166
第126図	1号配石出土遺物実測図	150	第139図	関東・中部地方の黒耀石原産地判別図 2	167
第127図	1・2号集石実測図	151	第140図	坪井遺跡出土遺物の原産地推定結果 2	167
第128図	SD01・SF01実測図・出土遺物実測図	152	第141図	縄文時代住居跡の規模	172
第129図	SX01・SX02・SK11実測図	153	第142図	第1次調査出土の弥生中期土器	179
第130図	遺構外出土遺物実測図 1	156			

挿表目次

第1表	坪井遺跡のテフラ検出分析結果	162	第4表	出土遺物の器種別の原産地推定結果	165
第2表	坪井遺跡における屈折率測定結果	162	第5表	縄文時代住居跡一覧	172
第3表	関東・中部地方の黒耀石原産地一覧	164	第6表	石器組成一覧	176

写真図版目次

PL 1	遺跡遠景 (南西より) 1区全景 (南より)		SI06遺物出土状況① SI06遺物出土状況②	
PL 2	2区全景 (南より) 1区全景 (南より) 2区近景 (南東より) S112 (南より) S112遺物出土状況		PL 7	SI06遺物出土状況③ SI06遺物出土状況④ SI06遺物出土状況⑤ SI06遺物出土状況⑥ SI07 (南より) SI08 (南東より) SI08遺物検出状況 (南東より) SI08炉
PL 3	SK18 (北より) SK21 (南より) SK28 (南より) SK35 (北より) SK35遺物出土状況① SK35遺物出土状況② 弧状列石① (南東より) 弧状列石② (西より)		PL 8	SI09 (南より) SI09遺物検出状況 (南より) SI09炉 (南より) SI09埋壘 SI09遺物出土状況① SI09遺物出土状況② SI10・11 (南西より) SI10・11遺物検出状況
PL 4	立石 (SK44) SI01 (南より) SI02・04遺物検出状況 (東より) SI02 (南より) SI02炉 (南より) SI02遺物出土状況 SI04 (南より)		PL 9	SI10炉 SI10遺物出土状況① SI10遺物出土状況② SI11 (東より) SI11遺物検出状況 (西より) SI11炉 SI13 (南西より) SI13炉体土器
PL 5	SI03 (南より) SI03遺物検出状況 (南より) SI03 (南より) SI03遺物岩土状況① SI03遺物出土状況② SI03遺物出土状況③ (磨製石斧) SI05 (南より) SI05遺物検出状況 (南より)		PL 10	SI14 (南より) SI14遺物検出状況 (南より) SI15 (南より) SI16 (南より) SI17① (南より) SI17② (北西より) SI17炉 SI17埋壘
PL 6	SI05炉 1 (南より) SI05炉 2 (南より) SI05遺物出土状況 SI06 (南より) SI06遺物検出状況 (東より) SI06炉 (南より)		PL 11	SI18 (南より) SI18炉

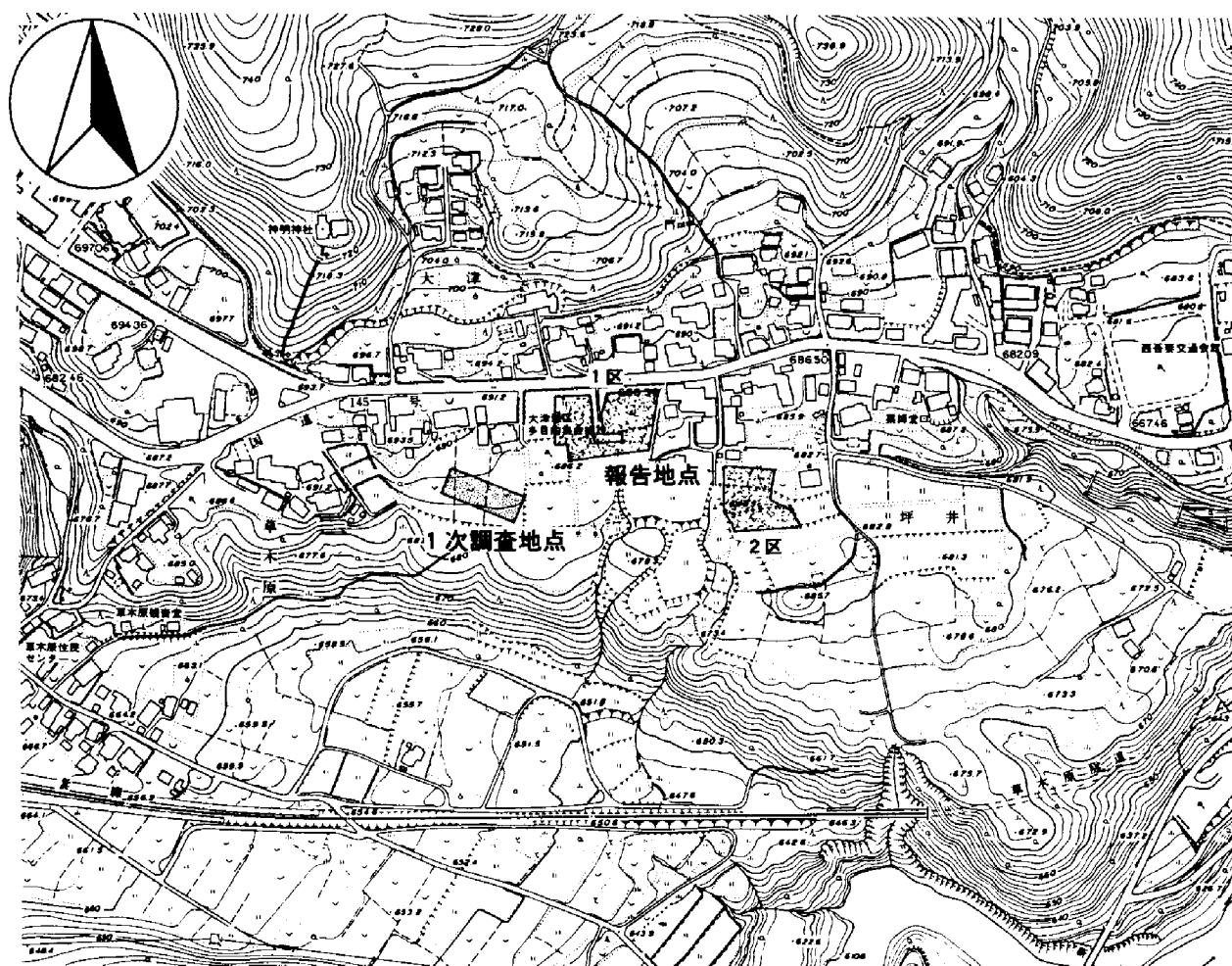
	SI18埋壔		SK36 (南西より)
	SI18遺物出土状況		SK51 (南より)
	SI19 (南より)		SK13 (西より)
	SI19検出状況 (南東より)		SK12 (南より)
	SK01 (東より)		SI20 (南西より)
	SK03 (南より)		SI20カマド検出状況 (南西より)
PL12	SK04 (南より)	PL16	SB01 (南より)
	SK05 (南より)		1号配石 (南より)
	SK05半截状況 (南より)		1号配石検出状況 (南より)
	SK06 (東より)		集石1 (北より)
	SK53 (南東より)		集石2 (北より)
	SK54・55 (西より)		SF01 (東より)
	SK57 (東より)		SX01 (南より)
	SK58 (石組遺構) (南西より)		作業風景
PL13	SK02 (西より)	PL17	SI12土坑出土遺物
	SK07 (西より)	PL18	土坑・列石焼土・SI02出土遺物
	SK08 (北東より)	PL19	SI03・04出土遺物
	SK09 (東より)	PL20	SI05出土遺物
	SK10 (西より)	PL21	SI05・06出土遺物
	SK14 (南より)	PL22	SI06・07・08出土遺物
	SK15 (南西より)	PL23	SI09・10出土遺物
	SNK16 (南より)	PL24	SI10・11・13・14出土遺物
PL14	SK17 (南より)	PL25	SI17・18・19出土遺物
	SK19 (南西より)	PL26	屋外埋設遺構出土遺物
	SK20 (南より)	PL27	屋外埋設遺構出土遺物・土坑・土製品・アクセサリ類
	SK20 (北より)	PL28	剥片石器類
	SK23 (南西より)	PL29	打製石斧類
	SK24 (西より)	PKL30	打製石斧類
	SK25 (南より)	PL31	打製石斧類・磨製石斧・礫石器類
	SK26 (北東より)	PL32	礫石器類・軽石製品
PL15	SK32・33 (南より)	PL33	SK12・13・SI02・1号配石出土遺物
	SK34 (西より)	PL34	集石1・2・遺構外出土遺物・弥生中期土器

I 章 調 査 概 要

1. 調査に至る経緯

現在、長野原町は建設省によるハッ場ダム建設事業という一大プロジェクトに全町あげて取り組んでいる。ダム本体はもとより、それに関連して広規格道路の建設も予定されており、交通網の整備が着々と進捗している。長野原町は北部に草津町、西部に嬭恋村という観光地に隣接しており、今後、交通網の整備に伴って小規模～大規模な開発が増加していくことが予想される。すでに広規格道路を見越しての長野原バイパスが平成10年3月に開通し、バイパス沿いに少しずつ開発が及ぼうとしている。今回の（仮称）長野原ショッピングセンター建設はその先駆けといえる。

平成8年9月30日に長野原商業開発株式会社から長野原町に「開発事業計画協議書」が提出され、企画観光課から教育委員会に埋蔵文化財の有無の照会があった。ショッピングセンター建設予定地は町内詳細分布調査の坪井遺跡（No.86）に大部分が該当し、教育委員会としては文化財保護の立場から、造成事業着手以前に埋蔵文化財発掘調査を実施し、破壊される部分については記録保存をはかる必要があるとの回答をした。その後、計画地の現状と対応策を検討した結果、試掘調査を行う旨で合意した。10月23日に試掘調査の依頼文書が長野原商業開発株式会社から提出され、耕作地の調整・重機搬入に伴う協議を経て、平成9年3月24日～同月31日の間、教育委員会文化財担当立合いで実施された。



第1図 調査地点図 (S = 1/5,000)

1章 調査概要

調査地点は傾斜地であったが幅1.5m程のトレンチを22本設定し行った。その結果は①ほとんどのトレンチから遺構・遺物の検出があり、従来の包蔵地外にも遺跡の範囲が広がっていることが判明した②表土から遺構確認面までの深さは傾斜地ということもあり、深い箇所で1.4m、浅い箇所で0.4mであり、遺構の遺存状態は良好である③遺構は竪穴式住居跡・敷石住居跡・埋甕・土坑で縄文時代中期後半のものがほとんどである、の3点に要約でき、記録保存を前提とした発掘調査が必要であることが確定した。

4月9日には試掘調査結果を原因者に回答し、それをうけて同月22日、原因者・設計業者・事務局の3者で協議を行い、建物部分は記録保存対象に、その他の駐車場などは盛土対応で遺跡保存処置をとる方針が固まった。その後、設計変更などで期間が開いたが、平成10年2月23日に最終図面が完成し、協議のもと発掘対象面積が確定した。3月5日には長野原商業開発株式会社長名で文化財保護法第57条の2第1項に基づく発掘届けおよび長野原町教育長名で第98条の2第1項に基づく発掘通知が提出された。続いて4月6日付で群馬県を經由して、文化庁から事前の発掘調査の実施について原因者に通知された。その間、予算・期間の策定、協定、委託契約等々、詳細に協議を重ね、3月20日に実施計画書を作成し、これに基づき原因者と長野原町教育委員会の間で協定が締結され、平成10年5月7日より、本調査を開始する運びとなった。

2. 調査の方法と経過

(1) 発掘調査

a. 表土除去

表土除去は重機（バックホー）を使用して行った。調査地点は緩傾斜であり、遺構確認面は黒色土中であることが試掘で判明していたので、それを念頭に表土から少しずつ掘り下げていった。遺物が散見され始める面までを重機でそれ以下は人力で除去した。また、重機のバケットの爪に鉄板を溶接して

遺構を傷つけないように配慮した。

b. 遺構確認

遺構確認作業は既述の黒色土中（上面）・関東ローム層第Ⅲ層上面（下面）の2面を確認面として行った。上面の調査の場合は後述する基準杭に沿って幅1mのトレンチを設定し、黒色土中での遺構覆土の識別に努めた。遺物の集中箇所を目安として遺構の平面形を推定した。遺構を傷つけないようにするため重機による表土除去は確認面直上で止め、後を人力で除去し、遺構の有無の確認を行った。

c. 基準杭の設定

調査区全体に国家座標Ⅳ系に準拠した10m×10mの基準杭（グリッド）を設定し、測量作業の基準とした。また調査区外周に標高値を落とし込んだ任意の杭を設定し、土層堆積状況断面図や遺物出土状況図作製の際の基準とした。

d. 遺構発掘及び遺物の取り上げ

遺構の発掘作業は、遺構の平面形を確認した上で土層観察用のベルトを設定し、遺構内の覆土の除去に着手した。ベルトは住居跡の場合は長軸方向とその中心から長軸に対して直交方向の十字に設定し、溝状・道路状遺構は走行方向に対して直交方向に設定することを基本とした。また土坑に関してはその規模や性格に応じてベルトを設定するもの、半截するもの、市松模様掘るものを適宜対処した。

遺物の取り上げについては単独と思われる破片は上層・下層・床面直上ごとに、個体もしくは遺物の集中している箇所に関しては出土状況の微細図や出土位置図（ドット図）を作成の上、取り上げ作業を行った。遺物出土状況図は1/10、遺物出土位置図は1/20のスケールで作成し、標高値の記録を1点ずつ行った。

e. 実測図の作成及び遺構の写真撮影

実測図は土層堆積状況断面図、遺物出土状況（位置）図及び完掘状況遺構平面図を作成した。土層堆積状況断面図は1/20のスケールを基本とし、炉や埋甕など規模の小さいものは1/10で行った。遺物出土状況（位置）図は上述した通りである。完掘状況遺構平面図は平板測量を用いて行った。また、土層堆

積状況図及び遺物出土状況（位置）図のポイントの位置も完掘状況遺構平面図作成時に記録した。完掘状況遺構平面図は遺構ごとを基本としたが、その他の土坑などはグリッドごとに作成した。

遺構の記録写真は土層断面、遺物出土状況、完掘状況の順で撮影を行った。カメラは一眼レフを用い、モノクロとカラーライドの2種類のフィルムを使用した。フィルムサイズは35mmである。

f. 航空写真撮影

発掘調査終了後に遺跡全体の航空写真の撮影を行った。航空写真はバルーンを用いて行ったが、撮影当日は強風の為、撮影は難行した。調査地点の遠景、1区・2区ごとの全景を撮影した。

(2) 自然科学分析

遺跡の性格や内容をより具現化するために発掘調査の成果に基づき自然科学的手法を用いて以下の2項目を実施した。

a. 土層とテフラ

坪井遺跡の所在する長野原町は浅間火山や草津白根火山などに近接している。したがって長野原町の地層には上記火山から噴出したテフラ（火山灰）が数多く挟まれている。これらのテフラのうち噴出年代が判明している示準テフラの同定を行う。示準テフラと遺構との土層関係を求め、遺構や遺物の年代的側面を補強する。

b. 黒耀石の原産地推定

坪井遺跡からは数多くの黒耀石が出土している。これまでのデータの蓄積により、関東・中部地方の黒耀石原産地がほぼ判明しており、当時の流通の在り方やそのしくみを知る上で重要な研究テーマの一つである。本遺跡出土の黒耀石がどの原産地に由来するのかを非破壊の蛍光X線分析法を用いて行う。本遺跡の場合、製品と共に多くの剝片が出土していることからそれらの関係に注目することも重要であると考えた。

(3) 調査経過

a. 発掘調査

発掘調査は平成10年5月7日から8月31日（約4ヶ月間）にわたって行われた。

5月7日、調査範囲確認、根株などの除去、現場事務所・テントの設営、機材の搬入を行う。

5月8日～25日、重機による表土除去（1区・2区上面）。これと併行して表土除去部を順次ジョレンがけ、遺構確認作業を行う。1区でカマド、敷石住居跡、配石・集石遺構、2区で弧状列石、焼土、屋外埋設遺構を検出する。18日には交通事故で1区内に軽自動車が入り込む。

5月26・27日、1区西側ピット群を完掘する。

5月28日～6月1日、2区でトレンチ調査により住居跡平面形を確定する。これと併行して列石・焼土の調査・測量をする。

6月2日～7月6日、1区で平安住居跡、敷石住居の範囲確認、2区で住居跡を中心に屋外埋設遺構を調査する。

7月7日～22日、1区の敷石住居、配石・集石遺構を中心に、2区は測量を中心に調査する。

7月23日～8月5日、2区の黒色土を除去し、2区下面の遺構検出作業・完掘、1区は測量を中心に調査する。

8月6日～18日、1区の黒色土を除去し、1区下面の遺構確認作業・完掘。

8月19日、全体清掃。

8月20日、航空撮影。

8月21日～30日、残った遺構の測量、これと併行して出土遺物をテント内で水洗いをする。

8月31日、機材を撤収し、発掘調査のすべての工程完了する。

調査面積は1区約1636m²（×2面）、2区約1276m²（×2面）であり、全調査面積はおおよそ5824m²であった。

b. 整理調査・報告書作成

引き続き9月1日から整理調査・報告書作成を行うこととなった。発掘調査によって得られた遺物はテンバコで80箱、現場で作成した図面類は165枚で

1章 調査概要

あった。整理調査は担当の他に作業員3名という体制であったため、この時点で今年度中の報告書刊行は不可能であった。

遺物洗浄は現場である程度進めていたが9月1日～30日までの1ヶ月間を充て、注記作業は10月1日～11月16日まで1ヶ月半を費やした。これと併行して遺構図面の修正、遺構写真の整理を行った。また、11月3・4日には文化祭で「坪井遺跡Ⅱ発掘調査速報展」と題して出土遺物の展示と調査概要を配布した。

遺物の接合作業は遺物量もさることながら、一括廃棄遺物など遺構間の接合もかなり認められることを考えて広いスペースが必要であることから、(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団のプレハブの一部を許可を得て使用させて頂いた。接合作業は11月17日～平成11年2月16日までの3ヶ月間を費やした。これと併行して土坑出土遺物の実測図作成を進めた。この間の1月18日に委託契約の変更を行い、今年度中に基礎整理調査、平成11年度に報告書作成ということになった。

2月17日～3月31日までを石膏による復元作業に費やし、平成10年度の基礎整理調査は完了した。また石器に関しては2月中に石質鑑定を飯島氏に、3月上旬には石器の抽出と石器台帳の作成を野口氏に依頼して行った。この復元作業完了時点で完形に復元できる個体で50点ほど、図上復元可能なものも含めると、150点近くを数え、また石器と認定されるものは黒耀石の剝片を除いても1016点という膨大な数であった。

平成11年4月からは担当一人で報告書を作成することとなった。

4月1日～8月31日までは事業の合間をみて復元土器の実測・トレースを行った。

9月1日～12月15日までは破片資料の実測・拓本・トレースを行った。これと併せて遺構図のトレースを行い、住居跡・打製石斧に関しては委託した。

この時点で担当一人では期日中に業務を遂行することが困難なため版下を作成する作業員を一人就けた。

12月16日～2月中旬まで版下作成を行い、これと併せて残りの石器実測・トレース、遺物出土状況図の作成を行った。

遺物の写真撮影は2月中旬～3月上旬に完了した。

編集作業は2月下旬までに仮割付を行い、期日の関係を考慮して、割付優先の原稿執筆形態をとった。執筆作業は2月～3月下旬にかけて行い、併せて保管用に資料・遺物の整理をして3月31日、全ての作業を完結した。

II章 遺跡の立地と環境

1. 遺跡の位置

坪井遺跡が所在する長野原町は群馬県の北西部、吾妻郡の南西隅に位置し、「鶴舞う形の群馬県」と上毛かるたに読まれている鶴の尾部下端にあたる。北部は高間・白根の両山系からなり、吾妻川流域沿いに東西に延び、南部は浅間山の裾野に広がる浅間高原地帯を経て長野県に接している。坪井遺跡は北部の吾妻川流域地帯に属し、吾妻川左岸段丘上に立地する。

坪井遺跡の立地する段丘は吾妻川から下位・中位・上位・最上位の4段からなる河岸段丘の上位段丘に相当し、吾妻川からの比高差は約60mを測る。この段丘は約21,000年前に噴出した応桑泥流堆積物を削って形成されている。その上に重なっている関東ローム層中には約11,000年前に噴出したと考えられる浅間草津黄色軽石層が1.2m以上堆積している。

2. 周辺の遺跡

長野原町における遺跡分布状況は昭和48年に群馬県教育委員会刊行の『群馬県遺跡地図』に依っていたが詳細な遺跡の分布の把握は不十分であった。その後、町教育委員会は県教育委員会文化財保護課の指導のもと、昭和62年度から3ヶ年かけて、全町を対象とした遺跡詳細分布調査を実施し、199の遺跡包蔵地を確認した⁽¹⁾。平成6年度から八ッ場ダム建設事業に関連した工事用進入路や水没地域の工事に対応して(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団が調査を継続して行っており、新たな包蔵地も着々と増加し、平成11年度現在で204の包蔵地(指定史跡等を含む)が把握されている。

本遺跡周辺には多くの遺跡が分布している。調査事例を中心に概観したい。なお、遺跡名については長野原町教育委員会刊行の『長野原町の遺跡』を基本とし、(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団の調査はそ

の調査名を優先して扱った⁽²⁾。

(1) 旧石器時代

長野原町で旧石器時代に遡る遺跡は残念ながら確認されていない。ただし遺構外ながら柳沢城跡(20)で細石器文化に伴うと考えられる珪質頁岩製のスクレイパーが1点出土している。先述した通り、吾妻川流域地帯の地盤は新しく、旧石器時代の遺跡が存在するとすれば吾妻川右岸側の山間部や浅間高原地帯の旧河川沿いの微高地や湿地・沼地に面した微高地と考えられる⁽³⁾。

(2) 縄文時代

縄文時代となると遺跡数も膨大となる。吾妻川流域地帯の遺跡はほとんど例外なく縄文時代遺跡に属している。

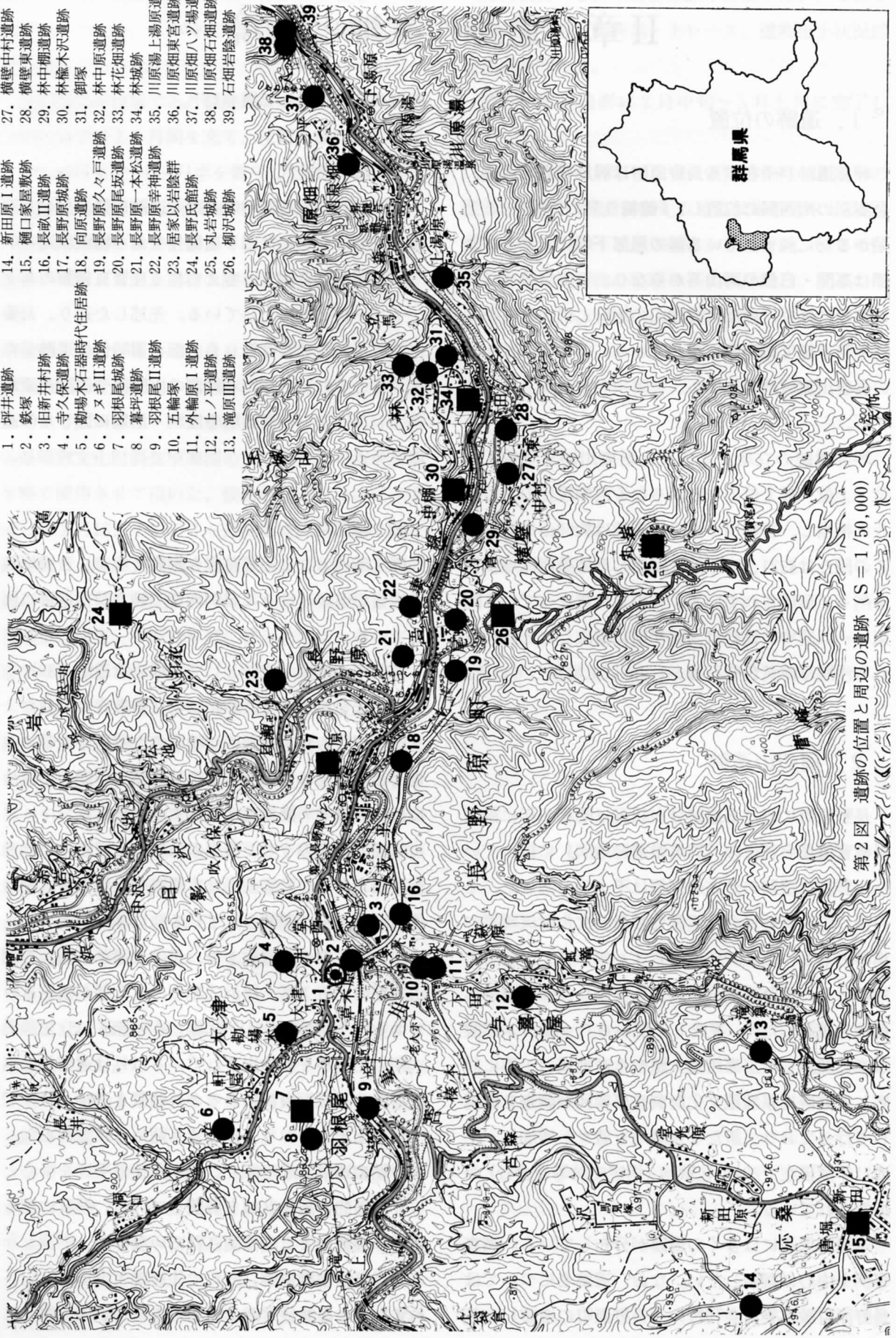
草創期～早期の遺跡として石畑岩陰遺跡(39)を挙げることができる。昭和53年に県教育委員会により調査が行われ、草創期～晩期の土器片や獣骨・人骨などが出土している。特に草創期～早期の土器片には表裏縄文・撚糸文・押型文がみられる。

前期の遺跡のうち、後半の住居跡は現在のところ未検出である。前期前半は本遺跡で花積下層式期の住居跡・土坑が確認されている他に暮坪遺跡(8)で二ツ木式期の住居跡1軒、長畝II遺跡(16)で関山式期の土坑1基・黒浜式期の土坑2基が確認されている⁽⁴⁾。前期後半は川原湯上湯原遺跡(35)で諸磯式期の土坑が1基検出されている以外は遺構外の出土である。試掘資料であるが外輪原I遺跡(11)で一定量出土しており、浮島式も認められている⁽⁵⁾。

中期の遺跡が最も多く、河岸段丘の平場を中心として積極的な居住区域を展開している。前葉に遡る遺構は現在のところ確認されていないが、中葉となると長野原幸神遺跡(22)で住居跡・土坑が検出されている。2号住居跡では焼町土器が炉体土器として、また土坑からは阿玉台II式の深鉢がまとまって

II章 遺跡の立地と環境

- 1. 坪井遺跡
- 2. 鉄塚
- 3. 旧新井村跡
- 4. 寺久保遺跡
- 5. 勘場木石器時代住居跡
- 6. クヌギII遺跡
- 7. 羽根尾城跡
- 8. 暮坪遺跡
- 9. 羽根尾II遺跡
- 10. 五輪塚
- 11. 外輪原I遺跡
- 12. 上ノ平遺跡
- 13. 滝原III遺跡
- 14. 新田原I遺跡
- 15. 樋口家屋敷跡
- 16. 長畝II遺跡
- 17. 長野原城跡
- 18. 向原遺跡
- 19. 長野原久々戸遺跡
- 20. 長野原尾坂遺跡
- 21. 長野原一本松遺跡
- 22. 長野原幸神遺跡
- 23. 居家以岩陰群
- 24. 長野氏館跡
- 25. 丸岩城跡
- 26. 柳沢城跡
- 27. 横壁中村遺跡
- 28. 横壁東遺跡
- 29. 林中棚遺跡
- 30. 林樞木沢遺跡
- 31. 御塚
- 32. 林中原遺跡
- 33. 林花畑遺跡
- 34. 林城跡
- 35. 川原湯上湯原遺跡
- 36. 川原畑東宮遺跡
- 37. 川原畑ハツ場遺跡
- 38. 川原畑石畑遺跡
- 39. 石畑岩陰遺跡



第2図 遺跡の位置と周辺の遺跡 (S = 1/50,000)

出土している。中期後半は列石を伴う拠点的な集落
が出現する。長野原一本松遺跡(21)・横壁中村遺跡
(27)が代表的で、本遺跡もこれに該当する。前2
者に共通するのは中期後半(横壁中村遺跡は中期中
葉)～後期に継続して集落が営まれることである。
この他に向原遺跡(18)では中期後半～後期にかけ
ての(敷石)住居跡が検出されており、立地から拠
点的な集落の可能性が高い。また滝原III遺跡(13)
や県指定の勘場木石器時代住居跡(5)もこの時期
の所産である。

後期の遺跡は上記の中期後半の遺跡の他、本町で
初めて敷石住居跡を検出したクヌギII遺跡(6)に
代表される。各遺跡で敷石住居が検出されているが、
その中でも横壁中村遺跡では径約8m(張出部も入
れると全長9m)にも及ぶ大形敷石住居、30基程の
配石墓群が検出されている。

晩期の遺跡は既述の石畑岩陰遺跡で土器片が出土
している他、横壁中村遺跡の包含層で千網式併行の
土器片が一定量出土している⁽⁶⁾。

(3) 弥生時代

弥生時代の遺跡は遺跡詳細分布調査で後期に属す
3遺跡のみであったが、徐々にその数も増えており、
中期前半に遡る遺構も検出されている。

中期前半の遺構は住居跡が未検出で土坑に限定さ
れるが、本遺跡の他に既述の向原遺跡や川原湯上湯
原遺跡において各1基ずつ検出されている。また表
採資料であるが既述の外輪原I遺跡や上ノ平遺跡
(12)においてもまとまってみられる⁽⁷⁾。

後期の遺構も土坑に限定されるが、既述の川原畑
石畑遺跡で1基検出されている。また川原畑ハッ場
遺跡(37)では包含層が、居家以岩陰群(23)、寺久
保遺跡(4)、新田原I遺跡(14)では資料の表採が
確認されている。

(4) 古墳時代

古墳時代の集落として把握されている遺跡は皆無
である。昭和13年に刊行された『上毛古墳総覧』に
は本遺跡内南東側に位置する「鉄塚」(2)、与喜屋

地区の外輪原I遺跡内北西側に位置する「五輪塚」
(10)、その他に『群馬県吾妻郡誌』に林地区の「御
塚」(31)の合計3基が古墳として登録されている。
「五輪塚」は現況で畑としてならされているが、「鉄
塚」と「御塚」は円形の形状を保っている。分布調
査の結果、「鉄塚」の周辺には数基の塚が存在するこ
とが明らかとなっているが、いずれも古墳と断定す
るには根拠が薄い。

(5) 奈良・平安時代

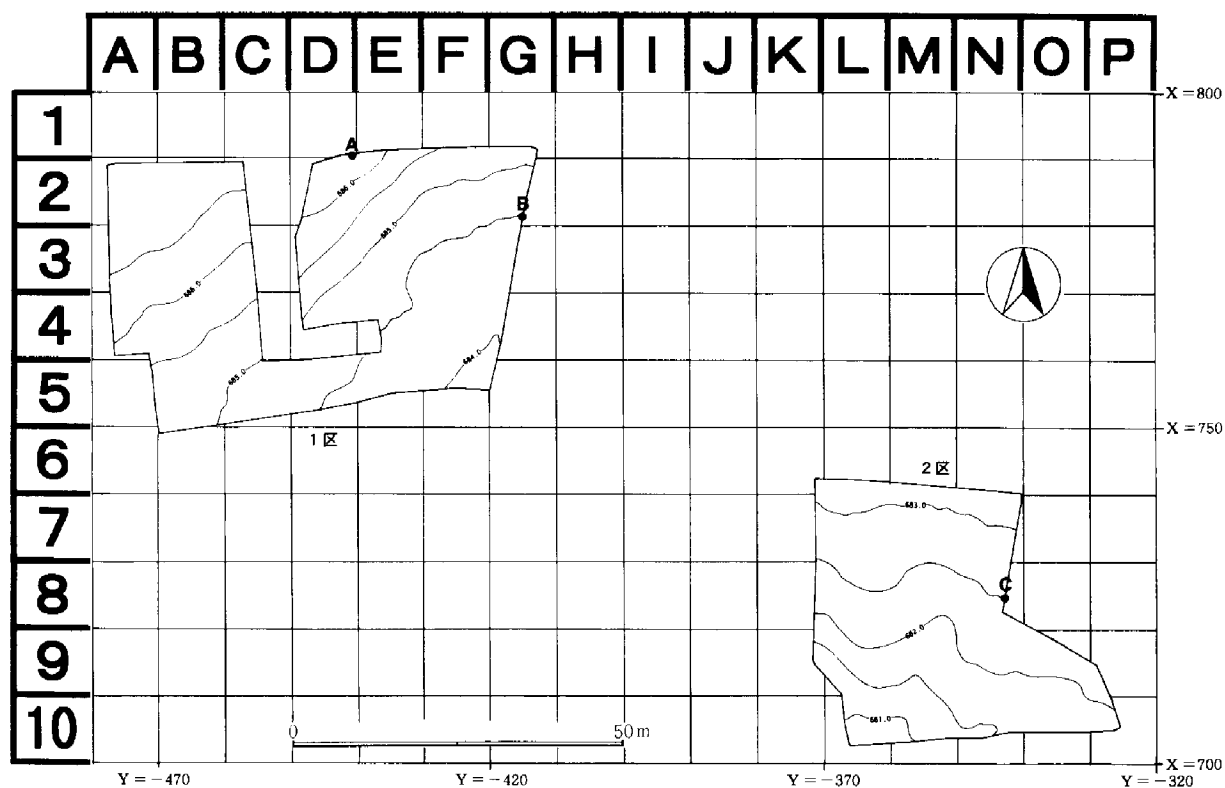
奈良時代に該当する遺跡は羽根尾II遺跡(9)の
みで散布地である。これに対して平安時代の遺跡の
分布は町内全域に及んでおり、縄文時代とともに本
町で原始古代の中心をなす時期といえる。本遺跡の
他、既述の向原遺跡、長野原一本松遺跡や林花畑遺
跡(33)、横壁東遺跡(28)で住居跡が検出されてい
る。

(6) 中世

吾妻川流域沿いには中世城館跡が点在する。それ
らを列記すると丸岩城跡(25)、柳沢城跡(26)、長
野氏館跡(24)、長野原城跡(17)、林城跡(34)、羽
根尾城跡(7)、伝樋口屋敷跡(15)となる。丸岩城
跡は「丸屋の要害」として『加沢記』にも記され、
節理の発達した岩山の山頂に立地している。この丸
岩城跡の北西麓に里城としての柳沢城跡が位置し、
山城部と丘城部から成る本城を構えている。柳沢城
跡は一部調査され、郭跡・掘切・土居・礎石・腰曲
輪・石組遺構・溝が検出されている。遺物は陶(磁)
器・鉄製品・銅製品・石臼と豊富である。特に陶(磁)
器は14C～15C頃の常滑・美濃・古瀬戸、珠洲窯の甕、
これに加えて13C～14C頃の輸入陶磁である景德鎮
窯製品が完形あるいは準完形で出土している。また
これらに近接する既述の横壁中村遺跡では近年の調
査で該期の掘立柱建物跡が検出されており、関係が
注目される。

(7) 近世

長野原町は浅間火山・白根火山の麓に位置し、古



第3図 グリッド設定図

くから度重なる火山災害を被っていることが地層からも窺える。中でも天明3年（1873）の浅間山噴火は軽石（以下、As-A）降下後に襲った泥流により流域沿いの町村に多大な被害をもたらした。この鎌原火砕流によって埋没した鎌原村が昭和54年から調査され注目を集めたが、この翌年に本町でも自衛隊によるグラウンド造成中に屋敷跡や用水池、農機具・石臼などが検出され、旧新井村跡（3）の存在が俄に脚光を浴びた。

近年のダム関連の調査により、泥流により埋没した遺跡の検出が相次いでいる。それらを列記すると長野原久々戸遺跡（19）、林中原遺跡（32）、林中棚遺跡（29）、川原畑東宮遺跡（36）、長野原尾坂遺跡（20）となる。これらの遺跡からはAs-A直下の畑が検出されている。長野原久々戸遺跡ではAs-A直下の畑に加えて、旧草津街道、慶長一分判金が検出されている。また中棚遺跡では畝と泥流の間に砂層が確認され、泥流被覆直前に水成堆積があったことが判明している。

3. 既往の調査

今回の調査は坪井遺跡の第2次調査にあたる。第1次調査は平成3年度に国道145号線（長野原バイパス）道路改良工事に先駆けて行われた（白石1992）。縄文時代中期後半の落とし穴1基、時期不明の落とし穴1基の他、時期不明の土坑13基が検出されている。1次調査においては落とし穴の存在から集落跡が近接していることが予想された。また、予算・期間の都合上、掲載できなかった遺構外出土遺物の中に弥生時代中期土器がかなり含まれていたため、付編として本書に収録することにした。

4. 基本層序

本遺跡の基本層序は第3図のA～C地点の統合により以下ようになる。詳細はIV章-1を参照していただきたい。

第I層 暗灰褐色土

いわゆる表土で、上位は田畑の耕作土である。浅

間A軽石（以下As-A）をまばらに含む。締まりは上位は弱く、下位はやや強い。

第II層 暗灰色土

As-Aを多量に含み、締まりは強い。

第III層 黒褐色土

いわゆる黒ボク層で、この層中に浅間C軽石（As-C）も含まれていると考えられる。

第IV層 暗褐色土

黄褐色軽石を多く含んでおり、分析の結果、浅間D軽石（As-D）である可能性が高い。縄文時代中期後半の遺構はこの層を掘り込んで構築されている。

第V層 黒褐色土

いわゆる黒ボク層で、黄褐色軽石を多く含んでおり、分析の結果、浅間六合軽石（As-Kn）である可能性が高い。

第VI層 暗黄褐色土

いわゆる漸移層で、締まりは強い。

第VII層 黄褐色土

いわゆる関東ローム層でスコリアを少量含んでいる。粘性・締まりともに強い。締まり・色調により2層に分けることができる。

第VII-1 暗黄褐色土（ソフトローム）層

第VII-2 明黄褐色土（ハードローム）層

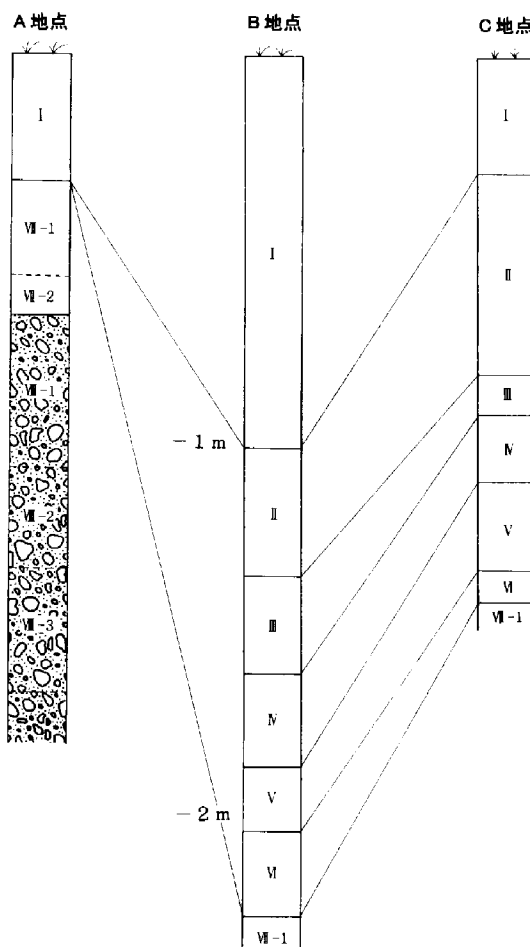
第VIII層 黄白色軽石

いわゆる浅間草津黄色軽石層（As-YPK）で今から約11,000年前の堆積といわれている。これも色調により3層に分離可能である。A地点において1.2m程確認されたが、その下にも続いている。

第VIII-1 黄褐色軽石層

第VIII-2 明黄褐色軽石層

第VIII-3 青灰色軽石層



第4図 基本土層（第3図のA・B・Cに対応）

- 22. 長野原幸神遺跡（62. 幸神遺跡）
- 27. 横壁中村遺跡（25. 上野IV遺跡、27. 漢音堂遺跡）
- 28. 横壁東遺跡（23. 勝沼（東平）遺跡）
- 29. 林中棚遺跡（新規 49. 中棚遺跡の範囲拡張）
- 30. 林楡木沢遺跡（49. 中棚遺跡）
- 32. 林中原遺跡（46. 中原I遺跡）
- 33. 林花畑遺跡（新規）
- 35. 川原湯上湯原遺跡（新規）
- 36. 川原畑東宮遺跡（新規）
- 37. 川原畑八ツ場遺跡（新規）
- 38. 川原畑石畑遺跡（9. 石畑I岩陰周辺）
- 3. 野口淳氏の御教示による。
- 4. 平成11年度の試掘調査の際に検出した。平成12年度本調査を予定している。
- 5. 白石光男・山口逸弘 1999「外輪原I遺跡の縄文前期土器」『群馬考古学手帳』9
- 6. 藤巻幸夫・石田真両氏の御教示による。
- 7. 『群馬考古学手帳』10に資料紹介を予定している。

参考文献

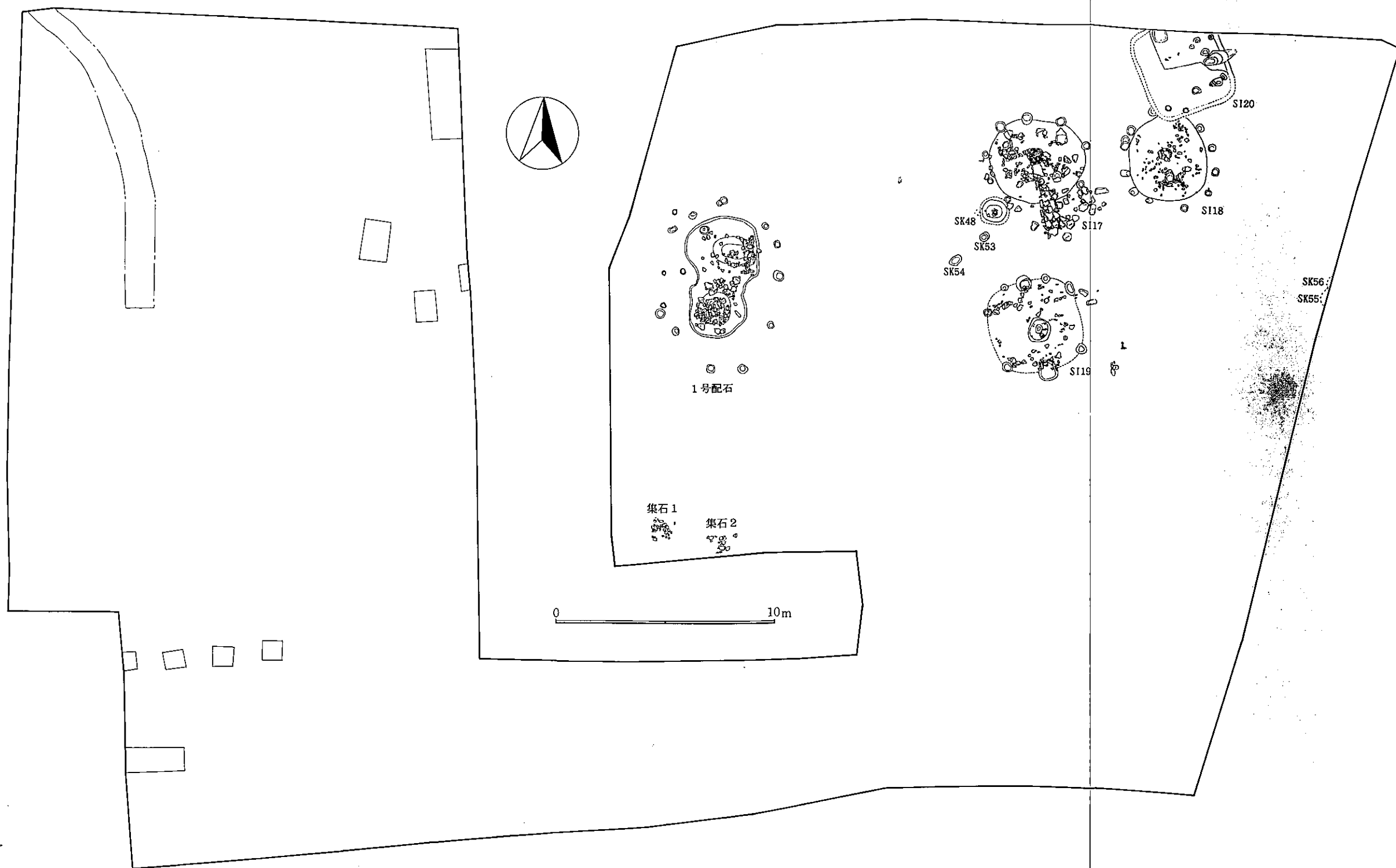
大西雅広・高島英之 1998『長野原久々戸遺跡』(群馬県埋蔵文化財調査事業団 財調査事業団)
 群馬県教育委員会 1988『群馬県の中世城館跡』
 群馬県郷土誌 1986『群馬県吾妻郡誌(復刻版)』臨川書店
 群馬県立歴史博物館 1995『第52回特別展 天明の浅間焼け』(群馬県埋蔵文化財調査事業団 1996『年報』15)
 群馬県埋蔵文化財調査事業団 1997『年報』16
 群馬県埋蔵文化財調査事業団 1998『年報』17

註

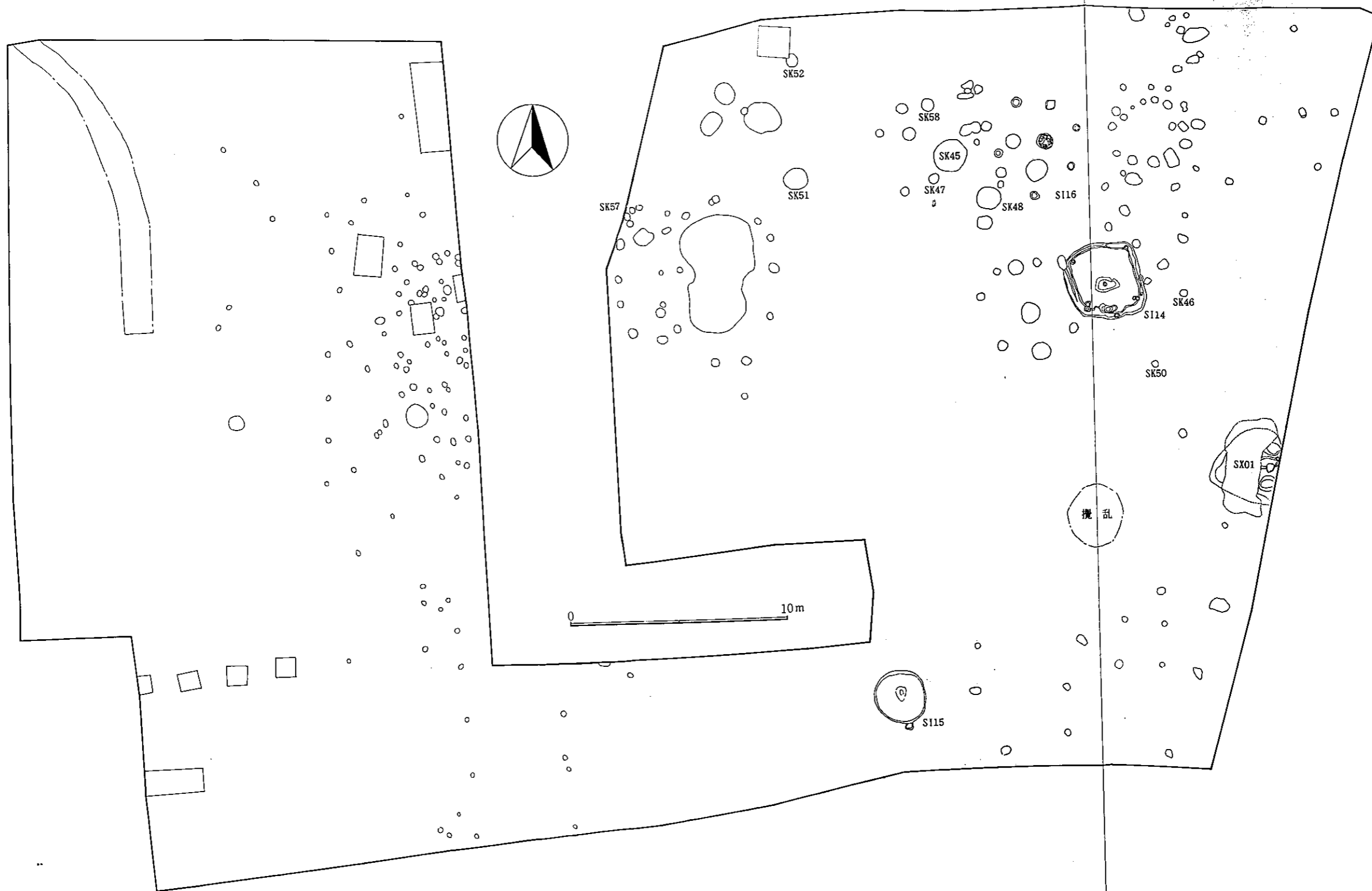
- 1. 長野原町教育委員会 1990『長野原町の遺跡一町内遺跡詳細分布調査一』
- 2. 群馬県埋蔵文化財調査事業団の調査遺跡名と『長野原町の遺跡一町内遺跡詳細分布調査一』の遺跡名(括弧内)との対応を以下に示す。
 19. 長野原久々戸遺跡(新規)
 20. 長野原尾坂遺跡(新規)
 21. 長野原一本松遺跡(63. 一本松遺跡)

II章 遺跡の立地と環境

- （財）群馬県埋蔵文化財調査事業団 1999『年報』18
- 桜岡正信 1988「勘場木遺跡」『群馬県史』資料編1
- 塩野新一 1972『群馬県吾妻郡長野原町（群馬県史跡指定）勘場木遺跡』
- 白石光男 1992『長畝II遺跡 坪井遺跡』長野原町教育委員会
1995『柳沢城跡』長野原町教育委員会
1996『向原遺跡』長野原町教育委員会
1998『滝原III遺跡』長野原町教育委員会
- 長野原町 1976『長野原町誌』上巻
1989『長野原町の石造文化財』
1993『長野原町の自然』
- 長野原町教育委員会 1990『長野原町の遺跡—町内遺跡詳細分布調査報告書—』
- 中 隆之 1988「石畑岩陰遺跡」『群馬県史』資料編1
- 中 隆之他 1990『クヌギII遺跡』長野原町教育委員会
- 松島栄治 1994『埋没村落鎌原村発掘調査概報（よみがえる延命寺）』嬬恋村教育委員会
- 山崎 一 1978『群馬県古城址の研究』下巻

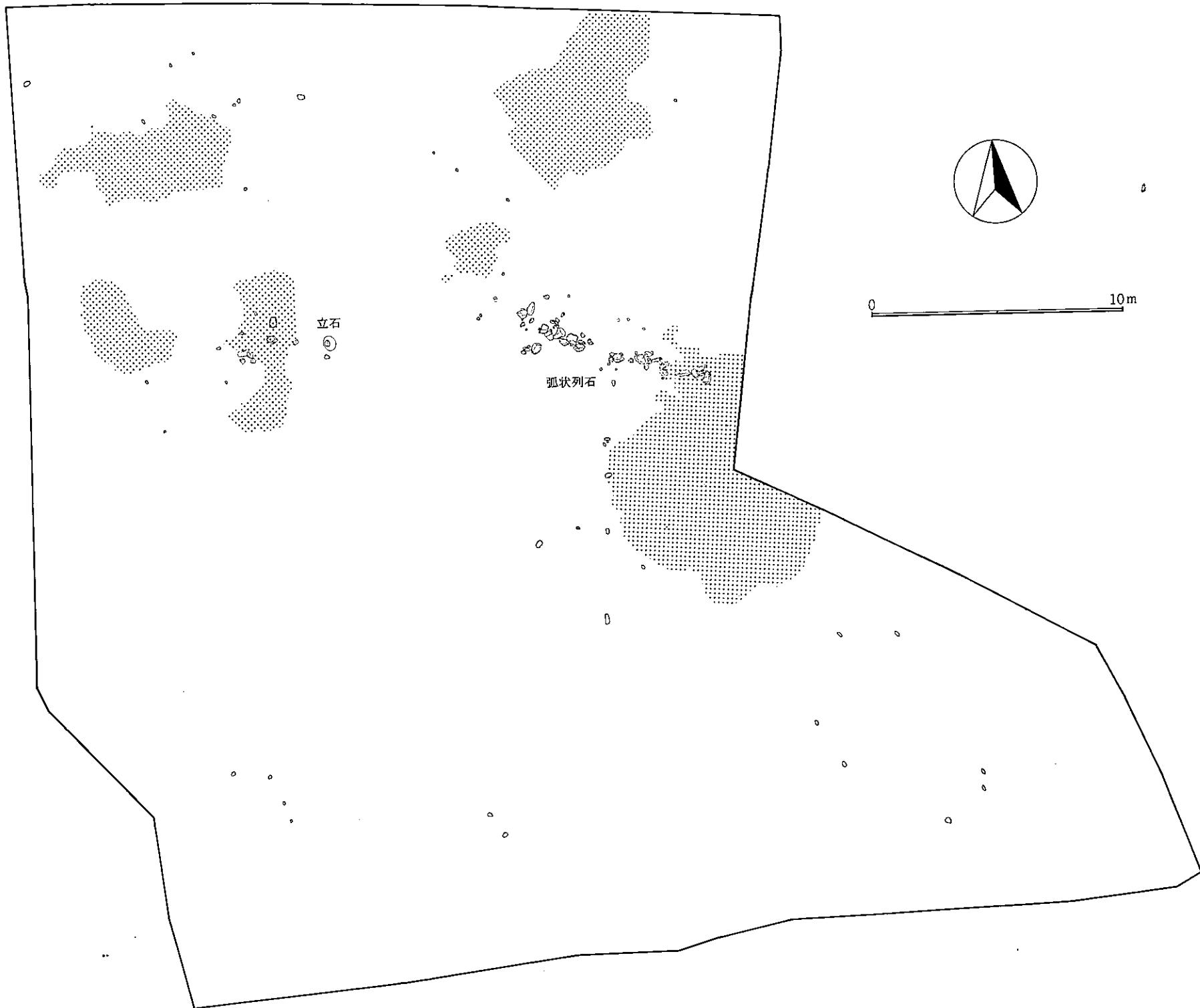


第5図 1区全体図〈上面〉(S=1/200)

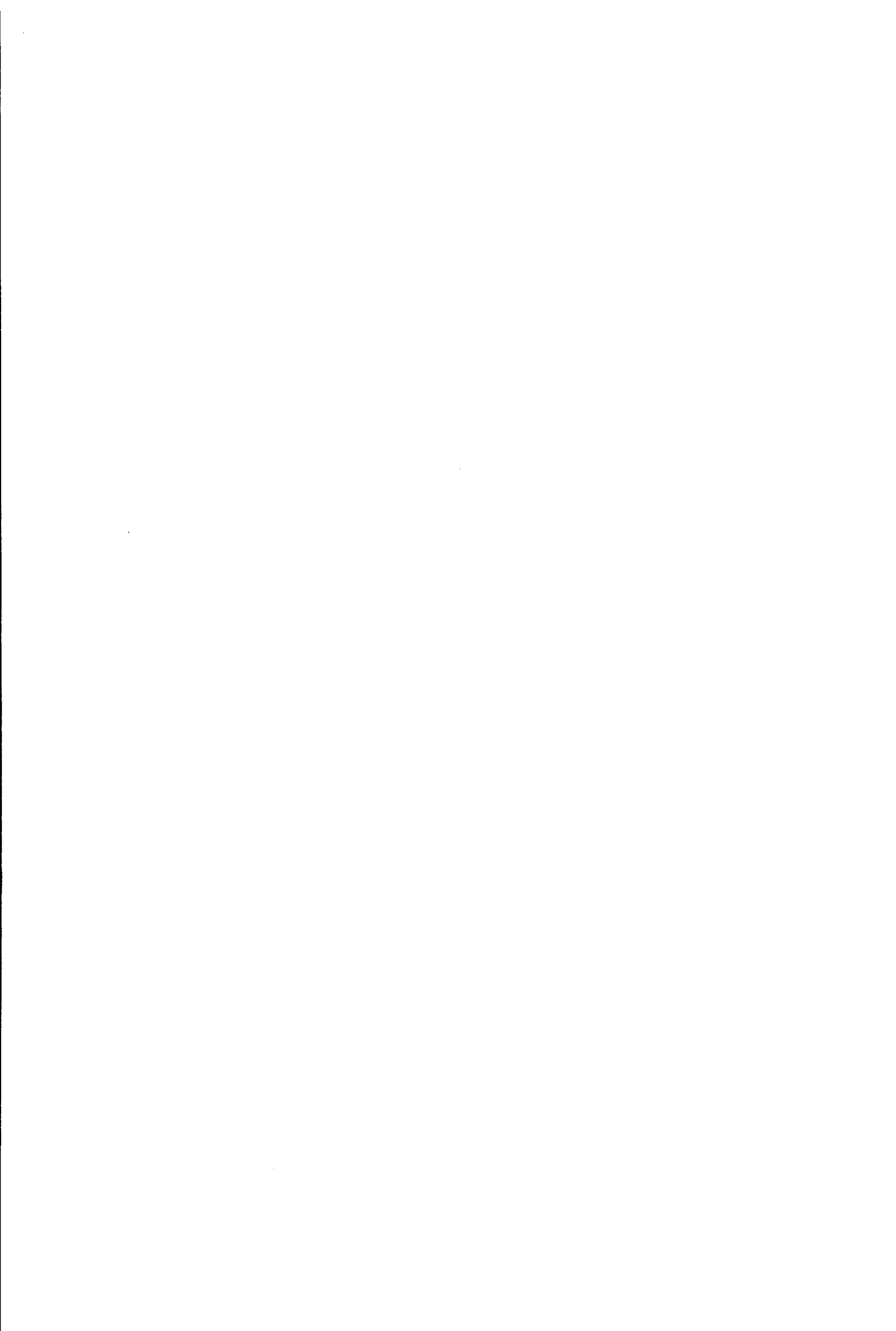


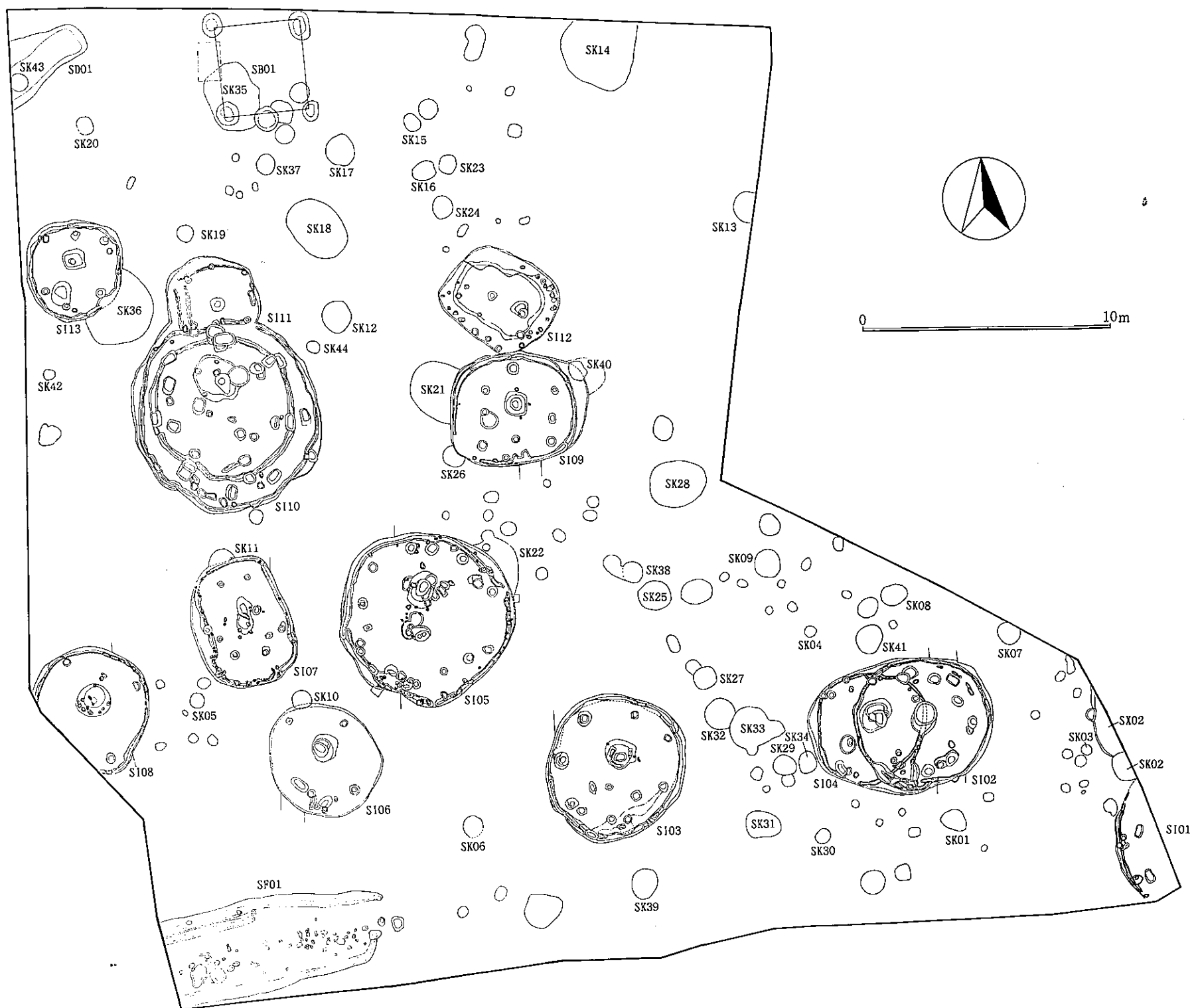
第6図 1区全体図〈下面〉(S = 1/200)



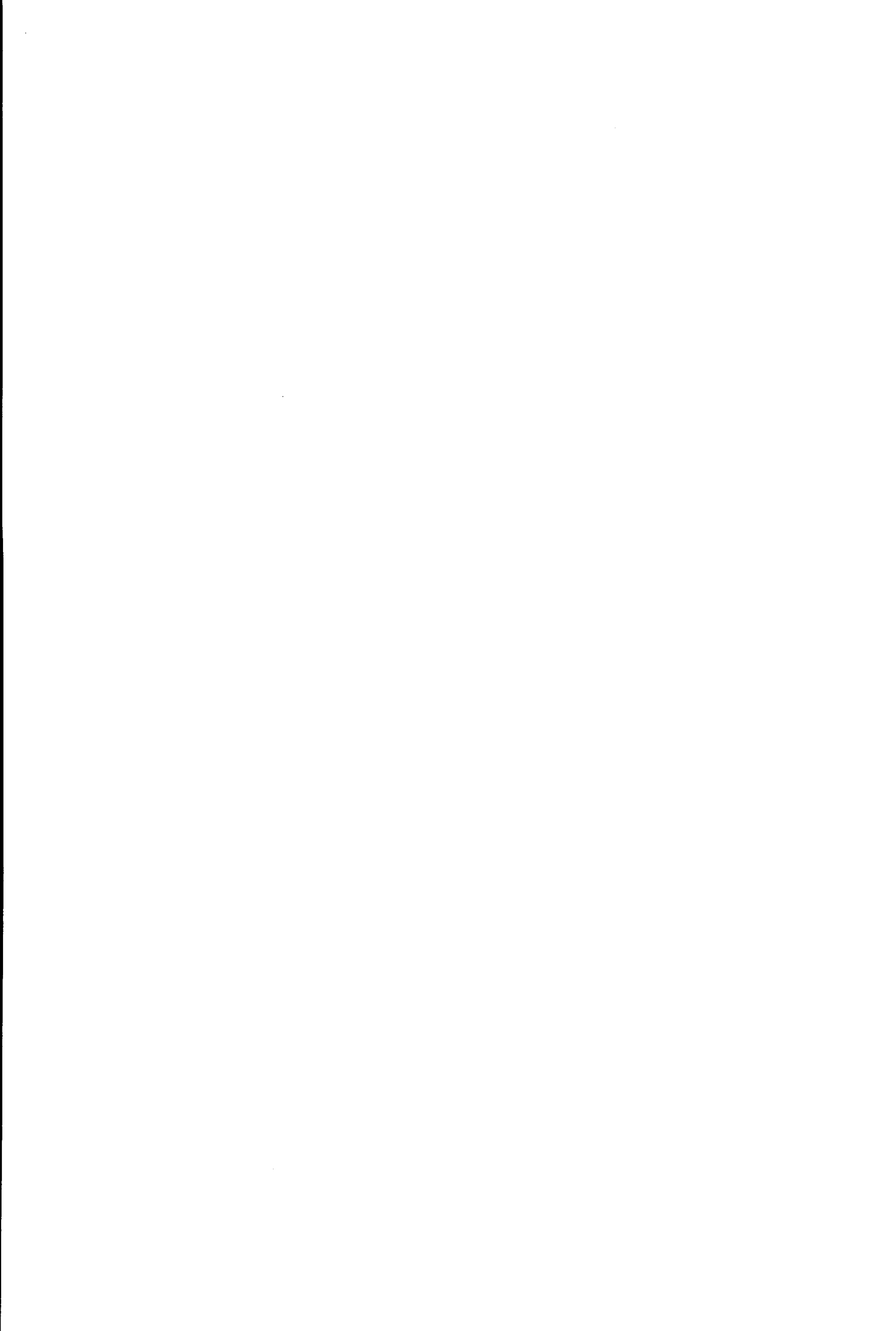


第7图 2区全体图〈上面〉(S = 1/200)





第8図 2区全体図〈上面〉(S = 1/200)



III章 検出された遺構と遺物

1. 縄文時代前期初頭の遺構と遺物

(1) 概要 (第6・8図)

本遺跡の集落出現の時期である。1・2区で竪穴式住居跡1軒、土坑6基を検出した。それらの時期は出土遺物から前期初頭の花積下層I式期の所産である。当該期の集落は中期後半と比べるとかなり小規模ではあるが、遺構数の割に出土遺物は豊富であった。遺構の分布に関しては、1区で土坑1基を数える以外はすべて2区での検出であり、2区でも北東部に集中して検出された。該期に特徴的な楕円形を呈する土坑が2区の北西から東に向かって5～6mの間隔を保って弧状に配置されていることから集落は調査区外へ延びていることが予想される。ちなみに住居跡はその弧の内側で検出されている。

(2) 竪穴式住居跡

SI12 (第9図/PL.2・17)

位置 2区北側、M・N-7・8グリッド。

重複関係 SI09と重複し、これに切られる。また弧状列石が本住居跡の上面に構築される。

遺存状態 良好。

覆土 暗褐色を基調とし、自然堆積を示している。

平面形態と規模 平面形は東西方向に長軸を採る隅丸長方形を呈す。規模は長軸4.30m、短軸3.68m、床面積13.3m²の規模を有する。

主軸方位 N-40°-E

床面 床面は直床式で軟弱である。住居跡中央の長軸方向3.42m、短軸方向2.44mの範囲で深さ8～10cmの窪みが認められる。

壁・壁溝 壁高は北壁・西壁で20～23cm、東壁・南壁で10～13cmを測り、外傾して立ち上がっている。壁溝は認められなかった。

柱穴 主柱穴は認められないが北壁・東壁・南壁に沿って柱穴列が検出され、壁立ちの構造を採っていると考えられる。南壁沿いの柱穴は床面から30cm程、

北壁・東壁沿いの柱穴は20cm程の深さである。

炉跡 本住居跡から炉跡と考えられる施設も焼土も検出されなかった。

その他の施設 なし。

遺物検出状況 遺物は土器片が散見される程度で床面直上出土は石鏃(石鏃未製品)や剝片が主体であった。

遺物 総出土量は土器片37点、石器(剝片含む)73点である。そのうちの土器8点、石器4点を図示し得た。土器はすべて破片であるが、口縁部外面に細かい隆帯を巡らすもの(第9図1)、撚糸文を胴部に施文するもの(同図2・6)、菱形羽状縄文を地文とするもの(同図3～5・8)、節の細かい横位羽状縄文地文とするもの(同図7)がある。石器に関しては代表的なものを図示した。石鏃(同図9・10)、石鏃未製品(同図11)は基部が平らなことで共通している。これらに関連した残核、二次加工痕のある剝片、剝片の他、打製石斧、打製石斧整形剝片、敲石などが出土している。またアクセサリー類として葉瑯石製の腕飾り?(同図12)も出土している。上記の剝片石器の大きな特徴は使用される石材に黒耀石をほとんど含まない点にある。石材別の割合は珪質変質岩35点(53.8%)、珪質頁岩14点(21.5%)、チャート14点(21.5%)、黒耀石2点(3%)となる。

備考 本住居跡は炉などの生活施設を備えておらず、出土遺物も石鏃や石鏃未製品あるいはそれに関連した剝片類が圧倒的に占めていることから石器製作跡である可能性が高い。また、床面には地震による地割れと思われる痕跡が認められている。

(3) 土坑

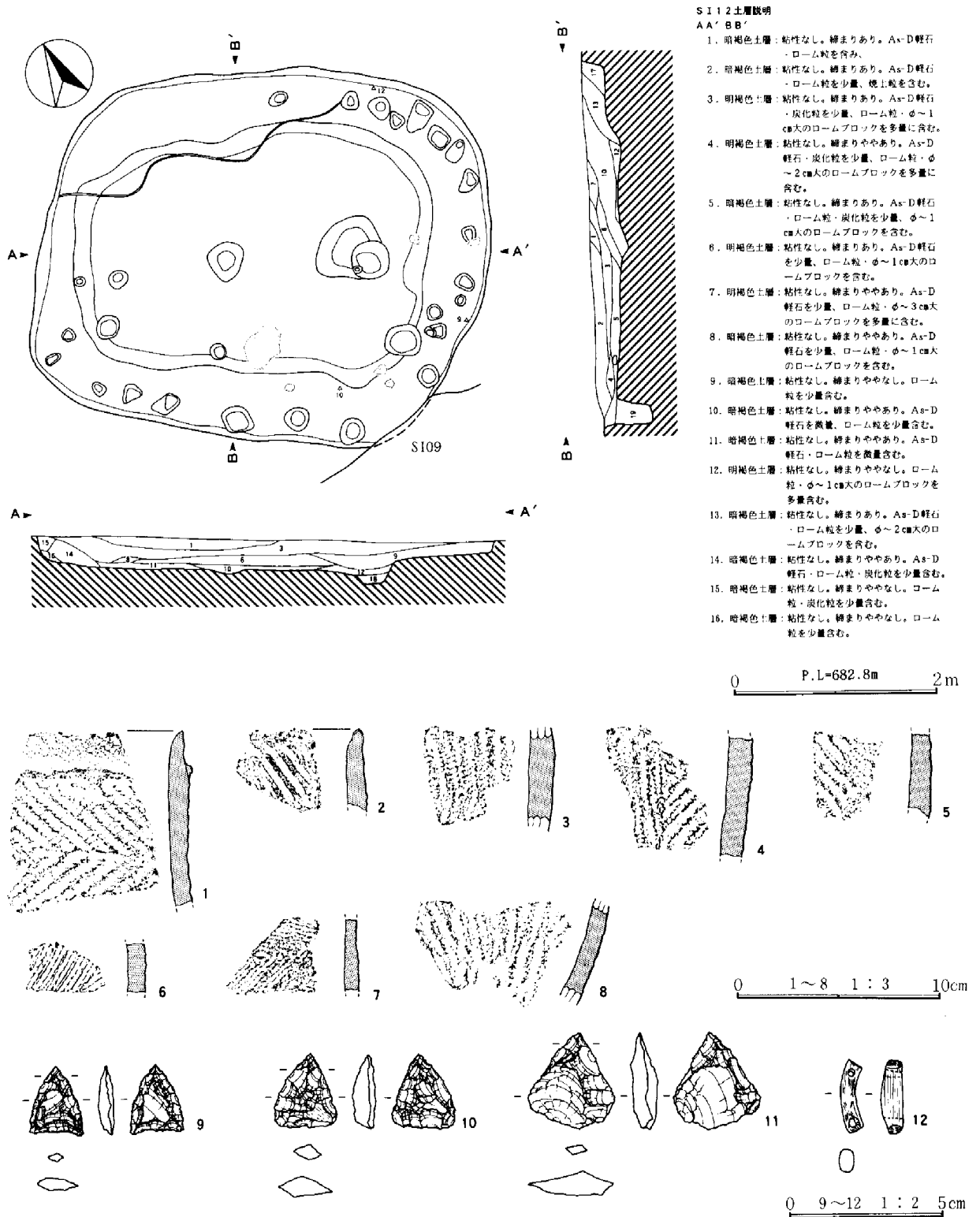
SK18 (第10・13・14図/PL.3・17)

位置 2区北西側、M-7グリッド。

重複関係 なし。

遺存状態 良好。

覆土 明褐色土を基調とし、自然堆積を示している。



第9図 SI12実測図・出土遺物実測図

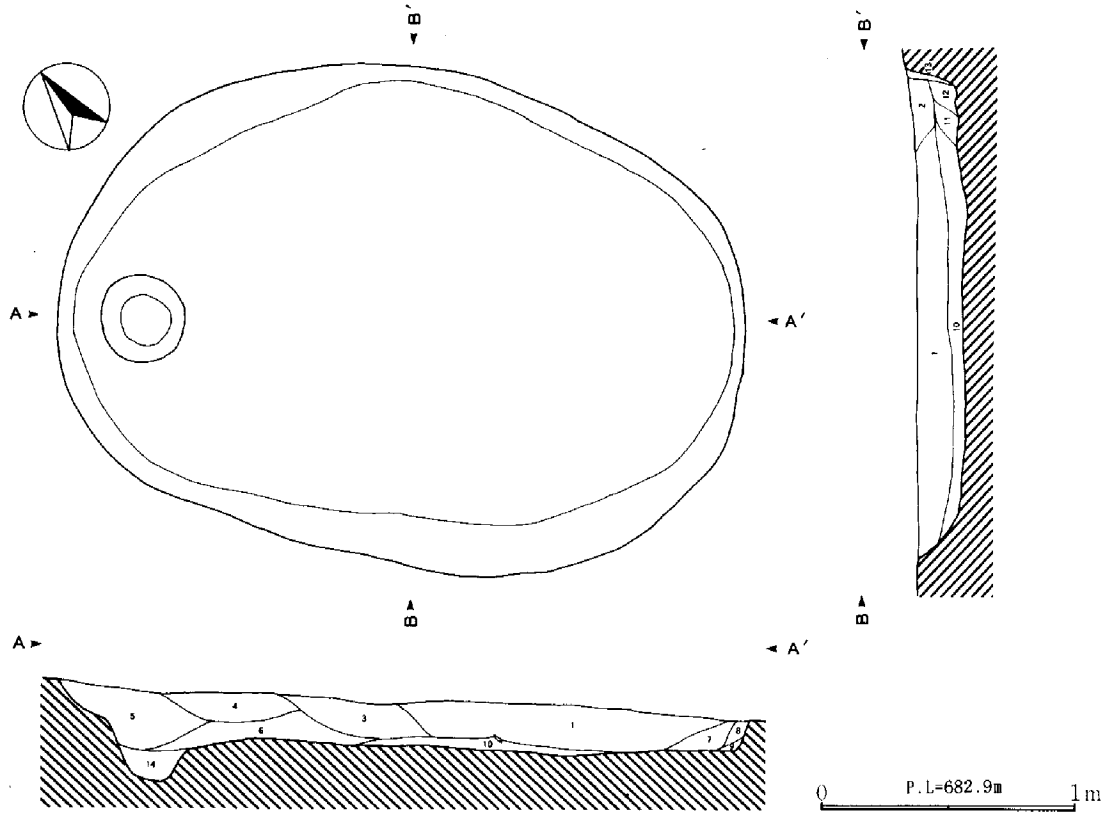
平面形態と規模 平面形は楕円形を呈する。規模は長軸177cm、短軸127cm、確認面からの深さ8cmの規模を有する。

壁面 外傾して立ち上がっている。

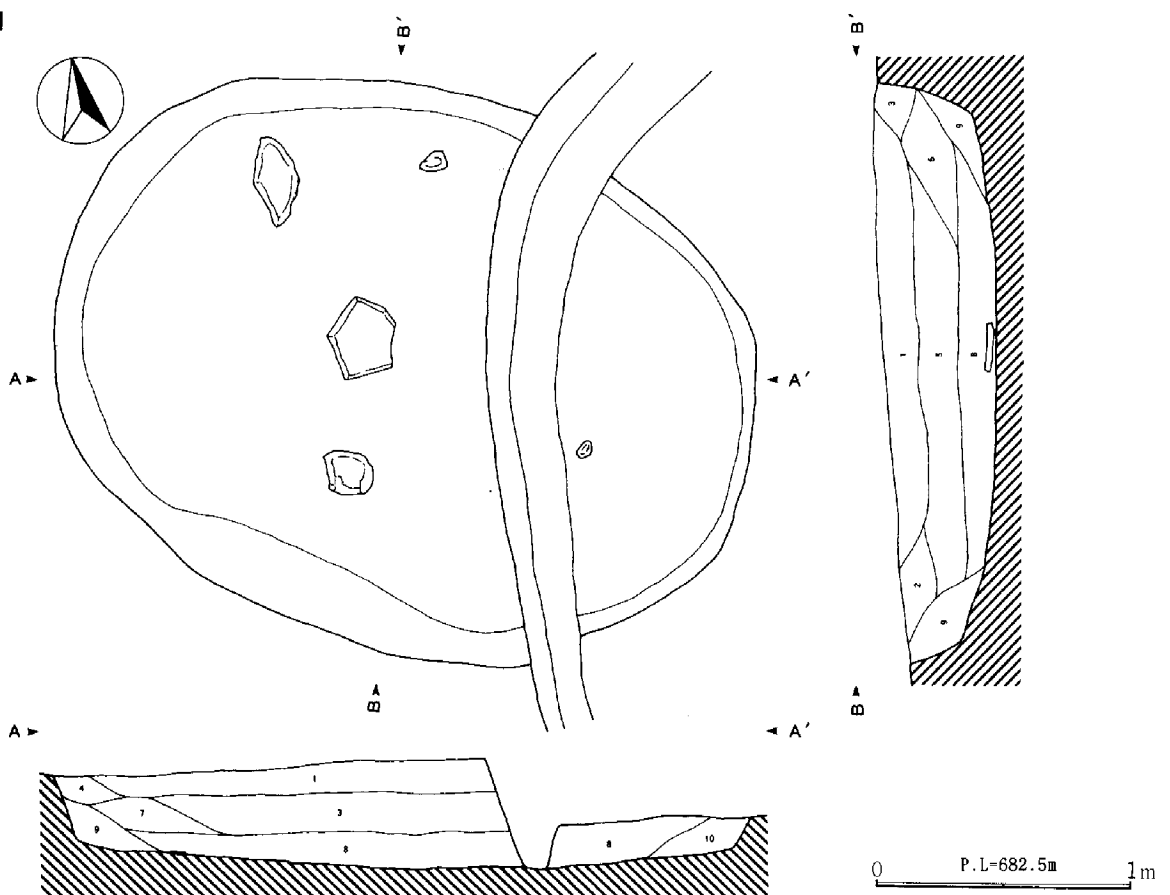
底面 平坦である。北東側に23cm×21cm×8cmの小ピットが認められる。

遺物 土器11点、石器1点を図示し得た。土器は復元個体はないが口縁部外面に撚糸側面圧痕を施す類

SK18



SK21



第10図 SK18・21実測図

III章 検出された遺構と遺物

SK18 土層説明 AA'BB'

1. 明褐色土層：粘性なし。締まりあり。ローム粒・φ1~3cm大のロームブロックを多量、As-D軽石・焼土粒を含む。
2. 明褐色土層：粘性なし。締まりあり。ローム粒を多量、As-D軽石を含む。
3. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。ローム粒を少量含む。
4. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。ローム粒を含み、As-D軽石を少量含む。
5. 明褐色土層：粘性なし。締まりあり。ローム粒を多量、炭化粒を含む。
6. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。ローム粒を含み、炭化粒を少量含む。
7. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。ローム粒・φ~1cm大のロームブロックを含み、As-D軽石を少量含む。
8. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。As-D軽石・ローム粒を少量含む。
9. 明褐色土層：粘性なし。締まりあり。ローム粒を多量、As-D軽石を含む。
10. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。ローム粒を含み、As-D軽石を少量含む。
11. 明褐色土層：粘性なし。締まりあり。ローム粒を多量、As-D軽石を少量含む。
12. 明褐色土層：粘性なし。締まりあり。ローム粒を多量、As-D軽石を少量含む。
13. 明褐色土層：粘性なし。締まりややあり。ローム粒を多量を含む。
14. 暗褐色土層：粘性なし。締まりややあり。ローム粒を少量含む。

(第14図1~8)、菱形羽状縄文を地文とするもの(同図9・10)、胴部に撚糸文を施文するもの(同図11)がみられる。第13図1は粗粒輝石安山岩製の磨石である。その他、チャート質の剝片が出土している。

備考 SI12と同様に地割れと思われる痕跡が認められた。

SK21 (第10・13・14図/PL.3・17)

位置 2区ほぼ中央、M-8グリッド。

重複関係 SI09と重複し、これに切られる。

遺存状態 やや不良。

覆土 暗褐色土を基調とし、自然堆積を示している。

平面形態と規模 平面形は楕円形を呈する。規模は長軸188cm、短軸143cm、確認面からの深さ21cmの規模を有する。

壁面 外傾して立ち上がっている。

底面 ほぼ平坦である。

遺物 土器7点、石器1点を図示し得た。土器はすべて破片である。口縁部外面に細隆帯を巡らすもの(第14図12)、横位羽状縄文を地文とするもの(同図13)、菱形羽状縄文を地文とするもの(同図14~18)がみられる。第14図3は粗粒輝石安山岩製の磨石で、この他に珪質変質岩の剝片が出土している。

SK28 (第11・13・14図/PL.3・17)

位置 2区東側、N-8グリッド。

重複関係 なし。

遺存状態 良好。

覆土 暗褐色土を基調とし、自然堆積を示している。

平面形態と規模 平面形は楕円形を呈する。規模は

SK21 土層説明 AA'BB'

1. 暗褐色土層：粘性なし。締まりややあり。As-D軽石・ローム粒・φ~1cm大のロームブロックを含む。
2. 明褐色土層：粘性なし。締まりややあり。ローム粒を多量、As-D軽石を少量含む。
3. 明褐色土層：粘性なし。締まりややあり。ローム粒を多量、As-D軽石を含む。
4. 明褐色土層：粘性なし。締まりややあり。ローム粒を多量、焼土粒を少量含む。
5. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。As-D軽石・ローム粒を含む。
6. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。As-D軽石・ローム粒を少量含む。
7. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。ローム粒を少量含む。
8. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。ローム粒を含み、As-D軽石を少量含む。
9. 明褐色土層：粘性なし。締まりややあり。ローム粒を多量を含む。
10. 明褐色土層：粘性なし。締まりややあり。ローム粒を多量、As-D軽石を少量含む。

長軸153cm、短軸121cm、確認面からの深さ25cmを測る。

壁面 階段状に立ち上がっている。

底面 若干凸凹が見られる。

遺物 土器6点、石器1点を図示し得た。土器はすべて破片である。口縁部外面に撚糸側面圧痕を施すもの(第14図19)、節の細かい横位羽状縄文を地文とするもの(同図20)、組紐文?を地文とするもの(同図21)、菱形羽状縄文を地文とするもの(同図22~24)がみられる。第13図2は粗粒輝石安山岩製の凹石である。

SK35 (第11・14図/PL.3・17・18)

位置 2区北西側、L-7グリッド。

重複関係 SB01と重複し、P4・P5に切られる。また北東壁の約3分の2は攪乱により失われている。

遺存状態 やや不良。

覆土 暗褐色土を基調とし、自然堆積を示している。

平面形態と規模 平面形は不整楕円形を呈する。規模は長軸180cm、短軸135cm、確認面からの深さ11cmの規模を有する。

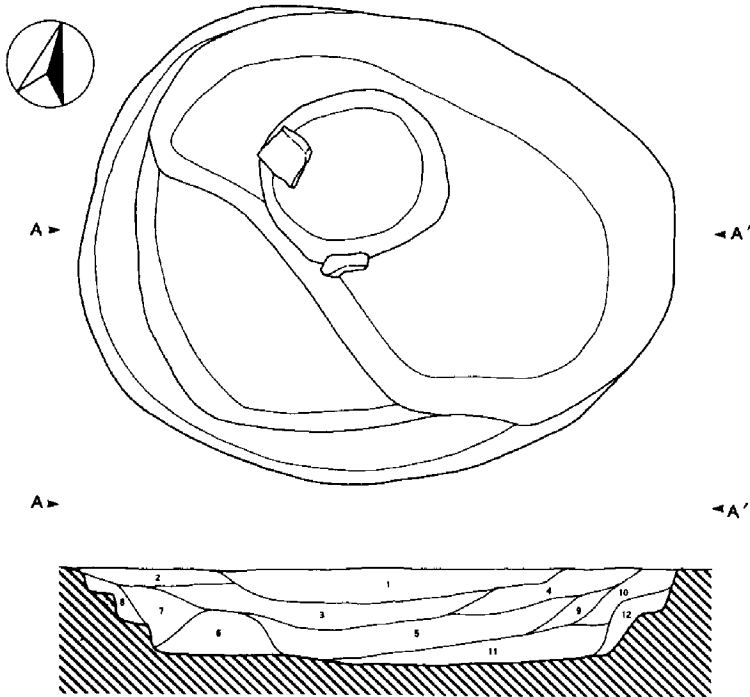
壁面 外傾して立ち上がっている。

底面 平坦である。

遺物 土器5点を図示し得た。第14図25・26は土圧で潰れた状態で出土した。ともに復元資料であり、該期の資料としては稀少である。25は砲弾形を呈する尖底土器である。口縁は大きく開く。口縁部外面に撚糸側面圧痕文を2条、内面にも2~3条巡らしている。地文は菱形羽状縄文である。26は小型の深鉢である。口縁は接合関係が認められないが4単位

1. 縄文時代前期初頭の遺構と遺物

SK28



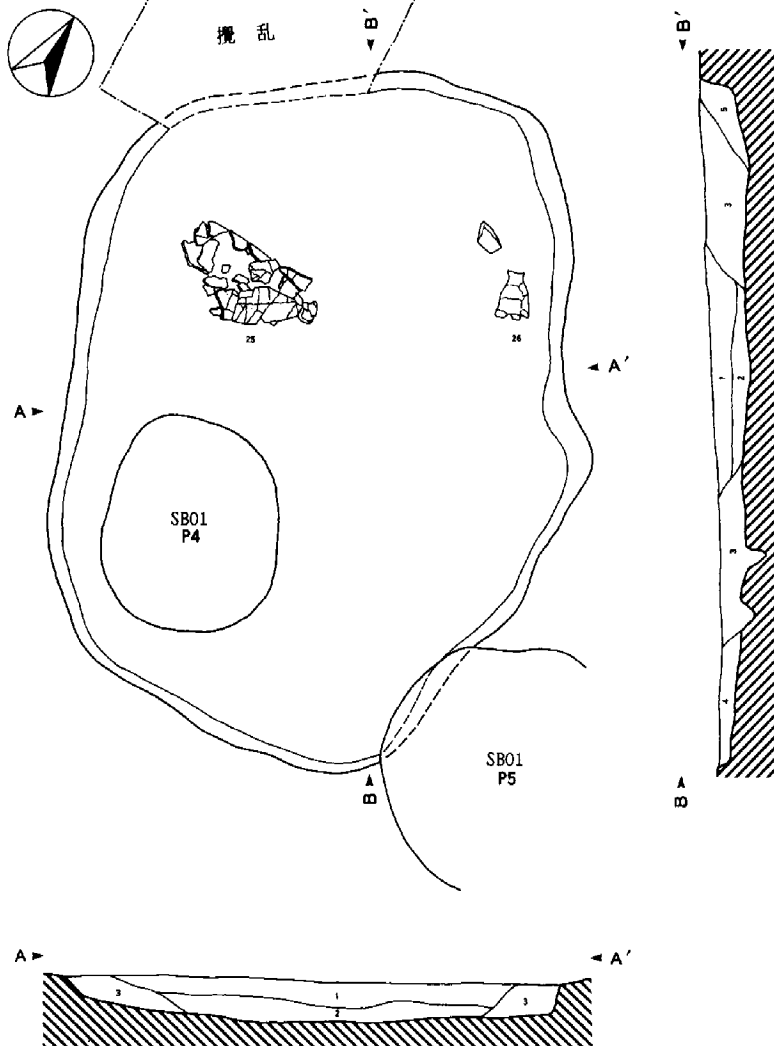
SK28土層説明

AA'

1. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。As-D軽石を少量、ローム粒を少量含む。
2. 暗褐色土層：粘性なし。締まりややあり。As-D軽石・ローム粒を含む。
3. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。As-D軽石少量、ローム粒を含む。
4. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。As-D軽石を少量、ローム粒をやや多く含む。
5. 明褐色土層：粘性なし。締まりややあり。As-D軽石を微量、ローム粒・ ϕ 1~2cm大のロームブロックを少量を含む。
6. 暗褐色土層：粘性、締まり共にややあり。As-D軽石を微量ローム粒・ ϕ ~1cm大のロームブロックを含む。
7. 明褐色土層：粘性なし。締まりややなし。As-D軽石を微量、ローム粒を少量を含む。
8. 明褐色土層：粘性なし。締まりあり。全体の70%をローム粒で占める。
9. 暗褐色土層：粘性なし。締まりややあり。ローム粒を少量含む。
10. 明褐色土層：粘性なし。締まりあり。As-D軽石を微量、ローム粒を含む。
11. 明褐色土層：粘性なし。締まりあり。ローム粒・ ϕ ~1cm大のロームブロックを少量を含む。
12. 明褐色土層：粘性なし。締まりあり。全体の80%をローム粒で占める。

0 P.L=682.6m 1m

SK35

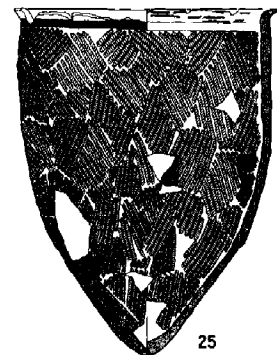


SK35土層説明

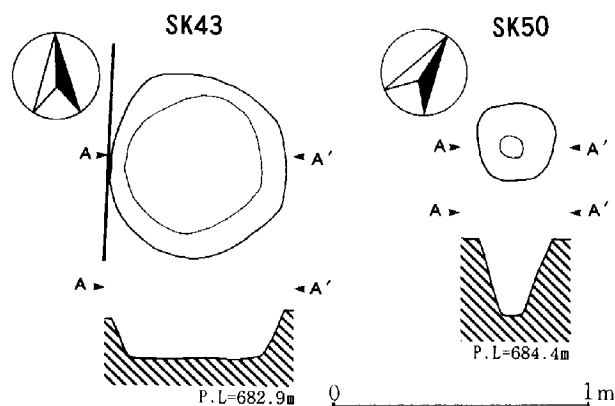
AA' BB'

1. 暗褐色土層：粘性なし。締まりややあり。As-D軽石・ローム粒を少量含む。
2. 暗褐色土層：粘性なし。締まりややあり。As-D軽石・ローム粒を少量含む。
3. 暗褐色土層：粘性なし。締まりややあり。As-D軽石・ローム粒・ ϕ ~1cm大のロームブロックを少量含む。
4. 明褐色土層：粘性なし。締まりややあり。その70%がローム粒から成る。
5. 暗褐色土層：粘性なし。締まりややあり。As-D軽石を少量、ローム粒・ ϕ ~1cm大のロームブロックを含む。

0 P.L=683.1m 1m



第11図 SK28・SK35実測図



第12図 SK43・SK50実測図

の波状口縁を呈すると考えられる。口縁部の文様帯と胴部の境には薄い隆帯帯を横位に巡らし、波頂部に同隆帯で渦巻文を構成している。摩耗しているが粘土紐に沿って擦糸側面圧痕を施している。底部は尖底に粘土を足して付けたような上げ底状を呈し、底面にも縄文を施している。胴部は擦糸文により縦長の菱形構成を採っている。破片では同図27・28は同一個体で口縁部に隆帯を巡らし、それ以下は横位羽状縄文を施すもの、同図29は胴部に菱形縄文を施すものである。

SK43 (第12・13図/PL.17)

位置 2区北西隅、K-7グリッド。

重複関係 SD01と重複しするが新旧は不明である。

遺存状態 良好。

覆土 単層である。

平面形態と規模 平面形はほぼ正円で径70cm、確認面からの深さ19cmの規模を有する。

壁面 外傾して立ち上がっている。

底面 平坦である。

遺物 土器2点を図示し得た。第14図30・31ともに縦位の菱形羽状縄文を地文としている。

SK50 (第12図)

位置 1区東の東側、F-3グリッド。

重複関係 なし。

遺存状態 良好。

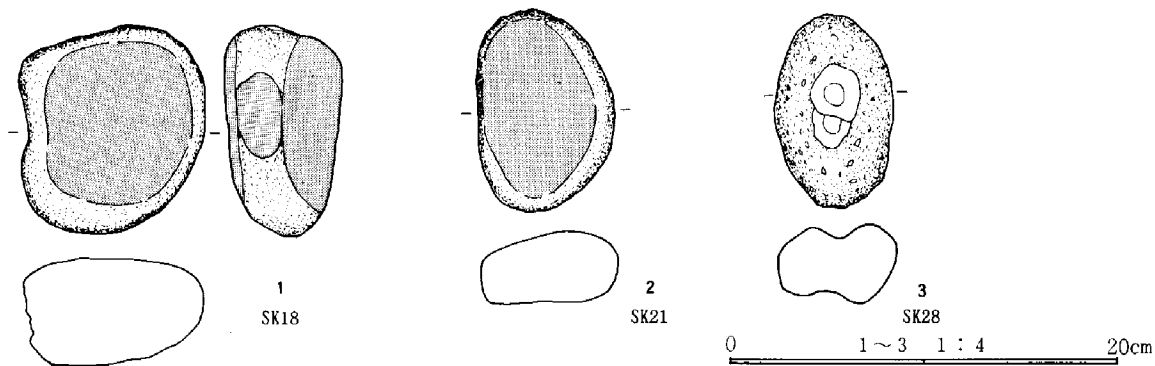
覆土 暗褐色土の単層でローム粒を少量含んでいる。粘性は弱く、締まりはやや強い。

平面形態と規模 平面形は不整円形を呈し、径30cm、確認面からの深さ29cmの規模を有する。

壁面 外傾して立ち上がっている。

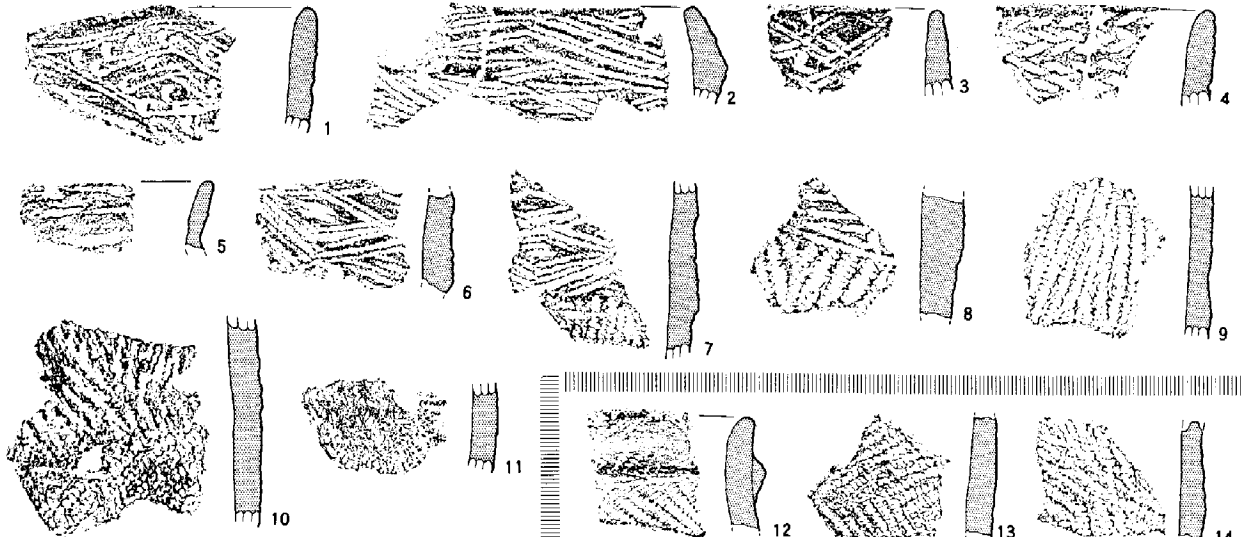
底面 平坦である。

遺物 土器片が数点出土しているが図示するには至らなかった。

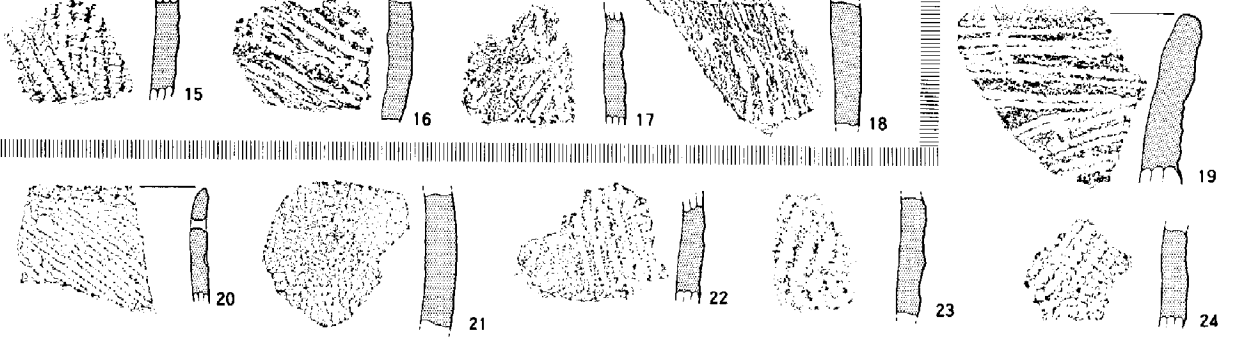


第13図 土坑出土石器実測図

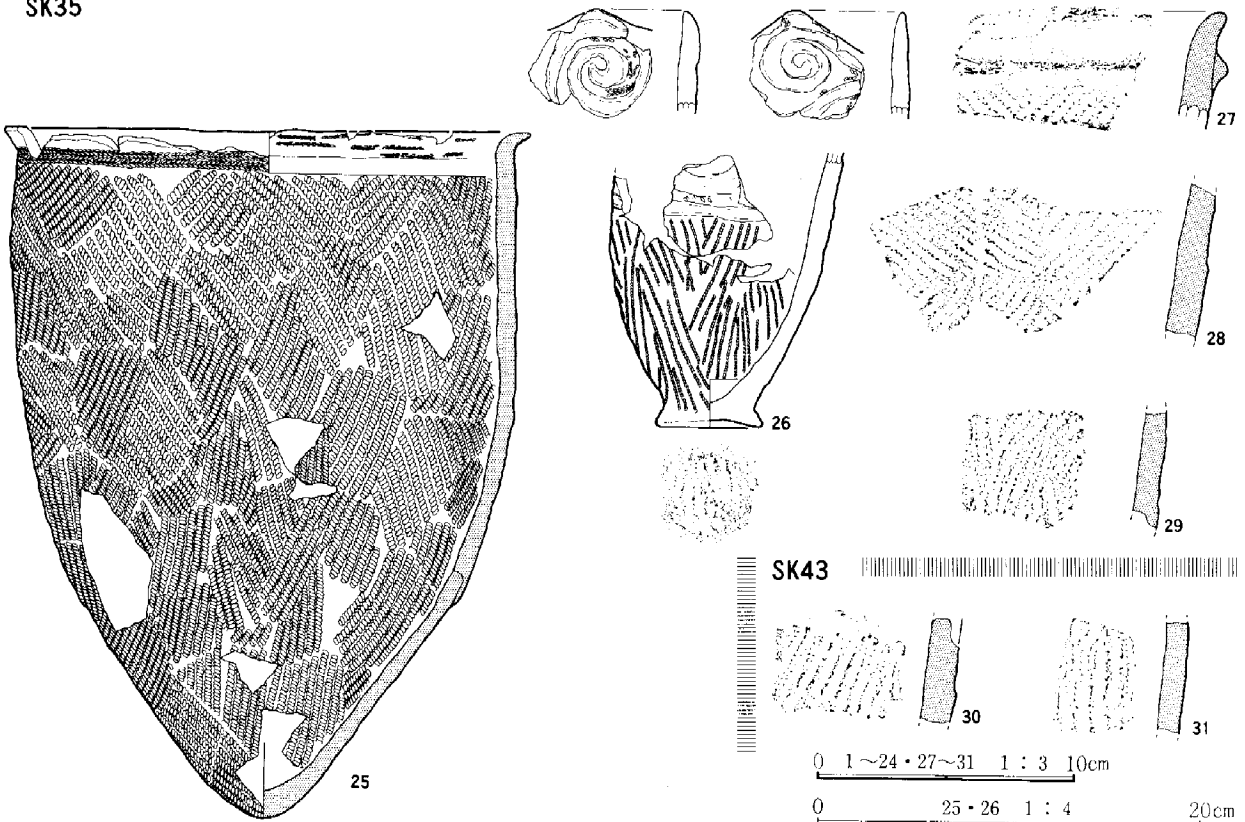
SK18



SK28



SK35



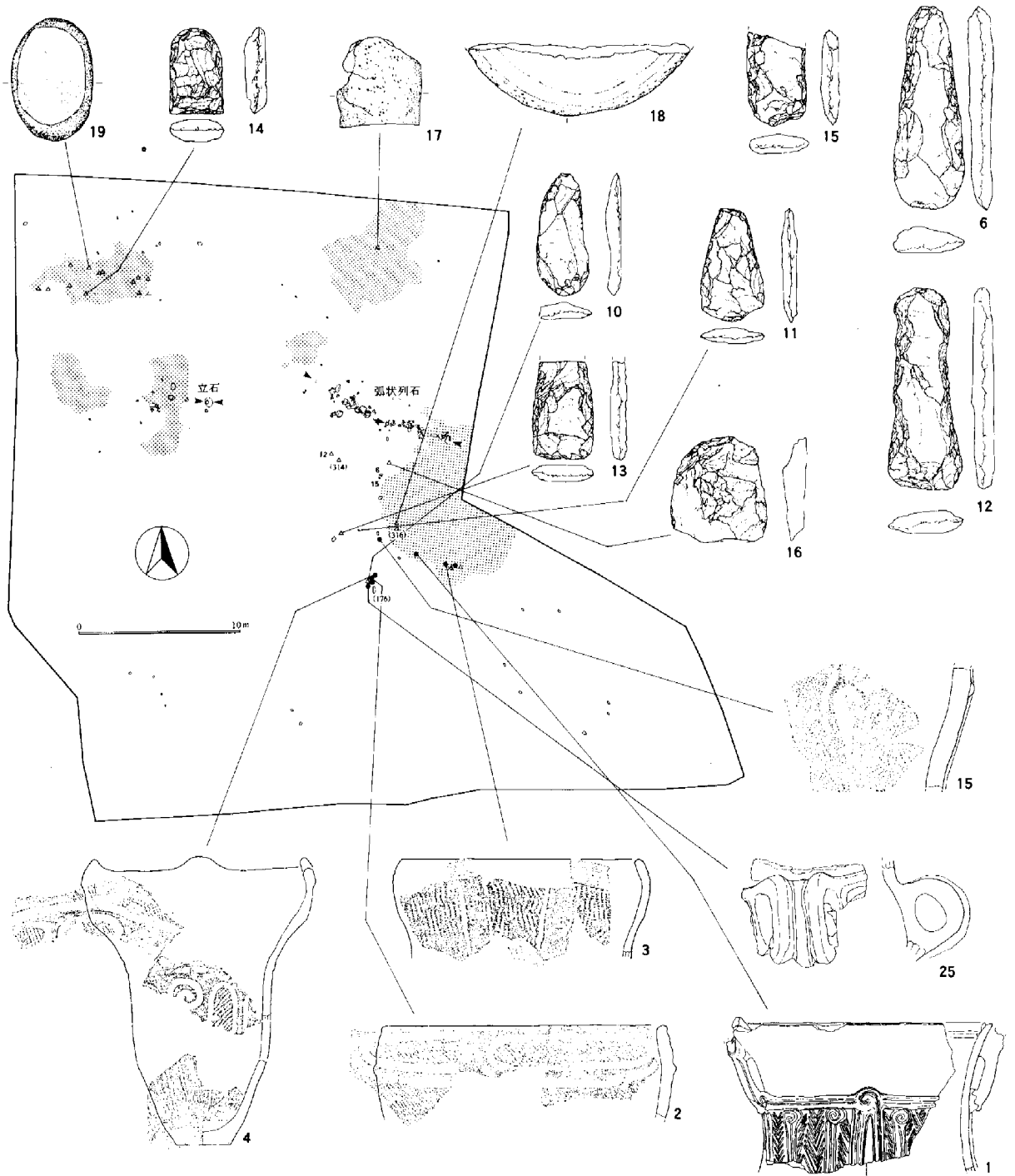
第14図 土坑出土土器実測図

2. 縄文時代中期後半の遺構と遺物

(1) 概要 (第5～8図)

本遺跡の中心をなす時期である。2区上面では弧状列石・立石が周囲に焼土を伴って検出され、1区上面では柄鏡形を含む敷石住居跡や屋外埋設遺構も検出された。1・2区下面では竪穴式住居跡や屋外埋設遺構を含む土坑が多数検出された。2区の竪穴

式住居跡の分布は弧状列石を取り巻くように配置されており、環状集落を構成するものと思われる。1区と2区の関係は間に小谷を挟んでいることから同一集落とは考えがたく、寧ろ竪穴式住居跡と敷石住居跡という構造差から時間差とみた方が妥当であろう。すなわち2区の集落から1区の集落へと移り変わっていったと考えられるのである。検出遺構を整理すると、弧状列石1基竪穴式住居跡（敷石住居・



第15図 列石焼土遺物出土状況図

拡張住居を含む) 19軒、土坑49基(屋外埋設遺構10基、石組遺構・立石それぞれ1基含む)となる。

(2) 配石遺構

a. 弧状列石(第9・10・15・18~21図/PL.3・18)

位置 2区東側、M・N-8グリッド。

重複関係 SI09・SI12・SK40と重複し、これらの上面に構築されている。

遺存状態 良好。

覆土 堅穴としての掘り込みが存在しないため、遺構内覆土は認められない。ただし、列石検出面で焼土ブロックがいくつか認められ、列石構築面上の列石間でも認められることからほぼ同時期の所産と判断しうる。

形状・列石状況 弧状列石は2区東側から北西側へ緩やかな弧を描きつつ延びており、検出総長9.5mを測る。また列石は大きく2つのブロックに分けることができる。使用石材は輝石安山岩である。

遺物検出状況 遺物は列石内からの検出はほとんどなく、焼土ブロックとその周辺で認められている。出土土器は加曾利E2式新段階~E3式併行が主体であり、列石の構築開始時期を示していると考えられる。

遺物 総出土量は土器片(個体含む)684点、石器(剝片含む)68点である。そのうち土器26点、石器21点を図示し得た。石器組成は打製石斧類31(製品21・未製品1・整形剝片4、スクレイパー2・剝片3)、礫石器(軽石製品・その他含む)類11(敲石7・磨石1・磨石+凹石1・石皿1・石棒1)、剝片石器類26(残核2・剝片20・石鏃2・石鏃未製品1・石匙1)である。

b. 立石(第9・15・17図/PL.4)

位置 2区中央、H-8グリッド。

重複関係 なし。

遺存状態 良好。

覆土 人為的に石を設置した過程が把握できる。

平面形態と規模 平面形は楕円形を呈し、長軸55cm、短軸45cm、確認面からの深さ51cmを測る。

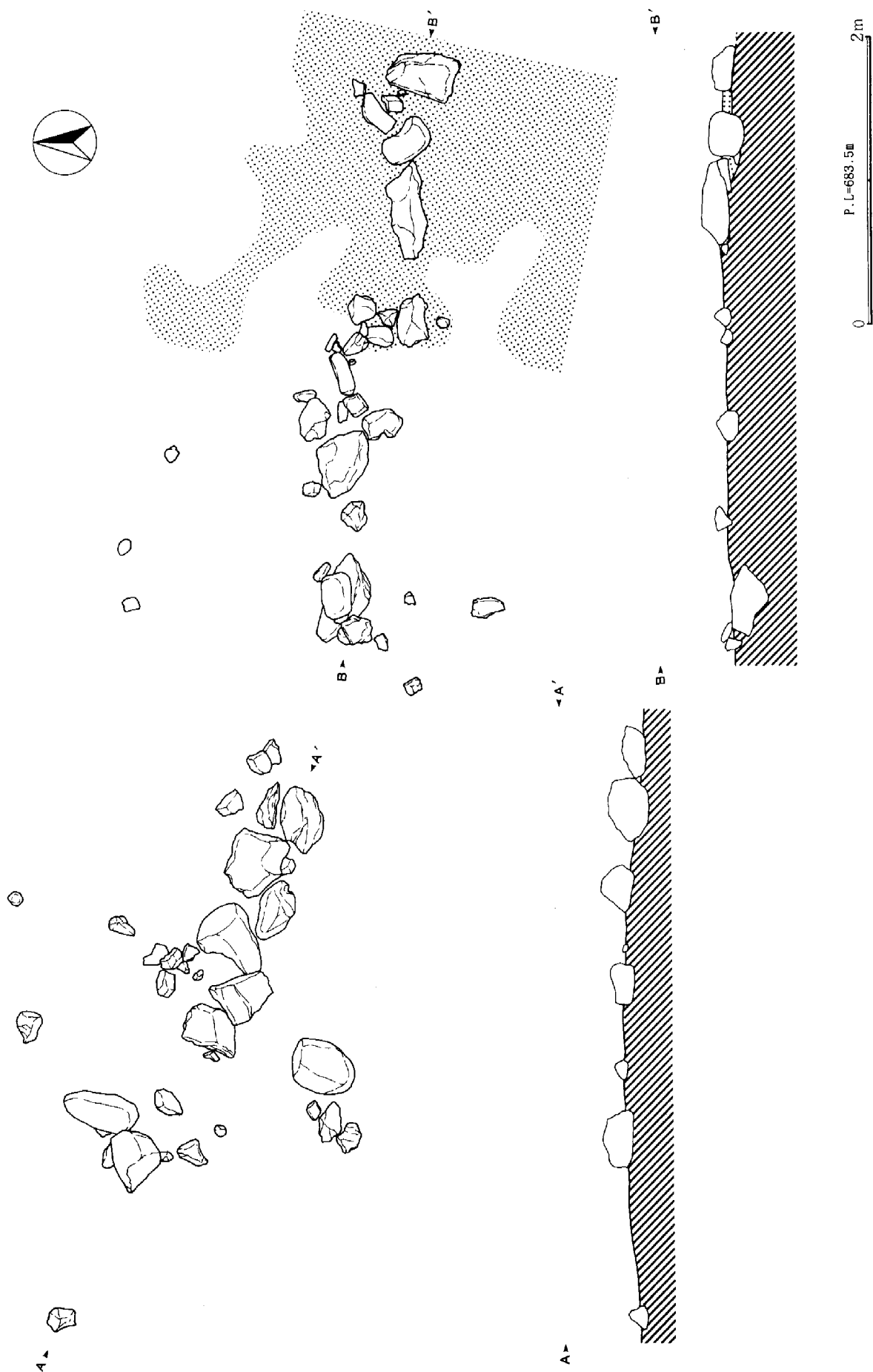
壁面 外傾して立ち上がっている。

底面 皿状を呈している。

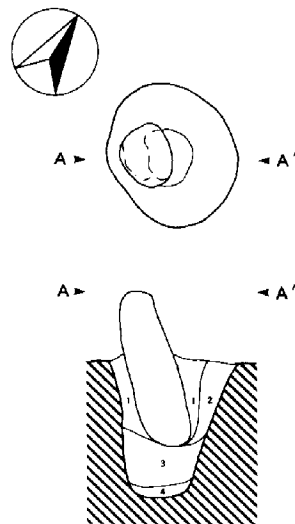
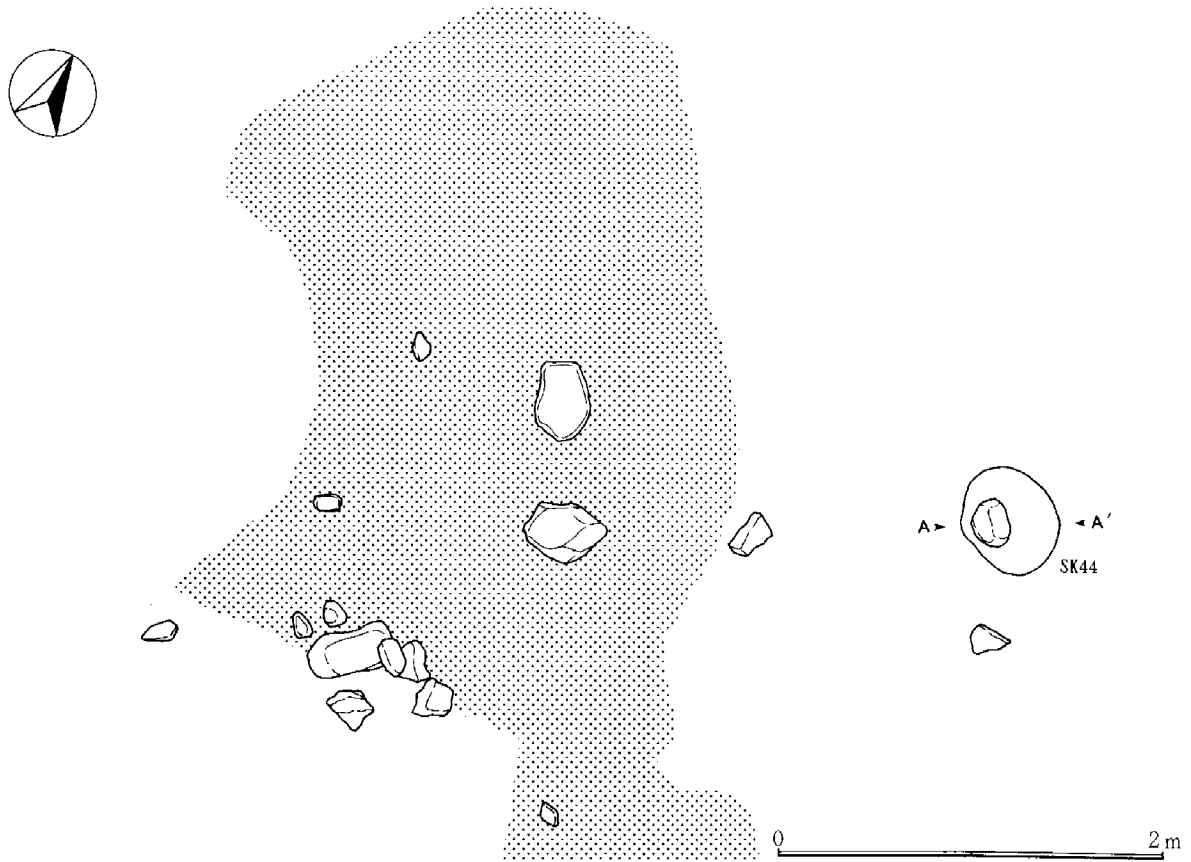
立石状況 楕円形に掘り込まれ、埋土で石を置く面を整える(3・4層)。石を設置し、掘り方との間に残土を充填する(1・2層)。立石に使用した石材は粗粒輝石安山岩で長さ84cm、径20~25cmを測る。

遺物 なし。

備考 本遺構は弧状列石の外側に位置する立石である。本遺跡最大規模の住居跡であるSI10に隣接して構築されている。検出時には立石という認識ではなかったが下面まで下げた際に下部構造を有する立石であることが判明し、土坑(SK44)で処理した。立石は確認面から40cm程、頭を出しているが実際の検出面はそれより20cm程高い。



第16図 弧状石列実測図 (S = 1/40)

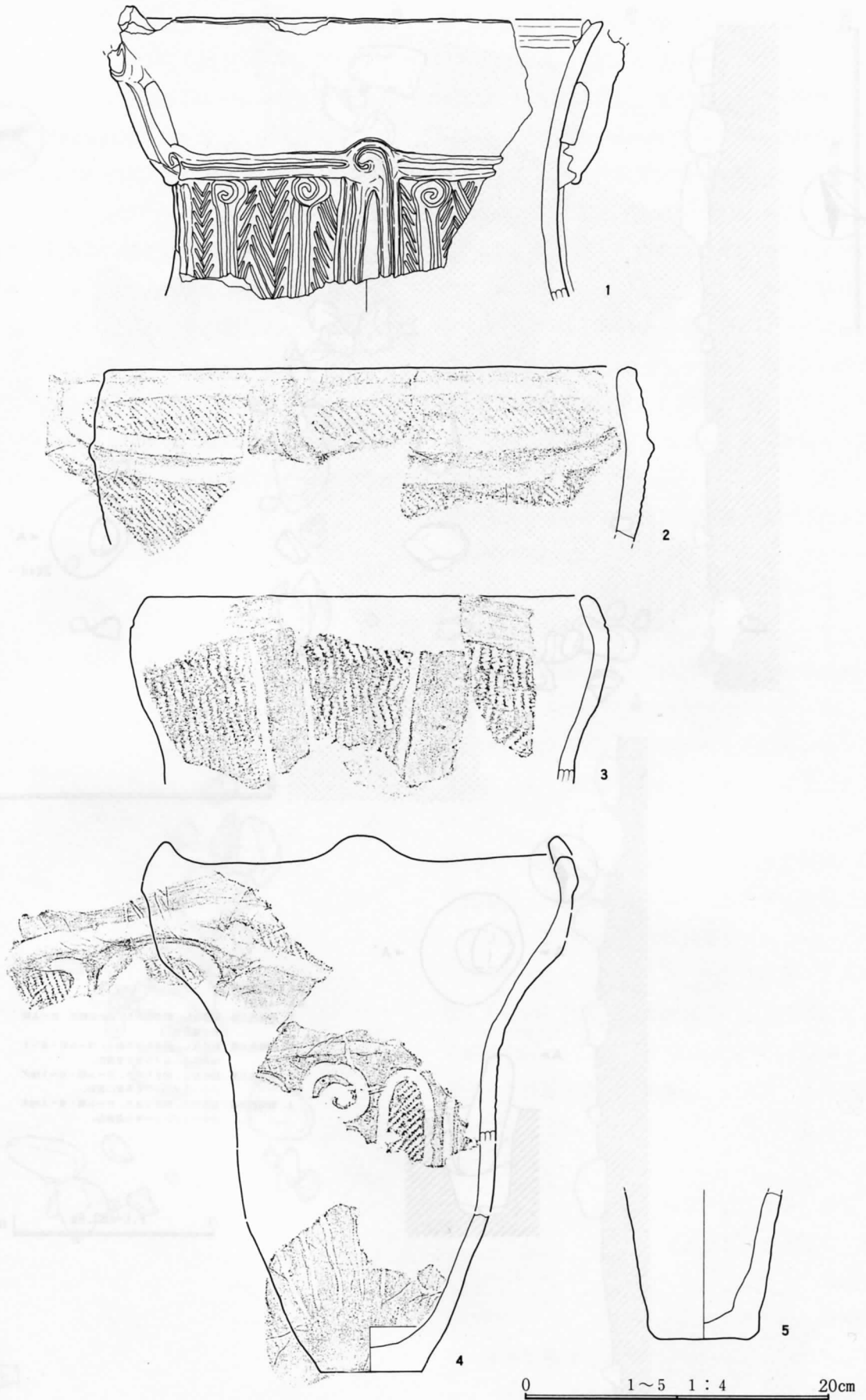


SK44土層説明
A A' (立石)

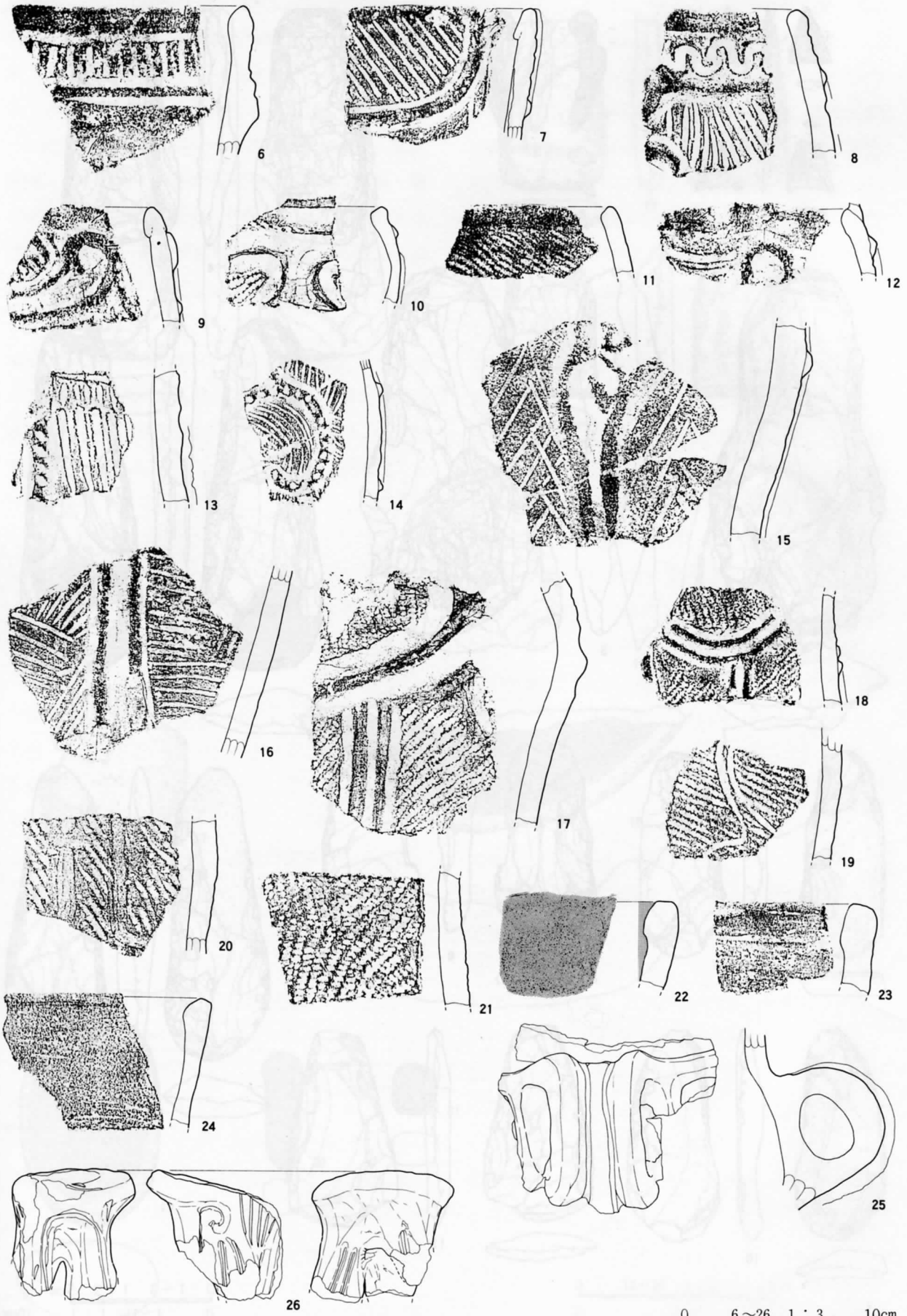
1. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。As-D軽石・ローム粒を少量含む。
2. 明褐色土層：粘性なし。締まりややあり。ローム粒・φ~1cm大のロームブロックを含む。
3. 明褐色土層：粘性なし。締まりあり。ローム粒・φ~1cm大のロームブロックを多量に含む。
4. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。ローム粒・φ~1cm大のロームブロックを少量含む。

0 P.L=682.8m 1m

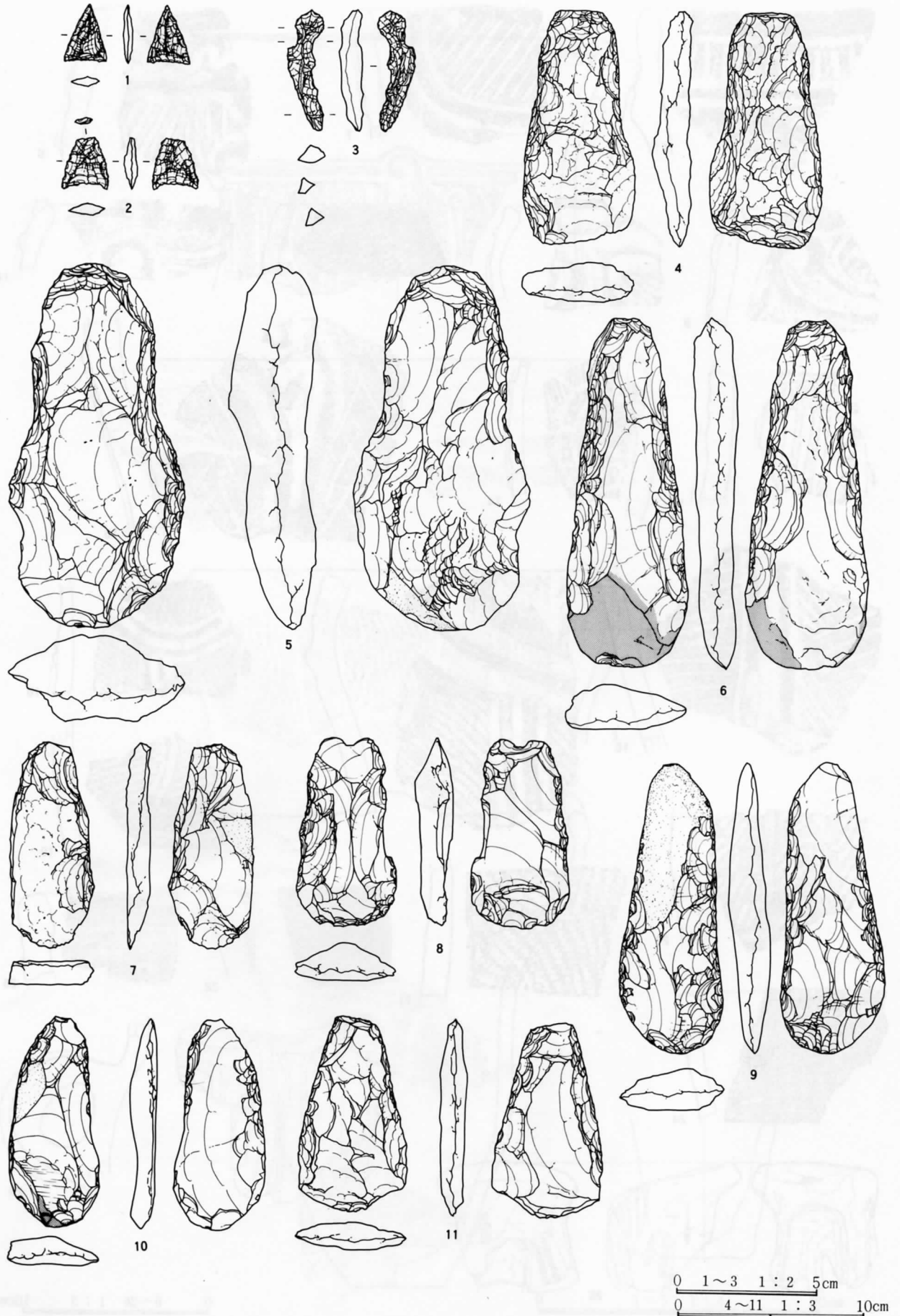
第17図 立石 (SK44) 実測図 (S = 1/40・1/30)



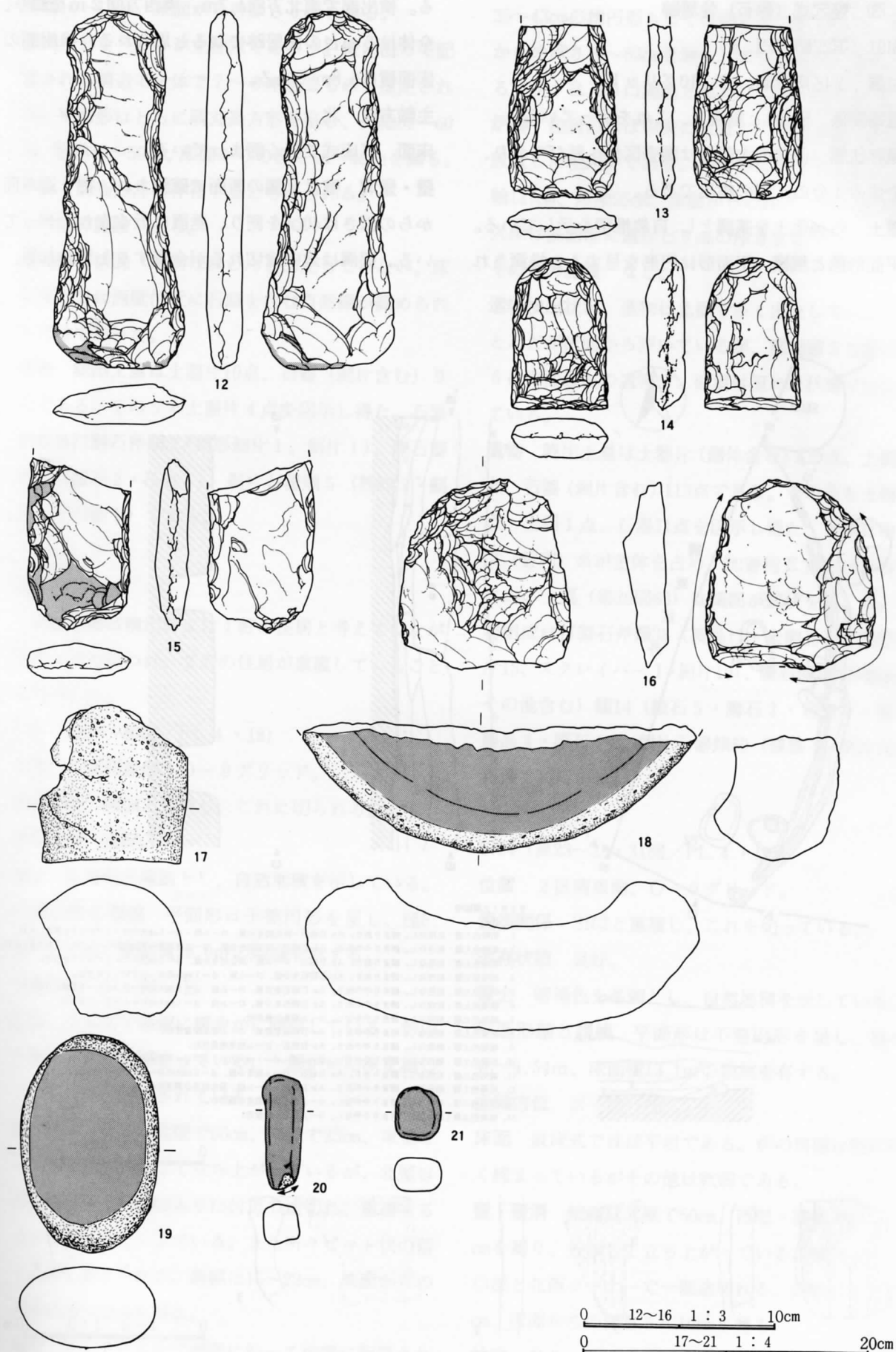
第18図 列石焼土出土土器 1



第19図 列石焼土出土土器 2



第20図 列石焼土出土石器 1



第21図 列石焼土出土石器 2

(3) 竪穴式(敷石)住居跡

SI01 (第22図/PL.4)

位置 2区南東隅、P-10グリッド。

重複関係 SK02と重複し、これを切っている。

遺存状態 住居の大部分は調査区外へ延びており、全体の4分の1程の検出である。

覆土 暗褐色土を基調とし、自然堆積を示している。

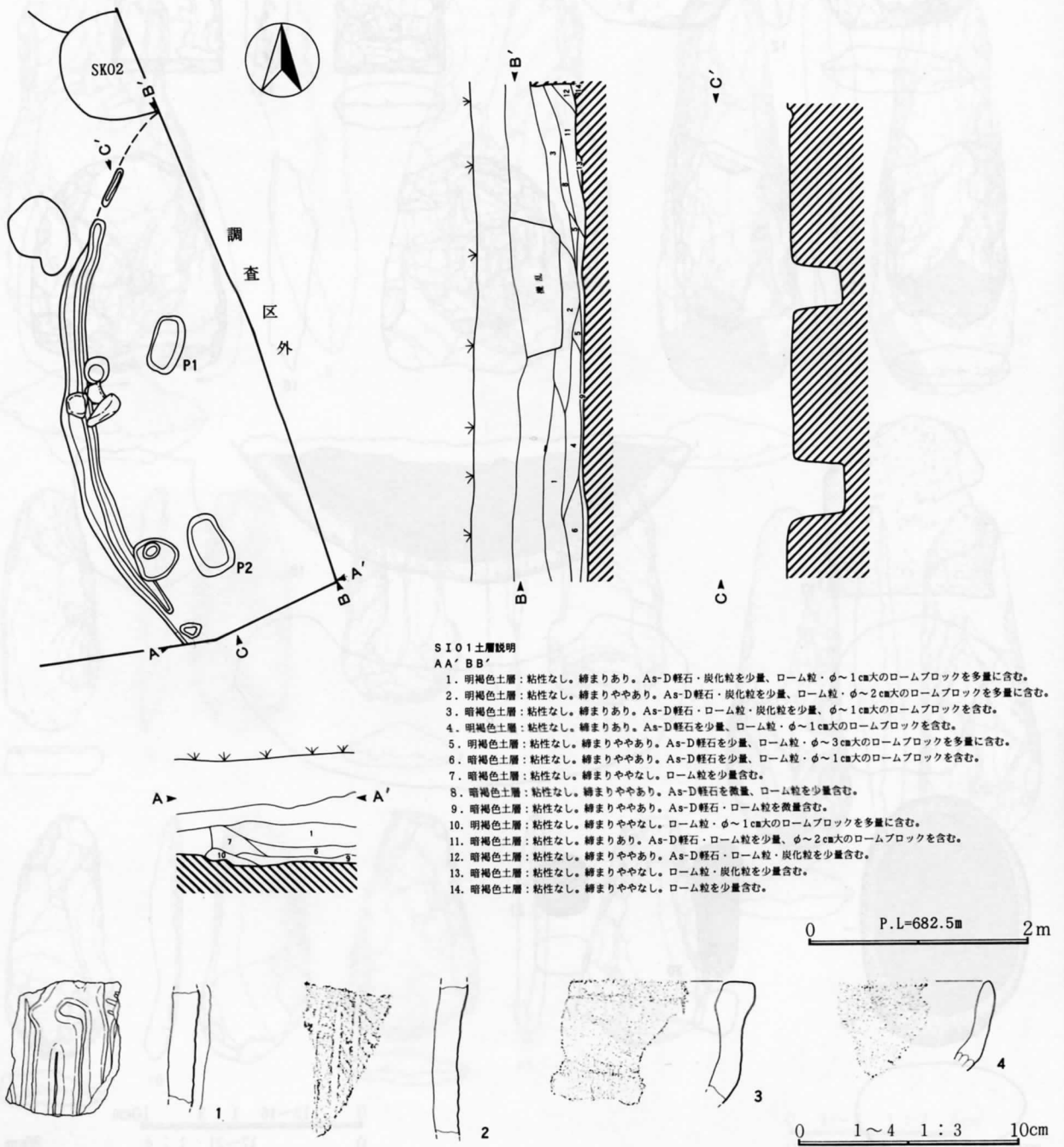
平面形態と規模 平面形は円形を呈すると推測され

る。検出部で南北方向4.7m、東西方向2mを測り、全体は6m台の住居跡になると思われる。検出部の床面積は6.8㎡である。

主軸方位 北

床面 直床式で堅く締まっている。

壁・壁溝 壁は北側の断面で確認され、掘り込み面からの深さは40cmを測り、垂直に近く立ち上がっている。壁溝は途中途切れるが全周すると思われる。



第22図 SI01実測図・出土遺物実測図

2. 縄文時代中期後半の遺構と遺物

溝幅10~15cm、床面からの深さ6cmを測る。

柱穴 P1・P2が支柱穴であろう。壁に沿って配置される構造で全体で7~8本巡るものと推定される。平面形はともに隅丸長方形を呈し、長軸50~60cm、短軸45~50cm、床面からの深さ46~48cmを測る。

炉跡 調査区外に存在すると考えられる。

その他の施設 なし。

遺物検出状況 遺物はほとんど出土していない。床面直上では西壁付近に石皿を含む自然礫が認められるだけであった。

遺物 総出土量は土器片10点、石器(剥片含む)9点である。そのうち土器片4点を図示し得た。石器組成は打製石斧類2(整形剥片1、剥片1)、礫石器類2(敲石2・石皿1)、剥片石器類5(残核2・剥片2・石鏃1)である。

SI02・04

本住居跡は検出時には1軒の住居と考えていたが調査が進むにつれ、2軒の住居が重複していることが判明した。

SI02(第23~30図/PL.4・18)

位置 2区南東側、O-9グリッド。

重複関係 SI04と重複し、これに切られる。

遺存状態 良好。

覆土 暗褐色を基調とし、自然堆積を示している。

平面形態と規模 平面形は不整形円形を呈し、径5.46~5.50m、床面積19.0m²の規模を有する。

主軸方位 N-16°-E

床面 直床式で南側に緩やかに傾斜している。炉の周囲は特に堅く締まっている。一部炉に貼床を施している状況が確認されている。

壁・壁溝 壁高は北壁で50cm、南壁で25cm、東壁で35cmを測り、外傾して立ち上がっているが、北壁は垂直に近い。壁溝は入り口付近で途切れ、重複するような掘り方を示している。また所々ピット状の落ち込みも認められる。溝幅は15~22cm、床面からの深さは10~23cmを測る。

柱穴 P1~P8までが壁に沿って均等に配置されており、支柱穴と考えられる。長軸50cm程、短軸

35~43cmの楕円形もしくは隅丸長方形を呈し、床面からの深さ40~63cmを測る。また南壁溝に認められるピットは入り口施設と関連して考えられよう。

炉跡 住居のほぼ中央に位置し、床面を掘り込んで設置した地床炉である。平面形は楕円形を呈し、長軸127cm、短軸95cm、床面からの深さ33cmを測る。火床は基底部に遺存し9cmの厚さをもつ。

その他の施設 なし。

遺物検出状況 遺物は北側で多く出土している。ほとんどが床面から浮いているが、第26図5と第27図6は床面直上の遺物で、前者は潰れた状態で出土している。

遺物 総出土量は土器片(個体含む)839点、土偶1点、石器(剥片含む)113点である。そのうち土器62点、土偶1点、石器11点を図示し得た。土器は唐草文(曾利)系が主体を占め、加曾利E式系はみられない。土偶(第29図63)は頭部が皿状を呈する。石器組成は打製石斧類38(製品11・未製品1・整形剥片15、スクレイパー1・剥片10)、礫石器(軽石製品・その他含む)類14(敲石5・磨石2・石皿2・軽石製品4・原石1)、剥片石器類60(残核4・剥片55・石鏃1)である。

SI04(第23~25・31図/PL.4・19)

位置 2区南東側、O-9グリッド。

重複関係 SI02と重複し、これを切っている。

遺存状態 良好。

覆土 暗褐色を基調とし、自然堆積を示している。

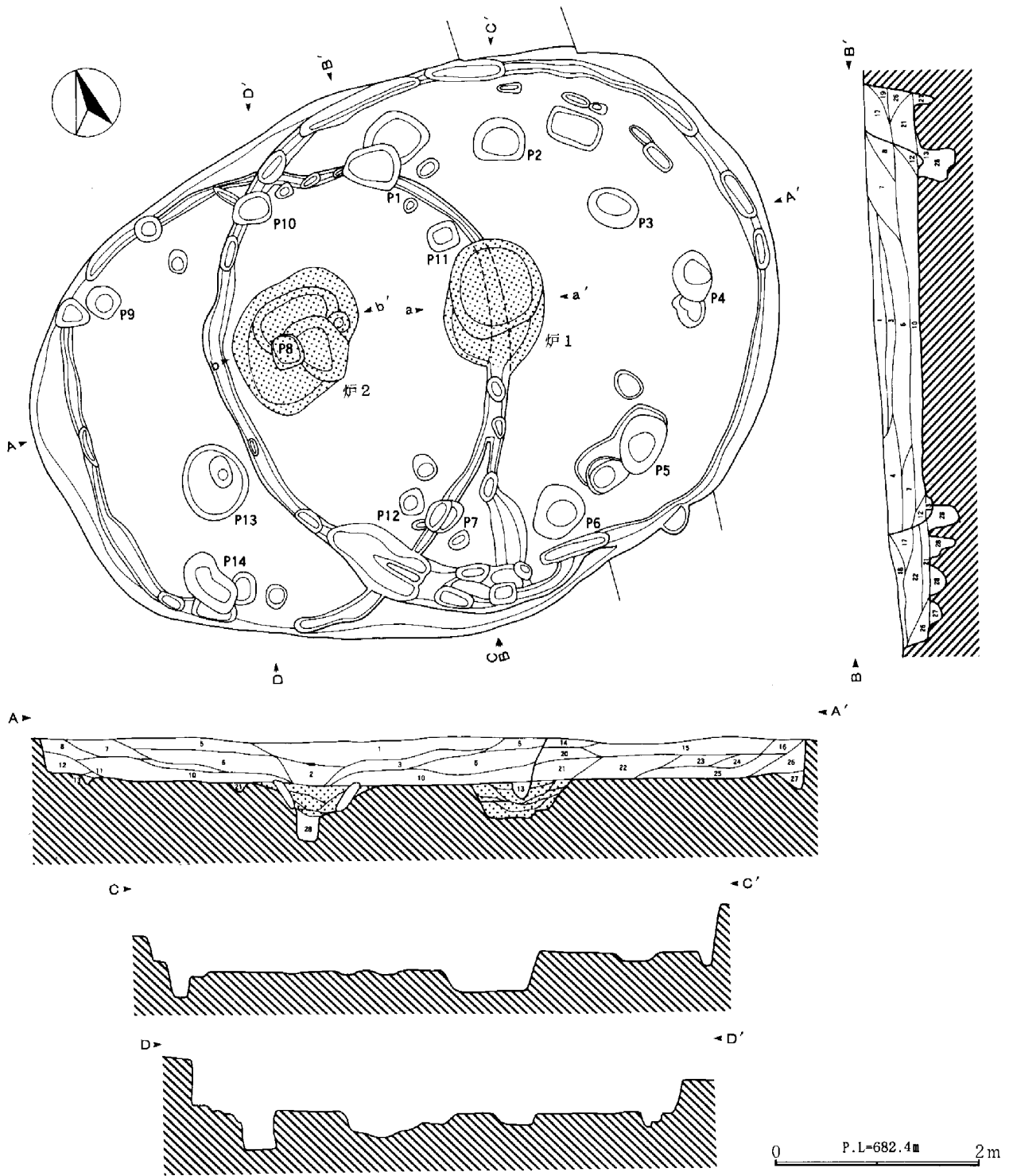
平面形態と規模 平面形は不整形円形を呈し、径4.40~4.54m、床面積13.1m²の規模を有する。

主軸方位 N-20°-E

床面 直床式でほぼ平坦である。炉の周囲は特に堅く締まっているがその他は軟弱である。

壁・壁溝 壁高は北壁で50cm、西壁・南壁で31~34cmを測り、外傾して立ち上がっている。壁溝は入り口部と北西コーナーで一部途切れる。溝幅は6~22cm、床面からの深さ5~10cmを測る。

柱穴 P9~P13の5本が支柱穴であろう。またP14やその付近のピットは入り口施設に関連したもの



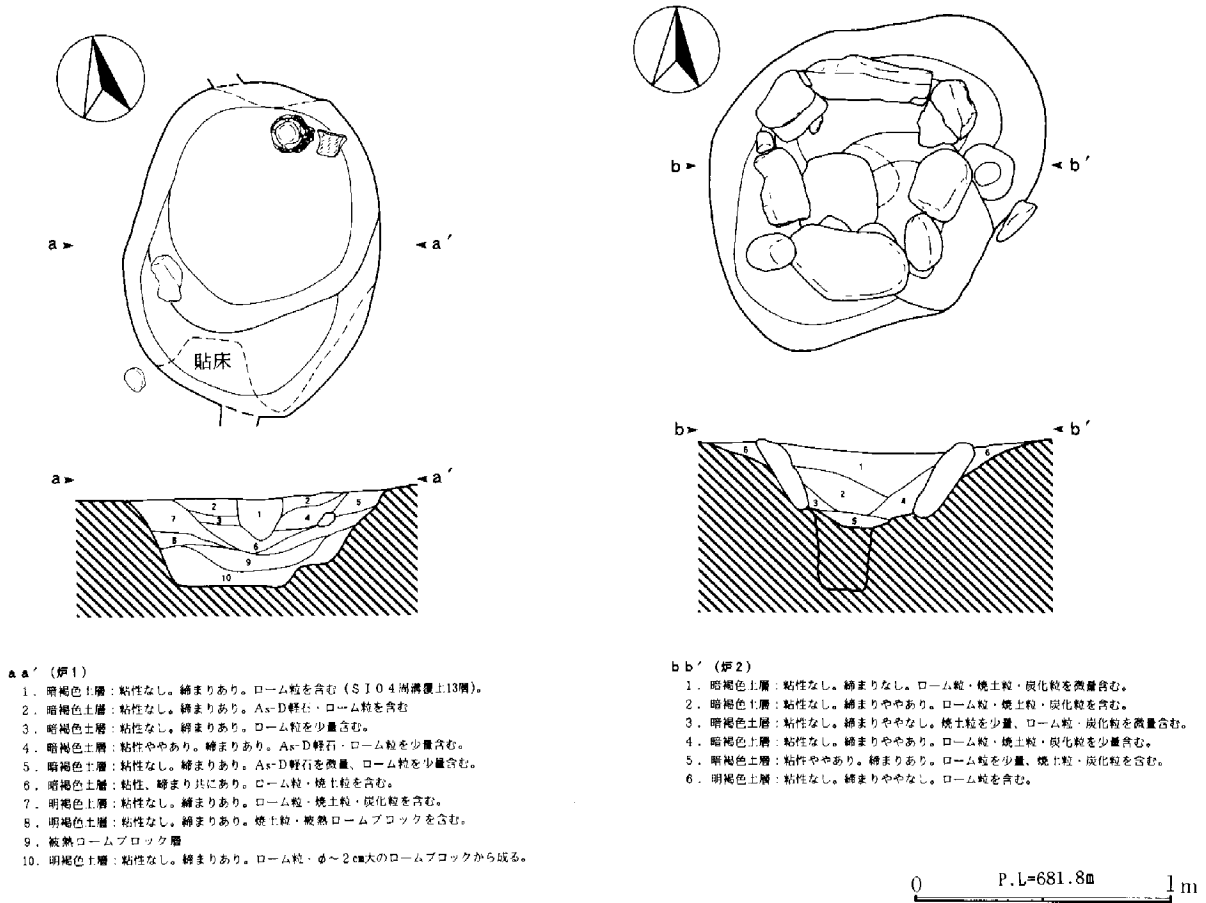
SI02-04土層説明

AA' BB'

1. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。As-D軽石を多量に含む。
2. 暗褐色土層：粘性なし。締まり共にややあり。As-D軽石・焼土粒を少量含む。
3. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。As-D軽石(φ2~4cm大)を含む。
4. 暗褐色土層：粘性なし。締まりややあり。As-D軽石(φ~1cm大)を含む。
5. 暗褐色土層：粘性ややあり。締まりなし。As-D軽石を多量、焼土粒・炭化粒を少量含む。
6. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。As-D軽石・炭化粒を含む。
7. 暗褐色土層：粘性なし。締まりややあり。As-D軽石・焼土粒・炭化粒を少量含む。
8. 暗褐色土層：粘性なし。締まりややあり。As-D軽石・ローム粒・炭化粒を少量含む。
9. 暗褐色土層：粘性ややあり。締まりややなし。焼土粒・炭化粒を含む。
10. 暗褐色土層：粘性ややあり。締まりあり。As-D軽石を多量、ローム粒・焼土粒・炭化粒を含む。
11. 明褐色土層：粘性、締まり共になし。全体の80%がローム粒から成る。
12. 明褐色土層：粘性、締まり共になし。ローム粒・ロームブロックを多量、炭化粒を少量含む。
13. 明褐色土層：粘性なし。締まりあり。ローム粒を含む(以上SI04覆土)。

14. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。As-D軽石・炭化粒を少量含む。
15. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。As-D軽石を多量、焼土粒・炭化粒を少量含む。
16. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。As-D軽石・ローム粒を含み、焼土粒・炭化粒を少量含む。
17. 暗褐色土層：粘性なし。締まりややあり。As-D軽石・炭化粒を少量含む。
18. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。As-D軽石・ローム粒・炭化粒を含む。
19. 暗褐色土層：粘性、締まり共にややあり。As-D軽石・ローム粒・炭化粒を少量含む。
20. 暗褐色土層：粘性なし。締まりややあり。As-D軽石を含み、ローム粒・焼土粒・炭化粒を少量含む。
21. 暗褐色土層：粘性、締まり共にややあり。As-D軽石・ローム粒・炭化粒を少量含む。
22. 暗褐色土層：粘性なし。締まりややあり。As-D軽石を多量、ローム粒・焼土粒・炭化粒を少量含む。
23. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。As-D軽石を少量、焼土粒・炭化粒を含む。
24. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。As-D軽石・炭化粒を含む。
25. 暗褐色土層：粘性ややあり。締まりあり。As-D軽石・焼土粒・炭化粒を含む。
26. 明褐色土層：粘性ややあり。締まりややなし。As-D軽石を多量、ローム粒・炭化粒を少量含む。
27. 明褐色土層：粘性、締まり共になし。φ=1cm大のロームブロックを多量、焼土粒・炭化粒を少量含む。
28. 明褐色土層：粘性なし。締まりややなし。ローム粒・φ~2cm大のロームブロックを含む(以上SI02覆土)。

第23図 SI02-04実測図1



第24図 SI02・04実測図2

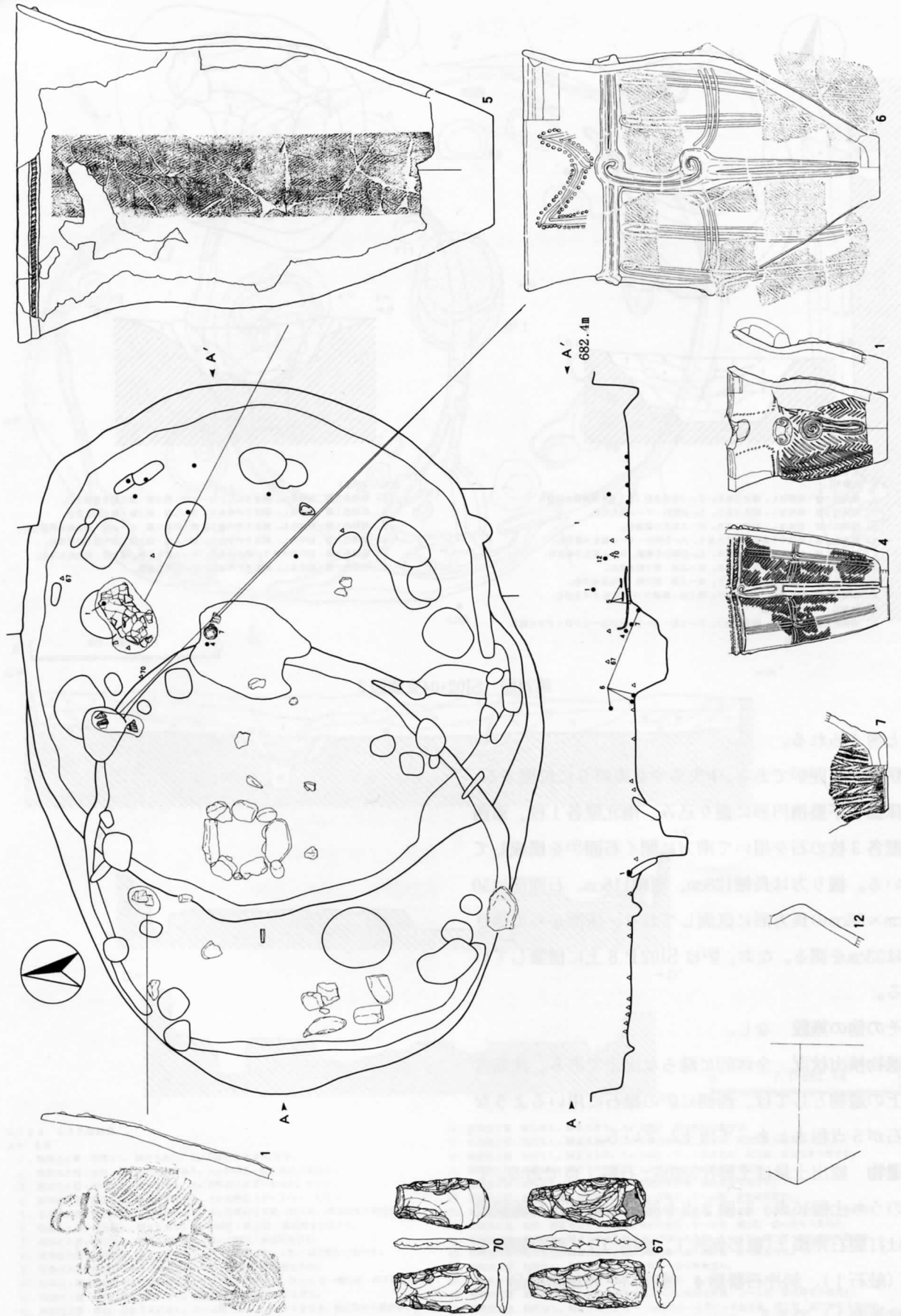
と考えられる。

炉跡 石囲炉である。中央やや北東寄りに位置する。床面を不整楕円形に掘り込み、南北壁各1枚、東西壁各3枚の石を用いて南方に開く石囲炉を構成している。掘り方は長軸128cm、短軸116cm、石囲部は50cm×38cmの長方形に区画しており、床面からの深さは33cmを測る。なお、炉はSI02P 8上に構築している。

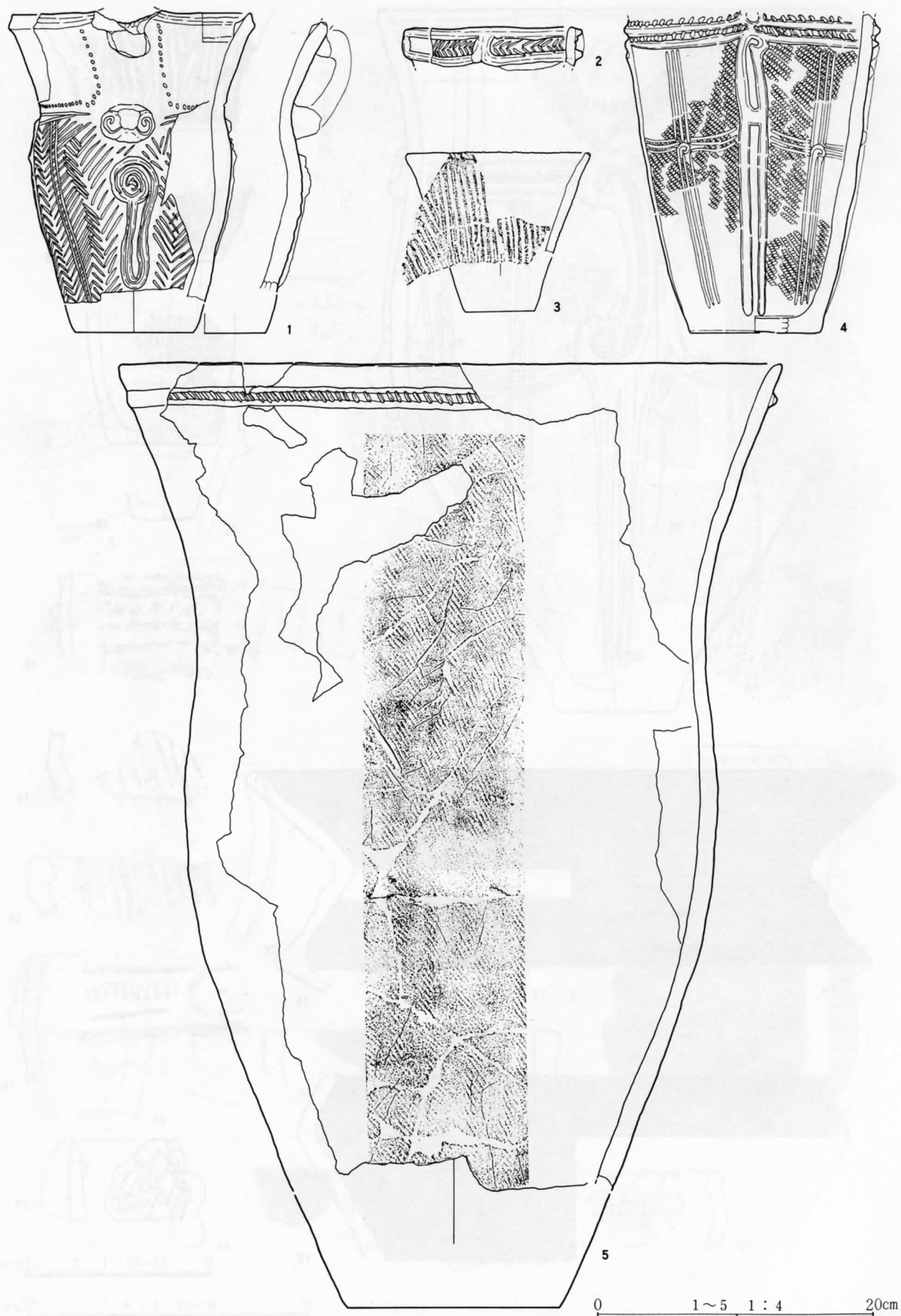
その他の施設 なし。

遺物検出状況 全体的に疎らな出土である。床面直上の遺物としては、西側に炉の縁石に用いるような石が5点程まとまって出土している。

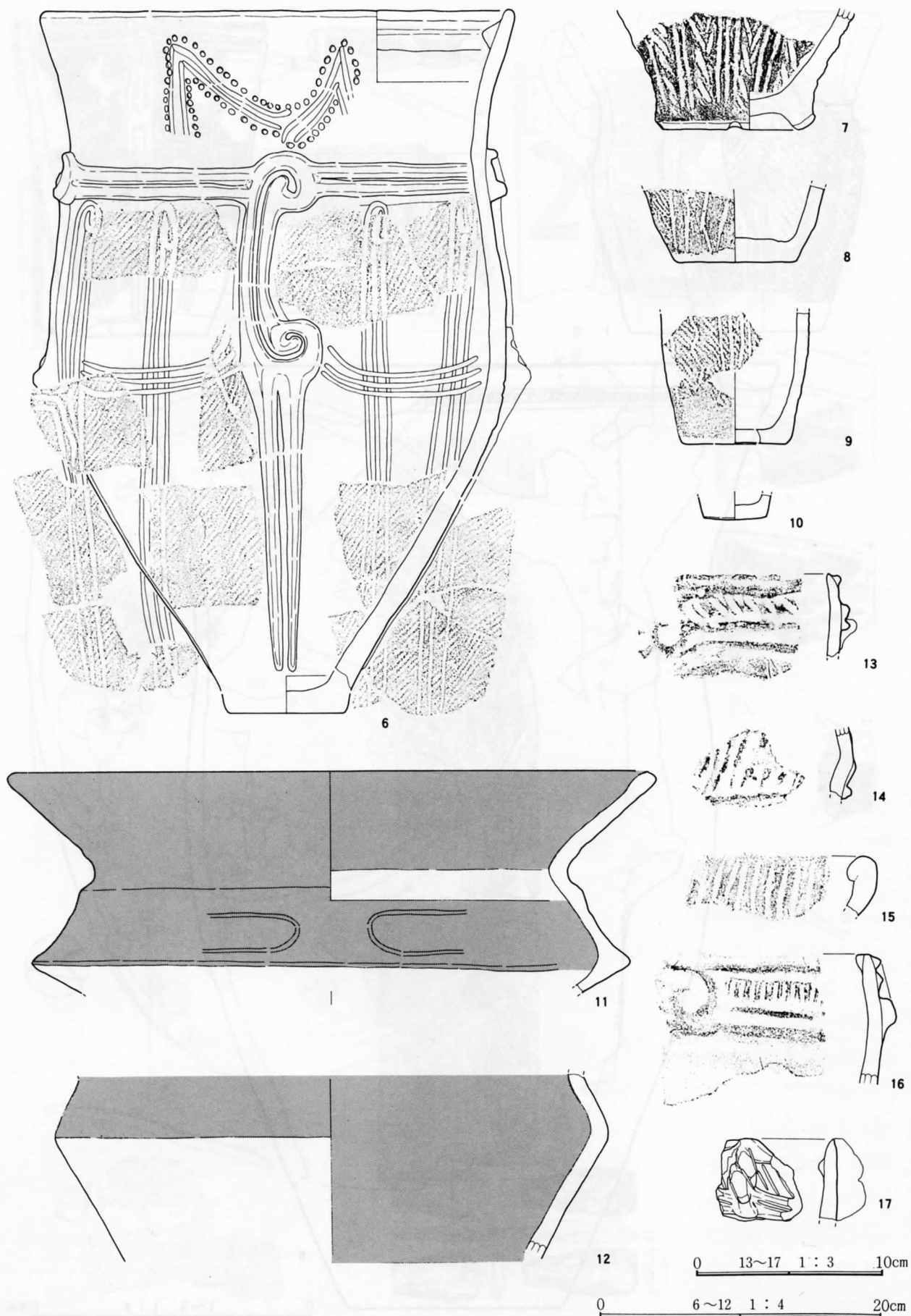
遺物 総出土量は土器片280点、石器7点である。そのうち土器15点、石器2点を図示し得た。石器組成は打製石斧類2（整形剥片1、剥片1）、礫石器類1（敲石1）、剥片石器類4（剥片1・石鏃未製品1・揉錐器1）である。



第25図 SI02-04遺物出土状況図



第26図 SI02出土遺物実測図1



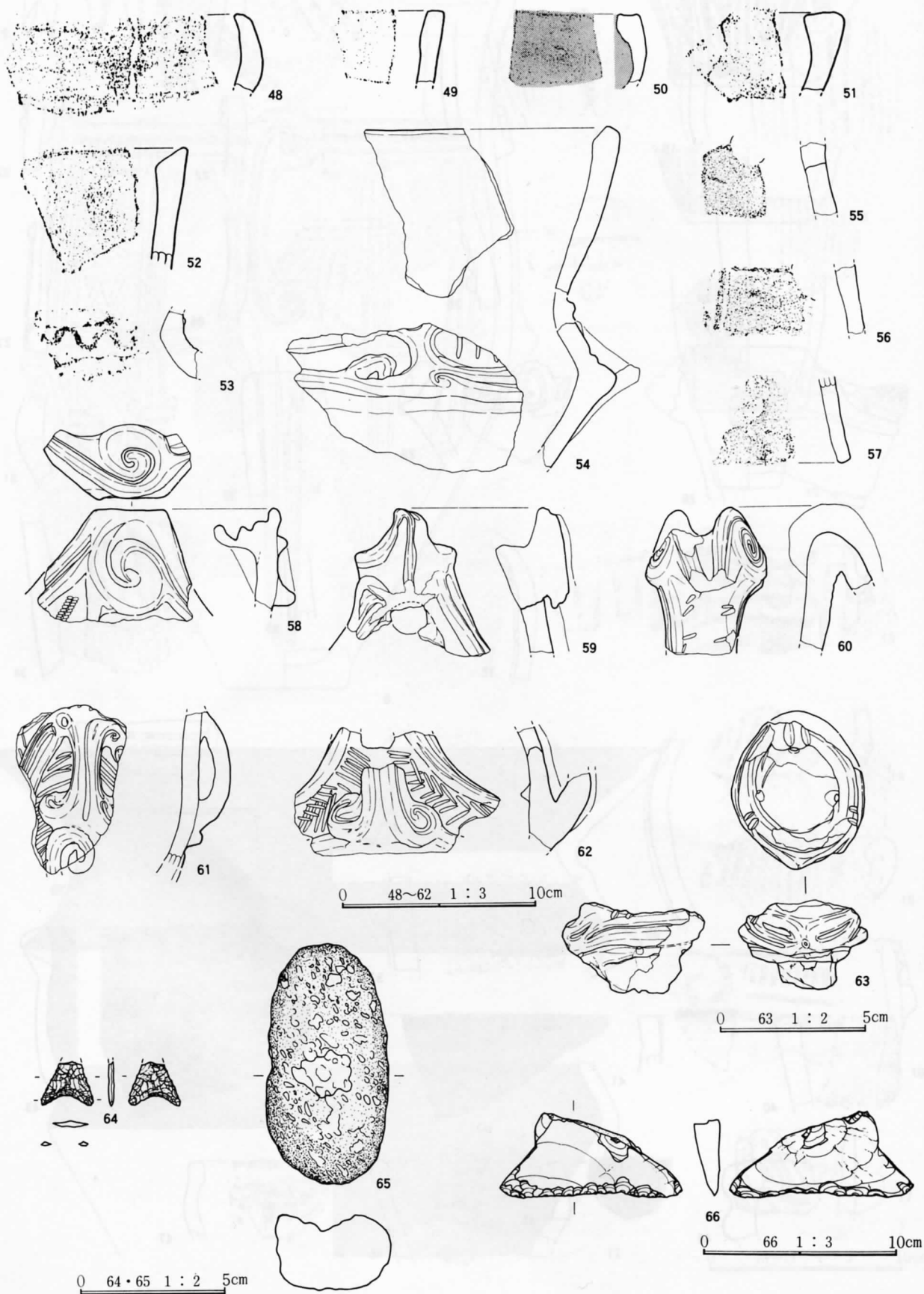
第27図 SI02出土遺物実測図2

2. 縄文時代中期後半の遺構と遺物

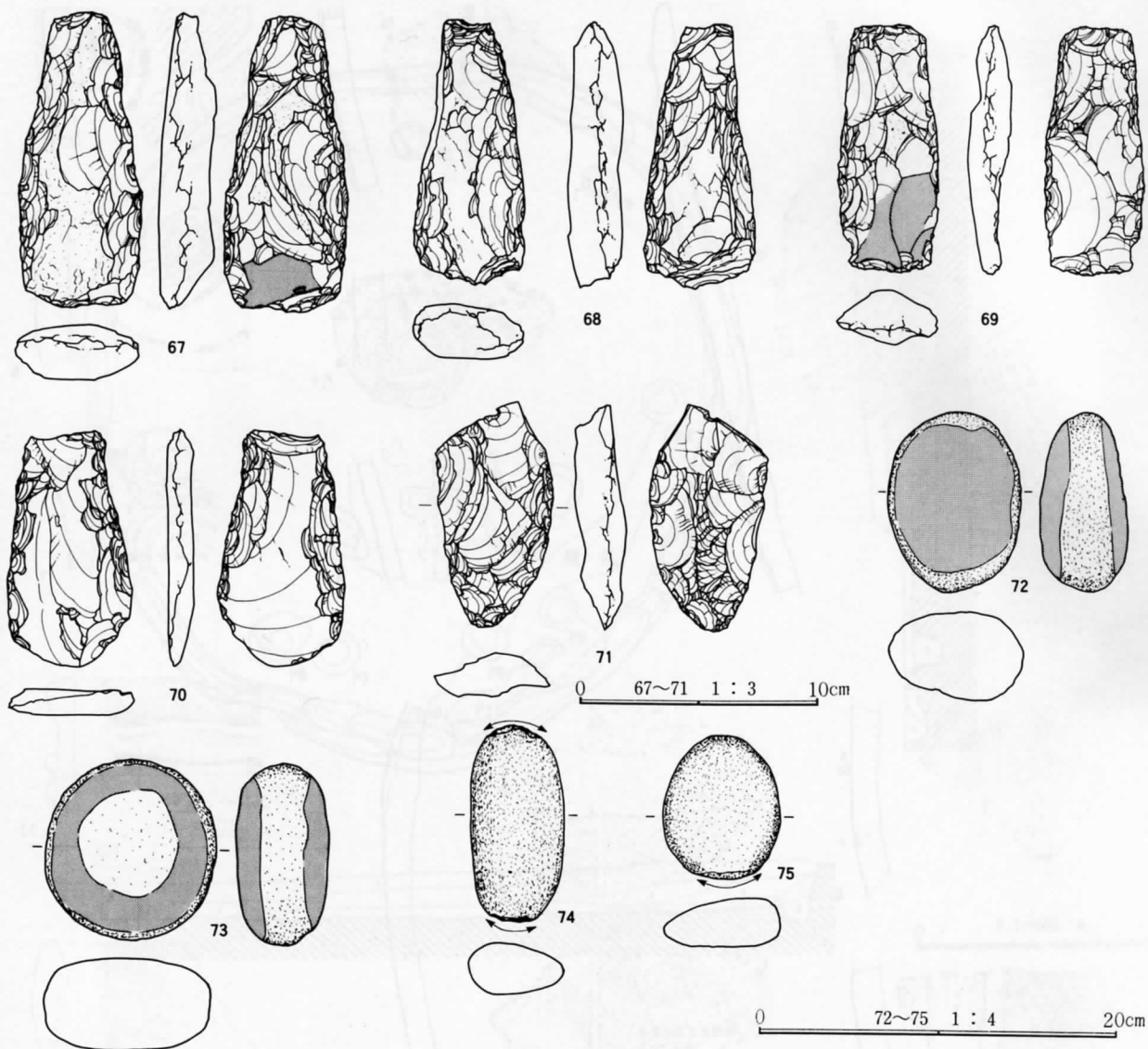


0 18~47 1:3 10cm

第28図 SI02出土遺物実測図3



第29図 SI02出土遺物実測図4



第30図 SI02出土遺物実測図5

SI03 (第32~39図/PL.5・19)

位置 2区南側、M・N-9・10グリッド。

重複関係 なし。

遺存状態 南西側床面の一部を植栽根により失っているが全体として良好。

覆土 暗褐色土を基調とし、自然堆積を示している。

平面形態と規模 平面形は楕円形を呈し、長軸5.82m、短軸5.40m、床面積20.7㎡の規模を有する。

主軸方位 N-22°-E

床面 直床式ではほぼ平坦である。全体的に堅く締まっている。部分的に壁溝上に貼床を施している。

壁・壁溝 壁高は北壁で52cm、南壁で10cm、東西壁で30cmを測り、ほぼ垂直に立ち上がっている。壁溝

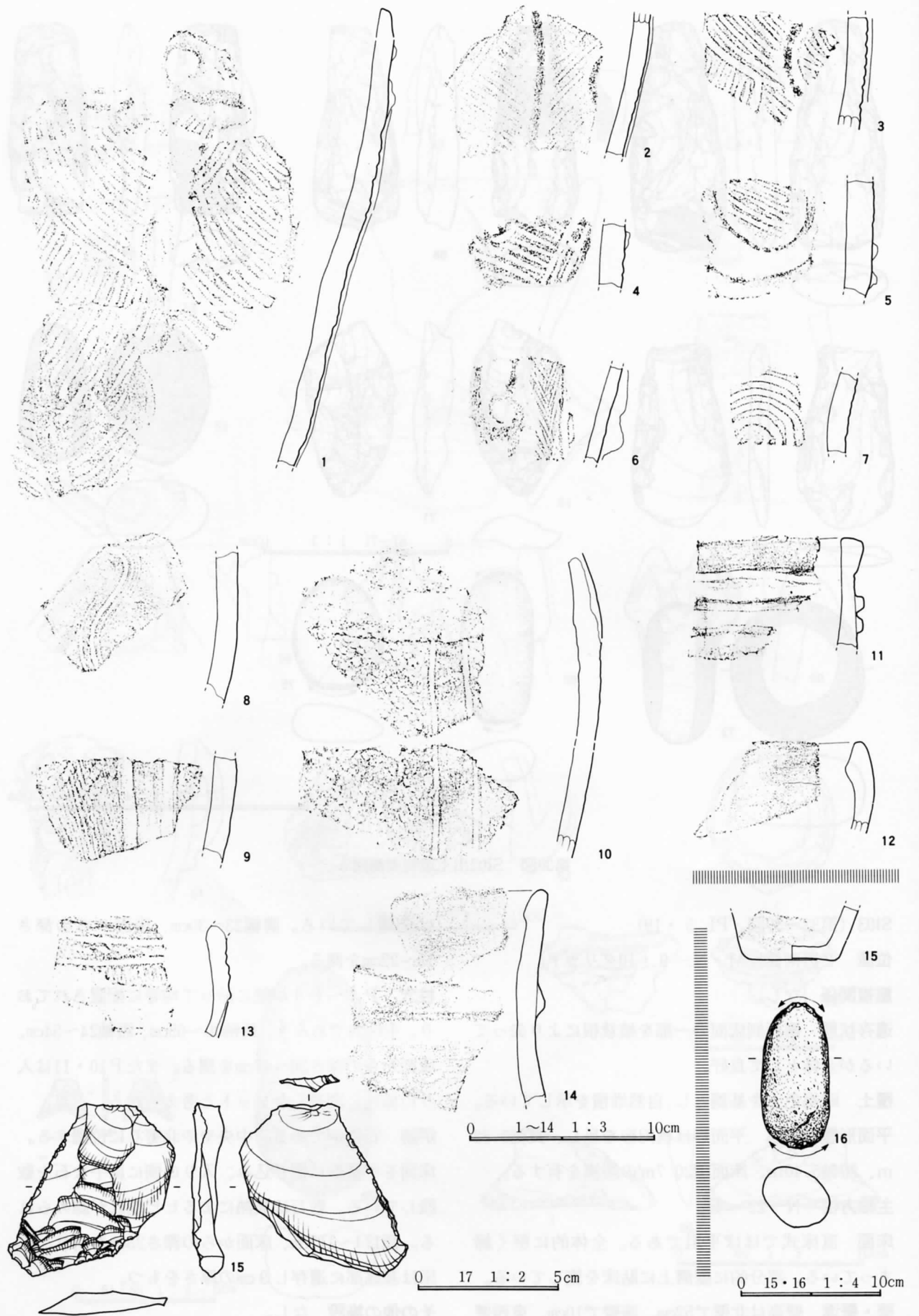
は全周している。溝幅23~30cm、床面からの深さ13~22cmを測る。

柱穴 P1~P9が壁に沿って均等に配置されており、支柱穴であろう。長軸30~65cm、短軸24~54cm、床面からの深さ30~47cmを測る。またP10・11は入り口施設に関連したピットと考えられる。

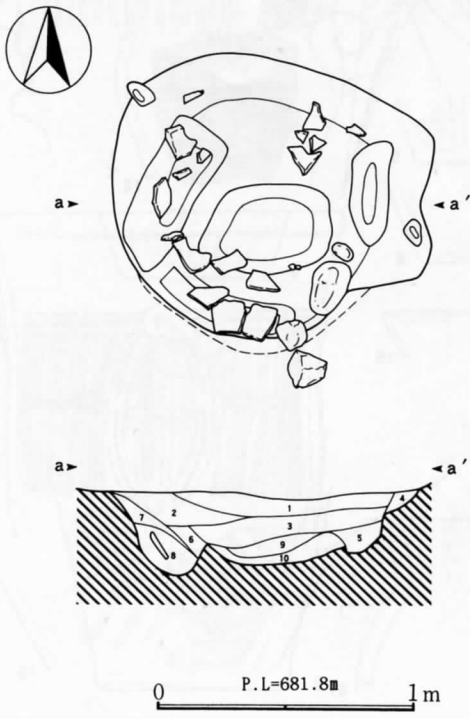
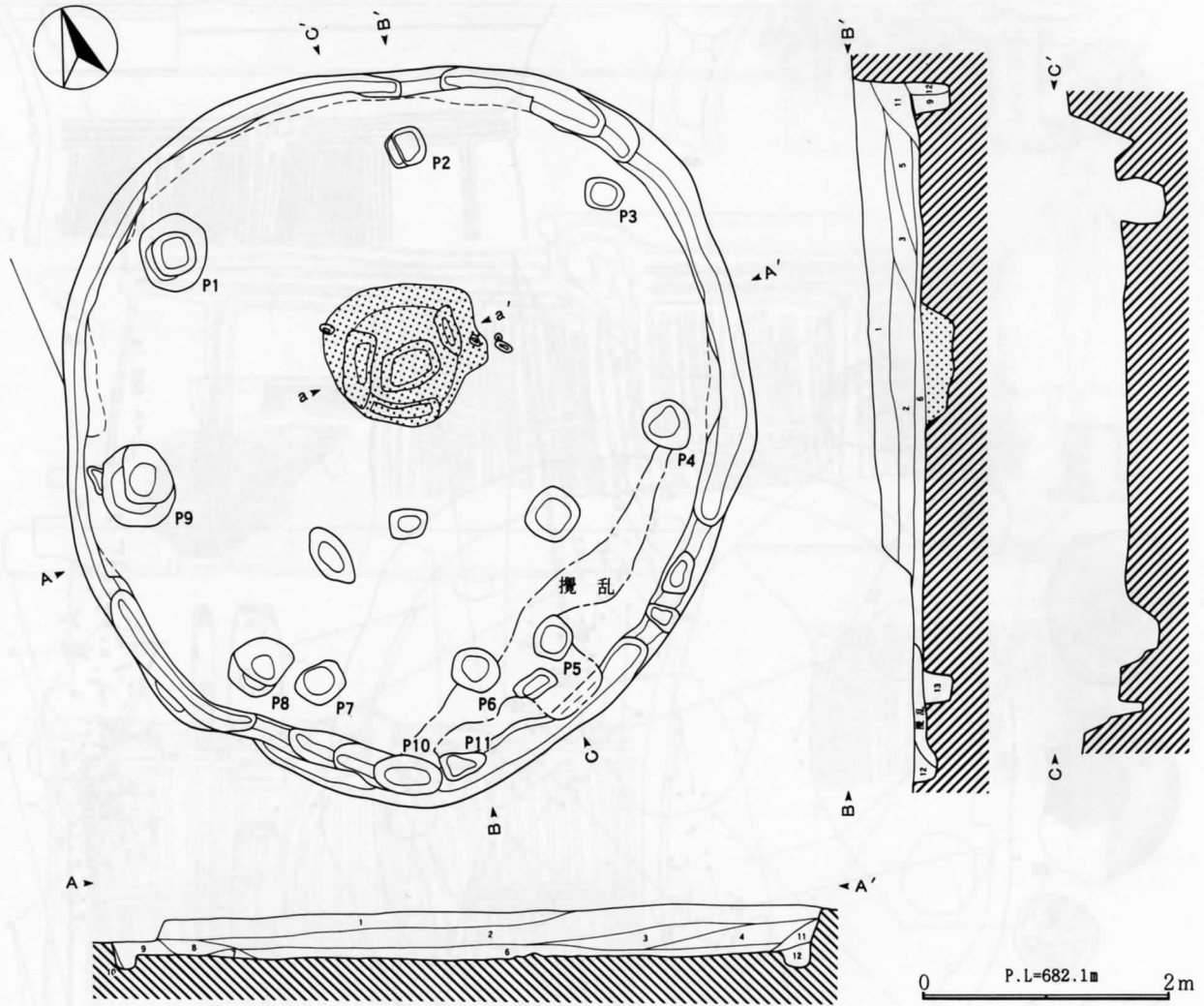
炉跡 石敷炉である。中央やや北寄りに位置する。床面を不整形に掘り込み、入り口側に扁平な石を敷設している。敷石は被熱によるヒビ割れが認められる。径114~117cm、床面からの深さ23cmを測り、火床は基底部に遺存し9cmの厚さをもつ。

その他の施設 なし。

遺物検出状況 中央と北東側に集中して検出されて



第31図 SI04出土遺物実測図

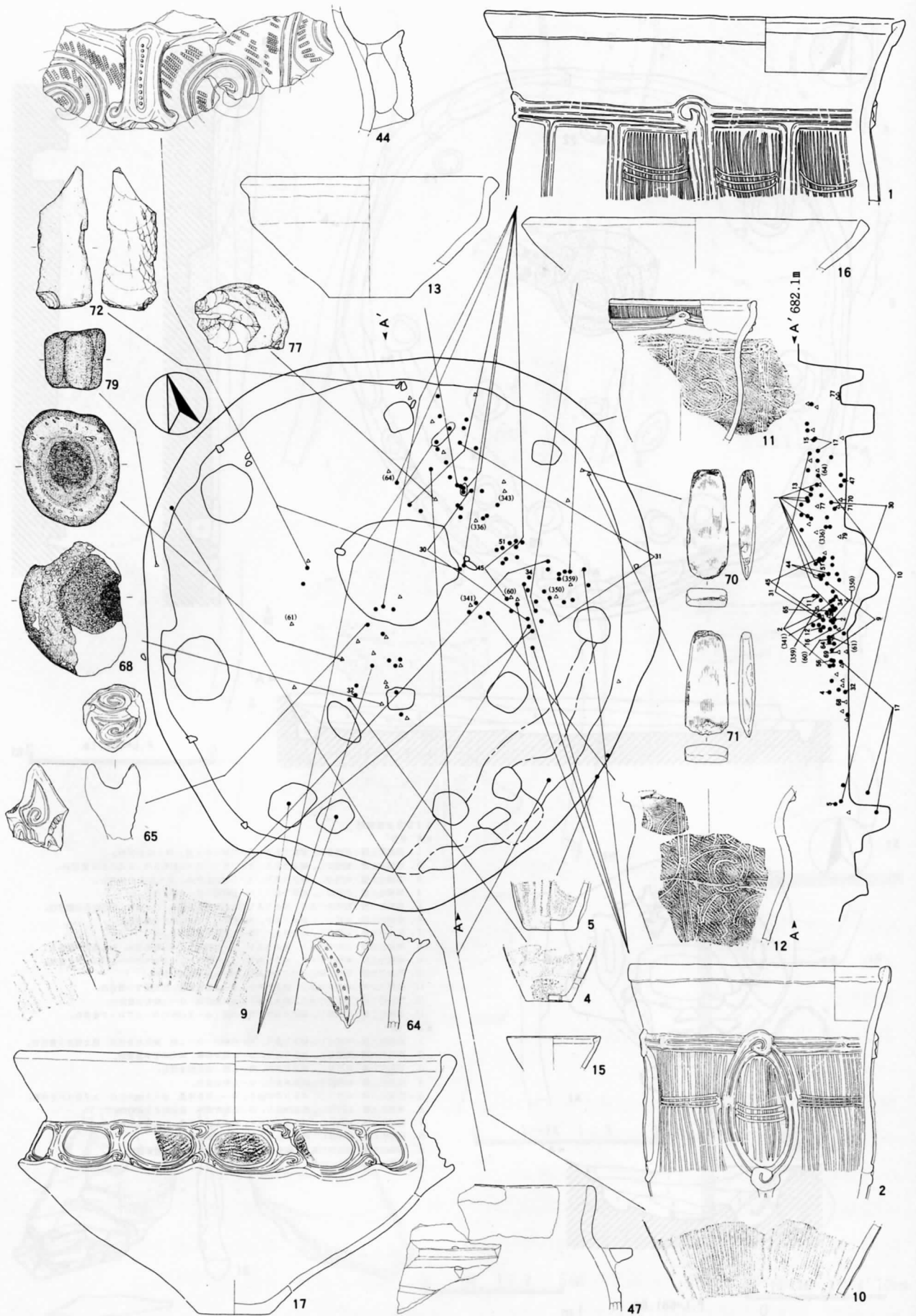


SI03土層説明

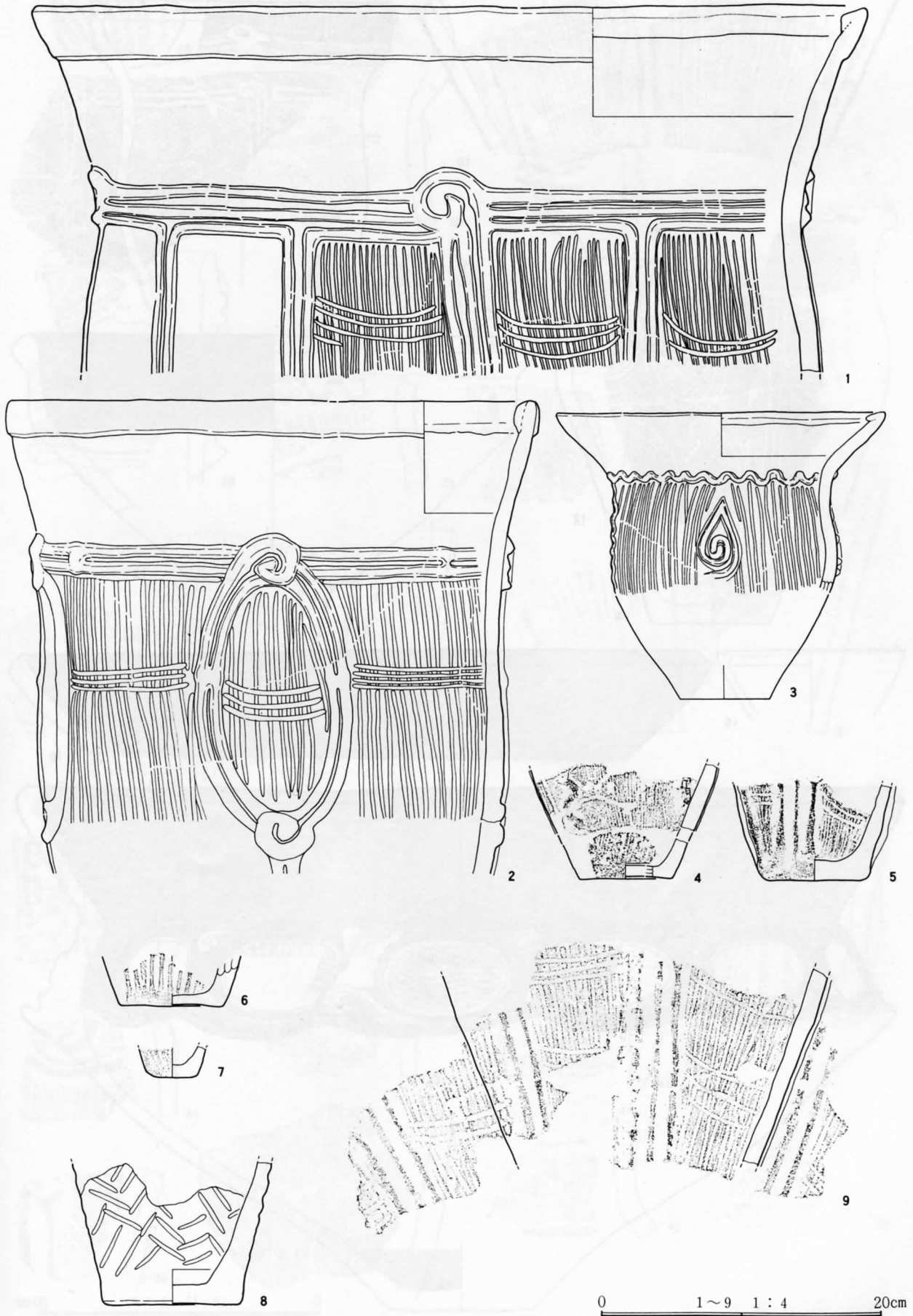
A A' B B'

1. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。As-D軽石を多量、焼土粒を含む。
 2. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。As-D軽石・ローム粒を含み、炭化粒を少量含む。
 3. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。As-D軽石を含み、炭化粒を少量含む。
 4. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。As-D軽石・ローム粒を含む。
 5. 暗褐色土層：粘性ややあり。締まりあり。As-D軽石を含み、ローム粒・炭化粒を少量含む。
 6. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。As-D軽石・ローム粒を少量含む。
 7. 明褐色土層：粘性なし。締まりあり。ローム粒を多量に含む。
 8. 暗褐色土層：粘性ややあり。締まりあり。As-D軽石・ローム粒を含み、炭化粒を少量含む。
 9. 暗褐色土層：粘性ややあり。締まりあり。As-D軽石・φ~5cm大のロームブロックを含む。
 10. 明褐色土層：粘性、締まり共にややあり。ローム粒を多量に含む。
 11. 暗褐色土層：粘性ややあり。締まりあり。ローム粒を多量、炭化粒を少量含む。
 12. 暗褐色土層：粘性ややあり。締まりあり。As-D軽石・ローム粒を少量含む。
 13. 明褐色土層：粘性なし。締まりあり。ローム粒・φ~2cm大のロームブロックを含む。
- a a' (炉)
1. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。As-D軽石・ローム粒・炭化粒を含み、焼土粒を少量含む。
 2. 明褐色土層：粘性なし。締まりあり。ローム粒を多量、炭化粒を少量含む。
 3. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。ローム粒・炭化粒を含む。
 4. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。ローム粒を含む。
 5. 明褐色土層：粘性なし。締まりややあり。ローム粒を多量、φ~1cm大のロームブロックを含む。
 6. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。ローム粒を含み、炭化粒を少量含む。
 7. 明褐色土層：粘性なし。締まりややあり。ローム粒を多量、炭化粒を少量含む。
 8. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。ローム粒を多量に含む。
 9. 明褐色土層：粘性ややあり。締まりあり。焼土粒を多量、炭化粒を含む。
 10. 被熱ロームブロック層

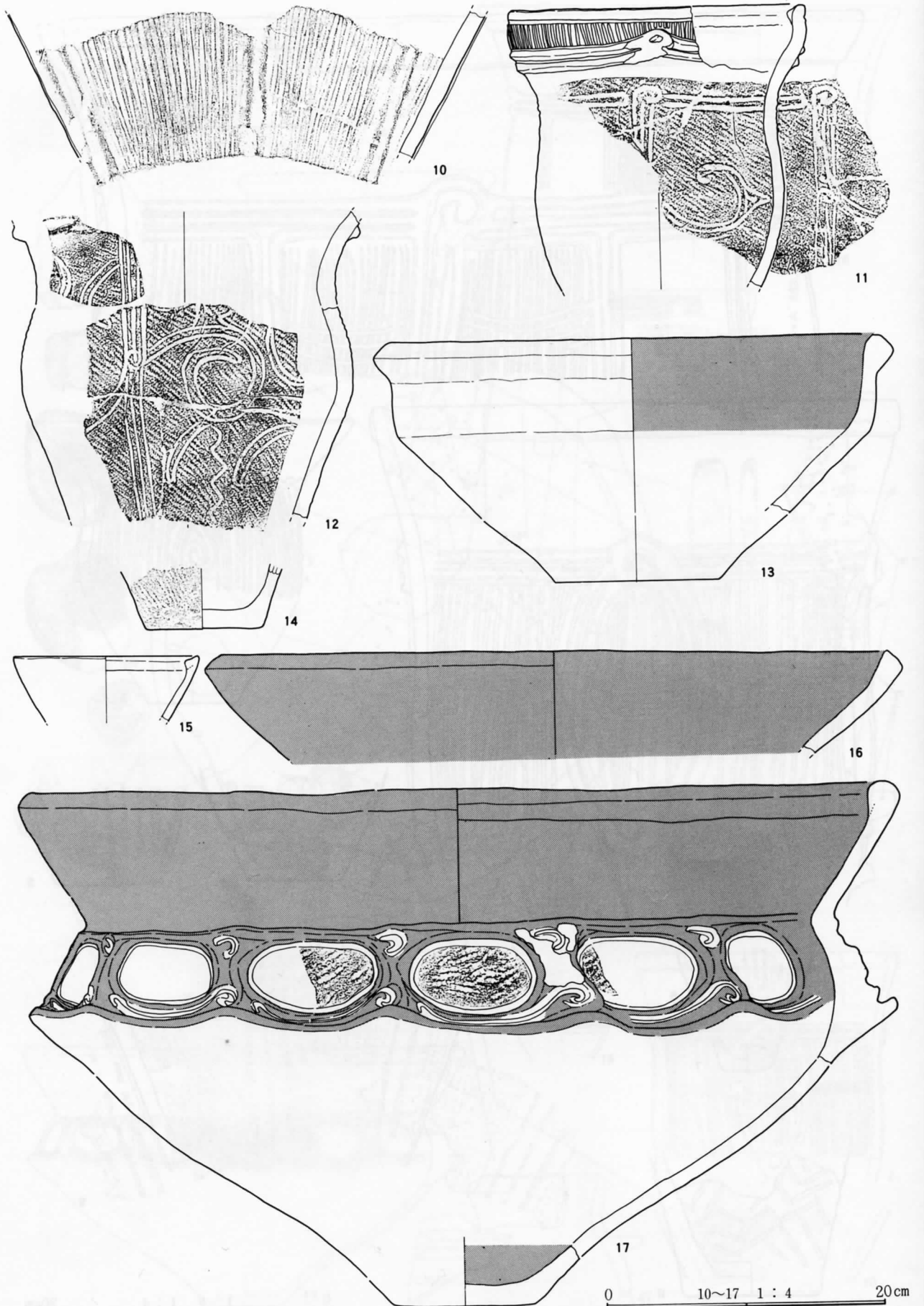
第32図 SI03実測図



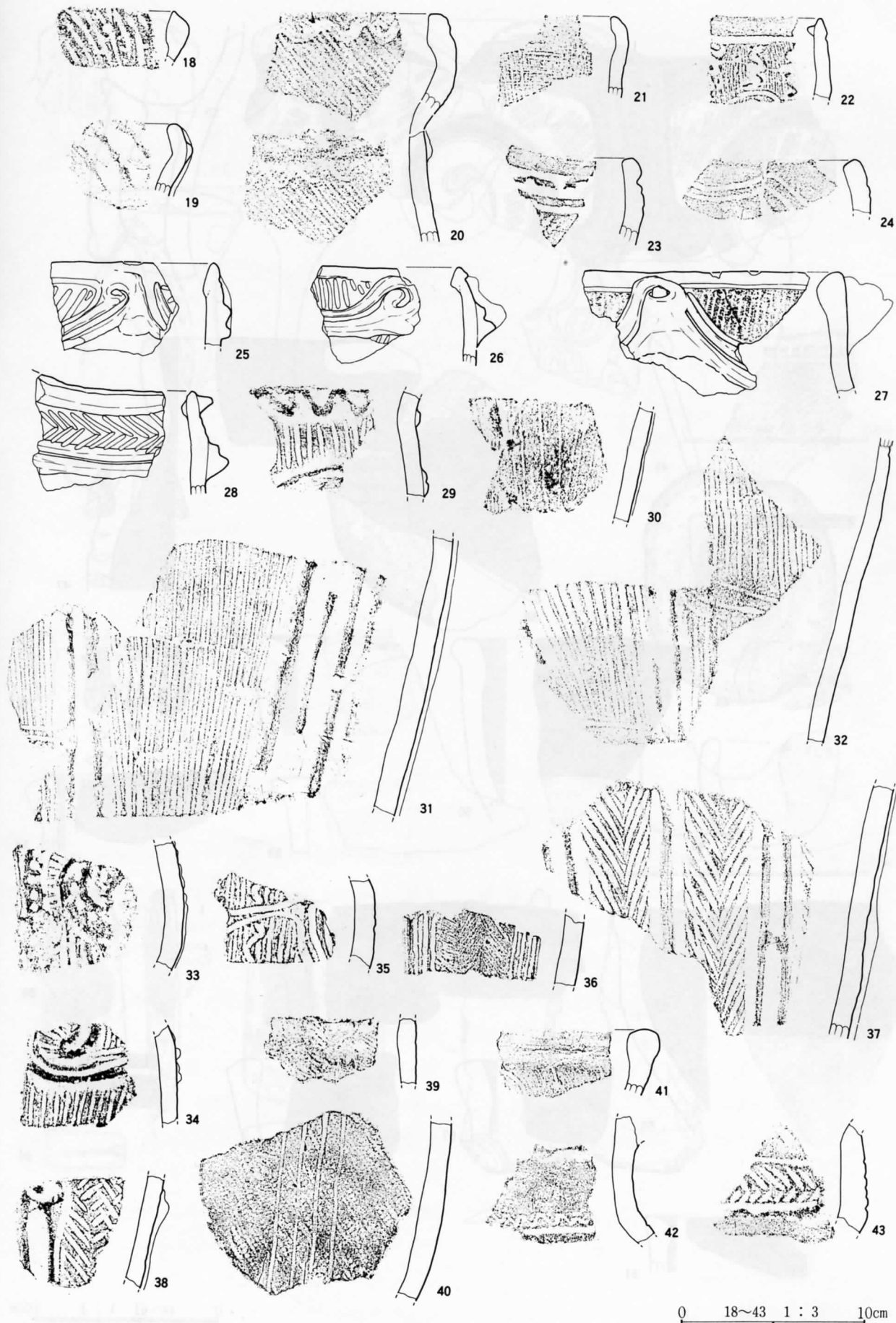
第33図 SI03遺物出土状況図



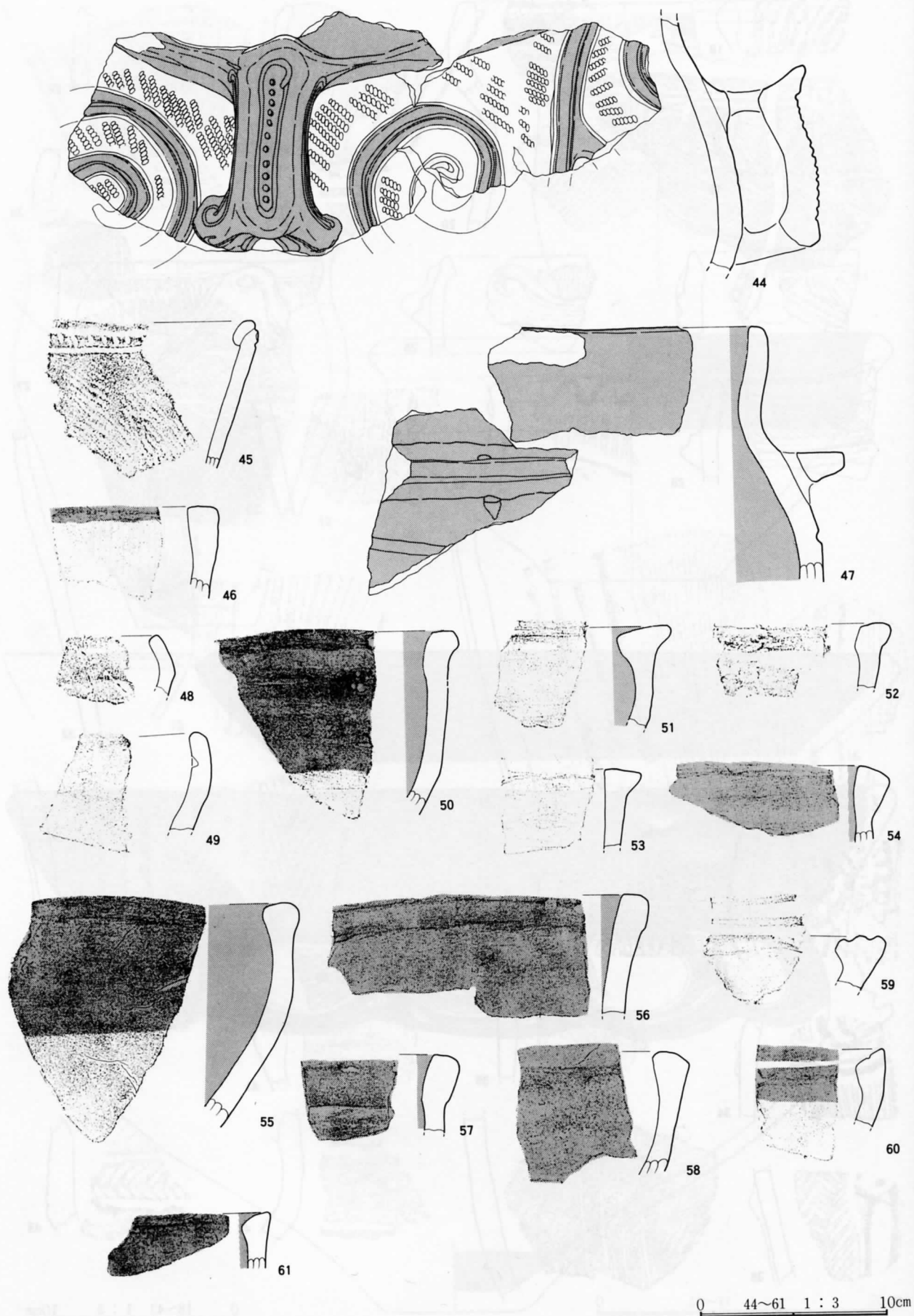
第34図 SI03出土遺物実測図1



第35図 SI03出土遺物実測図2

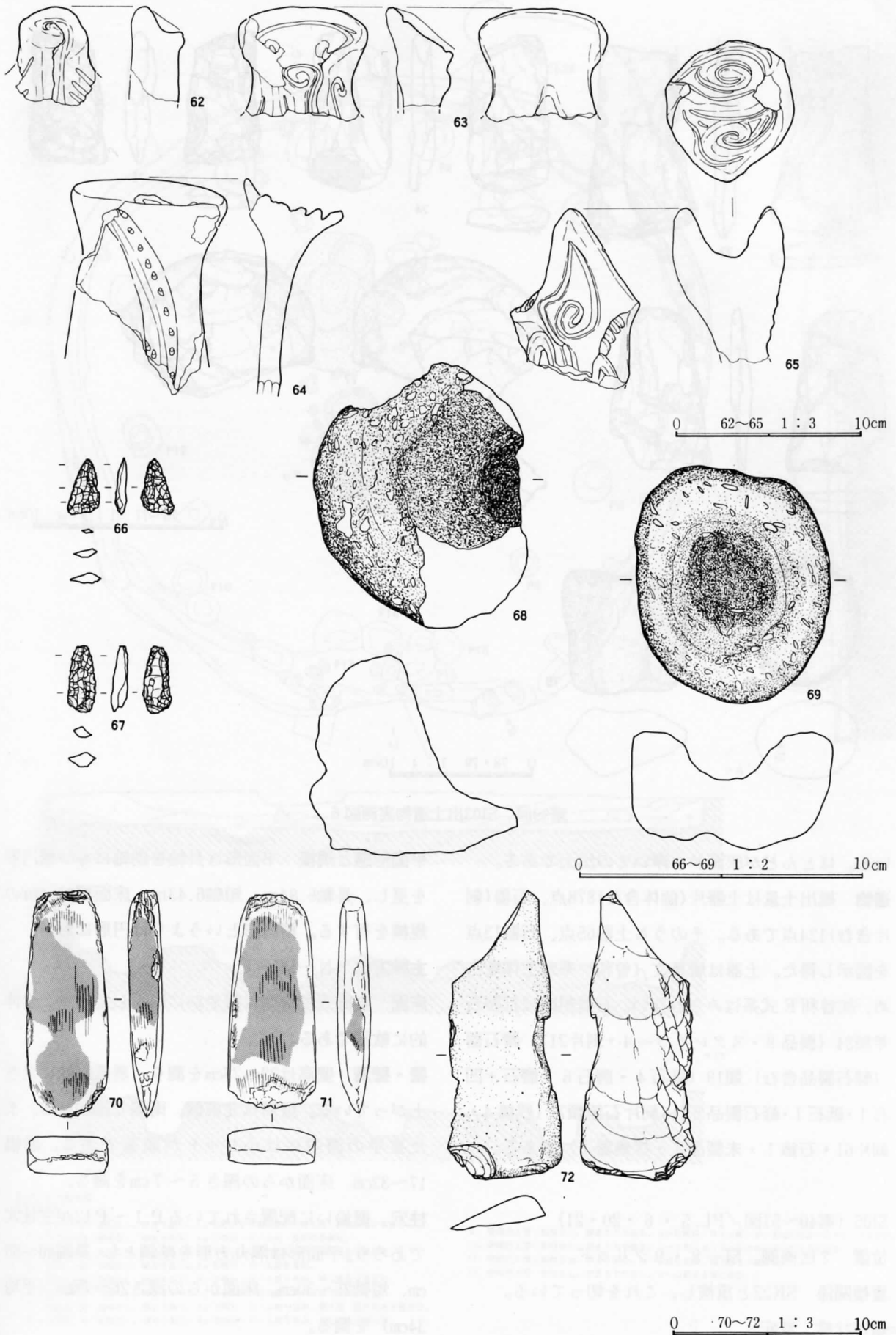


第36図 SI03出土遺物実測図 3

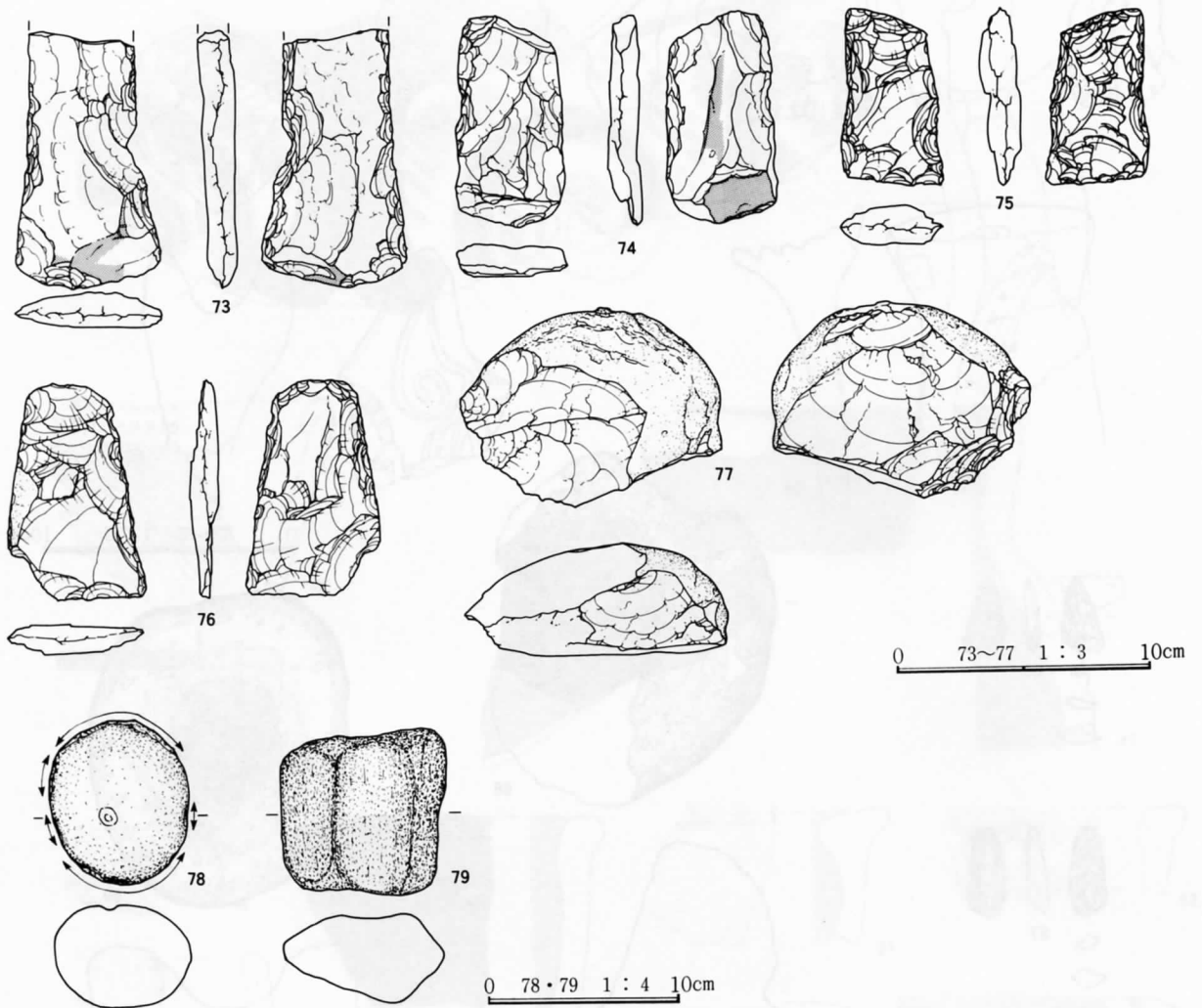


第37図 SI03出土遺物実測図4

2. 縄文時代中期後半の遺構と遺物



第38図 SI03出土遺物実測図5



第39図 SI03出土遺物実測図6

いる。ほとんどが床面から浮いての出土である。

遺物 総出土量は土器片(個体含む)878点、石器(剥片含む)124点である。そのうち土器65点、石器13点を図示し得た。土器は唐草文(曾利)系が主体を占め、加曾利E式系はみられない。石器組成は打製石斧類34(製品8・スクレイパー4・剥片21)、礫石器(軽石製品含む)類19(敲石4・磨石6・磨石+凹石1・砥石1・軽石製品5)、剥片石器類71(残核4・剥片61・石鏃1・未製品4・揉錐器1)である。

SI05(第40~51図/PL.5・6・20・21)

位置 2区南側、M-8・9グリッド。

重複関係 SK22と重複し、これを切っている。

遺存状態 良好。

覆土 暗褐色土を基調とし、自然堆積を示している。

平面形態と規模 平面形は長軸を副軸にもつ楕円形を呈し、長軸6.84m、短軸6.43m、床面積31.4m²の規模を有する。楕円形というよりは円形に近い。

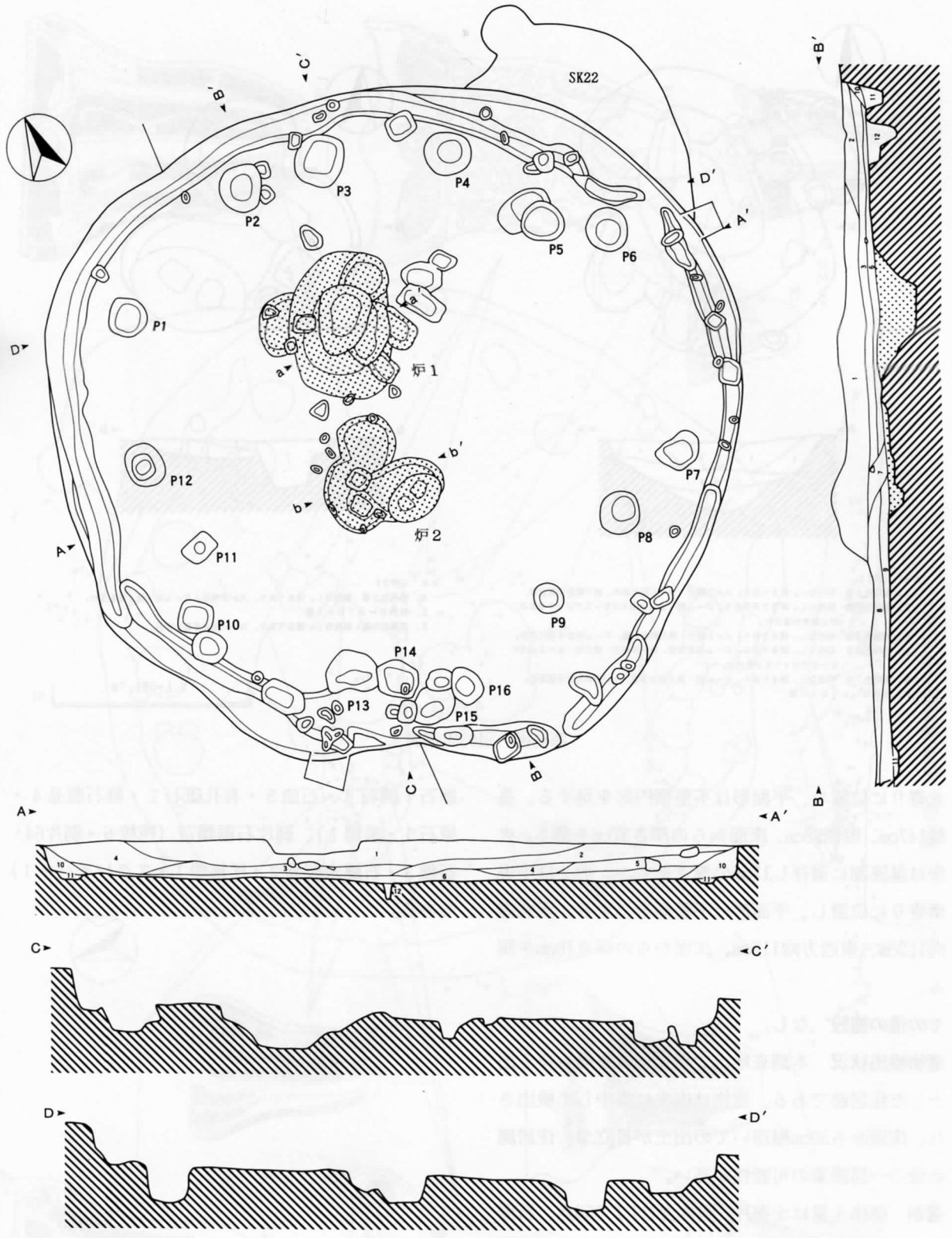
主軸方位 N-16°-E

床面 直床式で南側に緩やかに傾斜している。全体的に軟弱である。

壁・壁溝 壁高は22~28cmを測り、垂直気味に立ち上がっている。壁溝は北東側、南側で途切れる。また東半の溝内には小ピットが顕著である。溝幅17~32cm、床面からの深さ5~7cmを測る。

柱穴 壁沿いに配置されているP1~P12が支柱穴であろう。平面形は隅丸方形を基調とし、長軸40~50cm、短軸25~30cm、床面からの深さ26~72cm(平均34cm)を測る。

炉跡 2基の地床炉が検出されている。炉1は中央

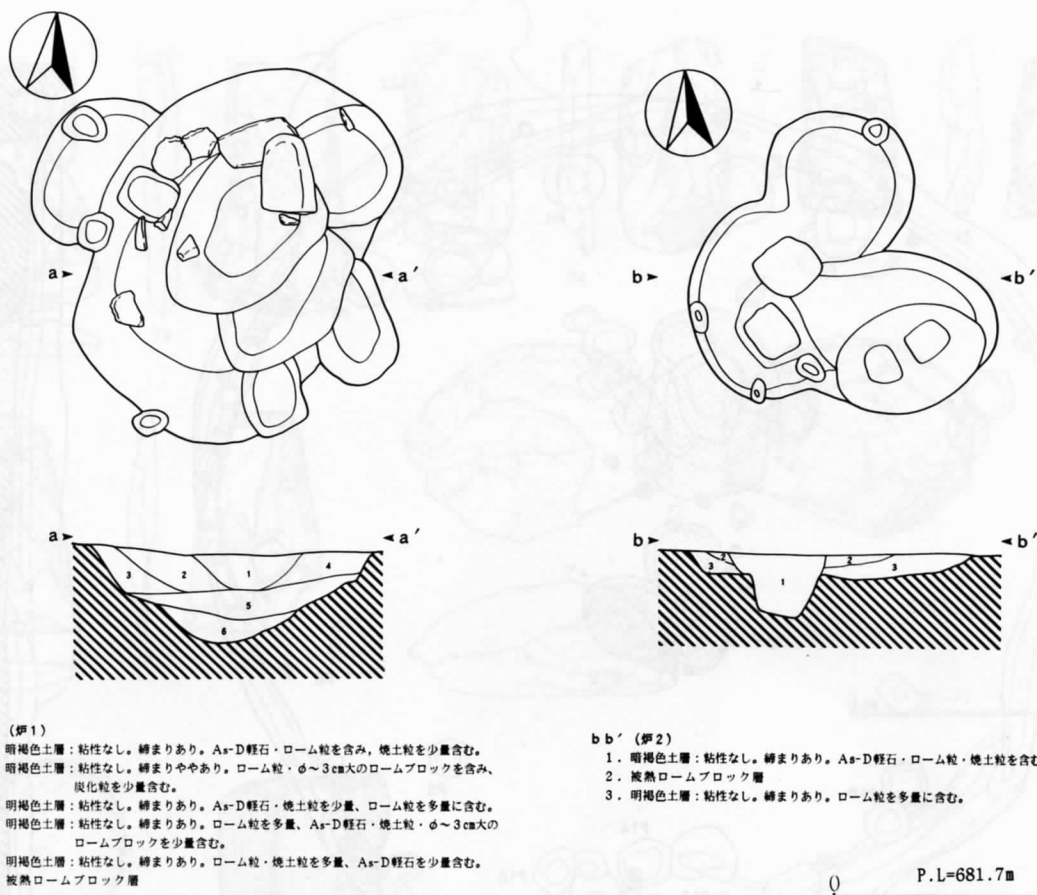


SI05土層説明
AA' BB'

1. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。As-D軽石を多量に含み、焼土粒・炭化粒を少量含む。
2. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。As-D軽石・ローム粒・炭化粒を含む。
3. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。As-D軽石・ローム粒を含み、炭化粒を少量含む。
4. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。As-D軽石・ローム粒を含む。
5. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。As-D軽石・ローム粒を少量含む。
6. 明褐色土層：粘性なし。締まりややなし。As-D軽石を少量、ローム粒を含む。
7. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。As-D軽石・ローム粒を含み、焼土粒・炭化粒を少量含む。
8. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。As-D軽石・ローム粒を含み、炭化粒を少量含む。
9. 暗褐色土層：粘性なし。締まりややあり。As-D軽石・ローム粒・φ~3cm大のロームブロックを含む。
10. 明褐色土層：粘性なし。締まりややあり。ローム粒・φ~3cm大のロームブロックを含む。
11. 明褐色土層：粘性なし。締まりあり。ローム粒を含み、焼土粒を少量含む。
12. 明褐色土層：粘性なし。締まりややなし。ローム粒を多量に含む。

0 P.L=682.3m 2m

第40図 SI05実測図1



- a a' (炉1)
1. 明褐色土層：粘性なし。締まりあり。As-D軽石・ローム粒を含み、焼土粒を少量含む。
 2. 暗褐色土層：粘性なし。締まりややあり。ローム粒・φ~3cm大のロームブロックを含み、炭化粒を少量含む。
 3. 明褐色土層：粘性なし。締まりあり。As-D軽石・焼土粒を少量、ローム粒を多量に含む。
 4. 明褐色土層：粘性なし。締まりあり。ローム粒を多量、As-D軽石・焼土粒・φ~3cm大のロームブロックを少量含む。
 5. 明褐色土層：粘性なし。締まりあり。ローム粒・焼土粒を多量、As-D軽石を少量含む。
 6. 焼熟ロームブロック層

- b b' (炉2)
1. 明褐色土層：粘性なし。締まりあり。As-D軽石・ローム粒・焼土粒を含む。
 2. 焼熟ロームブロック層
 3. 明褐色土層：粘性なし。締まりあり。ローム粒を多量に含む。

第41図 SI05実測図2

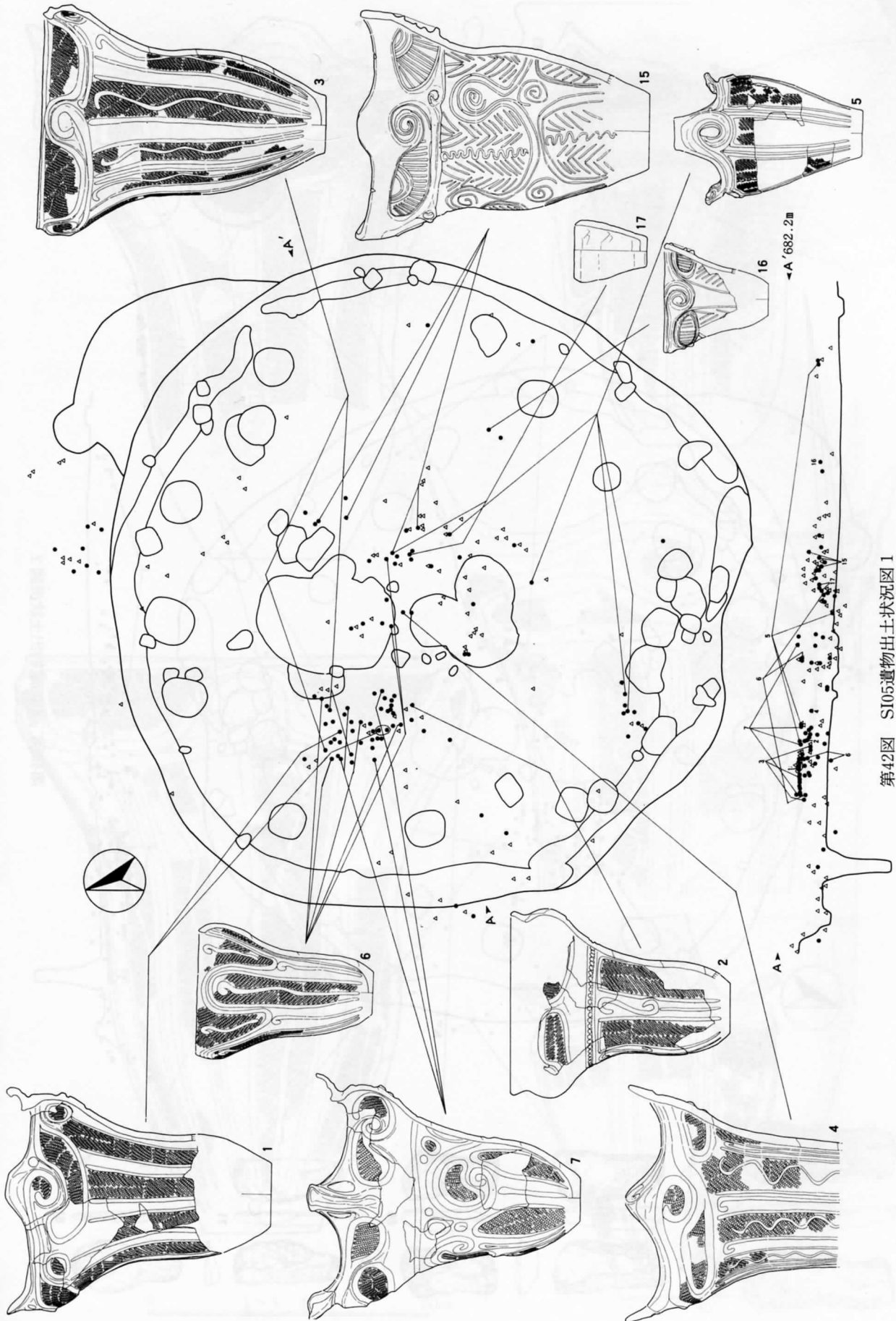
北寄りに位置し、平面形は不整楕円形を呈する。長軸147cm、短軸98cm、床面からの深さ37cmを測る。火床は基底部に遺存し11cmの厚さをもつ。炉2は中央南寄りに位置し、平面形は不整形を呈する。南北方向112cm、東西方向117cm、床面からの深さ10cmを測る。

その他の施設 なし。

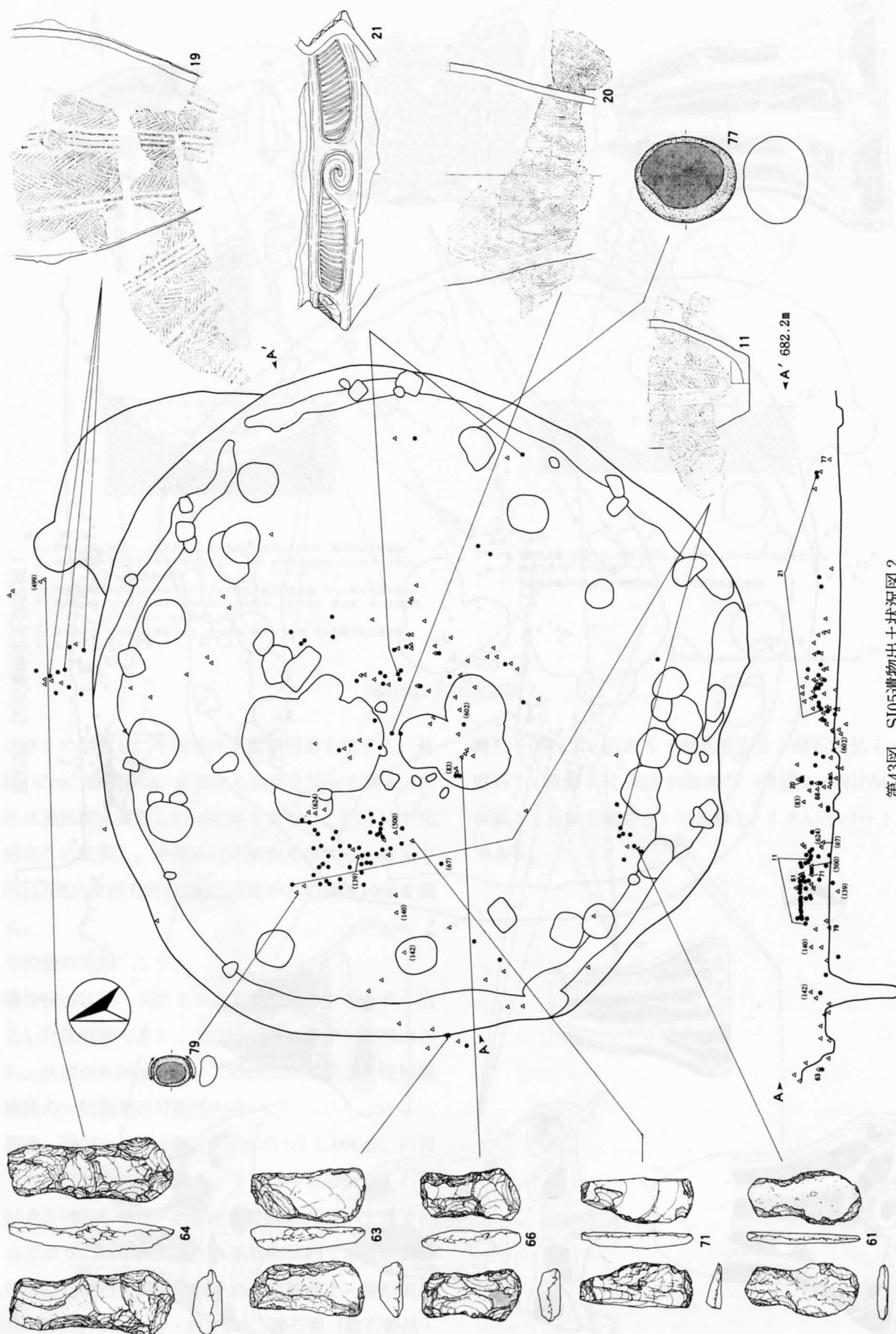
遺物検出状況 本調査地点で復元個体を最も多く出土した住居跡である。遺物は中央に集中して検出され、床面から30cm程浮いての出土が目立つ。住居廃絶後の一括廃棄の可能性が高い。

遺物 総出土量は土器片（個体含む）1,066点、石器（剥片含む）166点である。そのうち土器58点、石器21点を図示し得た。土器は加曾利E式系が主体を占めており、唐草文（曾利）系は客体的である。石器組成は打製石斧類58（製品25・未製品2・整形剥片13・スクレイパー4・剥片14）、礫石器（軽石製品・その他含む）類31（敲石9・磨石5・敲石+凹石1・

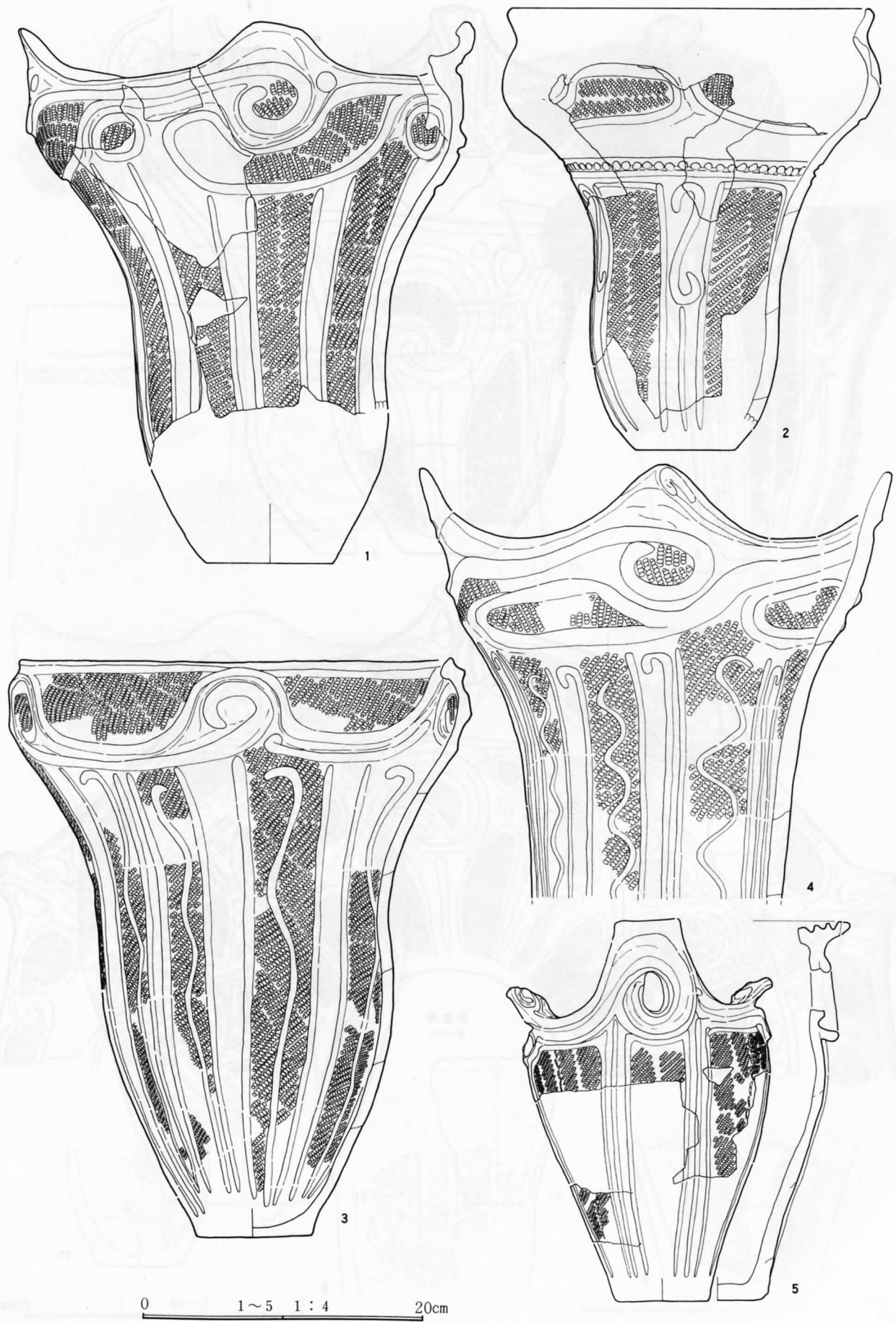
磨石+凹石3・石皿5・有孔砥石2・軽石製品4・原石1・垂飾1）、剥片石器類77（残核6・剥片64・石鏃3・石鏃未製品2・採錐器1・スクレイパー1）である。



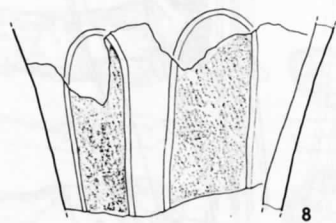
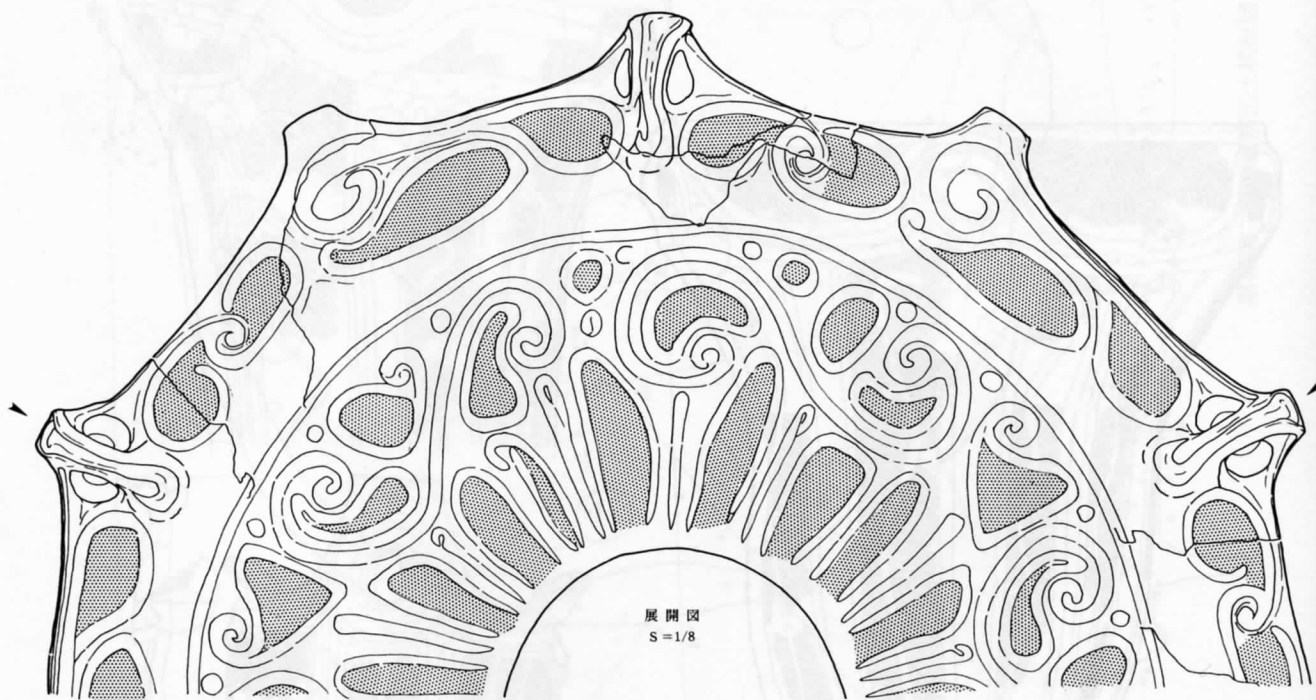
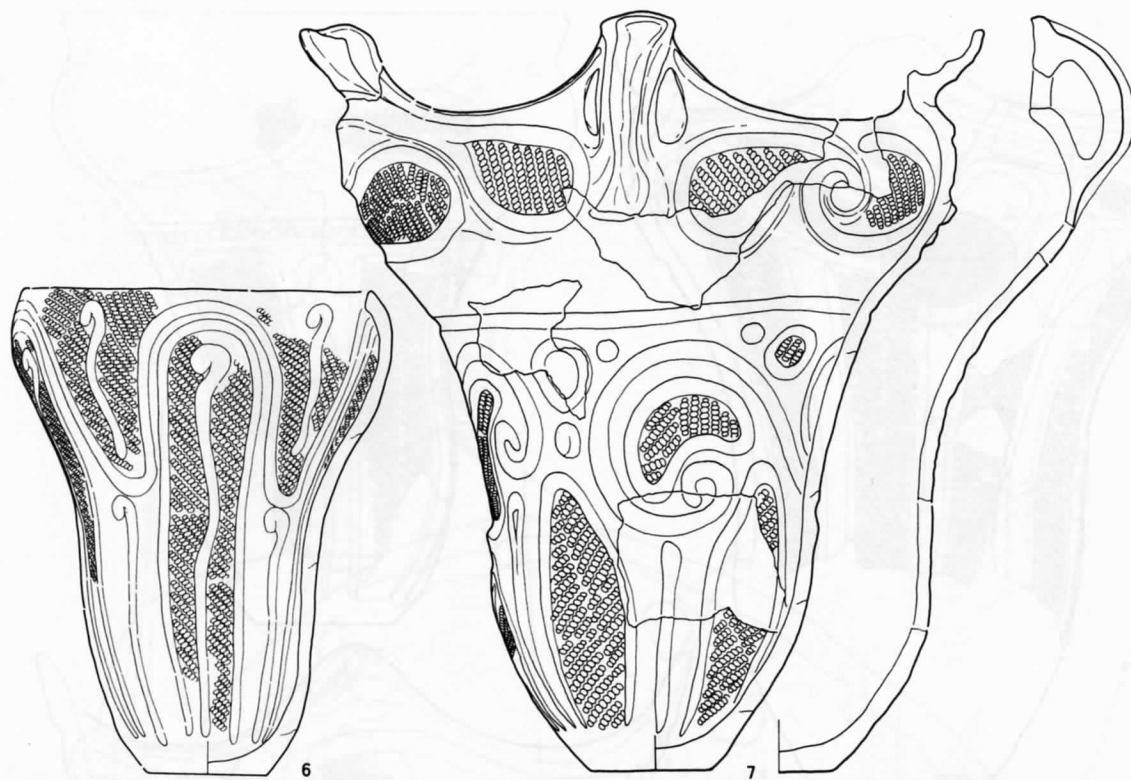
第42図 S105遺物出土状況図1



第43図 SI05遺物出土状況図2

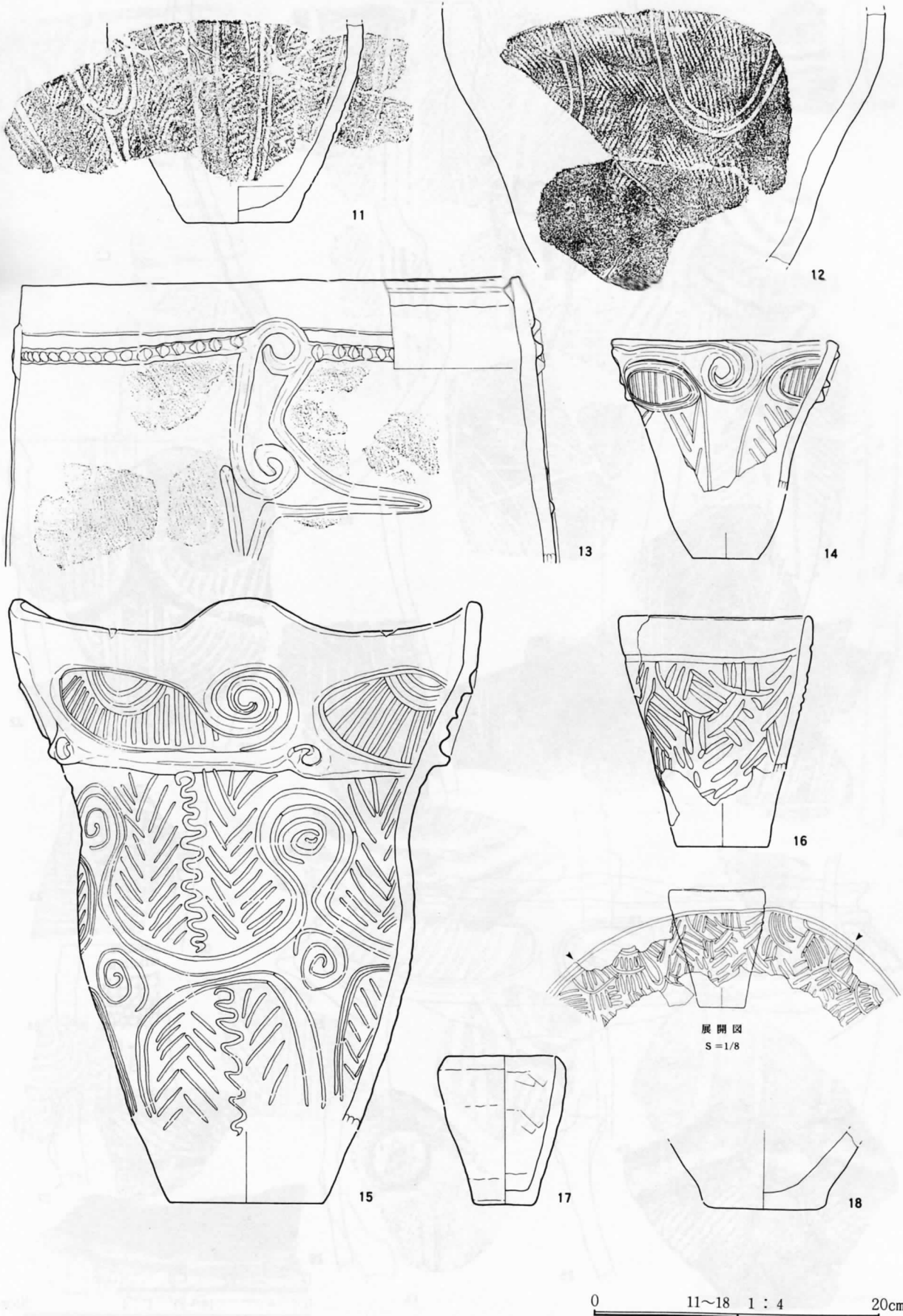


第44図 SI05出土遺物実測図1

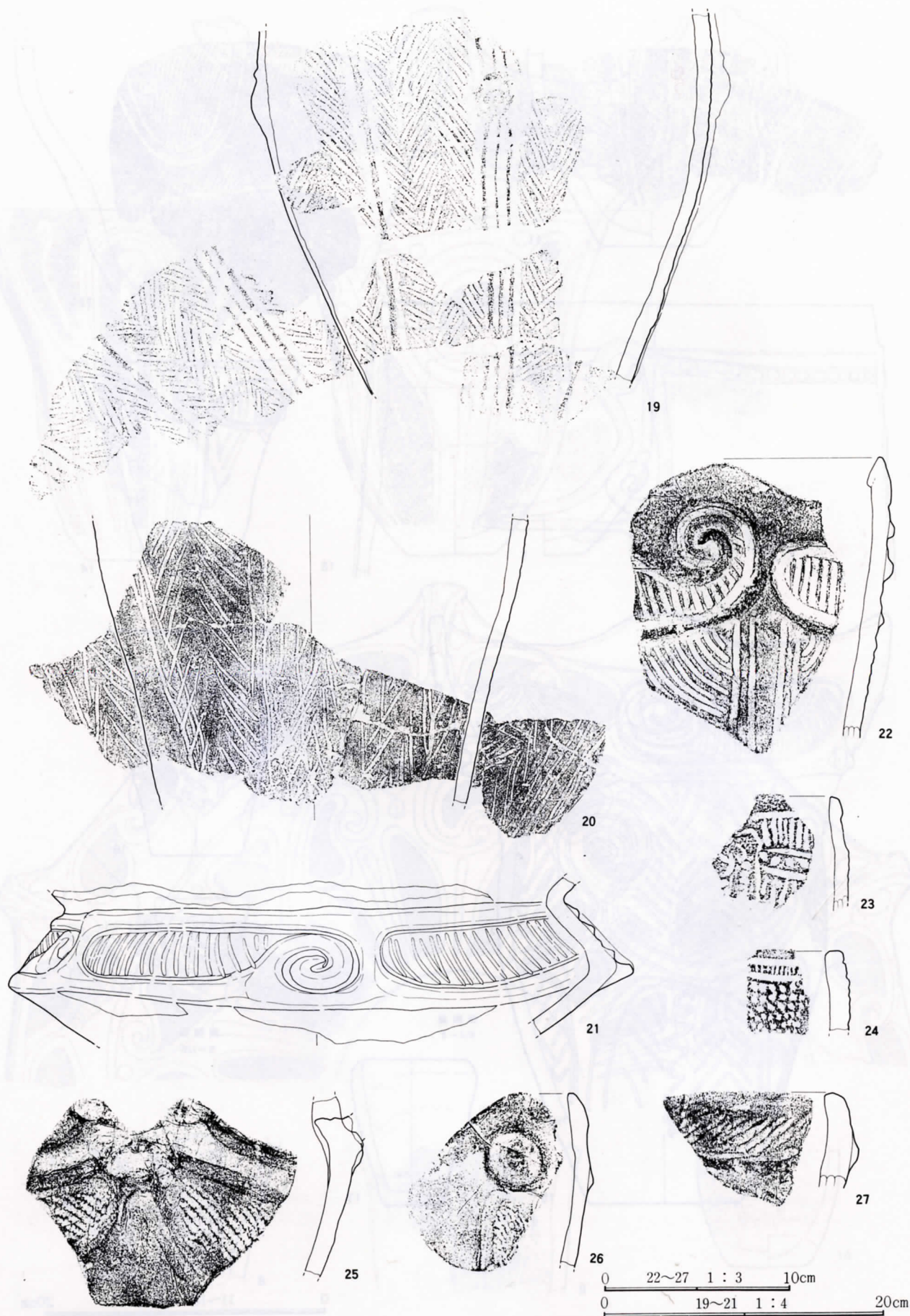


0 6~10 1:4 20cm

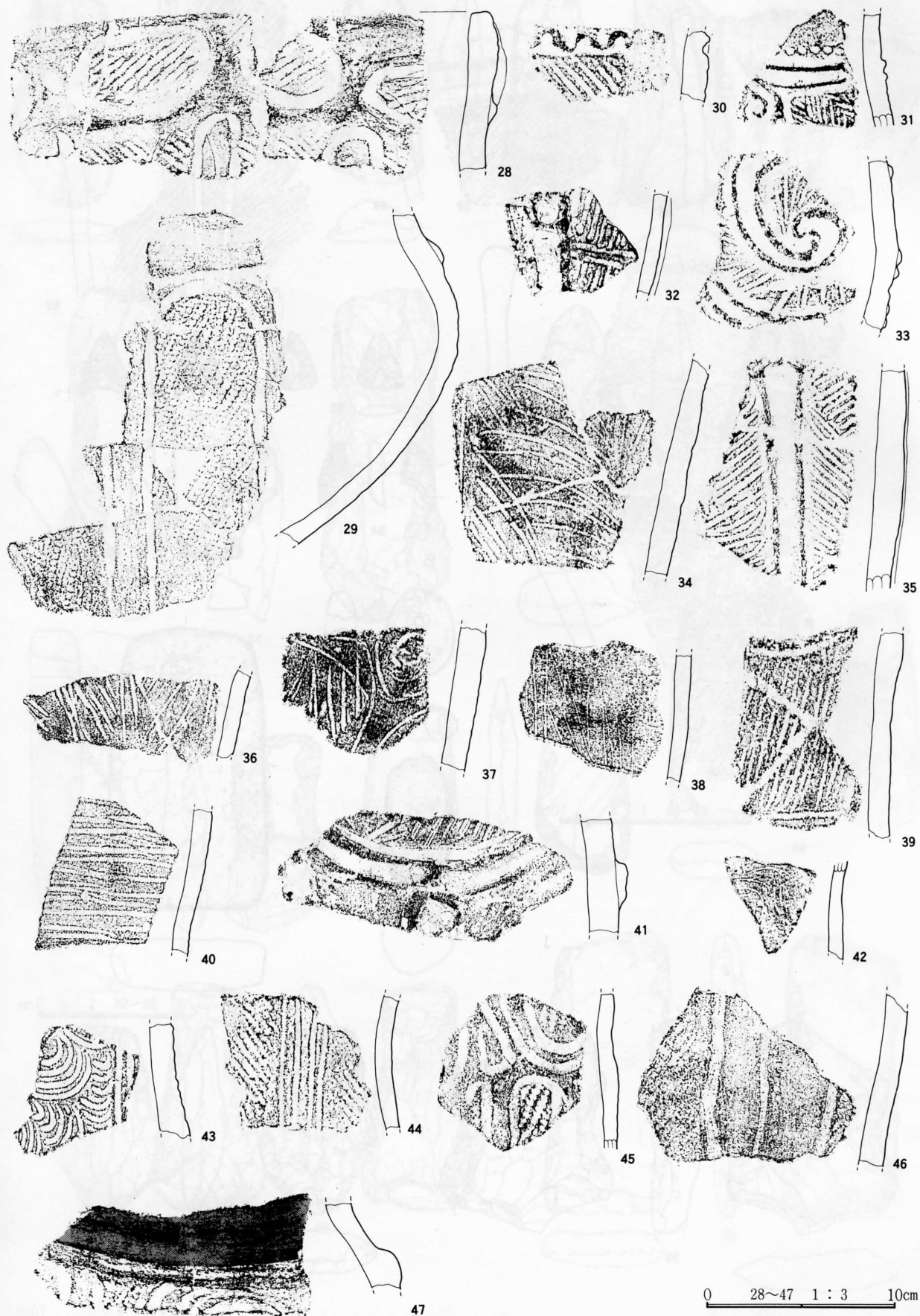
第45図 SI05出土遺物実測図2



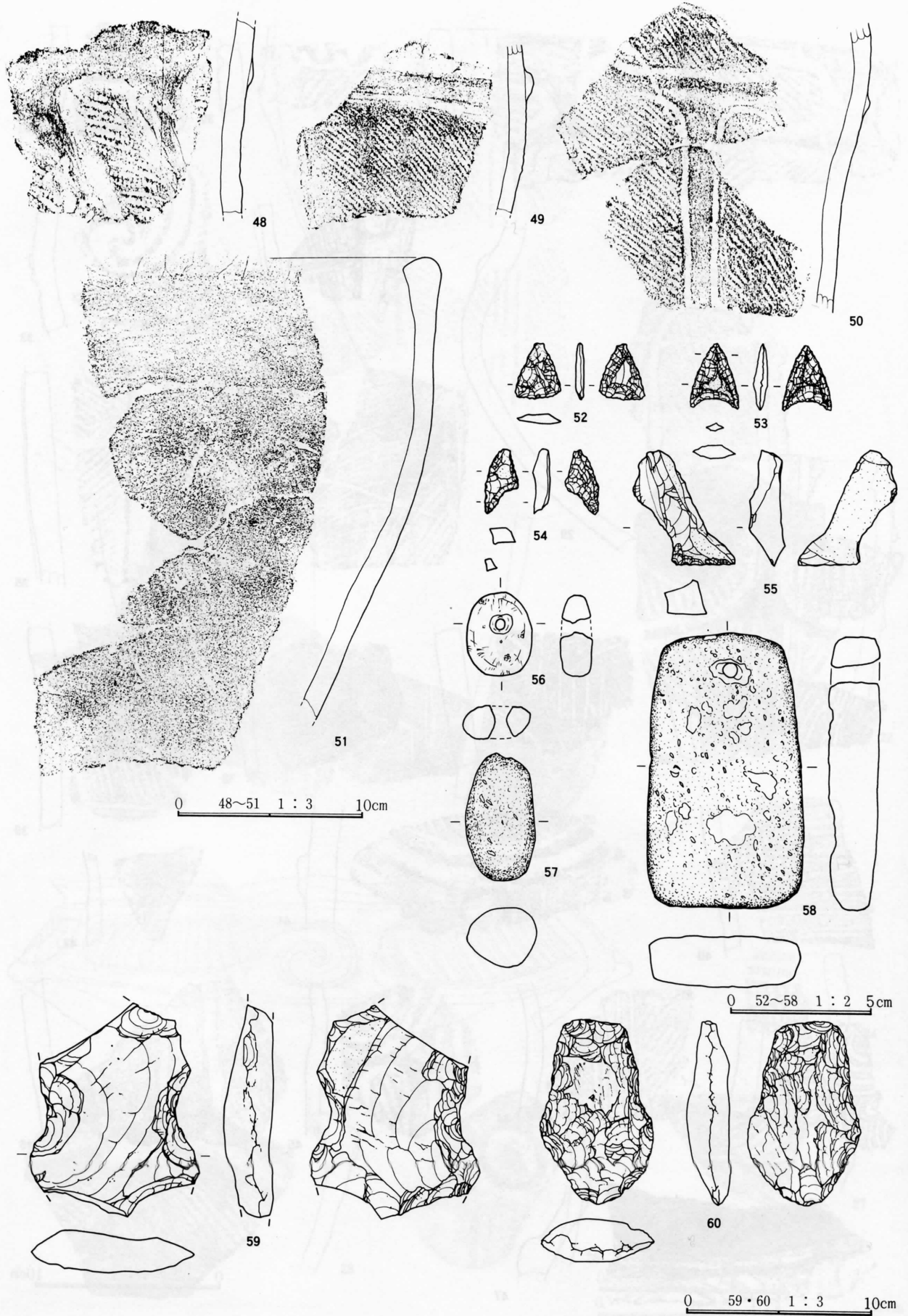
第46図 SI05出土遺物実測図3



第47図 SI05出土遺物実測図 4

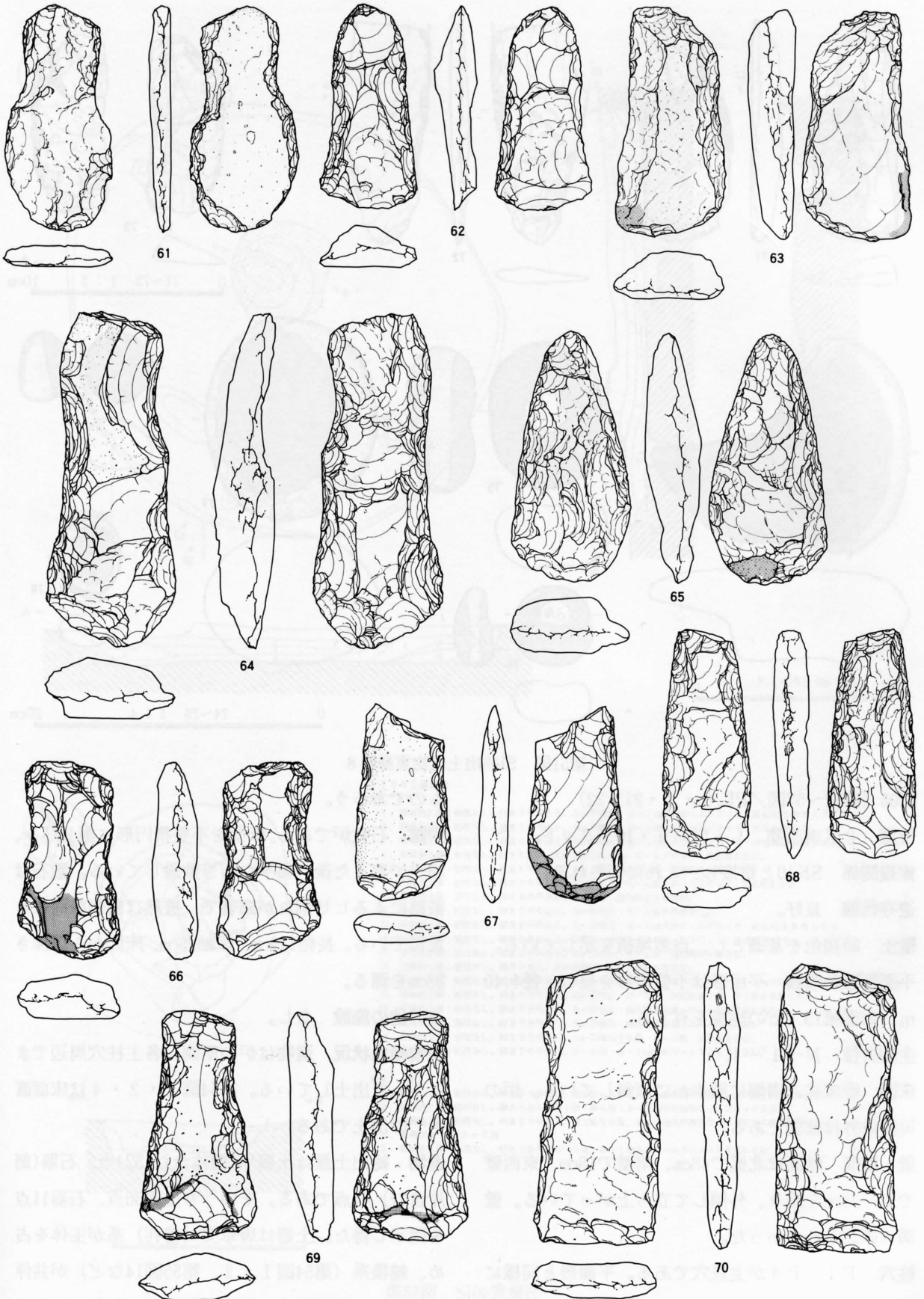


第48図 SI05出土遺物実測図5



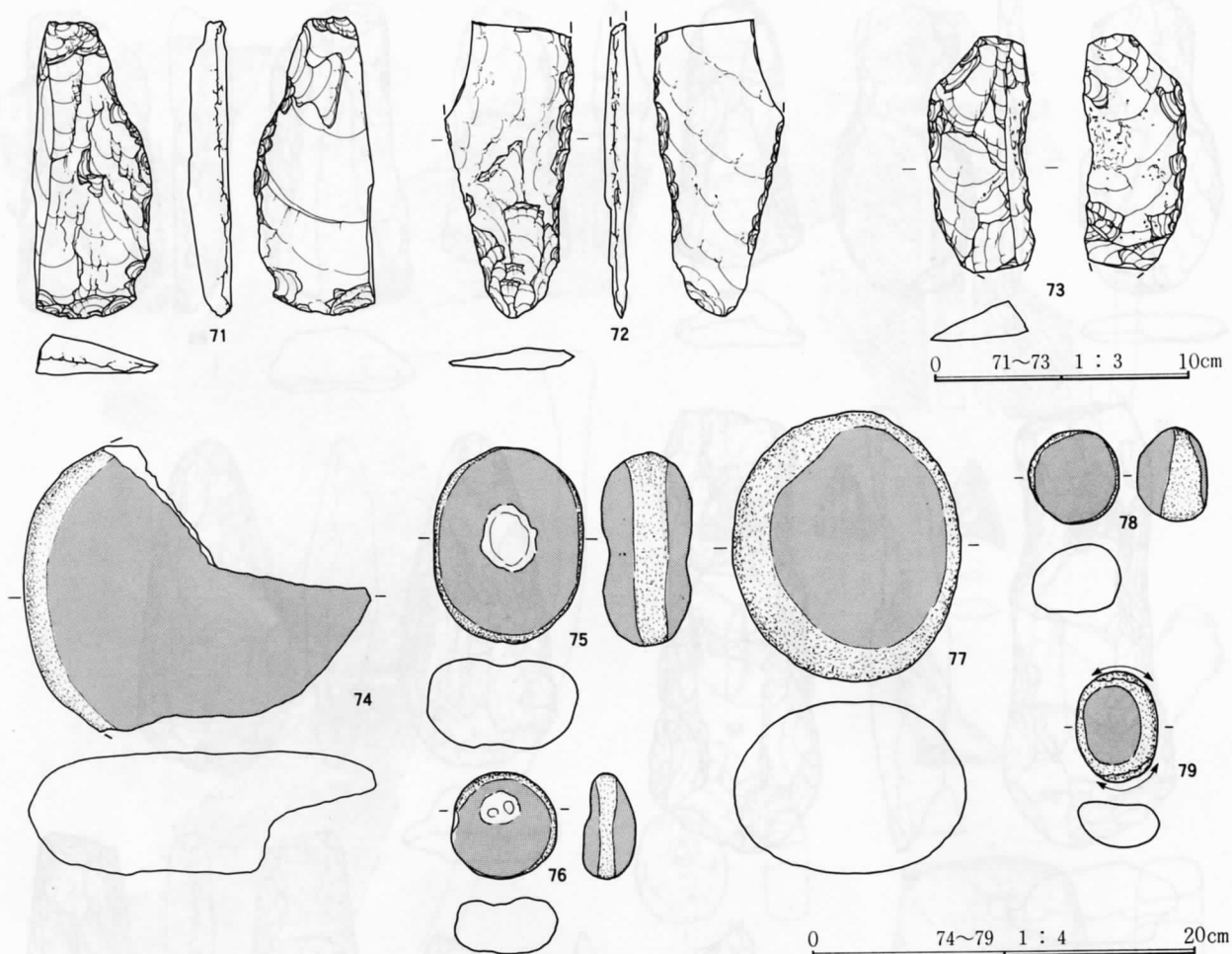
第49図 SI05出土遺物実測図6

2. 縄文時代中期後半の遺構と遺物



0 61~70 1 : 3 10cm

第50図 SI05出土遺物実測図7



第51図 SI05出土遺物実測図8

SI06 (第52～57図/PL.6・7・21・22)

位置 2区南西側、L・M-9・10グリッド。

重複関係 SK10と重複し、これに切られる。

遺存状態 良好。

覆土 暗褐色を基調とし、自然堆積を示している。

平面形態と規模 平面形は不整形円形を呈し、径4.40m、床面積15.0m²の規模を有する。

主軸方位 N-1°-E

床面 直床式で南側に緩やかに傾斜している。炉の周囲以外は軟弱である。

壁・壁溝 壁高は北壁で48cm、南壁で18cm、東西壁で32～38cmを測り、外傾して立ち上がっている。壁溝は確認されなかった。

柱穴 P1～P4が支柱穴である。平面形と同様に歪んだ配置となっている。平面形は隅丸方形を基調とし、一辺25～40cm、床面からの深さ50～72cmを測る。また南壁付近のピットは入り口施設と関連した

ものである。

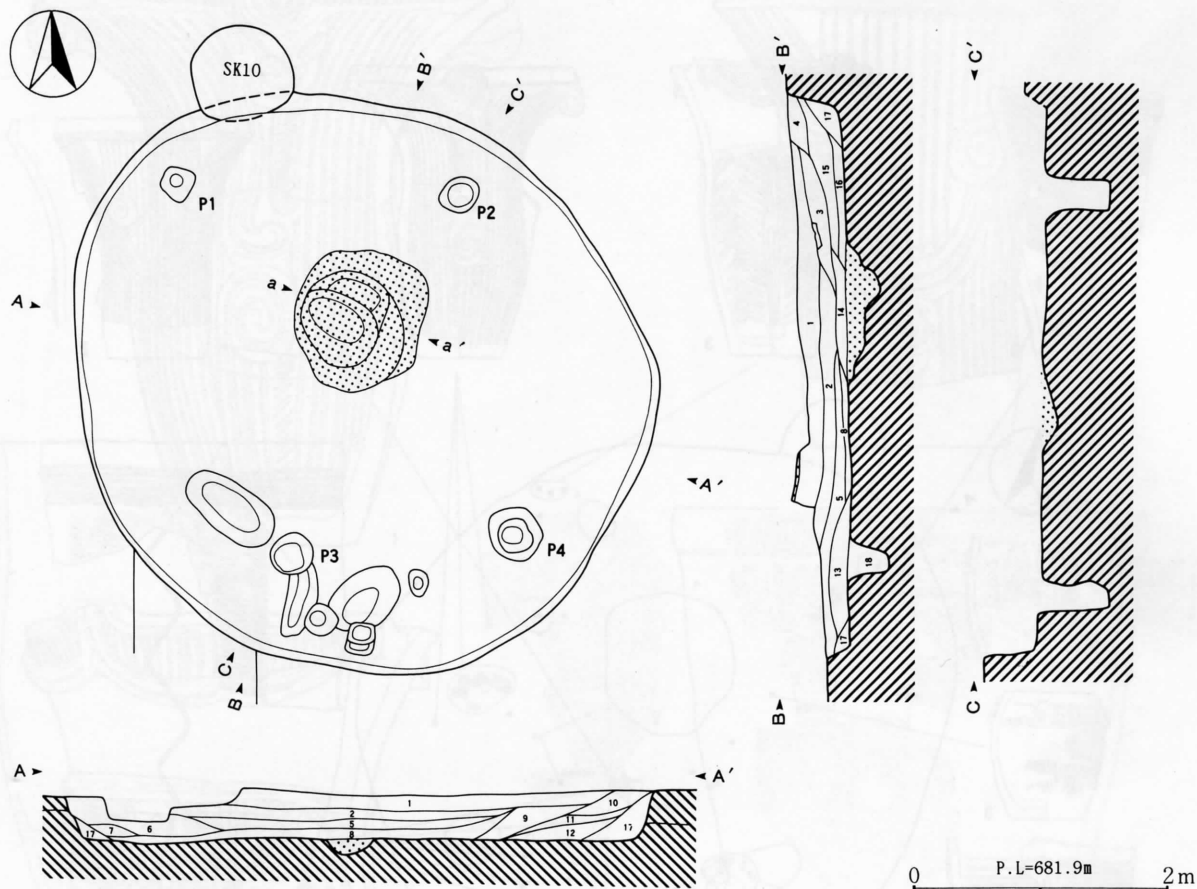
炉跡 石敷炉である。床面を不整形円形に掘り込み、埋土で整えた後、扁平な石を敷設している。敷石は被熱によるヒビ割れが顕著で、被熱は南側床面にも及んでいる。長軸110cm、短軸95cm、床面からの深さ23cmを測る。

その他の施設 なし。

遺物検出状況 遺物は炉の南側、各支柱穴周辺でまとまって出土している。第54図1・2・4は床面直上での出土である。

遺物 総出土量は土器片(個体含む)524点、石器(剥片含む)44点である。そのうち土器36点、石器11点を図示し得た。土器は唐草文(曾利)系が主体を占め、越後系(第54図1・2、第55図14など)が共伴している。石器組成は打製石斧類17(製品7・整形剥片4・スクレイパー2・剥片3・楔形石器1)、礫石器(軽石製品・その他含む)類17(敲石6・磨石

2. 縄文時代中期後半の遺構と遺物



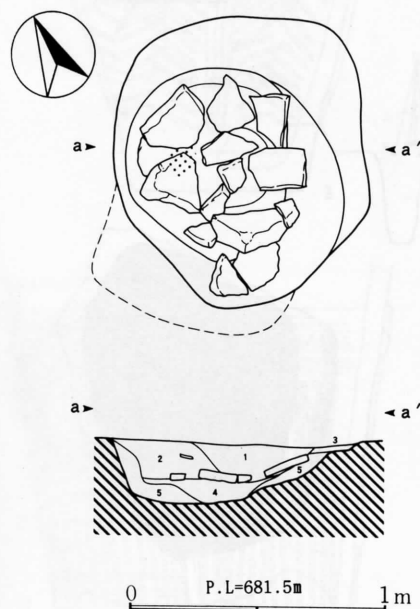
SI06土層説明

AA' BB'

1. 暗褐色土層：粘性なし。締まりややあり。As-D軽石・ ϕ ~1cm大のロームブロック・炭化粒を非常に多く含む。
2. 暗褐色土層：粘性なし。締まりややあり。As-D軽石・ ϕ ~1cm大のロームブロック・炭化粒を含む。
3. 暗褐色土層：粘性なし。締まりややあり。As-D軽石・ ϕ ~1cm大のロームブロック・炭化粒を多量に含む。
4. 明褐色土層：粘性なし。締まりあり。As-D軽石を少量、ロームブロック・炭化粒を含む。
5. 暗褐色土層：粘性なし。締まりややあり。As-D軽石・ローム粒・炭化粒を少量含む。
6. 明褐色土層：粘性なし。締まりややあり。As-D軽石・ローム粒・ロームブロック・炭化粒を含む。
7. 明褐色土層：粘性なし。締まりややあり。ローム粒・炭化粒を少量含む。
8. 暗褐色土層：粘性なし。締まりややあり。As-D軽石・ローム粒を微量含む。
9. 明褐色土層：粘性なし。締まりややあり。As-D軽石・ ϕ ~1cm大のロームブロック・炭化粒を多量に含む。
10. 明褐色土層：粘性なし。締まりあり。As-D軽石・ ϕ ~1cm大のロームブロック・炭化粒を含む。
11. 明褐色土層：粘性なし。締まりややあり。As-D軽石・ローム粒・炭化粒を少量含む。
12. 明褐色土層：粘性なし。締まりあり。As-D軽石・ローム粒を少量含む。
13. 明褐色土層：粘性なし。締まりややあり。As-D軽石・炭化粒を少量、ローム粒・ ϕ ~1cm大のロームブロックを多量に含む。
14. 暗褐色土層：粘性なし。締まりややあり。As-D軽石・ローム粒・炭化粒を少量、焼土粒を多量に含む。
15. 明褐色土層：粘性なし。締まりややあり。As-D軽石・炭化粒を少量、ローム粒を多量に含む。
16. 暗褐色土層：粘性なし。締まりややなし。As-D軽石・炭化粒を少量、ローム粒を含む。
17. 明褐色土層：粘性なし。締まりややなし。As-D軽石を少量、ローム粒・炭化粒を含む。
18. 明褐色土層：粘性なし。締まりややなし。ローム粒・ ϕ ~1cm大のロームブロックを含む。

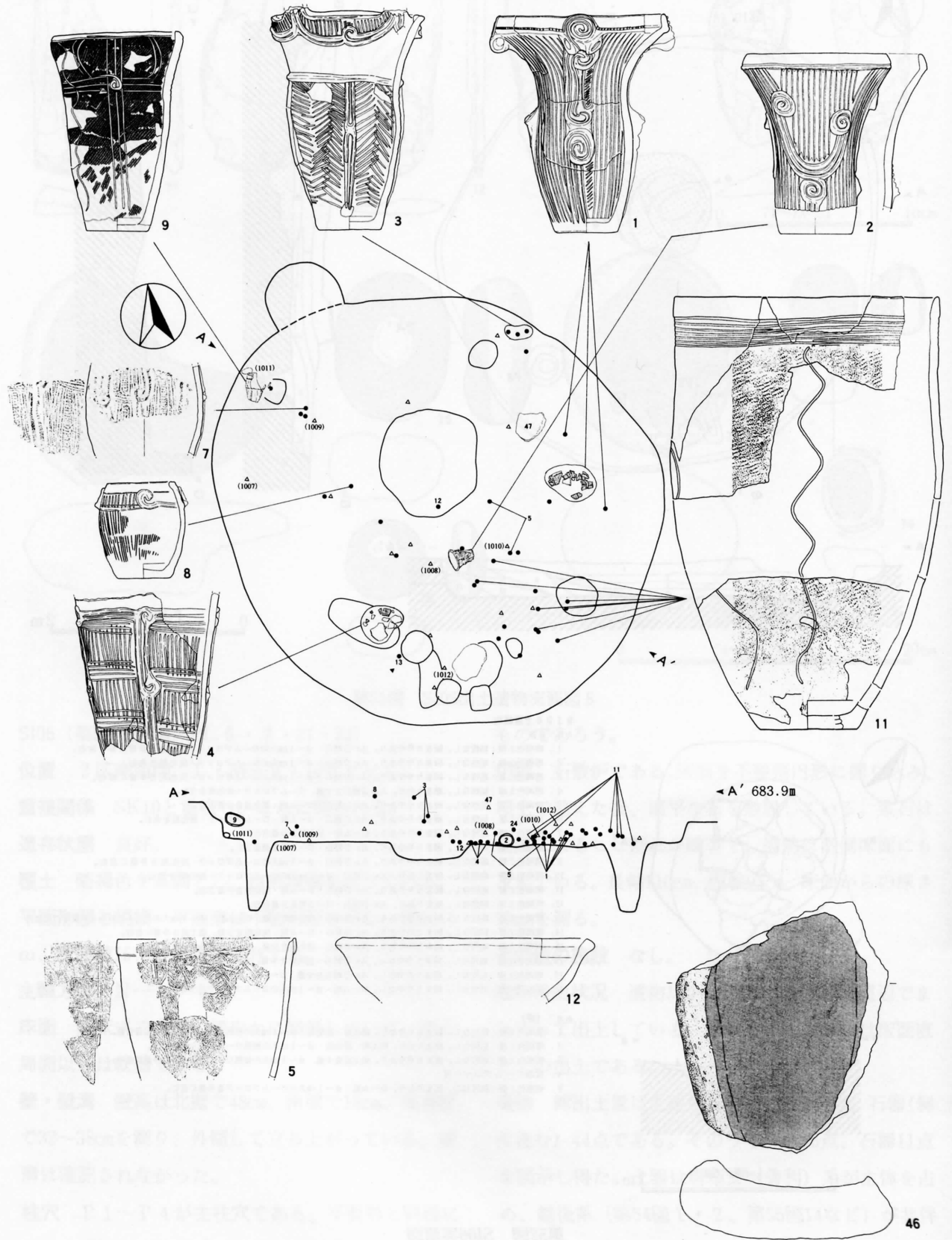
aa' (炉)

1. 暗褐色土層：粘性なし。締まりややなし。焼土粒・炭化粒・ ϕ ~1cm大の被熱ロームブロックを少量含む。
2. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。焼土粒・炭化粒・ ϕ ~1cm大の被熱ロームブロックを含む。
3. 明褐色土層：粘性なし。締まりややあり。焼土粒を少量、 ϕ ~1cm大の被熱ロームブロックを多量に含む。
4. 被熱ロームブロック層
5. 明褐色土層：粘性なし。締まりあり。ローム粒・ ϕ ~1cm大のロームブロックを多量に含む。

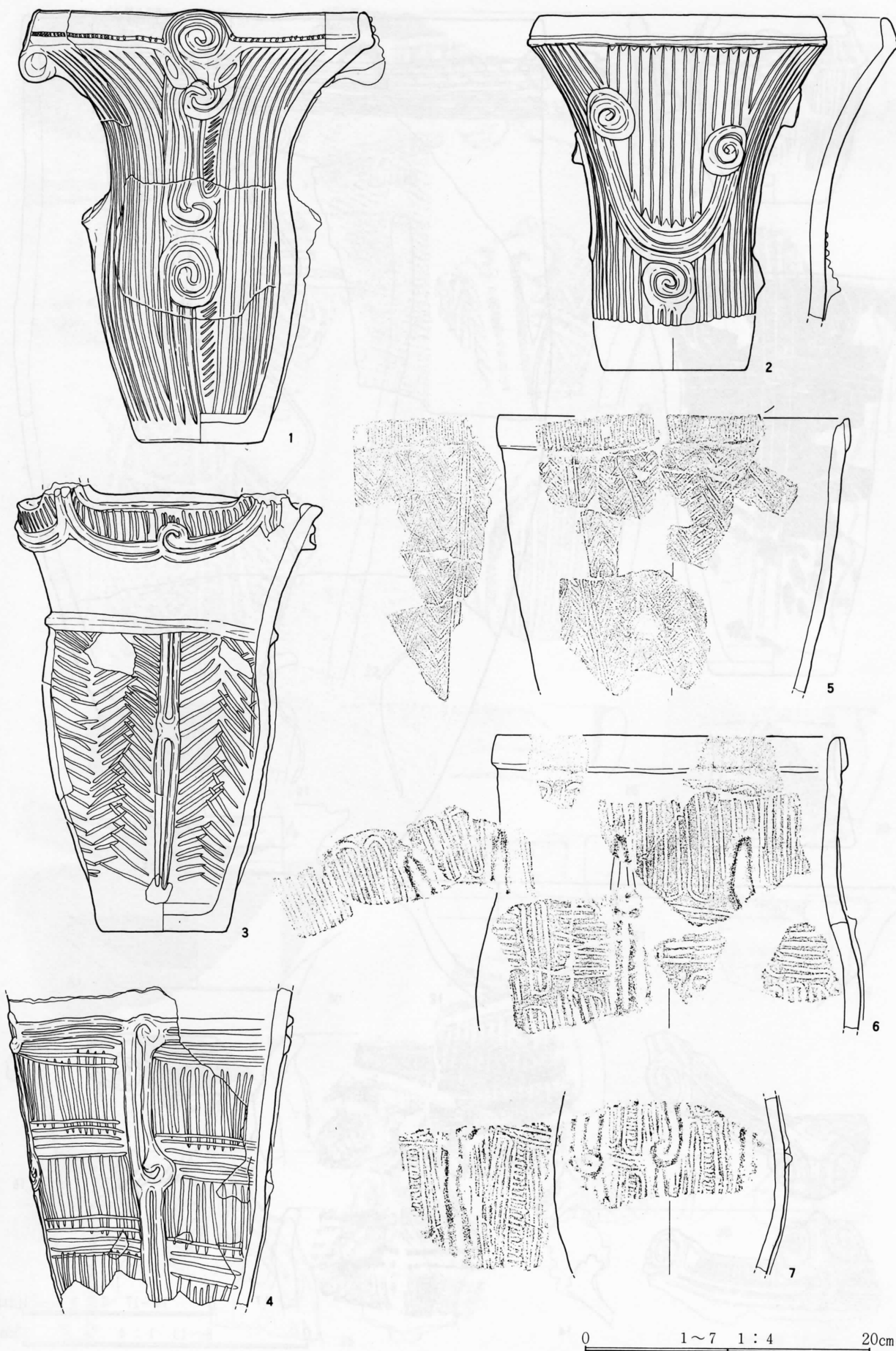


第52図 SI06実測図

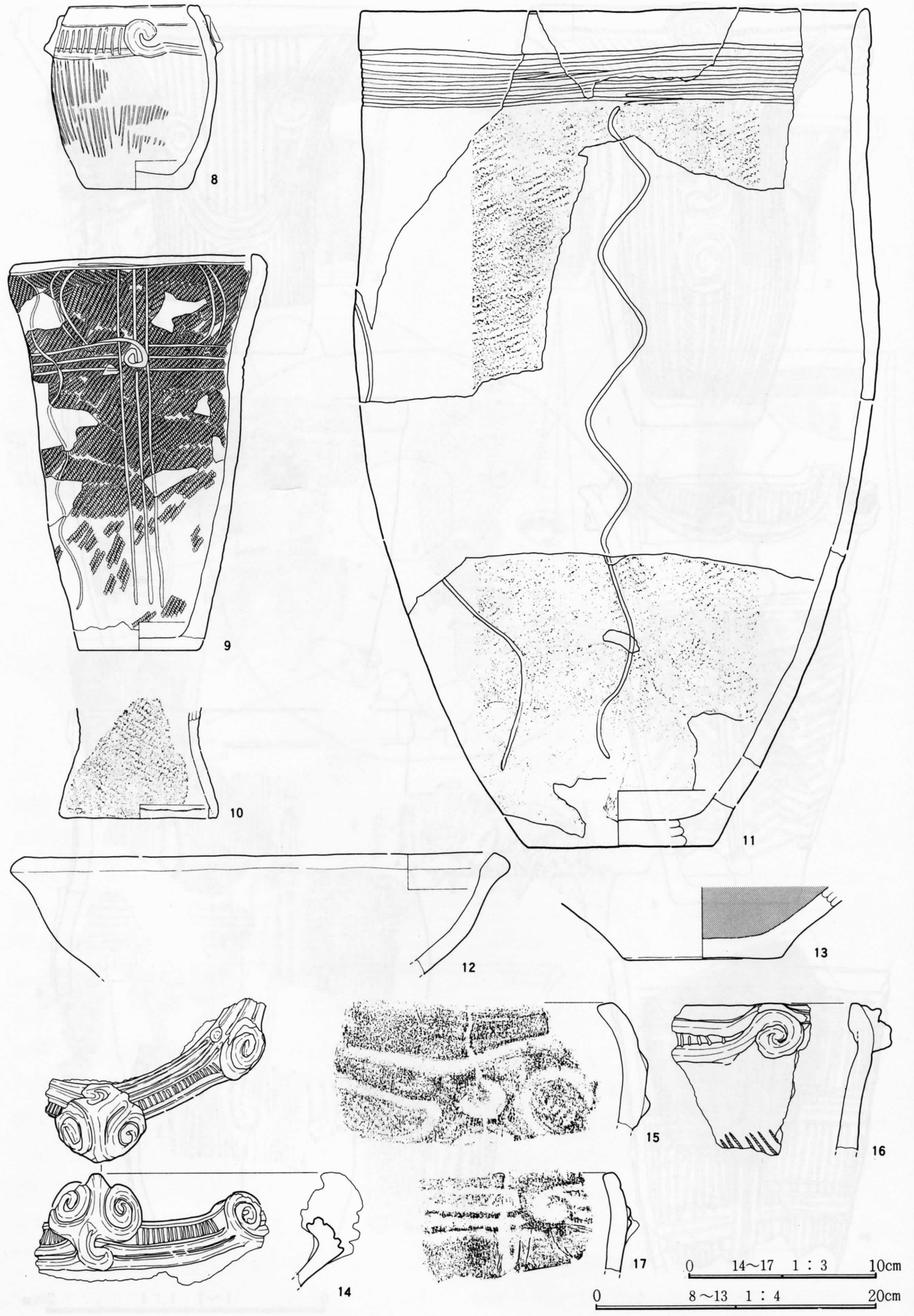
2・石皿 3・有孔砥石 1・軽石製品 5)、剥片石器類
10(残核 1・剥片 9)である。



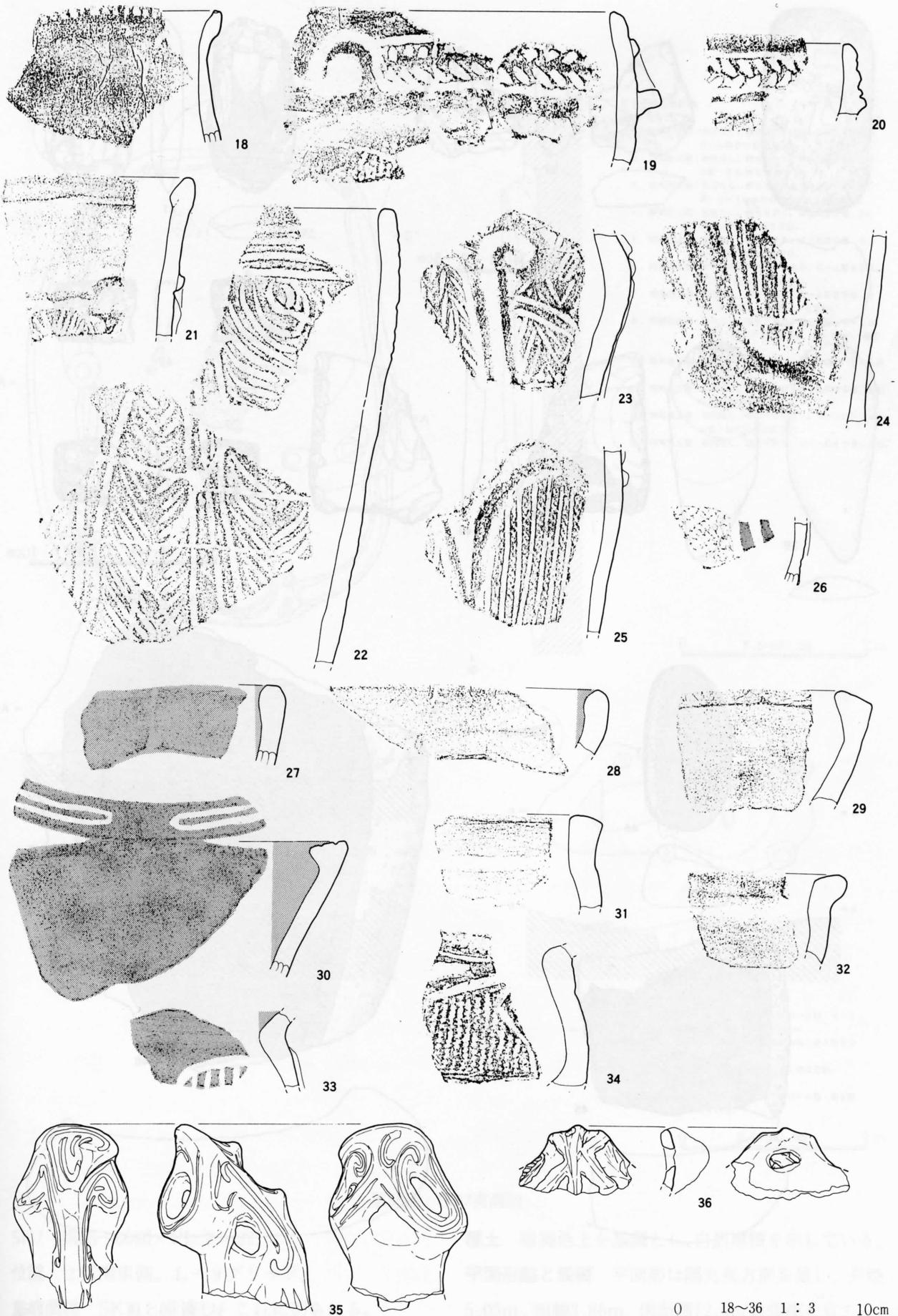
第53図 SI06遺物出土状況図



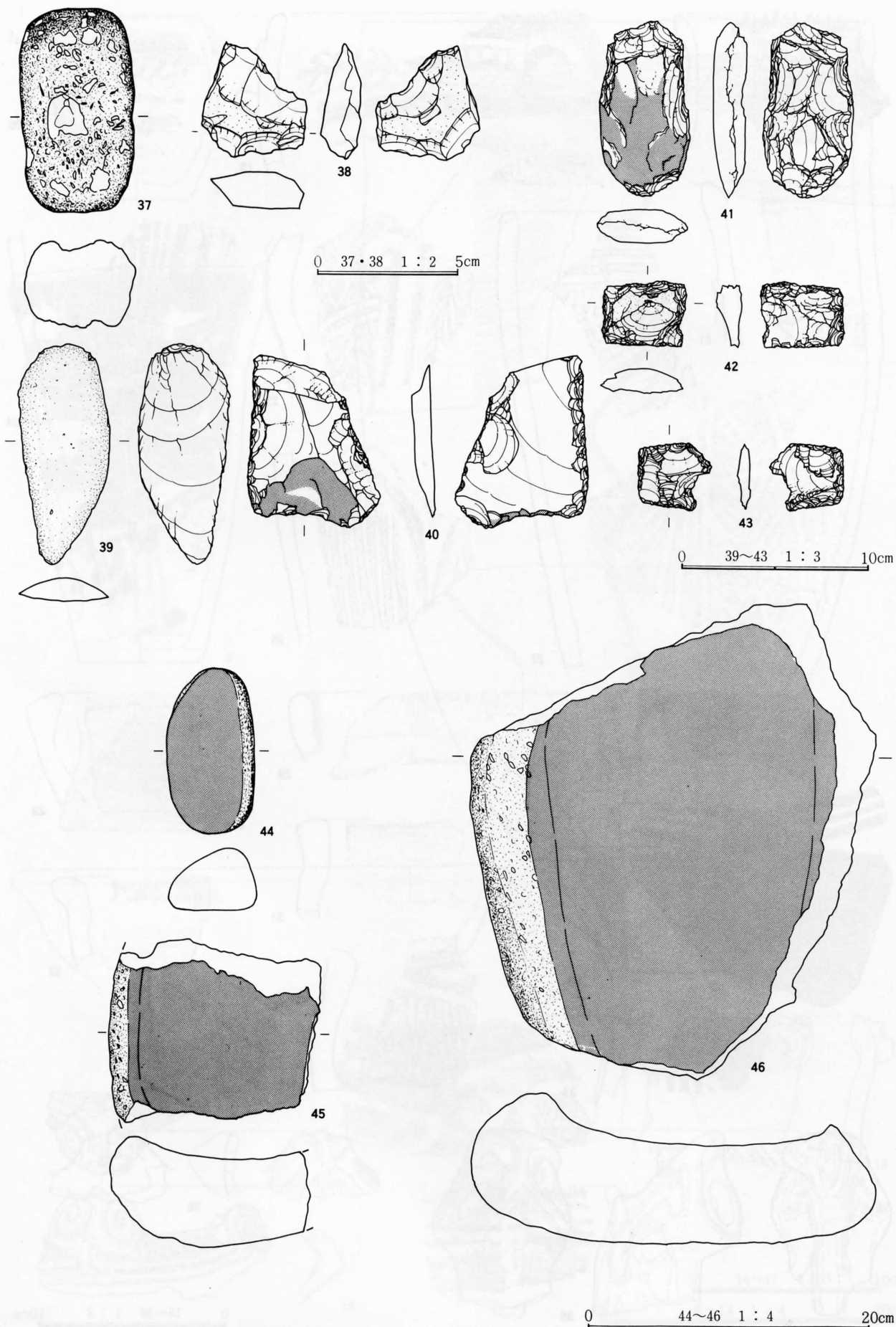
第54図 SI06出土遺物実測図1



第55図 SI06出土遺物実測図2

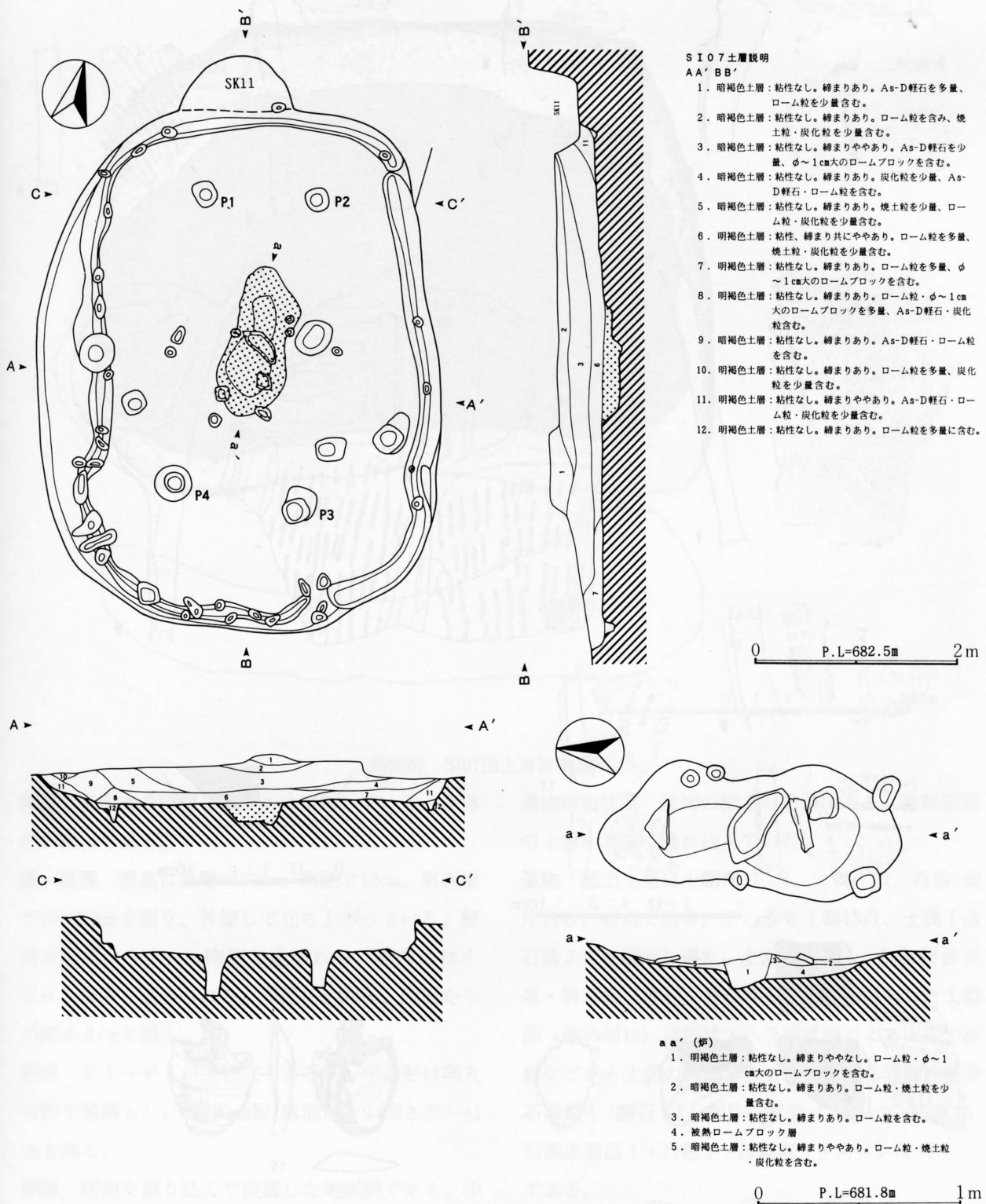


第56図 SI06出土遺物実測図 3



第57図 SI06出土遺物実測図4

2. 縄文時代中期後半の遺構と遺物



第58図 SI07実測図

SI07 (第58~60図/PL.7・22)

位置 2区南東側、L-9グリッド。

重複関係 SK11と重複し、これに切られる。

遺存状態 良好。

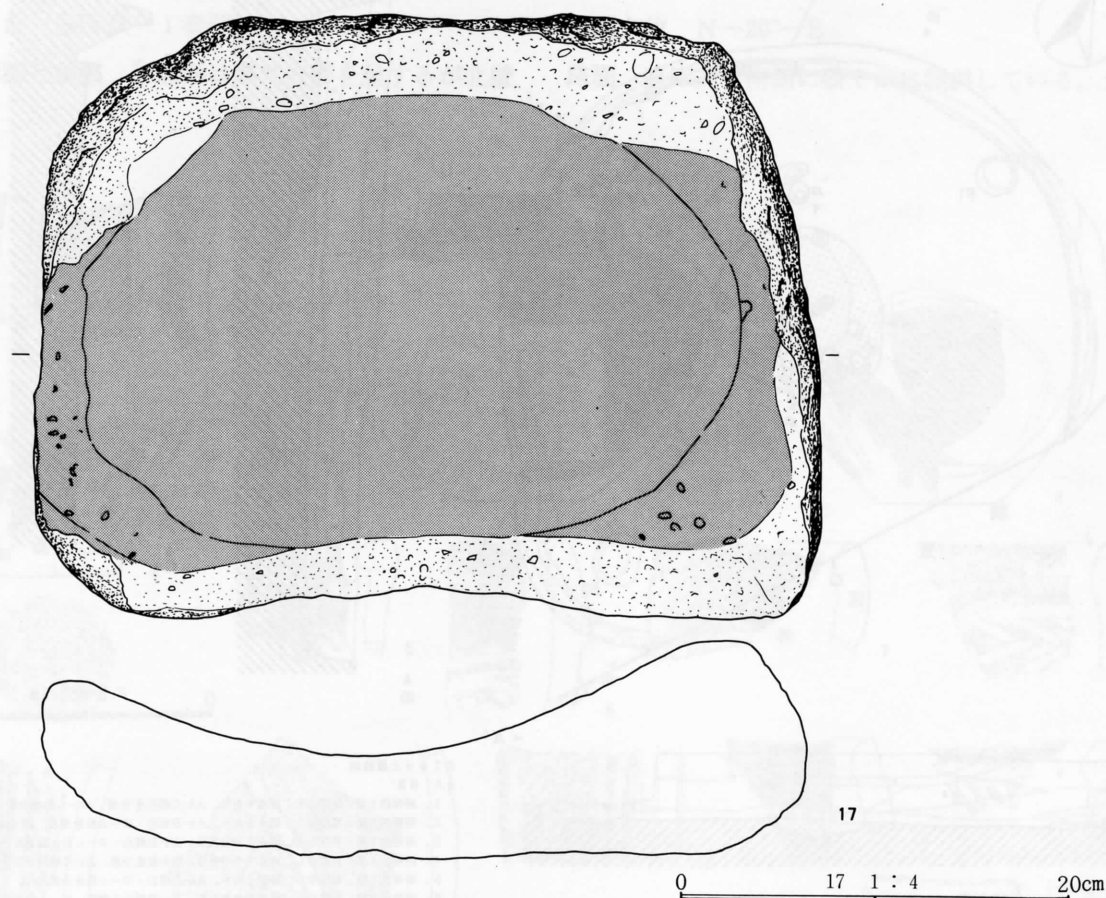
覆土 暗褐色土を基調とし、自然堆積を示している。

平面形態と規模 平面形は隅丸長方形を呈し、長軸5.05m、短軸3.86m、床面積12.9m²の規模を有する。

主軸方位 N-10°-W



第59図 SI07出土遺物実測図1



第60図 SI07出土遺物実測図2

床面 直床式で南側に緩やかに傾斜している。全体的に軟弱である。

壁・壁溝 壁高は北壁で37cm、南壁で12cm、東西壁で17~20cmを測り、外傾して立ち上がっている。壁溝は北東コーナーと南側で途切れる。溝内には小ピットが多く認められる。溝幅10~30cm、床面からの深さ6cmを測る。

柱穴 P1~P4が支柱穴であろう。平面形は隅丸方形を基調とし、一辺20cm程、床面からの深さ27~41cmを測る。

炉跡 床面を掘り込んで設置した地床炉である。中央やや北寄りに位置し、平面形は長楕円形を呈する。長軸146cm、短軸50~65cm、床面からの深さ10cmを測る。炉の中央には炉石を付設していた痕跡が認められ、主に南側を使用していたと考えられる。火床は基底部に遺存し7cmの厚さをもつ。

その他の施設 西側には若干のテラスを有する。

遺物検出状況 遺物の出土は希薄である。前期初頭の土器片が多く流れ込んでいた。

遺物 総出土量は土器片116点、土偶1点、石器(剥片含む)42点である。そのうち土器13点、土偶1点、石器3点を図示し得た。土器は少なく、加曾利E式系・唐草文(曾利)系がみられる。土偶とした土製品(第59図14)は形状・ヘラ描沈線による文様や赤彩などから土偶の肩部と考えられる。石器組成は礫石器類1(磨石1)、剥片石器類41(剥片36・石鏃1・石鏃末製品1・石匙1・揉錐器1・スクレイパー1)である。

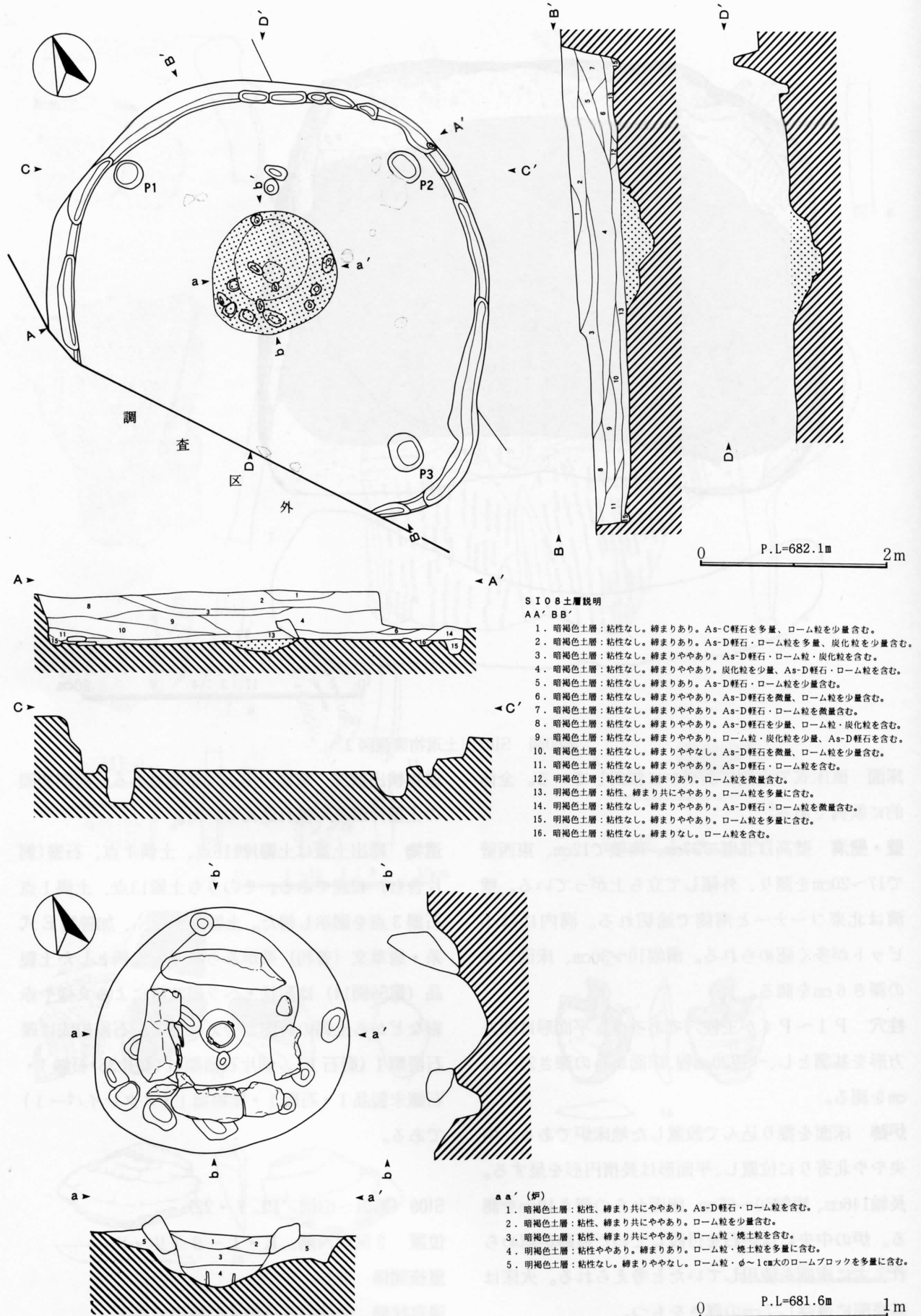
SI08 (第61~63図/PL.7・22)

位置 2区南西隅、K・L-9グリッド。

重複関係 なし。

遺存状態 全体の5分の4の検出である。

覆土 暗褐色土を基調とし、自然堆積を示している。



第61図 SI08実測図

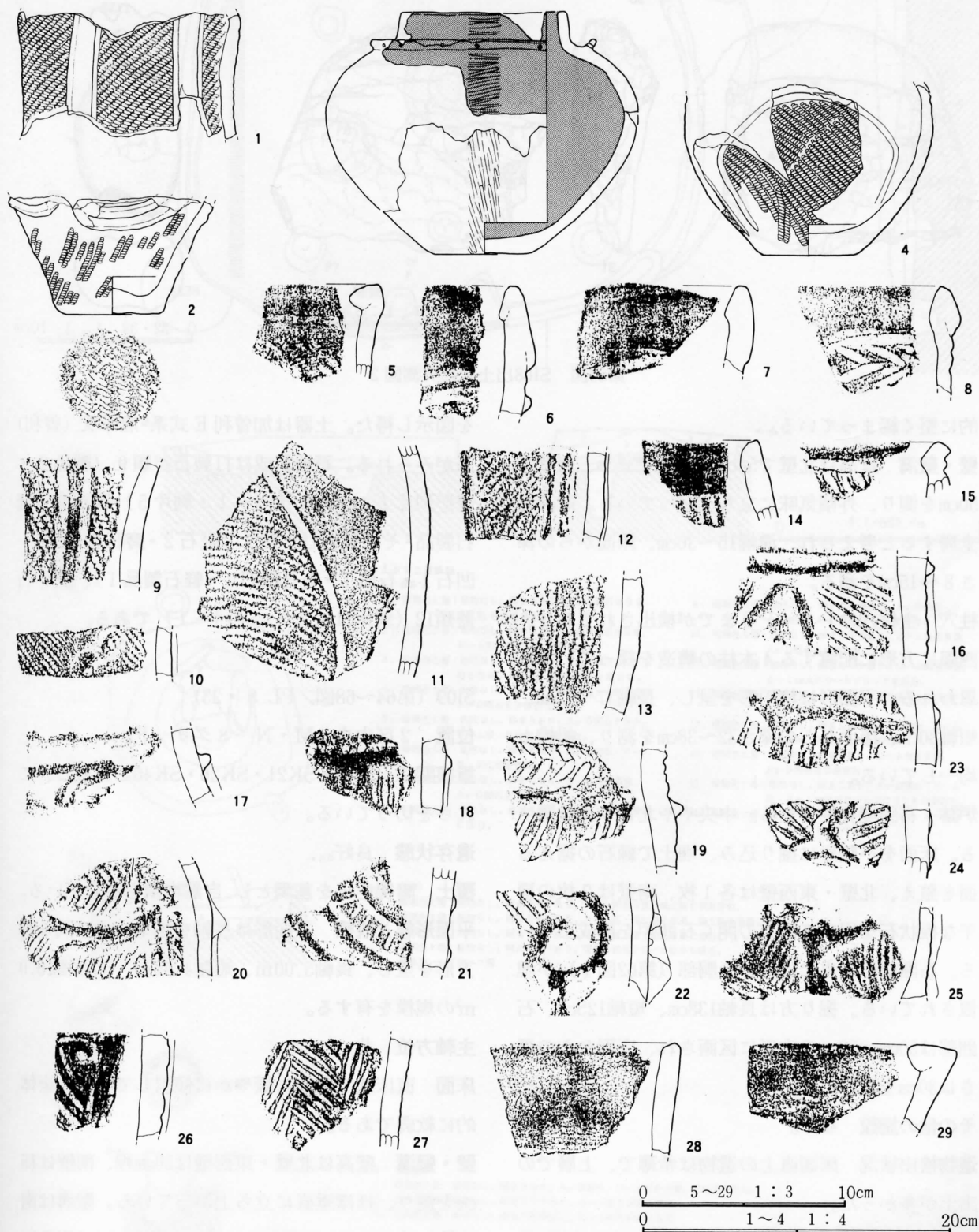
2. 縄文時代中期後半の遺構と遺物

確認面で黄白色軽石を多量に含んだ暗褐色土が認められ、分析の結果、As-C軽石の可能性が高いことが判明した（第IV章-1参照）。

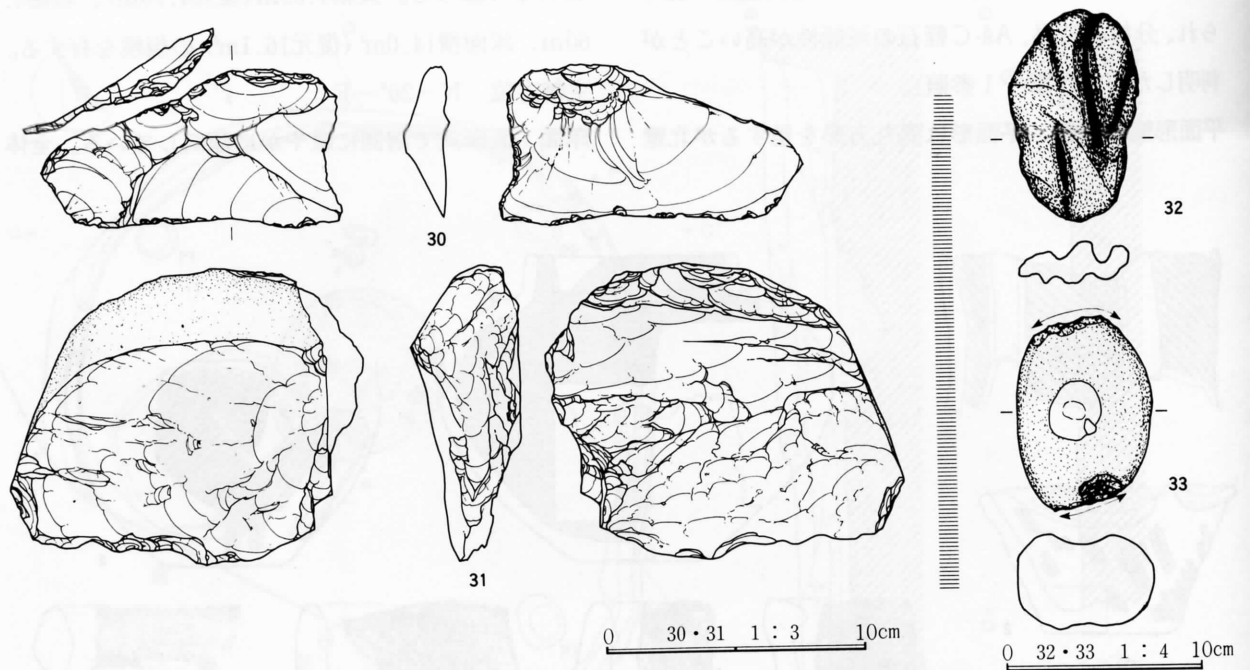
は大きく膨らむ。長軸4.05m（復元4.70m）、短軸4.60m、床面積14.0㎡（復元16.1㎡）の規模を有する。
主軸方位 N-20°-E

平面形態と規模 平面形は隅丸方形を呈するが北壁

床面 直床式で南側に緩やかに傾斜している。全体



第62図 SI08出土遺物実測図1



第63図 SI08出土遺物実測図2

的に強く締まっている。

壁・壁溝 壁高は北壁で54cm、南壁で32cm、西壁で50cmを測り、外傾気味に立ち上がっている。壁溝は全周すると考えられ、溝幅15~30cm、床面からの深さ8~15cmを測る。

柱穴 主柱穴はP1~P3までが検出されており、四隅に方形に配置する4本柱の構造を採っていると思われる。平面形は楕円形を呈し、長軸37~42cm、短軸30cm、床面からの深さ32~38cmを測り、規模も均一している。

炉跡 石囲埋甕炉である。中央やや北寄りに位置する。床面を不整形に掘り込み、埋土で縁石の据える面を整え、北壁・東西壁は各1枚、南壁は2枚の扁平な板状石を用いて南方の開く石囲炉を構成している。石囲部の中央には深鉢の胴部(第62図1)が埋置されている。掘り方は長軸138cm、短軸125cm、石囲部は50cm×53cmの方形に区画され、床面からの深さは30cmを測る。

その他の施設 なし。

遺物検出状況 床面直上の遺物は希薄で、上層での出土が多かった。

遺物 総出土量は土器片(個体含む)305点、石器(剥片含む)30点である。そのうち土器29点、石器4点

を図示し得た。土器は加曾利E式系・唐草文(曾利)系がみられる。石器組成は打製石斧類9(製品2・整形剥片1・スクレイパー1・剥片5)礫石器(軽石製品・その他含む)類9(敲石2・磨石3・敲石+凹石1・石皿1・有孔砥石1・軽石製品1)、剥片石器類12(剥片11・スクレイパー1)である。

SI09 (第64~68図/PL.8・23)

位置 2区中央、M・N-8グリッド。

重複関係 SI12・SK21・SK26・SK40と重複し、これらを切っている。

遺存状態 良好。

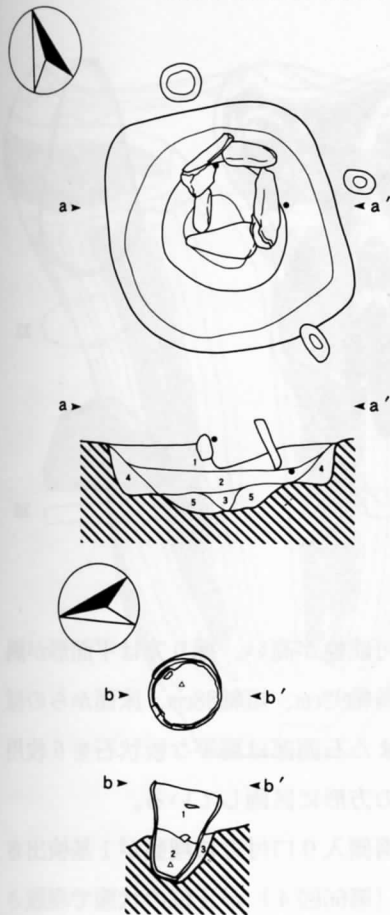
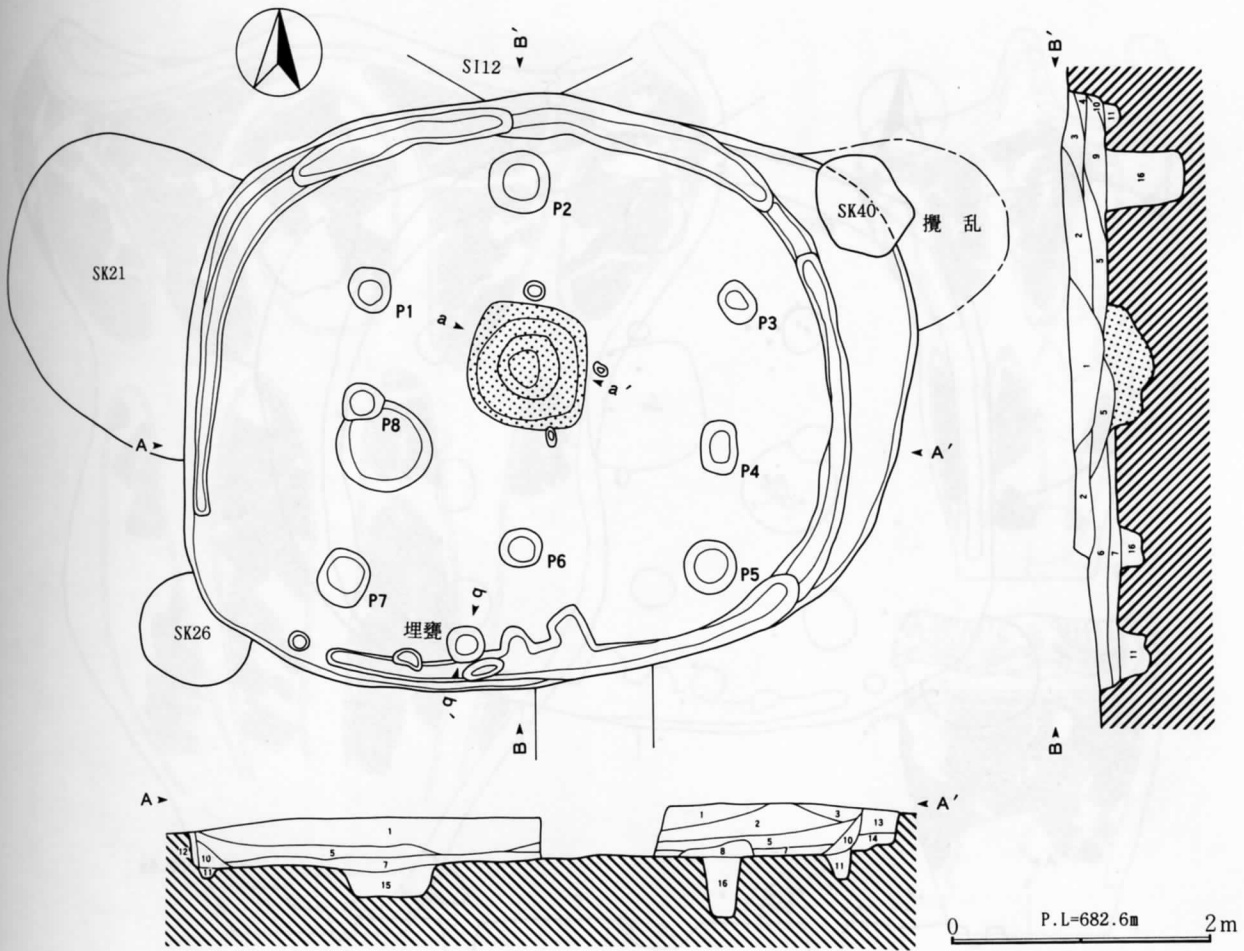
覆土 暗褐色土を基調とし、自然堆積を示している。

平面形態と規模 平面形は長軸を副軸にもつ隅丸長方形を呈し、長軸5.00m、短軸4.45m、床面積16.0m²の規模を有する。

主軸方位 北

床面 直床式で南側に緩やかに傾斜している。全体的に軟弱である。

壁・壁溝 壁高は北壁・東西壁は26cm程、南壁は15cmを測り、ほぼ垂直に立ち上がっている。壁溝は南西隅で途切れる。溝幅15~30cm、床面からの深さ8~13cmを測る。



SI09土層説明

AA' BB'

1. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。As-D軽石を多量、炭化粒を少量含む。
2. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。As-D軽石を多量、ローム粒・炭化粒を少量含む。
3. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。As-D軽石・ローム粒を含み、焼土粒・炭化粒を少量含む。
4. 暗褐色土層：粘性なし。締まりややあり。ローム粒を含みAs-D軽石を少量含む。
5. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。As-D軽石を含み、ローム粒・炭化粒を少量含む。
6. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。As-D軽石・ローム粒・炭化粒を含む。
7. 明褐色土層：粘性なし。締まりあり。ローム粒を多量、As-D軽石を含む。
8. 明褐色土層：粘性なし。締まりややなし。ローム粒を多量に含む。
9. 暗褐色土層：粘性なし。締まりややあり。As-D軽石・ローム粒を含み、炭化粒を少量含む。
10. 明褐色土層：粘性なし。締まりややあり。ローム粒を多量、As-D軽石を少量含む。
11. 明褐色土層：粘性なし。締まりややあり。ローム粒を多量、φ~1cm大のロームブロックを含む。
12. 明褐色土層：粘性、締まり共になし。そのほとんどがローム粒から成る。
13. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。As-D軽石・ローム粒を含み、炭化粒を少量含む。
14. 明褐色土層：粘性なし。締まりあり。ローム粒を多量、As-D軽石を少量含む。
15. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。As-D軽石・ローム粒・φ~1cm大のロームブロックを少量含む。
16. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。ローム粒・φ~2cm大のロームブロックを含む。

aa' (伊)

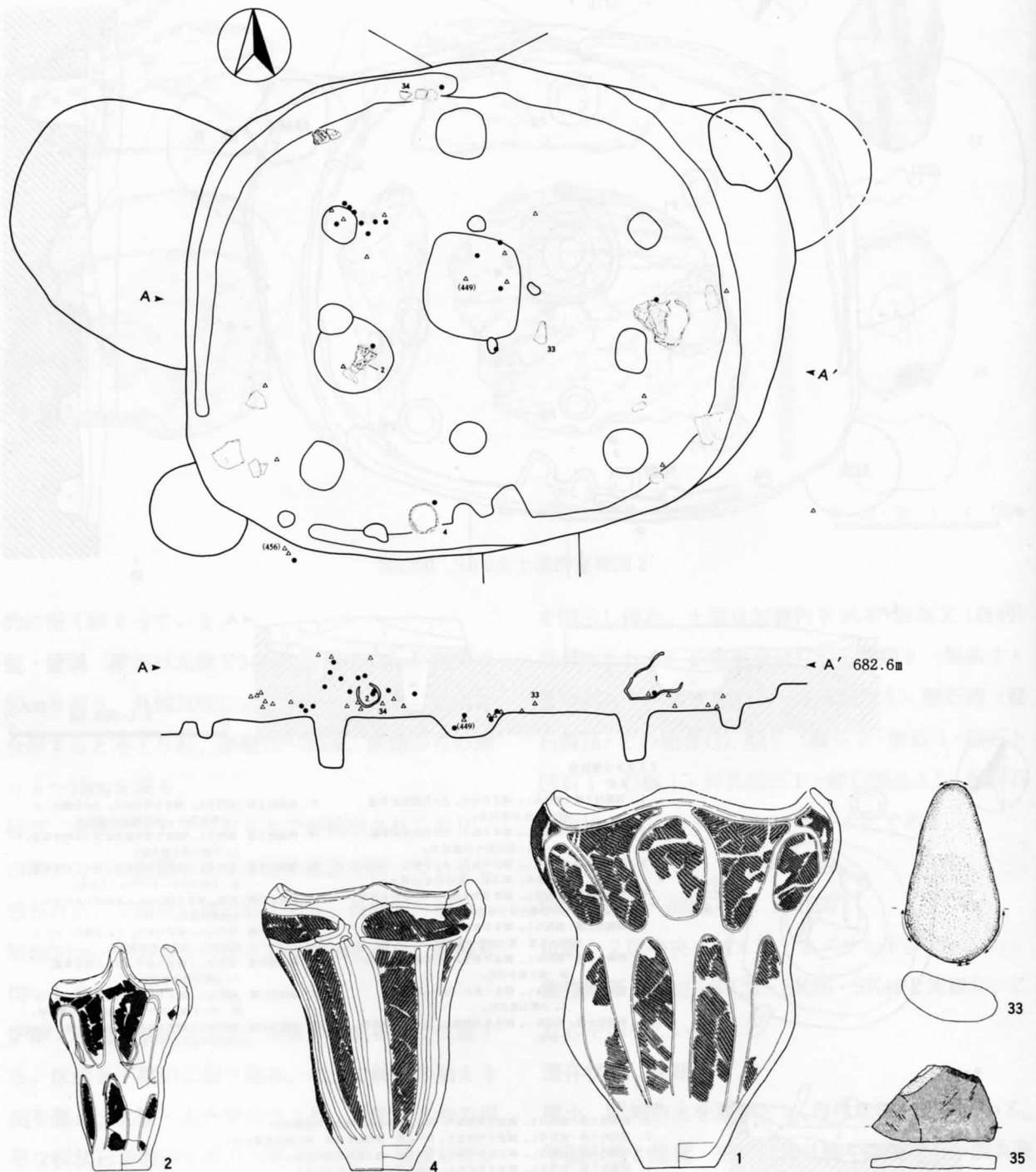
1. 暗褐色土層：粘性なし。締まりややあり。ローム粒を少量、焼土粒を微量含む。
2. 暗褐色土層：粘性なし。締まりややあり。ローム粒・炭化粒を少量、焼土粒を多量に含む。
3. 暗褐色土層：粘性なし。締まりややあり。ローム粒・焼土粒を多量に含む。
4. 明褐色土層：粘性なし。締まりややあり。全体の90%がローム粒から成る。
5. 被熱ロームブロック層

bb' (埋壙)

1. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。As-D軽石・ローム粒を少量、炭化粒を含む。
2. 暗褐色土層：粘性なし。締まりややあり。ローム粒を少量に含む。
3. 明褐色土層：粘性なし。締まりややなし。ローム粒を多量に含む。

0 P.L.=682.3m 1m

第64図 SI09実測図



第65図 SI09遺物出土状況図

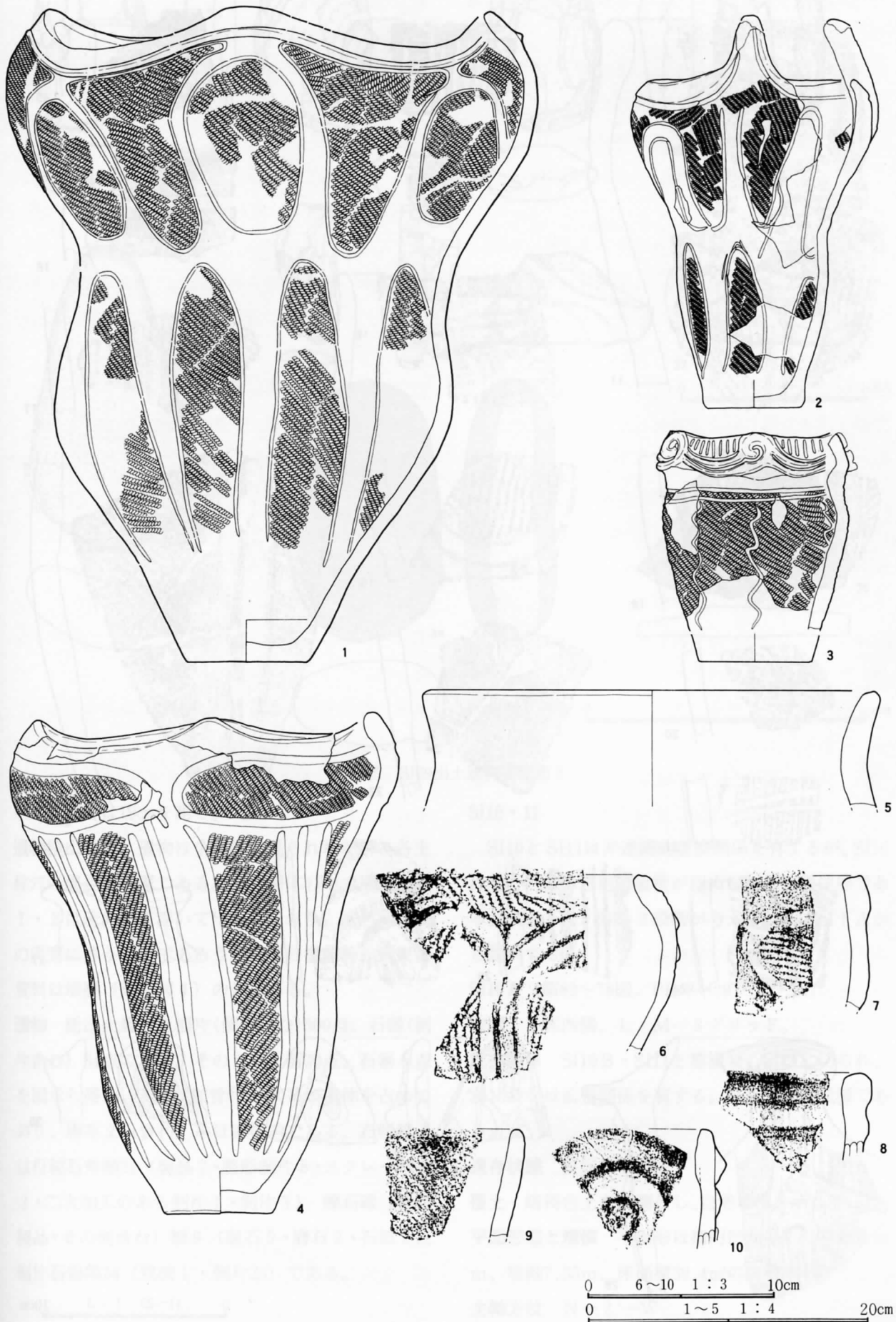
柱穴 P1～P8が主柱穴であろう。概ね平面形は隅丸方形を呈し、長軸32～45cm、短軸26～42cm、床面からの深さ40～72cmを測る。P3～P5、P7・P8・P1は南北に直線的な配置である。

炉跡 石囲炉である。ほぼ中央に位置する。ただし、火床（厚さ7cm程）が基底部に遺存していることから、もともと地床炉として使用していた上面に石囲

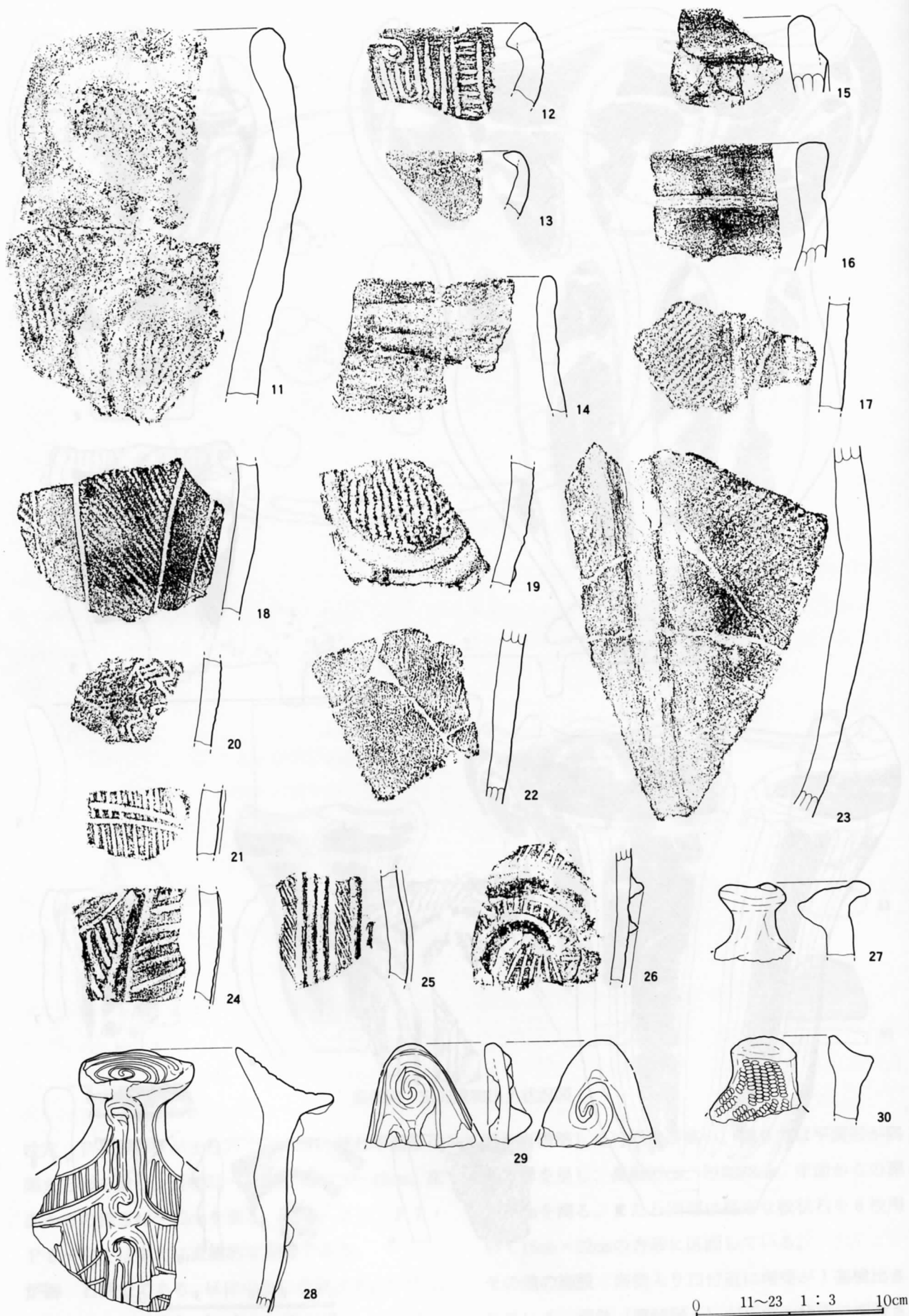
炉を再構築した可能性が高い。掘り方は平面形が隅丸方形を呈し、長軸92cm、短軸88cm、床面からの深さ25cmを測る。また石囲部は扁平な板状石を6枚用いて16cm×22cmの方形に区画している。

その他の施設 南側入り口付近に埋甕が1基検出されている。深鉢（第66図4）が正位の状態で埋設されている。掘り方は径27～29cmの円形を呈し、床面

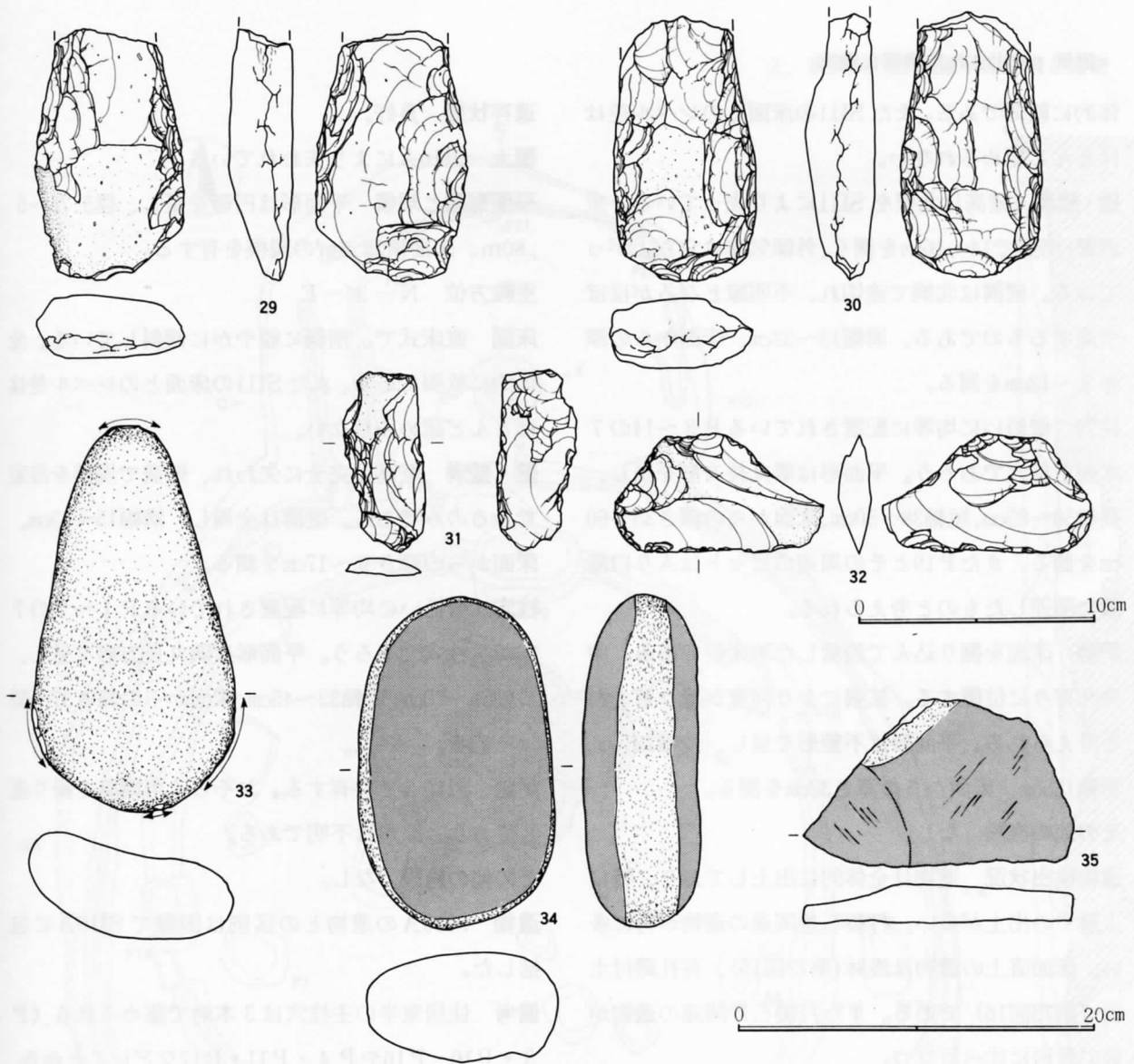
2. 縄文時代中期後半の遺構と遺物



第66図 SI09出土遺物実測図1



第67図 SI09出土遺物実測図2



第68図 SI09出土遺物実測図3

からの深さは19cmを測る。

遺物検出状況 遺物は全体的に見られたが炉、各支柱穴の周辺で顕著である。復元個体の中では第66図1・2は床面から浮いて出土しており、住居廃絶後の廃棄に伴うものであろう。住居の機能時の確実な資料は埋甕（第66図4）のみである。

遺物 総出土量は土器片（個体含む）500点、石器（剥片含む）54点である。そのうち土器30点、石器6点を図示し得た。土器は加曽利E式系が主体を占めており、唐草文（曾利）系は客体的である。石器組成は打製石斧類21（製品7・整形剥片8・スクレイパー2・二次加工のある剥片1・剥片3）、礫石器（軽石製品・その他含む）類9（敲石5・磨石2・石皿2）、剥片石器類24（残核1・剥片23）である。

SI10・11

SI10とSI11は非連続的の重複関係を有するが、SI10は同心円状の連続的の重複が認められる拡張住居である。大きくA・Bの2段階が考えられる。以下Aから説明する。

SI10A（第69～78図／PL.8・9・23・24）

位置 2区西側、L・M-8グリッド。

重複関係 SI10B・SI11と重複し、SI11に切られ、SI10Bとは拡張関係を有する。B→Aへの拡張である。

遺存状態 良好。

覆土 暗褐色土を基調とし、自然堆積を示している。

平面形態と規模 平面形は楕円形を呈し、長軸7.90m、短軸7.35m、床面積39.4㎡の規模を有する。

主軸方位 N-2°-W

床面 直床式で、南側に緩やかに傾斜している。全

III章 検出された遺構と遺物

体的に軟弱である。また SI11の床面とのレベル差はほとんど認められない。

壁・壁溝 壁高は北壁を SI11により失っている。東西壁・南壁で14~16cmを測り、外傾気味に立ち上がっている。壁溝は北側で途切れ、不明瞭となるがほぼ全周するものである。溝幅13~32cm、床面からの深さ5~12cmを測る。

柱穴 壁沿いに均等に配置されているP 8~14の7本が支柱穴であろう。平面形は隅丸長方形を呈し、長軸50~85cm、短軸38~50cm、床面からの深さ35~60cmを測る。またP 19とその周辺のピットは入り口施設に関連したものと考えられる。

炉跡 床面を掘り込んで設置した地床炉である。中央北寄りに位置する。拡張により何度か造り替えたと考えられる。平面形は不整形を呈し、長軸221cm、短軸185cm、床面からの深さ32cmを測る。

その他の施設 なし。

遺物検出状況 遺物は全体的に出土しており、特に上層での出土が多い。打製石斧関連の遺物が特に多い。床面直上の遺物は浅鉢(第73図15)、有孔鏝付土器(第73図16)である。また打製石斧関連の遺物が他の住居に比べ目立つ。

遺物 総出土量は土器片(個体含む)2,987点、石器(剝片含む)243点を数え、本調査区最大規模の住居跡であり、かつ遺物出土量もそれに反映している。そのうち土器65点、石器30点を図示し得た。土器は唐草文(曾利)系が主体を占めており、加曾利E式系は客体的である。石器組成は打製石斧類91(製品51・未製品3・整形剝片12・スクレイパー2・剝片23)、礫石器(軽石製品・その他含む)類38(敲石16・磨石5・凹石4・磨石+凹石7・石錘1・軽石製品4・垂飾1)、剝片石器類114(残核2・剝片106・石鏃2・石鏃未製品2・両面加工石器1・二次加工のある石器1)である。

SI10B

位置 2区西側、L-8グリッド。

重複関係 SI10A・SI11と重複し、SI11に切られ、SI10Aとは拡張関係を有する。

遺存状態 良好。

覆土 SI10Aにより失われている。

平面形態と規模 平面形は円形を呈し、径5.75~5.80m、床面積22.6m²の規模を有する。

主軸方位 N-3°-E

床面 直床式で、南側に緩やかに傾斜している。全体的に軟弱である。また SI11の床面とのレベル差はほとんど認められない。

壁・壁溝 壁高は完全に失われ、壁溝で規模を推定できるのみである。壁溝は全周し、溝幅15~35cm、床面からの深さ9~17cmを測る。

柱穴 壁沿いに均等に配置されているP 1~7の7本が支柱穴であろう。平面形は隅丸長方形を呈し、長軸52~70cm、短軸32~45cm、床面からの深さ37~52cmを測る。

炉跡 SI10Aと共有する。おそらく再構築を繰り返しており、原形は不明である。

その他の施設 なし。

遺物 SI10Aの遺物との区別は困難でSI10Aに包括した。

備考 住居東半の支柱穴は3本対で認められる。(P 3・P10・P16やP 4・P11・P17など)ことから、SI10B→SI10Aの間に規模を変えない建て替えがあったことが想定される。

SI11 (第69~71・79図/PL.9・10・24)

位置 2区西側、L-7・8グリッド。

重複関係 SI10A・Bと重複し、これらを切る。

遺存状態 良好。

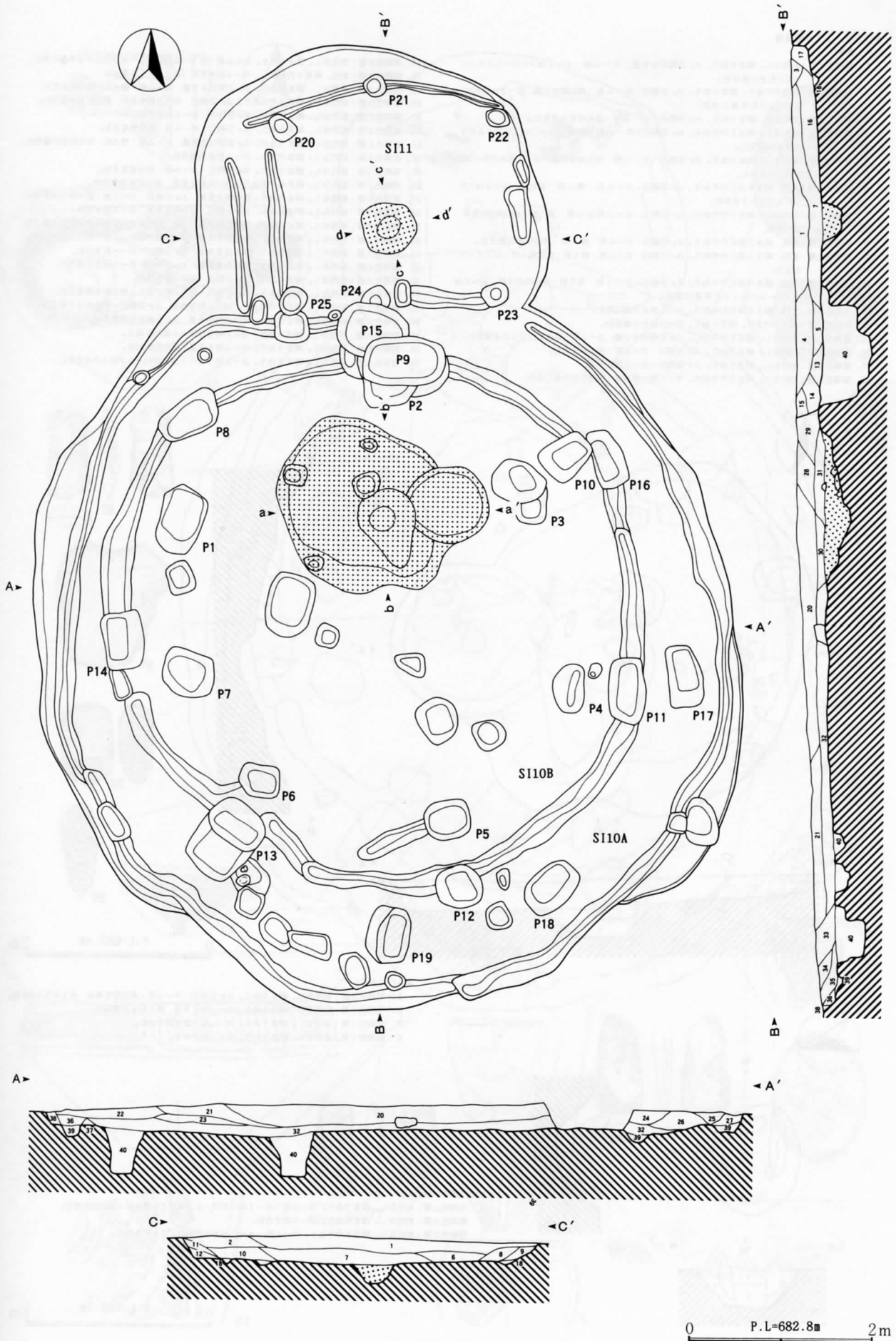
覆土 暗褐色土を基調とし、自然堆積を示している。

平面形態と規模 平面形は不整円形を呈し、長軸3.80m、短軸3.67m、床面積10.4m²の規模を有する。

主軸方位 N-5°-W

床面 直床式で南側へ緩やかに傾斜している。南側は軟弱であるが北側は被熱により堅く締まっている。

壁・壁溝 壁高はいずれも20~22cmを測り、外傾して立ち上がっている。本住居跡では支柱穴を連結する溝が検出されている。住居の平面プランに反して

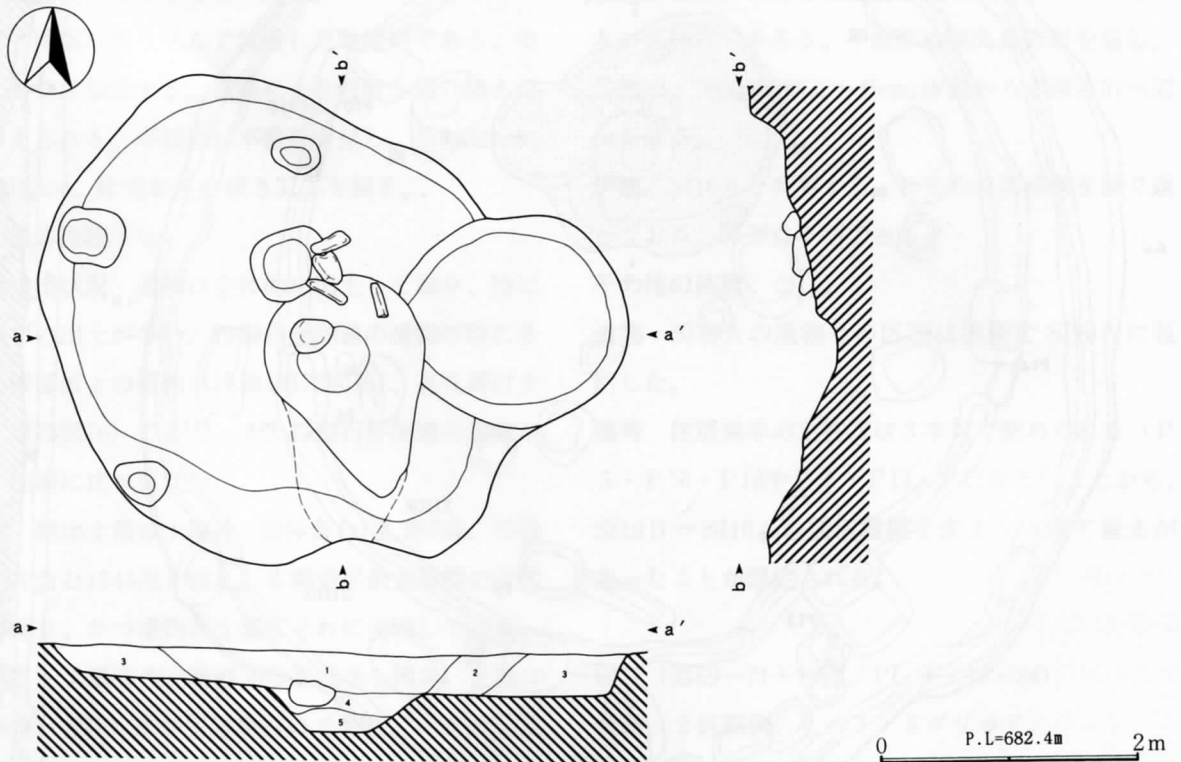


第69図 SI10・11実測図1

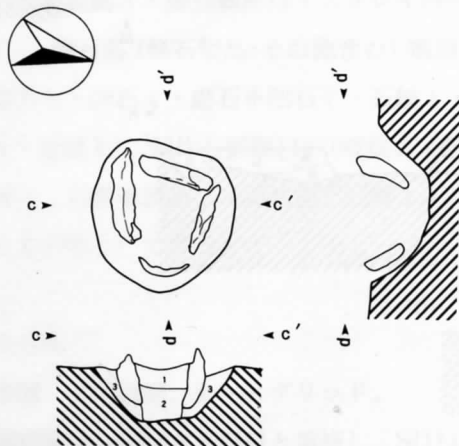
III章 検出された遺構と遺物

SI10・11土層説明 AA'BB'

1. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。As-D軽石を多量、ローム粒・φ~1cm大のロームブロック・炭化粒を少量含む。
2. 暗褐色土層：粘性ややあり。締まりあり。As-D軽石・ローム粒・炭化粒を少量、φ~2cm大のロームブロックを多量に含む。
3. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。As-D軽石・ローム粒・炭化粒を少量含む。
4. 暗褐色土層：粘性なし。締まりややあり。As-D軽石・ローム粒を多量、φ~1cm大のロームブロックを少量含む。
5. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。As-D軽石・ローム粒・炭化粒を多量、φ~1cm大のロームブロックを含む。
6. 暗褐色土層：粘性、締まり共にややあり。As-D軽石・ローム粒・焼土粒・炭化粒・φ~2cm大のロームブロックを含む。
7. 暗褐色土層：粘性なし。締まりややあり。As-D軽石・ローム粒を少量、焼土粒・炭化粒(材)を多量に含む。
8. 明褐色土層：粘性、締まり共にややあり。As-D軽石・ローム粒・焼土粒・炭化粒を少量含む。
9. 暗褐色土層：粘性、締まり共にややあり。As-D軽石・ローム粒・焼土粒・炭化粒・ロームブロックを含む。
10. 暗褐色土層：粘性、締まり共にややあり。As-D軽石・ローム粒・焼土粒・炭化粒を少量、φ~2cm大のロームブロックを多量に含む。
11. 明褐色土層：粘性、締まり共にややあり。ローム粒を多量に含む。
12. 明褐色土層：粘性ややあり。締まりあり。ローム粒を少量含む。
13. 暗褐色土層：粘性なし。締まりややなし。As-D軽石を少量、ローム粒・ロームブロックを含む。
14. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。As-D軽石・ローム粒・炭化粒を含む。
15. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。As-D軽石・ローム粒を含む。
16. 暗褐色土層：粘性なし。締まりややあり。ローム粒・焼土粒・炭化粒を多量に含む。
17. 明褐色土層：粘性なし。締まりあり。ローム粒・φ1~2cm大のロームブロックを多量に含む。
18. 明褐色土層：粘性、締まり共になし。ローム粒を含む(以上SI11覆土)。
19. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。As-D軽石を多量、ローム粒・焼土粒・炭化粒を含む。
20. 暗褐色土層：粘性なし。締まりややあり。As-D軽石・ローム粒を含み、炭化粒を少量含む。
21. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。As-D軽石・ローム粒を含む。
22. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。As-D軽石・ローム粒・炭化粒を含む。
23. 明褐色土層：粘性なし。締まりあり。As-D軽石を多量、ローム粒・焼土粒・炭化粒を少量含む。
24. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。ローム粒を少量含む。
25. 明褐色土層：粘性なし。締まりあり。As-D軽石・ローム粒・炭化粒を含む。
26. 明褐色土層：粘性なし。締まりややあり。ローム粒を多量、炭化粒を微量含む。
27. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。炭化粒を多量、As-D軽石・ローム粒・焼土粒を少量含む。
28. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。As-D軽石・炭化粒を多量、ローム粒を含む。
29. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。炭化粒を多量、As-D軽石・ローム粒・焼土粒を少量含む。
30. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。炭化粒を多量、As-D軽石・ローム粒を含む。
31. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。炭化粒を多量、As-D軽石・ローム粒を含む。
32. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。炭化粒を多量、As-D軽石・ローム粒を少量含む。
33. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。As-D軽石・ローム粒を含む。
34. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。As-D軽石・ローム粒を含み、焼土粒を微量含む。
35. 明褐色土層：粘性なし。締まりややあり。ローム粒を多量、As-D軽石・炭化粒を少量含む。
36. 明褐色土層：粘性なし。締まりあり。ローム粒を多量、As-D軽石を微量含む。
37. 明褐色土層：粘性なし。締まりあり。全体の80%がローム粒から成る。
38. 明褐色土層：粘性なし。締まりあり。ローム粒を多量、炭化粒を含む。
39. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。ローム粒・φ~1cm大のロームブロックを含む。

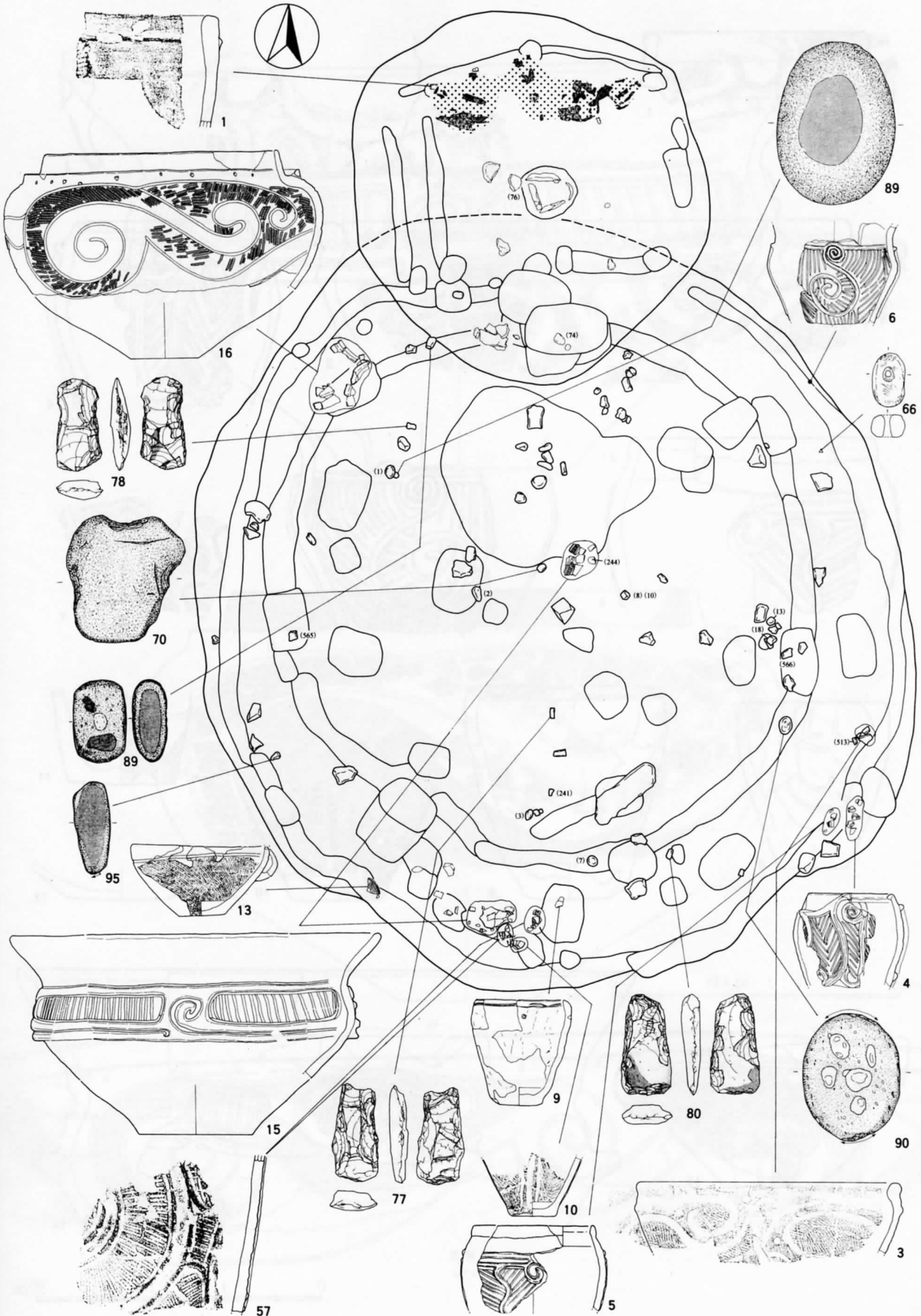


- aa' (伊1)
1. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。As-D軽石・ローム粒・炭化粒を含み、焼土粒を少量含む。
 2. 明褐色土層：粘性なし。締まりあり。ローム粒を多量、炭化粒を少量含む。
 3. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。ローム粒・炭化粒を含む。
 4. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。ローム粒を含む。

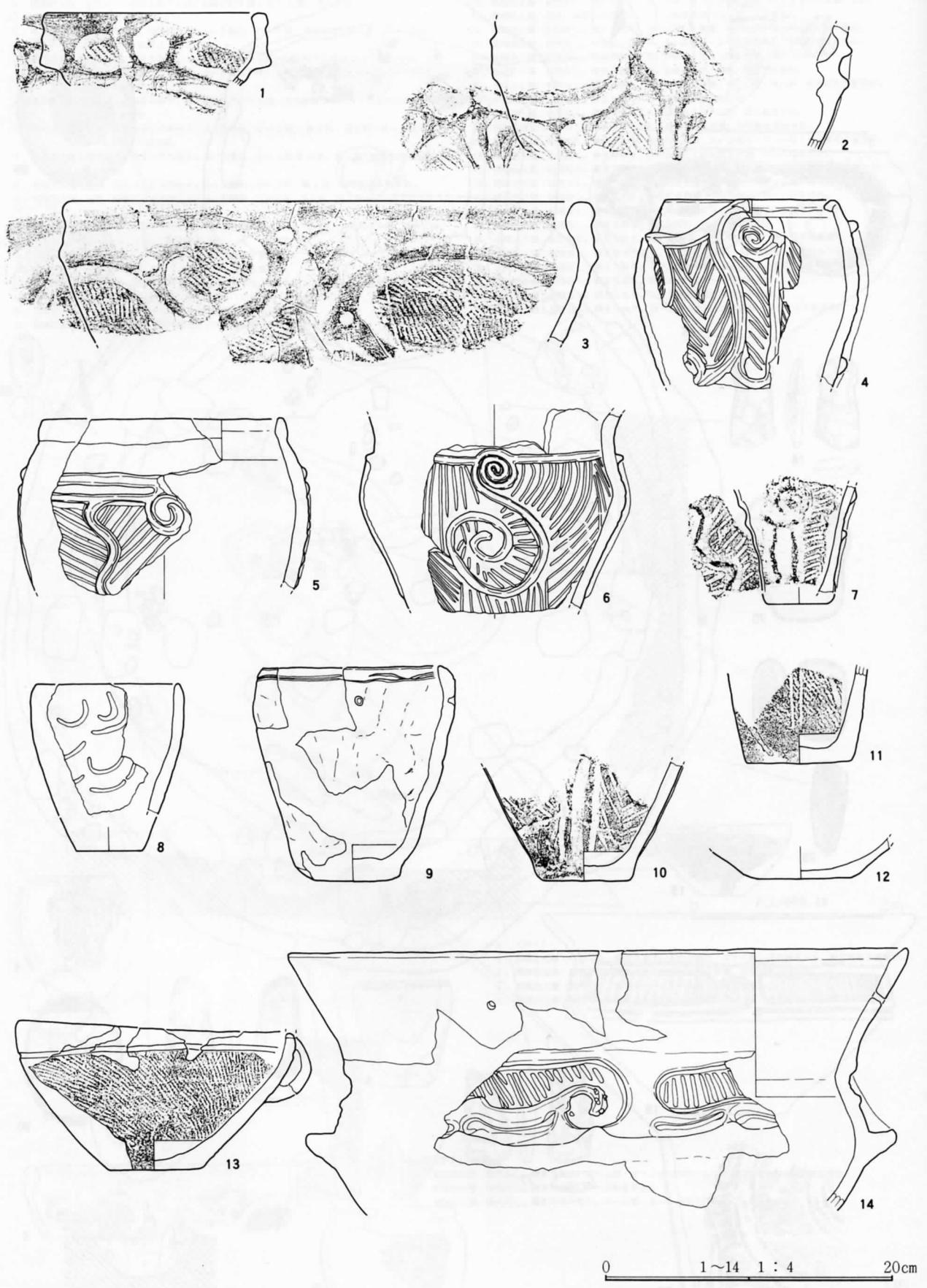


- cc' (伊2)
1. 明褐色土層：粘性なし。締まりあり。ローム粒・φ~1cm大のロームブロック・焼土粒・炭化粒を含む。
 2. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。ローム粒を含む。
 3. 明褐色土層：粘性なし。締まりややなし。ローム粒・φ~1cm大のロームブロックを含む。

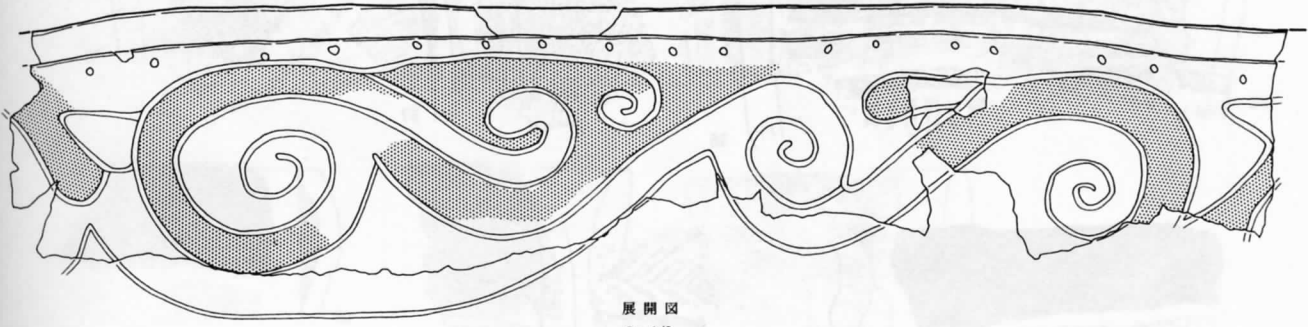
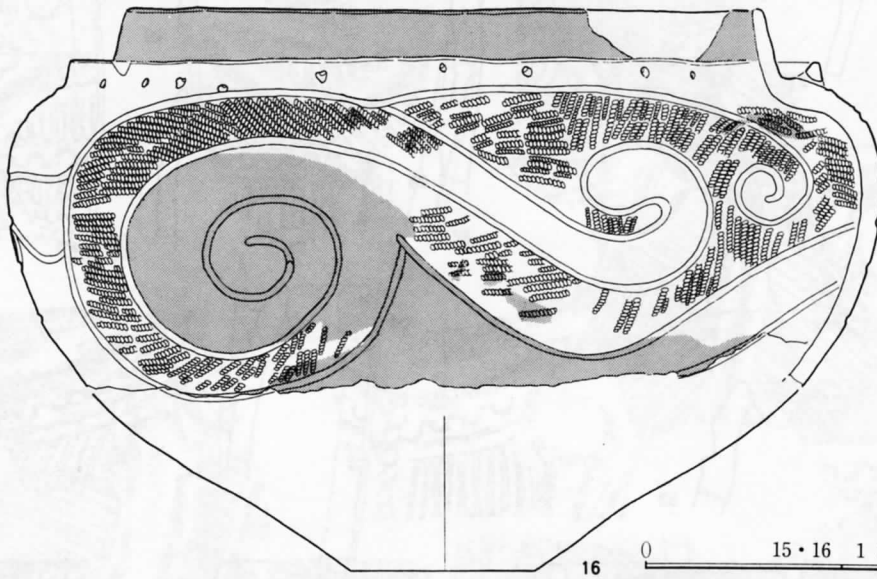
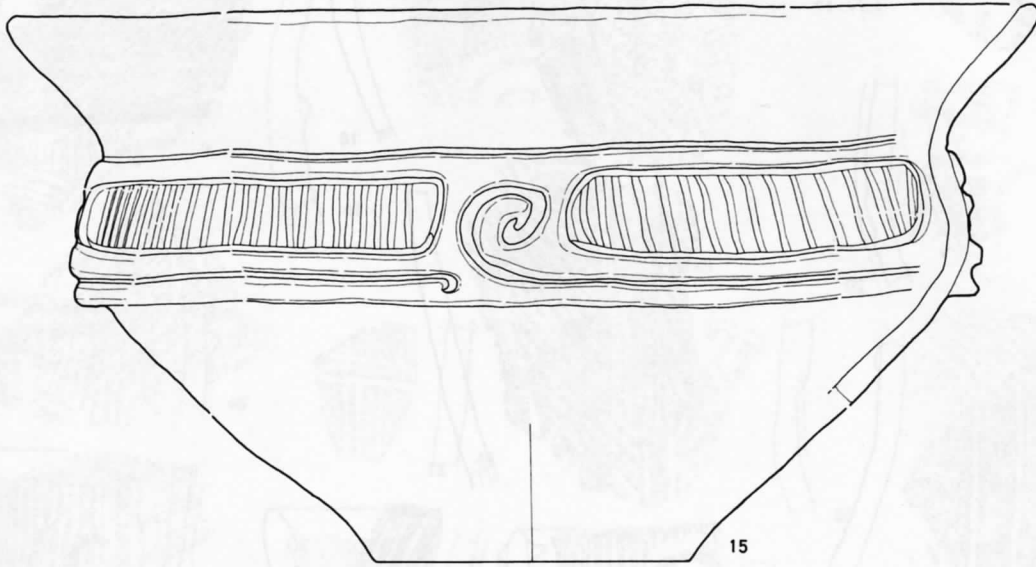
第70図 SI10・11実測図2



第71図 SI10・11遺物出土状況図



第72図 SI10出土遺物実測図1

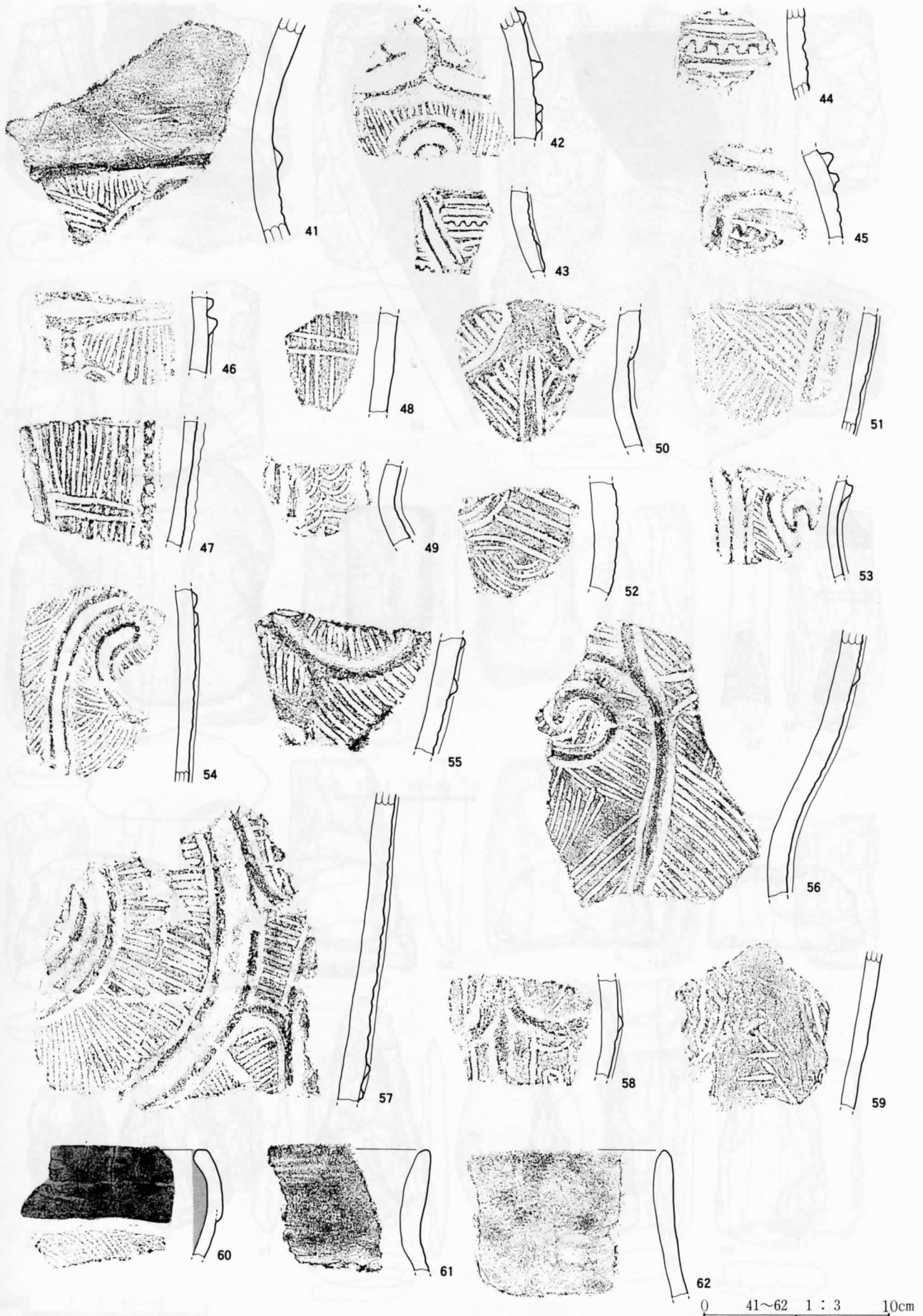


展開図
S=1/8

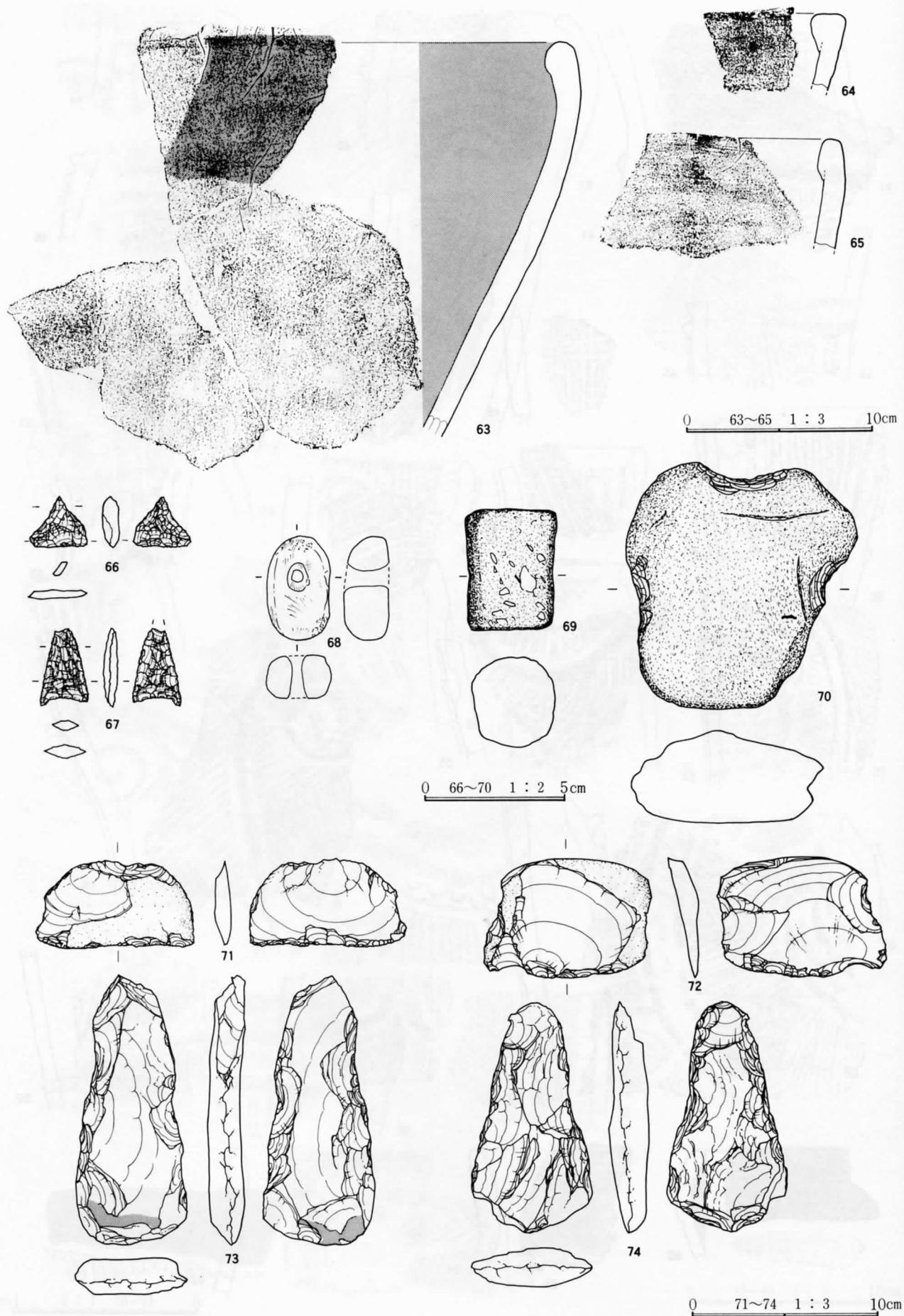
第73図 SI10出土遺物実測図2



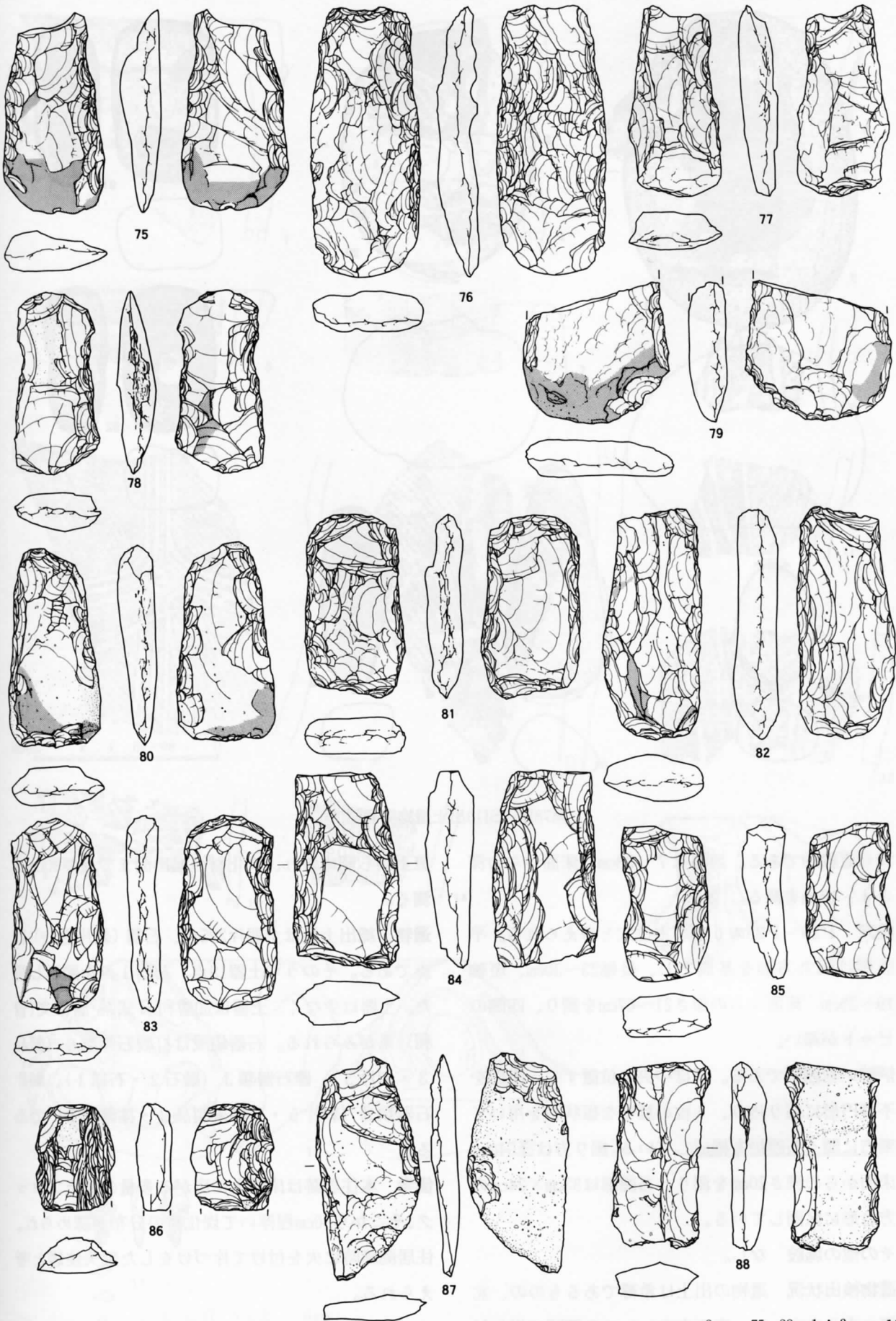
第74図 SI10出土遺物実測図3



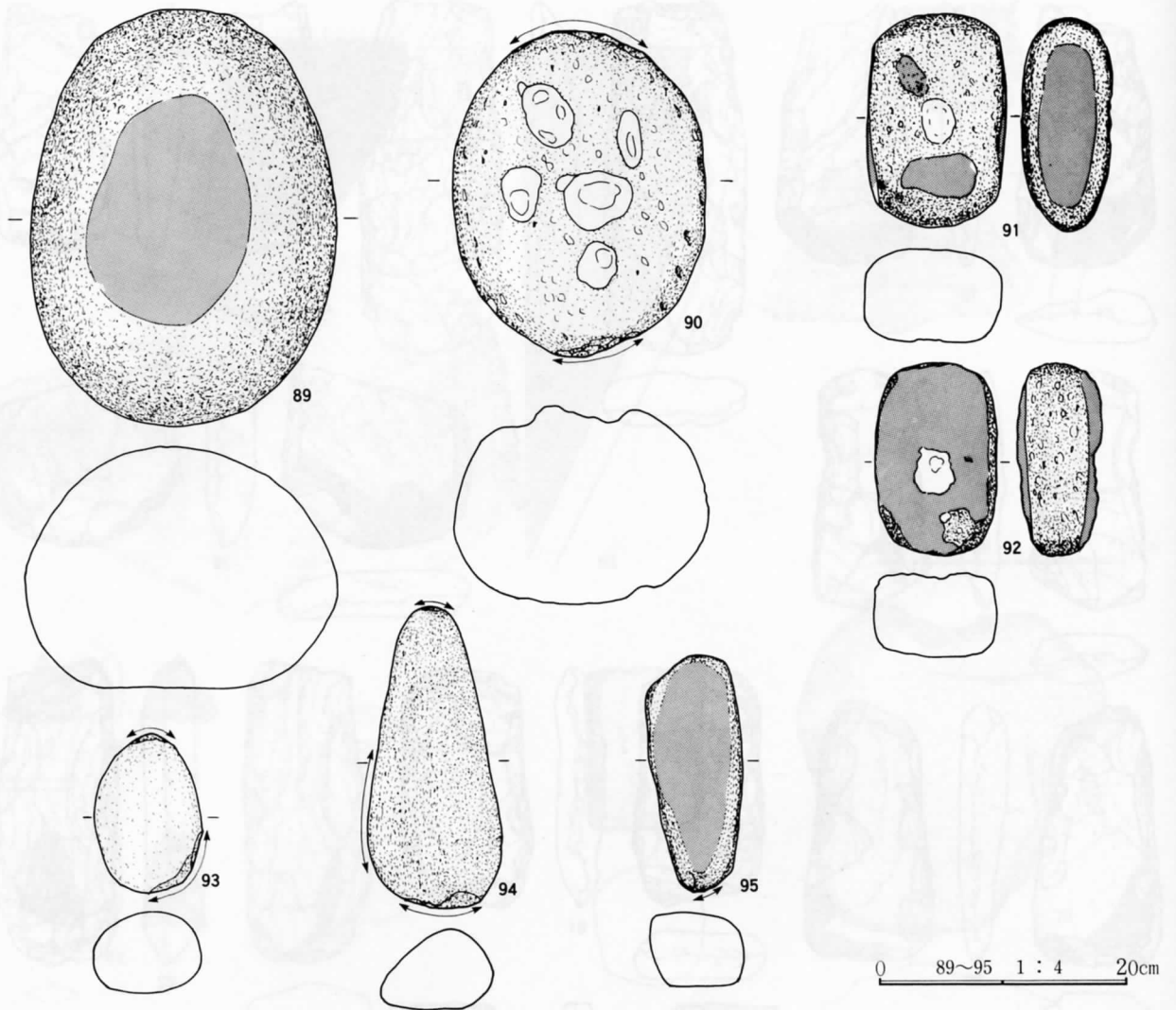
第75図 SI10出土遺物実測図4



第76図 SI10出土遺物実測図5



第77図 SI10出土遺物実測図6



第78図 SI10出土遺物実測図7

溝は直線的である。溝幅は7~23cm、床面からの深さ4~10cmを測る。

柱穴 P20~P25の6本が支柱穴と考えられる。平面形は隅丸方形を基調とし、長軸23~30cm、短軸19~25cm、床面からの深さ21~67cmを測り、四隅のピットが深い。

炉跡 石囲炉である。ほぼ中央に位置する。床面を不整円形に掘り込み、4枚の扁平な板状石を用いて東方に開く石囲炉を構成している。掘り方は径54cm、床面からの深さ20cmを測り、石囲部は33cm×24cmの方台形に区画している。

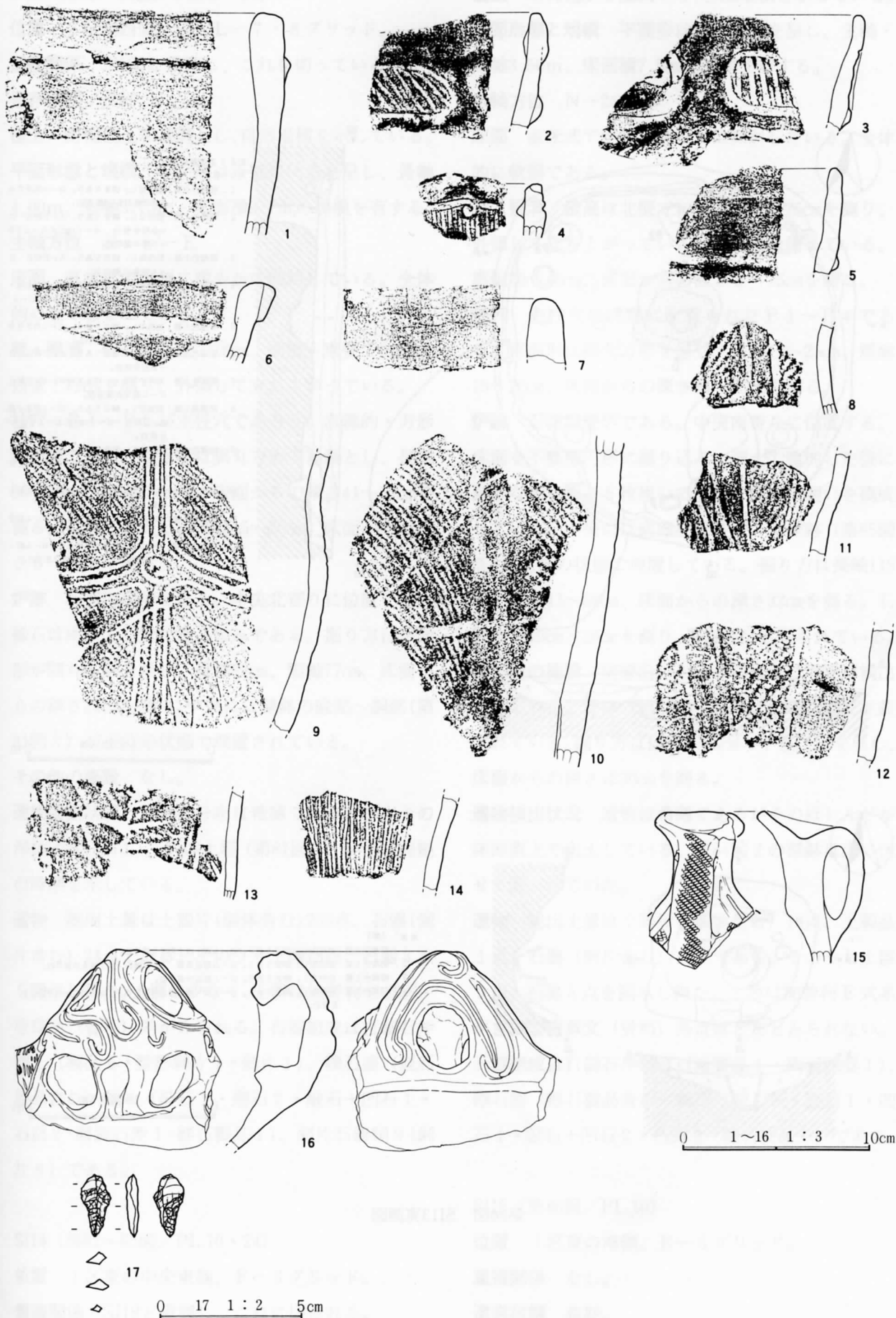
その他の施設 なし。

遺物検出状況 遺物の出土は希薄であるものの、北側の南北方向1.2m、東西方向2.2mの範囲で炭化材を多量に含む焼土ブロックが検出されている。床面

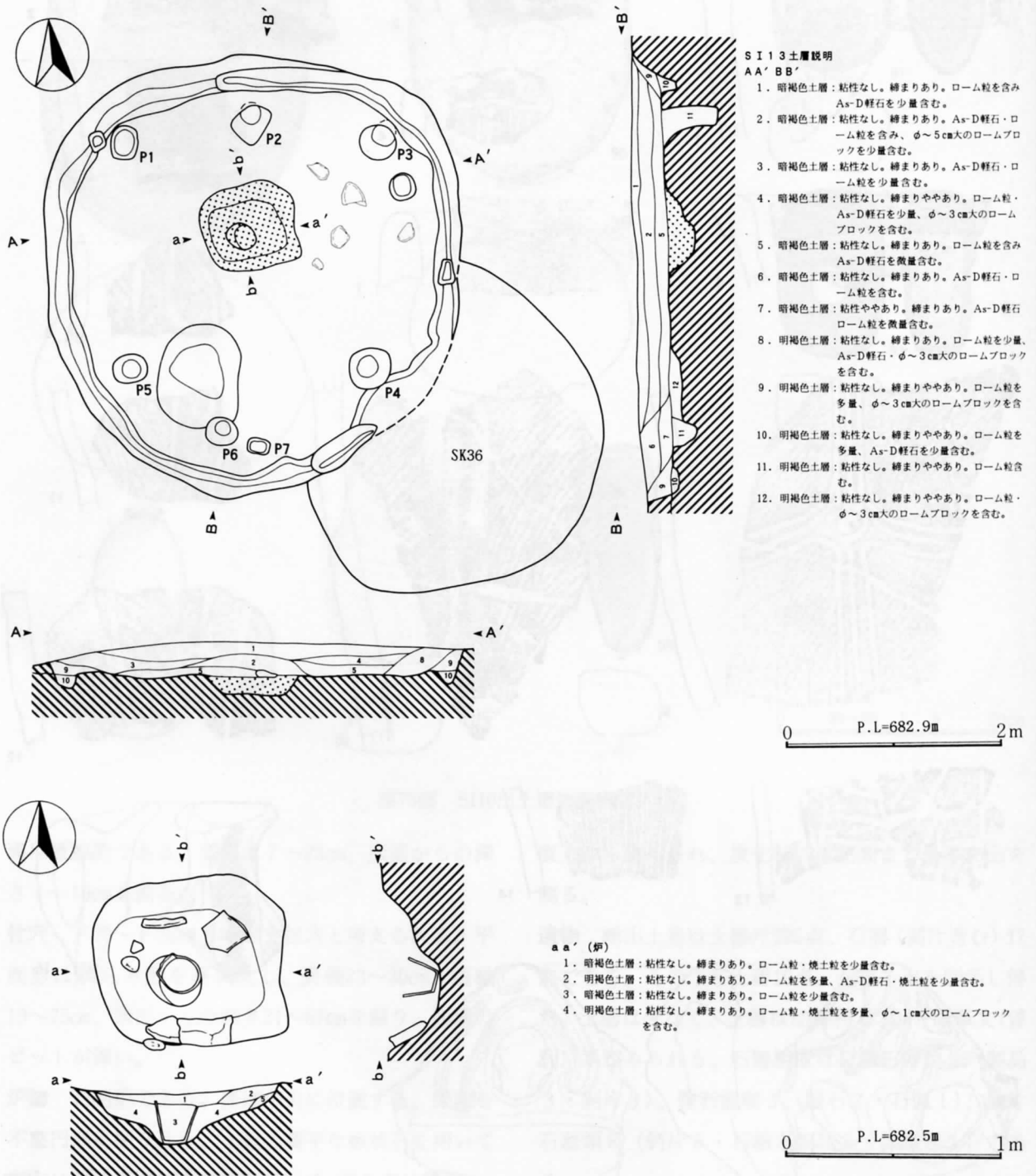
直上から認められ、炭化材の検出面まで最厚30cmを測る。

遺物 総出土量は土器片225点、石器(剥片含む)17点である。そのうち土器19点、石器1点を図示し得た。土器は少なく、土器は加曾利E式系・唐草文(曾利)系がみられる。石器組成は打製石斧類6(製品3・剥片3)、礫石器類3(敲石2・石皿1)、剥片石器類8(剥片5・石鏃未製品2・揉錐器1)である。

備考 本住居跡は床面上に広がる多量の焼土ブロック、そこから30cm程浮いて炭化材の分布が認められ、住居廃絶時に火を付けて片づけをした焼失住居と考えられる。



第79図 SI11出土遺物実測図



第80図 SI13実測図

SI13 (第80・81図/PL.9・24)

位置 2区北西側、K・L-7・8グリッド。

重複関係 SK36と重複し、これを切っている。

遺存状態 良好。

覆土 暗褐色土を基調とし、自然堆積を示している。

平面形態と規模 平面形は不整楕円形を呈し、長軸4.00m、短軸3.75m、床面積9.7㎡の規模を有する。

主軸方位 N-8°-E

床面 直床式で西側に緩やかに傾斜している。全体的に堅く締まっている。

壁・壁溝 壁高は北壁で26cm、南壁・東壁で20cm、西壁で12cmを測り、外傾して立ち上がっている。

柱穴 P1~P5が支柱穴であろう。直線的・方形の配置である。平面形は隅丸方形を基調とし、長軸30~35cm、短軸25cm程、床面からの深さ41~51cmを測る。壁溝は全周し、溝幅15~20cm、床面からの深さ6~17cmを測る。

炉跡 石囲埋甕炉である。中央北寄りに位置する。縁石は南壁と北壁に残るのみである。掘り方は平面形が隅丸方形を呈し、長軸82cm、短軸77cm、床面からの深さ24cmを測る。中央には深鉢の底部~胴部(第81図3)が正位の状態に埋置されている。

その他の施設 なし。

遺物検出状況 遺物の分布は希薄である。炉出土の深鉢(第81図1)、炉体土器(第81図3)が住居廃絶の時期を示している。

遺物 総出土量は土器片(個体含む)205点、石器(剥片含む)24点である。そのうち土器18点、石器4点を図示し得た。土器は少なく、土器は加曽利E式系・唐草文(曾利)系がみられる。石器組成は打製石斧類7(製品5・整形剥片1・剥片1)、礫石器(軽石製品含む)類8(敲石1・磨石2・敲石+凹石1・石皿2・磨製石斧1・軽石製品1)、剥片石器類9(剥片9)である。

SI14 (第82~85図/PL.10・24)

位置 1区東の中央東側、F-3グリッド。

重複関係 SI19と重複し、これに切られる。

遺存状態 良好。

覆土 暗褐色土を基調とし、自然堆積を示している。

平面形態と規模 平面形は隅丸方形を呈し、主軸・副軸3.50m、床面積7.5㎡の規模を有する。

主軸方位 N-24°-W

床面 直床式で南側に緩やかに傾斜している。全体的に軟弱である。

壁・壁溝 壁高は北壁で10cm、西壁で25cmを測り、外傾して立ち上がっている。壁溝は全周している。溝幅20~45cm、床面からの深さ6~15cmを測る。

柱穴 支柱穴は四隅に配置されたP1~P4である。平面形は隅丸方形を呈し、長軸19~25cm、短軸15~20cm、床面からの深さ44~65cmを測る。

炉跡 石囲埋甕炉である。中央南寄りに位置する。床面を不整楕円形に掘り込み、埋土で整地した後に扁平な板状石を5枚用いて南方に開く石囲いを構成している。中央には底部を打ち欠いた深鉢(第85図5)を正位の状態に埋置している。掘り方は長軸115cm、短軸43~68cm、床面からの深さ32cmを測る。石囲部は40cm×26cmを測り、長方形に区画されている。

その他の施設 南壁沿いの入り口付近に埋甕が検出されている。深鉢(第84図1)が正位の状態に埋置されている。掘り方は径32~34cmの不整円形を呈し、床面からの深さは30cmを測る。

遺物検出状況 遺物は希薄であるがそのほとんどが床面直上で出土している。第84図2の深鉢は床に伏せて置かれていた。

遺物 総出土量は土器片(個体含む)18点、土製品1点、石器(剥片含む)14点である。そのうち土器9点、石器5点を図示し得た。土器は加曽利E式系が主体で唐草文(曾利)系はほとんどみられない。石器組成は打製石斧類2(未製品1・両刃礫器1)、礫石器(軽石製品含む)類12(敲石5・磨石1・凹石1・磨石+凹石2・石皿2・軽石製品1)である。

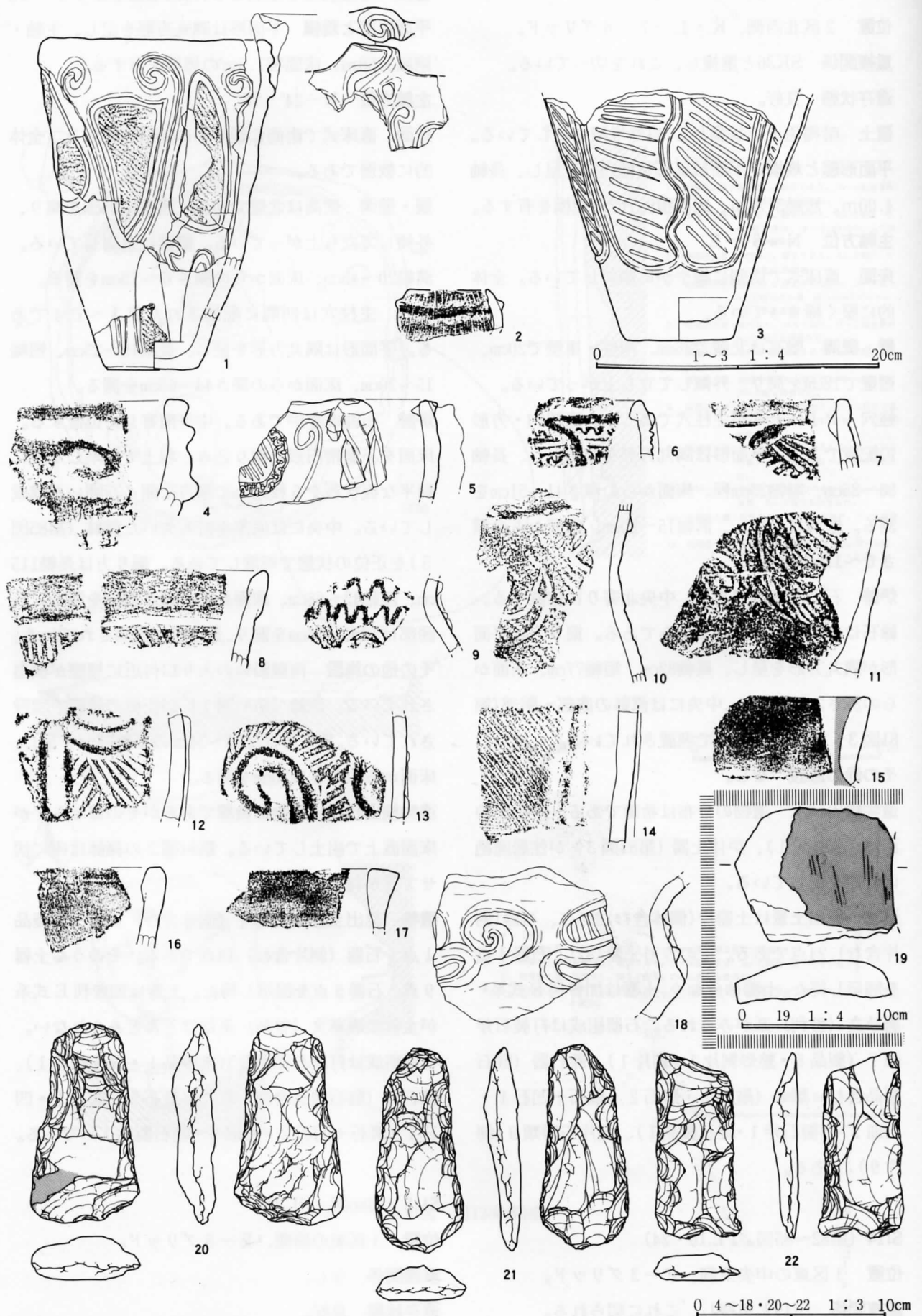
SI15 (第86図/PL.10)

位置 1区東の南側、E-5グリッド。

重複関係 なし。

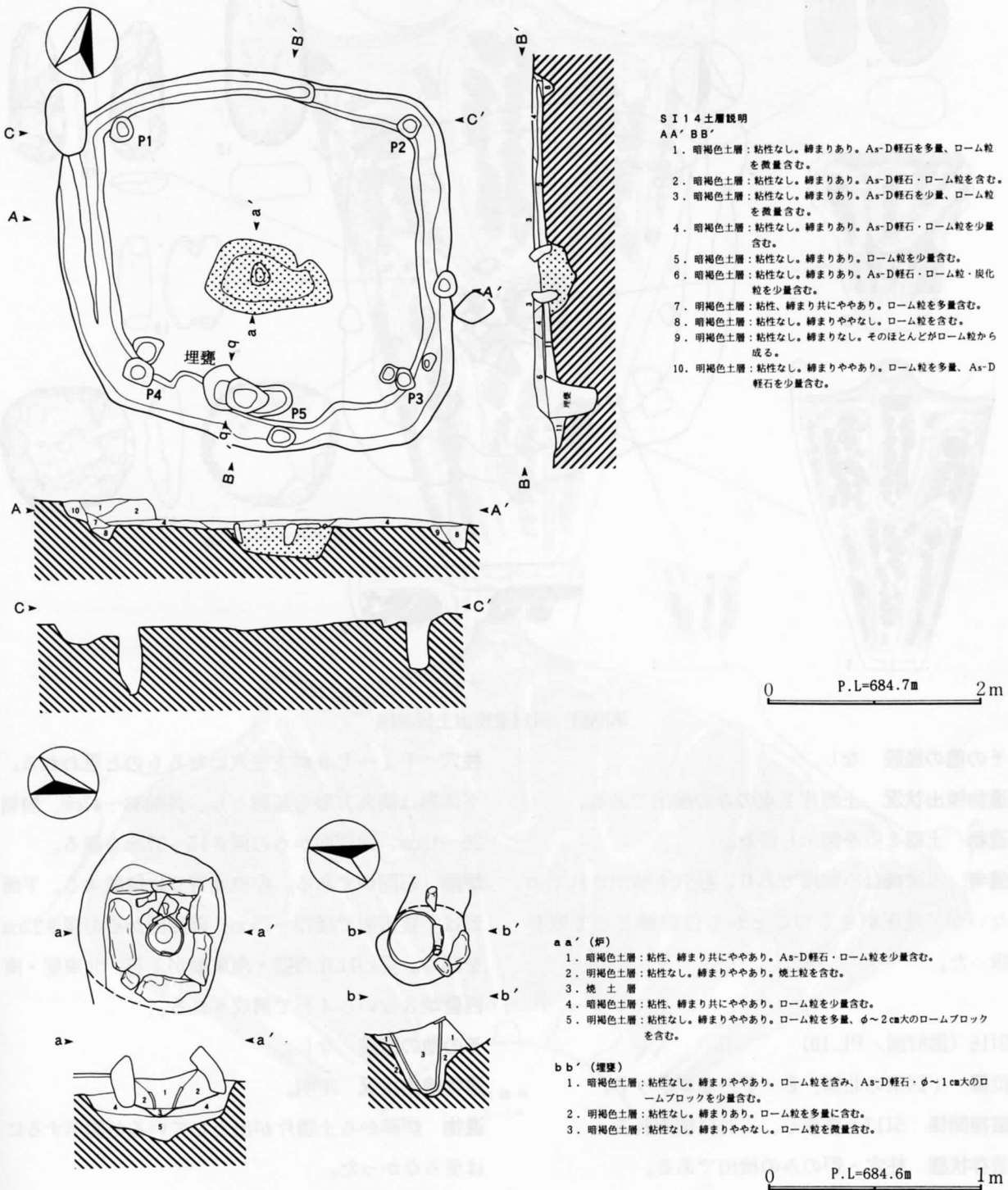
遺存状態 良好。

覆土 暗褐色土を基調とし、自然堆積を示している。



第81図 SI13出土遺物実測図

2. 縄文時代中期後半の遺構と遺物



第82図 SI14実測図

平面形態と規模 平面形は 楕円形を呈し、長軸2.51m、短軸2.30m、床面積4.1m²の規模を有する。

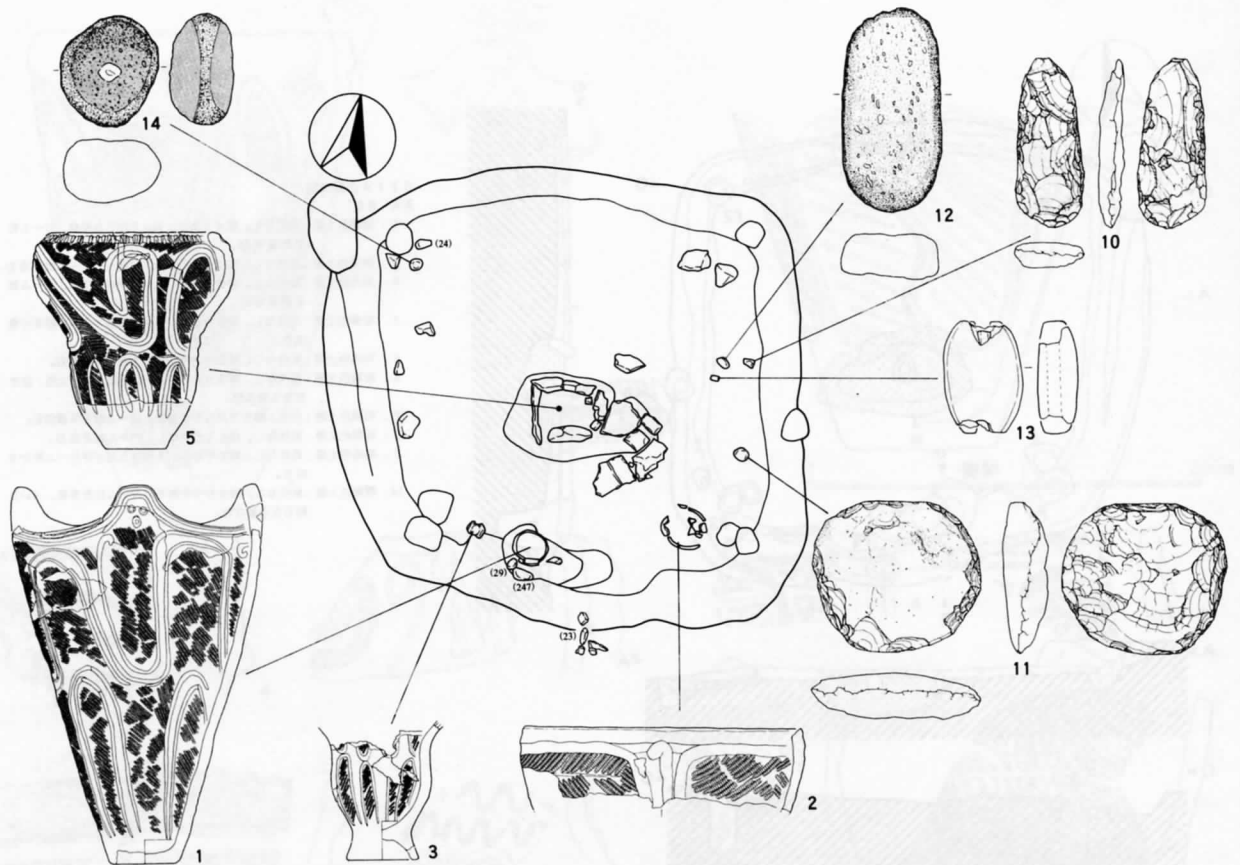
主軸方位 N-13°-W

床面 直床式でほぼ平坦である。全体的に軟弱である。

壁・壁溝 壁高は北壁で12cm、南壁で5cm、東西壁

で6~9cmを測り、外傾して立ち上がっている。
柱穴 なし。

炉跡 床面を掘り込んで設置した地床炉である。中央北寄りに位置する。平面形は不整楕円形を呈し、長軸65cm、短軸28~44cm、床面からの深さ23cmを測る。



第83図 SI14遺物出土状況図

その他の施設 なし。

遺物検出状況 土器片2点のみの検出である。

遺物 土器2点を図示し得た。

備考 本遺構は小規模であり、柱穴も検出されていないが、地床炉をもつことから住居跡として取り扱った。

柱穴 P1～P6が支柱穴になるものと思われる。

平面形は隅丸方形を基調とし、長軸33～47cm、短軸29～42cm、確認面からの深さ15～37cmを測る。

炉跡 石囲炉である。中央北寄りに位置する。平面形は不整形で径72～75cm、確認面からの深さ22cmを測る。縁石は北西壁・南東壁が1石、北東壁・南西壁が3ないし4石で構成される。

その他の施設 なし。

遺物検出状況 不明。

遺物 炉跡から土器片が出土しているが図示するには至らなかった。

備考 本遺構はSI17の掘り方で炉跡が検出されてからの住居跡認定だったため、諸属性を満たすデータは得られなかった。炉は機能していた痕跡が認められ、柱穴も巡ることから住居跡として取り扱った。

SI16 (第87図/PL.10)

位置 1区東の北側、E・F-2グリッド。

重複関係 SI17と重複し、これに切られる。

遺存状態 柱穴・炉のみの検出である。

覆土 なし。

平面形態と規模 平面形は不明だが 柱穴の配置から円形を基調とすると考えられ、長軸は5m程、短軸は4m程の規模になることが推測される。

主軸方位 N-8°-E

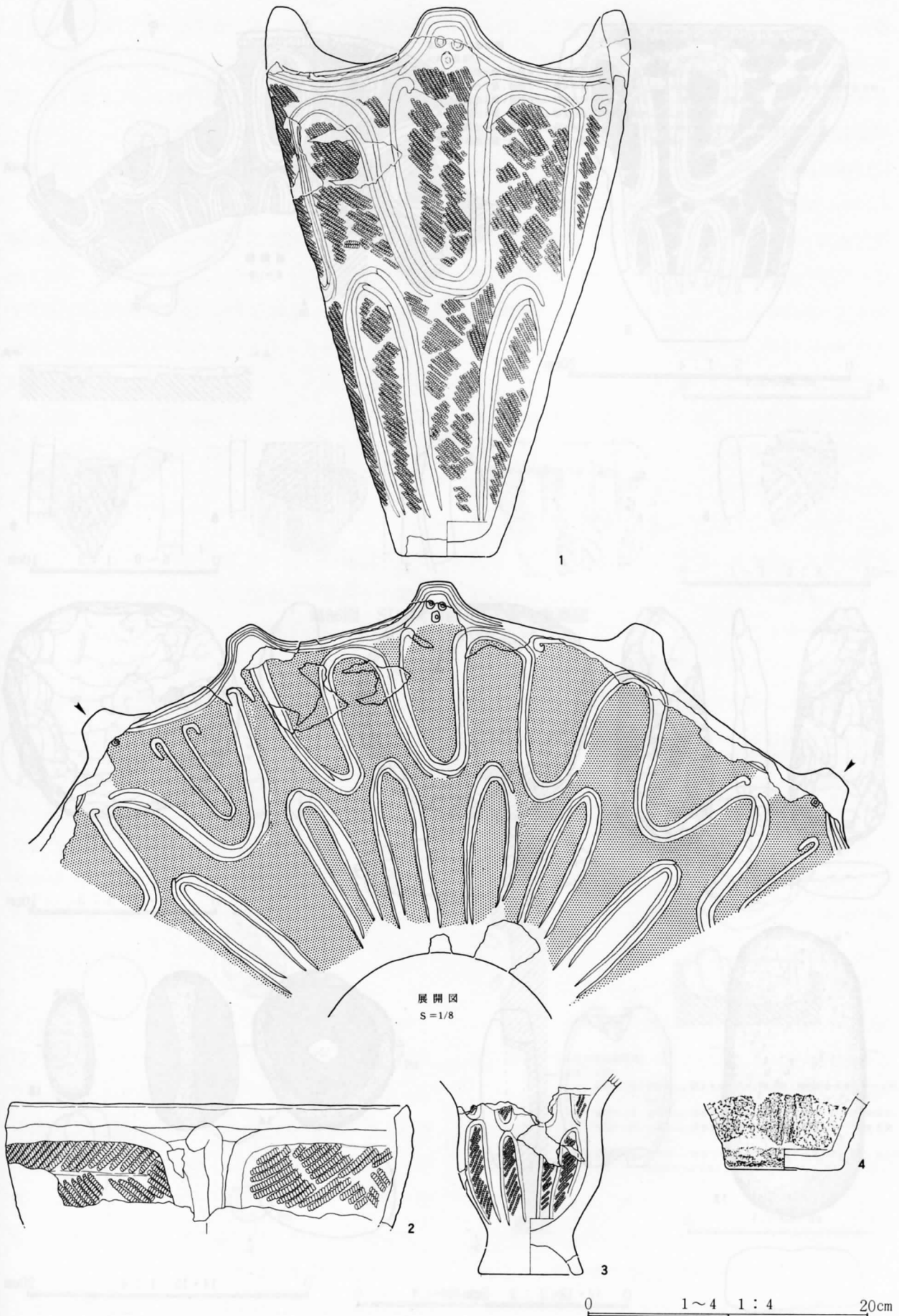
床面 ローム上での検出のため不明である。確認面は南側に緩やかに傾斜している。

壁・壁溝 不明である。

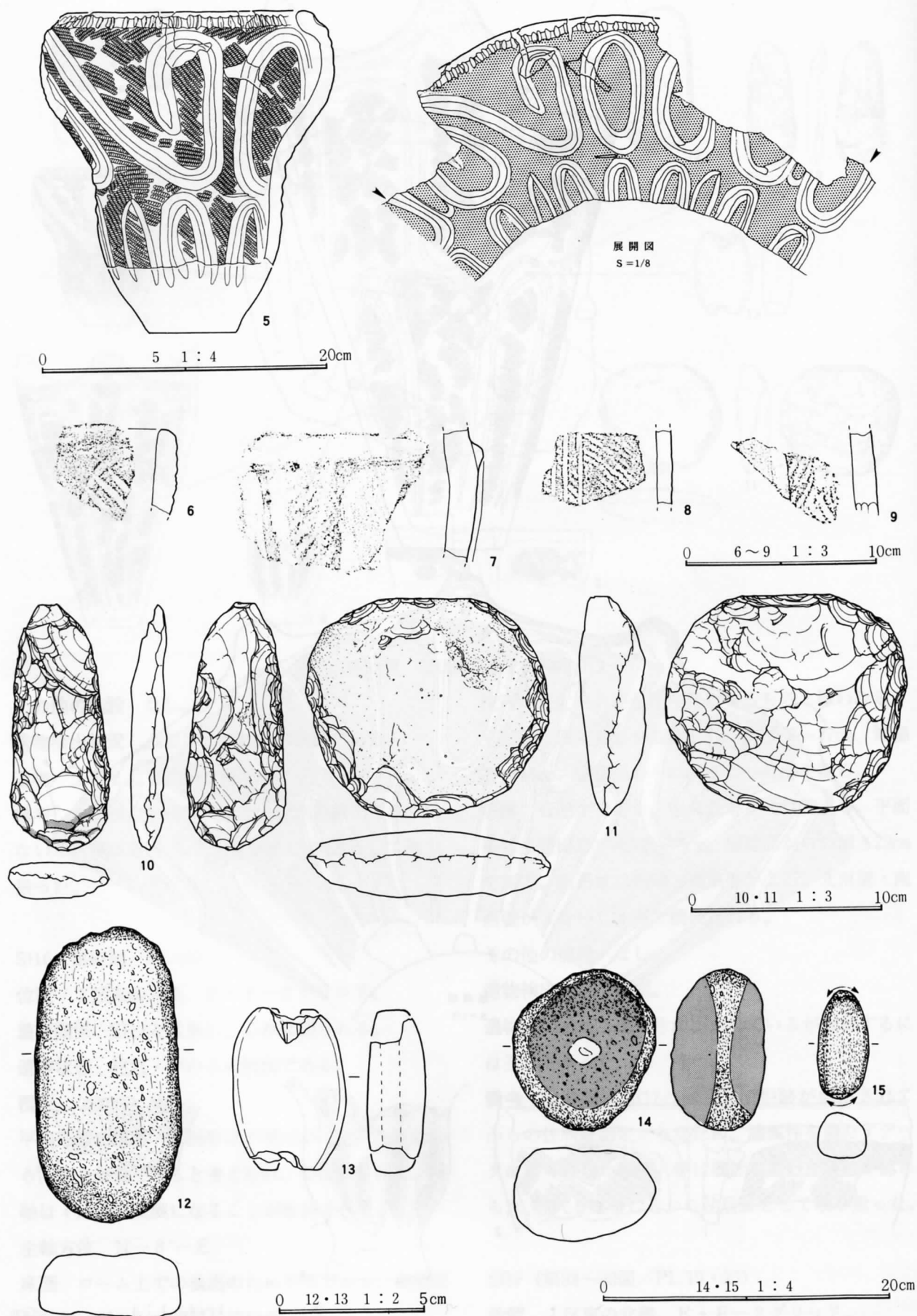
SI17 (第88～90図/PL.10・25)

位置 1区東の北側、E・F-2グリッド。

重複関係 SI16と重複し、これを切っている。

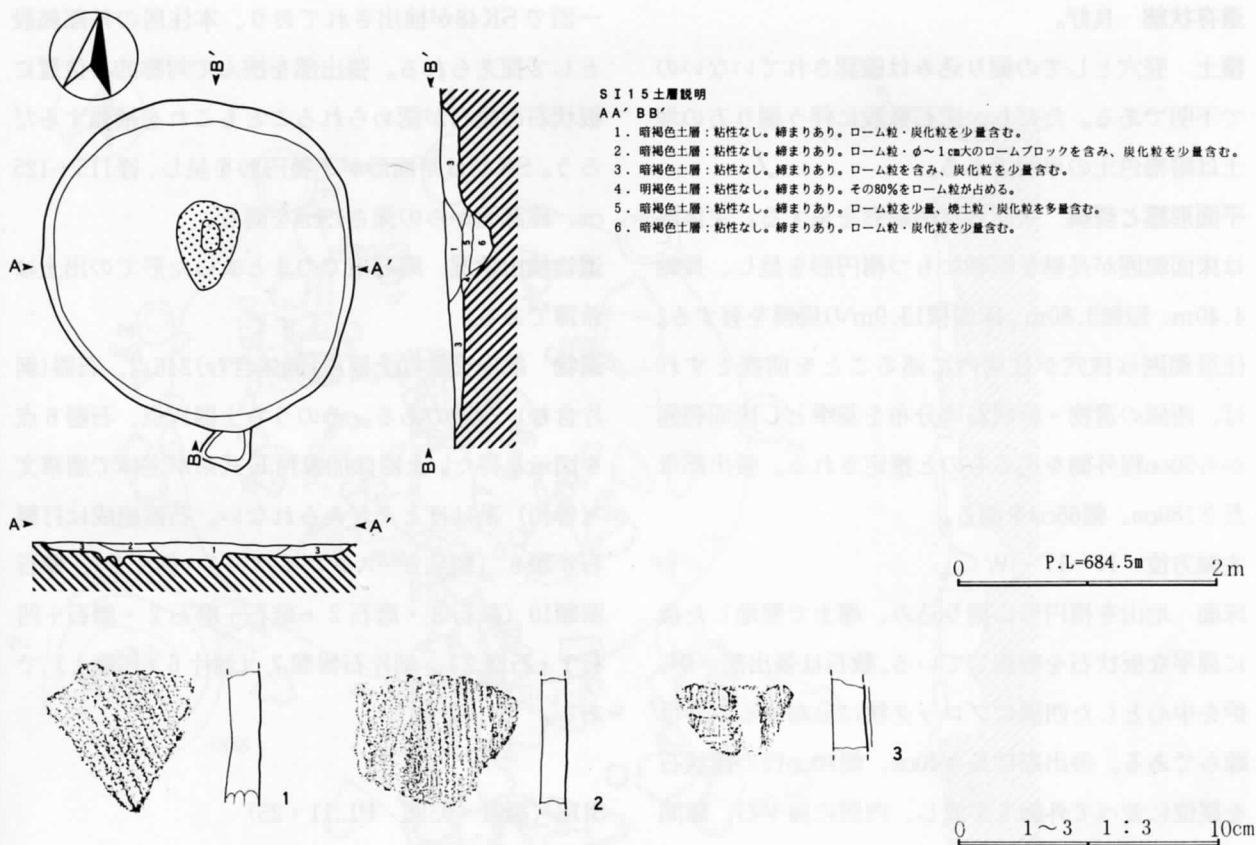


第84図 SI14出土遺物実測図1

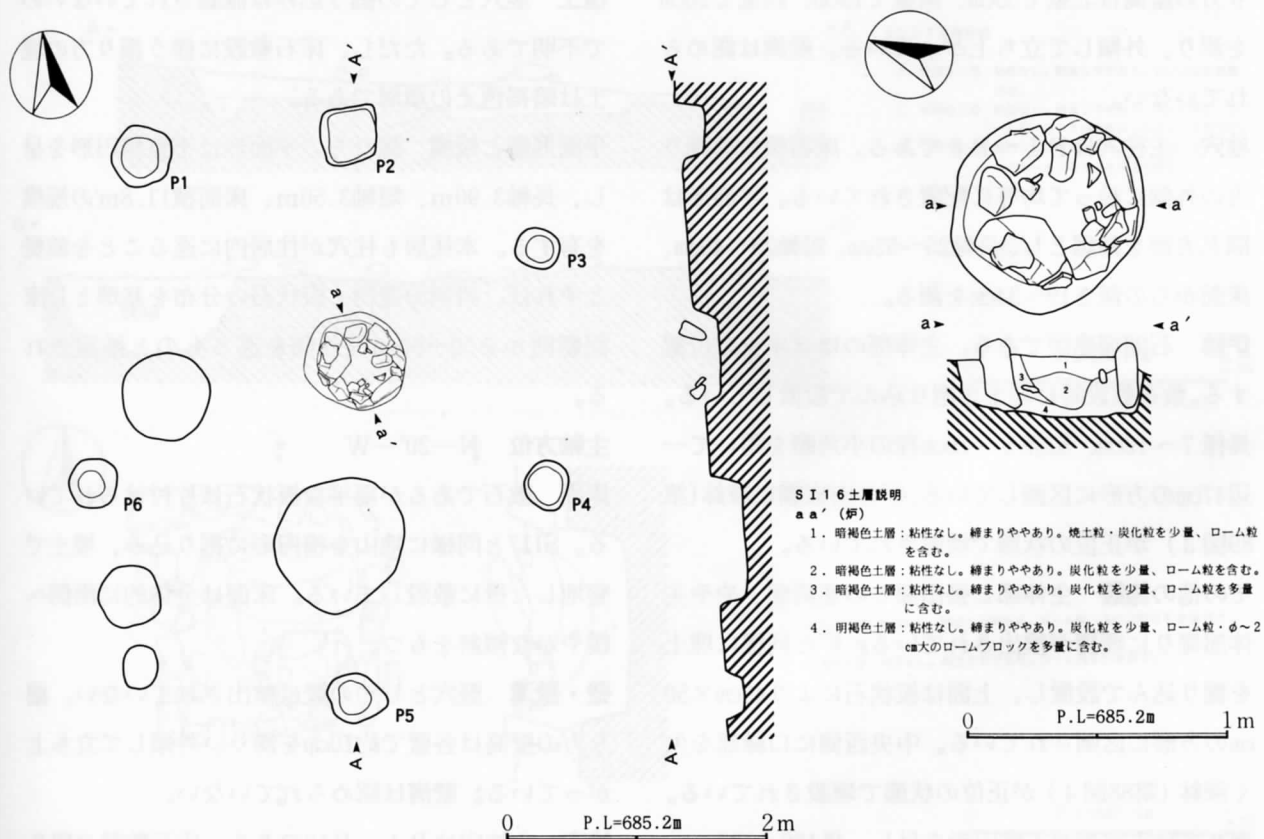


第85図 SI14出土遺物実測図2

2. 縄文時代中期後半の遺構と遺物



第86図 SI15実測図・出土遺物実測図



第87図 SI16実測図

遺存状態 良好。

覆土 堅穴としての掘り込みは確認されていないので不明である。ただし、床石敷設に伴う掘り方の埋土は暗褐色土の単層である。

平面形態と規模 平面形は柄鏡形を呈する。主体部は床面範囲が長軸を副軸にもつ楕円形を呈し、長軸4.40m、短軸3.80m、床面積13.9㎡の規模を有する。住居範囲は柱穴が住居内に巡ることを前提とすれば、西側の遺物・板状石の分布を基準とし床面範囲から50cm程外側を巡るものと推定される。張出部は長さ180cm、幅65cmを測る。

主軸方位 N-17°-W

床面 地山を楕円形に掘り込み、埋土で整地した後に扁平な板状石を敷設している。敷石は張出部～炉、炉を中心とした四隅にブロック状に分布する以外は疎らである。張出部は長さ40cm、幅10cm程の棒状石を縦位に並べて外縁を形成し、内側に扁平石、隙間に拳大の角礫を充填している。床面とのレベル差は-10cmを測る。

壁・壁溝 堅穴としての壁は検出されていない。掘り方の壁高は北壁で35cm、南壁で13cm、西壁で20cmを測り、外傾して立ち上がっている。壁溝は認められていない。

柱穴 主柱穴はP1～P8である。床石敷設の掘り方の外側に沿って均等に配置されている。平面形は隅丸方形を基調とし、長軸25～52cm、短軸25～45cm、床面からの深さ19～34cmを測る。

炉跡 石囲埋甕炉である。主体部のほぼ中央に位置する。敷石敷設時に埋土を掘り込んで設置している。長径7～12cm、短径5～10cm程の小角礫を用いて一辺47cmの方形に区画している。炉の南東隅に深鉢(第89図3)が正位の状態で見出されている。

その他の施設 主体部と張出部との連結部、やや主体部寄りに埋甕が検出されている。炉と同様に埋土を掘り込んで設置し、上面は板状石により45cm×50cmの方形に区画されている。中央西側に口縁部を欠く深鉢(第88図4)が正位の状態で見出されている。掘り方は平面形が不整形を呈し、径100～103cm、床面からの深さ50cmを測る。また住居の南東側の同

一面でSK48が検出されており、本住居の外部施設として捉えられる。張出部を挟んで対称的な位置に板状石の集石が認められることもこれを補強するだろう。SK43は平面形が不整形を呈し、径115～125cm、確認面からの深さ19cmを測る。

遺物検出状況 床石上でのまとまった形での出土は希薄である。

遺物 総出土量は土器片(個体含む)246点、石器(剥片含む)23点である。そのうち土器17点、石器6点を図示した。土器は加曾利E式系が主体で唐草文(曾利)系はほとんどみられない。石器組成は打製石斧類6(製品3・スクレイパー1・剥片2)、礫石器類10(敲石3・磨石2・敲石+磨石2・磨石+凹石1・石皿2)、剥片石器類7(剥片6・石鏃1)である。

SI18 (第91～93図/PL.11・25)

位置 1区東の北東側、F-2グリッド。

重複関係 SI20と重複し、これに切られる。

遺存状態 良好。

覆土 堅穴としての掘り込みは確認されていないので不明である。ただし、床石敷設に伴う掘り方の埋土は暗褐色土の単層である。

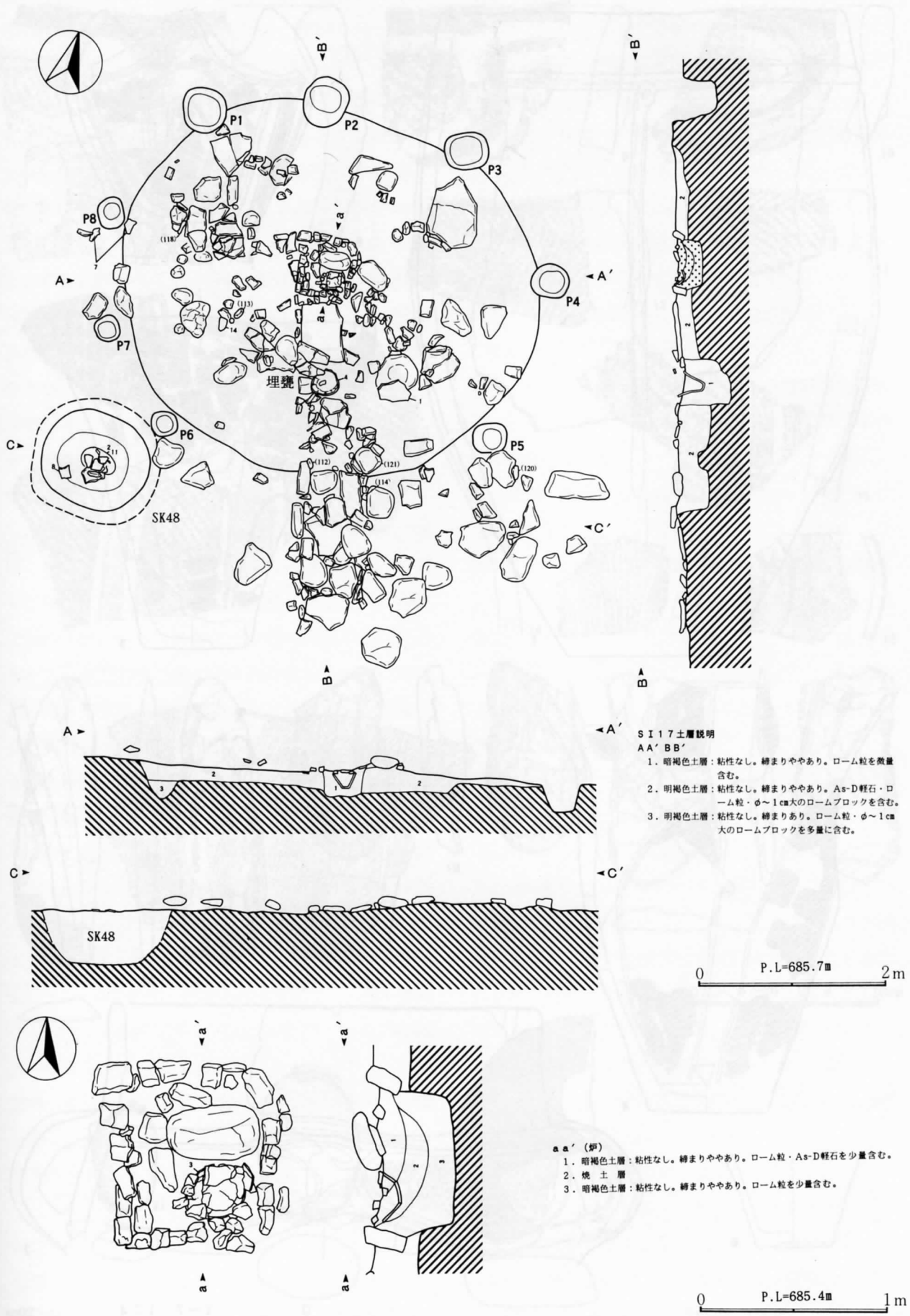
平面形態と規模 掘り方の平面形は不整形楕円形を呈し、長軸3.90m、短軸3.50m、床面積11.8㎡の規模を有する。本住居も柱穴が住居内に巡ることを前提とすれば、西側の遺物・板状石の分布を基準とし床面範囲から50～60cm程外側を巡るものと推定される。

主軸方位 N-20°-W

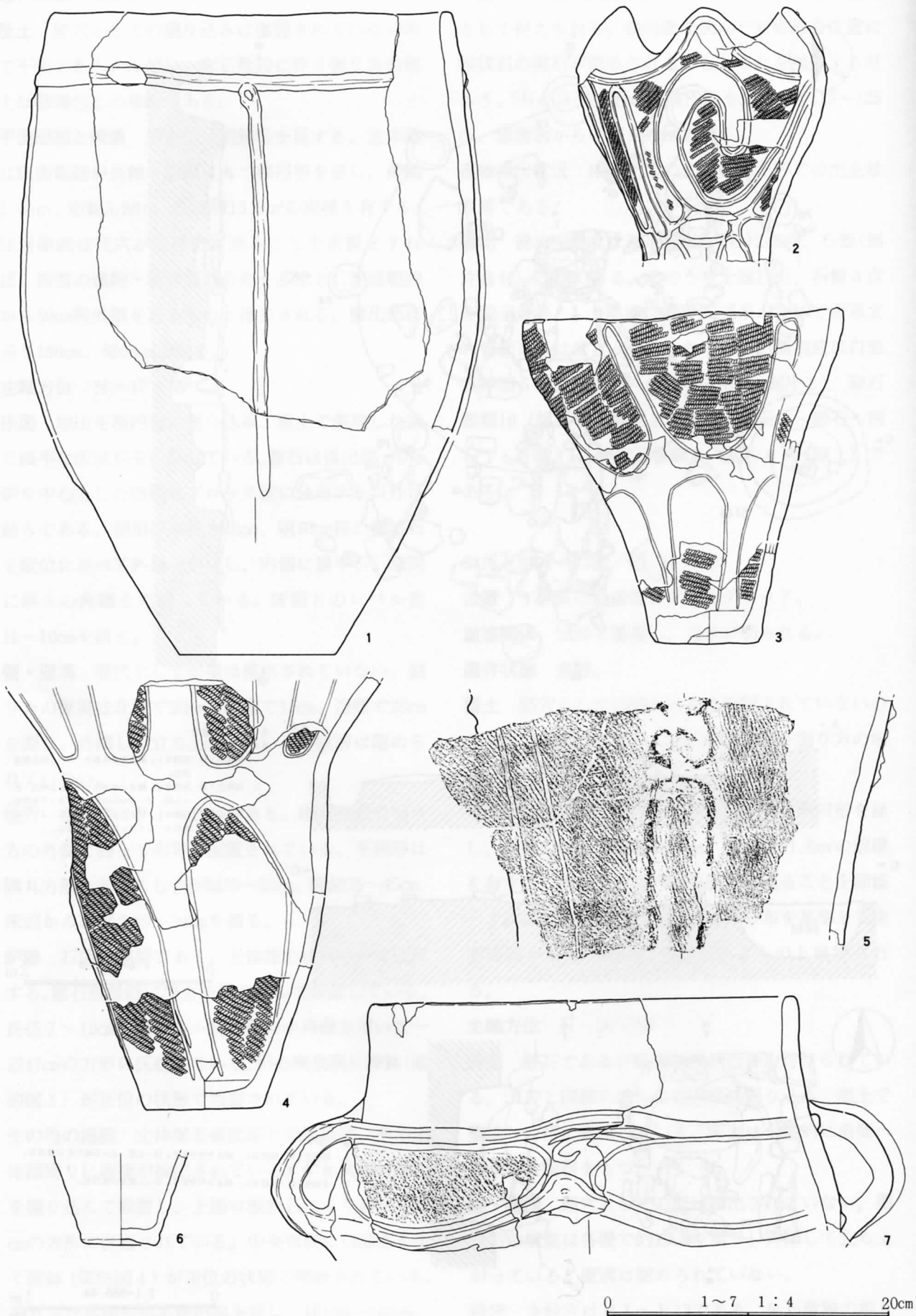
床面 敷石であるが扁平な板状石は片付けられている。SI17と同様に地山を楕円形に掘り込み、埋土で整地した後に敷設している。床面は全体的に南側へ緩やかな傾斜をもつ。

壁・壁溝 堅穴としての壁は検出されていない。掘り方の壁高は各壁で約10cmを測り、外傾して立ち上がっている。壁溝は認められていない。

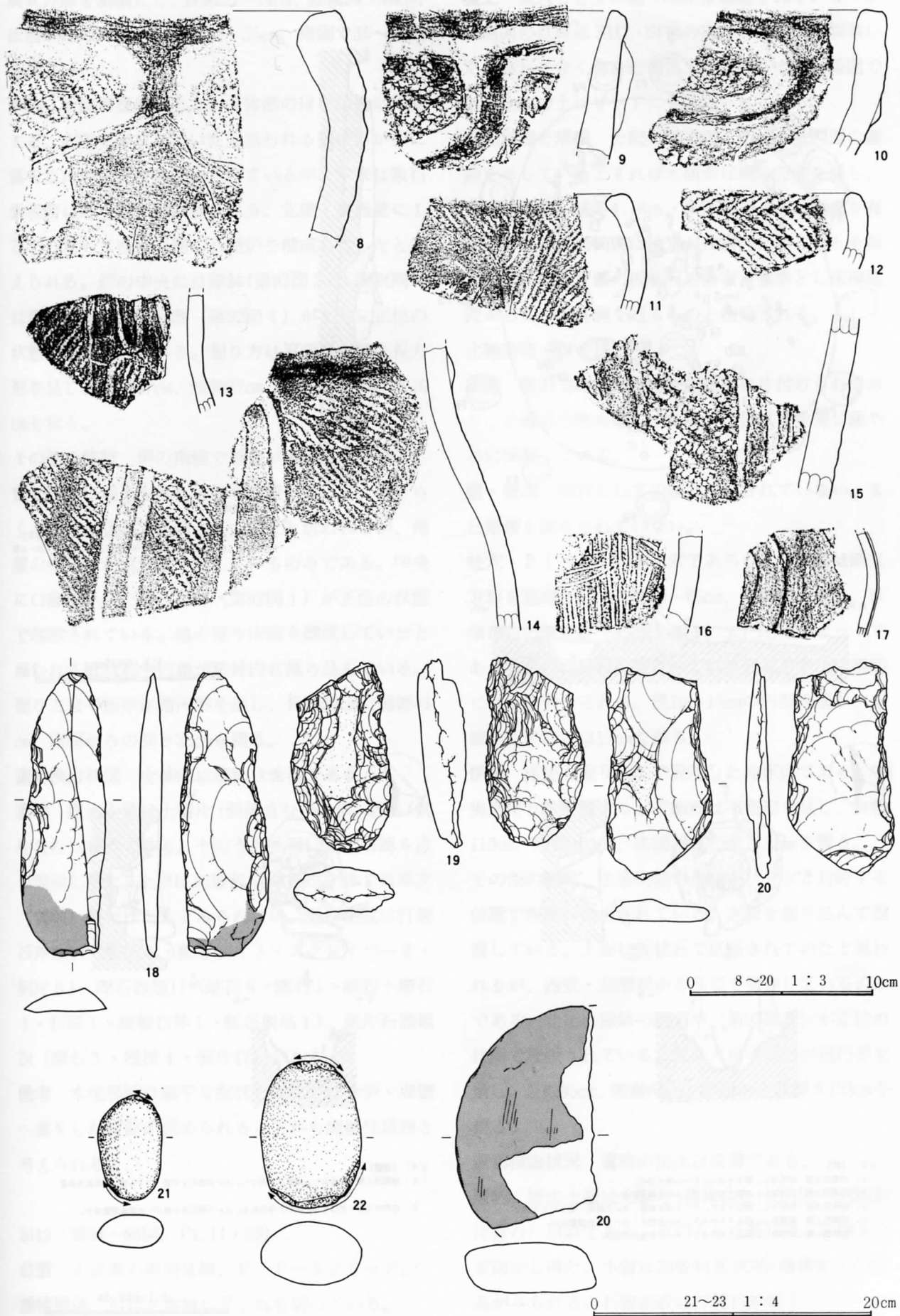
柱穴 主柱穴はP1～P13である。床石敷設の掘り方の外側に沿って均等に配置されている。平面形は



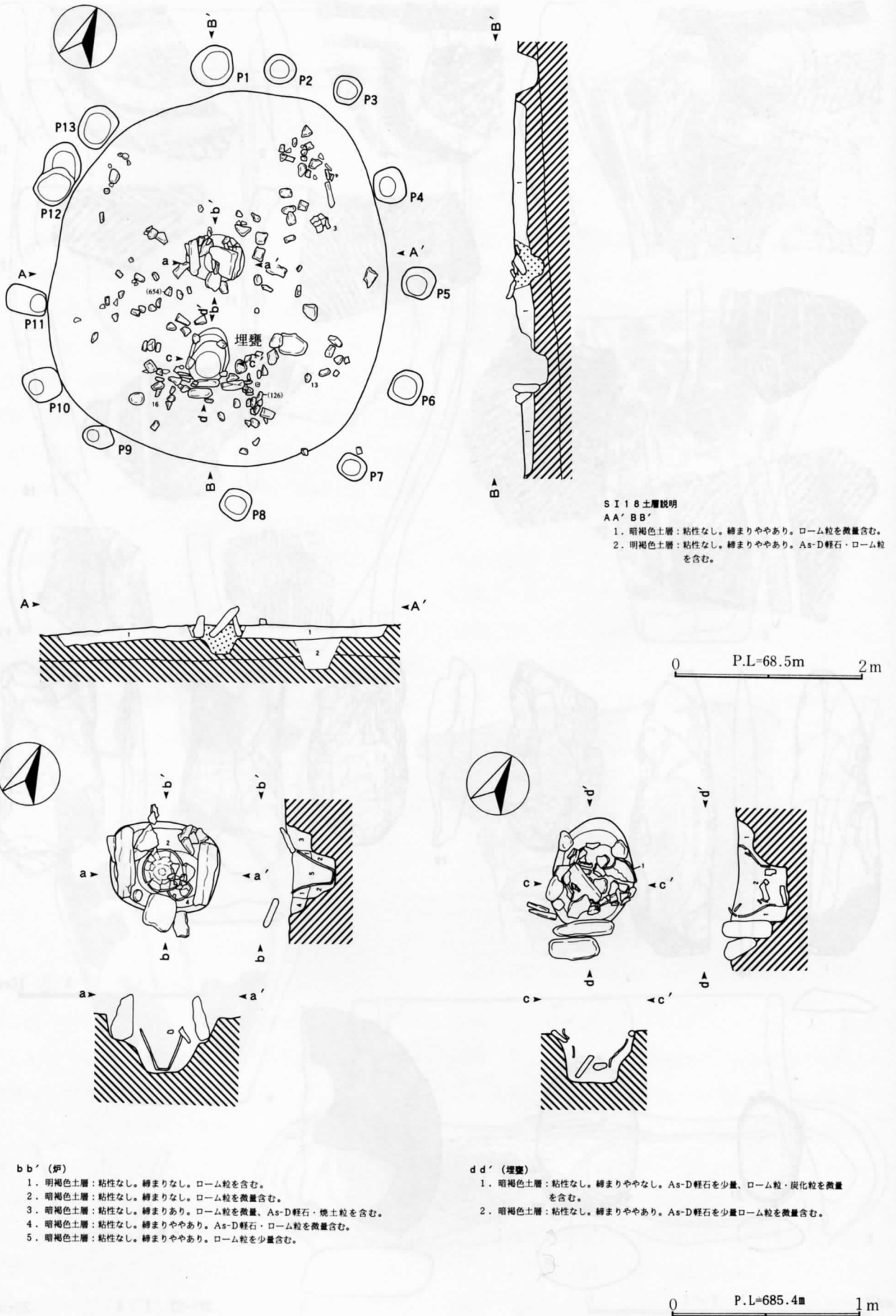
第88図 SI17実測図



第89図 SI17出土遺物実測図1



第90図 SI17出土遺物実測図2



第91図 SI18実測図

隅丸方形を基調とし、長軸29~44cm、短軸24~40cm、床面からの深さは北側で22~35cm、南側で35~60cmを測る。

炉跡 石囲埋甕炉である。主体部のほぼ中央に位置する。北壁を構成していたと思われる板状石が炉に蓋をしたかのように検出されているが、本来は敷石敷設時に埋土を2段に掘り込み、北壁・東西壁に1石ずつ用いて南方に開く石囲炉を構成していたと考えられる。炉の中央には深鉢(第92図2)、南東隅には深鉢の胴下部~底部(第92図4)がともに正位の状態に埋置されている。掘り方は平面形が隅丸長方形を呈し、長軸57cm、短軸47cm、床面からの深さ30cmを測る。

その他の施設 炉の南側で埋甕が検出されている。炉と同様に埋土を掘り込んで設置している。おそらく上面は板状石で区画されていたと思われるが、南壁の板状石が原位置を示しているのみである。中央に口縁部~胴上半の深鉢(第92図1)が正位の状態に埋設されている。他の壁や床面を構成していたと思われる板状石や円礫が深鉢内に落ち込んでいる。掘り方は平面形が楕円形を呈し、長軸58cm、短軸41cm、床面からの深さ26cmを測る。

遺物検出状況 全体的に遺物は希薄である。

遺物 総出土量は土器片(個体含む)80点、石器(剥片含む)49点である。そのうち土器12点、石器6点を図示し得た。土器は加曾利E式系が主体で唐草文(曾利)系はほとんどみられない。石器組成は打製石斧類14(製品4・整形剥片3・スクレイパー2・剥片5)、礫石器類11(敲石6・磨石1・敲石+磨石1・石皿1・磨製石斧1・軽石製品1)、剥片石器類24(原石3・残核4・剥片17)である。

備考 本住居跡は扁平な板状石の片づけや炉・埋甕へ蓋をした痕跡が認められることから廃絶住居跡と考えられる。

SI19 (第94~96図/PL.11・25)

位置 1区東の中央北側、E・F-3グリッド。

重複関係 SI14と重複し、これを切っている。

遺存状態 良好。

覆土 竪穴としての掘り込みは確認されていないが実測図の点線はSI17・SI18の掘り方の埋土と類似した、軽石を多く含む暗褐色土が分布していた範囲である。この土はピットにも認められている。

平面形態と規模 上記の暗褐色土が床石敷設面の範囲を示しているとすれば平面形は隅丸方形を呈し、主軸・副軸4.15~4.18m、床面積16.0m²の規模を有する。また住居範囲は柱穴が住居内に巡ることを前提とすれば、東側の板状石の分布を基準とし床面範囲から70cm程外側を巡るものと推定される。

主軸方位 N-16°-W

床面 敷石であるが扁平な板状石は片付けられており、小礫の分布も疎らである。床面は南東側に緩やかに傾斜している。

壁・壁溝 竪穴としての壁は検出されていない。また壁溝も認められていない。

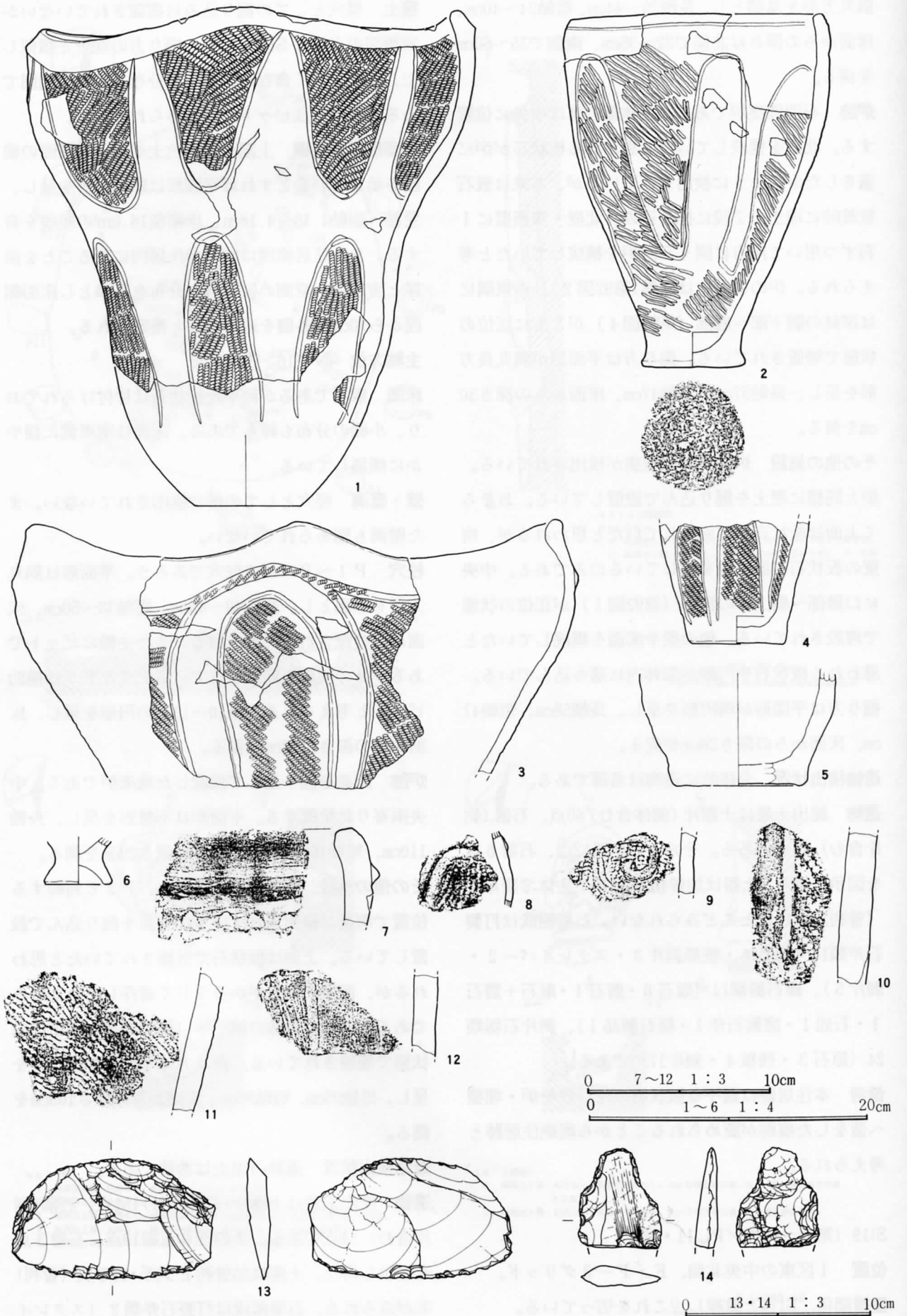
柱穴 P1~P5が支柱穴であろう。平面形は隅丸方形を基調とし、長軸40~65cm、短軸33~50cm、床面からの深さ21~35cmを測る。また主軸にピットであるP2の両脇に配置されているP6とP7は補助ピットと考えられる。径10~13cmの円形を呈し、床面からの深さは17cmを測る。

炉跡 床面を掘り込んで設置した地床炉である。中央南寄りに位置する。平面形は不整形を呈し、長軸110cm、短軸100cm、床面からの深さ29cmを測る。

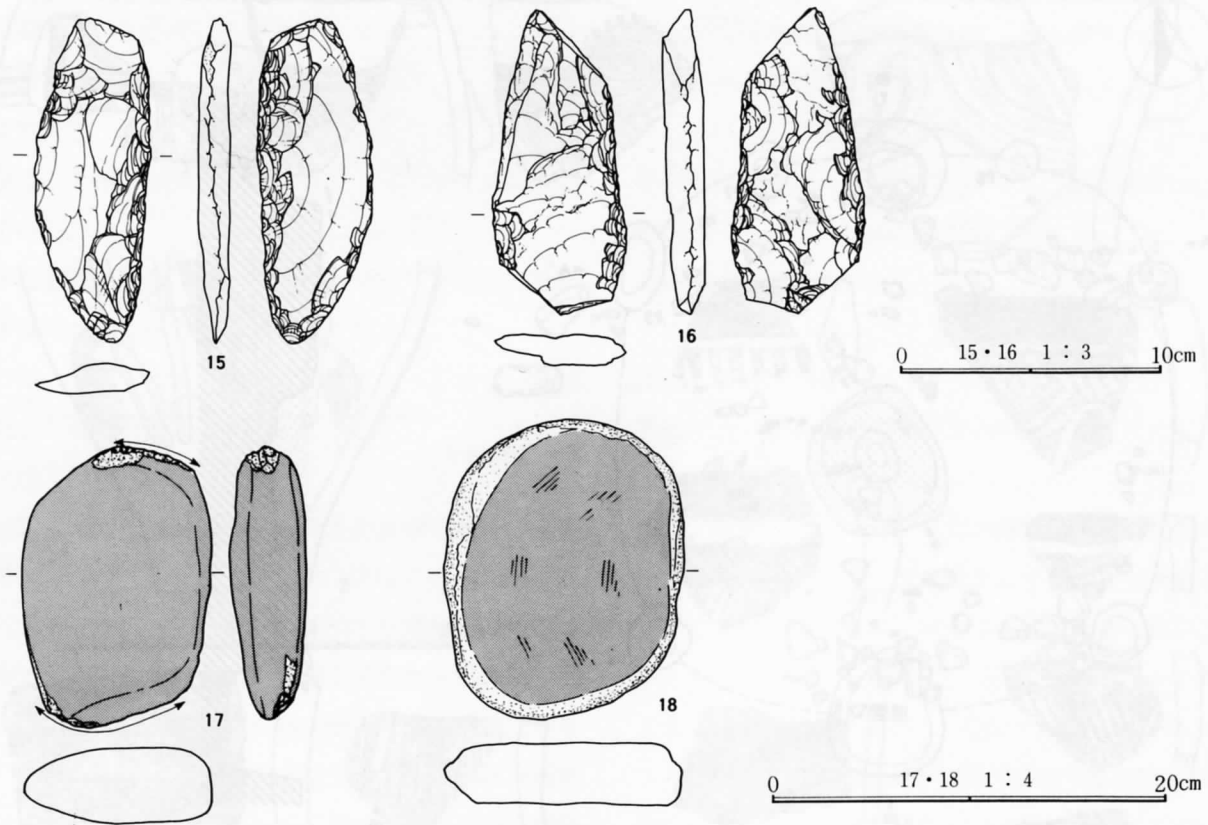
その他の施設 住居南側の主軸上、P2と対峙する位置で埋甕が検出されている。床面を掘り込んで設置している。上面は板状石で区画されていたと思われるが、西壁・北壁がかろうじて遺存しているのみである。北端に深鉢の胴下半(第95図2)が正位の状態に埋設されている。掘り方は平面形が楕円形を呈し、長軸95cm、短軸85cm、床面からの深さ103cmを測る。

遺物検出状況 遺物の出土は希薄である。

遺物 総出土量は土器片(個体含む)151点、石器(剥片含む)14点である。そのうち土器19点、石器3点を図示し得た。土器は加曾利E式系・唐草文(曾利)系がみられる。石器組成は打製石斧類2(スクレイパー1・剥片1)、礫石器(その他含む)類9(敲石



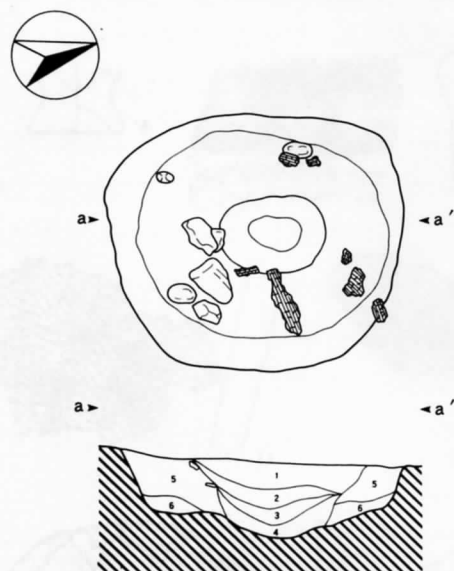
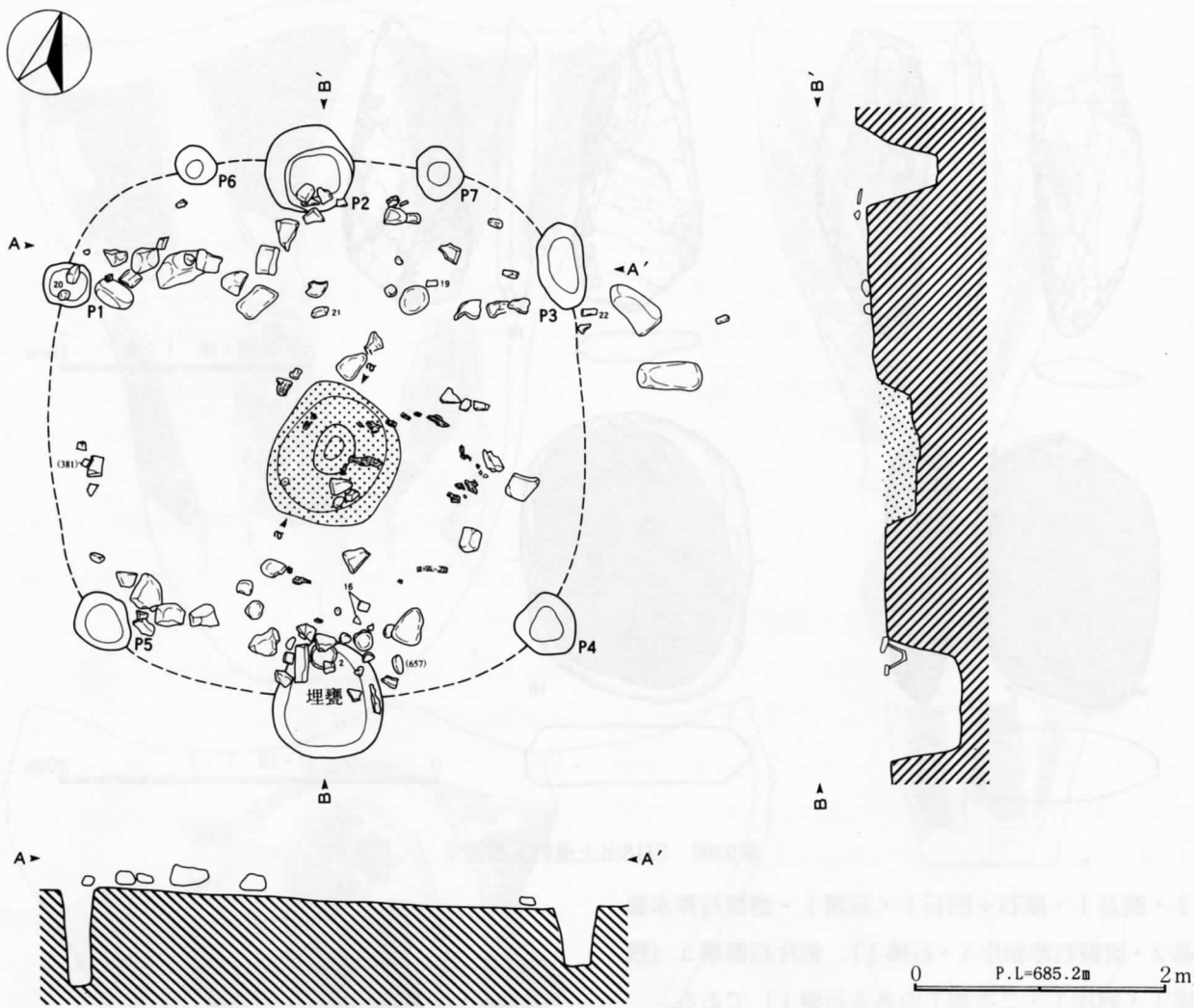
第92図 SI18出土遺物実測図1



第93図 SI18出土遺物実測図2

2・磨石1・敲石+凹石1・石皿1・磨製石斧未製品2・磨製石斧剥片1・石棒1)、剥片石器類3(残核1・剥片1・二次加工のある石器1)である。

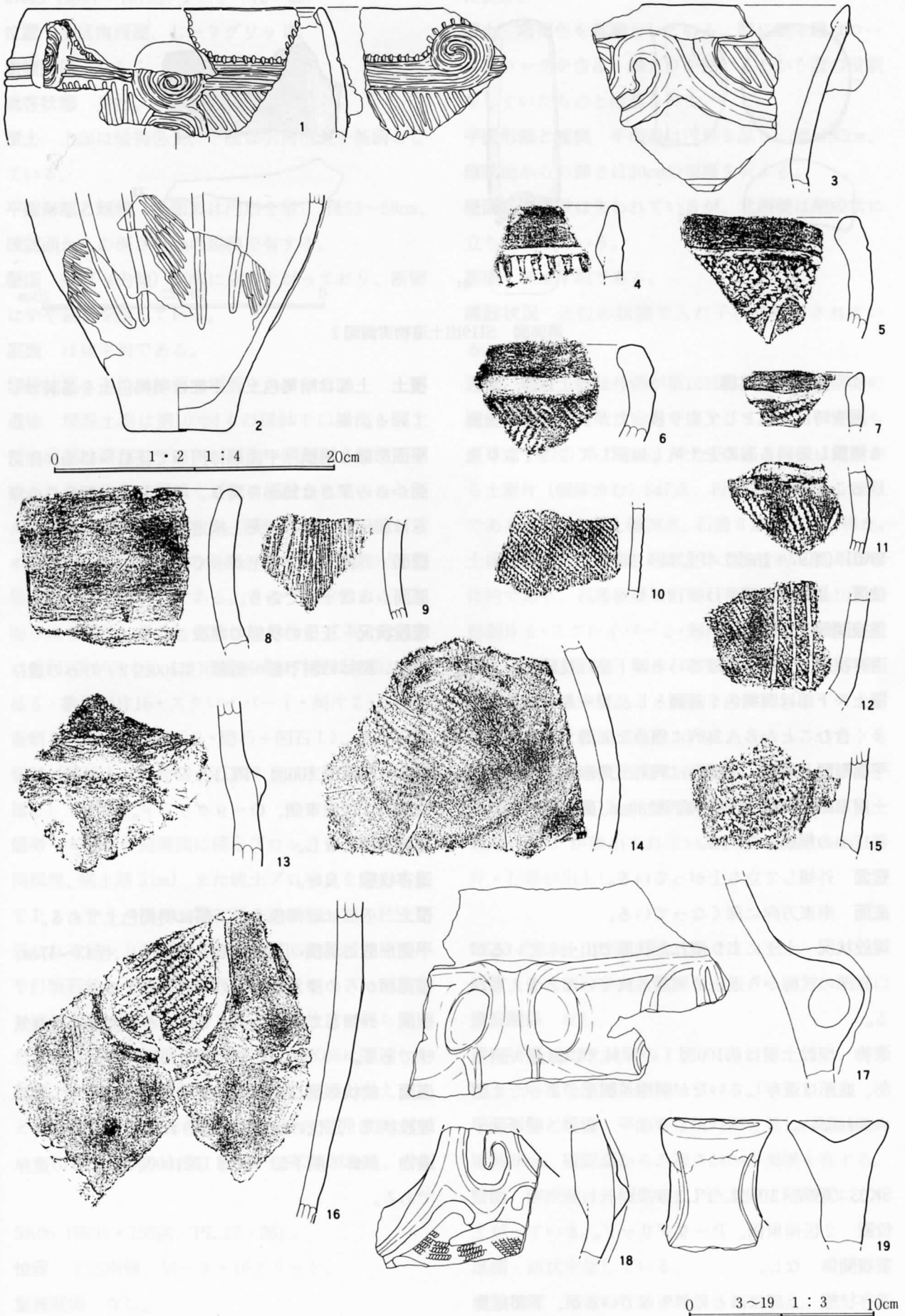
備考 本住居跡は敷石住居と思われるが扁平な板状石がほとんど見られず、石の分布も疎らであること、さらに床面上で炭化材が認められていることから住居廃絶に伴って焼失した可能性が高い。



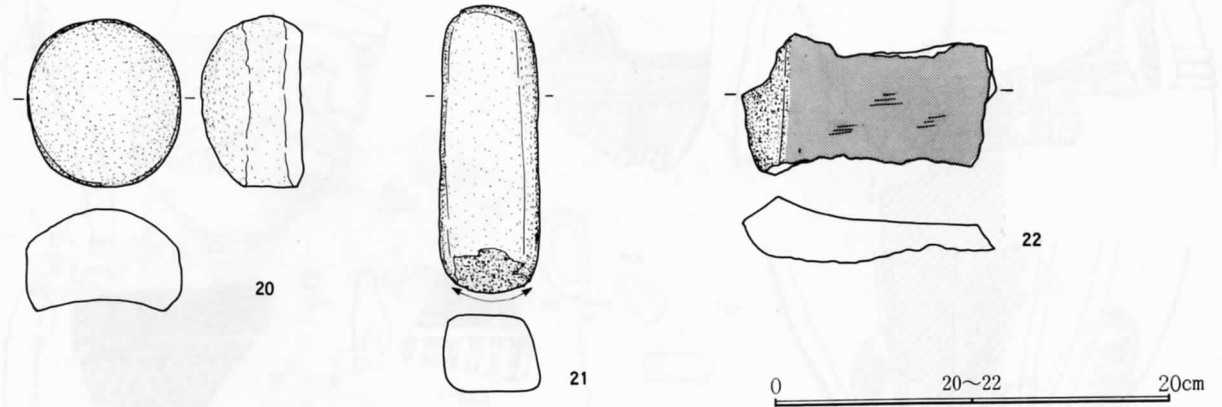
- SI19 土層説明
 a a' (坪)
1. 暗褐色土層：粘性なし。締まりややあり。ローム粒・焼土粒・炭化粒を少量、As-D軽石を含む。
 2. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。ローム粒・焼土粒を含む。
 3. 焼土層
 4. 明褐色土層：粘性あり。締まりややなし。ローム粒を多量に含む。
 5. 暗褐色土層：粘性なし。締まりややなし。ローム粒を含む。
 6. 明褐色土層：粘性なし。締まりややあり。そのほとんどがローム粒から成る。

第94図 SI19実測図

2. 縄文時代中期後半の遺構と遺物



第95図 SI19出土遺物実測図1



第96図 SI19出土遺物実測図2

(4) 屋外埋設遺構

調査時は土坑として取り扱ったが、明らかに土器を埋設しているものを土坑とは画してここで取り上げることにする。

SK01 (第97・100図/PL.11・26)

位置 2区南東側、O-10グリッド。

重複関係 なし。

遺存状態 上部を失っているが下部は良好。

覆土 下部は明褐色を基調とし、ロームブロックを多く含むことから人為的に埋めたと考えられる。

平面形態と規模 平面形は隅丸三角形を呈し、北西-南東軸107cm、北東-南西軸80cm、確認面からの深さ17cmの規模を有する。

壁面 外傾して立ち上がっている。

底面 南東方向に深くなっている。

埋設状況 土圧により潰れた状態で出土しているが口縁部の状態から逆位に埋設されていたと考えられる。

遺物 埋設土器は第100図1の深鉢で口縁部~胴上部、底部は遺存していたが胴中~胴部がまったく認められない。

SK03 (第97・100図/PL.11)

位置 2区南東側、P-9グリッド。

重複関係 なし。

遺存状態 上部はほとんど失っているが、下部は良好。

覆土 上部は暗褐色土、下部は明褐色土を基調としている。

平面形態と規模 平面形は円形で径41~43cm、確認面からの深さは15cmを測り、埋設した上部からの深さは20cm以上はあったと推定される。

壁面 外傾して立ち上がっている。

底面 ほぼ平坦である。

埋設状況 正位の状態で埋設される。

遺物 深鉢の胴下部~底部(第100図2)のみの遺存である。

SK04 (第97・100図/PL.12)

位置 2区南東側、O-9グリッド。

重複関係 なし。

遺存状態 良好。

覆土 上部は暗褐色土、下部は明褐色土である。

平面形態と規模 平面形は円形を呈し、径43~47cm、確認面からの深さは38cmの規模を有する。

壁面 外傾して立ち上がっているが、西壁は垂直気味である。

底面 皿状を呈している。

埋設状況 正位の状態で埋設されている。

遺物 深鉢の胴下部~底部(第100図3)のみの遺存である。

SK05 (第97・101図/PL.1・12・26)

位置 2区南西側、L-9グリッド。

重複関係 なし。

遺存状態 良好。

覆土 上部は暗褐色土、下部は明褐色土を基調としている。

平面形態と規模 平面形は円形を呈し、径53~58cm、確認面からの深さ41cmの規模を有する。

壁面 垂直(内傾)気味に立ち上がっており、断面はやや袋状を呈している。

底面 ほぼ平坦である。

埋設状況 逆位の状態で埋設されている。

遺物 埋設土器は第100図4の深鉢で口縁部~胴上部、底部は遺存していたが胴中~胴部がまったく認められない状況は同じく逆位に埋設されていたと考えられるSK01と共通する。深鉢内部には円礫が認められた。また、SK05の周囲からは土器片225点、石器(剥片含む)104点である。そのうち土器8点、石器5点を図示し得た。土器は加曽利E式系・唐草文(曾利)系がみられる。石器組成は打製石斧類25(製品6・整形剥片16・スクレイパー1・剥片2)、礫石器類5(敲石2・磨石2・磨石+凹石1)、剥片石器類74(残核1・剥片69・石鏃2・二次加工のある石器2)である。

備考 本遺構の南東側に焼土ブロック(SK05とほぼ同規模、焼土厚5cm)、また焼土ブロックを中心にしてP1~P5(径40cm程、深さ23~36cm)の柱穴と思われるピットが検出された。SK05の周囲で土器片や打製石斧とともに黒耀石の剥片(チップ)が異常なほど多数検出されており、これを故意に打ち欠いたものだという解釈が妥当ならば、SK05に関連した施設、すなわち埋葬儀礼に関連した施設と考えることができる。柱穴は伴わないものの周囲に焼土ブロックを伴うものは他にSK06・SK48がある。

SK06 (第98・105図/PL.12・26)

位置 2区南側、M-9・10グリッド。

重複関係 なし。

遺存状態 南東辺を攪乱により失っているが全体的

に良好。

覆土 暗褐色を基調としている。特に第4層はロームブロックを含み、締まりが強いことから蓋の役割をしていたものと推測される。

平面形態と規模 平面形は円形を呈し、径は82cm、確認面からの深さは50cmの規模を有する。

壁面 南東壁は失われているが、北西壁は階段状に立ち上がっている。

底面 ほぼ平坦である。

埋設状況 正位の状態で入れ子状に埋設されている。

遺物 埋設土器は外側が第102図14、内側が同図15の深鉢である。後者は完形で出土している。いずれも唐草文(曾利)系である。またSK05と同様に周囲から土器片(個体含む)547点、石器(剥片含む)72点である。そのうち土器28点、石器8点を図示し得た。土器は唐草文(曾利)系が主体で加曽利E式系は客体的である。石器組成は打製石斧類23(製品10・整形剥片6・スクレイパー2・剥片5)、礫石器類2(敲石1・磨製石斧1)、剥片石器類44(残核2・剥片36・石鏃1・石鏃未製品1・石匙1・揉錐器1・スクレイパー1・片面加工石器1)である。

備考 本遺構の北西側にも隣接して焼土ブロック(北西-南東軸124cm、北東-南西軸40~87cm、焼土最厚10cm)が検出されている。焼土に伴って土器片・石器が出土している。

SK53 (第98・105図/PL.12・27)

位置 1区東の中央北側、E-2グリッド。

重複関係 なし。

遺存状態 良好。

覆土 暗褐色土を基調としている。

平面形態と規模 平面形は楕円形を呈し、長軸46cm、短軸38cm、確認面からの深さ34cmの規模を有する。

壁面 南西壁は外傾気味に、北東壁は階段状に立ち上がっている。

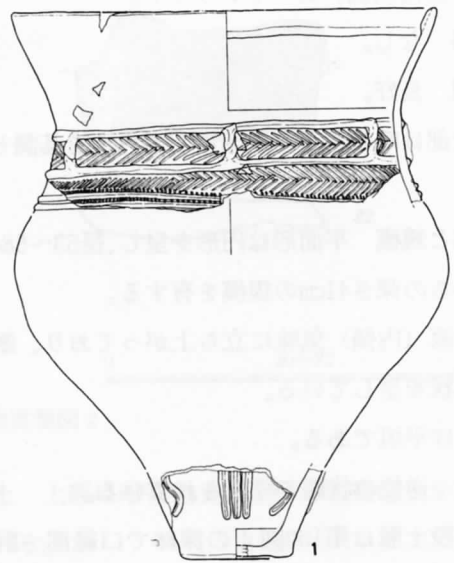
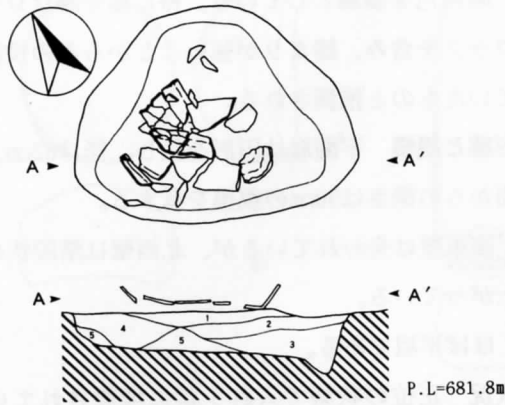
底面 皿状を呈している。

埋設状況 正位の状態で埋設されている。

遺物 埋設土器は第105図44の橋状把手をもつ深鉢

III章 検出された遺構と遺物

SK01

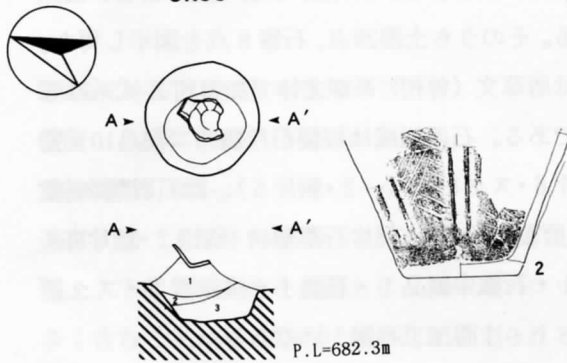


SK01土層説明

AA'

1. 暗褐色土層：粘性なし。締まりややあり。As-D軽石・ローム粒を少量含む。
2. 明褐色土層：粘性なし。締まりややあり。ローム粒・φ~1cm大のロームブロックを含む。
3. 明褐色土層：粘性なし。締まりややあり。ローム粒・φ~1cm大のロームブロックを多量に含む。
4. 明褐色土層：粘性なし。締まりややあり。ローム粒を非常に多く含む。
5. 明褐色土層：粘性なし。締まりややあり。そのほとんどがローム粒から成る。

SK03

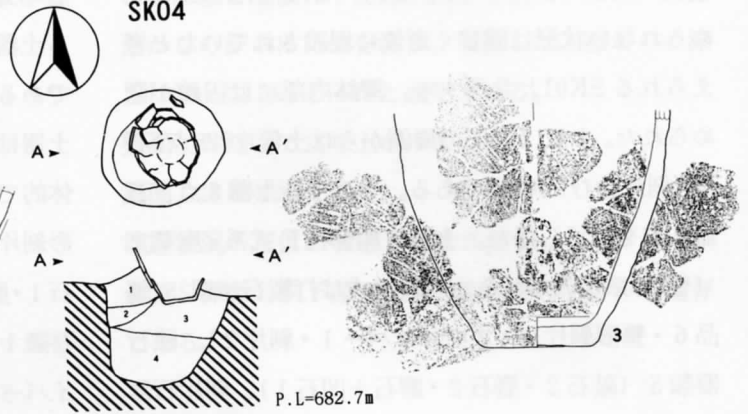


SK03土層説明

AA'

1. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。φ1~3cm大のロームブロック・As-D軽石・焼土粒を含む。
2. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。As-D軽石・焼土粒を含み、炭化粒を少量含む。
3. 明褐色土層：粘性なし。締まりあり。ローム粒を多量、軽石を含む。

SK04

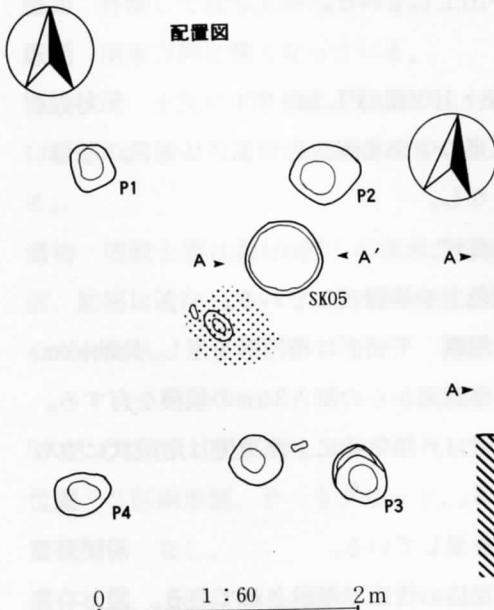


SK04土層説明

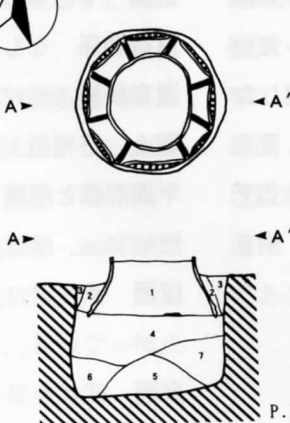
AA'

1. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。As-D軽石を少量含む。
2. 暗褐色土層：粘性ややあり。締まりあり。ローム粒を含み、焼土粒を少量含む。
3. 暗褐色土層：粘性ややあり。締まりあり。ローム粒を含む。
4. 明褐色土層：粘性ややあり。締まりあり。ローム粒を多量に含む。

配置図



SK05



SK05土層説明

AA'

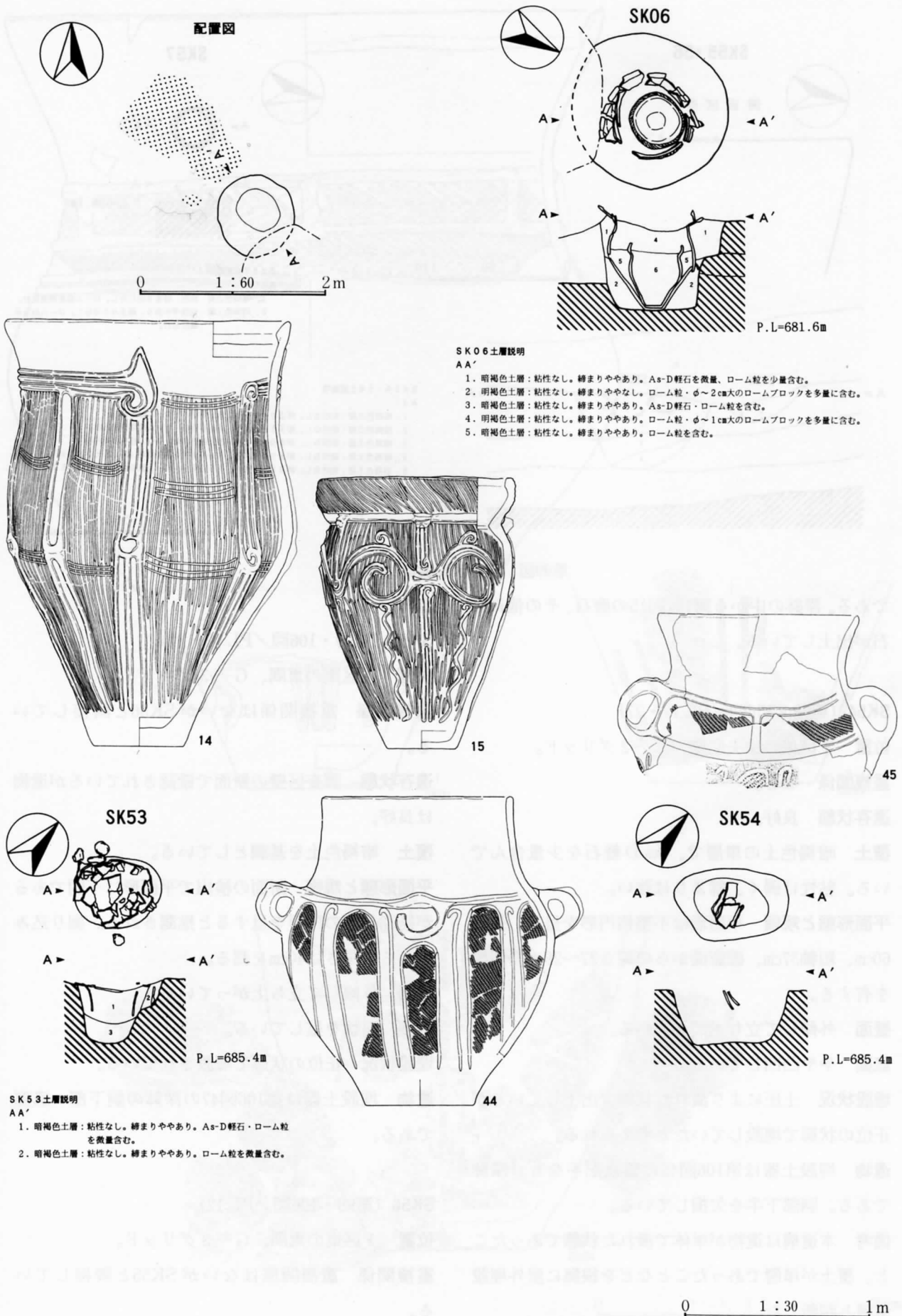
1. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。As-D軽石・ローム粒を少量含む。
2. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。ローム粒を微量含む。
3. 明褐色土層：粘性、締まり共にややあり。ローム粒を多量に含む。
4. 暗褐色土層：粘性なし。締まりややあり。As-D軽石を微量、ローム粒を少量含む。
5. 明褐色土層：粘性なし。締まりややあり。ローム粒を多量に含む。
6. 明褐色土層：粘性なし。締まりややなし。ローム粒が主体を占める。

P.L.=683.2m

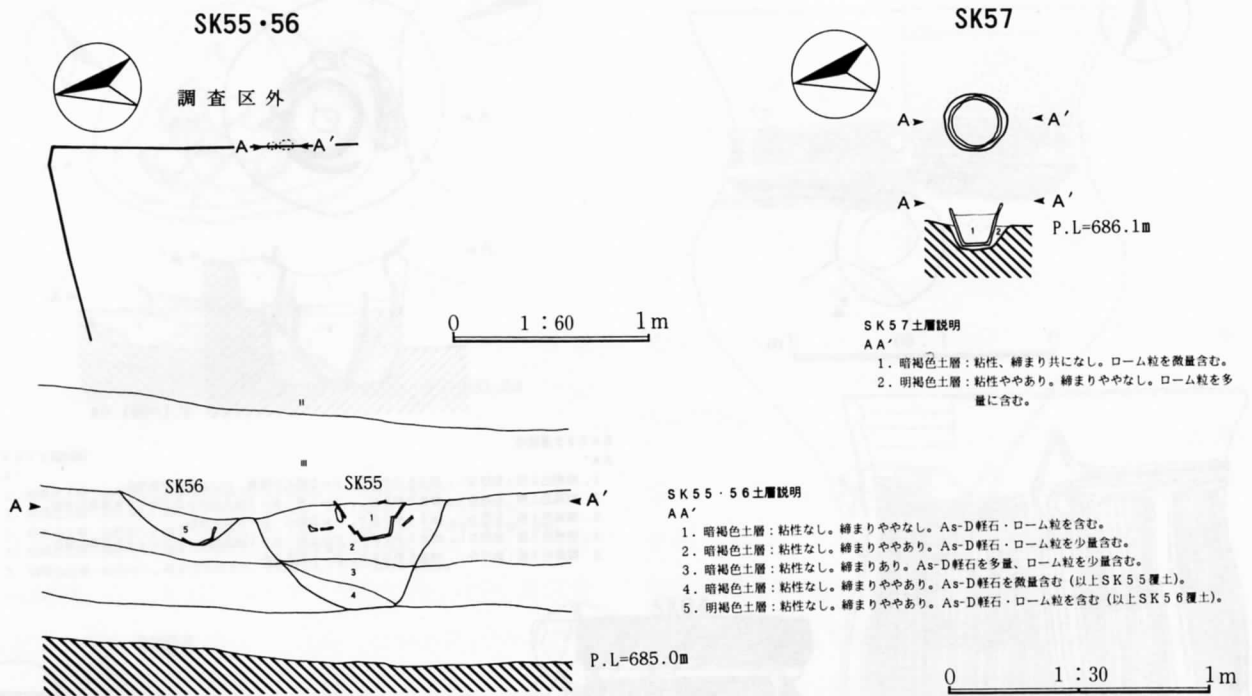
0 1 : 30 1m

第97図 屋外埋設遺構実測図 1

2. 縄文時代中期後半の遺構と遺物



第98図 屋外埋設遺構実測図2



第99図 屋外埋設遺構実測図3

である。深鉢の中から第107図15の磨石、その他に敲石が出土している。

SK54 (第98・106図/PL.12・27)

位置 1区東の中央北側、E-2グリッド。

重複関係 なし。

遺存状態 良好。

覆土 暗褐色土の単層で、As-D軽石を少量含んでいる。粘性は弱く、締まりは強い。

平面形態と規模 平面形は不整楕円形を呈し、長軸60cm、短軸37cm、確認面からの深さ27~29cmの規模を有する。

壁面 外傾して立ち上がっている。

底面 やや凸凹している。

埋設状況 土圧により潰れた状態で出土しているが正位の状態で埋設していたと考えられる。

遺物 埋設土器は第106図45の橋状把手をもつ深鉢である。胴下半を欠損している。

備考 本遺構は遺物が単体で潰れた状態であったこと、覆土が単層であったことなどを根拠に屋外埋設遺構と判断した。

SK55・SK56

SK55 (第99・106図/PL.12・27)

位置 1区東の東隅、G-3グリッド。

重複関係 重複関係はないがSK56と隣接している。

遺存状態 調査区壁の断面で確認されているが遺物は良好。

覆土 暗褐色土を基調としている。

平面形態と規模 断面の検出で平面形は不明であるが径73cm程の円形を呈すると推測される。掘り込み面からの深さは40cmを測る。

壁面 外傾して立ち上がっている。

底面 皿状を呈している。

埋設状況 正位の状態で埋設されている。

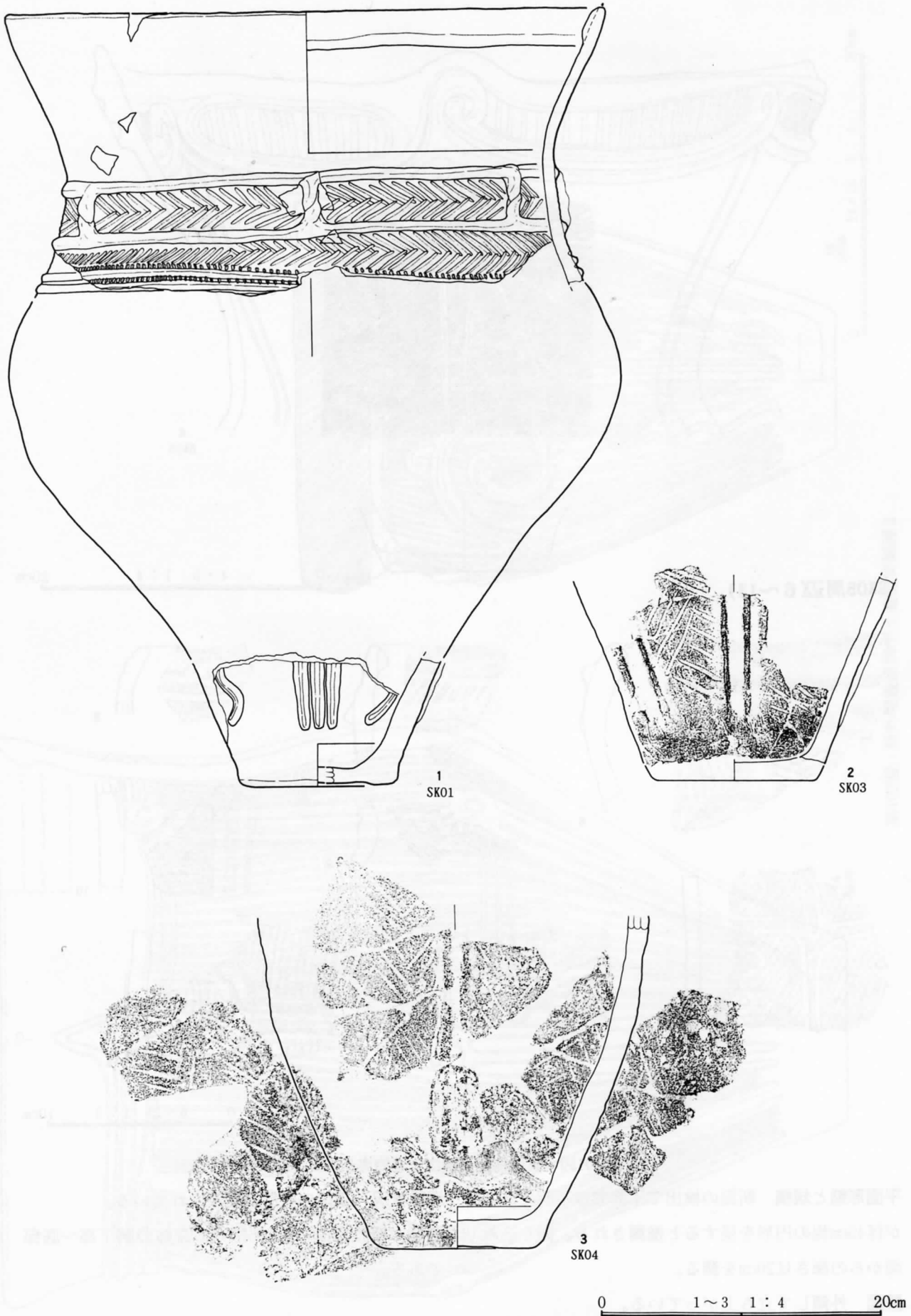
遺物 埋設土器は第106図47の深鉢の胴下部~底部である。

SK56 (第99・106図/PL.12)

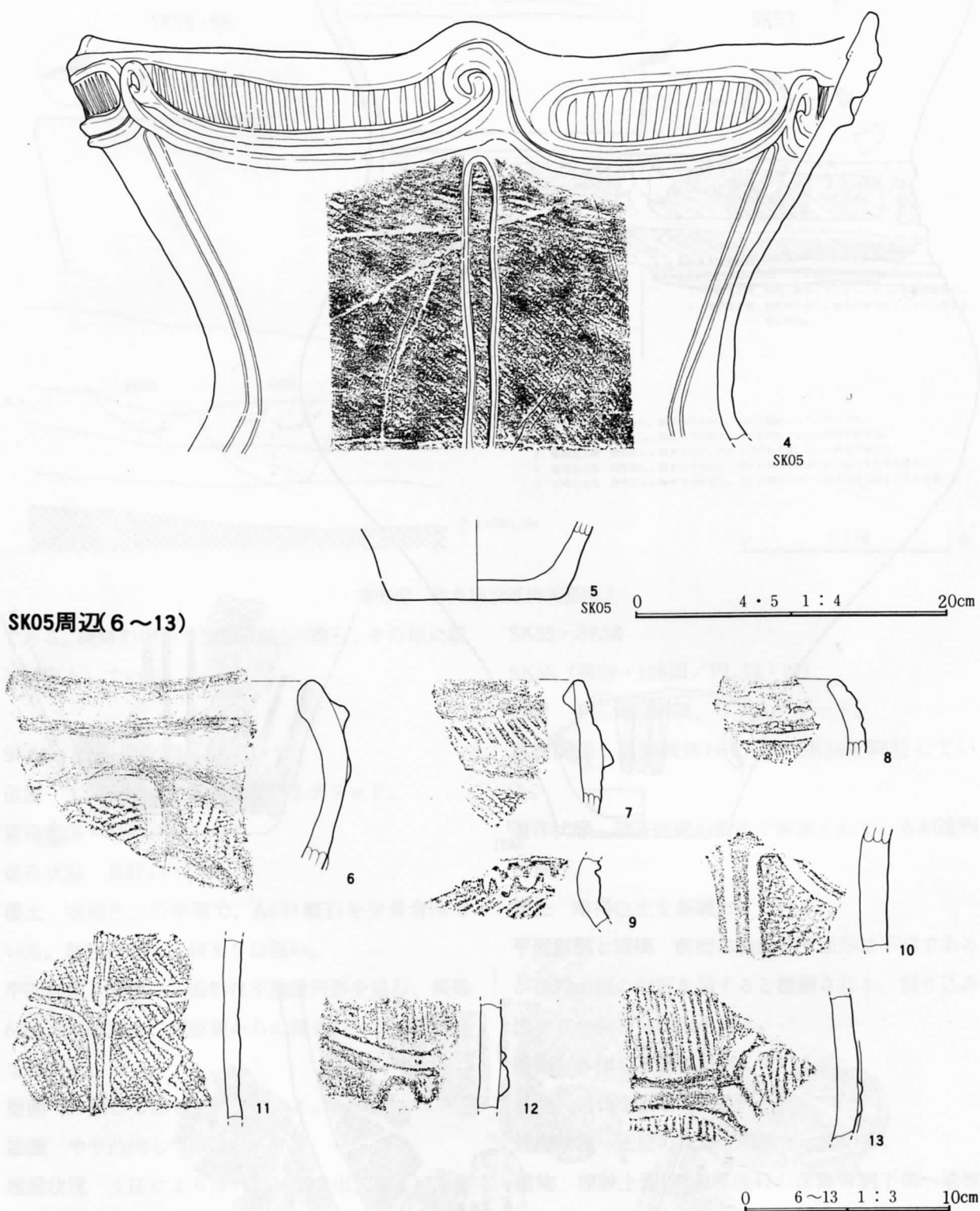
位置 1区東の東隅、G-3グリッド。

重複関係 重複関係はないがSK55と隣接している。

覆土 単層である。



第100図 屋外埋設遺構出土遺物実測図1



第101図 屋外埋設遺構出土遺物実測図2

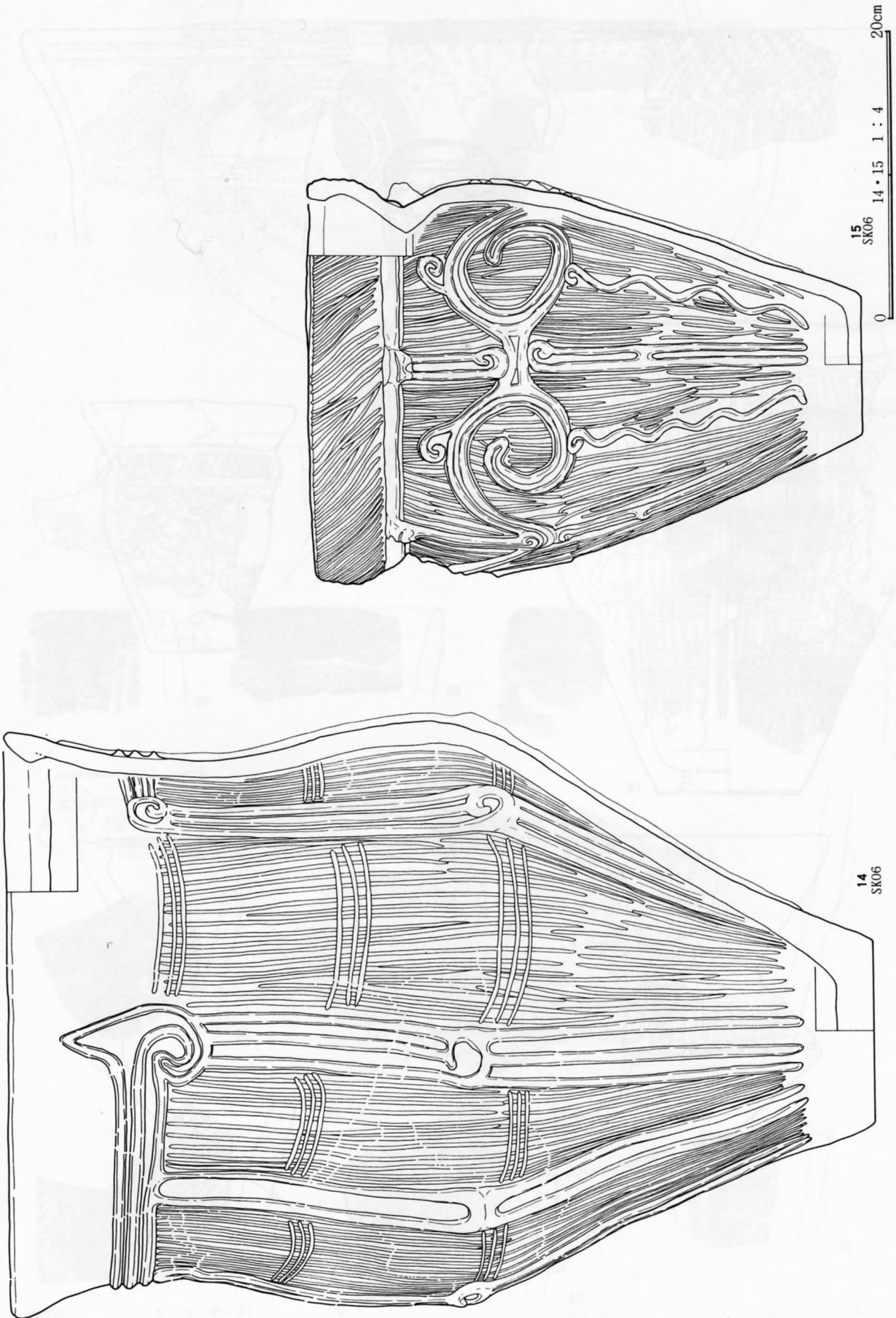
平面形態と規模 断面の検出で平面形は不明であるが径45cm程の円形を呈すると推測される。掘り込み面からの深さは20cmを測る。

壁面 外傾して立ち上がっている。

底面 皿状を呈している。

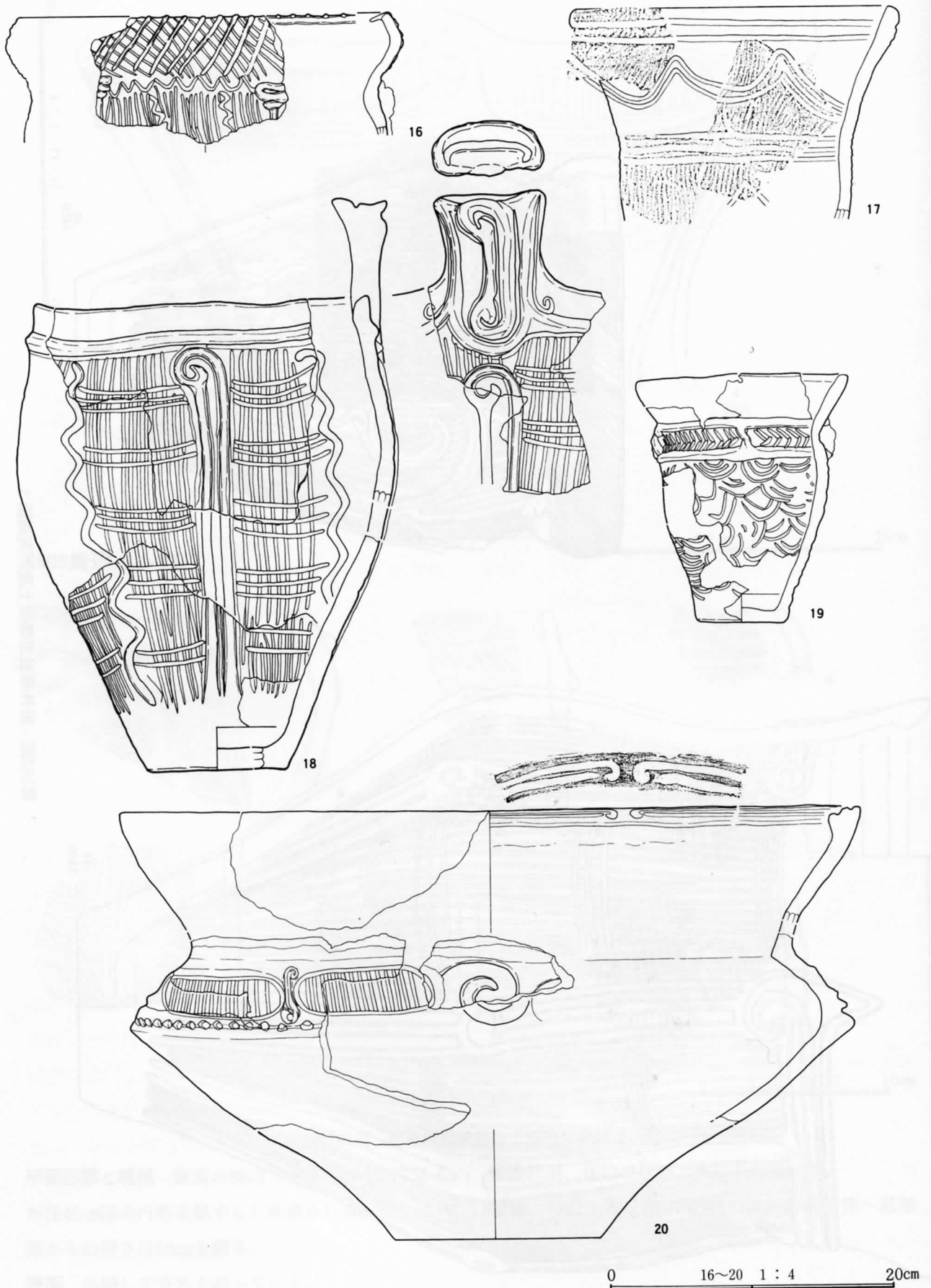
埋設状況 正位の状態では埋設されている。

遺物 埋設土器は第106図46の深鉢の胴下部～底部である。

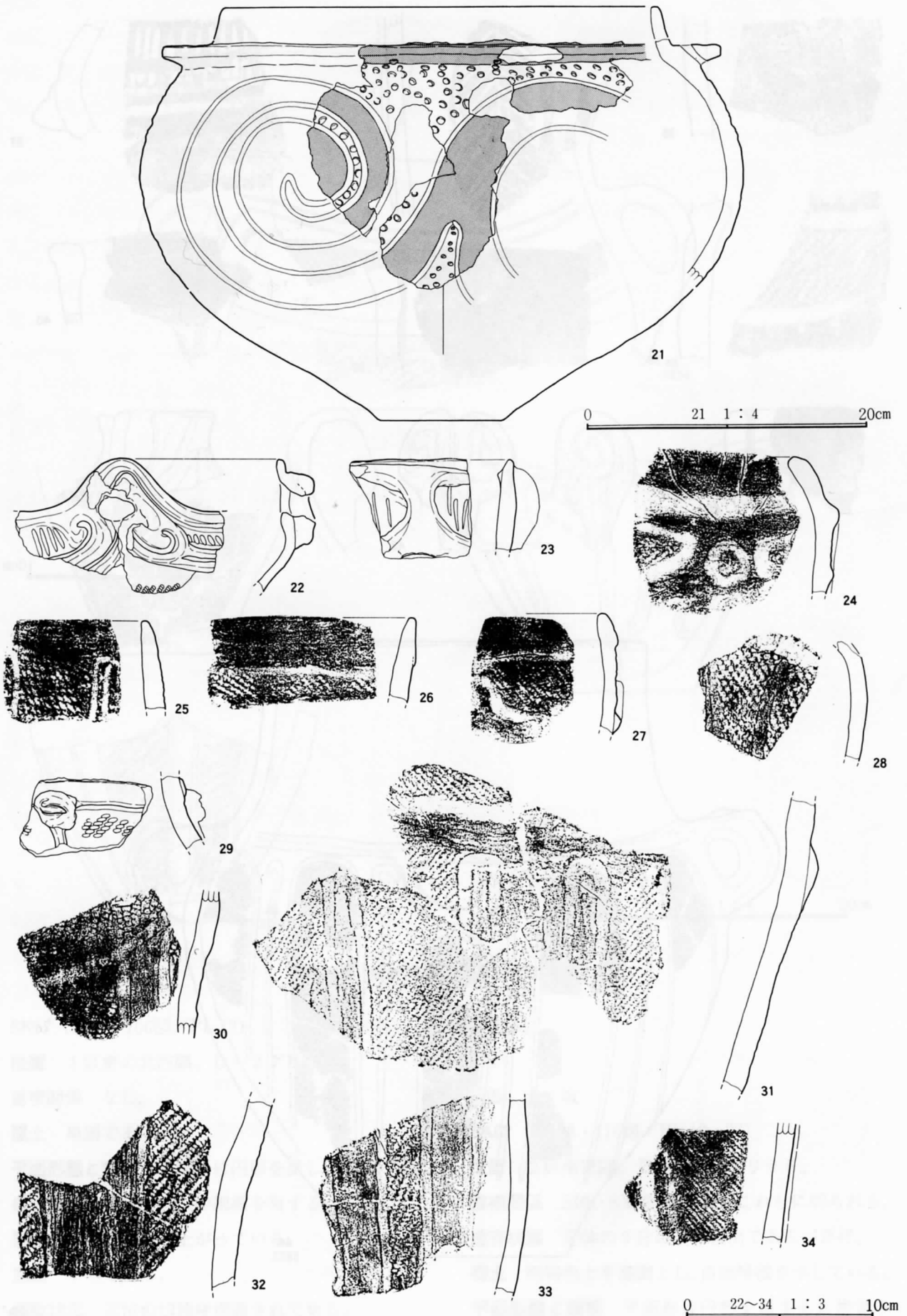


第102図 屋外埋設遺構出土遺物実測図3

SK06焼土(16~43)

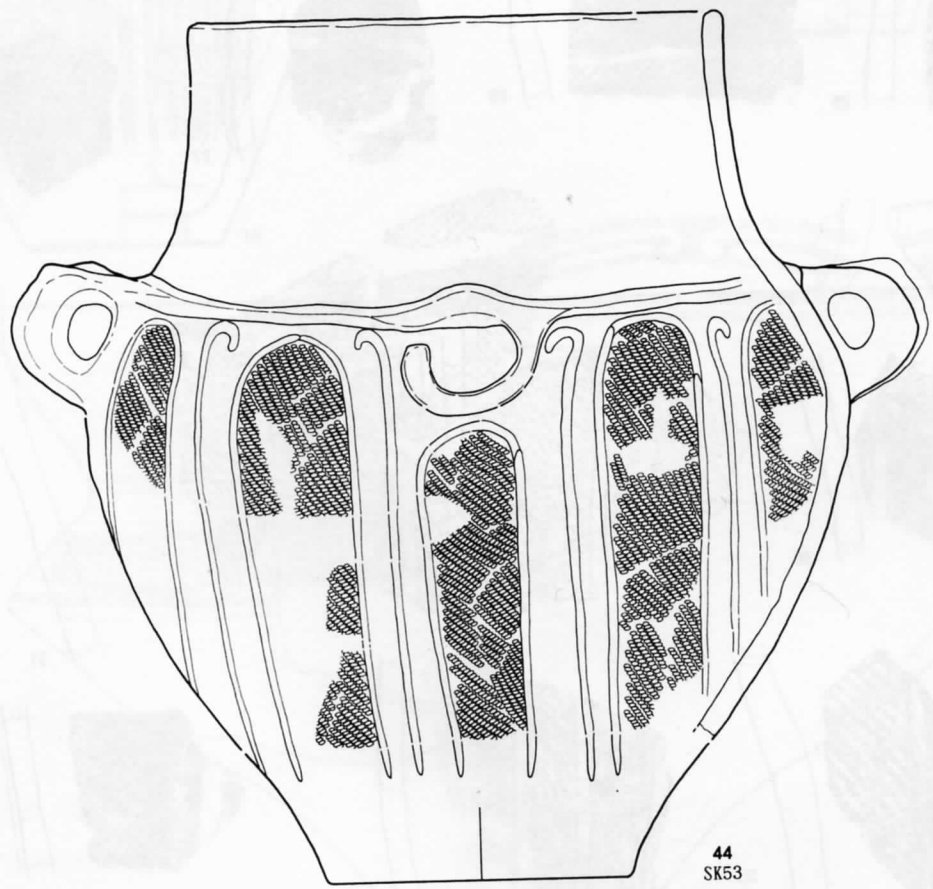
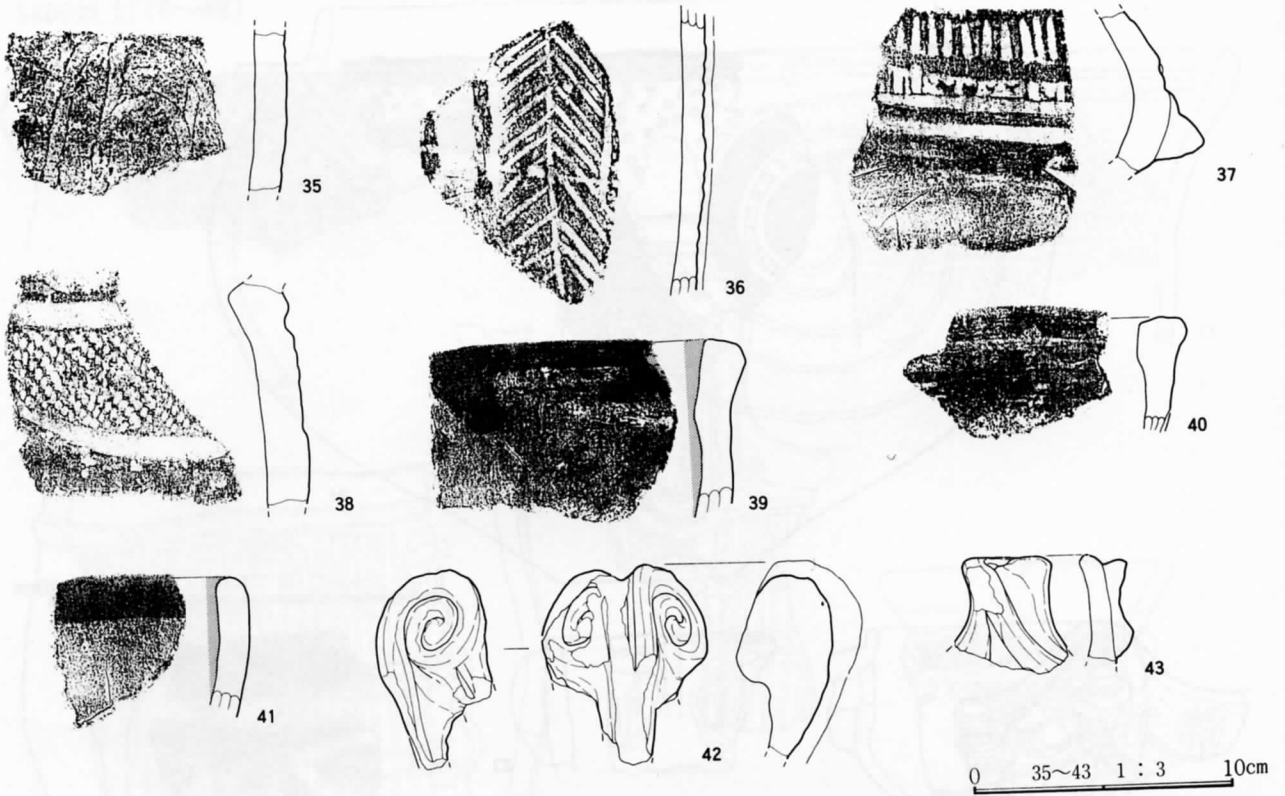


第103図 屋外埋設遺構出土遺物実測図4

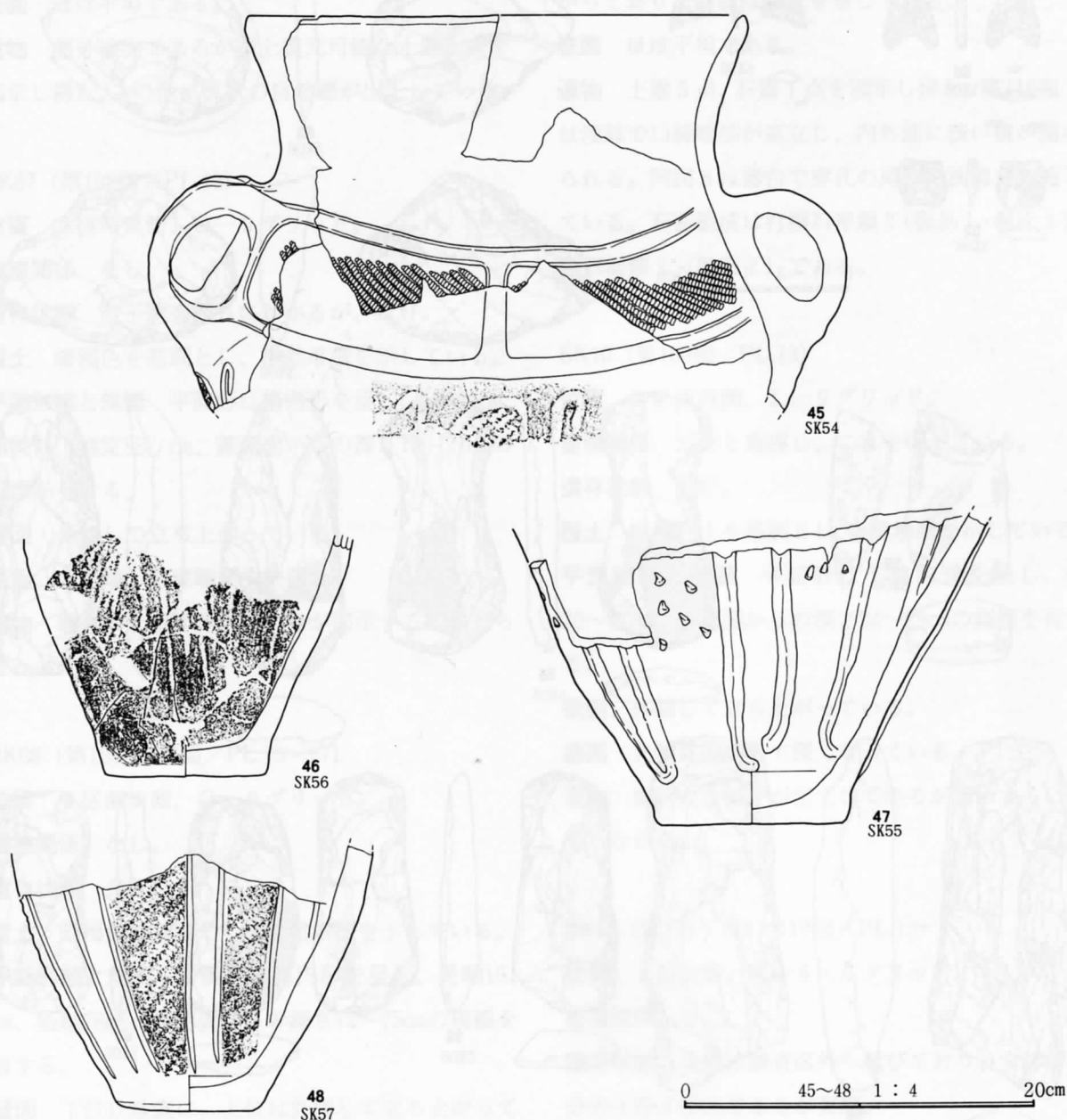


第104図 屋外埋設遺構出土遺物実測図5

III章 検出された遺構と遺物



第105図 屋外埋設遺構出土遺物実測図6



第106図 屋外埋設遺構出土遺物実測図 7

SK57 (第99・106図/PL.12)

位置 1区東の北西隅、D-2グリッド。

重複関係 なし。

覆土 単層である。

平面形態と規模 平面形は円形を呈し、径21~23cm、確認面からの深さ10cmの規模を有する。

壁面 外傾して立ち上がっている。

底面 平坦である。

埋設状況 正位の状態で埋設されている。

遺物 埋設土器は第106図48の深鉢の胴下部~底部

である。

(5) 土坑

SK02 (第108・116図/PL.13・27)

位置 2区南東隅、P-9・10グリッド。

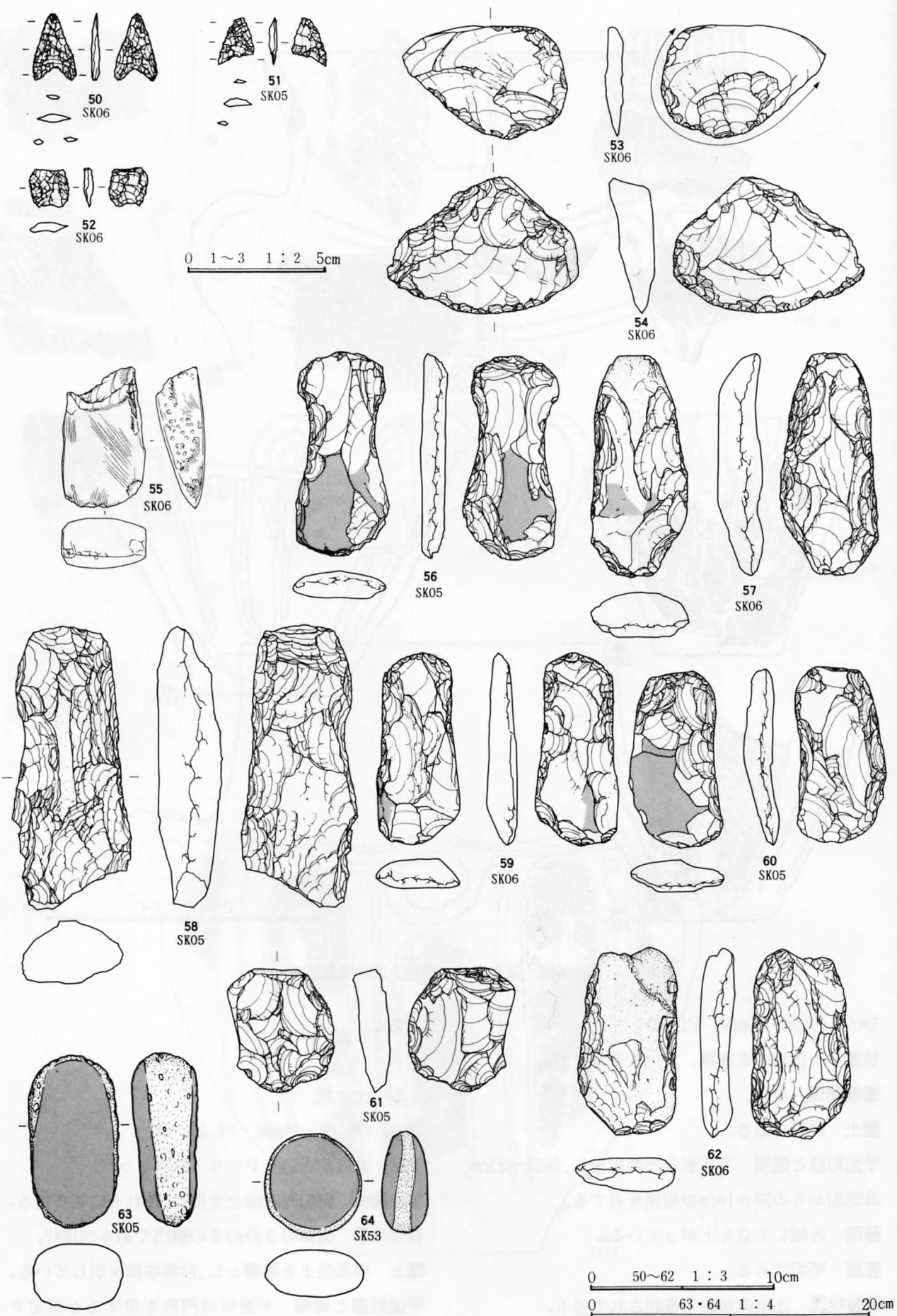
重複関係 SI01・SX02と重複し、これらに切られる。

遺存状態 全体の3分の2の検出であるが良好。

覆土 明褐色土を基調とし、自然堆積を示している。

平面形態と規模 平面形は円形を呈すると推定され、径96cm、掘り込み面からの深さは40cmを測る。

III章 検出された遺構と遺物



第107図 屋外埋設遺構出土遺物実測図8

2. 縄文時代中期後半の遺構と遺物

壁面 外傾して立ち上がっている。

底面 ほぼ平坦である。

遺物 部分検出であるが図上復元可能な土器1点を図示し得た。この他に板状の自然礫が出土している。

SK07 (第108図/PL.13)

位置 2区南東側、O-9グリッド。

重複関係 なし。

遺存状態 若干調査区外にかかるが、良好。

覆土 暗褐色を基調とし、自然堆積を示している。

平面形態と規模 平面形は楕円形を呈し、長軸91cm、短軸75(推定85)cm、確認面からの深さ19~21cmの規模を有する。

壁面 外傾して立ち上がっている。

底面 北西端・南東端がやや窪む。

遺物 数点の土器片が出土したが図示するには至らなかった。

SK08 (第108・116図/PL.13・27)

位置 2区南東側、O-9グリッド。

重複関係 なし。

遺存状態 良好。

覆土 暗褐色を基調とし、自然堆積を示している。

平面形態と規模 平面形は楕円形を呈し、長軸101cm、短軸78cm、確認面からの深さ72~75cmの規模を有する。

壁面 下位は垂直に、上位は外傾して立ち上がっている。

底面 凸凹が顕著である。

遺物 土器6点を図示し得た。第116図2は籠目文をもつ口縁部である。

SK09 (第108・116・119図/PL.13)

位置 2区南東側、N-9グリッド。

重複関係 なし。

遺存状態 良好。

覆土 明褐色土を基調とし、自然堆積を示している。

平面形態と規模 平面形は円形を呈し、径100~110cm、確認面からの深さ72~76cmの規模を有する。

壁面 下位は内傾気味に、上位は外傾して立ち上がっており、断面は袋状を呈している。

底面 ほぼ平坦である。

遺物 土器5点、石器1点を図示し得た。第116図7は浅鉢で口縁端部が直立し、内外面に浅い稜が認められる。同図8は器台で穿孔の周囲に沈線文を施している。石器組成は打製石斧類3(製品1・剥片2)、礫石器類2(敲石2)である。

SK10 (第109図/PL.13)

位置 2区南西側、L-9グリッド。

重複関係 SI06と重複し、これを切っている。

遺存状態 良好。

覆土 暗褐色土を基調とし、自然堆積を示している。

平面形態と規模 平面形は不整円形を呈し、径70~77cm、確認面からの深さ24~29cmの規模を有する。

壁面 外傾して立ち上がっている。

底面 北側に向かって深くなっている。

遺物 数点の土器片が出土しているが図示するには至らなかった。

SK14 (第109・116・119図/PL.13)

位置 2区北側、N-6・7グリッド。

重複関係 なし。

遺存状態 遺構は調査区外へ延びており、全体の5分の4程の検出であるが良好。

覆土 明褐色土を基調とし、自然堆積を示している。

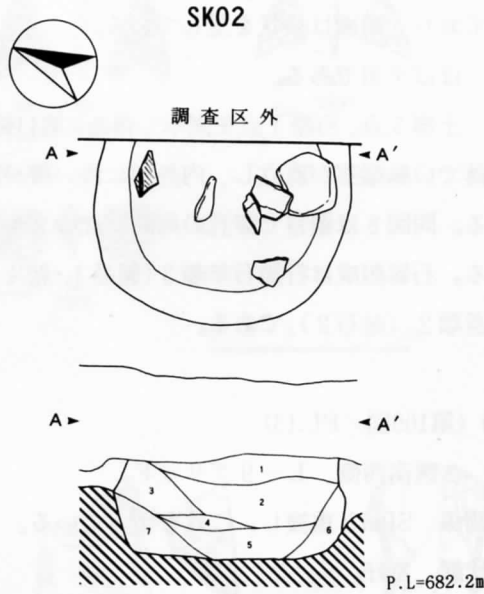
平面形態と規模 平面形は不整円形を呈すると考えられ、径300cm程、確認面からの深さ70cmを測る。

壁面 階段状に立ち上がっている。

底面 やや凸凹している。

遺物 土器2点、石器1点を図示し得た。石器組成は打製石斧類2(製品2)、礫石器類1(凹石1)、剥片石器類3(剥片2・石匙1)である。

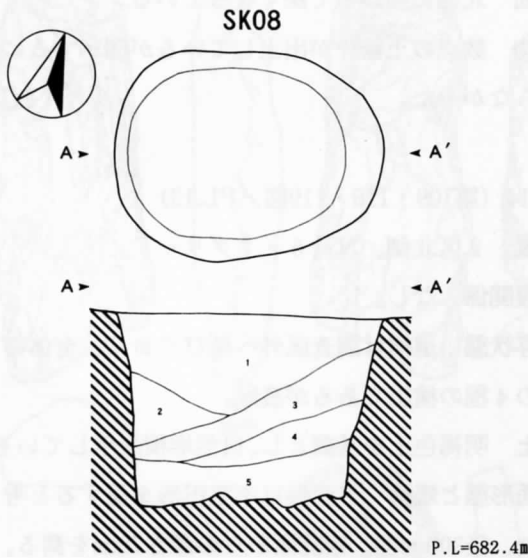
備考 本土坑は覆土上層にローム粒を多く含んでいることから風倒木跡の可能性が高い。



SK02土層説明

AA'

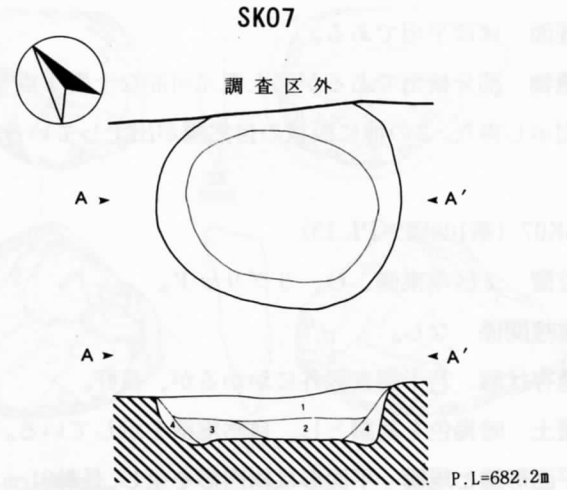
1. 暗褐色土層：粘性なし。締まりややなし。As-D軽石・ローム粒・炭化粒を少量含む。
2. 明褐色土層：粘性なし。締まりあり。As-D軽石・ローム粒・φ~1cm大のロームブロックを含む。
3. 暗褐色土層：粘性なし。締まりややあり。As-D軽石・ローム粒・炭化粒を微量含む。
4. 明褐色土層：粘性なし。締まりややなし。As-D軽石・炭化粒を少量、ローム粒を含む。
5. 明褐色土層：粘性なし。締まりあり。炭化粒少量、ローム粒を多量に含む。
6. 明褐色土層：粘性なし。締まりややあり。炭化粒少量、ローム粒を含む。
7. 明褐色土層：粘性なし。締まりややなし。φ~1cm大のロームブロックを少量、ローム粒を多量に含む。



SK08土層説明

AA'

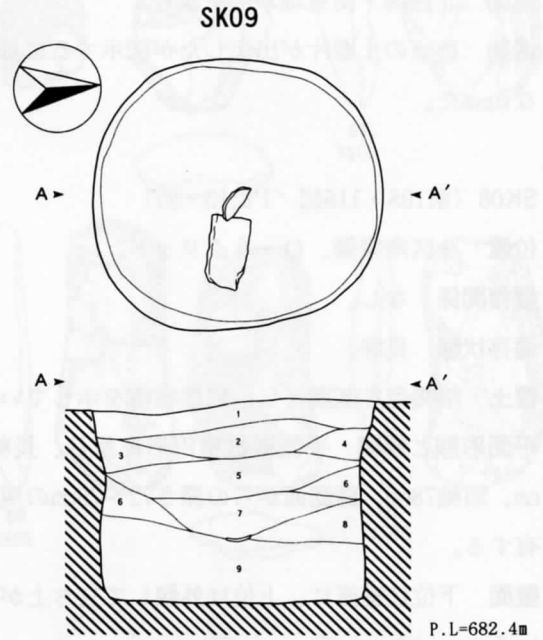
1. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。ローム粒を含み、As-D軽石・炭化粒を少量含む。
2. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。ローム粒を少量含む。
3. 明褐色土層：粘性なし。締まりあり。ローム粒を多量、φ1~3cm大のロームブロック・炭化粒を含む。
4. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。ローム粒・φ~1cm大のロームブロック・炭化粒を含む。
5. 明褐色土層：粘性、締まり共にややあり。ローム粒・φ~1cm大のロームブロックを含む。



SK07土層説明

AA'

1. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。ローム粒・φ1~3cm大のロームブロックを含み、As-D軽石を少量含む。
2. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。ローム粒を含む。
3. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。ローム粒を多量、φ~1cm大のロームブロックを含む。
4. 明褐色土層：粘性ややあり。締まりあり。ローム粒を多量に含む。



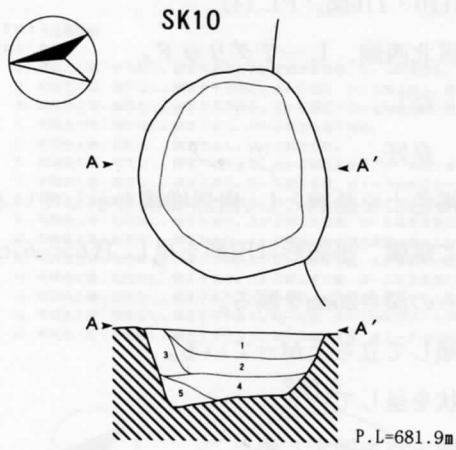
SK09土層説明

AA'

1. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。As-D軽石・ローム粒を含む。
2. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。ローム粒・炭化粒を含む。
3. 明褐色土層：粘性なし。締まりややあり。ローム粒を多量、φ~1cm大のロームブロックを含む。
4. 明褐色土層：粘性なし。締まりややあり。ローム粒を多量、炭化粒を微量含む。
5. 暗褐色土層：粘性なし。締まりややあり。ローム粒を多量、炭化粒を含む。
6. 明褐色土層：粘性なし。締まりややなし。ローム粒を多量、炭化粒を微量含む。
7. 暗褐色土層：粘性なし。締まりややなし。ローム粒・炭化粒を微量含む。
8. 明褐色土層：粘性なし。締まりややあり。ローム粒・炭化粒を微量含む。
9. 暗褐色土層：粘性なし。締まりややあり。ローム粒・炭化粒を含む。

0 1 : 30 1m

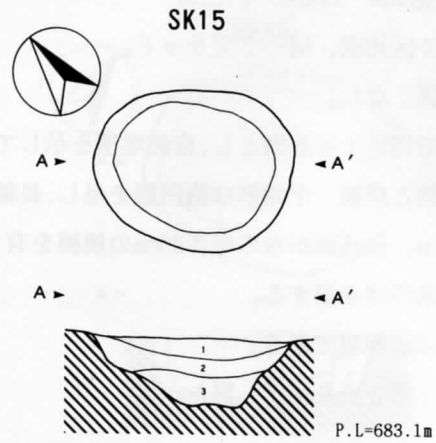
2. 縄文時代中期後半の遺構と遺物



SK10土層説明

AA'

1. 暗褐色土層：粘性なし。締まりややなし。As-D軽石・ローム粒を少量含む。
2. 暗褐色土層：粘性なし。締まりややなし。As-D軽石・ローム粒を含む。
3. 明褐色土層：粘性、締まり共になし。As-D軽石・ローム粒を多量に含む。
4. 暗褐色土層：粘性なし。締まりややあり。ローム粒を含む。
5. 明褐色土層：粘性、締まり共になし。ローム粒を多量に含む。

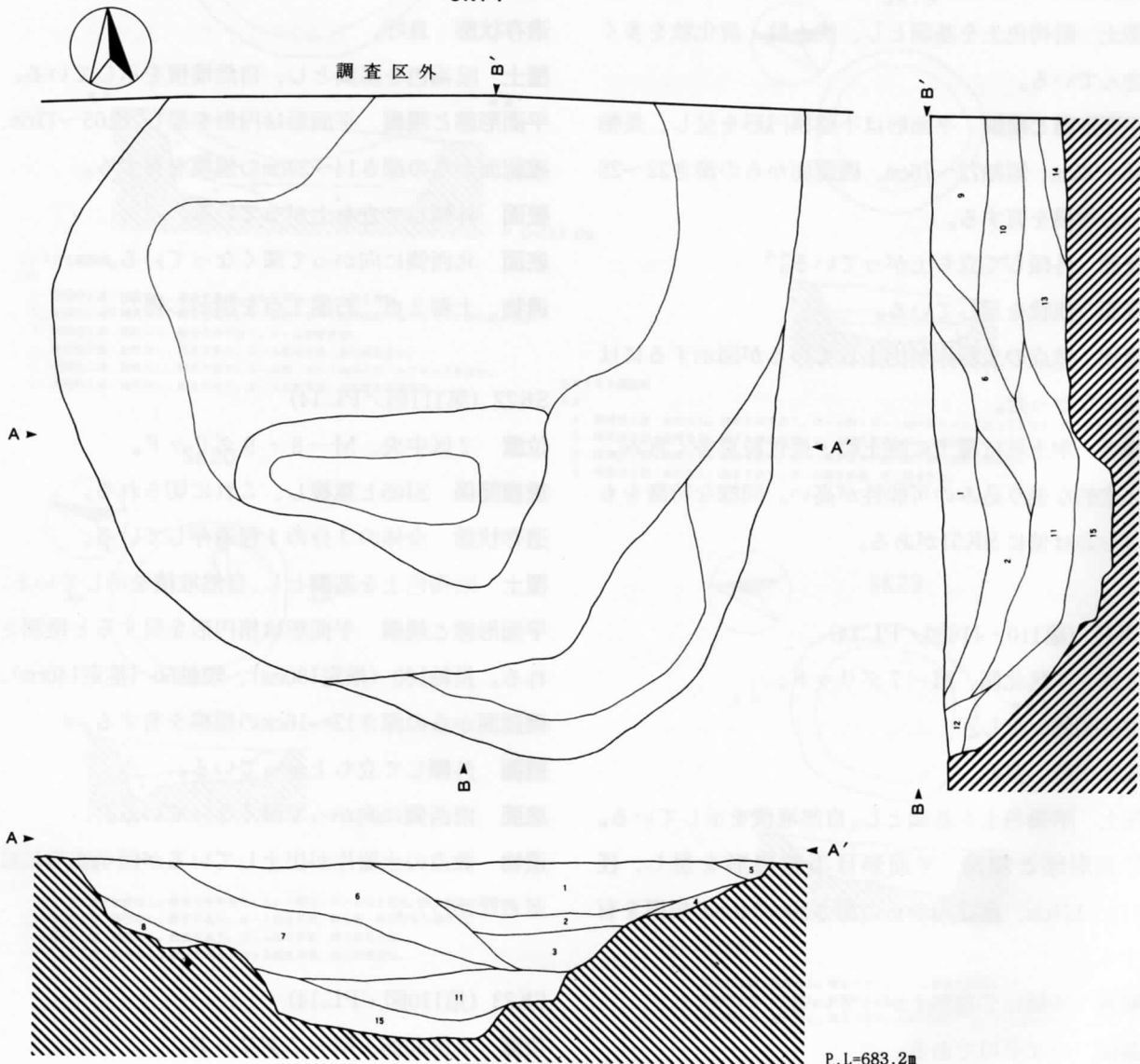


SK15土層説明

AA'

1. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。As-D軽石・ローム粒を含む。
2. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。ローム粒を含み、焼土粒を少量含む。
3. 明褐色土層：粘性なし。締まりややあり。ローム粒を多量、焼土粒を少量含む。

SK14



P.L.=683.2m

0 1 : 30 1m

第109図 SK10・14・15実測図

III章 検出された遺構と遺物

SK15 (第109・116図/PL.13)

位置 2区北側、M-7グリッド。

重複関係 なし。

覆土 暗褐色土を基調とし、自然堆積を示している。

平面形態と規模 平面形は楕円形を呈し、長軸76cm、短軸60cm、確認面からの深さ25cmの規模を有する。

壁面 階段状を呈する。

底面 ほぼ平坦である。

遺物 土器3点を図示し得た。

SK16 (第110図/PL.13)

位置 2区北側、M-7グリッド。

重複関係 なし。

遺存状態 良好。

覆土 暗褐色土を基調とし、焼土粒・炭化粒を多く含んでいる。

平面形態と規模 平面形は不整楕円形を呈し、長軸88~92cm、短軸72~76cm、確認面からの深さ22~28cmの規模を有する。

壁面 外傾して立ち上がっている。

底面 皿状を呈している。

遺物 数点の土器片が出土しているが図示するには至らなかった。

備考 本土坑は覆土に焼土粒・炭化粒を多く含み、2次的な掘り込みの可能性が高い。同様な特徴をもつものは他にSK51がある。

SK17 (第110・116図/PL.14)

位置 2区北側、M-7グリッド。

重複関係 なし。

遺存状態 良好。

覆土 暗褐色土を基調とし、自然堆積を示している。

平面形態と規模 平面形は不整形を呈し、径117~121cm、確認面からの深さ30~34cmの規模を有する。

壁面 外傾して立ち上がっている。

底面 ほぼ平坦である。

遺物 土器7点を図示し得た。

SK19 (第110・116図/PL.14)

位置 2区北西側、L-7グリッド。

重複関係 なし。

遺存状態 良好。

覆土 明褐色土を基調とし、自然堆積を示している。

平面形態と規模 平面形は円形を呈し、径65~67cm、確認面からの深さ20cmを測る。

壁面 外傾して立ち上がっている。

底面 皿状を呈している。

遺物 土器1点を図示し得た。

SK20 (第110・116・119図/PL.14)

位置 2区北西側、L-7グリッド。

重複関係 なし。

遺存状態 良好。

覆土 暗褐色を基調とし、自然堆積を示している。

平面形態と規模 平面形は円形を呈し、径65~71cm、確認面からの深さ14~24cmの規模を有する。

壁面 外傾して立ち上がっている。

底面 北西側に向かって深くなっている。

遺物 土器2点、石器1点を図示し得た。

SK22 (第111図/PL.14)

位置 2区中央、M-8・9グリッド。

重複関係 SI05と重複し、これに切られる。

遺存状態 全体の3分の1程遺存している。

覆土 暗褐色土を基調とし、自然堆積を示している。

平面形態と規模 平面形は楕円形を呈すると推測される。長軸160(推定180cm)、短軸60(推定140cm)、確認面からの深さ12~16cmの規模を有する。

壁面 外傾して立ち上がっている。

底面 南西側に向かって深くなっている。

遺物 数点の土器片が出土しているが図示するには至らなかった。

SK23 (第110図/PL.14)

位置 2区北側、M-7グリッド。

重複関係 なし。

遺存状態 良好。

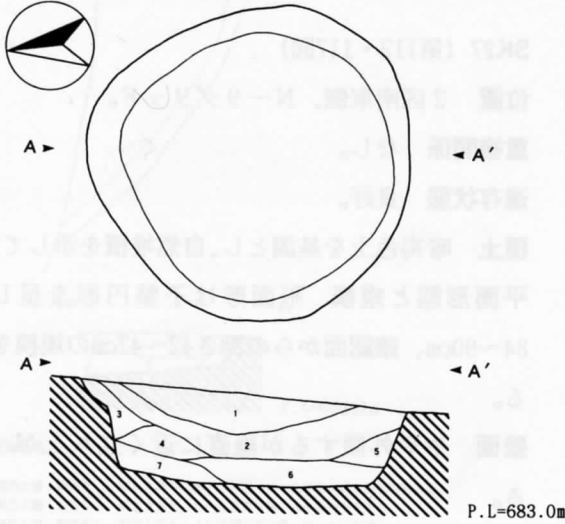
2. 縄文時代中期後半の遺構と遺物

SK14土層説明

AA' BB'

1. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。As-D軽石を多量、ローム粒を含む。
2. 暗褐色土層：粘性なし。締まりややあり。As-D軽石・ローム粒を含み、焼土粒を微量含む。
3. 暗褐色土層：粘性なし。締まりややあり。As-D軽石・ローム粒を含み、焼土粒を少量含む。
4. 明褐色土層：粘性なし。締まりなし。ローム粒を多量を含む。
5. 明褐色土層：粘性なし。締まりなし。ローム粒を含む。
6. 明褐色土層：粘性なし。締まりややあり。As-D軽石を少量、ローム粒・φ~1cm大のロームブロックを含む。
7. 明褐色土層：粘性なし。締まりあり。ローム粒を多量、φ1~5cm大のロームブロックを含む。
8. 明褐色土層：粘性、締まり共にややあり。ローム粒を多量、φ1~3cm大のロームブロックを含む。
9. 明褐色土層：粘性なし。締まりあり。As-D軽石を微量、ローム粒を多量を含む。
10. 明褐色土層：粘性なし。締まりあり。As-D軽石・焼土粒を微量、ローム粒を多量を含む。
11. 明褐色土層：粘性なし。締まりややあり。ローム粒を多量、As-D軽石・焼土粒を含む。
12. 明褐色土層：粘性なし。締まりあり。As-D軽石を少量、ローム粒を多量を含む。
13. 明褐色土層：粘性なし。締まりあり。As-D軽石・焼土粒を少量、ローム粒を多量を含む。
14. 明褐色土層：粘性なし。締まりややあり。ローム粒・φ~1cm大のロームブロックを多量を含む。
15. 明褐色土層：粘性なし。締まりややあり。ローム粒を多量、φ1~5cm大のロームブロックを含む。

SK17

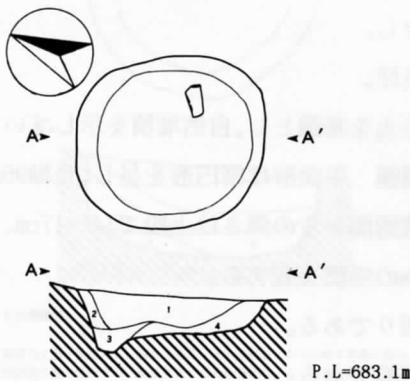


SK17土層説明

AA'

1. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。As-D軽石・ローム粒を含む。
2. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。ローム粒・φ~1cm大のロームブロック・炭化粒を含む。
3. 暗褐色土層：粘性なし。締まりややあり。ローム粒を含む。
4. 明褐色土層：粘性なし。締まりあり。ローム粒を多量、炭化粒を含む。
5. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。ローム粒・φ~1cm大のロームブロックを含む。
6. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。ローム粒を多量、炭化粒を少量含む。

SK20

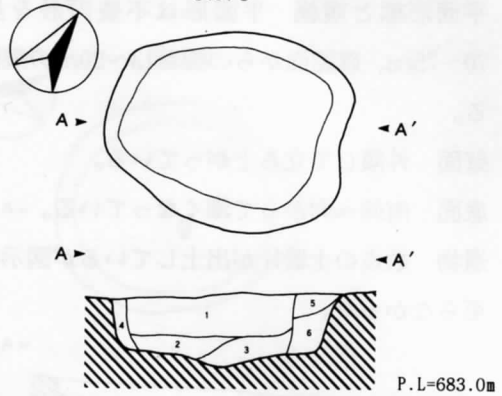


SK20土層説明

AA'

1. 暗褐色土層：粘性なし。締まりややあり。As-D軽石・ローム粒を含み、焼土粒を少量含む。
2. 明褐色土層：粘性なし。締まりあり。ローム粒を多量、焼土粒・炭化粒を少量含む。
3. 明褐色土層：粘性なし。締まりあり。ローム粒を多量、焼土粒を含む。
4. 明褐色土層：粘性なし。締まりあり。ローム粒を多量、炭化粒を含む。

SK16

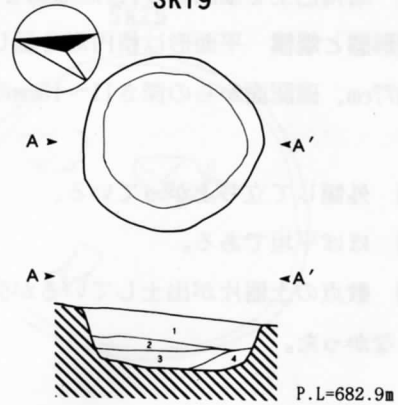


SK16土層説明

AA'

1. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。ローム粒・焼土粒を少量含む。
2. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。ローム粒・φ1~3cm大のロームブロックを含む。
3. 明褐色土層：粘性なし。締まりあり。ローム粒を多量、φ~1cm大のロームブロックを含む。
4. 明褐色土層：粘性なし。締まりあり。ローム粒を多量、焼土粒・炭化粒を含む。
5. 明褐色土層：粘性なし。締まりややあり。ローム粒を多量を含む。
6. 明褐色土層：粘性なし。締まりあり。ローム粒を多量、炭化粒を少量含む。

SK19

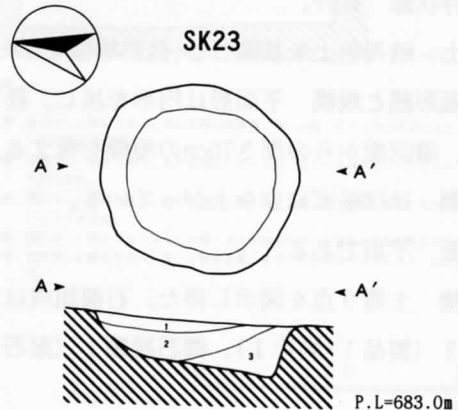


SK19土層説明

AA'

1. 明褐色土層：粘性なし。締まりややあり。ローム粒・φ~1cm大のロームブロックを含み、焼土粒を少量含む。
2. 明褐色土層：粘性なし。締まりややあり。ローム粒を多量、φ~1cm大のロームブロックを含む。
3. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。ローム粒を含み、焼土粒・炭化粒を少量含む。
4. 明褐色土層：粘性なし。締まりあり。ローム粒を多量、焼土粒を含む。

SK23



SK23土層説明

AA'

1. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。ローム粒を少量含む。
2. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。ローム粒を多量、As-D軽石を少量含む。
3. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。As-D軽石・ローム粒を少量含む。

0 1 : 30 1 m

第110図 SK16・17・19・20・23実測図

III章 検出された遺構と遺物

覆土 暗褐色土を基調とし、自然堆積を示している。
平面形態と規模 平面形は不整形円形を呈し、径70~75cm、確認面からの深さ13~20cmの規模を有する。
壁面 外傾して立ち上がっている。
底面 南側へ向かって深くなっている。
遺物 数点の土器片が出土しているが図示するには至らなかった。

SK24 (第111図/PL.14)

位置 2区北側、M-7グリッド。
重複関係 なし。
遺存状態 良好。
覆土 暗褐色土を基調とし、自然堆積を示している。
平面形態と規模 平面形は楕円形を呈し、長軸91cm、短軸77cm、確認面からの深さ11~15cmの規模を有する。
壁面 外傾して立ち上がっている。
底面 ほぼ平坦である。
遺物 数点の土器片が出土しているが図示するには至らなかった。

SK25 (第111・116・117図/PL.14)

位置 2区南東側、N-9グリッド。
重複関係 なし。
遺存状態 良好。
覆土 暗褐色土を基調とし、自然堆積を示している。
平面形態と規模 平面形は円形を呈し、径115~129cm、確認面からの深さ70cmの規模を有する。
壁面 ほぼ垂直に立ち上がっている。
底面 平坦である。
遺物 土器9点を図示し得た。石器組成は打製石斧類2(製品1・剥片1)、礫石器類1(敲石1)である。

SK26 (第111・117図/PL.14)

位置 2区中央、M-8グリッド。
重複関係 SI09と重複し、これに切られている。
遺存状態 良好。

覆土 暗褐色土を基調とし、自然堆積を示している。
平面形態と規模 平面形は不整形円形を呈し、径86~90cm、確認面からの深さ26~34cmの規模を有する。
壁面 ほぼ垂直に立ち上がっている。
底面 皿状を呈している。
遺物 土器4点を図示し得た。この他に敲石が1点出土している。

SK27 (第112・117図)

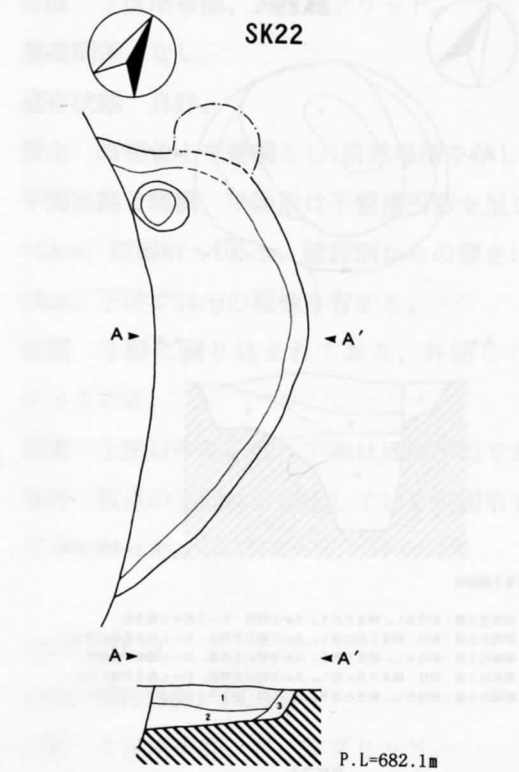
位置 2区南東側、N-9グリッド。
重複関係 なし。
遺存状態 良好。
覆土 暗褐色土を基調とし、自然堆積を示している。
平面形態と規模 平面形は不整形円形を呈し、径84~90cm、確認面からの深さ42~47cmの規模を有する。
壁面 やや外傾するが垂直に近く立ち上がっている。
底面 ほぼ平坦である。
遺物 石器1点を図示し得た。

SK29 (第112・117図)

位置 2区南東側、N-9グリッド。
重複関係 なし。
遺存状態 良好。
覆土 暗褐色土を基調とし、自然堆積を示している。
平面形態と規模 平面形は楕円形を呈し、長軸96cm、短軸78cm、確認面からの深さは上段で14~17cm、下段で55~57cmの規模を有する。
壁面 2段掘りである。
底面 ほぼ平坦である。
遺物 土器1点を図示し得た。

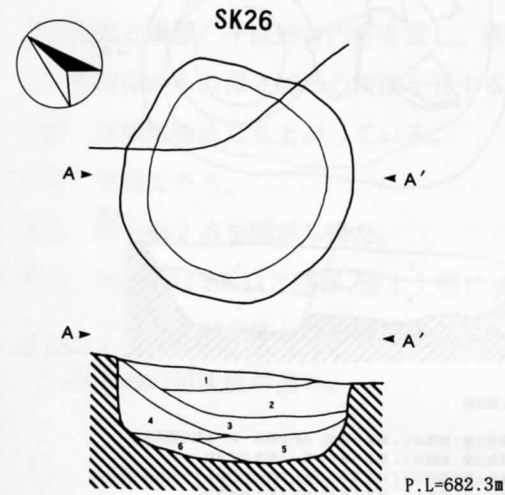
SK30 (第112・117図)

位置 2区南東側、O-10グリッド。
重複関係 なし。
遺存状態 良好。
覆土 暗褐色土を基調とし、自然堆積を示している。



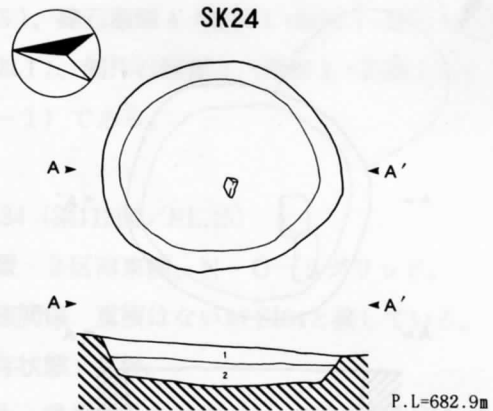
SK22土層説明

- AA'
1. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。As-D軽石・ローム粒を少量含む。
 2. 明褐色土層：粘性なし。締まりあり。ローム粒を多量、As-D軽石を含む。
 3. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。As-D軽石を少量、ローム粒を含む。



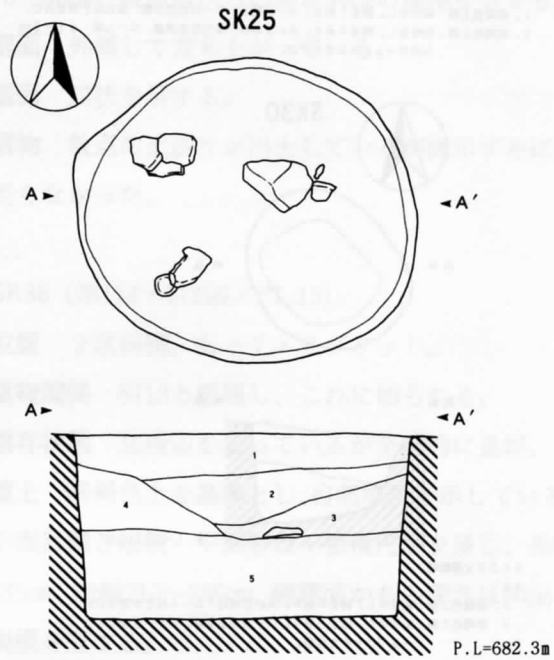
SK26土層説明

- AA'
1. 明褐色土層：粘性なし。締まりあり。As-D軽石・ローム粒を多量に含む。
 2. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。As-D軽石・ローム粒を含み、炭化粒を少量含む。
 3. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。ローム粒・炭化粒を少量含む。
 4. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。ローム粒・炭化粒を微量含む。
 5. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。ローム粒・炭化粒を含む。
 6. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。ローム粒を微量含む。



SK24土層説明

- AA'
1. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。ローム粒を少量含む。
 2. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。ローム粒・ ϕ ~1cm大のロームブロックを少量含む。



SK25土層説明

- AA'
1. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。As-D軽石を多量、ローム粒・ ϕ ~1cm大のロームブロック・炭化粒を含む。
 2. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。As-D軽石・ローム粒・ ϕ 1~3cm大のロームブロック・炭化粒を含む。
 3. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。As-D軽石・焼土粒を少量、ローム粒・ ϕ 1~3cmのロームブロックを含む。
 4. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。ローム粒・ ϕ ~1cm大のロームブロック炭化粒を含む。
 5. 明褐色土層：粘性なし。締まりあり。ローム粒を多量、 ϕ 1~3cmのロームブロック・炭化粒を含む。

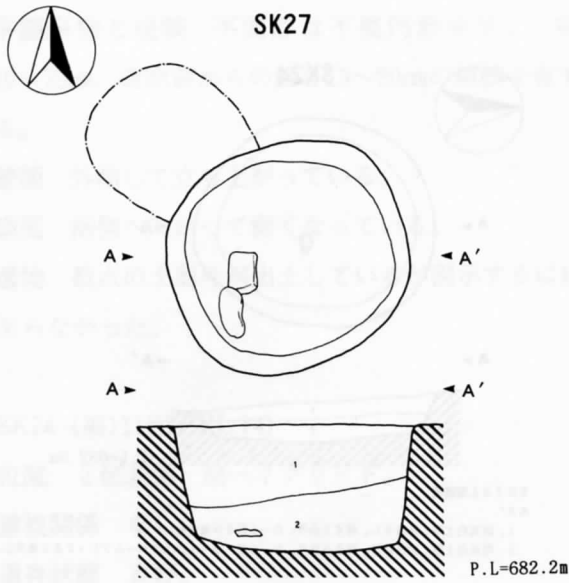
0 1:30 1m

第111図 SK22・24・25・26実測図

平面形態と規模 平面形は不整円形を呈し、径54~64cm、確認面からの深さ26~37cmの規模を有する。
壁面 北西壁は外傾して、南東壁は垂直に立ち上

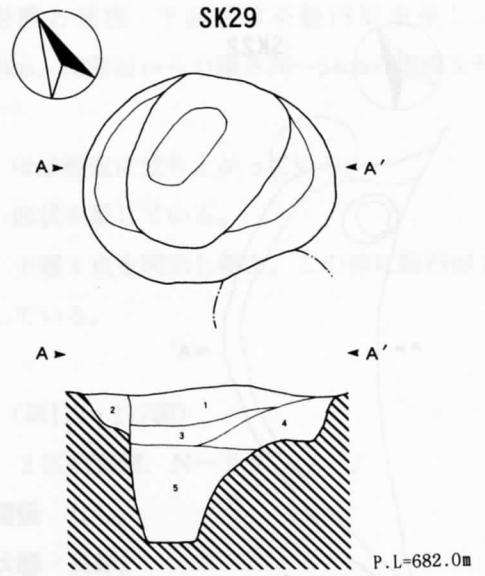
がっている。
底面 南東側へ深くなっている。
遺物 土器1点を図示し得た。

III章 検出された遺構と遺物



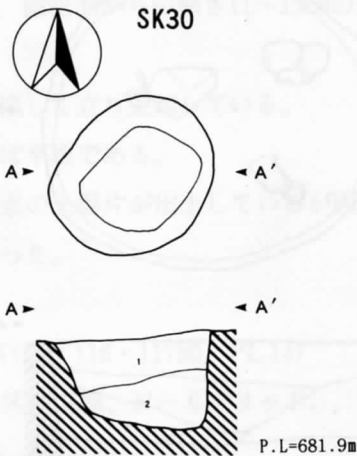
SK27土層説明
AA'

1. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。As-D軽石・ローム粒を少量、炭化粒を微量含む。
2. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。As-D軽石・炭化粒を微量、ローム粒・ ϕ 1~3cm大のロームブロックを含む。



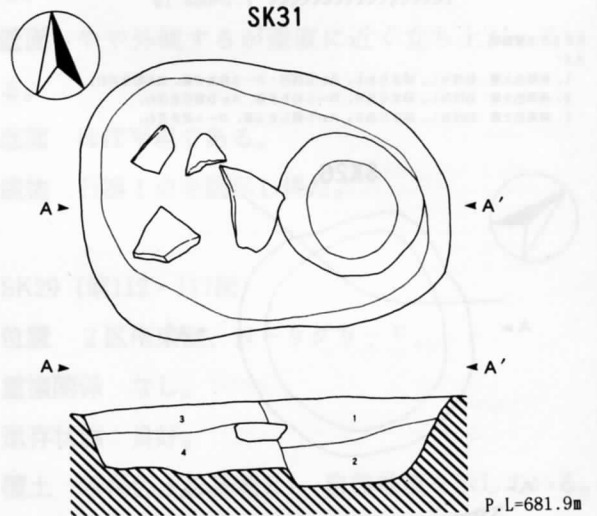
SK29土層説明
AA'

1. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。As-D軽石・ローム粒を少量含む。
2. 明褐色土層：粘性、締まり共になし。As-D軽石を微量、ローム粒を多量に含む。
3. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。As-D軽石を微量、ローム粒を少量含む。
4. 明褐色土層：粘性、締まり共になし。As-D軽石を微量、ローム粒を多量に含む。
5. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。ローム粒・ ϕ 1~5cm大のロームブロックを含む。



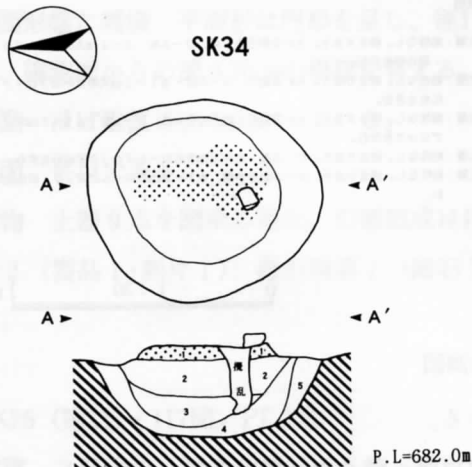
SK30土層説明
AA'

1. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。As-D軽石・ローム粒を少量含む。
2. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。ローム粒を多量、 ϕ 1~5cm大のロームブロックを含む。



SK31土層説明
AA'

1. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。As-D軽石・ローム粒を微量含む。
2. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。ローム粒を少量含む。
3. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。As-D軽石を微量、ローム粒を少量含む。
4. 明褐色土層：粘性なし。締まりあり。ローム粒を微量含む。



SK34土層説明
AA'

1. 焼土層
2. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。ローム粒・ ϕ 1~3cm大のロームブロックを含む。
3. 明褐色土層：粘性なし。締まりあり。ローム粒・ ϕ 1~3cm大のロームブロックを多量に含む。
4. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。ローム粒を少量、 ϕ ~1cm大のロームブロックを含む。
5. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。ローム粒を少量含む。

0 1 : 30 1 m

第112図 SK27・29・30・31・34実測図

SK31 (第112・117図)

位置 2区南東側、N-10グリッド。

重複関係 なし。

遺存状態 良好。

覆土 暗褐色土を基調とし、自然堆積を示している。

平面形態と規模 平面形は不整楕円形を呈し、長軸143cm、短軸87~105cm、確認面からの深さは上段で26cm、下段で34cmの規模を有する。

壁面 2段に掘り込まれており、外傾して立ち上がっている。

底面 上段はやや凸凹、下段はほぼ平坦である。

遺物 数点の土器片が出土しているが図示するには至らなかった。

SK32・SK33

SK32 (第113図/PL.15)

位置 2区南東側、N-9グリッド。

重複関係 SK33と重複し、これを切っている。

遺存状態 覆土の半分は攪乱されている。

覆土 明褐色土を基調とし、自然堆積を示している。

平面形態と規模 平面形は円形を呈し、径160~165cm、確認面からの深さ82cmの規模を有する。

壁面 外傾気味に立ち上がっている。

底面 平坦である。

遺物 数土器2点を図示し得た。

備考 本土坑はSK14と同様、覆土上層にローム粒・ロームブロックが主体となる層が認められることから風倒木跡の可能性が高い。

SK33 (第113・117~119図/PL.15・27)

位置 2区南東側、N-9グリッド。

重複関係 SK32と重複し、これに切られている。

遺存状態 良好。

覆土 暗褐色土を基調とし、自然堆積を示している。

平面形態と規模 平面形は円形を呈し、径123~126cm、確認面からの深さ58~62cmの規模を有する。

壁面 外傾気味に立ち上がっている。

底面 凸凹している。

遺物 復元土器3点を含む、土器11点、石器4点を

図示し得た。土器は唐草文(曾利)系で構成される。石器組成は打製石斧類10(製品2・整形剥片3・剥片5)、礫石器類4(敲石1・磨石1・磨石+凹石1・石皿1)、剥片石器類3(残核1・石鏃1・スクレイパー1)である。

SK34 (第112図/PL.15)

位置 2区南東側、N・O-9グリッド。

重複関係 重複はないがSI04と接している。

遺存状態 良好。

覆土 暗褐色土を基調とし、自然堆積を示している。また最上層で焼土層が検出されている。

平面形態と規模 平面形は不整円形を呈し、径76~88cm、確認面からの深さ34cmの規模を有する。

壁面 外傾して立ち上がっている。

底面 皿状を呈する。

遺物 数点の土器片が出土しているが図示するには至らなかった。

SK36 (第114・118図/PL.15)

位置 2区西側、L-7・8グリッド。

重複関係 SI13と重複し、これに切られる。

遺存状態 北西辺を失っているが全体的に良好。

覆土 暗褐色土を基調とし、自然堆積を示している。

平面形態と規模 平面形は不整楕円形を呈し、長軸335cm、短軸210~280cm、確認面からの深さは60cmの規模を有する。

壁面 階段状を呈している。

底面 やや凸凹している。

遺物 土器3点を図示し得た。その他に敲石・黒耀石の剥片が1点ずつ出土している。

SK37 (第113・118図)

位置 2区北西側、L-7グリッド。

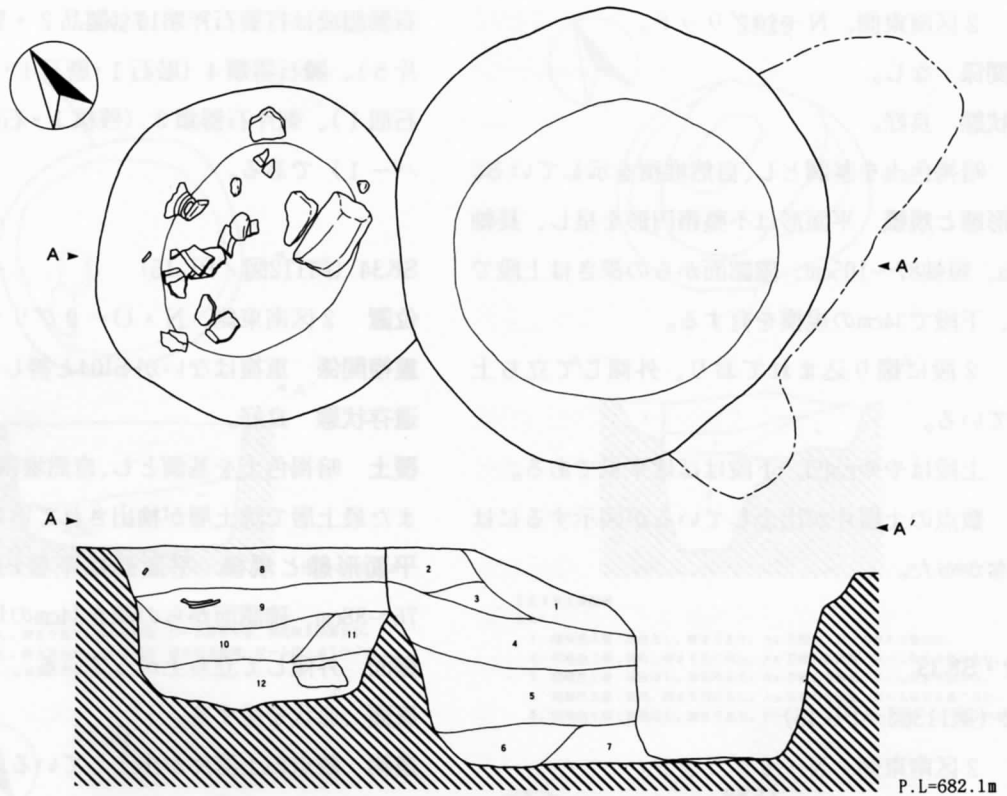
重複関係 なし。

遺存状態 良好。

覆土 単層である。

平面形態と規模 平面形は円形を呈し、径75~81cm、確認面からの深さ35cmの規模を有する。

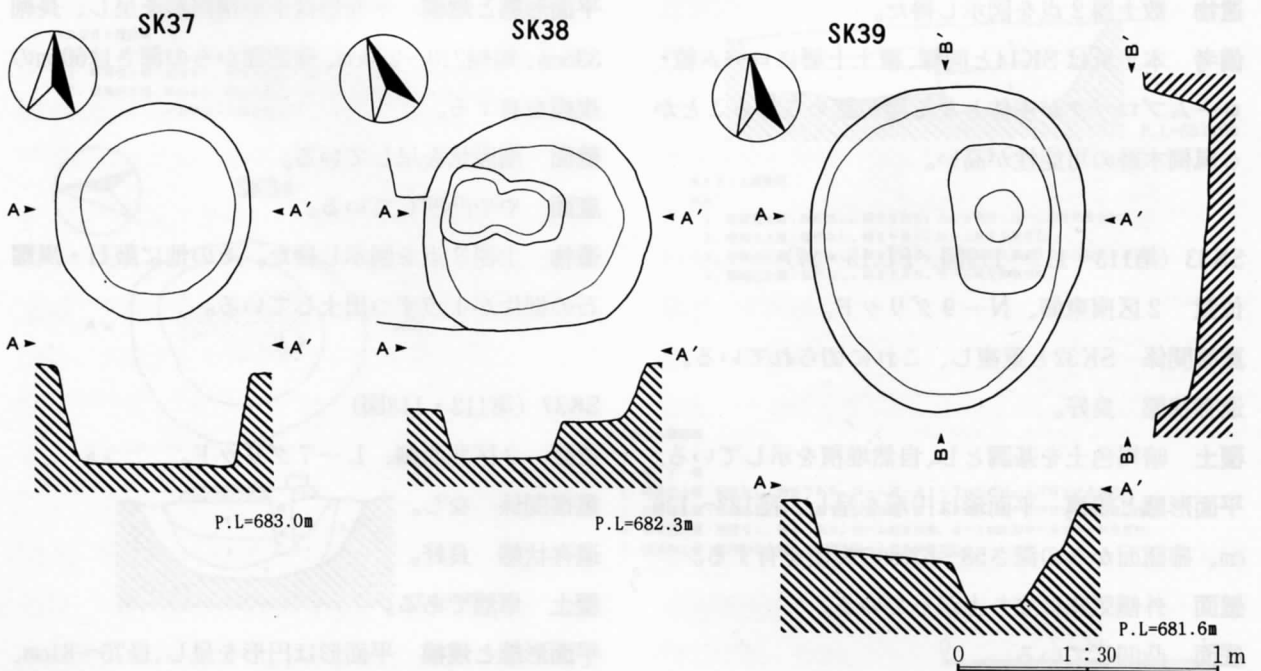
SK32・33



SK32・33土層説明

AA'

1. 明褐色土層：粘性なし。締まりややあり。ローム粒・ ϕ 1cm大のロームブロックから成る。
2. 暗褐色土層：粘性なし。締まりややあり。As-D軽石・ローム粒を少量含む。
3. 明褐色土層：粘性なし。締まりややあり。ローム粒・ ϕ 1~2cm大のロームブロックを多量、炭化粒を少量含む。
4. 明褐色土層：粘性なし。締まりややなし。ローム粒・ ϕ 1~2cm大のロームブロックを多量に含む。
5. 明褐色土層：粘性なし。締まりあり。ローム粒・ ϕ 1~2cm大のロームブロックを含む。
6. 明褐色土層：粘性ややあり。締まりあり。ローム粒・ ϕ 1cm大のロームブロックを多量、炭化粒を少量含む。
7. 明褐色土層：粘性、締まり共にややあり。ローム粒・ ϕ 1cm大のロームブロックを多量含む（以上SK32覆土）。
8. 明褐色土層：粘性なし。締まりあり。As-D軽石を少量、ローム粒・ ϕ 1~2cm大のロームブロックを多量に含む。
9. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。As-D軽石・ローム粒・ ϕ 1cm大のロームブロック・炭化粒を含む。
10. 暗褐色土層：粘性、締まり共にややあり。ローム粒・ ϕ 1cm大のロームブロック・炭化粒を含む。
11. 明褐色土層：粘性ややあり。締まりあり。ローム粒・ ϕ 1cm大のロームブロックを多量に含む。
12. 明褐色土層：粘性ややあり。締まりあり。ローム粒・ ϕ 1~2cm大のロームブロックを多量に含む（以上SK33覆土）。



第113図 SK32・33・37~39実測図

壁面 外傾気味に立ち上がっている。

底面 平坦である。

遺物 土器1点を図示し得た。

SK38 (第113・118図)

位置 2区南東側、N-9グリッド。

重複関係 なし。

遺存状態 浅い攪乱を被っているが良好。

覆土 単層である。

平面形態と規模 平面形は不整円形を呈し、径80~85cm、確認面からの深さは上段で22cm、下段で35cmの規模を有する。

壁面 2段に掘り込まれており、外傾して立ち上がっている。

底面 上・下段とも平坦である。

遺物 土器2点を図示し得た。その他、剥片石器類3(残核1・剥片2)が出土している。

SK39 (第113・118図)

位置 2区南側、N-10グリッド。

重複関係 なし。

遺存状態 良好。

覆土 単層である。

平面形態と規模 平面形は楕円形を呈し、長軸120cm、短軸103cm、確認面からの深さは上段で20cm、下段で38cmの規模を有する。

壁面 2段に掘り込まれており、外傾して立ち上がっている。

底面 上・下段とも平坦である。

遺物 土器4点を図示し得た。

SK40 (第114・118図)

位置 2区東側、N-8グリッド。

重複関係 SI09と重複し、これに切られる。また上面に弧状列石が構築されている。

遺存状態 良好。

覆土 単層である。

平面形態と規模 平面形は不整楕円形を呈し、長軸82cm、短軸61~65cm、確認面からの深さ46cmの規模

を有する。

壁面 外傾して立ち上がっている。

底面 平坦である。

遺物 土器2点を図示し得た。

SK41 (第114図)

位置 2区南東側、O-10グリッド。

重複関係 なし。

遺存状態 良好。

覆土 単層である。

平面形態と規模 平面形は不整楕円形を呈し、長軸116cm、短軸98cm、確認面からの深さ30cmの規模を有する。

壁面 外傾して立ち上がっている。

底面 平坦である。

遺物 数点の土器片・石器が出土しているが図示するには至らなかった。石器は剥片石器類3(残核2・剥片1)が出土している。

SK42 (第114・118図)

位置 2区西側、K-8グリッド。

重複関係 なし。

遺存状態 良好。

覆土 単層である。

平面形態と規模 平面形は不整円形を呈し、径38~45cm、確認面からの深さは18cmの規模を有する。

壁面 外傾して立ち上がっている。

底面 平坦である。

遺物 土器1点を図示し得た。

SK45 (第115・118図)

位置 1区東の北側、E-2グリッド。

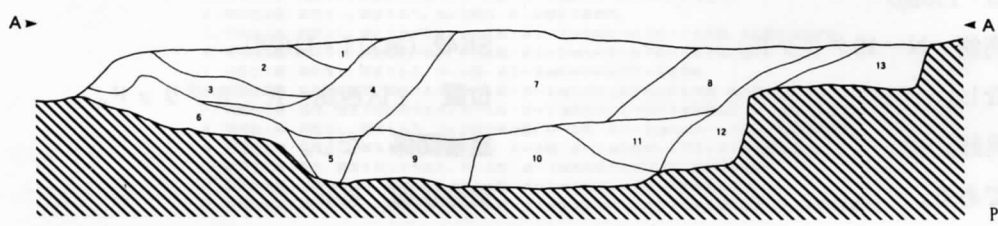
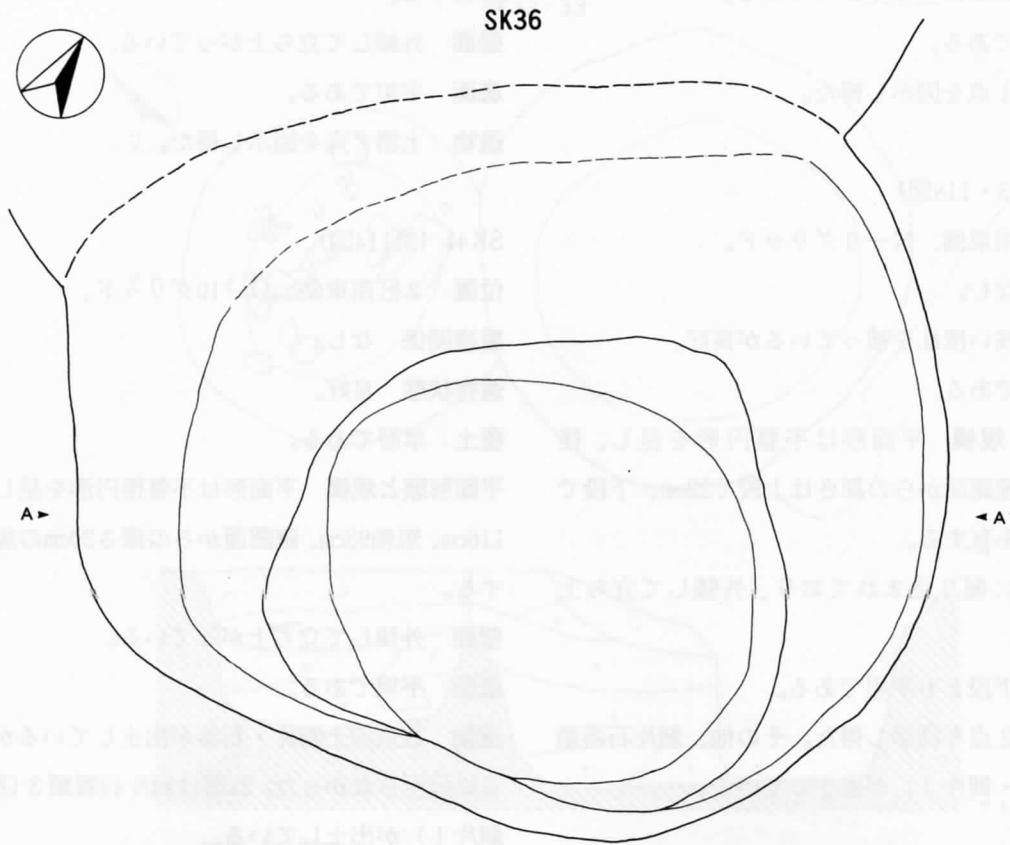
重複関係 なし。

遺存状態 良好。

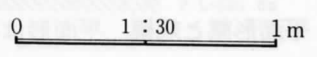
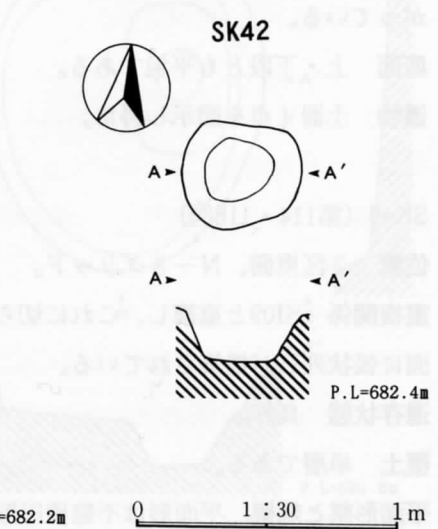
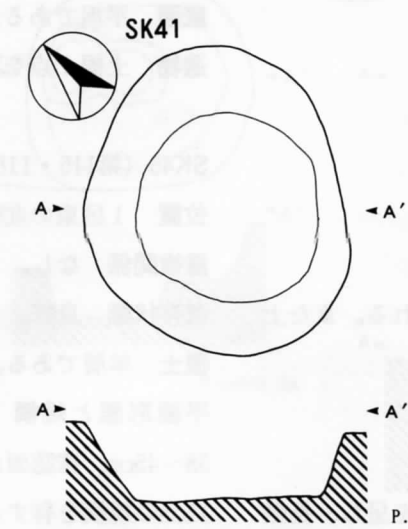
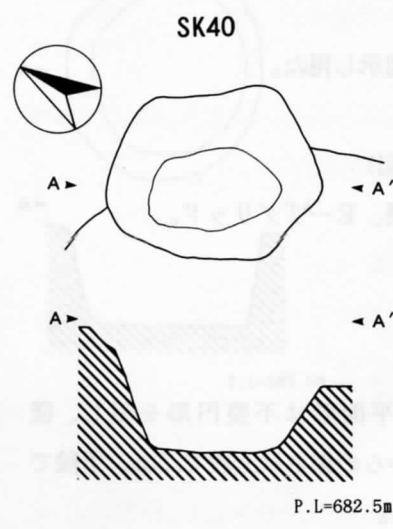
覆土 単層である。

平面形態と規模 平面形は不整円形を呈し、径38~45cm、確認面からの深さは上段で25cm、下段で41cmの規模を有する。

壁面 2段に掘り込まれており、外傾して立ち上



- SK36土層説明
A A'
- | | |
|---|--|
| <p>1. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。As-D軽石・ローム粒を含み、焼土粒・炭化粒を含む。</p> <p>2. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。焼土粒を含み、As-D軽石・ローム粒を少量含む。</p> <p>3. 明褐色土層：粘性なし。締まりあり。ローム粒を多量に含み、As-D軽石・焼土粒・炭化粒を含む。</p> <p>4. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。As-D軽石・ローム粒を含む。</p> <p>5. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。炭化粒を多量に含み、ローム粒を含む。</p> <p>6. 明褐色土層：粘性なし。締まりあり。ローム粒を多量に含み、炭化粒を含む。</p> | <p>7. 明褐色土層：粘性なし。締まりあり。As-D軽石・ローム粒φ~3cm大のロームブロックを含む。</p> <p>8. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。As-D軽石・炭化粒を含み、ローム粒を少量含む。</p> <p>9. 明褐色土層：粘性なし。締まりややあり。ローム粒・焼土粒を少量含む。</p> <p>10. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。ローム粒・炭化粒を含む。</p> <p>11. 明褐色土層：粘性なし。締まりあり。ローム粒を多量に含み、As-D軽石を少量含む。</p> <p>12. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。ローム粒を少量含む。</p> <p>13. 暗褐色土層：粘性なし。締まりややあり。ローム粒・As-D軽石を少量含む。</p> |
|---|--|



第114図 SK36・40~42実測図

2. 縄文時代中期後半の遺構と遺物

がっている。

底面 上・下段とも平坦である。

遺物 土器1点を図示し得た。この他に敲石1点が出土している。

SK46 (第115・118図)

位置 1区東の東側、F-3グリッド。

重複関係 なし。

遺存状態 良好。

覆土 単層である。

平面形態と規模 平面形は円形を呈し、径32~34cm、確認面からの深さは17cmの規模を有する。

壁面 外傾して立ち上がっている。

底面 平坦である。

遺物 土器2点を図示し得た。

SK47 (第115・118図)

位置 1区東の北側、E-2グリッド。

重複関係 なし。

遺存状態 良好。

覆土 単層である。

平面形態と規模 平面形は円形を呈し、径43~50cm、確認面からの深さは16cmの規模を有する。

壁面 外傾して立ち上がっている。

底面 平坦である。

遺物 土器2点を図示し得た。

SK51 (第115図/PL.15)

位置 1区東の北西側、D-2グリッド。

重複関係 なし。

遺存状態 良好。

覆土 暗褐色土を基調とし、焼土粒・炭化粒を多く含んでいる。2次的な掘り込みの可能性が高い。

平面形態と規模 平面形は楕円形を呈し、長軸113cm、短軸98cm、確認面からの深さ22~31cmの規模を有する。

壁面 外傾して立ち上がっている。

底面 平坦である。

遺物 数点の土器片・石器が出土しているが図示す

るには至らなかった。石器は磨石・軽石製品が1点ずつ出土している。

SK52 (第115・118図)

位置 1区東の北西隅、D-2グリッド。

重複関係 なし。

遺存状態 良好。

覆土 単層である。

平面形態と規模 平面形は円形を呈し、径54~60cm、確認面からの深さ23cmの規模を有する。

壁面 外傾して立ち上がっている。

底面 平坦である。

遺物 土器2点を図示し得た。

SK58 (第115・119図/PL.12)

位置 1区東の北側、E-2グリッド。

重複関係 なし。

遺存状態 良好。

覆土 掘り方・石組部ともに単層である。

平面形態と規模 平面形は円形を呈し、径42~54cm、確認面からの深さ30cmの規模を有する。

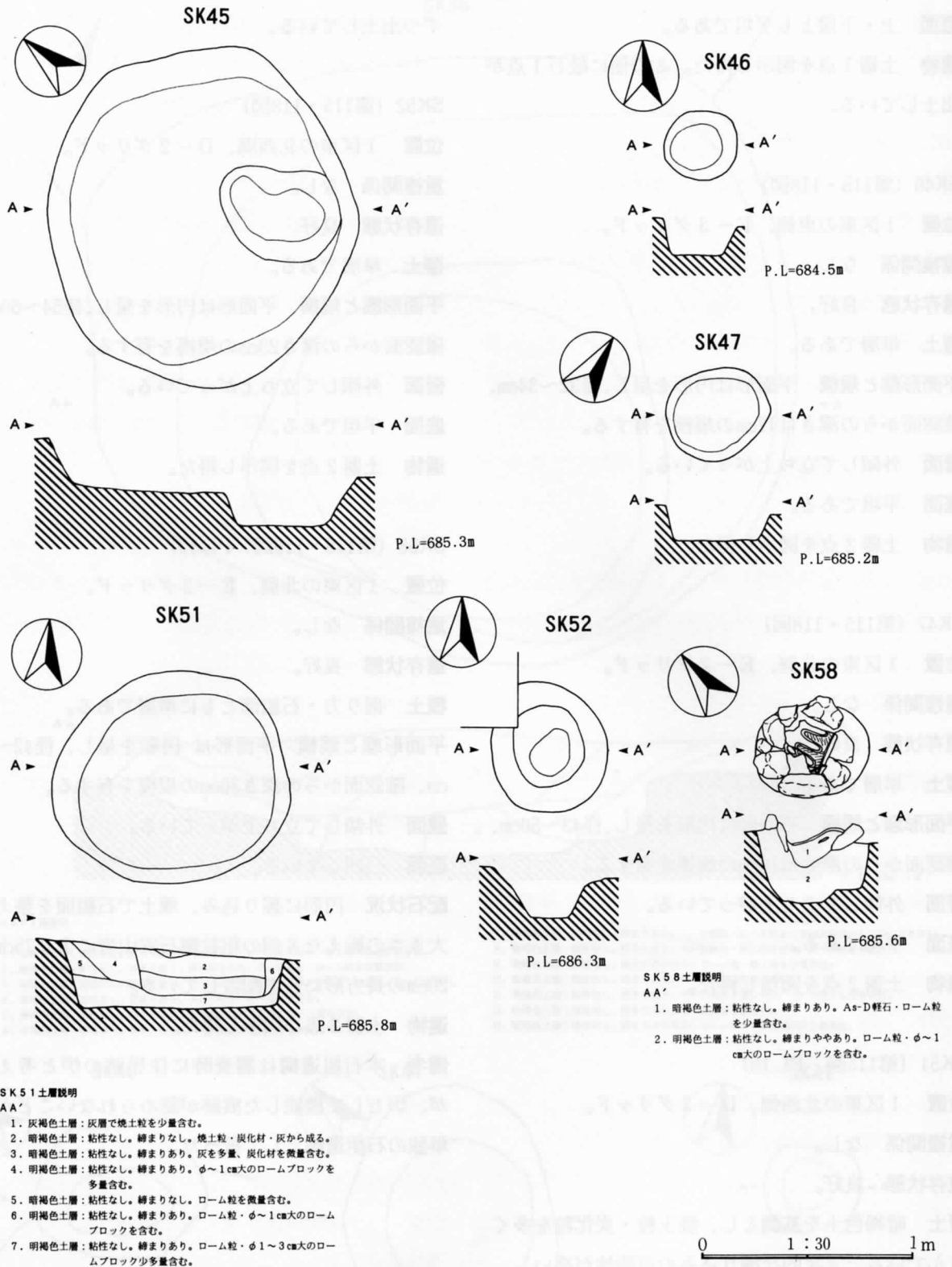
壁面 外傾して立ち上がっている。

底面 凸凹している。

配石状況 円形に掘り込み、埋土で石組面を整え、大きさの揃えた8個の粗粒輝石安山岩により25cm×20cmの長方形に石を配置している。

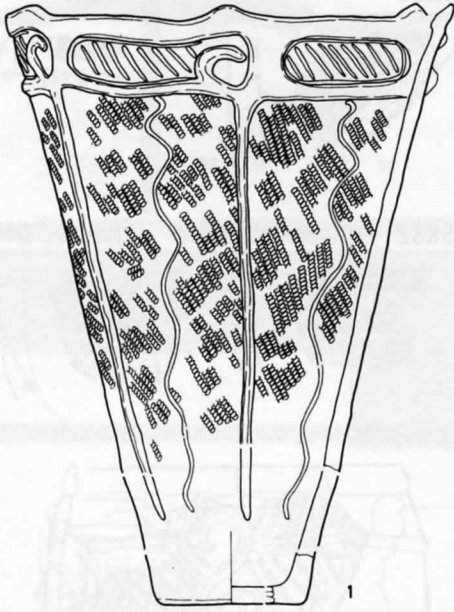
遺物 土器2点を図示し得た。

備考 本石組遺構は調査時に住居跡の炉と考えたが、炉として機能した痕跡が認められないことから単独の石組遺構として扱った。

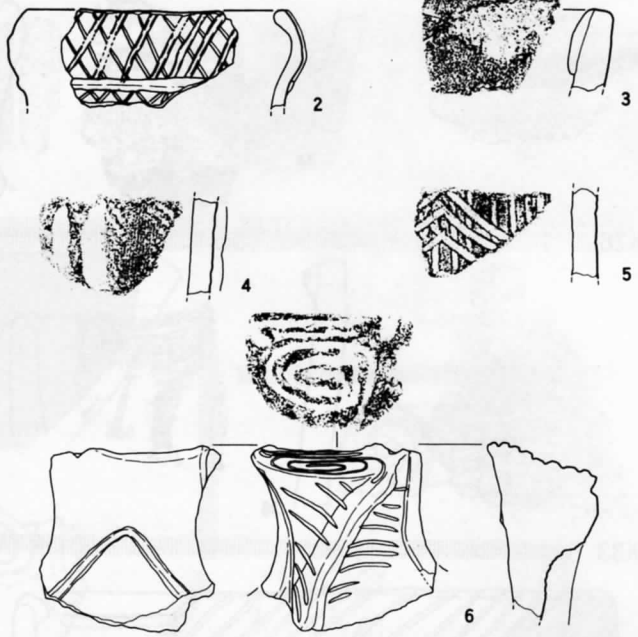


第115図 SK45~47 51・52・58実測図

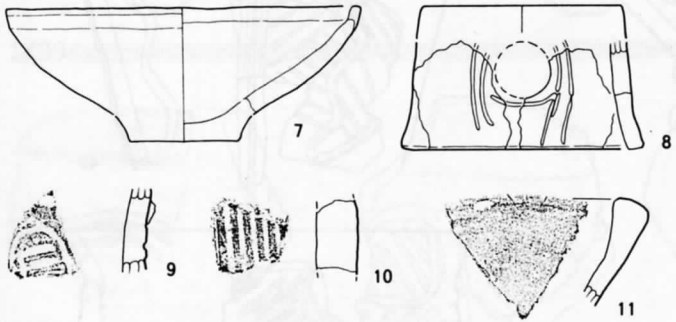
SK02



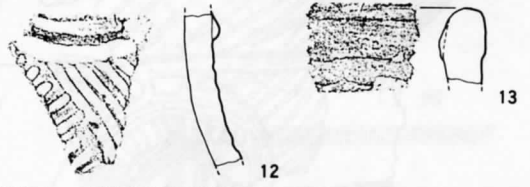
SK08



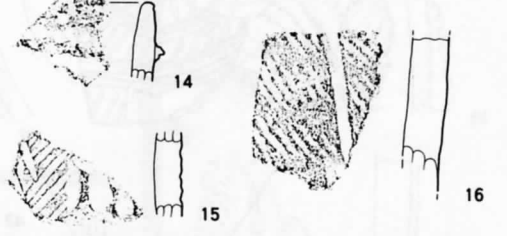
SK09



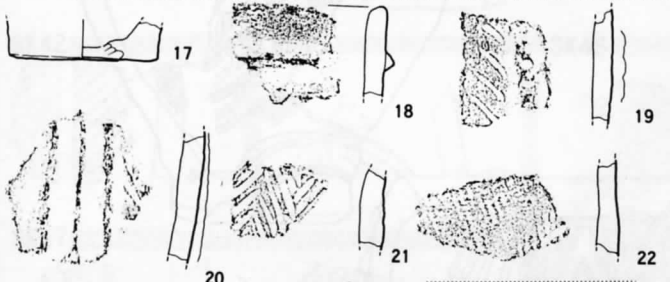
SK14



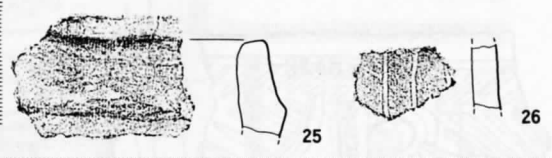
SK15



SK17



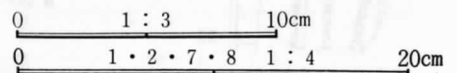
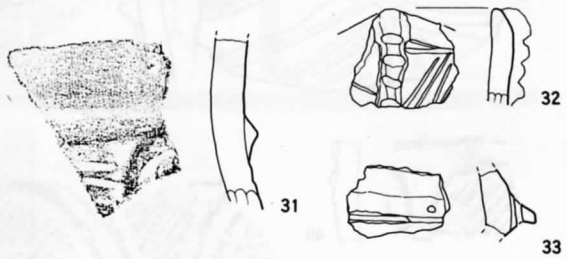
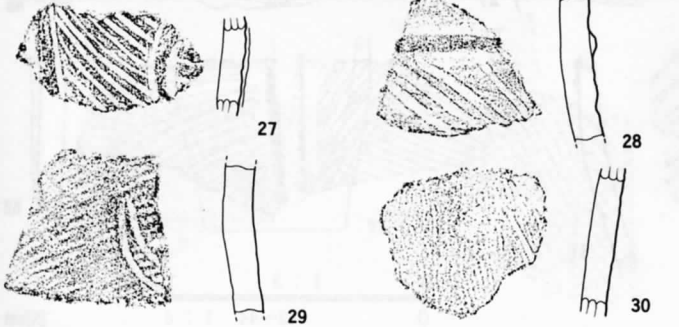
SK20



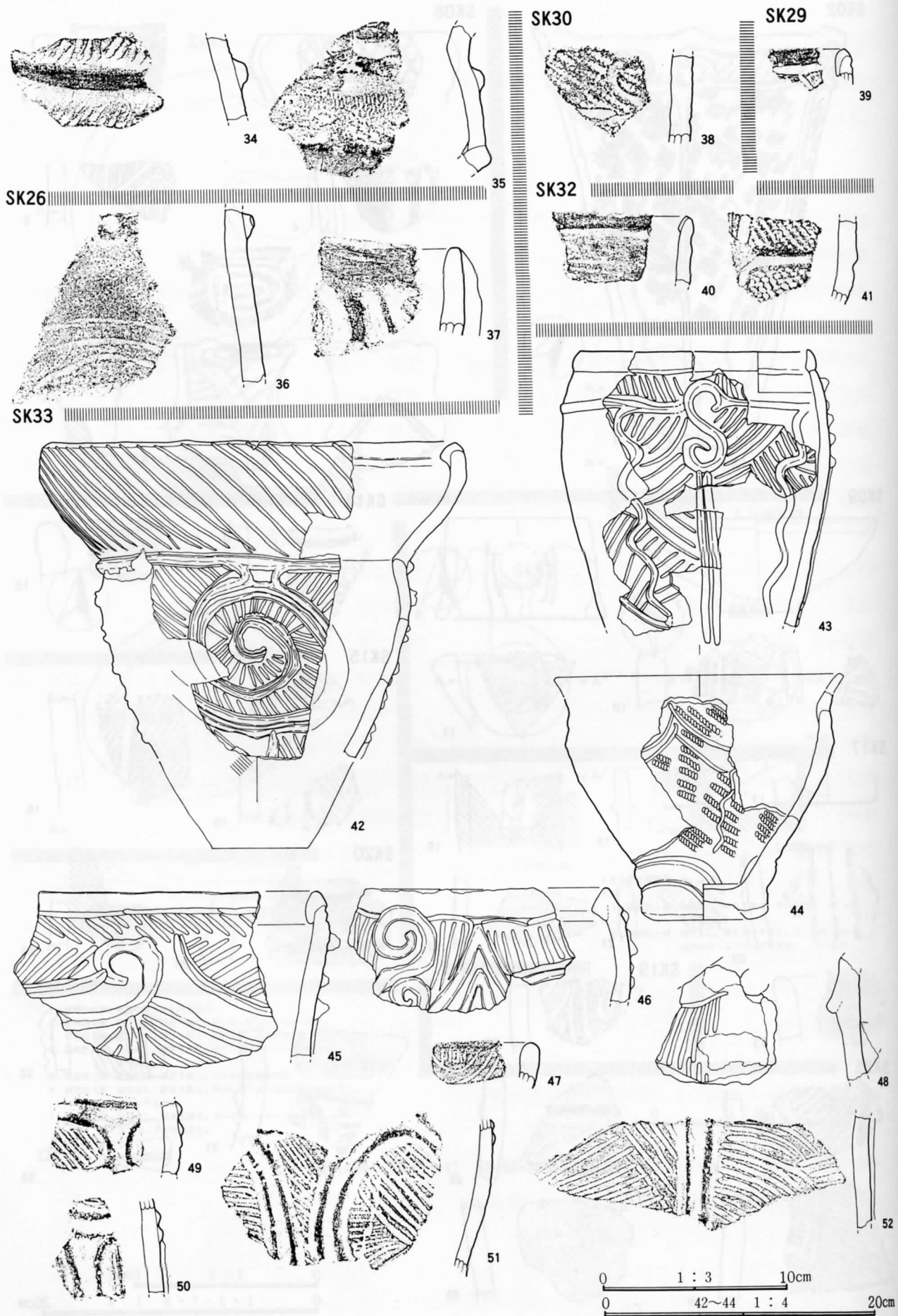
SK19



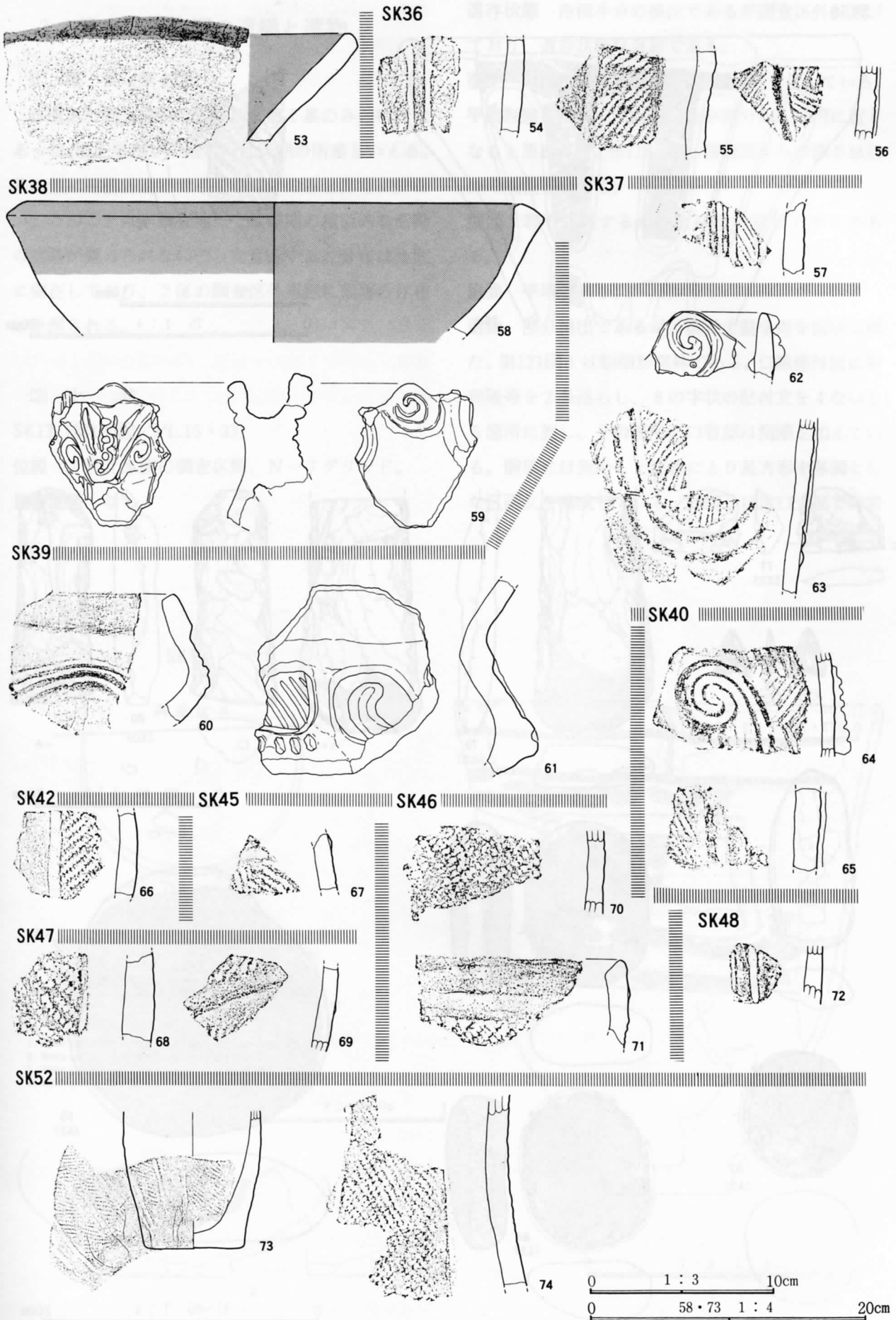
SK25



第116図 土坑出土遺物実測図1

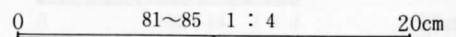
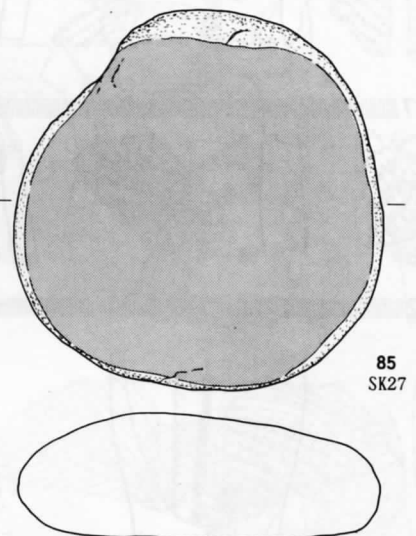
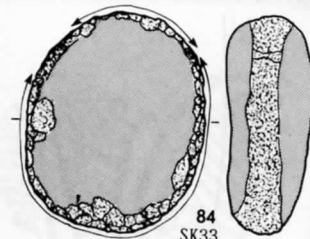
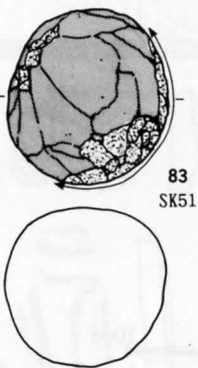
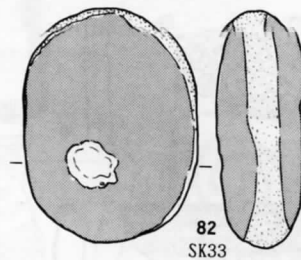
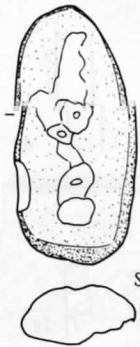
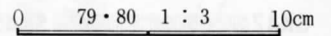
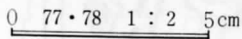
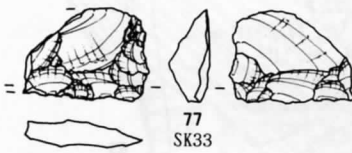
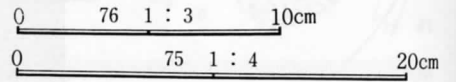
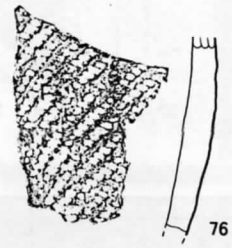
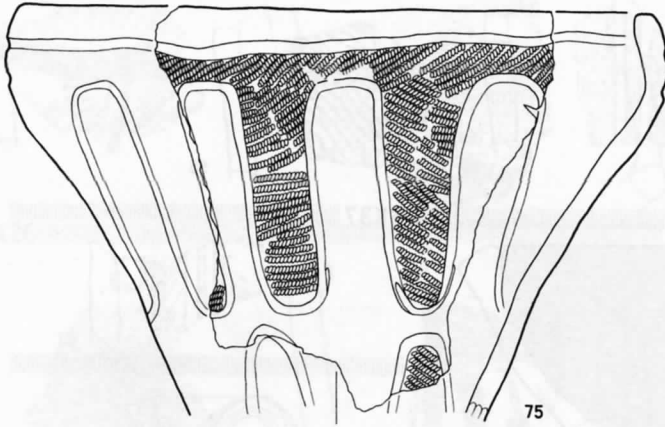


第117図 土坑出土遺物実測図2



第118図 土坑出土遺物実測図3

SK58



第119図 土坑出土遺物実測図 4

3. 縄文時代後期の遺構と遺物

(1) 概要 (第8図)

本遺跡で縄文後期の遺構は土坑1基のみの検出であった。出土遺物から堀之内II式期の所産といえる。この他に遺構外遺物でも1~2片のみと非常に少ない。このことは本調査地点では該期の積極的な活動の痕跡が認められないことを意味する。分布は2区に偏在しており、2区の調査区外東側に集落の存在が予想される。

(2) 土 坑

SK13 (第120図/PL.15・33)

位置 2区北東側の調査区際、N-7グリッド。

重複関係 なし。

遺存状態 西側半分の検出であるが調査区外へ延びており、遺存状態は良好である。

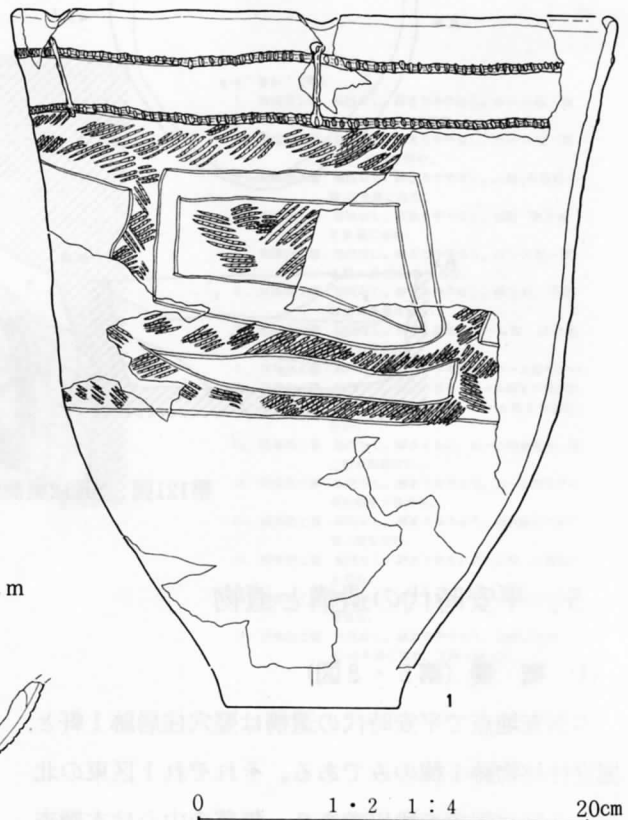
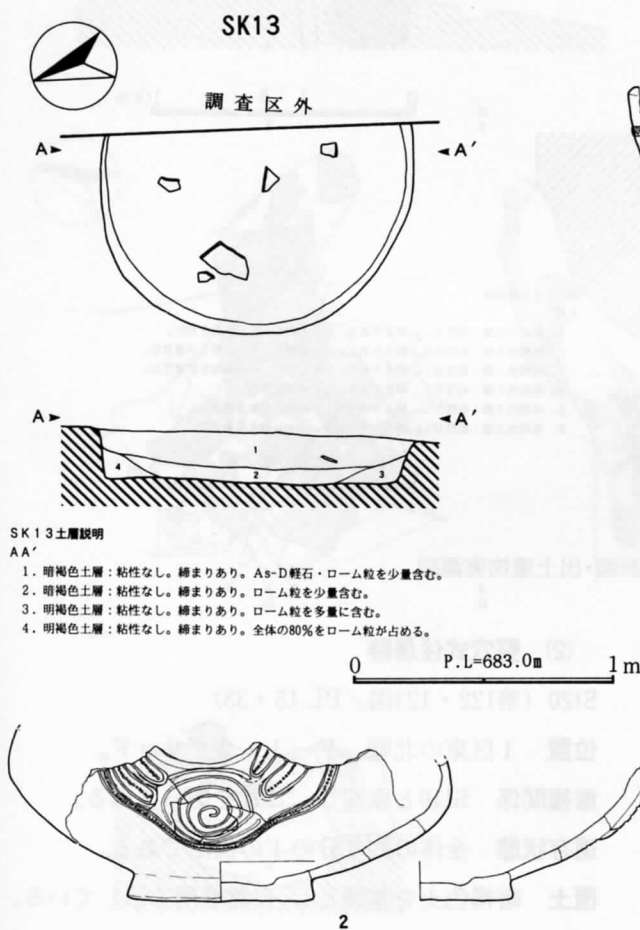
覆土 暗褐色土を基調とし、自然堆積を示している。

平面形態と規模 平面形は遺存部分から正円に近くなると思われる。径118cm程、確認面からの深さは19cmの規模を有する。

壁面 若干外傾するが垂直に近い立ち上がりである。

底面 平坦である。

遺物 部分検出であるが、復元土器2点を図示し得た。第121図1は朝顔形深鉢である。口縁部外面に有刻隆帯を2条巡らし、8の字状の貼付文を4ないし5箇所にし、その箇所の口唇部は指頭を加えている。胴部には無節Lと沈線により長方形を基調とした区画文を構成している。同図2は注口土器で非常



第120図 SK13実測図・出土遺物実測図

に精緻なつくりである。

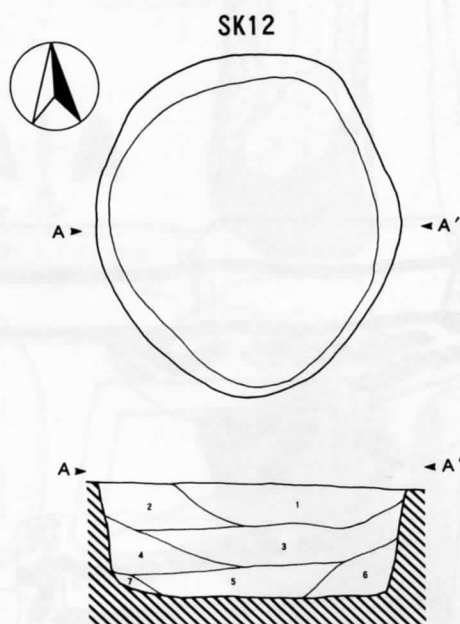
4. 弥生時代の遺構と遺物

(1) 概要 (第8図)

本調査地点での弥生時代の遺構は土坑1基のみである。遺構外遺物を含めても該期の土器片は10点にも満たない程である。1次調査で予想外に出土していることを考慮すると本調査地点より南西側の段丘面縁側に遺構の分布があるのかもしれない。

(2) 土 坑

SK12 (第121図/PL.15・33)



第121図 SK12実測図・出土遺物実測図

5. 平安時代の遺構と遺物

(1) 概要 (第5・8図)

本調査地点で平安時代の遺構は竪穴住居跡1軒と掘立柱建物跡1棟のみである。それぞれ1区東の北端、2区北端での検出であり、集落の中心は本調査地点の北側にあることが予測される。

位置 2区のほぼ中央、M-8グリッド。

重複関係 なし。

遺存状態 良好。

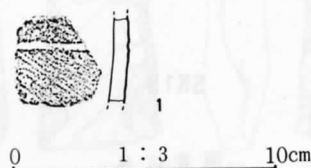
覆土 暗褐色土を基調とし、自然堆積を示している。

平面形態と規模 平面形は不整形円形を呈し、径116~128cm、確認面からの深さ40~48cmの規模を有する。

壁面 やや外傾するが垂直気味に立ち上がっている。

底面 ほぼ平坦である。

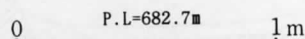
遺物 土器片1点のみ図示し得た。第121図1は壺の胴中部片で斜位条痕文上にヘラ描沈線を施している。



SK12土層説明

AA'

1. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。As-D軽石・ローム粒を含む。
2. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。As-D軽石・ローム粒を少量含む。
3. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。As-D軽石・ローム粒を微量含む。
4. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。ローム粒を含む。
5. 暗褐色土層：粘性なし。締まりややなし。ローム粒を少量含む。
6. 暗褐色土層：粘性なし。締まりややあり。ローム粒を微量含む。



(2) 竪穴式住居跡

SI20 (第122・123図/PL.15・33)

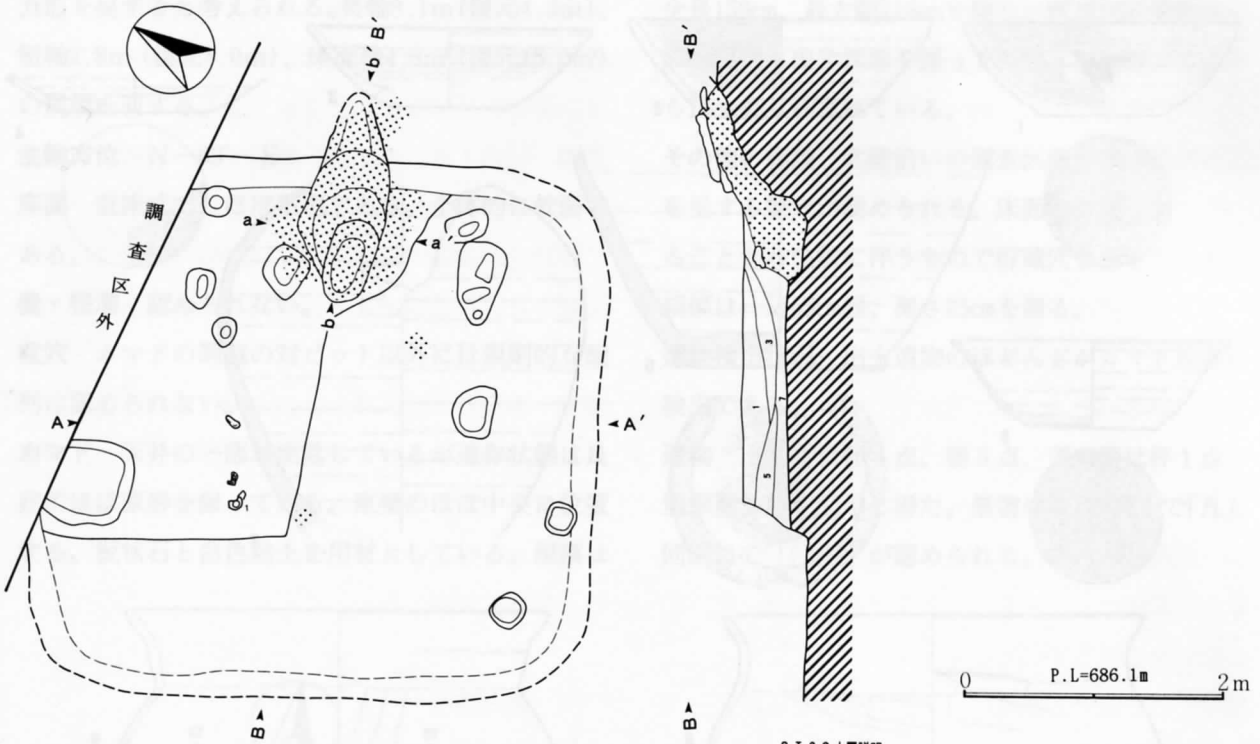
位置 1区東の北端、F-1・2グリッド。

重複関係 SI19と重複し、これを切っている。

遺存状態 全体の約3分の1の検出である。

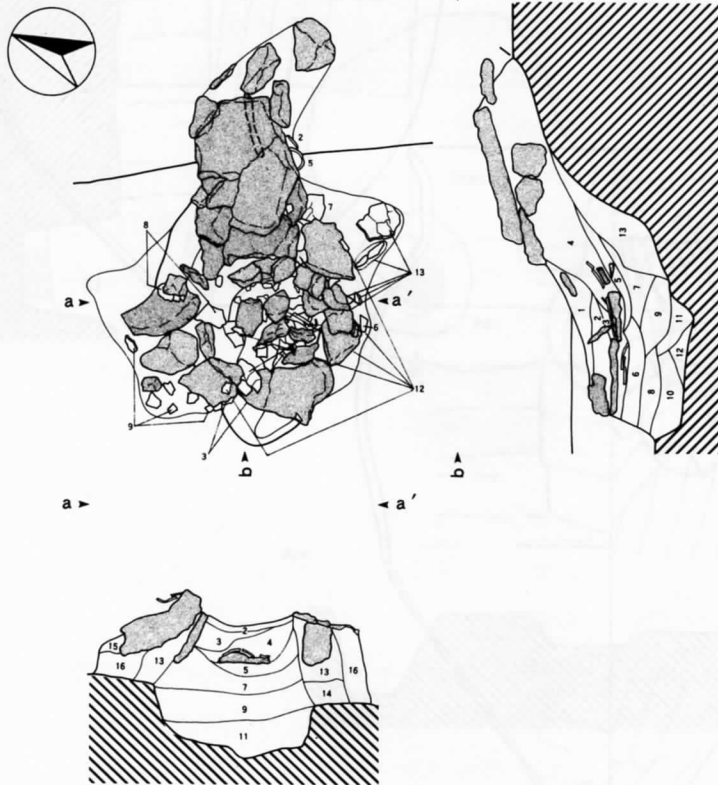
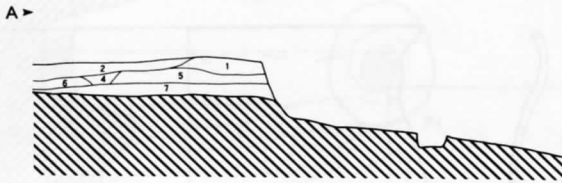
覆土 暗褐色土を基調とし、自然堆積を示している。

平面形態と規模 平面形はカマドが両脇の対ピットから東壁中央に構築されたとして復元すると、隅丸



SI 20 土層説明
AA' BB'

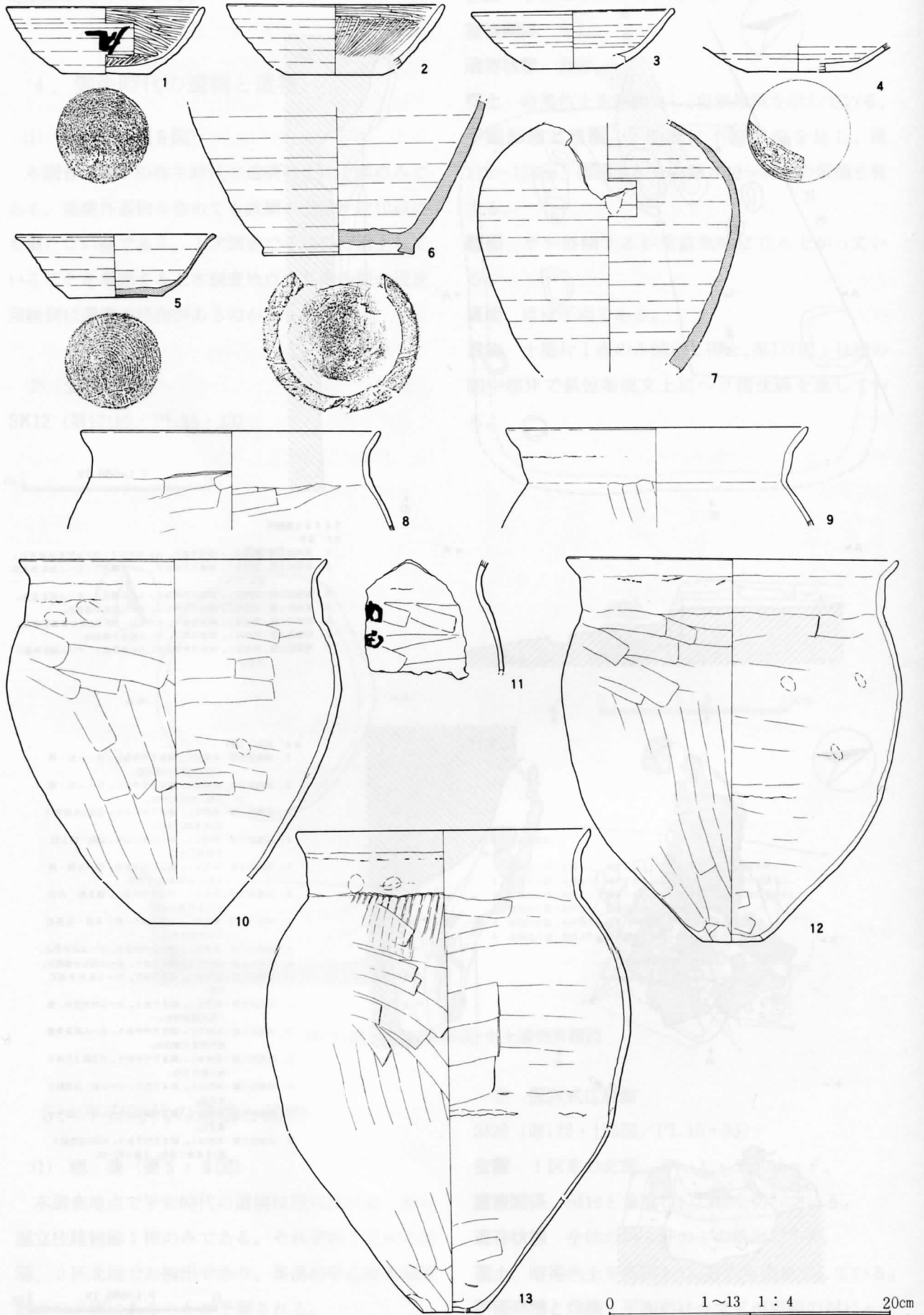
1. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。As-B軽石?・ローム粒を少量含む。
2. 暗褐色土層：粘性なし。締まりややあり。As-B軽石?・ローム粒を微量含む。
3. 暗褐色土層：粘性なし。締まりややなし。As-B軽石?・ローム粒を含む。
4. 暗褐色土層：粘性なし。締まりややなし。ローム粒を少量含む。
5. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。ローム粒・炭化粒(材)を多量に含む。
6. 明褐色土層：粘性なし。締まりあり。ローム粒を少量含む。
7. 明褐色土層：粘性なし。締まりややあり。As-B軽石?・ローム粒を多量に含む。



a a' b b' (電)

1. 暗褐色土層：粘性なし。締まりややなし。ローム粒・焼土粒・山砂を少量含む。
2. 暗褐色土層：粘性なし。締まりややなし。ローム粒・焼土粒・山砂を含む。
3. 灰褐色土層：粘性なし。締まりややなし。山砂(白色粘土混)を多量に含む。
4. 灰褐色土層：粘性なし。締まりややなし。山砂・焼土粒を多量に含む。
5. 明褐色土層：粘性なし。締まりややあり。ローム粒・焼土粒・白色粘土を含む。
6. 灰褐色土層：粘性なし。締まりややなし。焼土粒・白色粘土を多量に含む。
7. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。ローム粒・白色粘土を少量含む。
8. 暗褐色土層：粘性なし。締まりややあり。ローム粒を含む。
9. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。ローム粒を少量含む。
10. 明褐色土層：粘性なし。締まりあり。ローム粒を多量に含む。
11. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。ローム粒を含み、焼土粒を微量含む。
12. 明褐色土層：粘性なし。締まりややあり。ローム粒を多量、炭化粒を少量含む。
13. 灰褐色土層：粘性なし。締まりややあり。白色粘土主体で焼土粒を含む。
14. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。ローム粒・白色粘土を含む。
15. 暗褐色土層：粘性なし。締まりあり。ローム粒・山砂を少量含む。
16. 灰褐色土層：粘性なし。締まりややあり。山砂(白色粘土混)を多量に含む。3層と同一か。

第122図 SI20実測図



第123図 SI20出土遺物実測図

方形を呈すると考えられる。長軸3.1m(復元4.3m)、短軸2.8m(復元4.0m)、床面積4.8㎡(復元15.0㎡)の規模を有する。

主軸方位 N-63°-E

床面 直床式で、ほぼ平坦である。全体的に軟弱である。

壁・壁溝 認められない。

柱穴 カマドの両脇の対ピット以外には規則的な配列は認められない。

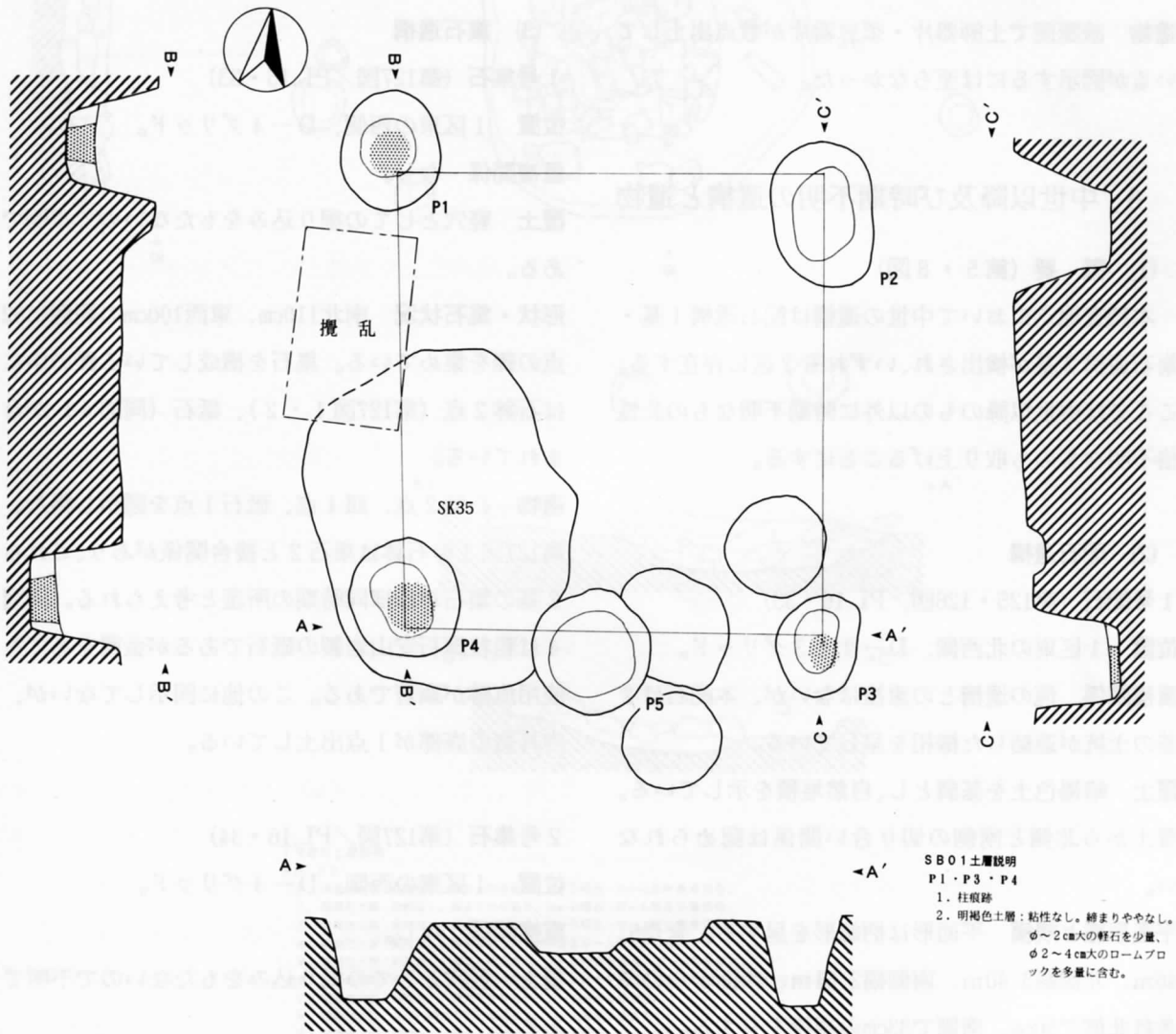
カマド 天井の一部が崩落しているが遺存状態は良好でほぼ原形を保っている。東壁のほぼ中央に位置する。板状石と白色粘土を用材としている。規模は

全長159cm、最大幅118cmを測り、煙道部は壁面から50cm程突き出す状態を採っている。火床面は床面から15cm掘り込まれている。

その他の施設 北壁沿いの調査区壁付近で隅丸方形を呈する竪穴が認められる。床面から掘り込んでいることから住居に伴うもので貯蔵穴と考えられる。規模は一辺65cm程、深さ25cmを測る。

遺物検出状況 出土遺物のほとんどがカマドからの検出である。

遺物 土師器は杯4点、甕5点、須恵器は杯1点、短頸壺2点を図示し得た。墨書は第123図1で「凡」、同図11で「□田」が認められる。



第124図 SB01実測図

(3) 掘立柱建物跡

SB01 (第124図/PL.16)

位置 2区北端、L・M-6・7グリッド。

重複関係 SK18と重複し、これを切っている。

遺存状態 良好。

形状・規模 1間(南北3.6m)×1間(東西3.3m)の方形側柱建物である。

主軸方位 N-9°-W

柱穴 P1~P5が検出されている。P5はP3とP4の中間に位置し、入り口施設と関連したピットであろう。掘り方は楕円形を基調とし、長軸80~114cm、短軸63~86cm、確認面からの深さ66~76cmを測る。柱痕跡はP1・P3・P4で確認され、21~35cmの太さを示している。

遺物 確認面で土師器片・須恵器片が数点出土しているが図示するには至らなかった。

6. 中世以降及び時期不明の遺構と遺物

(1) 概要(第5・8図)

本調査地点において中世の遺構は配石遺構1基・集石遺構2基が検出され、いずれも2区に存在する。ここでは中世以降のもの以外に時期不明なもの、性格不明なものも取り上げることにする。

(2) 配石遺構

1号配石(第125・126図/PL.16・33)

位置 1区東の北西側、D-2・3グリッド。

重複関係 他の遺構との重複はないが、本配石は2基の土坑が連結した様相を呈している。

覆土 暗褐色土を基調とし、自然堆積を示している。覆土から北側と南側の切り合い関係は認められない。

平面形態と規模 平面形は柄鏡形を呈する。全長5.46m、北側幅3.40m、南側幅2.61m、床面からの深さは北側で50cm、南側で33cmの規模を有する。

底面 北側はほぼ平坦、南側は皿状を呈している。

配石状況 北側では土坑の縁辺を囲繞するような配石で全体的に疎らである。20cm×15cm程の中形の石

を用いている。一方南側は土坑の中央に40cm×30cm程の大形の石を配し、間隙に拳大の礫を充填している。全体的に密な配石で土坑上面を覆っている。

遺物 播鉢1点、碗2点、砥石1点、石鉢1点、銅製品1点を図示し得た。第126図1は軟質陶器の播鉢で使用痕が顕著である。同図2は瀬戸美濃灰釉平碗、同図3は天目茶碗である。同図5の銅製品は小把と考えられる。

備考 本配石は検出時には縄文時代の敷石住居跡と考えた。配石はともに基底部から浮いている。周囲にピットを有すことから上屋をもつ建物が存在していたことも想起される。遺構の性格とともに、類例のを待つて判断したい。

(3) 集石遺構

1号集石(第127図/PL.16・33)

位置 1区東の西側、D-4グリッド。

重複関係 なし。

覆土 堅穴としての掘り込みをもたないので不明である。

形状・集石状況 南北110cm、東西100cmの範囲に32点の礫を集めている。集石を構成している礫の中には石鉢2点(第127図1・2)、砥石(同図4)が含まれている。

遺物 石鉢2点、皿1点、砥石1点を図示し得た。第127図1の石鉢は集石2と接合関係があり、これら2基の集石がほぼ同時期の所産と考えられる。同図4は粗粒輝石安山岩製の砥石であるが金属をあてた使用痕跡が顕著である。この他に図示してないが、内耳壺の底部が1点出土している。

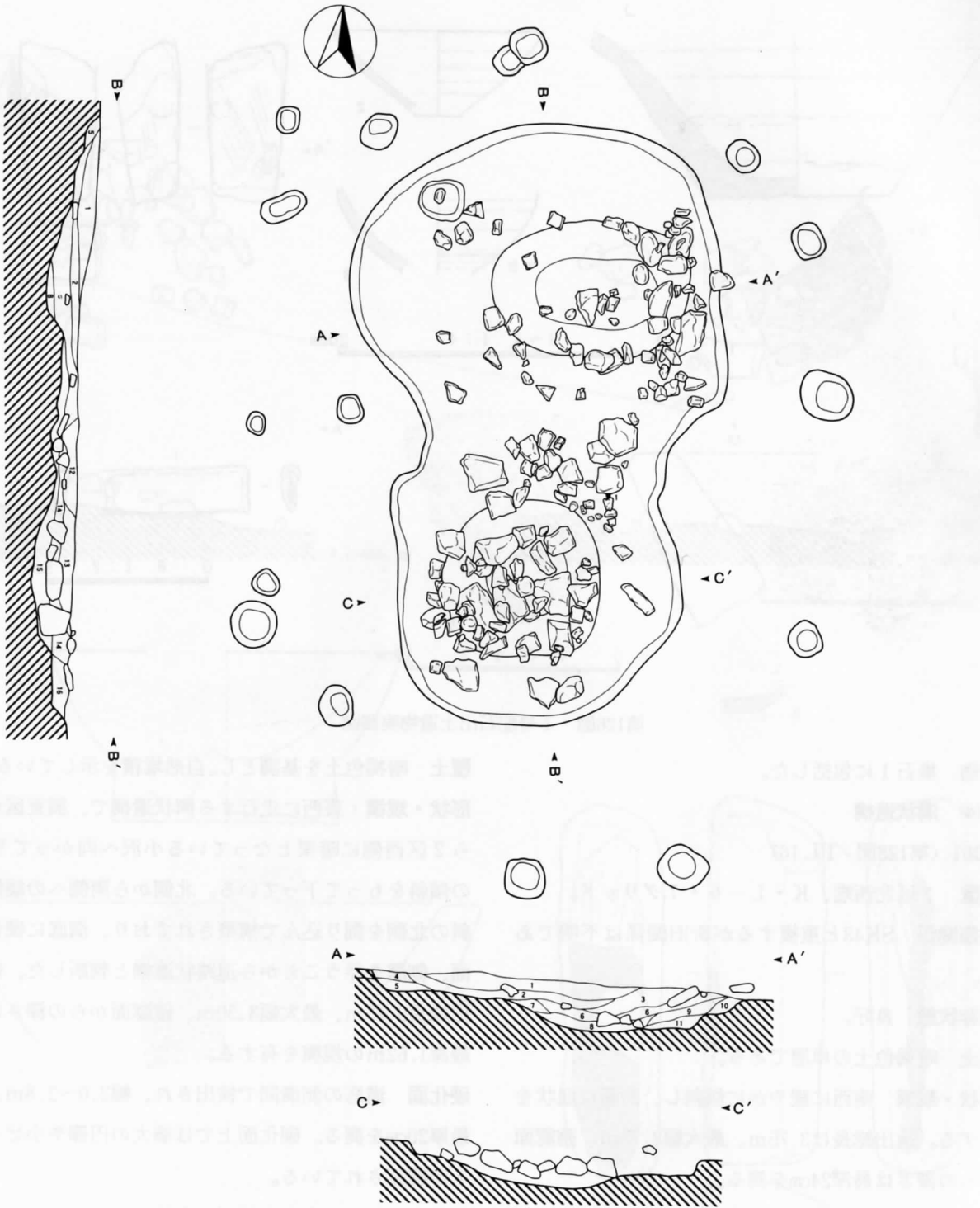
2号集石(第127図/PL.16・34)

位置 1区東の西側、D-4グリッド。

重複関係 なし。

覆土 堅穴としての掘り込みをもたないので不明である。

形状・集石状況 南北110cm、東西100cmの範囲に32点の礫を集めている。集石を構成している礫の中には石鉢1点(第127図1)が含まれている。



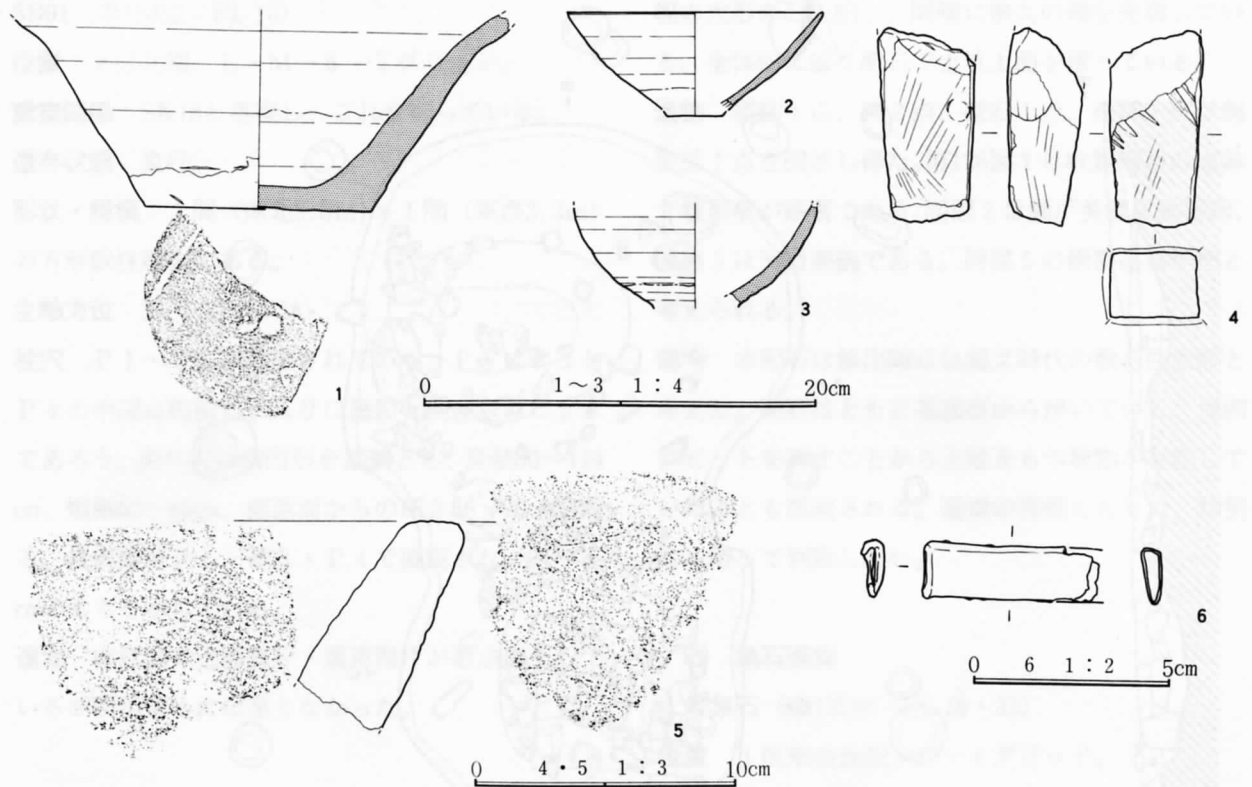
1号配石土層説明

AA' BB'

1. 暗褐色土層：粘性なし。締まりややあり。As-D軽石・ローム粒を微量含む。
2. 暗褐色土層：粘性なし。締まりややあり。As-D軽石・ローム粒を少量含む。
3. 暗褐色土層：粘性なし。締まりややなし。As-D軽石・ローム粒を微量含む。
4. 明褐色土層：粘性なし。締まりあり。その80%をローム粒が占める。
5. 暗褐色土層：粘性なし。締まりややあり。As-D軽石を微量、ローム粒を含む。
6. 明褐色土層：粘性なし。締まりややあり。ローム粒を多量、φ~5cm大のロームブロックを含む。
7. 明褐色土層：粘性なし。締まりややあり。ローム粒を多量含む。
8. 暗褐色土層：粘性、締まり共にややあり。ローム粒を少量含む。
9. 暗褐色土層：粘性なし。締まりややなし。As-D軽石・ローム粒を少量含む。
10. 暗褐色土層：粘性なし。締まりややなし。As-D軽石・ローム粒を微量含む。
11. 暗褐色土層：粘性なし。締まりややあり。ローム粒を少量含む。
12. 明褐色土層：粘性なし。締まりややあり。ローム粒を含む。

0 1:60 2m

第125図 1号配石実測図



第126図 1号配石出土遺物実測図

遺物 集石1に包括した。

(4) 溝状遺構

SD01 (第128図/PL.16)

位置 2区北西端、K・L-6・7グリッド。

重複関係 SK43と重複するが新旧関係は不明である。

遺存状態 良好。

覆土 暗褐色土の単層である。

形状・規模 南西に緩やかに傾斜し、断面は皿状を呈する。検出総長は3.75m、最大幅2.25m、確認面からの深さは最深24cmを測る。

遺物 なし。

備考 2区の西側数mに南北に流れる小沢が存在することから、自然流路の可能性もある。

(5) 道路状遺構

SF01 (第128図/PL.16)

位置 2区南東隅、L-10グリッド。

重複関係 なし。

遺存状態 良好。

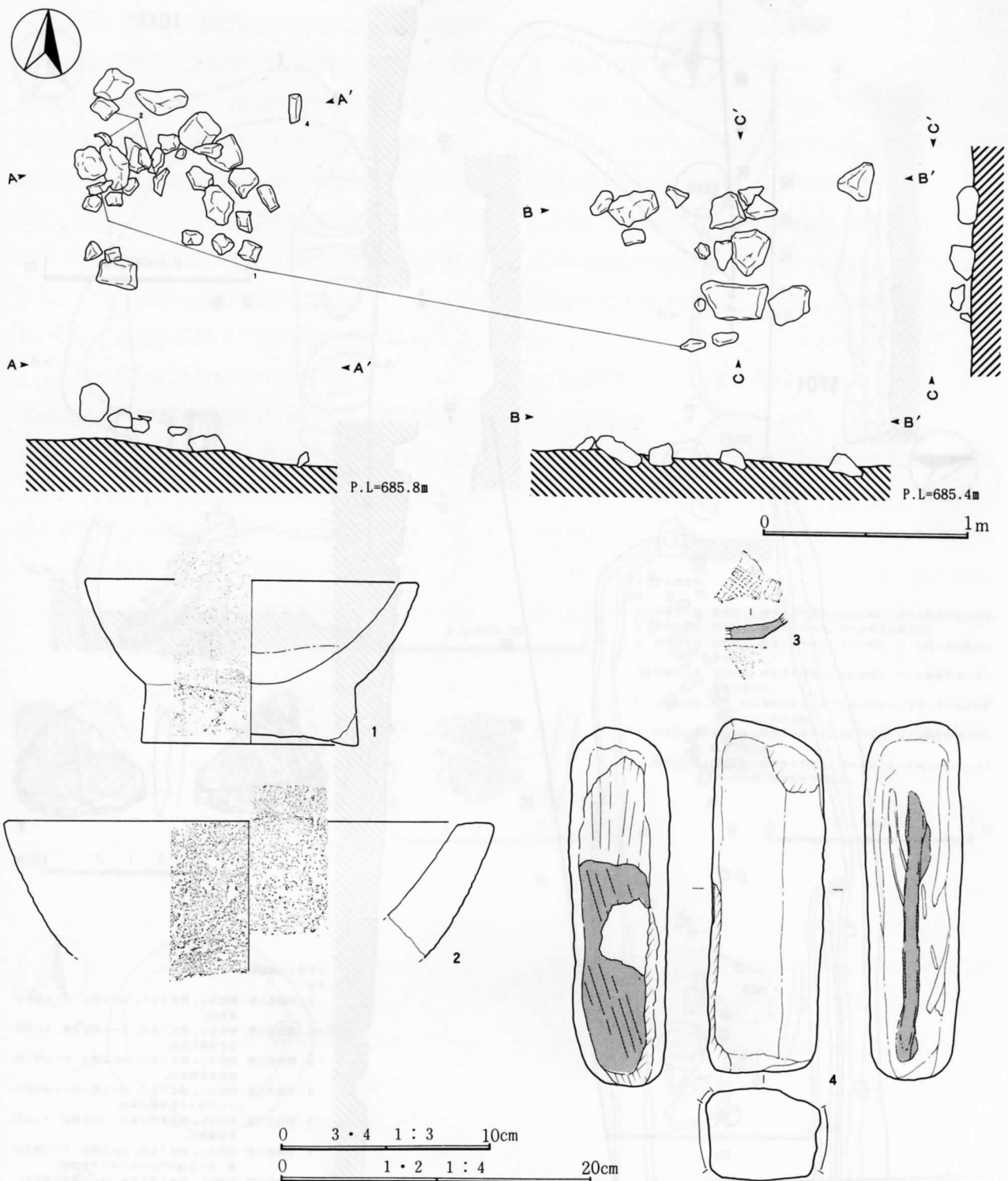
覆土 暗褐色土を基調とし、自然堆積を示している。

形状・規模 東西に走行する溝状遺構で、調査区から2区西側に暗渠となっている小沢へ向かって5°の傾斜をもって下っている。北側から南側への緩傾斜の北側を掘り込んで構築されており、溝底に硬化面、側溝を伴うことから道路状遺構と判断した。検出総長9.45m、最大幅3.50m、確認面からの深さは最深1.62mの規模を有する。

硬化面 溝底の側溝間で検出され、幅2.0~2.8m、最厚20cmを測る。硬化面上では拳大の円礫や小ピットが確認されている。

側溝 北側で2条、南側で1条検出されている。南北端の溝は検出総長とほぼ一致し8.90m、溝幅50~64cm、硬化面からの深さは最深50cmを測る。

遺物 土器2点、石器1点を図示し得た。第129図3は黒色頁岩製の削器Aである。この他に打製石斧3点(249・257・952)などが出土している。出土遺物が純粋に縄文時代中期後半で構成されていることから該期の水場へ通じる遺構の可能性が高い。



第127図 1・2号集石実測図

(6) 不明遺構・土坑

SX01 (第129図/PL.16)

位置 1区東の東端、G-3・4グリッド。

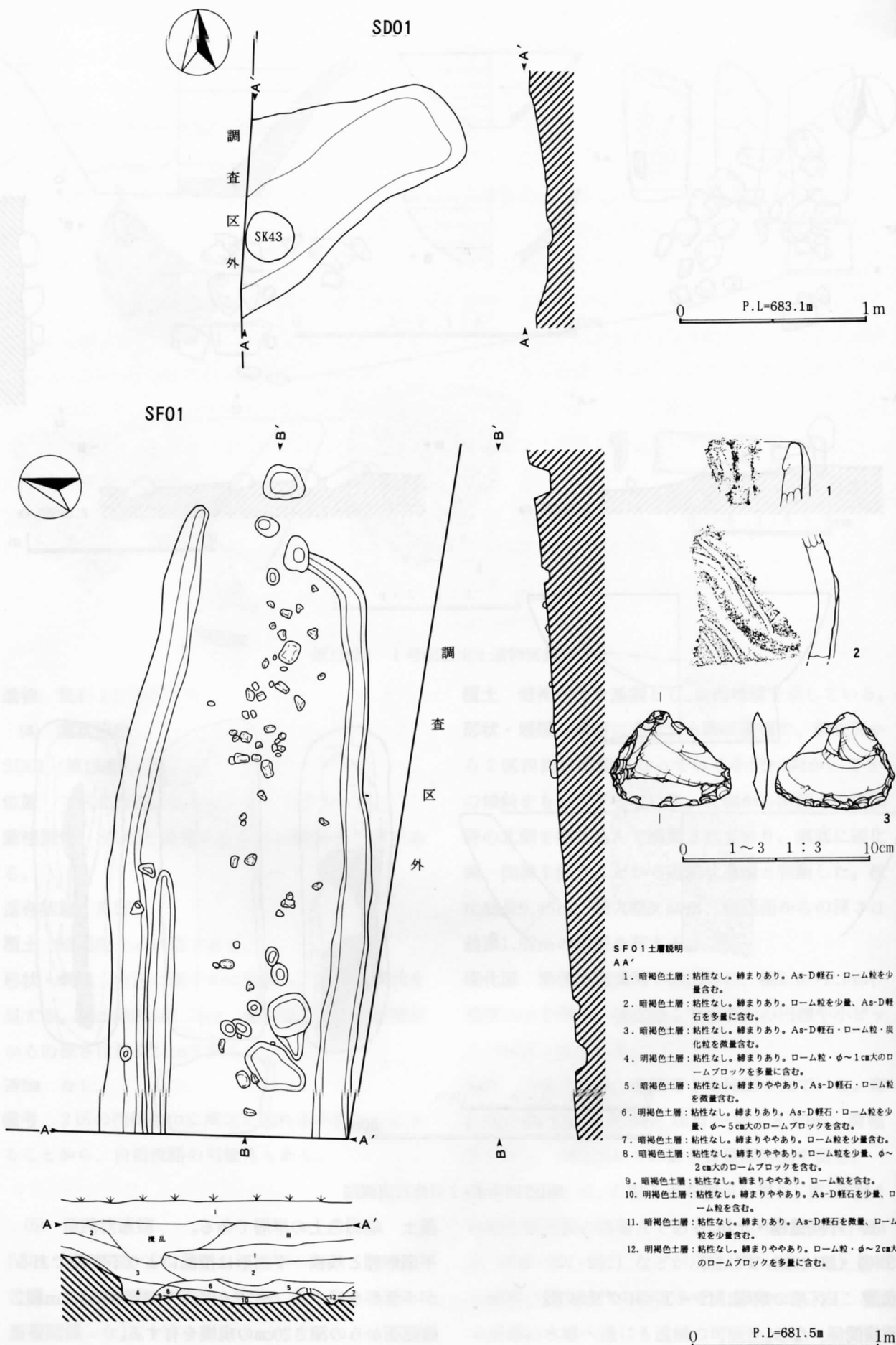
重複関係 なし。

遺存状態 部分検出で攪乱をうけており不良。

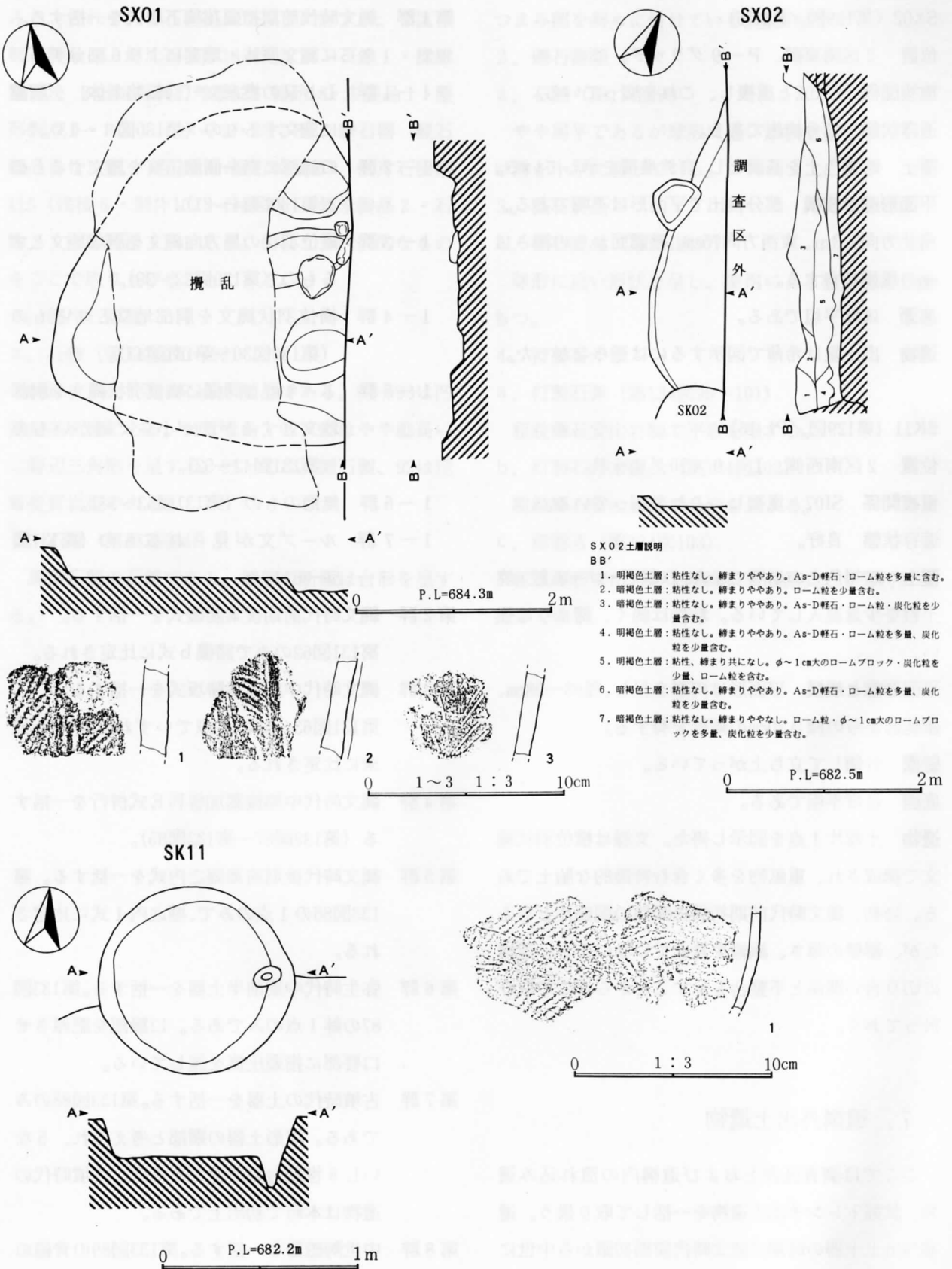
覆土 暗褐色土の単層である。

平面形態と規模 平面形は攪乱により不明瞭であるが不整形を呈する。南北・東西方向ともに3.2m程、確認面からの深さ20cmの規模を有する。

底面 ピットが見られ、凸凹している。



第128図 SD01・SF01実測図・出土遺物実測図



第129図 SX01・SX02・SK11実測図

遺物 土器片を3点図示し得た。

SX02 (第129図/PL.16)

位置 2区南東隅、P-9グリッド。

重複関係 SK02と重複し、これを切っている。

遺存状態 部分検出である。

覆土 暗褐色土を基調とし、自然堆積を示している。

平面形態と規模 部分検出で平面形は不明である。

南北方向3.3m、東西方向75cm、確認面からの深さ11cmの規模を有する。

底面 ほぼ平坦である。

遺物 出土量は希薄で図示するには至らなかった。

SK11 (第129図/PL.16)

位置 2区南西側、L-9・10グリッド。

重複関係 SI07と重複し、これを切っている。

遺存状態 良好。

覆土 暗褐色土の単層で、As-D軽石・ローム粒・焼土粒を少量混入している。粘性は弱く、締めりは強い。

平面形態と規模 平面形は円形を呈し、径93~98cm、確認面からの深さ20cmの規模を有する。

壁面 外傾して立ち上がっている。

底面 ほぼ平坦である。

遺物 土器片1点を図示し得た。文様は横位羽状縄文で構成され、重鉾物を多く含む特徴的な胎土である。当初、縄文時代前期初頭の深鉢の胴部片と考えたが、器壁の薄さ、繊維を含んでいないこと、遺構の切り合い関係と不整合を示すことからここで取り扱っておく。

7. 遺構外出土遺物

ここでは調査区表土および遺構内の流れ込み遺物、試掘トレンチ出土遺物を一括して取り扱う。遺構外出土土器の時期は縄文時代前期初頭から中世に至るまで認められ、今回遺構が検出されなかった時期のものも含んでいる。

(1) 土器 (第130~133図/PL.34)

以下の8群に大別する。

第1群 縄文時代前期初頭花積下層式を一括する。

さらに施文原体・地文により6細分する。

1-1群 LとRの撚糸文(回転絡条体)を胴部に施文するもの(第130図1~13)。

1-2群 口縁部に撚糸側面圧痕を施文するもの(第130図14~21)。

1-3群 縦位羽状の異方向縄文を胴部地文とするもの(第130図22~29)。

1-4群 横位羽状縄文を胴部地文とするもの(第130図30~第131図41)。

1-5群 1-4群と同様に横位羽状縄文を胴部地文とするが節が小さく細かいもの(第131図42~52)。

1-6群 無節のもの(第131図53~58)。

1-7群 ループ文が見られるもの(第131図59~61)。

第2群 縄文時代前期後葉諸磯式を一括する。

第131図62のみで諸磯b式に比定される。

第3群 縄文時代中期前葉勝坂式を一括する。

第131図63~66の4点でいずれも勝坂3式末に比定される。

第4群 縄文時代中期後葉加曾利E式併行を一括する(第132図67~第133図85)。

第5群 縄文時代後期前葉堀之内式を一括する。第133図86の1点のみで、堀之内1式に比定される。

第6群 弥生時代中期前半土器を一括する。第133図87の鉢1点のみである。口縁部を肥厚させ口唇部に指頭圧痕を施している。

第7群 古墳時代の土器を一括する。第133図88のみである。埴形土器の頸部と考えられ、5ないし6世紀台の所産であろう。古墳時代の遺物は本町で初出土である。

第8群 中世陶磁器を一括する。第133図89の青磁のみである。その特徴から龍泉窯系青磁碗で太宰府分類I5b類に比定される。

(2) 石 器

石器は1区・2区で剥片も含めると167点の出土をみた。それぞれの石器組成を以下に記すと、1区は軽石製品2、剥片石器類13（剥片10・石鏃1・揉錐器2）、2区は打製石斧類33（製品18・未製品1・整形剥片4・スクレイパー2・剥片8）、礫石器（軽石製品含む）類3（石錐1・軽石製品2）、剥片石器類116（残核6・剥片102・石鏃3・石鏃未製品2・石匙2・楔形石器1）である。そのうち代表的なものをここで取り上げることにする。

1. 剥片石器類

a. 石鏃（第133図90～92）

90はチャート製の石鏃未製品である。91～93は凹基無茎石鏃である。91は三角、92・93はやや細長い二等辺三角形を呈する。91・93は黒耀石製、92は珪質変質岩製である。

b. 石錐（第133図94）

黒耀石製の石錐である。錐部の断面は台形を呈する。

c. 石匙（第133図95）

黒色頁岩製の横形石匙である。刃部は台形を呈し、つまみ部を斜めに付けている。精緻なつくりである。

2. 礫石器類

a. 石錘（第134図96）

やや扁平であるが球形に近い形状を呈する。紐かけ溝を十字に切っている。

3. 軽石製品

a. 軽石製品（第134図97）

球形に近い形状を呈し、使用による擦過面を2面もつ。

4. 打製石斧類

a. 打製石斧（第134図98～101）

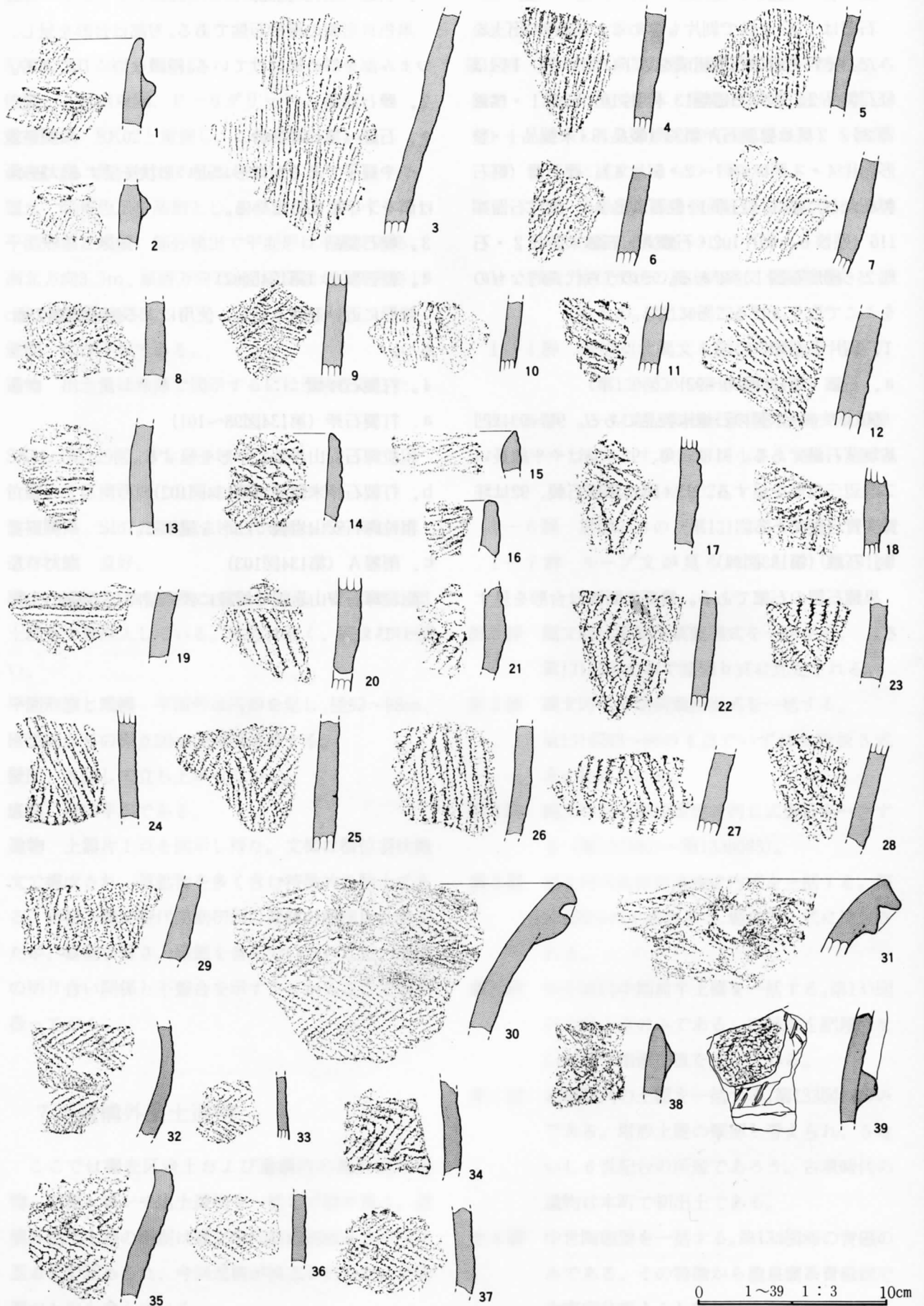
粗粒輝石安山岩製で平形を呈する。

b. 打製石斧未製品（第134図102）

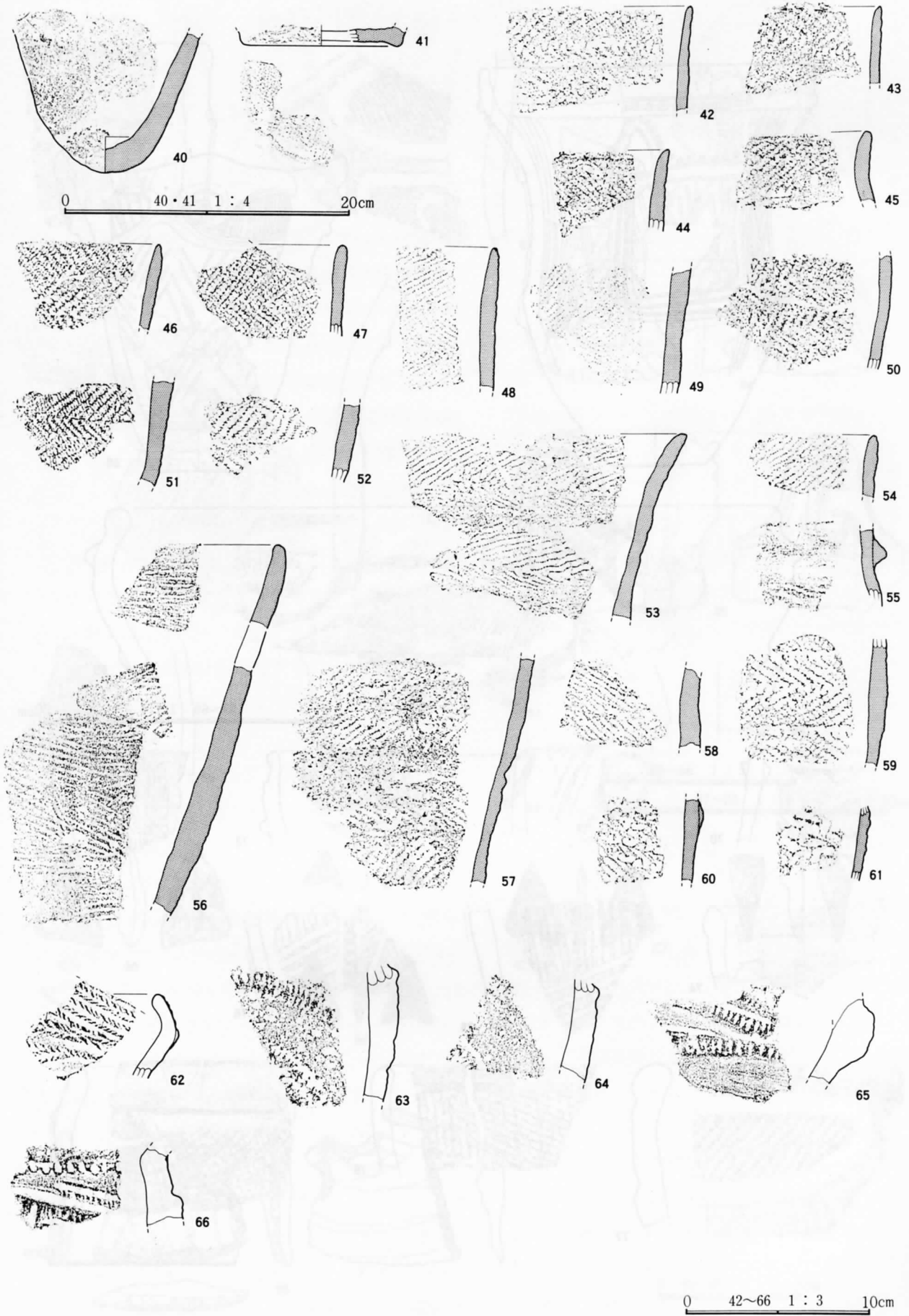
粗粒輝石安山岩製で凸形を呈する。

c. 削器A（第134図103）

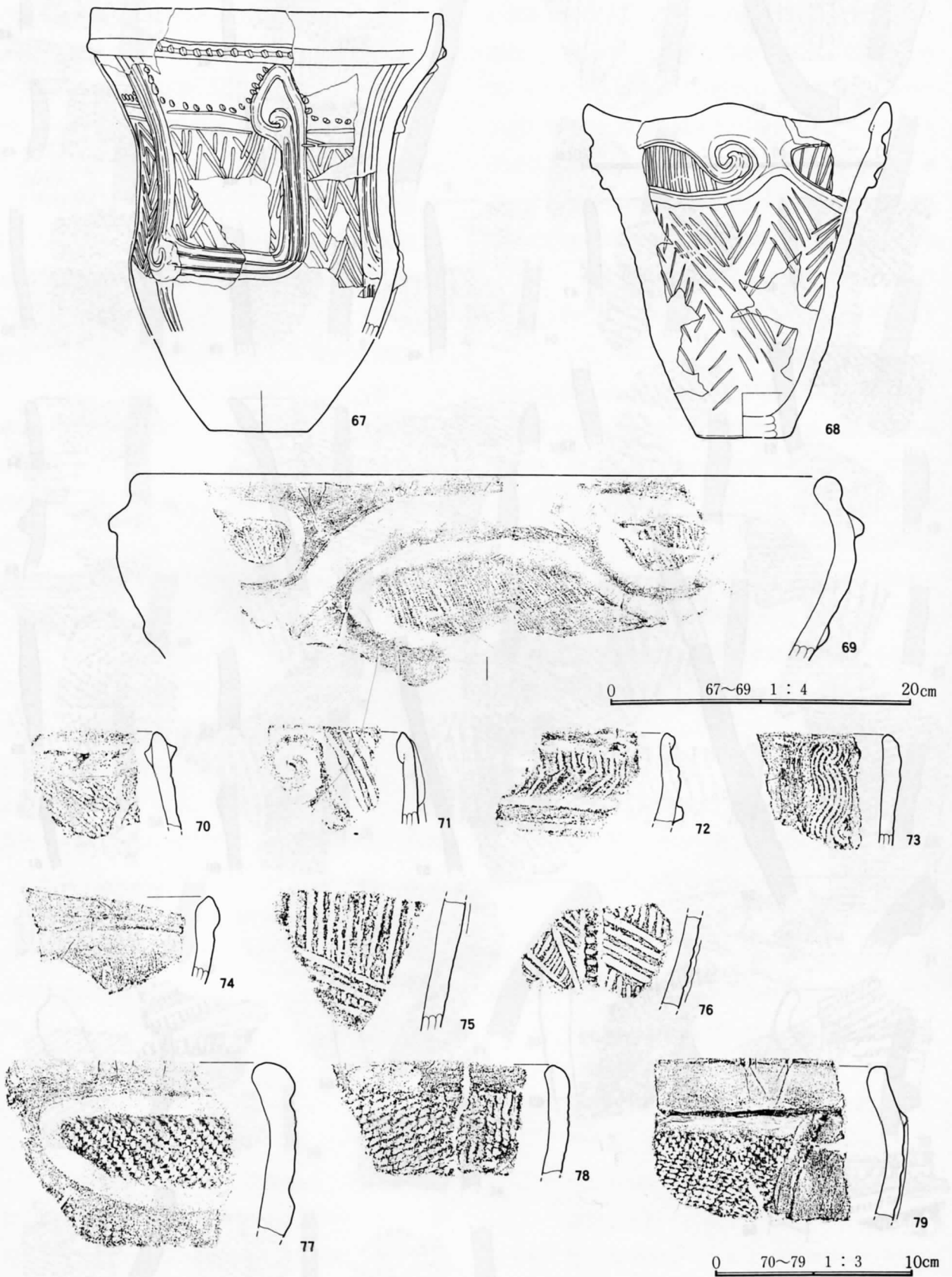
粗粒輝石安山岩製で周縁に表裏錯向して刃付けを行っている。



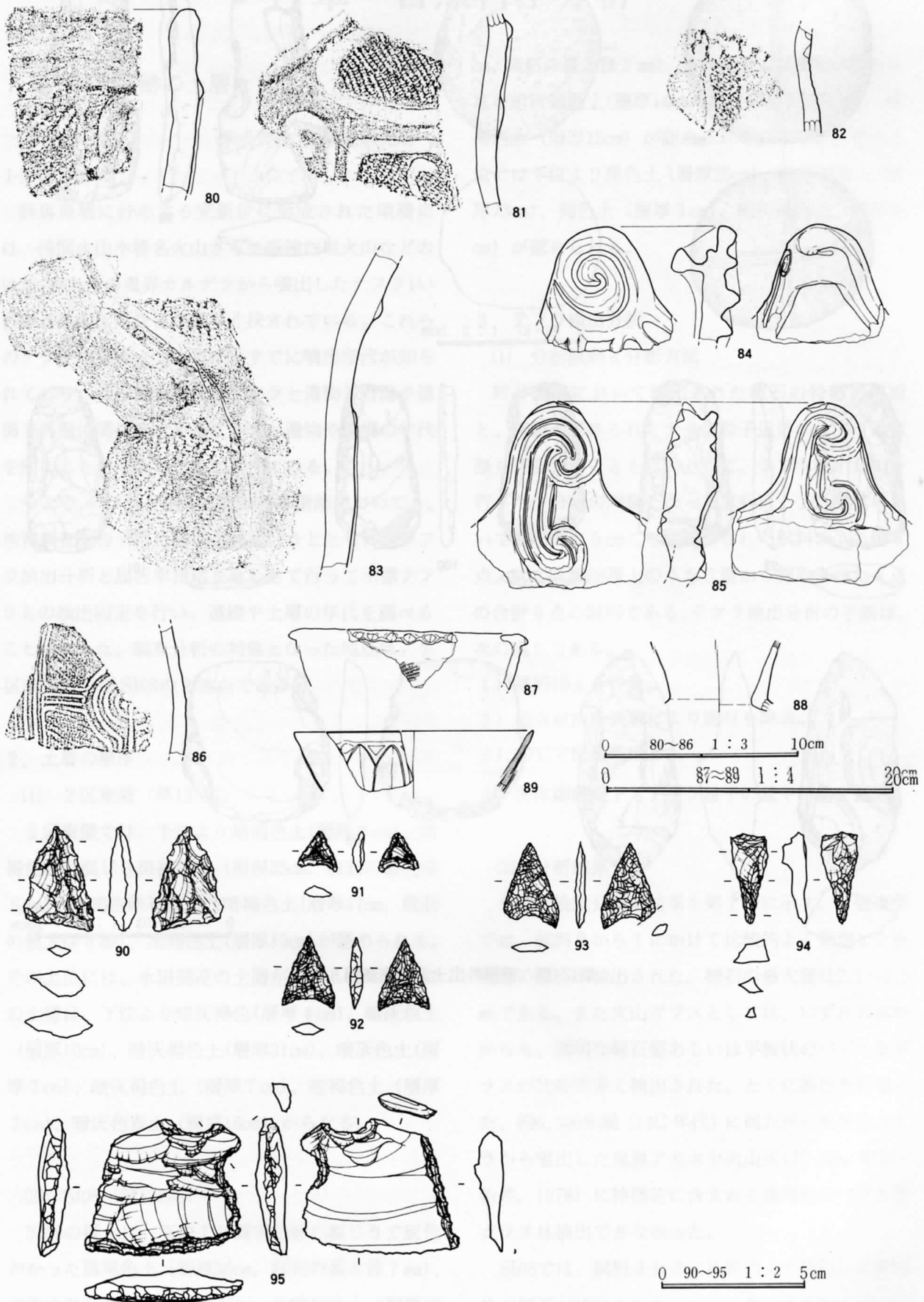
第130図 遺構外出土遺物実測図1



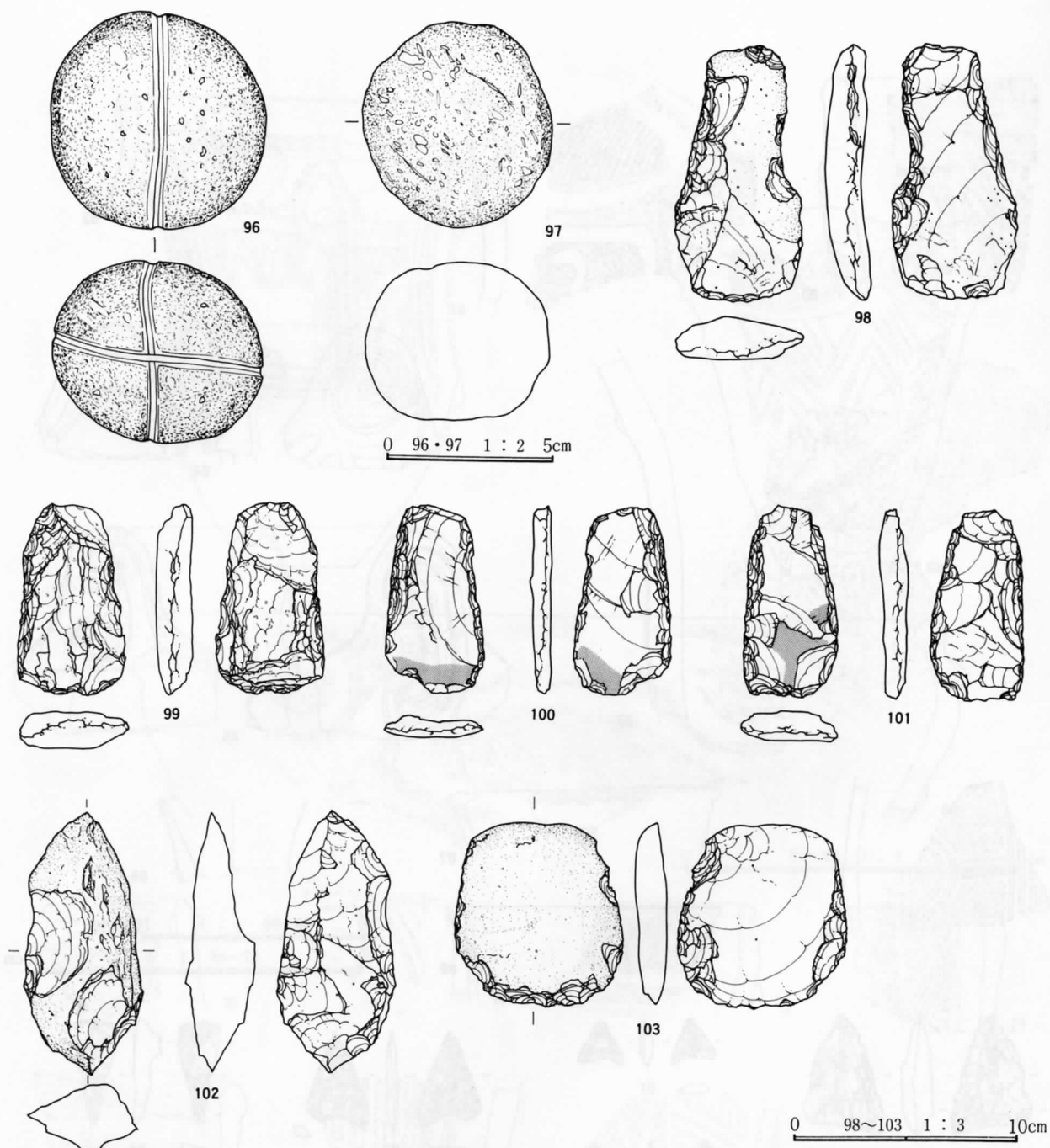
第131図 遺構外出土遺物実測図2



第132図 遺構外出土遺物実測図3



第133図 遺構外出土遺物実測図4



第134図 遺構外出土遺物実測図5

IV章 自然科学分析

1. 坪井遺跡の土層とテフラ

株式会社 古環境研究所

1. はじめに

群馬県域に分布する完新世に形成された地層には、浅間火山や榛名火山さらに草津白根火山などのほか、南九州の鬼界カルデラから噴出したテフラ(いわゆる火山灰)などが数多く挟まれている。これらのテフラの多くについては、すでに噴出年代が知られており、このような示標テフラと遺物包含層や遺構との層位関係を求めることで、遺物や遺構の年代を知ることができるようになっている。

そこで、テフラが認められた坪井遺跡においても、地質調査を行って土層の記載を行うとともに、テフラ検出分析と屈折率測定を合わせて行って示標テフラとの検出同定を行い、遺構や土層の年代を調べることになった。調査分析の対象となった地点は、2区東壁およびSI08の2地点である。

2. 土層の層序

(1) 2区東壁(第135図)

2区東壁では、下位より暗褐色土(層厚8cm)、黄褐色軽石混じり黒褐色土(層厚23cm, 軽石の最大径6mm)、黄褐色軽石混じり暗褐色土(層厚17cm, 軽石の最大径8mm)、黒褐色土(層厚10cm)が認められる。その上位には、水田関連の土層が堆積している。この土層は、下位より暗灰褐色(層厚4cm)、暗灰色土(層厚10cm)、暗灰褐色土(層厚31cm)、暗灰色土(層厚7cm)、暗灰褐色土(層厚7cm)、暗褐色土(層厚7cm)、暗灰色表土(層厚16cm)からなる。

(2) SI08(第135図)

SI08の覆土は、下位より黄褐色軽石混じりで灰色がかかった黒褐色土(層厚36cm, 軽石の最大径7mm)、黄褐色軽石混じりで褐色がかかった暗灰色土(層厚18cm, 軽石の最大径7mm)、黄白色細粒軽石層(層厚2

cm, 軽石の最大径2mm)、黄白色および黄色の軽石に富む暗灰褐色土(層厚14cm, 軽石の最大径8mm)、暗褐色土(層厚15cm)が認められる。さらに、その上位には下位より黒色土(層厚25cm)、暗灰褐色土(層厚73cm)、褐色土(層厚3cm)、暗灰褐色土(層厚38cm)が認められる。

3. テフラ検出分析

(1) 分析試料と分析方法

坪井遺跡において検出された軽石の特徴の把握と、肉眼で認められたテフラ粒子以外のテフラの有無を確認することを目的として、テフラ検出分析を行った。分析の対象となった試料は、2区東壁において基本的に5cmごとに採取された試料のうちの6点、およびSI08覆土のうち3層から採取された3点の合計9点の試料である。テフラ検出分析の手順は、次の通りである。

- 1) 試料10gを秤量。
- 2) 超音波洗浄装置により泥分を除去。
- 3) 80°Cで恒温乾燥。
- 4) 実体顕微鏡下でテフラ粒子の量や特徴を観察。

(2) 分析結果

テフラ検出分析の結果を第1表に示す。2区東壁では、試料9から1にかけて比較的よく発泡した灰褐色の軽石が検出された。軽石の最大径は2.1~3.5mmである。また火山ガラスとしては、いずれの試料からも、透明な軽石型あるいは平板状のバブル型ガラスが比較的多く検出された。とくに検出を目指した、約6,300年前(14C年代)に南九州の鬼界カルデラから噴出した鬼界アカホヤ火山灰(K-Ah, 町田・新井, 1978)に特徴的に含まれる淡褐色のバブル型ガラスは検出できなかった。

SI08では、試料3と2に比較的よく発泡した灰褐色の軽石が検出された。軽石の最大径は3.0~3.1mmである。試料番号1には、比較的よく発泡した黄白

表1 坪井遺跡のテフラ出分析結果

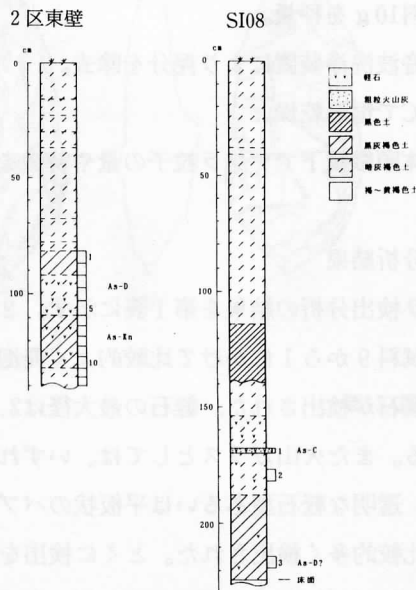
地点	試料	軽石			火山ガラス		
		量	色調	最大径	量	形態	色調
2区東壁	1	+	灰褐	2.1	++	pm> bw	透明
	3	++	灰褐	3.2	++	pm> bw	透明
	5	++	灰褐	3.5	++	pm> bw	透明
	7	++	灰褐	2.1	++	pm> bw	透明
	9	++	灰褐	3.1	++	pm> bw	透明
SI08	1	+++	黄白	3.2	-	-	-
	2	+	灰褐	3.0	++	pm> bw	透明
	3	+	灰褐	3.1	++	pm> bw	透明

++++: とくに多い, +++: 多い, ++: 中程度, +: 少ない, -: 認められない。最大径の単位は, mm。

表2 坪井遺跡における屈折率測定結果

地点	試料	鉱物	火山ガラス (n)	斜方輝石(γ)
2区東壁	5	opX> cpX	1.512-1.516	1.706-1.709
2区東壁	9	opX> cpX(ho)	-	1.706-1.710 (1.707-1.709)
SI08	1	opX> cpX	1.514-1.519	1.706-1.709
SI08	2	opX> cpX(ho)	1.511-1.516	1.706-1.709
SI08	3	opX> cpX(ho)	1.513-1.518	1.706-1.709

opX: 斜方輝石, cpX: 単斜輝石, ho: 角閃石。重鉱物の () は量の少ないことを示す。屈折率の測定は, 温度一定型位相差法(新井, 1972, 1993) による。屈折率の () は, modal range を示す。



第135図 土層柱状図

色軽石が検出された。軽石の最大径は、3.2mmである。また火山ガラスとしては、試料番号3および2から、透明な軽石型あるいは平板状のバブル型ガラスが比較的多く検出された。ここでも、K-Ah に特徴的に

含まれる淡褐色のバブル型ガラスは検出できなかった。

4. 屈折率測定

(1) 測定試料と測定方法

2区東壁の試料番号9と5、SI08覆土の試料番号3、2、1の5試料について、示標テフラとの同定精度を向上させるために温度一定型屈折率測定(新井, 1972, 1993) により屈折率測定を行った。

(2) 測定結果

屈折率測定の結果を第2表に示す。2区東壁試料番号9には、重鉱物として斜方輝石や単斜輝石のほか、ごく少量角閃石が含まれている。火山ガラスの屈折率については、微細な結晶が多く測定が困難である。斜方輝石(γ)の屈折率は、1.706-1.710(modal range:1.707-1.709)である。また2区東壁試料番号5には、重鉱物として斜方輝石や単斜輝石が含まれている。火山ガラス(n)と斜方輝石(γ)の屈折率は、各々1.512-1.516と1.706-1.709である。

SI08の試料番号3には、重鉱物として斜方輝石や単斜輝石のほか、ごく少量角閃石が含まれている。火山ガラス(n)と斜方輝石(γ)の屈折率は、各々1.513-1.518と1.706-1.709である。また試料番号2には、重鉱物として斜方輝石や単斜輝石のほか、ごく少量角閃石が含まれている。火山ガラス(n)と斜方輝石(γ)の屈折率は、各々1.511-1.516と1.706-1.709である。さらに試料番号1には、重鉱物として斜方輝石や単斜輝石が含まれている。火山ガラス(n)と斜方輝石(γ)の屈折率は各々1.514-1.519と1.706-1.709である。

分析の対象とした試料のうち、SI08の試料番号1のテフラ層は、層相および含まれる軽石の色調や火山ガラスの屈折率などから、4世紀中葉に浅間火山から噴出した浅間C軽石(As-C, 新井, 1979)に同定される可能性がもっとも高い。そのほかの試料については、浅間火山から縄文時代に噴出したテフラと考えられるが、縄文時代の浅間火山起源のテフラについては、まだ層序学的、岩石記載的な資料に乏

しい現状がある。

ただあえて従来の資料に照らし合わせてみると、微細な班晶に富む2区東壁の試料番号9付近のテフラは、その岩相から約5,400年前に浅間火山から噴出した浅間六合軽石(As-Kn, 早田ほか, 1987, 1995)、また試料番号5付近に降灰層準のある可能性をもつテフラは約4,500年前に浅間火山から噴出した浅間D軽石(As-D, 荒牧, 1968, 新井, 1979)の可能性が考えられる。さらにSI08の試料番号3および2のテフラは、いずれもAs-Dに由来している可能性が考えられる。この8号住居とテフラの関係は、覆土中に一次堆積層が認められないことから、判断は難しい。

長野原町域での縄文時代の遺構や遺物包含層の年代に関する調査分析では、可能な限り放射性炭素(14C)年代測定など他の年代測定法が併用されることが望ましい。

5. まとめ

坪井遺跡において、地質調査とテフラ検出分析さらに屈折率測定を行った。その結果、下位より浅間六合軽石(As-Kn, 約5,400年前)と浅間D軽石(As-D, 約4,500年前)に由来する可能性のある軽石、さらに浅間C軽石(As-C, 4世紀中葉)に同定される可能性の高いテフラ層が検出された。縄文時代に浅間火山から噴出したテフラについてはまだ資料が乏しい現状にあることから、さらに多くの地点で調査分析を行ってテフラ同定のための資料を蓄積する必要がある。

参考文献

- 新井房夫 1972「斜方輝石・角閃石の屈折率によるテフラの同定—テフロクロロジーの基礎的研究」『第四紀研究』11, p. 254-269.
- 新井房夫 1979「関東地方北西部の縄文時代以降の示標テフラ層」『考古学ジャーナル』no.53, p.41-52.
- 新井房夫 1993「温度一定型屈折率測定法」日本第四紀学会編『第四紀試料分析法2—研究対象別分析法』p.138-149.
- 荒牧重雄 1968「浅間火山の地質」『地団研専報』no.14, p.1-45.
- 町田 洋・新井房夫 1992『火山灰アトラス』東京大学出版会 276 p.
- 早田 勉 1991「浅間火山の生い立ち」『佐久考古通信』no.53, p. 2-7.
- 早田 勉 1995「テフラからさぐる浅間山の活動史」『御代田町誌』

2. 黒耀石石器の原産地推定

小林克次

1. はじめに

石器石材は、狩猟採集生活を送っていた先史時代の集団にとっては、非常に重要なものの一つであったと考えられる。それは、黒耀石のように、遺跡周辺では容易に採取できないような石材をわざわざ用いて、石器製作を行っていることから明らかであろう。それならば、石器石材の獲得活動は、当時の集団を理解する上で、重要な生業活動の一つとして位置付けることができる。そのような石材獲得活動の具体的な証拠を得る手段として、黒耀石の原産地推定がある。

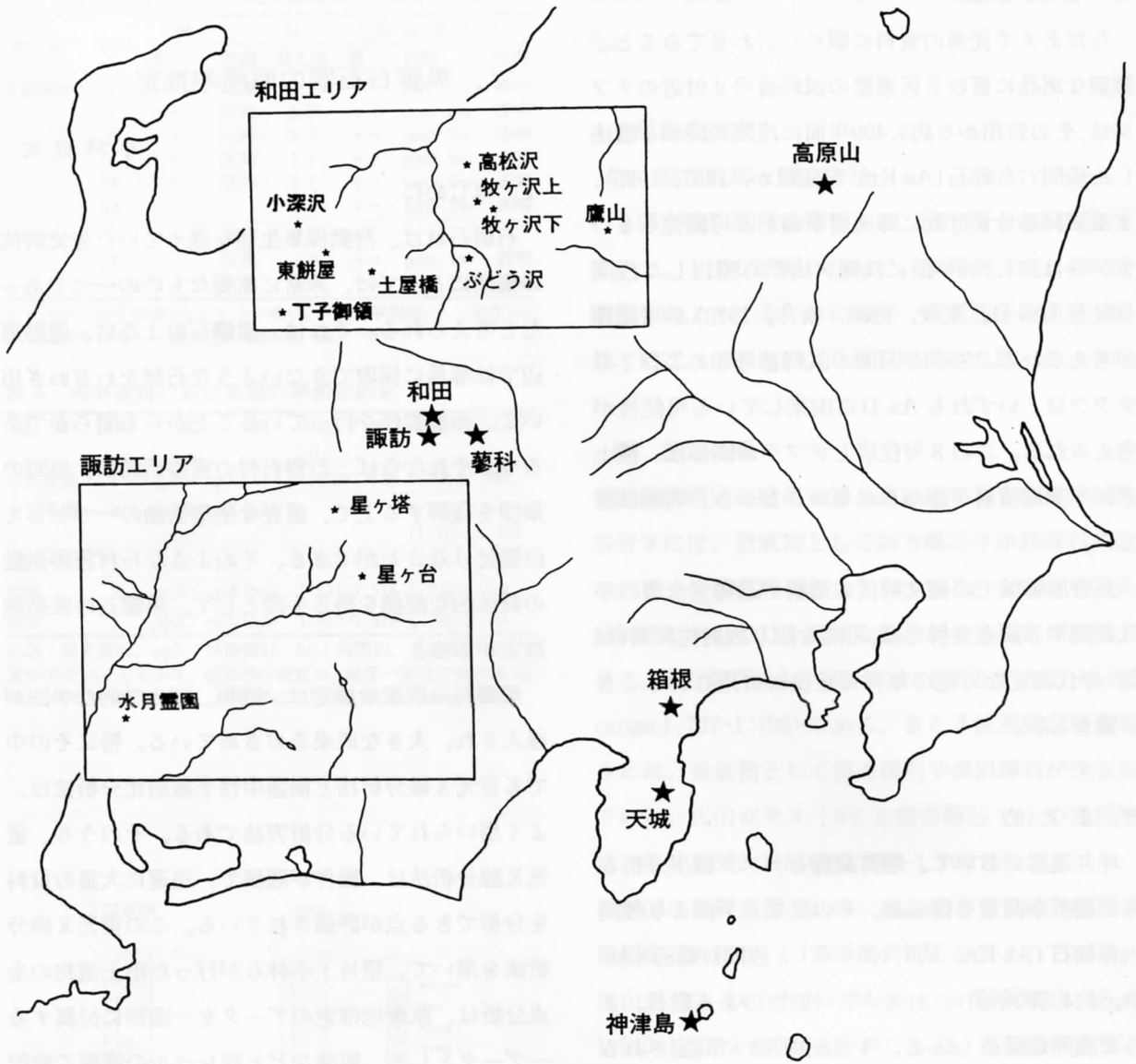
黒耀石の原産地推定は、近年、理化学的な手法が導入され、大きな成果をおさめている。特にその中でも蛍光X線分析法と機器中性子放射化分析法は、よく用いられている分析方法である。そのうち、蛍光X線分析法は、操作が簡便で、迅速に大量の資料を分析できる点が評価されている。この蛍光X線分析法を用いて、望月・小林らが行った出土遺物の全点分析は、原産地推定のデータを一遺物に付属する一データとして、器種など同レベルの情報で検討することを可能にしている(望月・小林 1994)。

今回、坪井遺跡出土の黒耀石製石器の原産地推定を行うにあたり、蛍光X線分析法を用いた。また、その方針として、ランダムサンプリングを行わず、分析可能な資料は全点分析を行った。その結果を以下に報告する。

2. 分析資料

原産地資料は、第136図・第3表に示した中部・関東地方を中心とした東日本黒耀石原産地の原石資料である。

遺物は坪井遺跡出土の黒耀石製石器である。その点数および石器組成は、第4表の通りである。前述のように分析可能な資料は全点分析を行った。



第136図 関東・中部地方の黒耀石原石資料採取地点 (小林1999)

都県	エリア	採取地域 記号	判別群 記号	分析数	都県	エリア	採取地域 記号	判別群 記号	分析数		
長野	和田 (WD, WO)	芙蓉ライト HY	WDHY, WDTY, WDTK	54	長野	諏訪 SW	星ヶ塔	SWHD	80		
		古峠 HT	WDHT	40			星ヶ台 HD	SWHD	20		
		和田トンネル北 TUN	WDHT	18			水月霊園	NWHD	20		
		小深沢 KB	WDTY, WDKB	40		箱根 HN	畑宿群 HJ	HNHJ	71		
		東餅屋	WDTY	40			鍛冶屋群 KJ	HNKJ	30		
		土屋橋北 TK	WDTY, WDKB				上多賀群 KT	HNKT	29		
		丁字御領	WDTY	19			芦ノ湯群 AY	HNAY	10		
		鷹山 TY	WDTY, WDKB	50			黒岩橋群 KI	HNKI	9		
		土屋橋西 TY	WDTK, WDTN, WDTM	20			大観山	HNHJ, HNAY, HNKI	11		
		土屋橋南1 TM	WDTK, WDTN, WDTM	20			甘酒橋	HNHJ, HNAY	30		
		土屋橋南2 TM	WDTK, WDTN, WDTM	20			日金山群 HG	HNHG	12		
		ぶどう沢 BD	WOBD, WOTM	22			静岡	天城 AG	柏峠群 KT	AGKT	49
		牧ヶ沢下 MS	WOMS					恩馳島群 OB	KZOB	49	
	牧ヶ沢上	WOBD, WOTM	33	東京	神津島 KZ	砂糖崎群 SN	KZSN	40			
	高松沢 TM	WOBD, WOTM				沢尻湾	KZOB	9			
	麦草峠	TSTY	40			長浜	KZOB, KZSN	20			
	麦草峠東	TSTY	35			甘湯沢群 AY	THAY	48			
	冷山 TY	TSTY	33			七鼻沢群 NH	THNH	9			
	蓼科 TS	渋ノ湯	TSTY	29		宮川	TMNH	8			
		双子池 HG	TSTY, TSHG	20		自然の家	THNH	10			
鉢山 SB		TSSB	26	新潟	新津 NT	金津群 KT	NTKT	31			
中ツ原1 G地点出土		NK	30		新発田 S	板山牧場群 IY	SBIY	40			

第3表 関東・中部地方の黒耀石原産地一覧

3. 分析方法

分析に用いた装置は沼津高専望月研所有の Seiko Instruments 社製エネルギー分散型蛍光 X 線分析計 SEA-2110L である。分析条件は以下の通り。

管球：ロジウム (Rh) 管球、検出器：Si (Li) 半導体検出器、X 線照射径：10mm、管電圧：50kV、管電流：自動設定、雰囲気：真空雰囲気、測定時間：180 sec。

同定し、蛍光 X 線強度を測定した元素は以下の 11 元素である。アルミニウム (Al)、ケイ素 (Si)、カリウム (K)、カルシウム (Ca)、チタン (Ti)、マンガン (Mn)、鉄 (Fe)、ルビジウム (Rb)、ストロンチウム (Sr)、イットリウム (Y)、ジルコニウム (Zr)。以上の条件を設定し、ルーチン化して測定を行った。

4. 解析法

結果の解析法は、望月・小林らの方法に従った(望月・小林 ほか 1994)。この方法の問題点については、望月や小林がすでに指摘している(望月1997、小林1999など)。

5. 結果

第137・139図に東日本黒耀石原産地の判別図を示した。また、第138・140図に坪井遺跡出土黒耀石石器の分析結果を示した。第4表に、器種別の原産地推定結果を示した。

6. 考察

まず、指摘できる傾向としては、ほとんどが諏訪星ヶ台 (SWHD) 群で占められることである。それ以外にも、多くの原産地が用いられていることも明らかとなった。これを器種別に見てみると、より多彩な原産地構成を示すのは、剥片・碎片のような残滓類である。それに対し、石鏃や削器のような定型的な石器は、より単純な原産地構成である。このような残滓類と定型的な石器で、原産地の構成が異なる例としては、東京都の山浦遺跡(縄文前期末～中期前半)などがある(小林2000)。当該期の黒耀石利用のあり方については、旧石器時代に比べ、残滓類も含めたデータの蓄積が少なく、今後も類例の増加必要であると考えている。

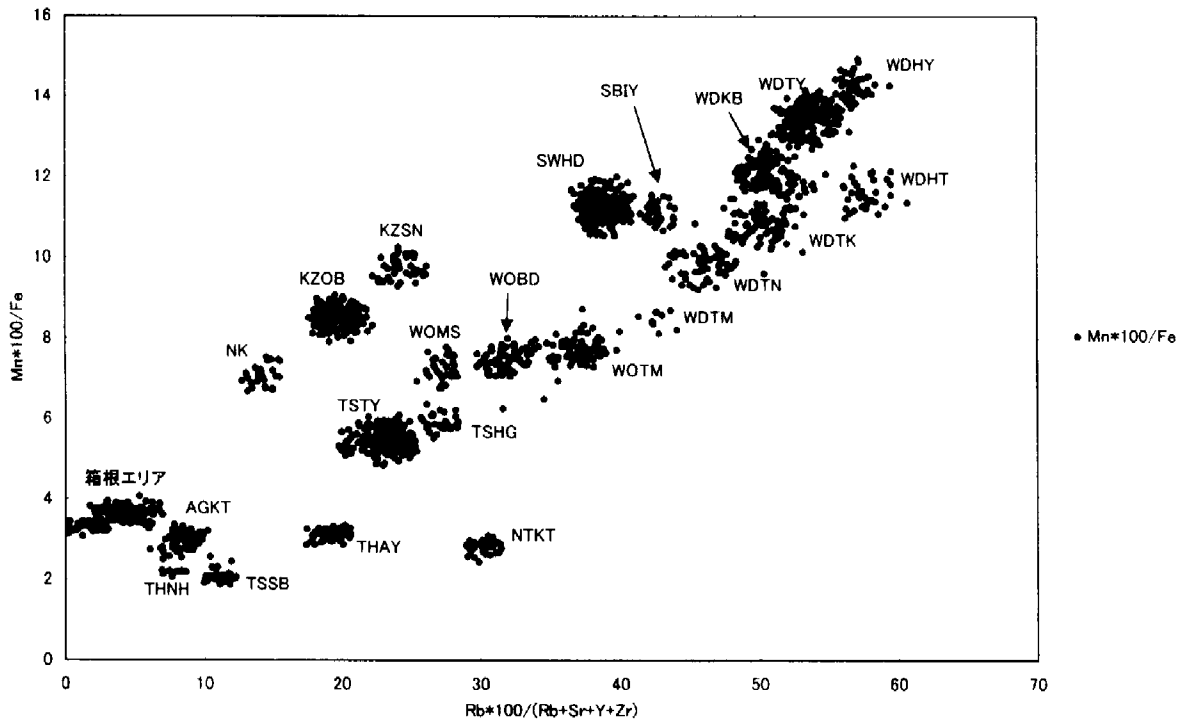
第4表 出土遺物の器種別の原産地推定結果

器種	WDTY	WDKB	WDTK	WDTN	WOBD	WOTM	SWHD	不可	合計
AH	1	0	0	0	1	0	20	0	22
Sc	0	0	0	0	0	0	5	0	5
Dr	0	0	0	0	0	0	2	0	2
石匙	0	1	0	0	0	0	1	0	2
RF	1	2	0	0	0	0	14	0	17
UF	0	0	0	0	0	0	8	1	9
Pe	4	2	0	1	0	1	77	3	88
Co	4	6	0	0	0	1	59	2	72
Fl	8	3	1	1	2	5	259	9	288
Cp	5	4	1	0	1	2	133	4	150
Rm	0	0	0	0	0	0	9	1	10
合計	23	18	2	2	4	9	587	20	665

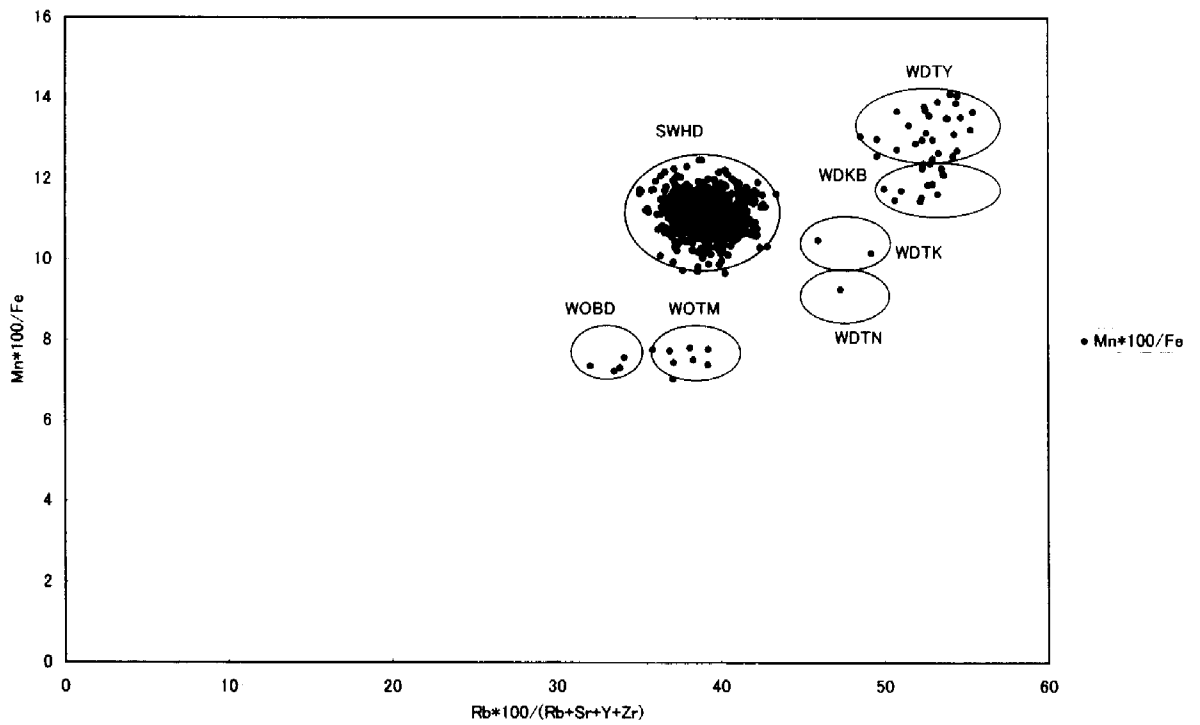
AH：石鏃 Sc：搔削器 Dr：揉錐器 RF：二次加工のある剥片 UF：使用痕のある剥片

Pe：両極剥離痕のある石器 Co：残核 Fl D剥片 Cp：碎片 Rm：原石

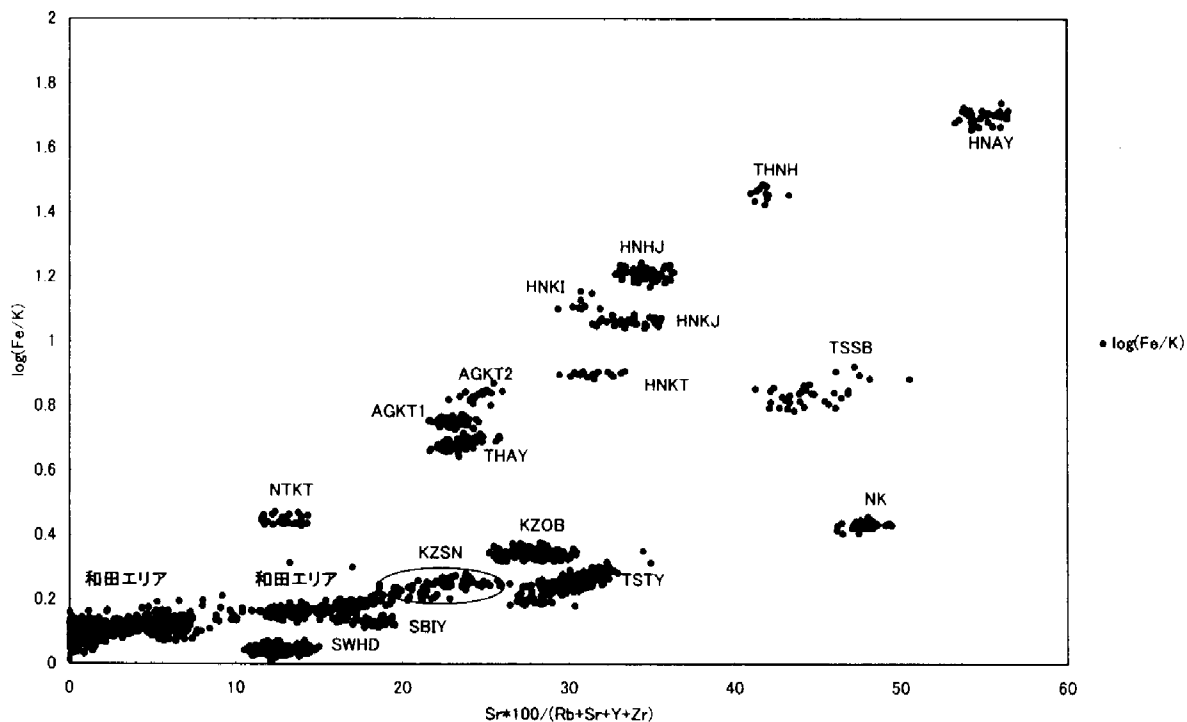
※ RF は二次的な加工により、素材の形を変えているものとした。UF は、ガジリではない微細な刃こぼれが認められるものとした。Cp に関しては、不定形な剥片の中で、目安として 1 g 未満のものとした。Cp・Rm は、長さ・幅・厚さは計測しておらず、重量のみを計測した。その以外の器種は、長さ・幅・厚さ・重量・折れの有無について計測・観察した。



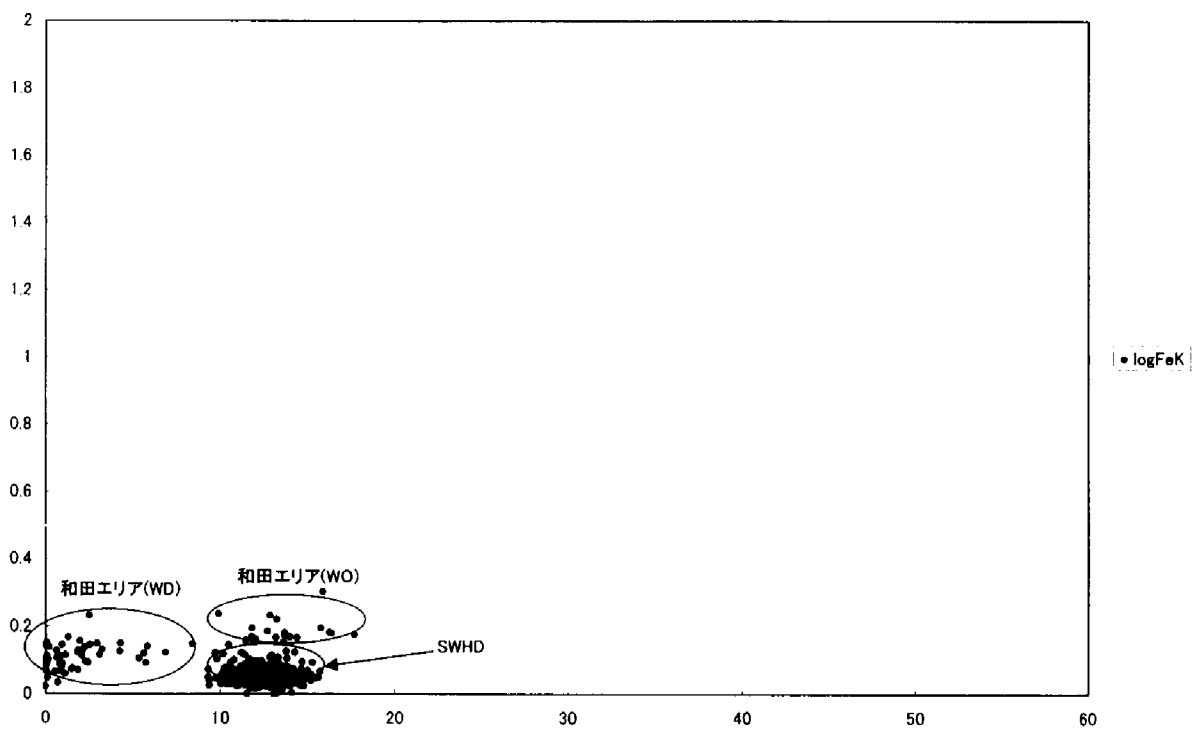
第137図 関東・中部地方の黒耀石原産地判別図1



第138図 坪井遺跡出土遺物の原産地推定結果1



第139図 関東・中部地方の黒耀石原産地判別図2



第140図 坪井遺跡出土遺物の原産地推定結果2

IV章 自然科学分析

参考文献

- 望月明彦・小林克次・池谷信之・武藤由里 1994「遺跡内における黒耀石製石器の原産地分布について—沼津市土手上遺跡 BBV 層の原産地推定から—」『静岡県考古学研究』26
- 望月明彦 1997「蛍光X線分析による柏ヶ谷長ヲサ遺跡出土黒耀石製石器の産地推定」『柏ヶ谷長ヲサ遺跡』柏ヶ谷長ヲサ遺跡
- 小林克次 1999「蛍光X線分析法による鷹山地区出土黒耀石製石器の原産地推定分析」『鷹山遺跡群III』長門町教育委員会・鷹山遺跡群調査団
- 小林克次 2000「山浦遺跡出土黒耀石製石器の原産地推定」『山浦遺跡』東久留米市教育委員会

V 章 ま と め

本調査は冒頭で述べたように坪井遺跡の第2次調査にあたる。様々な好条件に恵まれており、遺跡の保存状態は非常に良好であった。平面的な調査面積は2912㎡であり、これまでの町内調査事例と比較しても、決して大規模な調査とはいえないものの、縄文時代前期初頭～中世に至る遺構・遺物の予想を上回る検出をみた。

本遺跡の所在する長野原町は吾妻川の上流域に位置する分水嶺地域である。北方に三国山脈を隔てて新潟県の信濃川中流域（魚沼地域）、西・南方には嬬恋村・浅間高原を経て長野県の東信地域、東方には吾妻溪谷を介して北関東地方平野部と通じており、周囲の複数の文化圏が交錯する地域である。このような地域での良好な一括資料は、各時代・時期ごとに伸縮の差はあるだろうが、広域編年の基準となり得る資料として評価されるであろう。これらの資料は各地域でこれまでに蓄積・検証が繰り返されてきた編年的併行関係を整理し、それらに生じたズレを修正・補強する役割を担う可能性を多分に秘めている。ただし、その前提として良好な一括資料それ自体の慎重な層位的・型式学的検討が不可欠なことはいうまでもないであろう。今回の調査では特に本遺跡の集落開始期の縄文時代前期初頭および集落盛期の縄文時代中期後半で良好な資料を得ることができ、それぞれに異系統の土器型式が同一遺構から共伴関係を有して検出されている。本来ならば住居跡内の共伴関係の認定・組成の検討を行わなければならないが、ここでは紙幅や期間等の制限から上記2時期の遺物や遺構の特徴を大まかに捉えてまとめたい。

1. 縄文時代前期初頭

当該期の遺構の特徴や分布に関しては本文で触れているのでそちらを参照していただきたい。

(1) 出土土器の様相

本遺跡で出土した該期の土器は破片資料が多く、

器形に関しては不明瞭である。遺存している底部を参考にすれば、ほとんどが尖底であり、第14図25に代表される砲弾形を呈することが予想される。また表土や中期後半の住居跡に流れ込むかたちでの遺構外出土土器もかなり見受けられた。住居跡・土坑出土のものは肥厚気味の口縁部の狭い範囲にLとRによる撚糸側面圧痕、胴部には縦位に菱形を構成させる異方向の羽状縄文（菱形あるいは鋭角羽状縄文）を施すものが主体的である。これらの特徴から谷藤氏のいう花積下層I式の範疇で捉えることができよう⁽¹⁾。口縁部の撚糸側面圧痕には菱形を構成するもの（第14図1・2・6～8）が多く、X字状（同図3）や帯状（同図5・25）も認められる。この他に横位の羽状縄文を施すもの（第9図1・第14図13・27・28）、LとRの撚糸文（回転絡条体）を器外面に施すもの（第9図2・16）が伴出している。該期の遺構外出土土器は1-1～1-7群までに分類したが、そのうちの1-1～1-3群までは遺構出土土器と同じ様相を呈しており、花積下層式期の中でも古相を示している。1-4～1-7群までは古相段階に伴出するものもあるが全体として新相に対比されるものであろう。

(2) 他型式との共伴関係

すでに指摘されているように⁽²⁾本遺跡の該期の土器は花積下層式土器が主体を占めているが、その中には長野県北佐久郡御代田町塚田・下弥堂遺跡出土土器群をもとに設定された塚田式土器⁽³⁾が散見される。その中で特に良好な共伴関係を示すものとしてSK35を挙げることができる。SK35は該期に特徴的な楕円形を呈する土坑で第14図25・26が横倒しの状態で、同図27・28は覆土中から検出されている。第14図25は花積下層I式、同図27・28は諸属性の類似から同一個体と考えられ塚田式、同図26も胴部の撚糸文（回転絡条体）から塚田式系にそれぞれ比定される。このように花積下層式と塚田式の同一遺構内で

の明確な共伴例は初めてで⁽⁴⁾それらが併行関係にあることを示すものである。その他に塚田式(系)と考えられる資料は第9図1・第14図12・第130図1～13・同図39などがある。また同一モチーフの「施文具の転換」という観点から、第14図4・第130図17に見られる矢羽状の擦糸側面圧痕は北陸地方の極楽寺式と深い関連があると考えられる⁽⁵⁾。

2. 縄文時代中期後半

(1) 出土土器の様相と段階設定

本遺跡の中心をなす時期で遺構・遺物の検出量は他時期を圧倒している。ほとんどの住居跡が黒色土中での検出であったため遺構の遺存も良好であった。本遺跡の中期後半土器群の様相は、北関東の加曾利E式系・中部高地の唐草文(曾利)系・越後の栃倉類型及び越後大木系⁽⁶⁾など少なくとも3系統の土器型式が認められる。それぞれの住居跡内での占有関係により、土器様相は住居跡単位で異なることを特徴とする。以下、本遺跡の該期土器群の大まかな段階を設定する。

第1段階 加曾利E式系土器をほとんど含まず、唐草文(曾利)系土器・栃倉類型で構成される段階。SI06出土土器をはじめ、SI02・03出土土器、列石焼土出土土器の一部、屋外埋設遺構ではSK01・06(焼土)出土土器もこの段階に含まれる。中部高地系では曾利系土器が本段階までいくらか認められるが、圧倒的に唐草文系土器で占められる。唐草文系土器はやや内湾する無文・肥厚帯口縁で頸部が若干括れるプロポーションを呈する深鉢(第34図1・2・9)や一對の橋状把手をもつ類(第18図1、第26図1)が特徴的である。文様は腕骨状・H状懸垂文で胴部を縦位区画し、地文に条線・幅狭な矢羽状沈線を用いている。縦位の条線を2～4条単位の短横線で数段に区切るモチーフが盛行し、佐久系土器⁽⁷⁾に特徴的な鱗状沈線(多条斜行沈線)も僅かながらこの段階から認められる。栃倉類型はSI06の床面直上で検出されているもの以外はそれほど顕著ではなく、むしろ縄文を地文とし、越後大木系の影響が濃い類(第

27図1、第35図11・12、第55図9など)が目目される。3条単位の渦巻状沈線により十字状、あるいは縦線から左右に渦巻文・剣先文を派生させるモチーフが特徴的である。

第2段階 唐草文系土器が主体を占め、加曾利E式系も僅かながら参画する段階。栃倉類型は見られず、越後大木系は破片で若干残るのみである。SI10出土土器に代表され、SI04出土土器、屋外埋設遺構ではSK05(周辺)出土土器、土坑ではSK33出土土器が該当する。唐草文系土器では樽形(第72図4・5、第75図30～35など)が出現し、胴部に大柄渦巻隆線文をもつ類(第54図54～57、第117図40など)が盛行する。地文には多条斜行沈線を交互施文するものが大半を占める。加曾利E式系土器はSK05出土土器(第101図4)のように胴部の磨消縄文が未発達あるいはほとんど発達していない類である。

第3段階 加曾利E式系土器と唐草文系土器が拮抗あるいは加曾利E式系土器が唐草文系土器を凌駕する段階。SI05一括廃棄土器に代表され、SI08出土土器が該当する。加曾利E式系土器は口縁部区画文は入組文などで構成され、楕円区画は発達していない。橋状把手や小突起をもつ類が多い。口縁部文様帯・胴部文様帯の二帯構成を基準とするが頸部に無文帯を持ち、幅広沈線あるいは刺突列で区切る類(第44図2・第45図7)も見られる。胴部の磨消縄文は発達し縄文上や磨消部に波状文・蕨手文を施している。口縁部文様帯を持たない類(第45図6)も本段階から現れる。唐草文系土器は加曾利E式の影響を受けた2帯構成の類(第46図14・15)が目立ち、地文にはやや幅広の矢羽状沈線や多条斜行沈線が用いられている。また綿田氏のいう隆帯圧痕文土器⁽⁸⁾(第46図13)も伴出している。

第4段階 基本的には第3段階と同様だが、それぞれの型式の個性が失われて、単一化していく段階。これまでの段階と比べると出土量が少ないが、SI11・13・14・19出土土器・SI09埋壘、屋外埋設遺構ではSK53出土土器が該当する。加曾利E式系は口縁部文様帯が簡略化・消失する方向へ向かう。口縁部区画文は楕円区画(第66図4)や渦巻文のみ(第

81図1)となるなど形骸化する。胴部の磨消縄文はさらに発達し、磨消部への蕨手文の施文が顕著である。胴部文様帯は上下2段構成が主流となり、波状文+逆U字文(第84図1)、逆S字文+逆U字文(第85図5)などが認められる。唐草文系土器は樽形の大柄渦巻文が退化したと考えられる小渦巻文を上下に連結させる類(第95図1)や区画隆線内に蛇行隆線を縦走させる類(第81図3)などが見られる。地文は多条斜行沈線を用いている。

第5段階 加曽利E式系土器のみとなり、唐草文系土器が見られなくなる段階。SI09上層出土土器・SI17・18出土土器が該当する。確実に遺構に伴うものは敷石住居出土のもので構成される。加曽利E式系土器は口縁部文様帯が消失する。対向U字文(第89図3・4、第92図1)や微隆起文(第89図2・5、第92図3)、抱球文(第66図1)が特徴的である。称名寺式的な口縁部隆帯から隆線を垂下させる類(第89図1)も伴出している。

以上のように5段階で大別してみたが住居跡間の重複関係等の裏付けに乏しく、今後再検討が必要である。これまでの編年観⁽⁹⁾に照合すると第1段階は加曽利E2式新段階(唐草文II段階・大木8b式古~新段階)、第2段階は加曽利E2-E3式(唐草文II・III段階・大木8b式新段階)、第3段階は加曽利E3式古段階(唐草文III段階・大木90~9a式)、第4段階は加曽利E3式新段階(唐草文III段階・大木9a~9b式)、第5段階は加曽利E4式と併行すると考えられる。本遺跡の該期の土器群は全体的に浅間山を中心とした環浅間地域で同様の土器様相を呈することが指摘できる。特に第1段階とした様相は御代田町宮平遺跡の資料⁽¹⁰⁾に酷似している。この環浅間地域での地域色の類似は直前段階に展開する焼町土器⁽¹¹⁾の分布域と深い関連があるのかもしれない。また、第1段階のうちSI06出土土器は縦位・横位を交互に繰り返す文様描出を採っていることから加曽利E2式古段階(唐草文I段階・大木8b式古段階)まで遡る可能性がある。

(2) 住居跡

他の遺構に関しては本文で触れているのでそちらを参照していただきたい。

a. 諸属性

縄文時代住居跡の諸属性を第5表に示した。

住居跡の規模は第141図に示したように長短径5mで二分され、これを挟んでまとまりが見られることからこれらを中形とし、長短径6m前後のものを中形A、長短径3.5m~5mのものを中形Bとする。それより規模の大きいものを大形、小さいものを小形とする。

平面形は円形を基調とした(不整)円形・(不整)楕円形が普遍的に存在し、隅丸(長)方形が若干加わる。

支柱穴の配置は大きく2種類ある。①壁に沿って配置されるもの(SI01~05・10・16~18)。②四隅を基本とし主軸上にも配置するもの(SI06~09・11~14・19)である。この配置の違いは平面形と深く関連し、相対的に①は円形基調のもの、②は方形基調のものと組み合わせる傾向がある。

炉形態は地床炉・石敷炉・石囲炉・石囲埋甕炉の4種類が見られ、特に石囲埋甕炉は敷石住居と結びつきが強い。

埋甕(屋内埋設土器)は4軒で認められ、主軸線上脇に構築するもの(SI09・14)と主軸線上に構築するもの(SI17~19)が認められる。特に後者は敷石住居に普遍的に認められる要素である。

b. 変遷

先に示した段階設定により、住居跡の諸属性の変遷との関係を確認する。

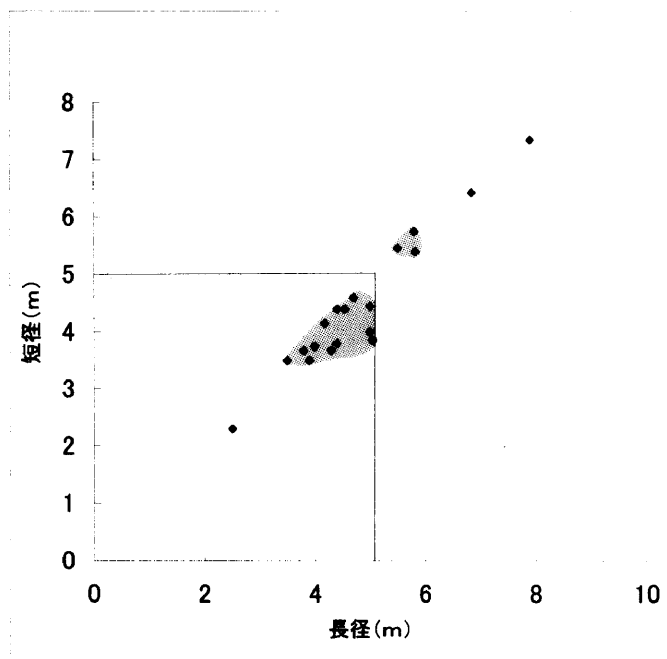
第1段階 規模は中形A・Bで平面形は楕円形・不整楕円形と円形を基調としている。支柱穴の配置は①②両方見られ、炉形態は地床炉及び石敷炉である。埋甕は設置されない。

第2段階 規模は中形Bと大形が見られ、特にSI10は拡張住居で大形化が認められる。平面形は1段階同様、円形を基調とし、支柱穴の配置は①のみである。炉形態は地床炉・石囲炉で、埋甕は認められない。

第3段階 規模は2段階同様、中形Bと大形が見

第5表 縄文時代住居跡一覧

住居名	平面形	長径 (m)	短径 (m)	床面積 (㎡)	主 軸	主柱穴	壁 溝	炉 形 態	埋 甕	備 考	重 複 関 係
SI01	円 形	4.7+α	2.0+α	6.8+α	北	<2>本	全 周 ?	—	—	中期後半	SK02→SI01
SI02	不整円形	5.5	5.46	19.0	N-16°-E	8本	ほぼ全周	地 床 炉	なし	中期後半	SI02→SI04
SI03	楕 円 形	5.82	5.4	20.7	N-22°-E	9本	全 周	石 敷 炉	なし	中期後半	
SI04	不整円形	4.54	4.4	13.1	N-20°-E	8本	ほぼ全周	石 囲 炉	なし	中期後半	SI02→SI04
SI05	楕 円 形	6.84	6.43	31.4	N-16°-E	12本	ほぼ全周	地 床 炉 2	なし	遺物一括廃棄 中期後半	SK22→SI05
SI06	不整円形	4.4	4.4	15.0	N-1°-E	4本	な し	石 敷 炉	なし	中期後半	SI06→SK10
SI07	隅丸長方形	5.05	3.86	12.9	N-10°-W	4本	ほぼ全周	地 床 炉	なし	中期後半	SI07→SK11
SI08	隅丸方形	<4.7>	4.6	<16.1>	N-20°-E	4本?	全 周 ?	石 囲 埋 甕 炉	—	中期後半	SI10B→SI10A→SI11
SI09	隅丸長方形	5.0	4.45	16.0	北	8本	ほぼ全周	石 囲 炉	1基	中期後半	SI12・SK21→SK26・SK40→SI09
SI10A	楕 円 形	7.9	7.35	39.4	N-2°-W	7本	ほぼ全周	地 床 炉	なし	拡張住居 中期後半	
SI10B	円 形	5.8	5.75	22.6	N-3°-E	7本	全 周	地 床 炉	なし	中期後半	SI10B→SI10A→SI11
SI11	不整円形	3.8	3.67	10.4	N-5°-W	6本	な し ?	石 囲 炉	なし	焼失住居 中期後半	SI10B→SI10A→SI11
SI12	隅丸長方形	4.3	3.68	13.3	N-40°-E	なし	な し	な し	なし	地割れの痕跡あり 前期初頭	SI09→SI12・弧状列石
SI13	不整楕円形	4.0	3.75	9.7	N-8°-E	5本	全 周	石 囲 埋 甕 炉	なし	中期後半	SK36→SI13
SI14	隅丸方形	3.5	3.5	7.5	N-24°-W	4本	全 周	石 囲 埋 甕 炉	1基	中期後半	SI14→SI19
SI15	楕 円 形	2.51	2.3	4.1	N-13°-W	なし	な し	地 床 炉	なし	中期後半	
SI16	楕円形?	<5.0>	<4.0>	?	N-8°-E	6本	な し	石 囲 炉	なし	中期後半	SI16→SI17
SI17	柄 鏡 形	4.4	3.8	13.9	N-17°-W	8本	な し	石 囲 埋 甕 炉	1基	敷石住居 SK48は外部施設? 中期末	SI16→SI17
SI18	不整楕円形	3.9	3.5	11.8	N-20°-W	13本	な し	石 囲 埋 甕 炉	1基	敷石住居 張出部? 中期末	SI18→SI20
SI19	隅丸方形	4.18	4.15	16.0	N-16°-W	5本	な し	地 床 炉	1基	敷石住居 張出部? 焼失 中期後半	SI14→SI19



第141図 縄文時代住居跡の規模

られ、大形化が認められる。平面形は楕円形と隅丸長方形で、主柱穴の配置は①②とも見られる。炉形態は地床炉・石囲埋甕炉で、埋甕は認められない。

第4段階 規模はすべて中形Bに属し、前2段階と比べると小形化が窺える。平面形は円・方形を基調とするもの両者が見られるが方形化が顕著である。主柱穴の配置は②のみで①は見られない。炉形態は地床炉・石囲炉・石囲埋甕炉が見られる。埋甕

は主軸筋に設置するタイプが認められる。またSI14・19のような竪穴式住居と敷石住居の中間的な構造をもつものが存在することも特徴である。

第5段階 敷石住居に限定される。規模は中形B、平面形は円形を基調とし、主柱穴は①のみである。炉形態は石囲埋甕炉で埋甕は主軸線上に設置される。

以上急ぎ足で諸属性の変遷を見てきたが、規模は

第2・3段階の大形化、平面形は円形→方形→円形、主柱穴の配置は①→②→①、炉形態は地床炉・石敷炉→石囲炉・石囲埋甕炉→石囲埋甕炉、埋甕は第4段階から出現し、主軸線上脇→主軸線上という大まかな変遷を捉えることができる。

3. 坪井遺跡出土縄文時代石器群の特徴

坪井遺跡では、調査区内の包含層、および各遺構覆土中より、多数の石器・石製品が出土している。今回報告にあたっては、調査時に回収されたすべての石資料を回収し、そのうち1,630点を、石器・石製品として抽出、報告対象とした。その他は、礫、または礫片である。礫・礫片の大半は、粗粒安山岩で、ほかに、黒色頁岩、閃緑岩なども若干含む。また、配石遺構（敷石住居）などに用いられた石材もあるが、石器・石製品には含めない。

縄文時代の石器・石製品については、素材や製作手法の別にもとづく分類（打製、磨製、礫石器など）と、機能・用途を類推させる形態にもとづく分類とが併用される場合が一般的である（鈴木 1991、など）。今回報告でも、これを踏襲し、まず、素材と製作手法の別にもとづいて大別分類を行ない、さらに、形態にもとづいて器種の分類を行なった。

(1) 石器の種類

a. 礫石器

基本的に、転礫の形状をそのまま石器の形態として用いるもの。敲打などにより整形されているものも含む。すべて、刃をもたない鈍器で、粗粒だが重量感のある石材（粗粒安山岩、閃緑岩など）が選択される。主として、その重量を利用し、叩き割る、磨り潰すなどの機能が想定されるもので、植物加工具と考えられるもの（磨石、石皿、および敲石・台石の一部）、道具加工用の道具（敲石・台石の一部、砥石、有孔砥石）である。このほか、数は少ないが、おもりとしての漁撈具（礫石錘）も含む。

b. 打製石斧類

打製石器のうち、比較的粒の粗い（ガラス質では

3. 坪井遺跡出土縄文時代石器群の特徴

ない）石材（粗粒および細粒安山岩、黒色頁岩、砂岩など）を用いた、大型の一群。原石から打ち剥がされた大き目の剥片、または剥片を打ち剥がしたあとの残核を素材として、打ち欠きにより整形、刃つけをしている。中心となる器種は、土掘り具と考えられる打製石斧であり、その製作の過程で生じた残核、剥片などの残滓、および素材剥片を共有する削器A、打製石斧の破損品を転用したと考えられる大型の楔形石器を含む。

打製石斧は、本遺跡出土石器の中心を占める器種で、側縁がほぼ平行し、上下両端が直線的な平行のもの（いわゆる短冊形）が大半を占める。このほかに、先端（刃部）が開くバチ形のもの、長さに対して横幅の小さい細形のもの認められる。器体中央にくびれを持つ、分銅形ものは1点のみであった。

削器Aは、打製石斧の素材を生産する剥片剥離過程で生じた剥片のうち、やや薄手のものの縁辺に刃つけしたもので、横刃形石器などとも呼ばれるものである。打製石斧に比べると点数は少ないが、確実に組成中に含まれる。

c. 剥片石器類

打製石器のうち、珪質（ガラス質）な石材（黒耀石、チャート、珪質変質岩、頁岩など）を用いた小型の一群。原石から打ち剥がされた小型の剥片を素材とし、打ち欠きにより整形、刃つけした、鋭い先端、または鋭利な縁辺をもつ石器。狩猟具としての石鏃、穿孔具としての揉錐器（石錐）、切り削るための道具（石匙、削器B）などと、その製作の途上で生じた残核、剥片などの残滓を含む。

石鏃は、基本的に茎を持たない、平基、または凹基の三角形のものである。中～小型の部類に含まれるものが多い。

石匙は、打ち欠きにより作り出された刃部と、つまみ部をもつ石器で、ナイフのように切る道具として用いられたと考えられるものである。本遺跡出土のものは、基本的に、つまみ部に対して横方向に長い刃部を持つ。

削器Bは、素材の一つ、ないし二つの縁辺に連続的な打ち欠きを施して刃部を作り出した石器であ

る。一方、二次加工ある剥片としたものは、打ち欠きが連続しないか、一つの縁辺全体に及ばないものである。また、微細剥離痕ある剥片は、打ち欠きによる刃部の作り出しはないが、使用による刃こぼれと考えられる細かな剥離痕が、縁辺に認められる剥片である。

d. その他・軽石製品

上記の分類に含まれないものとして、磨製石器、および装身具類と、軽石製品がある。

磨製の石器としては、磨製石斧がある。敲打による整形の後、研磨により仕上げ、刃つけをしたもので、木材伐採などのための木工具と考えられる。敲打による整形段階の未製品も認められる。その他の磨製石製品類は、装身具と考えられるものである。

軽石製品は、多様な形状のものが認められるが、機能・用途は不明なものが多い。

(2) 石器組成

本遺跡から出土している土器の大半は、縄文時代中期後半のものである。大部分の遺構も同時期のものと考えられ、各遺構覆土、および包含層から出土した石器群の大半も、やはり同時期に帰属するものと考えられる。

今回調査区出土の石器は、残滓類（原石、残核、剥片、碎片、各種調整剥片、未製品）を除くと、打製石斧がもっとも多く、675点中、198点（29.3%）を占める。土掘り具としての打製石斧は、竪穴住居などの構築のほか、根茎類などの植物質食料の獲得に用いられたと考えられている。このほか、その大部分が植物質食料の加工に用いられたと考えられている礫石器類が202点あり、全体の中で植物質食料に関連すると考えられる石器は、約6割を占める。一方、狩猟具と考えられる石鏃は29点（4.3%）に過ぎず、解体加工具と考えられる石匙、削器類の出土点数も少ない。こうした組成の特徴は、従来、縄文時代前期後半以降の関東・中部地方に特徴的とされてきた石器組成の傾向と一致する。

一方、前期初頭に帰属すると考えられる SI12覆土には、石鏃（および未製品）10点に対して、打製石

斧は1点しか認められず、磨石・石皿はない。中期後半に帰属する各遺構からは、点数の多寡はあっても、打製石斧と礫石器類の組み合わせはほぼそろって出土しており、この点に、時期の違いがうかがえる。こうした石器組成の時期差は、浅間山麓で捉えられている傾向と一致する。

道具としての石器の組成とは別に、本遺跡では、その製作にかかわる残滓類も確実に認められる。とくに打製石斧については、素材となる剥片の剥離段階に関わる資料（残核、剥片）と、素材から石器を作り出す整形段階に関わる資料（打斧調整剥片）がともに認められ、製作の工程を復元することも可能である。また、剥片石器類のうち、とくに黒耀石については、原石から剥片剥離段階、整形段階に関わる資料が豊富に認められる。

(3) 石器の製作・使用と廃棄

石器製作に際しての、原材料としての石材の選択には、明瞭な器種ごとの違いが認められる。

礫石器類には、まず重量感が要求されることから、比較的大型の河川礫の得られる石材が選ばれている。粗粒安山岩など、基本的に、遺跡直下の吾妻川で容易に採取できる石材を選択することにより、重量物の運搬に係る労力の軽減を図り、大量消費を支えているようである。

打製石斧類についても、同様に、大量消費を支えるために、遺跡直下の吾妻川を含めた近隣で採取可能な安山岩、黒色頁岩類が選択されている。ただし、打ち割り処理に適したものであるということで、採取地の幅は礫石器類の場合よりも大きいことが予測される。なお、礫面つきの剥片なども認められるが、残核、剥片の数量は少なく、原石を直接搬入して遺跡内で打ち割り処理をしていた痕跡は乏しい。遺跡外（たとえば石材の採取地）で打ち割り処理を行なった後、必要な素材を中心に遺跡に持ち込んでいたと考えられる。

剥片石器類には、小型の利器を製作するという目的のために、珪質・ガラス質な石材として、黒耀石、チャート、珪質変質岩などが選択されている。これ

3. 坪井遺跡出土縄文時代石器群の特徴

らはいずれも、遺跡の近隣では採取できないものである。このうち、チャート、珩質変質岩、赤碧玉などは、碓井川上流域で採取可能であるとされる。また、チャートについては、足尾山地、渡良瀬川流域などでも採取可能である。一方、黒耀石については、より遠隔の、中部高地霧ヶ峰一帯よりもたらされたものであることが、蛍光X線分析法による産地推定で確かめられている。入手のための労力の軽減よりも、道具としての性能に適したものが選択されたといえる。

なお、黒耀石については、原石の状態で遺跡内に持ち込まれ、打ち割り処理から整形までが行なわれていたことが確認できるが、チャート、珩質変質岩などは、残核や剝片に乏しく、主に素材や製品が持ち込まれていたものと考えられる。遺跡と採取地の距離からいえば、黒耀石のほうがより遠隔地産であり、入手方法について、比較的近い（中距離）産地の石材とは異なった体系が確立していたのであろう。剝片石器類を加工する上で、黒耀石はもっとも適したものといえるので、その安定供給を確保することは、日常生活において重要な位置を占めていたことが想定される。

石材の入手・製作の際に、それぞれ異なった過程を経て道具箱に組み込まれた礫石器類、打製石斧類、剝片石器類は、それぞれに、大きく異なった用途に用いられたと考えられる。おおすじでは、植物質食料の獲得に打製石斧が、その加工のために礫石器類

が用いられ、また動物質食料の獲得と加工のために剝片石器類が用いられたのであろう。

こうした区分を想定した上で、遺跡から出土した石器組成の比率から、縄文時代中期には植物質食料の利用が大きな比重を占めていたとする考えが提示される場合が多い。しかし、石鏃の出土量に関しては、それが使われ、廃棄される場所が、狩猟方法などに関連して規定されていた可能性が高く、集落からの出土量の少なさが、そのまま使用頻度の低さを示すとも言い切れないだろう。

最後に、打製石斧の使用と廃棄についてであるが、本遺跡出土の打製石斧には、かなりの頻度で磨耗痕が認められる。最近の実験研究では、土掘りに用いた場合に、こうした磨耗痕が形成されることが確かめられている。磨耗が進むと、廃棄される場合が想定される。一方で、本遺跡出土の打斧調整剝片の中には、背面にこうした磨耗痕が残されているものがある。使用の後に、再度、整形のための剝離が加えられたことを示している。さらに、小型の打製石斧の中には、幅は通常のものとはあまり変わらず、長さだけが寸詰まり状になっているものがあり、また、側面からみた刃部の角度がより大きくなっているものが認められる。磨耗により刃部の機能が低下した際に、再度打ち欠き、新しい刃部を作り出す再生が行なわれ、そのため、サイズや刃部角に違いが生じているようである。その詳細な過程の検討は、今後の課題として残されている。

第6表 石器組成一覽

全点

区分	
礫石器・軽石・その他	257
打製石斧類	460
剥片石器	913
合計	1630

礫石器・軽石・その他

器種	
敲石	90
磨石	41
凹石	8
複合石器	26
石皿	37
石錘	2
砥石	1
有孔砥石	4
磨製石斧	6
磨斧未製品	2
磨斧剥片	1
軽石製品	32
石棒?	2
垂飾	2
玉	1
原石	2
合計	257

打製石斧類

器種	
打製石斧	198
打製石斧未製品	9
打斧整形剥片	96
削器A	29
二次加工ある剥片	1
礫器	3
楔形石器	1
剥片	123
合計	460

剥片石器

器種	
原石	12
残核	76
剥片	475
碎片	150
石鏃	29
石鏃未製品	23
石匙	6
揉錐器	8
片面/両面加工石器	2
削器B	10
二次加工ある剥片	28
微細剥離痕ある剥片	8
楔形石器	86
合計	913

区分	器種	合計	黒曜石	ガラス質安山岩	粗粒輝石安山岩	細粒輝石安山岩	黒色安山岩	変色安山岩	質流紋岩	熔凝灰岩	結凝灰岩	細粒軟質凝灰岩	緑色凝灰岩	珪質凝灰岩	頁岩	黒色頁岩	珪質頁岩	硬質頁岩	硬質泥岩	チャート	
礫石器	敲石				83	2				1											
	磨石	41			38																
	凹石	8			7																
	石皿	37			32					1											
	複合石器				26																
	石錘	2			1	1															
	石棒?	2			2																
	砥石	1																			
	有孔砥石	3			1																
	その他	磨製石斧	6																		
磨斧未製品		2																			
磨斧剥片		1																			
垂飾		2																			
玉		1																			
原石		2			1																
打製石斧類	打製石斧	196			59	66	1	5							3	51	8		1		
	打斧未製品	9			3	3		1								1	1				
	打斧整形剥片	96			17	29	2								2	37	3				
	削器A	29		1		6	1								2	19					
	二次加工ある剥片	1				1															
	礫器	1			1	1										1					
	剥片	123		2	19	73	1								1	25	1				
	楔形石器	1											1								
	剥片石器類	原石	12	10																	1
		残核	75	70														2			2
剥片		475	295	2			2		1		1			2		32	1		42		
碎片		150	150																		
石鏃		29	20														2			2	
石鏃未製品		23	13														1			3	
石匙		6	3													1				1	
揉錐器		8	7				1														
片面/両面加工石器		2	2																		
スクレイパー		5	5														2			2	
二次加工ある剥片		28	16														1			2	
微細剥離痕ある剥片		8	8																		
両面加工石器		1	1																		
楔形石器		86	85																	1	

3. 坪井遺跡出土縄文時代石器群の特徴

区分	器種	砂岩	牛砂岩?	伏砂	灰質岩	ホルンフェルス	珪質岩	珪質岩	珪質岩	珪化木	赤碧玉	蛋白石	葉礫石	石英	文斑岩?	象斑岩?	輝緑岩	変輝緑岩	緑色片岩	ヒン岩	蛇紋岩	石英閃緑岩	軽石	
礫石器	敲石						1													2			1	
	磨石																						3	
	凹石																						1	
	石皿	1																					3	
	複合石器																							
	石錘																							
	石棒?																							
	砥石	1																						
	有孔砥石			3																				
その他	磨製石斧				1													1					4	
	磨斧未製品																1						1	
	磨斧剥片																1							
	垂飾												2											
	玉												1											
	原石						1																	
軽石製品	軽石製品																						32	
打製石斧類	打製石斧						1																	
	打斧未製品																							
	打斧整形剥片	1				1									1						1			
	削器A																							
	二次加工ある剥片																							
	礫器																							
	剥片																							
剥片石器類	楔形石器																							
	原石						1																	
	残核						2																	
	剥片						80	2	2	8	5													
	碎片																							
	石鏃						5																	
	石鏃未製品						6																	
	石匙						1																	
	揉錐器																							
	片面/両面加工石器																							
	スクレイパー						1																	
	二次加工ある剥片						7	1						1										
	微細刻彫痕ある剥片																							
	両面加工石器																							
楔形石器																								

V章 まとめ

引用参考文献

- 川口武彦 2000「打製石斧の実験考古学的研究—縄文時代中期における土掘り具の使用時間—」『古代文化』52-1
- 小林康男 1974-75「縄文時代における生産活動の在り方(1)~(4)」『信濃』26-12, 27-2, 4, 5
- 小林康男 1983「石器組成論」『縄文文化の研究 7 道具と技術』、雄山閣
- 鈴木次郎 1983「打製石斧」『縄文文化の研究 7 道具と技術』、雄山閣
- 鈴木道之助 1991『図録・石器入門事典〈縄文〉』、柏書房
- 堤 隆 1997「浅間山麓における縄文社会復原に向けて」『川原田遺跡』、御代田町教育委員会
- 前山精明 1991「縄文時代の石器」『季刊考古学』35

註および参考文献

- (1) 谷藤保彦 1994「群馬県における早期末・前期初頭の土器」『第7回縄文セミナー』縄文セミナーの会
- (2) 谷藤保彦 1999「花積下層I式土器とその周辺」『縄文土器論集—縄文セミナー10周年記念論文集』縄文セミナーの会
- (3) 費田 明 1994「下弥堂遺跡」御代田町教育委員会
下平博行・費田 明 1994「塚田遺跡」御代田町教育委員会
- (4) 谷藤保彦・費田 明両氏に本遺跡出土土器を実見していただいた際の御教示による。
- (5) 谷藤保彦氏の御教示による。
山本正敏 1994「北陸における早期末・前期初頭の土器群」『第7回縄文セミナー』縄文セミナーの会
- (6) 柝倉類型に関してはいわゆる馬高式の後続段階としての「柝倉II式」(藤田他1961)を指す。従来、大木8b式と併行すると考えられてきているが大木9式古段階まで下という意見も提示されている(魚沼先史文化研究会1999)。また越後大木系に関しては本遺跡の地理的条件や柝倉類型の伴出状況から越後における大木系の影響を重視した。
藤田亮策他 1961『柝倉』柝尾市教育委員会
魚沼先史文化研究会 1999「原遺跡の研究(2)」『新潟考古』第10号

- (7) 百瀬忠幸 1991「第2節 吹付遺跡」『上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書』2
- (8) 綿田弘実 1983「北信地方における縄文中期後葉より後期初頭の土着土器」『須高』17
綿田弘実 1999「千曲川水系における縄文中期末葉土器群—仮称「庄痕隆帯文土器」の再検討—」『縄文土器論集—縄文セミナー10周年記念論文集』縄文セミナーの会
- (9) 基本的に加曾利E式と大木式の併行関係は山内氏の併行観(山内1940)、唐草文系は三上氏の3分類(三上1988)に準拠した。加曾利E2-3式については山形氏の型式内容(山形1996・1997)を重視し、これに加えた。
山内清男 1940『先史土器図譜』第IX輯 加曾利E式 先史考古学会
三上徹也 1988「唐草文系土器様式」『縄文土器大観3 中期II』小学館
山形真理子 1996・1997「曾利式土器の研究(上)(下)—内の展開と外的交渉の歴史—」『東京大学文学部考古学研究室研究紀要』第14・15号
- (10) 大井源寿 1994「宮平遺跡の中期縄文土器」『佐久考古通信』NO.63
- (11) 長野県塩尻市焼町遺跡の住居跡出土一括資料をもとに設定され(野村1984)、北佐久郡御代田町川原田遺跡で中核的な集落が検出され注目を集めた(堤1997)。
野村一寿 1984「塩尻市焼町遺跡第1号住居跡出土土器とその類例の位置付け」『中部高地の考古学III』長野県考古学会
堤隆 1997『川原田遺跡』御代田町教育委員会

その他の参考文献

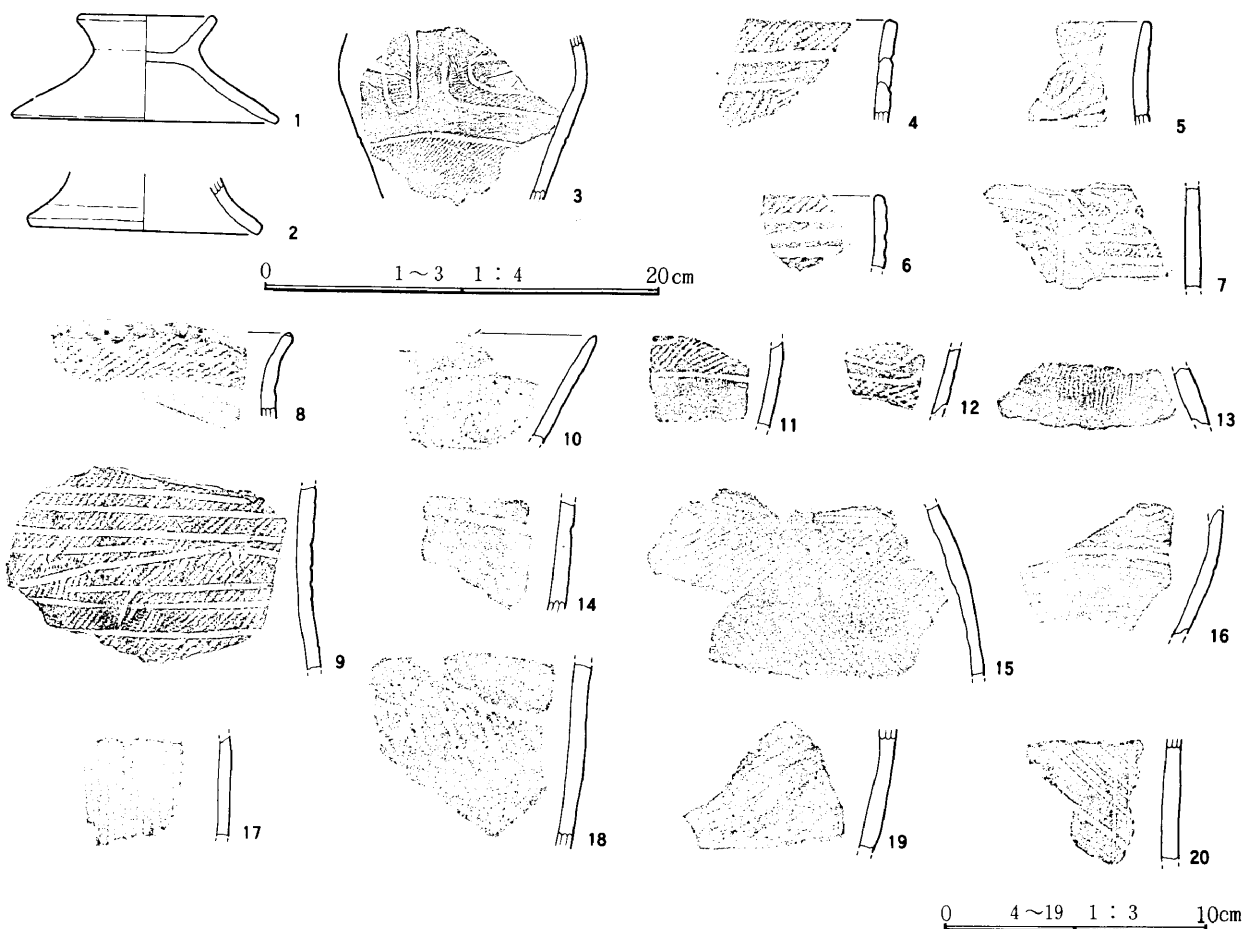
- 末木 健 1988「曾利式土器様式」『縄文土器大観3 中期II』小学館
- 水沢教子 1996「大木8b式の変容(上)」『長野県の考古学』
- 水沢教子 1998「第5節 縄文文化の爛熟—中期」『御代田町誌歴史編上』
- 本橋恵美子 1998「第6節 縄文文化の展開—後期」『御代田町誌歴史編上』

付編 第1次調査出土の弥生中期土器

第1次調査では縄文時代中期後半の土坑や時期不明の土坑が数基検出されたにすぎないが、確認面・グリッド出土土器の中に、本地域で不明瞭な部分の多い弥生中期土器が一定量含まれていた。これらは期間的な制限などから報告書に収録することができなかった経緯がある。同一遺跡の他地点ということで、本遺跡の内容をより具現化すると考えて、ここに付編として掲載することにする。

第142図1～3は復元土器である。1はその器形から蓋と考えられる。大きなつまみをもち、口縁端は緩く外反する。2は台付鉢の脚部と考えられる。3は広口壺の胴部である。胴部下半は地文のLR単斜縄文を残し、胴上半には磨消縄文手法により方形を

基調としたモチーフを描出している。4・5は直立気味に立ち上がっており、広口壺(筒形)の口縁部、6は内弯気味に立ち上がっており、鉢の口縁部と考えられる。7は諸属性の類似から同一個体と考えられ、磨消縄文手法を用いている。8・9は甕で同一個体と考えられ、8は口唇部に上方からの押捺、外面には縄文帯、9は縄文地に三角連繫文を構成している。10は鉢の口縁部で波状を呈する。11～20は壺の胴部片である。11・12は沈線区画、13・16は無区画の縄文帯、14は縄文地にヘラ描沈線、15は矢羽状沈線、17は重四角文を施している。18～20は斜位条痕調整である。



第142図 1次調査出土の弥生中期土器

S112出土土器観察表

挿図No.	器種	法量(器高/口径/底径) (cm)	文様と調整	原体	焼成	混和材	色調(外面/内面)	備考
9-1	深鉢	(8.5)/-/	細隆帯。横位羽状縄文。内面は横位ナデ。	縄文LR	良好	石英・繊維	褐/にぶい褐	破片資料(口縁部)
2	深鉢	(3.9)/-/	燃糸文。内面は横位ナデ。	燃糸L・R	良好	石英・繊維	黒褐/灰黄褐	破片資料(口縁部)
3	深鉢	(5.0)/-/	菱形羽状縄文。内面は横位ナデ。	縄文RL	良好	石英・繊維	褐/黒	破片資料(胴部)
4	深鉢	(5.8)/-/	菱形羽状縄文。内面は横位ナデ。	縄文LR・RL	良好	石英・角閃石・繊維	黒褐	破片資料(胴部)
5	深鉢	(4.1)/-/	菱形羽状縄文。内面は横位ナデ。	縄文RL	良好	繊維	褐	破片資料(胴部)
6	深鉢	(2.4)/-/	燃糸文。内面は斜位ナデ。	燃糸L・R	良好	石英・繊維	黒褐	破片資料(胴部)
7	深鉢	(3.5)/-/	横位羽状縄文。内面は横位ナデ。	無節L・R	良好	繊維	黒褐/褐	破片資料(胴部)
8	深鉢	(5.2)/-/	菱形羽状縄文。内面は横位ナデ。	縄文RL	良好	石英・繊維	褐/黒	破片資料(胴下部)

土坑出土土器観察表(縄文時代前期初頭)

挿図No.	器種	法量(器高/口径/底径) (cm)	文様と調整	原体	焼成	混和材	色調(外面/内面)	備考
14-1	深鉢	(4.9)/-/	波状口縁。燃糸側面圧痕文(菱形状：末端は厥手状)。内面は横位ナデ。	燃糸L・R	良好	繊維	黒褐	破片資料(口縁部)
2	深鉢	(3.7)/-/	燃糸側面圧痕文(菱形状)。内面は横位ナデ。	燃糸L・R	良好	繊維	にぶい黄	破片資料(口縁部)
3	深鉢	(3.3)/-/	燃糸側面圧痕文(X字状)。内面は横位ナデ。	燃糸L・R	良好	繊維	黄褐	破片資料(口縁部)
4	深鉢	(3.6)/-/	燃糸側面圧痕文(矢羽稜状)。内面は横位ナデ。	燃糸L・R	良好	繊維	明赤褐/明褐	破片資料(口縁部)
5	深鉢	(2.5)/-/	燃糸側面圧痕文(帯状)。内面は横位ナデ。	燃糸L?	良好	繊維	黄灰	破片資料(口縁部)
6	深鉢	(3.8)/-/	燃糸側面圧痕文(菱形状)。胴部は菱形羽状縄文。内面は横位ナデ。	燃糸L・R/縄文LR	良好	繊維	にぶい黄褐/にぶい黄	破片資料(口縁部)
7	深鉢	(6.8)/-/	燃糸側面圧痕文(菱形状)。胴部は菱形羽状縄文。内面は横位ナデ。	燃糸L・R/縄文LR	良好	繊維	にぶい黄褐/にぶい黄	破片資料(口縁部)
8	深鉢	(4.5)/-/	燃糸側面圧痕文(菱形状)。胴部は菱形羽状縄文。内面は横位ナデ。	燃糸L・R/縄文LR	良好	繊維	浅黄/灰黄	破片資料(口縁部)
9	深鉢	(3.8)/-/	菱形羽状縄文。内面は横位ナデ。	縄文LR・RL	良好	繊維	褐/黒褐	破片資料(胴部)
10	深鉢	(7.9)/-/	菱形羽状縄文。内面は横位ナデ。	縄文LR・RL	良好	繊維	にぶい黄橙/黄灰	破片資料(胴部)
11	深鉢	(3.4)/-/	異方向縄文?。内面は横位ナデ。	縄文RL	良好	繊維	黒褐/暗灰褐	破片資料(胴部)
12	深鉢	(4.2)/-/	幅広隆帯。横位羽状縄文。内面は横位ナデ。	縄文LR・RL	良好	繊維	黒/明黄褐	破片資料(口縁部)
13	深鉢	(4.6)/-/	横位羽状縄文。内面は横位ナデ。	縄文LR・RL	良好	繊維	橙/明赤褐	破片資料(胴部)
14	深鉢	(4.6)/-/	菱形羽状縄文。内面は横位ナデ。	縄文LR・RL	良好	繊維	黒/にぶい黄橙	破片資料(胴部)
15	深鉢	(4.1)/-/	菱形羽状縄文。内面は横位ナデ。	縄文LR・RL	やや良	繊維	にぶい黄橙	破片資料(胴部)
16	深鉢	(4.7)/-/	燃糸文?。内面は横位ナデ。	燃糸L?	良好	石英・繊維	明黄褐/黒	破片資料(胴部)
17	深鉢	(4.7)/-/	燃糸文(X字状?)。内面は横位ナデ。	燃糸L・R	良好	繊維	橙/灰褐	破片資料(胴部)
18	深鉢	(4.8)/-/	燃糸文(同一燃り方向2条単位)。内面は横位ナデ。	燃糸R	良好	繊維	明黄褐/にぶい黄橙	破片資料(胴部)
19	深鉢	(6.4)/-/	燃糸側面圧痕文(菱形状)。内面は横位ナデ。	燃糸L・R	良好	繊維	にぶい黄橙/灰黄褐	破片資料(口縁部)
20	深鉢	(4.5)/-/	斜縄文。穿孔・穿孔途中。内面は横位ナデ。	縄文RL	良好	繊維	黒褐	破片資料(口縁部)
21	深鉢	(5.3)/-/	斜縄文?。	縄文LR?	良好	繊維	明黄褐/黒褐	破片資料(胴下部)
22	深鉢	(4.4)/-/	菱形羽状縄文。内面は横位ナデ。	縄文LR	良好	繊維	赤褐/黒	破片資料(胴部)
23	深鉢	(4.6)/-/	菱形羽状縄文。内面は横位ナデ。	縄文LR	良好	繊維	赤褐/黒	破片資料(胴部)
24	深鉢	(3.8)/-/	菱形羽状縄文。内面は横位ナデ。	縄文RL	良好	繊維	にぶい黄褐/にぶい黄橙	破片資料(胴部)

挿図No.	器種	法量(器高/口径/底径) (cm)	文 様 と 調 整	原 体	焼 成	混 和 材	色 調 (外 面 / 内 面)	備 考
25	深鉢	35.2/27.0/—	砲弾形の土底土器。口縁部外面に2条・内面に2〜3条の捺糸(帯状)を施す。胴部は波状口縁に波長部に微隆帯による渦巻文。微隆帯に沿って捺糸側面痕文。胴部は捺糸文。	捺糸L・R/縄文LR・RL	良好	繊維	にぶい黄橙/にぶい黄	80%残存。 SK35
26	深鉢	(14.0)/—/5.4	波状口縁。波長部に微隆帯による渦巻文。微隆帯に沿って捺糸側面痕文。胴部は捺糸文。	捺糸L・R	不良		明黄褐	口縁部と接合しないが70%残存。 SK35
27	深鉢	(4.5)/—/—	幅広隆帯。菱形羽状縄文。内面は横位ナデ。	縄文LR・RL	良好	角閃石・繊維	明黄褐	破片資料(口縁部)27・28は同一個体。 SK35
28	深鉢	(6.0)/—/—	菱形羽状縄文。内面は横位ナデ。	縄文LR・RL	良好	角閃石・繊維	明黄褐	破片資料(胴部) SK35
29	深鉢	(4.4)/—/—	菱形羽状縄文。内面は横位ナデ。	縄文LR・RL	良好	石英・繊維	にぶい黄褐/にぶい黄橙	破片資料(胴部) SK35
30	深鉢	(4.1)/—/—	菱形羽状縄文。内面は横位ナデ。	縄文LR・RL	良好	角閃石・繊維	にぶい黄褐/褐灰	破片資料(胴部) SK43
31	深鉢	(4.2)/—/—	菱形羽状縄文。内面は横位ナデ。	縄文RL	良好	繊維	灰黄褐/にぶい黄橙	破片資料(胴部) SK43

列石焼土出土土器観察表

挿図No.	器 種	法量(器高/口径/底径) (cm)	文 様 と 調 整	原 体	焼 成	混 和 材	色 調 (外 面 / 内 面)	備 考
18-1	深鉢	(19.0)/30.8/—	口縁部内面肥厚。棒状突起・矢羽状沈線・渦巻文。内面は横位ナデ。		良好	雲母	暗褐/にぶい赤褐	口縁部〜胴上半50%残存。
2	深鉢	(11.3)/<35.0>/—	楕円区画文。内面は横位ナデ。	縄文RL	良好	角閃石・長石・砂礫	にぶい褐	口縁部30%残存。
3	深鉢	(12.4)/<29.2>/—	口縁部無文帯。磨消縄文。内面は横位ミガキ。	縄文RL	良好	角閃石	にぶい赤褐	口縁部20%残存。
4	深鉢	<34.5>/<27.8>/6.6	波状口縁。渦巻文・楕円区画文・逆U字区画文。内面は横位ミガキ。	縄文RL	良好	角閃石	明赤褐	口縁部〜胴上半15%・胴下半〜底部50%残存。
5	深鉢	(9.6)/—/7.2	内外面ともナデ調整。		やや不良	長石	明黄褐/にぶい黄橙	胴下部〜底部60%残存。
19-6	深鉢	(7.9)/—/—	口縁部区画文に縦位沈線充満。頸部無文帯。内面は横位ミガキ。		良好		にぶい黄橙	破片資料(口縁部)
7	深鉢	(6.9)/—/—	口縁部内面肥厚。口縁部弧状区画文に斜行沈線充満。内面は横位ミガキ。		良好	角閃石・長石	赤褐/黒褐	破片資料(口縁部)
8	深鉢	(7.5)/—/—	渦巻文?・口縁部区画文に蛇行沈線充満。多条斜行沈線交互施文。内面は横位ナデ。		良好	角閃石	黒褐/にぶい黄橙	破片資料(口縁部)
9	深鉢	(6.1)/—/—	口縁部内面肥厚。渦巻文・口縁部区画文に斜行沈線充満。内面は横位ナデ。		良好	角閃石	にぶい黄褐	破片資料(口縁部)
10	深鉢	(5.1)/—/—	微隆起文・楕円区画文。内面は横位ナデ。	縄文RL	良好	角閃石	暗赤褐	破片資料(口縁部)
11	深鉢	(3.7)/—/—		縄文RL	良好	角閃石	にぶい黄褐/黒褐	破片資料(口縁部)
12	深鉢	(3.9)/—/—	棒状突起。渦巻文・横位沈線。内面はナデ。		良好	石英	黒褐/暗褐	破片資料(口縁部)
13	深鉢	(6.9)/—/—	有刻隆帯・縦位沈線(列)。内面はナデ。		良好	角閃石	にぶい黄橙	破片資料(胴部)
14	深鉢	(7.3)/—/—	渦巻状有刻隆帯。列点文・多条斜行沈線。内面はナデ。		良好	角閃石・長石・石英	にぶい黄橙/黒褐	破片資料(胴部)
15	深鉢	(12.4)/—/—	剣先状隆帯?。ハの字文。内面はナデ。		良好	角閃石	灰黄褐/橙	破片資料(胴部)
16	深鉢	(10.0)/—/—	隆帯。多条斜行沈線交互施文。内面はナデ。		良好	角閃石・長石	褐/明褐	破片資料(胴部)
17	深鉢	(13.1)/—/—	楕円区画文・磨消縄文間に縦位沈線。内面は横位ナデ。	縄文RL	良好	角閃石	にぶい褐/灰褐	破片資料(口縁部)
18	深鉢	(5.6)/—/—	隆線。内面はナデ。	縄文RL	良好	角閃石	にぶい褐	破片資料(胴部)
19	深鉢	(7.0)/—/—	沈線。内面はナデ。	縄文LR	良好	角閃石・長石・石英	灰褐	破片資料(胴部)

挿図No.	器種	法量(器高/口径/底径) (cm)	文様と調整	原体	焼成	混和材	色調(外面/内面)	備	考
20	深鉢	(7.0)/-/—	幅広沈線。内面はナデ。	無筋L	良好	角閃石・長石	にぶい黄橙	破片資料(胴部)	
21	深鉢	(7.3)/-/—	内面はナデ。	縄文LR	良好	角閃石	明褐/橙	破片資料(胴部)	
22	浅鉢	(4.7)/-/—	口縁部内面肥厚。内外面横位ミガキ・赤彩。		良好	角閃石	赤	破片資料(口縁部)	
23	浅鉢	(4.9)/-/—	口縁部内面肥厚。内外面ミガキ調整。		やや良	角閃石	にぶい黄橙	破片資料(口縁部)	
24	浅鉢	(9.4)/-/—	口縁部内面肥厚。外面はナデ・内面はミガキ。		良好	角閃石	にぶい黄褐/黒褐	破片資料(口縁部)	
25	鉢	(6.7)/-/—	橋状把手。内面は横位ナデ。		良好	角閃石	橙/灰黄褐	破片資料(胴部)	
26	深鉢	(6.9)/-/—	突起。沈線。		良好	角閃石・雲母・石英	にぶい褐	破片資料(突起部)	

SI01出土土器観察表

挿図No.	器種	法量(器高/口径/底径) (cm)	文様と調整	原体	焼成	混和材	色調(外面/内面)	備	考
22-1	深鉢	(5.3)/-/—	隆帯。横位沈線。		良好	石英	橙/明赤褐	破片資料(胴部)	覆土
2	深鉢	(6.8)/-/—	縄文地に縦位沈線。	縄文LR	良好	雲母	にぶい赤褐/黒褐	破片資料(胴部)	覆土
3	浅鉢	(5.3)/-/—	口縁部内外面肥厚。内外面ミガキ調整。		良好		灰褐	破片資料(口縁部)	覆土
4	浅鉢	(4.1)/-/—	内外面ナデ調整。		良好		にぶい黄橙	破片資料(口縁部)	覆土

SI02出土遺物観察表

挿図No.	器種	法量(器高/口径/底径) (cm)	文様と調整	原体	焼成	混和材	色調(外面/内面)	備	考
26-1	深鉢	<22.3>/17.3/<9.0>	橋状突起。滴釜文。口縁部内外面肥厚。刺突列・矢羽状沈線・2条単位沈線。内面はナデ。		良好	角閃石・雲母・石英	にぶい黄褐/黒褐	口縁部～胴部60%残存。外面に煤付着。上層	
2	深鉢	(2.7)//(12.6)/—	口縁部区画文に矢羽状沈線充填。内面は横位ナデ。		良好	角閃石	灰褐	口縁部30%残存。下層	
3	深鉢	<11.3>/<13.0>/<5.0>	口唇部刻目。縦位条線。内面は横位ナデ。		良好	角閃石	にぶい赤褐/黒褐	口縁部～胴部45%残存。上層	
4	深鉢	(22.5)/-/—/9.4	H状懸垂文。刺突列・3条単位十字状沈線。内面は横位ナデ。	縄文LR	良好	雲母・石英	にぶい赤褐/灰褐	胴部～底部30%残存。 炉跡・床直	
5	深鉢	<66.8>/<47.2>/<15.0>	特大形。有刻隆帯。内面は横位ナデ。	縄文LR	良好	長石・雲母	明赤褐/にぶい赤褐	口縁部～胴部50%残存。 床直	
27-6	深鉢	<49.6>/<33.6>/<8.8>	大形。口縁部内面肥厚。口縁部に2条沈線と刺突列でM字状文。腕背文。3条単位の十字状沈線。内面は横位ナデ。	縄文RL	やや良	角閃石・雲母	にぶい黄褐/にぶい黄橙	口縁部～胴部20%残存。外面に煤付着。 炉跡	
7	深鉢	(8.5)/-/—/11.2	上げ底で4つのスリット。2～3条沈線と矢羽状沈線の組み合わせ。内面は横位ナデ。		良好	長石・雲母	にぶい黄褐/にぶい黄橙	底部60%残存。 炉跡	
8	深鉢	(5.4)/-/—/9.4	逆U字文?・磨消縄文。内面はナデ。	縄文LR	良好	角閃石・石英	にぶい黄橙/灰褐	底部65%残存。 上層	
9	深鉢	(9.3)/-/—/8.0	縄文地に縦位・蛇行沈線。	縄文LR	良好	角閃石・雲母	にぶい褐/黒	胴下半～底部45%残存。 上層	
10	深鉢	(1.7)/-/—/4.4	小形。		良好	小石	黒褐	底部50%残存。 上層	
11	浅鉢	(15.5)/<46.2>/—	胴中部で強い屈曲。楕円区画文?。口縁部内外面・胴上半はミガキ・赤彩。その他は横位ナデ。		良好		にぶい赤褐/にぶい黄褐	口縁部40%・胴上半15%残存。 下層	
12	鉢?	(12.9)/-/—	胴中部で屈曲。胴上半外面・胴部内面はミガキ・赤彩。その他はナデ。		良好	砂礫	にぶい赤褐/黒褐	胴部15%残存。 上層	
13	深鉢	(4.5)/-/—	滴釜文・口縁部楕円区画文に斜行沈線充填。内面は横位ナデ。		良好	角閃石	暗褐/黒褐	破片資料(口縁部)	上層
14	深鉢	(3.7)/-/—	斜行粘土紐。内面は横位ナデ。		良好	角閃石・雲母	灰褐/にぶい黄橙	破片資料(口縁部)	上層

押図No	器種	法量(器高/口径/底径) (cm)	文 様 と 調 整	原 体	焼 成	混 和 材	色調(外面/内面)	備 考
15	深鉢	(3.1)/-/	口縁部内面肥厚。斜行沈線。内面はナデ。		良好	角閃石	明褐	破片資料(口縁部) 下層
16	深鉢	(7.0)/-/	渦巻文・口縁部区画文に縦位沈線充填。頸部無文帯。内面は横位ナデ。		良好	角閃石・石英	灰褐/にぶい褐	破片資料(口縁部) 下層
17	深鉢	(4.3)/-/	捺り文・口縁部区画文に斜行沈線充填。内面は横位ナデ。		良好	角閃石・雲母	褐/にぶい黄橙	破片資料(口縁部) 上層
28-18	深鉢	(9.9)/-/	半截状工具による渦巻文・密接縦位文。内面は横位ナデ。		良好	角閃石	にぶい褐/灰褐	破片資料(胴部)18・19は同一個体。上層
19	深鉢	(6.4)/-/	半截状工具による密接縦位文。内面は横位ナデ。		良好	角閃石・雲母・石英	にぶい赤褐/にぶい褐	破片資料(胴部) 上層
20	深鉢	(4.4)/-/	籠目文。内面はナデ。		良好	角閃石・長石	灰褐/褐	破片資料(頸部) 上層
21	深鉢	(3.3)/-/	波状粘土紐。内面は横位ナデ。		良好	石英	暗赤褐	破片資料(頸部) 床直
22	深鉢	(3.9)/-/	半隆起縁間に細かい斜行沈線。内面は横位ナデ。		良好	角閃石・雲母・石英	灰褐/黒褐	破片資料(頸部) 上層
23	深鉢	(3.5)/-/	隆帯。交互刺突文・斜行沈線。内面はナデ。		良好	角閃石・石英	灰褐/にぶい黄褐	破片資料(頸部) 覆土
24	深鉢	(5.5)/-/	内面はナデ。	捺糸R	良好	角閃石・長石	黄褐/明褐	破片資料(胴部) 上層
25	深鉢	(5.0)/-/	頸部無文帯。渦巻文・区画文は縦位沈線充填。矢羽状沈線。内面はナデ。		良好	角閃石	灰褐	破片資料(頸部) 上層
26	深鉢	(5.4)/-/	矢羽状沈線。内面は横位ナデ。		良好	角閃石・雲母・長石	灰黄褐/にぶい黄褐	破片資料(頸部) 下層
27	深鉢	(6.8)/-/	隆帯。矢羽状沈線。多条斜行沈線。内面は横位ナデ。		良好	角閃石・雲母・石英	褐/黒褐	破片資料(頸部) 上層
28	深鉢	(7.9)/-/	渦巻文・精円区画文。頸部無文帯。内面は横位ナデ。	縄文RL	良好		にぶい赤褐/灰褐	破片資料(口縁部) 下層
29	深鉢	(2.3)/-/	文・精円区画文。頸部無文帯。内面は横位ナデ。	縄文LR	良好	長石	にぶい赤褐/灰褐	破片資料(口縁部) 上層
30	深鉢	(6.5)/-/	内面はナデ。	無節L	良好		赤褐	破片資料(口縁部) 覆土
31	深鉢	(4.6)/-/	半截工具による精円区画文?。縦位蛇行沈線。内面は横位ナデ。	捺糸R	良好	角閃石	にぶい黄褐/にぶい黄橙	破片資料(胴部) 覆土
32	深鉢	(7.7)/-/	頸部無文帯。波状粘土紐。内面は横位ナデ。	縄文LR	良好	角閃石	灰褐	破片資料(頸部)外面に煤付着。 下層
33	深鉢	(4.2)/-/	精円区画文。内面はナデ。	捺糸R	良好		にぶい黄橙/にぶい黄	破片資料(胴部) 上層
34	深鉢	(8.2)/-/	縄文地に2条単位の弧状沈線。内面はナデ。	縄文RL	良好	角閃石・石英	にぶい黄橙/にぶい黄	破片資料(胴部) 床直
35	鉢?	(9.7)/-/	隆帯。内面は横位ミガキ。	縄文RL	良好	角閃石	明褐	破片資料(胴部) 上層
36	深鉢	(5.8)/-/	腕骨文。内面は横位ナデ。	縄文LR	良好	長石	にぶい褐/灰褐	破片資料(胴部) 上層
37	深鉢	(4.8)/-/	内面は横位ナデ。	複節	良好	角閃石	赤褐	破片資料(胴部) 上層
38	深鉢	(2.6)/-/	口縁部外面肥厚・刺突列。内面はナデ。		良好	角閃石	黒褐	破片資料(口縁部) 床直
39	深鉢	(4.0)/-/	口縁部内外面肥厚。内面はナデ。		良好	角閃石	にぶい褐	破片資料(口縁部) 上層
40	浅鉢	(4.7)/-/	内外面横位ミガキ。		良好	角閃石	にぶい褐/黒褐	破片資料(口縁部) 覆土
41	浅鉢	(3.0)/-/	横位沈線。内外面横位ミガキ。内面~口唇部赤彩。		良好		にぶい黄橙/赤	破片資料(口縁部) 上層
42	浅鉢	(5.2)/-/	幅広横線。内外面横位ミガキ・赤彩。		良好	角閃石	赤褐	破片資料(口縁部) 覆土
43	浅鉢	(10.4)/-/	口縁部内外面肥厚。幅広横線。内外面横位ミガキ・赤彩。		良好	角閃石	赤褐	破片資料(口縁部) 覆土
44	浅鉢	(4.1)/-/	幅広横線。内外面横位ナデ。		良好	石英	浅黄	破片資料(口縁部) 覆土
45	浅鉢	(3.0)/-/	口縁部外面肥厚。幅広横線。内外面横位ミガキ・赤彩。		良好	角閃石	赤	破片資料(口縁部) 上層

挿図No.	器種	法量(器高/口径/底径) (cm)	文様と調整	原体	焼成	混和材	色調(外面/内面)	備	考
46	深鉢?	(5.1)/-/	口縁部内面肥厚。外面はナデ、内面はミガキ。沈線。内外面ナデ。	縄文RL	良好		灰黄褐	破片資料(口縁部)	覆土
47	浅鉢	(4.2)/-/	外面横位ナデ、内面横位ミガキ。		良好	角閃石・長石	明赤褐/黒褐	破片資料(口縁部)	覆土
29-48	浅鉢	(4.0)/-/	口縁部内面肥厚。内外面はミガキ。		良好	角閃石・石英	黒褐/にぶい黄褐	破片資料(口縁部)	下層
49	浅鉢	(3.8)/-/	口縁部内面肥厚。内外面はミガキ・赤彩。		良好	角閃石	にぶい黄橙	破片資料(口縁部)	覆土
50	浅鉢	(3.6)/-/	口縁部内面肥厚。内外面はミガキ。		良好	角閃石	にぶい赤褐/赤	破片資料(口縁部)	上層
51	浅鉢	(4.0)/-/	口縁部内面肥厚。内外面はミガキ。		良好	角閃石	にぶい黄褐	破片資料(口縁部)	上層
52	浅鉢	(6.3)/-/	口縁部内面肥厚。内外面は横位ミガキ。		良好	角閃石・雲母	黒褐	破片資料(口縁部)	下層
53	浅鉢	(3.6)/-/	波状粘土紐。内面は横位ミガキで上位赤彩。		良好	角閃石	暗赤褐/赤	破片資料(口縁部)	上層
54	浅鉢	(17.2)/-/	胴部で強い屈曲。口縁部内面肥厚。渦巻文・藤手文・縦位沈線。口縁部内外面横位ミガキ、胴部内外面ナデ。		良好	長石	にぶい黄褐/にぶい黄橙	破片資料(口縁部~胴部)	上層
55	器台	(3.6)/-/	円形透かし孔。外面縦位ナデ、内面横位ナデ調整。		良好	角閃石	明褐	破片資料(脚部)	上層
56	器台	(3.5)/-/	半截工具による縦線文。内外面ナデ。		良好	雲母・石英	明褐	破片資料(脚部)	下層
57	器台	(4.4)/-/	内外面ナデ。		良好	石英	にぶい黄橙	破片資料(脚部)	下層
58	深鉢	(5.3)/-/	山形突起。渦巻文。内面はナデ。	縄文RL	良好	小石	にぶい黄褐/橙	破片資料(突起部)	下層
59	深鉢	(7.7)/-/	山形突起。粘土紐貼付。内面はナデ。		良好	角閃石	黒褐/にぶい褐	破片資料(突起部)	下層
60	深鉢	(7.5)/-/	橋状突起。渦巻文・刺突文。内面は縦位ミガキ。		良好	角閃石	にぶい赤褐/明赤褐	破片資料(突起部)	床直
61	深鉢	(8.8)/-/	橋状把手。渦巻文・藤手文・多条斜行沈線。内面はナデ。		良好	角閃石	にぶい赤褐	破片資料(頸部)	上層
62	深鉢	(6.4)/-/	橋状把手。多条斜行沈線。内面はナデ。		良好	長石・雲母	暗褐/褐	破片資料(口縁部)	上層
63	土偶	現高3.1/長径5.4/短径4.6	血状の頸部。2条単位の刻目を3箇所・3箇所・の穿孔。細隆線とへら描沈線・円形刺突により顔を構成。		良好	角閃石・長石・雲母	橙	頭部90%残存。	覆土

S104出土土器観察表

挿図No.	器種	法量(器高/口径/底径) (cm)	文様と調整	原体	焼成	混和材	色調(外面/内面)	備	考
31-1	深鉢	(21.0)/-/	渦巻文・波状懸垂文・多条斜行沈線交互施文。内面はナデ。		良好	雲母・石英	灰褐/黒褐	破片資料(口縁部~胴部)	床直
2	深鉢	(7.8)/-/	懸垂文。多条斜行沈線交互施文。内面はナデ。		良好	角閃石	暗赤褐/黒褐	破片資料(胴部)	覆土
3	深鉢	(6.0)/-/	弧状隆線。多条斜行沈線交互施文。内面はナデ。		良好	角閃石	黒褐/褐	破片資料(胴部)	覆土
4	深鉢	(3.4)/-/	多条斜行沈線交互施文。内面はナデ。		良好	角閃石	にぶい黄橙/にぶい褐	破片資料(胴部)	下層
5	深鉢	(6.2)/-/	2条単位弧状隆線。斜行沈線。内面は横位ナデ。		良好	角閃石	橙	破片資料(胴部)	上層
6	深鉢	(5.1)/-/	腕骨文。矢羽状沈線。内面は横位ナデ。		良好	角閃石・雲母	赤褐/黒褐	破片資料(胴部)	下層
7	深鉢	(4.1)/-/	渦巻文。内面はナデ。		良好	角閃石	灰黄褐/にぶい黄橙	破片資料(胴部)	上層
8	深鉢	(8.0)/-/	4本単位簡描波状文。内面は横位ナデ。		良好		にぶい黄橙/明赤褐	破片資料(胴部)	上層
9	深鉢	(5.7)/-/	幅広沈線。細条線。内面は横位ナデ。	縄文LR	良好		灰黄褐/にぶい黄橙	破片資料(胴部)	上層
10	深鉢	(15.9)/-/	磨消縄文。内面は横位ナデ。	縄文LR	良好		にぶい褐/橙	破片資料(胴部)	上層
11	浅鉢	(5.8)/-/	口縁部外面肥厚。沈線・隆帯。内面はミガキ。		良好		灰褐	破片資料(口縁部)	上層

挿図No	器種	法量(器高/口径/底径) (cm)	文様と調整	原体	焼成	混和材	色調(外面/内面)	備考
12	浅鉢	(4.8)/—/—	口縁部内面肥厚。外面はミガキ、内面はナデ。口縁部に縦位沈線充満。		良好	角閃石	明褐	破片資料(口縁部)
13	浅鉢	(5.7)/—/—	弱い屈曲。列点文。区画文に縦位沈線充満。内面は横位ミガキ。		良好	角閃石	黒褐/灰褐	破片資料(胴部)
14	鉢	(11.3)/—/—	口縁部内面肥厚。隆帯。内面はナデ。		良好	長石・砂礫	明褐/にぶい黄橙	破片資料(口縁部)
15	深鉢	(3.8)/—/(6.8)	3条単位沈線垂下。内面は横位ナデ。	縄文RL	良好	角閃石	赤褐/にぶい黄褐	底部70%残存。

SI03出土土器観察表

挿図No	器種	法量(器高/口径/底径) (cm)	文様と調整	原体	焼成	混和材	色調(外面/内面)	備考
34-1	深鉢	(25.5)/—/(59.4)/—	口縁部内外面肥厚。3条単位隆線による腕骨状懸垂文?。II状区画。条線・3条単位横線。内面はナデ。		やや良	砂礫	にぶい赤褐/にぶい黄褐	口縁部~胴上半40%残存。上層
2	深鉢	(29.6)/—/(39.6)/—	口縁部内外面肥厚。波状・剣先状粘土紐貼付。条線。口縁部内面はミガキ、以下ナデ。		良好	角閃石	褐/にぶい赤褐	口縁部~胴上半35%残存。上層
3	深鉢	<20.0>/—/<23.2>/—/<6.4>	口縁部内面肥厚。波状・剣先状粘土紐貼付。条線。口縁部内面は横位ナデ。		良好	角閃石・雲母	黒褐/褐	口縁部~胴上半35%残存。上層
4	深鉢	(8.0)/—/(6.6)	蛇行懸垂文。細条線。内面は横位ナデ。		良好	角閃石・雲母	赤褐/灰褐	胴下部~底部60%残存。上層
5	深鉢	(6.8)/—/8.0	3条単位懸垂文。条線・3条単位横線。内面は横位ナデ。		良好	角閃石・雲母	赤褐/灰褐	胴下部~底部80%残存。上層
6	深鉢	(3.5)/—/(7.2)	半截状工具による密接縦位文。内面はナデ。		良好	角閃石・雲母	にぶい褐/黒褐	底部30%残存。覆土
7	深鉢	(2.2)/—/3.6	小形。条線。内面はナデ。		良好	角閃石・雲母	黒褐/灰黄褐	底部完存。覆土
8	深鉢	(10.0)/—/9.8	矢羽状沈線。内面はナデ。		やや良	砂礫	明黄褐/灰黄褐	胴下部~底部70%残存。床直
9	深鉢	(13.8)/—/—	2・3条単位懸垂文。条線・3条単位横線2段以上。内面は横位ナデ。		良好	角閃石	にぶい褐/黒褐	胴下半40%残存。上層
35-10	深鉢	(10.4)/—/—	2条単位懸垂文。条線。内面は横位ナデ。		良好	雲母	にぶい橙/にぶい褐	胴下部90%残存。上層
11	深鉢		口縁部内面肥厚。渦巻つなぎ弧文。区画内縦位沈線充満。縄文地に2・3条単位T字状沈線区画。そこから剣先状文を派生。内面は横位ナデ。	縄文LR	良好	角閃石・雲母	褐/黒褐	口縁部~胴部30%残存。上層
12	深鉢	(21.9)/—/—	隆帯。縄文地に3条単位縦位沈線垂下。そこから2条単位沈線による弧状文・渦巻文を派生。縦位蛇行沈線。内面はナデ。	縄文LR	良好	角閃石	暗褐/灰黄褐	頸部~胴部25%残存。上層
13	浅鉢	(12.5)/—/(37.0)/—	口縁部外内面肥厚。屈曲。内外面ともミガキ調整で口縁部内面は赤彩。		良好	砂礫	にぶい褐/赤	口縁部~胴部20%残存。上層
14	深鉢	(4.5)/—/8.5	内面は横位ナデ。	無節L	良好			
15	鉢	(4.6)/—/(13.2)/—	口縁部内面肥厚。内外面ともナデ。口唇部に一部赤彩痕。		良好	角閃石・長石	明赤褐	口縁部~胴部30%残存。下層
16	深鉢	(7.1)/—/(49.6)/—	内外面ともミガキ・赤彩。		良好		赤/黒褐	口縁部15%残存。上層
17	浅鉢	<36.7>/—/<63.2>/—/10.2	口縁部内面肥厚。胴上部で屈曲。槽凹区画文・藤手文。内外面ともミガキ調整で口縁部・胴下半内面および口縁部・胴上部外面は赤彩。	縄文LR	良好	角閃石・長石	明赤褐/赤	口縁部~胴上半20%・底部80%残存。下層・P6・7
36-18	深鉢	(2.7)/—/—	口縁部内面肥厚。斜行沈線。内面は横位ナデ。		良好	角閃石	明赤褐	破片資料(口縁部)
19	深鉢	(3.8)/—/—	斜行粘土紐貼付。内面は横位ナデ。		良好	角閃石	にぶい赤褐/黒褐	破片資料(口縁部)
20	深鉢	(12.0)/—/—	口縁部内面肥厚。2条単位波状沈線・斜行沈線。頸部に粘土紐貼付。内面は横位ナデ。		良好	長石・砂礫	にぶい黄橙/にぶい黄褐	破片資料(口縁部~頸部)

挿図No	器種	法量(器高/口径/底径) (cm)	文様と調整	原体	焼成	混和材	色調(外面/内面)	備	考
21	深鉢	(4.1) / - / -	横位沈線上に縦位沈線垂下。内面は横位ナデ。 口縁部内面肥厚。蛇行沈線・弧状沈線。条線。 内面はナデ。		良好	角閃石	にぶい褐/灰褐	破片資料(口縁部)	覆土
22	深鉢	(4.3) / - / -	交互刺突文。内面は横位ミガキ。 2条単位連弧文。内外面とも横位ナデ。		良好	雲母	黒褐/灰褐	破片資料(口縁部)	覆土
23	深鉢	(4.6) / - / -	口縁部内面肥厚。渦巻文。楕円区画内に斜行沈線充填。内面は横位ナデ。		良好	角閃石	にぶい赤褐/赤褐	破片資料(口縁部)	覆土
24	深鉢	(2.9) / - / -	口縁部内面肥厚。渦巻文。楕円区画内に斜行沈線充填。内面は横位ナデ。		良好	角閃石	黒褐	破片資料(口縁部)	上層
25	深鉢	(4.4) / - / -	渦巻状起。区画内に斜行細沈線充填。内面は横位ナデ。		良好	角閃石	明赤褐/にぶい赤褐	破片資料(口縁部)	覆土
26	深鉢	(5.2) / - / -	口縁部内外面肥厚。弧状隆線区画内に矢羽状沈線充填。内面は横位ナデ。		良好	角閃石	黒褐	破片資料(口縁部)	上層
27	深鉢	(6.4) / - / -	波状・弧状粘土紐貼付。間に縦位沈線。内面は横位ミガキ。		良好	雲母	橙	破片資料(口縁部)	覆土
28	深鉢	(5.5) / - / -	蛇行懸垂文。条線。内面は横位ミガキ。		良好	角閃石	灰褐	破片資料(頸部)	下層
29	深鉢	(6.2) / - / -	2・3条単位懸垂文。条線。内面は横位ナデ。		良好	角閃石	明赤褐	破片資料(胴部)30・34は同一個体。	上層
30	深鉢	(14.6) / - / -	2条単位懸垂文。条線。3条単位横線3段以上。内面は横位ナデ。		良好	雲母	赤褐/にぶい黄橙	破片資料(胴部)	上層
31	深鉢	(16.2) / - / -	凹形刺突を施した大柄渦巻隆線文。間に沈線充填。内面は横位ナデ。		良好	雲母	にぶい黄褐/にぶい黄橙	破片資料(胴部)	下層
32	深鉢	(6.9) / - / -	2条単位大柄渦巻隆線文。間に沈線充填。内面は横位ミガキ。		良好	角閃石	灰褐/黒褐	破片資料(胴部)	覆土
33	深鉢	(5.3) / - / -	蛇行沈線・条線。内面は横位ナデ。		良好	角閃石	明赤褐/黒褐	破片資料(胴部)30・34は同一個体。	上層
34	深鉢	(4.7) / - / -	3条単位沈線垂下。矢羽状細沈線。内面は横位ナデ。		良好	雲母・長石	灰褐/黒褐	破片資料(胴部)	覆土
35	深鉢	(3.7) / - / -	H状懸垂文。矢羽状沈線。内面は縦位ナデ。		良好	角閃石	黒褐/にぶい黄褐	破片資料(胴部)	上層
36	深鉢	(5.9) / - / -	蛇行沈線。内面は黄位ナデ。		良好	角閃石	明赤褐/黒褐	破片資料(胴部)	床直
37	深鉢	(3.5) / - / -	細文地に4条単位沈線垂下。内面はナデ。	無節L	良好	角閃石	にぶい褐/橙	破片資料(胴部)	覆土
38	深鉢	(9.4) / - / -	3条単位筒状工具による波状沈線。内外面とも横位ナデ。		良好	角閃石	赤褐/にぶい赤褐	破片資料(胴部)	上層
39	浅鉢?	(3.4) / - / -	横線・波状沈線。内外面とも横位ナデ。		良好	角閃石	にぶい黄橙	破片資料(口縁部)	覆土
40	鉢	(6.8) / - / -	沈線区画内に矢羽状沈線充填。内外面とも横位ナデ。		良好	角閃石	にぶい橙/黒褐	破片資料(頸部)	覆土
41	鉢	(5.8) / - / -	桶状把手。凹形刺突列・藤手文。胴部は2条単位の大柄渦巻隆線文。隆線文上は赤彩。内面はミガキ。	縄文RL	良好	角閃石・石英	にぶい黄橙	破片資料(胴部)	覆土
37-44	鉢	(13.0) / - / -	口縁部内面肥厚。沈線区画内に列点文充填。内面は横位ナデ。		良好	雲母	灰褐	破片資料(胴部)	上層
45	鉢?	(7.8) / - / -	内外面とも横位ミガキ。口唇部に赤彩。		良好		にぶい黄橙	破片資料(口縁部)	上層
46	浅鉢	(4.7) / - / -	内外面とも横位ミガキ・赤彩		良好		にぶい黄/褐灰	破片資料(口縁部)	上層
47	有孔罌付	(13.5) / - / -	内外面とも横位ミガキ・赤彩		良好		赤	破片資料(口縁部~胴上部)	床直
48	浅鉢?	(3.2) / - / -	内外面横位ナデ。		良好		明褐/にぶい黄橙	破片資料(口縁部)	覆土

挿図No	器種	法量(器高/口径/底径) (cm)	文様と調整	原	焼成	混和材	色調(外面/内面)	備	考
49	浅鉢	(5.1) / - / -	内面に穿孔途中痕。外面はナデ、内面は横位ミガキ。		良好		明赤褐 / にぶい赤褐	破片資料(口縁部)	上層
50	浅鉢	(9.6) / - / -	内外面とも横位ミガキ・赤彩		良好		にぶい黄橙 / 赤	破片資料(口縁部)	P2
51	浅鉢	(5.3) / - / -	口縁部内外面肥厚。内外面とも横位ミガキ。内面～口唇部赤彩。		良好		黒褐 / 褐	破片資料(口縁部)	上層
52	浅鉢	(3.5) / - / -	口縁部内外面肥厚。内外面とも横位ミガキ。		良好		にぶい赤褐 / 灰褐	破片資料(口縁部)	上層
53	浅鉢	(4.2) / - / -	口縁部内外面肥厚。内外面ともミガキ。		良好		にぶい褐 / 黒褐	破片資料(口縁部)	覆土
54	浅鉢	(4.0) / - / -	口縁部外面肥厚。内外面ともミガキ・赤彩。		良好		赤	破片資料(口縁部)	上層
55	浅鉢	(11.7) / - / -	内外面ともミガキ。内面～口縁部外面は赤彩。		良好		暗褐 / 赤褐	破片資料(口縁部)	覆土
56	浅鉢	(6.4) / - / -	口縁部外面肥厚。内外面ともミガキ・赤彩。		良好		橙 / 明赤褐	破片資料(口縁部)	下層
57	浅鉢	(6.4) / - / -	口縁部内外面肥厚。内外面とも横位ミガキ・赤彩。		良好		赤 / 灰褐	破片資料(口縁部)	覆土
58	浅鉢	(6.5) / - / -	内外面とも横位ミガキ。口唇部～口縁部外面は赤彩。		良好		赤 / にぶい赤褐	破片資料(口縁部)	覆土
59	浅鉢	(2.3) / - / -	口縁部内外面肥厚。口唇部に沈線文。外面は縦位ミガキ、内面はナデ。		良好		にぶい黄橙	破片資料(口縁部)	覆土
60	浅鉢	(4.1) / - / -	口縁部内外面肥厚。口唇部に沈線文。内外面とも横位ミガキ。		良好		赤 / 暗赤灰	破片資料(口縁部)	覆土
61	浅鉢	(3.0) / - / -	内外面とも横位ミガキ・赤彩。		良好		赤	破片資料(口縁部)	好跡
38-62	深鉢	(4.9) / - / -	小突起。渦巻文・斜行沈線。内面はナデ。		良好	角閃石	暗褐 / 褐	破片資料(突起部)	下層
63	深鉢	(5.2) / - / -	扇状突起。渦巻文・麻手文。内面はナデ。		良好		灰黄褐	破片資料(突起部)	覆土
64	深鉢	(9.6) / - / -	扇状突起。渦巻文・円形刺突文。内面はナデ。		良好	角閃石・雲母	暗褐 / にぶい褐	破片資料(突起部)	上層
65	深鉢	(8.1) / - / -	角状突起。渦巻文・刺先文。内外面ともナデ。		良好	雲母	褐 / 灰褐	破片資料(突起部)	上層

SI05出土土器観察表

挿図No	器種	法量(器高/口径/底径) (cm)	文様と調整	原	焼成	混和材	色調(外面/内面)	備	考
44-1	深鉢	<38.0> / 31.8 / <9.0>	4単位波状口縁。渦巻文・入組状区画文・円形区画文・円形刺突文。胴部は磨消縄文。内面は横位ミガキ。	縄文RL	良好	角閃石	橙 / にぶい黄橙	口縁部～胴部70%残存。	上層
2	深鉢	<30.5> / <25.8> / <7.0>	口縁部精円区画文。頸部2条の幅広沈線間に円形刺突列。胴部磨消縄文・II状区画文。磨消部に逆S字文・縦位沈線垂下。内面は横位ミガキ。	縄文RL	良好	角閃石・石英	にぶい黄橙 / 灰黄褐	口縁部～胴部60%残存。	上層
3	深鉢	40.4 / 30.7 / 8.3	口縁部幅広沈線による渦巻文・区画文。胴部磨消縄文・縄文地に蛇行幅広沈線。内面は横位ミガキ。	縄文RL	良好		灰黄 / 褐灰	70%残存。SI06と接関係。	上層
4	深鉢	(30.5) / 33.4 / -	4単位波状口縁。渦巻文・入組状区画文。胴部は磨消縄文・磨消部に麻手文・縄文地に蛇行沈線文。内面は横位ミガキ。	縄文RL	良好	角閃石	浅黄 / にぶい黄	口縁部～胴上半70%残存。SI06と接関係。	上層
5	深鉢	27.2 / 18.7 / <6.8>	一對の橋状把手と小突起。隆線による渦巻文・II状区画文。内面は横位ミガキ。	縄文RL(結節縄文)	良好	角閃石	にぶい黄橙 / 黒褐	60%残存。SI10と接関係。	上層
45-6	深鉢	25.0 / 17.6 / 6.0	波状区画文と逆U字文の組み合わせ。縄文地・磨消部ともにに麻手状文。内面は横位ミガキ。	縄文LR	良好	角閃石	橙 / にぶい褐	60%残存。SI05と接関係。口縁部外面に裸付着。	上層

挿図No	器種	法量(器高/口径/底径) (cm)	文様と調整	原体	焼成	混和材	色調(外面/内面)	備	考
7	深鉢	37.7/35.1/7.0	一对の橋状把手と小突起。幅広い沈線による渦巻文・入組状区画文。頸部に縦位沈線。胴部に渦巻文・円形・三角形区画文・円形刺突文・逆U字文・磨消部に針状沈線。内面は横位ミガキ。	縄文RL	良好	角閃石	明褐/黒褐	75%残存。SI06と接合関係。	上層
8	深鉢	(9.7)/-/—	磨消縄文。逆U字文。内面は横位ナデ。	縄文LR?	良好	角閃石	赤褐/黒褐	胴下部80%残存。	上層
9	深鉢	(10.2)/-/—	磨消縄文。麻手文。内面は縦位ミガキ。	縄文RL	良好	角閃石	赤褐/褐	胴部60%残存。	覆土
10	深鉢	(7.0)/-/<6.0>	磨消縄文。内面は横位ナデ。	縄文RL	良好	角閃石	にぶい褐/黒褐	胴下部~底部40%残存。	覆土
46-11	深鉢	(13.6)/-/7.7	磨消縄文。2条単位沈線による区画。内面は横位ナデ。	縄文RL	良好	角閃石・石英	浅黄/灰黄	胴下半~底部50%残存。	上層
12	深鉢	(17.5)/-/—	胴上半に2条単位沈線によるU字文。内面は横位ミガキ。	縄文RL	良好	角閃石・石英	にぶい黄橙/灰黄褐	胴部20%残存。	覆土
13	深鉢	(19.6)/35.0/—	口縁部内外面肥厚。圧痕隆帯文。渦巻状・剣先状隆線。内面はナデ。	無節L	やや良	雲母・砂礫	明赤褐/明黄褐	口縁部~胴上半15%残存。	入口
14	深鉢	<15.0>/15.6/<4.4>	口縁部内外面肥厚。圧痕隆帯文。渦巻状・剣先状隆線。内面はナデ。		良好	角閃石	褐/暗褐	口縁部~胴部60%残存。	上層
15	深鉢	36.9/<42.0>/<10.6>	4単位波状口縁。口縁部渦巻文・区画内重弧文と縦位沈線・勾玉状文。胴部は2条単位沈線によるU状・幅広い逆U字文区画で蛇行沈線とハの字文を充填。間に渦巻文。内面は横位ナデ。		良好	角閃石・石英	にぶい黄橙	口縁部~胴部65%残存。SK06と接合関係。	上層
16	深鉢	<15.9>/13.4/<6.2>	小形。口縁部無文帯。斜行沈線。内面はナデ。		良好	角閃石	明赤褐/橙	口縁部~胴部75%残存。	下層
17	深鉢	10.3/7.6/4.2	小形。内外面ともナデ。輪積痕を僅かに残す。		良好	長石	にぶい橙	口縁部内外面に焼付着。	上層
18	深鉢	(5.4)/-/8.6	内外面とも縦位ミガキ。		良好	角閃石	明赤褐/黒褐	60%残存。	上層
47-19	深鉢	(25.8)/-/—	渦巻文。3条・1条単位隆線垂下。内面は横位ミガキ。		良好	角閃石・雲母・石英	明赤褐/黒褐	底部65%残存。	覆土
20	深鉢	(20.0)/-/—	縦位沈線→ハの字文。内面は横位ミガキ。		良好	角閃石	赤褐/暗赤褐	胴部25%残存。SI06・SK06と接合関係。	上層
21	浅鉢	(11.1)/-/—	胴部で強い屈曲。渦巻文・区画内に斜行沈線充填。内面は横位ミガキ。		良好	角閃石・長石	浅黄橙	胴部40%残存。	上層
22	深鉢	(14.8)/-/—	波状口縁。口縁部内面肥厚。渦巻文・区画内縦位沈線。縦位沈線垂下・多条斜行沈線。内面はナデ。		良好	角閃石	暗褐	胴部50%残存。SI02・SI10に同一個体。	上層
23	深鉢	(6.0)/-/—	口縁部外面肥厚。渦巻文・縦位沈線・円形刺突列。内面は横位ナデ。		良好	角閃石	灰褐	破片資料(口縁部)	上層
24	深鉢	(4.3)/-/—	2条単位沈線間に縦位細沈線。円形刺突文。内面は横位ナデ。		良好		明黄褐	破片資料(口縁部)	上層
25	浅鉢	(9.7)/-/—	環状突起?。隆線区画文。内面は横位ミガキ。	縄文RL	良好	角閃石	灰褐/黒褐	破片資料(口縁部)25・29は同一個体。	覆土
26	深鉢	(9.3)/-/—	波状口縁。円形区画文・逆U字文。内面はナデ。	縄文LR	良好	角閃石・石英	にぶい褐/灰褐	破片資料(口縁部)	覆土
27	深鉢	(5.0)/-/—	口縁部横位区画。内面は横位ミガキ。	無節L	良好	角閃石	黒褐/にぶい黄橙	破片資料(口縁部)	覆土
48-28	深鉢	(8.1)/-/—	口縁部円形区画文。胴部磨消縄文。内面は横位ミガキ。	無節L	良好	角閃石	黒褐/にぶい褐	破片資料(口縁部)	覆土
29	浅鉢	(16.9)/-/—	隆帯。逆U字文。内面は横位ミガキ。	縄文RL	良好	角閃石	灰褐/黒褐	破片資料(頸部~胴部)25・29は同一個体。	覆土
30	深鉢	(3.6)/-/—	交互刺突文・斜行沈線文。内面は横位ミガキ。		良好	雲母・長石	灰褐/にぶい橙	破片資料(胴部)	覆土

挿図No	器種	法量(器高/口径/底径) (cm)	文 様 と 調 整	原 体	焼 成	混 和 材	色調(外面/内面)	備 考
31	深鉢	(5.8)/-/	2条単位隆線による渦巻文。隆線に沿って円形刺突列。矢羽状沈線。内面は横位ナデ。		良好	雲母・石英	黒褐/にぶい黄橙	破片資料(頸部) 上層
32	深鉢	(5.2)/-/	2条単位隆線垂下。縦位短沈線、2条単位横線。内面はナデ。		良好	角閃石	褐/黒褐	破片資料(胴部) 覆土
33	深鉢	(8.9)/-/	2条単位隆線による大柄渦巻文。間に斜行沈線。内面は横位ナデ。		良好	雲母・長石	明褐/橙	破片資料(胴部) 覆土
34	深鉢	(11.7)/-/	縦位沈線・多条斜行沈線。内面は縦位ミガキ。		良好	長石	にぶい褐/にぶい黄橙	破片資料(胴部) 上層
35	深鉢	(11.8)/-/	2条単位隆線垂下。多条斜行沈線交互施文。内面はナデ。		良好	角閃石・長石	橙	破片資料(胴部) 覆土
36	深鉢	(6.0)/-/	2条単位縦位沈線→多条斜行沈線。内面はナデ。		良好	砂礫	黄褐/黒褐	破片資料(胴部) 上層
37	深鉢	(7.4)/-/	渦巻文・斜行沈線。内面はナデ。		良好	角閃石	にぶい褐	破片資料(胴部) 覆土
38	深鉢	(6.6)/-/	細条線。内面は横位ナデ。		良好	角閃石	にぶい黄褐/灰黄褐	破片資料(胴部) 上層
39	深鉢	(10.4)/-/	斜行沈線・横位沈線。内面はナデ。		良好	長石・石英	明褐	破片資料(胴部) 覆土
40	深鉢	(7.6)/-/	横位沈線。内面は横位ナデ。		良好	角閃石	明褐/にぶい黄褐	破片資料(胴部) 覆土
41	深鉢	(6.0)/-/	2条単位弧状隆線。2条単位斜行細沈線。内面は横位ミガキ。		良好	角閃石	明黄褐/にぶい黄橙	破片資料(胴部)内面に煤付着。
42	深鉢	(4.7)/-/	弧状(波状?)細沈線。内面は横位ナデ。		良好	角閃石	明褐/にぶい黄褐	破片資料(胴部) 覆土
43	深鉢	(6.0)/-/	縦位沈線垂下。鱗状沈線文。内面は横位ミガキ。		良好	角閃石	にぶい黄橙/灰黄褐	破片資料(胴部) 覆土
44	深鉢	(7.0)/-/	4条単位沈線垂下。内面は横位ナデ。	縄文LR	良好		黒褐	破片資料(胴部) 上層
45	深鉢	(8.0)/-/	磨消縄文。逆U字文・藤手文。内面はナデ。	縄文LR	良好	角閃石	明黄褐/にぶい黄橙	破片資料(胴部) 覆土
46	深鉢	(9.0)/-/	磨消縄文。磨消部に縦位沈線。内面は縦位ミガキ。		良好	角閃石	にぶい黄橙/黒	破片資料(胴部) 覆土
47	浅鉢	(4.4)/-/	隆帯・隆帯区画文。外面は横位ミガキ・赤彩、内面は横位ナデ。	縄文LR?	良好	角閃石	にぶい黄橙/黒褐	破片資料(頸部) 覆土
49-48	深鉢	(10.3)/-/	隆帯。逆U字文。内面は横位ナデ。	縄文LR	良好	角閃石	にぶい褐/灰褐	破片資料(胴部) 覆土
49	深鉢	(10.0)/-/	隆帯。内面はナデ。	縄文LR	良好	角閃石	にぶい黄	破片資料(頸部) 上層
50	深鉢	(15.5)/-/	隆帯。精円区画文?・逆U字文。内面は横位ミガキ。	縄文RL	良好	角閃石・砂礫	にぶい黄橙/黒褐	破片資料(頸部~胴上半) 下層
51	深鉢	(24.4)/-/	内面~口縁部外面は横位ミガキ、胴部外面は縦位ミガキ。		良好	角閃石	灰黄褐/黒褐	破片資料(口縁部~胴部)SI06と接合関係。

SI06出土土器観察表

挿図No	器種	法量(器高/口径/底径) (cm)	文 様 と 調 整	原 体	焼 成	混 和 材	色調(外面/内面)	備 考
54-1	深鉢	30.2/22.6/8.6	受口状口縁。眼線状突起・有節沈線・渦巻文・腕骨文・斜行細沈線。半載工具による密接縦位文。内面は横位ミガキ。		良好		にぶい褐/にぶい黄橙	60%残存。枋倉類型。 床直
2	深鉢	<25.1>/19.2/9.8	受口状口縁。横線・双頭渦巻U字文。半載工具による密接縦位文。内面は横位ミガキ。		良好		にぶい黄/にぶい黄褐	口縁部~胴部完存。枋倉類型。 床直
3	深鉢	(31.3)/21.0/8.6	4単位の突起。渦巻つなぎ弧文・縦位沈線。頸部無文帯。H状懸垂文・矢羽状沈線。内面は横位ナデ。		良好	角閃石・雲母	にぶい褐	90%残存。 上層
4	深鉢	(22.2)/-/	口縁(頸)部無文帯。2条単位隆線による腕骨文。縦位沈線→5条単位横位沈線を3段。内面は横位ナデ。		良好	雲母・石英	にぶい橙/灰黄褐	頸部~胴部60%残存。 床直

挿型No.	器種	法量(器高/口径/底径) (cm)	文様と調整	原体	焼成	混和材	色調(外面/内面)	備考
5	深鉢	(18.8)/<24.2>/—	口縁部外面肥厚。波状口縁。櫛状刺突文。2条単位沈線垂下。矢羽状細沈線。内面は横位ナデ。	良好	良好	角閃石・雲母	暗褐/褐	口縁部～胴部45%残存。SK06焼土と接合関係。S103・SK06焼土と接合関係。床直下層
6	深鉢	(20.0)/<24.2>/—	口縁部外面肥厚。剣先状隆線垂下。状沈線を縦位・横位に重畳。内面は横位ナデ。	良好	良好	雲母・長石	暗赤褐/にぶい橙	口縁部～胴上半20%残存。SK06焼土と接合関係。上層
7	深鉢	(12.5)/—/—	腕骨状懸垂文。状沈線に短横線・沈線区画の刺突列を採み梯子状に描出。内面は横位ナデ。	良好	良好	角閃石・雲母・石英	にぶい赤褐/黒褐	胴部30%残存。下層
55-8	鉢	13.1/9.0/7.3	口縁部外面肥厚。C字状隆線。区画内縦位沈線充填。細条線。内面はナデ。	良好	良好	角閃石・石英	にぶい黄橙/橙	50%残存。上層
9	深鉢	<28.1>/18.2/<8.6>	縄文地に3条単位十字状沈線・蛇行沈線。口縁部外面に2条単位の弧状文を縦位に配す。内面はナデ。	やや良	やや良	砂礫	赤褐/褐	60%残存。上層
10	台付鉢	(7.7)/—/—<11.2>	脚端部内面肥厚。内面は横位ミガキ。	良好	良好	角閃石	黒/にぶい赤褐	脚台部25%残存。SK06焼土に同一個体。上層
11	深鉢	<59.3>/<36.0>/13.0	特大形。口縁部外面肥厚。口縁部外面に横位沈線。蛇行沈線垂下。内面は横位ナデ。	良好	良好	雲母・石英	赤褐/にぶい褐	口縁部～胴上半25%。胴下部～底部60%残存。SK06焼土と接合。床直下層
12	浅鉢	(8.5)/35.7/—	口縁部内面肥厚。内外面とも横位ミガキ。	良好	良好	角閃石	明赤褐/灰褐	口縁部～胴部15%残存。床直
13	浅鉢	(4.8)/—/11.4	外面は縦位ミガキ。内面は横位ミガキ。	良好	良好	角閃石	黒褐/赤	底部50%残存。覆土
14	浅鉢?	(6.0)/—/—	眼鑿状突起。渦巻文・円形刺突・縦位細沈線。内外面とも横位ミガキ。	良好	良好	雲母	灰黄褐/黒	破片資料(口縁部) 上層
15	深鉢	(6.9)/—/—	C字状・楕円形・円形区画文・内面は横位ナデ。	良好	良好	角閃石	黒褐	破片資料(口縁部) 上層
16	深鉢	(7.7)/—/—	口縁部内面肥厚。渦巻文・縦位沈線。頸部無文帯。内外面ともミガキ調整。	良好	良好	角閃石	褐/黒褐	破片資料(口縁部) 下層
17	深鉢	(5.3)/—/—	渦巻文。頸部無文帯。内面は横位ナデ。	良好	良好	長石	淡黄/灰黄褐	破片資料(口縁部) 下層
56-18	鉢?	(6.8)/—/—	口縁部外面肥厚。口唇部に上方からの刻目。外面はナデ。内面はミガキ。	良好	良好	角閃石	灰褐	破片資料(口縁部) 下層
19	深鉢	(8.1)/—/—	渦巻文。区画内に矢羽状沈線充填。内面は横位ナデ。	良好	良好	角閃石・石英	にぶい黄褐	破片資料(口縁部) 下層
20	深鉢	(3.8)/—/—	口縁部区画内に矢羽状沈線充填。内面は横位ミガキ。	良好	良好	角閃石	にぶい黄橙/黒	破片資料(口縁部) 上層
21	深鉢	(8.5)/—/—	口縁部内面肥厚。頸部渦巻文・多条斜行沈線。内面は横位ナデ。	良好	良好	角閃石	灰黄褐	破片資料(口縁部) 下層
22	深鉢	(24.3)/—/—	横位沈線・重弧文・矢羽状沈線・縦位沈線垂下。内面は横位ナデ。	良好	良好	角閃石	にぶい黄橙/灰黄褐	破片資料(口縁部～胴部)S105に同一個体。下層
23	深鉢	(8.9)/—/—	腕骨状懸垂文。矢羽状沈線。2条単位横線。内面は横位ナデ。	良好	良好	角閃石	黒褐/橙	破片資料(口縁部) 下層
24	深鉢	(10.0)/—/—	U字状隆線区画内に縦位沈線充填。内面はナデ。	良好	良好	雲母	明赤褐/灰黄褐	破片資料(胴下部)内面に煤付着。上層
25	深鉢	(9.7)/—/—	逆U字状隆線区画内に縦位沈線充填。内面は横位ナデ。	良好	良好	雲母・長石	黒褐/にぶい黄褐	破片資料(胴部) 下層
26	鉢	(3.4)/—/—	弧状隆線。内面は横位ミガキ。	良好	良好	角閃石	にぶい赤褐/黒褐	破片資料(胴部) 下層
27	浅鉢	(4.2)/—/—	内外面とも横位ミガキ・赤彩。	良好	良好	角閃石	赤	破片資料(口縁部) 下層
28	浅鉢	(3.4)/—/—	内外面とも横位ミガキ。内面～口唇部赤彩。	良好	良好	角閃石・雲母	灰黄褐/赤	破片資料(口縁部) 下層
29	浅鉢	(6.0)/—/—	口縁部内面肥厚。内外面とも横位ミガキ。口唇部～外面上位赤彩。	良好	良好	長石	にぶい黄橙/黒	破片資料(口縁部) 上層

挿図No	器種	法量(器高/口径/底径) (cm)	文様と調整	原	体	焼成	混和材	色調(外面/内面)	備	考
30	浅鉢	(7.3)/-/	口縁部内面肥厚。口唇部に沈線文。内外面とも横位ミガキ・赤彩。		良好	角閃石	赤	破片資料(口縁部)		下層
31	浅鉢	(4.9)/-/	横位沈線。内外面とも横位ミガキ。		良好	角閃石	にぶい黄橙/灰黄褐	破片資料(口縁部)		下層
32	浅鉢	(4.8)/-/	口縁部外面肥厚。内外面とも横位ミガキ。		良好	角閃石・長石	明褐	破片資料(口縁部)		上層
33	浅鉢	(4.0)/-/	稍凹区画・縦位沈線。内外面とも横位ミガキ。口縁部内面・外面は赤彩。		良好	角閃石	赤/にぶい黄橙	破片資料(頸部)		下層
34	浅鉢	(7.0)/-/	隆線・区画文。内面は横位ミガキ。	縄文RL	良好	角閃石・小石	暗赤褐/黒褐	破片資料(頸部)		上層
35	深鉢	(9.7)/-/	桶状突起。麻手文。内面はナデ。		良好	角閃石	黒褐	破片資料(突起部)		上層
36	深鉢	(3.7)/-/	山形突起。米字状粘土紐貼付。刻目。内面はナデ。		良好	角閃石	褐	破片資料(突起部)		上層

SI07出土遺物観察表

挿図No	器種	法量(器高/口径/底径) (cm)	文様と調整	原	体	焼成	混和材	色調(外面/内面)	備	考
59-1	深鉢	(7.9)/-/	隆帯。稍凹区画文。内面は横位ナデ。	縄文RL	やや良		石英	暗灰/灰黄褐	破片資料(口縁部)	床直
2	深鉢	(3.9)/-/	口縁部内面肥厚。沈線区画に細条線充填。内面は横位ナデ。		良好	良好	雲母・石英	暗褐/褐	破片資料(口縁部)	覆土
3	深鉢	(2.7)/-/	隆帯。刺突文・斜行沈線。内面は横位ナデ。		良好	良好		明赤褐	破片資料(口縁部)	上層
4	浅鉢	(4.2)/-/	外面は横位ミガキ、内面は横位ナデ。		良好	良好		黒褐	破片資料(口縁部)	上層
5	深鉢	(5.0)/-/	縄文地に沈線文。内面はナデ。	縄文RL	良好	良好		灰褐	破片資料(胴部)	上層
6	深鉢	(7.0)/-/	内面は横位ナデ。	縄文LR	良好	良好	角閃石・雲母	にぶい黄橙/橙	破片資料(胴部)	覆土
7	深鉢	(13.7)/-/	微隆起文。内面はナデ。		良好	良好	角閃石	赤褐/にぶい黄橙	破片資料(胴部)	下層
8	鉢	(18.6)/-/	橋状把手。区画文に短沈線充填。幅広沈線。内面はナデ。		良好	良好	角閃石	にぶい黄褐/にぶい黄橙	破片資料(胴部)	床直
9	深鉢	(6.1)/-/	腕骨文?。条線上に3条単位の横線文。内面は横位ナデ。		良好	良好	角閃石	にぶい黄褐	破片資料(胴部)	上層
10	深鉢	(5.2)/-/	2条単位隆線。条線。内面は横位ナデ。		良好	良好	角閃石	にぶい黄橙/灰黄褐	破片資料(胴部)	覆土
11	深鉢	(6.0)/-/	2条単位有刻隆線。多条沈線。内面は横位ナデ。		良好	良好	角閃石	にぶい黄橙/灰黄褐	破片資料(胴部)	覆土
12	深鉢	(3.0)/-/	蛇行沈線・斜行沈線。内面はナデ。		やや良	やや良	角閃石・石英	にぶい橙/黒褐	破片資料(胴部)	覆土
13	浅鉢	(4.1)/-/ < 8.4	内外面横位ミガキ。内面は赤彩。		良好	良好		にぶい黄橙/黒褐	底部40%残存。	入口
14	土偶?	現高2.7/幅3.0/厚1.8	へラ描横線・弧線・麻手文・赤彩。		良好	良好		灰褐/赤褐	肩胸部	覆土

SI08出土土器観察表

挿図No	器種	法量(器高/口径/底径) (cm)	文様と調整	原	体	焼成	混和材	色調(外面/内面)	備	考
62-1	深鉢	(8.1)/-/	磨消縄文。内面は横位ナデ。	縄文LR	やや良	やや良		にぶい黄橙	胴部70%残存。	刃跡
2	深鉢	(7.5)/-/ < 6.6	2条単位弧状隆線。内面はナデ。底面に網代痕残す。	縄文LR	良好	良好	小石	にぶい褐	胴下部~底部90%残存。	下層
3	有孔鏝付	15.7/<10.6/>6.3	口縁部~胴上半外面は横位ミガキ・赤彩、胴下半は縦位ミガキ、内面は横位ミガキ・赤彩。		良好	良好	角閃石	赤	45%残存。	下層
4	鉢	(10.8)/-/ < 6.0	磨消縄文。幅広逆U字文。内面は横位ナデ。	縄文LR	良好	良好		にぶい黄褐/にぶい褐	25%残存。	覆土
5	深鉢	(4.5)/-/	口縁部内面肥厚。内面は横位ナデ。	縄文RL	良好	良好	角閃石・長石	明褐	破片資料(口縁部)	下層

挿図No.	器種	法量(器高/口径/底径) (cm)	文様と調整	原体	焼成	混和材	色調(外面/内面)	備	考
6	深鉢	(6.2)/-/	口縁部内外面肥厚。沈線。内面は横位ナデ。		良好	角閃石・長石	黒褐/橙	破片資料(口縁部)	上層
7	深鉢	(4.2)/-/	口縁部内面肥厚。沈線。内面はナデ。		良好	角閃石	黒褐/明黄褐	破片資料(口縁部)	上層
8	深鉢	(5.2)/-/	口縁部外面肥厚。矢羽状沈線。内面はナデ。		良好		灰褐/明黄褐	破片資料(口縁部)	上層
9	深鉢	(5.9)/-/	磨消縄文。内面は縦位ミガキ。	縄文LR	良好	長石	暗褐/黒褐	破片資料(胴部)	覆土
10	深鉢	(2.5)/-/	粘土紐貼付。内面はナデ。	縄文LR	良好	雲母	黒/褐	破片資料(胴部)	覆土
11	深鉢	(11.2)/-/	磨消縄文。U字文。内面は横位ミガキ。	縄文LR	良好	角閃石	明黄褐	破片資料(胴部)	下層
12	深鉢	(4.3)/-/	2条単位隆線。内面は横位ナデ。	縄文RL	良好	角閃石	にぶい赤褐/灰褐	破片資料(胴部)	覆土
13	深鉢	(6.7)/-/	内面は横位ミガキ。	縄文LR	良好	角閃石・長石	にぶい黄橙	破片資料(口縁部)	上層
14	深鉢	(3.9)/-/	口縁部内面肥厚。縦位沈線。内面は横位ナデ。		良好		明黄褐	破片資料(口縁部)	覆土
15	深鉢	(2.7)/-/	口縁部内面肥厚。斜行沈線。内面は横位ミガキ。		良好		明赤褐	破片資料(口縁部)	覆土
16	深鉢	(4.9)/-/	2条単位隆線。斜行沈線。内面は横位ナデ。		良好	長石・雲母	黒褐/明褐	破片資料(頸部)	覆土
17	深鉢	(3.7)/-/	渦巻文?。内面はナデ。		良好	角閃石・長石	にぶい黄褐/明黄褐	破片資料(頸部)	上層
18	深鉢	(3.6)/-/	隆帯。刺突列・条線。内面はナデ。		良好	雲母・石英	赤褐	破片資料(頸部)	上層
19	深鉢	(5.8)/-/	楕円区面に矢羽状沈線充填。斜行沈線。内面は横位ナデ。		良好	雲母	黒褐/にぶい黄橙	破片資料(頸部)	覆土
20	深鉢	(5.5)/-/	楕円区画?に矢羽状沈線充填。斜行沈線。内面は横位ナデ。		良好	角閃石	暗褐	破片資料(頸部)	上層
21	深鉢	(5.0)/-/	大柄渦巻文間に沈線充填。内面は横位ナデ。		良好	角閃石	明黄褐/にぶい黄橙	破片資料(胴部)	上層
22	深鉢	(5.5)/-/	渦巻文。斜行沈線。内面は横位ミガキ。		良好		灰褐/にぶい褐	破片資料(胴部)	上層
23	深鉢	(3.5)/-/	隆帯。縦位沈線。内面はナデ。		良好	角閃石・雲母	黒褐/明褐	破片資料(胴部)	覆土
24	深鉢	(3.2)/-/	波状隆線。斜行沈線。内面はナデ。		良好		黒褐/にぶい黄褐	破片資料(胴部)	覆土
25	深鉢	(4.4)/-/	隆線。多条斜行沈線交互施文。内面は横位ナデ。		良好	角閃石・石英	灰褐/にぶい褐	破片資料(胴下部)	覆土
26	深鉢	(5.1)/-/	縦位沈線・蕨手文・斜行沈線。内面は横位ナデ。		良好	角閃石	にぶい褐/灰褐	破片資料(胴部)	覆土
27	深鉢	(5.4)/-/	矢羽状沈線。内面はナデ。		良好	角閃石・雲母	にぶい褐/浅黄	破片資料(胴部)	上層
28	浅鉢	(5.5)/-/	内外面横位ミガキ。		良好	角閃石	赤褐	破片資料(口縁部)	覆土
29	浅鉢	(4.1)/-/	口縁部内面肥厚。内外面横位ミガキ。		良好	角閃石	にぶい褐/黒	破片資料(口縁部)	下層

SI09出土土器観察表

挿図No.	器種	法量(器高/口径/底径) (cm)	文様と調整	原体	焼成	混和材	色調(外面/内面)	備	考
66-1	深鉢	46.6/31.3/8.5	大形。下膨れのプロボーション。4単位波状口縁。隆帯。磨消縄文。抱球文・逆U字文。内面はナデ。	縄文LR	やや良	砂礫	にぶい黄褐/灰黄褐	60%残存。	上層
2	深鉢	<27.5>/14.8/7.2	突起。細沈線。波状区画文・逆U字文。内面は横位ナデ。	縄文LR	良好	角閃石	褐	80%残存。外面に煤付着。	上層
3	深鉢	<16.0>/12.0/<8.0>	渦巻きつなぎ弧文。縦位沈線充填。頸部無文隆帯。縄文地に2条単位横線。蛇行沈線垂下。内面は口縁部横位ミガキ、胴部縦位ミガキ。	縄文LR	良好		にぶい黄褐/暗褐	口縁部～胴部75%残存。	覆土
4	深鉢	35.4/24.1/7.4	4単位波状口縁。楕円区画文。磨消縄文。磨消部に蕨手文・縦位沈線。内面は丁寧ミガキ。	縄文RL	良好		暗赤褐	90%残存。	埋壘

挿図No.	器種	法量(器高/口径/底径) (cm)	文様と調整	原体	焼成	混和材	色調(外面/内面)	備	考
5	鉢	(8.0) / (32.3) / —	内外面横位ナデ調整。 幅広沈線・微隆起線。内面は横位ミガキ。	縄文LR	良好	角閃石	にぶい黄褐/褐灰 暗赤褐/にぶい赤褐	口縁部45%残存。外面に煤付着。	覆土 上層
6	深鉢	(9.2) / — / —	幅広沈線・微隆起線。内面は横位ミガキ。	縄文LR	良好	角閃石	にぶい黄/暗灰褐	破片資料(口縁部)外面に煤付着。	覆土 上層
7	深鉢	(7.1) / — / —	楕円区面文。内面は横位ミガキ。	縄文LR	良好	角閃石	にぶい黄/にぶい黄褐	破片資料(口縁部)	覆土 上層
8	深鉢	(4.6) / — / —	幅広沈線。内面は横位ミガキ。	無節L	良好	角閃石	灰黄/にぶい黄褐	破片資料(口縁部)	覆土 上層
9	深鉢	(5.6) / — / —	内面は横位ナデ。		良好	角閃石	黒褐	破片資料(口縁部)外面に煤付着。	覆土 上層
10	深鉢	(6.3) / — / —	波状口縁。渦巻文。内面はナデ。		良好	角閃石	灰褐/明赤褐	破片資料(口縁部)外面に煤付着。	覆土 下層
67-11	深鉢	(19.4) / — / —	隆帯・楕円区面文。口縁部内面は横位ミガキ、以下横位ナデ。	縄文RL	不良	角閃石・長石	浅黄/黄灰	破片資料(口縁部)	上層
12	深鉢	(4.3) / — / —	口縁部内面肥厚。梯子状文。内面は横位ナデ。		良好	角閃石・長石	にぶい橙/灰褐	破片資料(口縁部)	覆土
13	深鉢	(3.4) / — / —	口縁部内面肥厚。内外面は横位ナデ。		良好	角閃石	黒褐	破片資料(口縁部)	覆土
14	鉢	(7.2) / — / —	内外面横位ナデ調整。		やや良	角閃石・長石	明褐/にぶい黄橙	破片資料(口縁部)	炉跡 上層
15	深鉢	(4.0) / — / —	微隆起線文。内面は横位ミガキ。		良好	角閃石・雲母	褐	破片資料(口縁部)	覆土
16	浅鉢	(6.7) / — / —	沈線。内外面横位ミガキ。		良好	角閃石	にぶい黄橙	破片資料(口縁部)	覆土
17	深鉢	(5.7) / — / —	磨消縄文。内面はナデ。	縄文RL	良好	角閃石	明黄褐/灰黄褐	破片資料(胴部)	覆土
18	深鉢	(8.0) / — / —	磨消縄文。内面は横位ミガキ。	縄文LR	良好	角閃石	黒褐	破片資料(胴部)	覆土
19	深鉢	(6.6) / — / —	微隆起線弧状文。内面は横位ミガキ。	縄文RL	良好	角閃石	明赤褐/灰褐	破片資料(胴部)	覆土
20	深鉢	(4.7) / — / —	縄文地に縦位蛇行沈線。内面はナデ。	縄文RL?	良好	角閃石・長石	にぶい黄褐	破片資料(胴部)	上層
21	深鉢	(3.5) / — / —	懸垂文。条線・2本単位横線。内面はナデ。		良好	長石	明褐/にぶい黄	破片資料(胴部)	覆土
22	深鉢	(9.2) / — / —	内面は横位ミガキ。	植物茎?	良好	長石	にぶい黄橙	破片資料(胴部)	覆土
23	深鉢	(20.6) / — / —	懸垂文。内面は縦位ミガキ。	縄文RL	良好	角閃石	明黄褐/にぶい褐	破片資料(胴部)	下層
24	深鉢	(6.0) / — / —	懸垂文。多条斜行沈線。内面はナデ。		良好	角閃石・雲母	褐/暗灰黄	破片資料(胴部)	下層
25	深鉢	(5.9) / — / —	3本単位懸垂文。斜行細沈線。内面はナデ。		良好	角閃石・石英	赤褐/褐	破片資料(胴部)	覆土
26	深鉢	(7.1) / — / —	大柄渦巻文間に沈線充填。内面は横位ナデ。		良好	角閃石・石英	明褐	破片資料(胴部)	覆土
27	深鉢	(3.9) / — / —	渦巻文。ナデ調整。		良好	角閃石	黒褐/明褐	破片資料(突起部)	覆土
28	深鉢	(13.8) / — / —	ラッパ状突起・渦巻文。腕骨状懸垂文。区画内縦位沈線充填。細条線上に2本単位横線。内面はナデ。		良好	角閃石	暗褐/にぶい褐	破片資料(口縁部)	覆土
29	深鉢	(5.5) / — / —	山形突起。内外面渦巻文。ナデ調整。		良好	長石	にぶい黄褐/にぶい褐	破片資料(突起部)	上層
30	深鉢	(6.6) / — / —	棒(ラッパ)状突起。内面はナデ。	縄文LR	良好	長石	黄褐/にぶい黄褐	破片資料(突起部)	覆土

SI10出土土器観察表

挿図No.	器種	法量(器高/口径/底径) (cm)	文様と調整	原体	焼成	混和材	色調(外面/内面)	備	考
72-1	深鉢	(5.0) / (5.4) / —	円形・楕円区面文・腕手文。内面は横位ナデ。	縄文RL	良好	角閃石・雲母	黒褐	口縁部25%残存。	上層
2	深鉢	(8.6) / — / —	口縁部内外面渦巻文。逆U字状隆帯。矢羽状沈線。内面は横位ミガキ。		良好	角閃石・石英	黒褐/暗褐	口縁部～胴部25%残存。	上層
3	深鉢	(9.7) / (36.8) / —	渦巻文・入組文・円形刺突文。内面は横位ミガキ。	縄文RL	良好		灰黄褐/にぶい黄褐	口縁部35%残存。	下層
4	深鉢	(12.9) / (12.0) / —	渦巻文。隆帯区画内に矢羽状沈線充填。内面は横位ナデ。		良好	角閃石	にぶい黄褐/黒褐	口縁部～胴部20%残存。	下層
5	深鉢	(11.8) / (16.8) / —	口縁部外面肥厚。渦巻文・蛇行隆線。多条斜行沈線。内面は横位ナデ。		良好	角閃石	にぶい黄褐	口縁部～胴部15%残存。	下層

挿図No.	図説	器種	法量(器高/口径/底径) (cm)	文様と調整	原体	焼成	混和材	色調(外面/内面)	備	考
6	23	深鉢	(13.9)/-/—	口縁部(頸部)無文帯。渦巻文・多条斜行沈線。内面は横位ナデ。		良好		明赤褐/にぶい褐	頸部～胴部30%残存。	覆土
7		深鉢	(8.4)/-/<4.2>	小形。渦巻文・蛇行隆線。矢羽状沈線。内面はナデ。		良好		にぶい褐/黒褐	胴部30%残存。	覆土
8	23	深鉢	<11.5>/<9.8>/<4.8>	小形。弧状沈線。内面は横位ナデ。		良好	角閃石	にぶい褐	口縁～胴部15%残存。	上層
9		深鉢	14.5/13.6/7.4	横位細沈線。焼成後の穿孔途巾痕。内外面ともナデ。		良好	角閃石	にぶい黄橙/にぶい橙	70%残存。S104と接合関係。	覆土
10		深鉢	(8.2)/-/6.8	懸垂文。矢羽状沈線。内面はナデ。		良好	角閃石	赤褐/黒褐	胴下部～底部80%残存。	下層
11		深鉢	(6.7)/-/7.2	縄文地に2条単位縦位沈線垂下。内面はナデ。		良好	角閃石	にぶい赤褐/灰褐	胴下部～底部40%残存。	覆土
12		浅鉢	(2.7)/-/6.5	内外面ともミガキ。	縄文LR	良好	角閃石・石英	にぶい黄橙	底部60%残存。	覆土
13	23	浅鉢	10.2/19.2/6.3	片面把手。横位沈線。内面は横位ミガキ。		良好		灰黄褐	60%残存。	上層
14		浅鉢	(17.8)/<42.6>/—	屈曲。焼成後穿孔。渦巻文・藤手文・斜行沈線。内外面とも横位ミガキ。		良好	長石	にぶい黄橙	口縁部50%、胴部25%残存。	覆土
73-15	24	浅鉢	<30.0>/52.0/<12.0>	渦巻文・藤手文。楕円区画内に縦位沈線充填。内面は横位ミガキ。		良好		褐/黒褐	口縁部～胴部50%残存。	床直
16	24	有孔罎付	<27.9>/32.2/<9.2>	磨消縄文。大柄渦巻沈線文・藤手文。内外面とも丁寧なミガキ調整。内面および外面の施文部外は赤彩。	縄文LR	良好		赤褐/赤	口縁部～胴部85%残存。外面に黒斑。	床直
74-17		深鉢	(4.5)/-/—	口縁部内面肥厚。隆帯。内面は横位ナデ。	縄文LR	良好	角閃石	灰褐	破片資料(口縁部)	覆土
18		深鉢	(9.2)/-/—	磨消縄文。逆U字状幅広沈線垂下。内面は横位ミガキ。	復節	良好	角閃石	にぶい黄褐	破片資料(口縁部)	覆土
19		深鉢	(9.0)/-/—	縄文地に横位沈線・円形刺突列・蛇行沈線垂下。内面は横位ナデ。	縄文LR	良好	角閃石・雲母・石英	にぶい褐/橙	破片資料(頸部)	上層
20		深鉢	(7.6)/-/—	U字・逆U字状隆線。内面は横位ナデ。	縄文RL	良好	角閃石	にぶい褐/にぶい黄褐	破片資料(胴部)	覆土
21		深鉢	(11.4)/-/—	磨消縄文。内面はナデ。	縄文RL	良好	角閃石	にぶい赤褐/灰黄褐	破片資料(胴部)	覆土
22		深鉢	(8.2)/-/—	縄文地に2条単位縦位沈線文。内面はナデ。	縄文LR	良好	長石	明褐/にぶい黄褐	破片資料(胴部)	覆土
23		深鉢	(10.1)/-/—	隆帯。磨消縄文。内面はナデ。	無節R	良好	角閃石	黒褐/にぶい黄褐	破片資料(頸部)	覆土
24		深鉢	(3.5)/-/—	口縁部内面肥厚。渦巻文・縦位沈線。内面は横位ナデ。		良好	角閃石・石英	にぶい黄橙	破片資料(口縁部)	覆土
25		深鉢	(3.5)/-/—	口縁部内面肥厚。斜行沈線。内面は横位ナデ。		良好	角閃石	にぶい褐/灰褐	破片資料(口縁部)	下層
26		深鉢	(10.3)/-/—	口縁部内面肥厚。渦巻文・縦位沈線。多条斜行沈線。内面は横位ナデ。		良好	角閃石	灰褐	破片資料(口縁部)	覆土
27		深鉢	(4.8)/-/—	横位沈線・縦位沈線。内面は横位ミガキ。		良好	長石	にぶい黄橙/灰黄褐	破片資料(口縁部)	覆土
28		深鉢	(9.0)/-/—	口縁部内面肥厚。楕円区画文・斜行沈線・横位沈線。内面は横位ナデ。		良好	角閃石	にぶい黄橙	破片資料(口縁部)	覆土
29		深鉢	(3.2)/-/—	口縁部内面肥厚。横位隆線・交互刺突文。内面は横位ナデ。		良好	雲母	黒褐/灰褐	破片資料(口縁部)	覆土
30		深鉢	(5.1)/-/—	口縁部内面肥厚。隆線区画・交互刺突文・縦位短沈線。内面は横位ナデ。		良好	雲母	黒褐/灰褐	破片資料(口縁部)	覆土
31		深鉢	(7.2)/-/—	口縁部内面肥厚。隆線区画・交互刺突文・縦位短沈線。内面は横位ナデ。		良好	雲母	黒褐/灰褐	破片資料(口縁部)	下層
32		深鉢	(5.9)/-/—	波状口縁。口縁部内面肥厚。交互刺突文・斜行沈線。内面は横位ナデ。		良好	雲母・石英	灰褐/にぶい褐	破片資料(口縁部)32・33は同一個体。	覆土
33		深鉢	(4.9)/-/—	口縁部内面肥厚。交互刺突文・斜行沈線。内面は横位ナデ。		良好	雲母・石英	灰褐/にぶい褐	破片資料(口縁部)32・33は同一個体。	覆土

挿入No.	器種	法量(器高/口径/底径) (cm)	文様と調整	原体	焼成	混和材	色調(外面/内面)	備	考
34	深鉢	(7.2)/-/	波状口縁。口縁部内面肥厚。渦巻文・交互刺突文。有刻隆線垂下。縦位沈線。内面は横位ナデ。		良好	角閃石・石英	灰褐	破片資料(口縁部)	覆土
35	深鉢	(5.6)/-/	口縁部内面肥厚。横位隆線・交互刺突文・斜行沈線。内面は横位ナデ。		良好	角閃石・雲母	黒褐	破片資料(口縁部)	覆土
36	深鉢	(7.5)/-/	横位隆帯。隆線区面に縦位沈線赤塊。内外面とも横位ミガキ。		良好	角閃石	明褐/橙	破片資料(口縁部)	下層
37	深鉢	(6.3)/-/	2条単位縦位沈線垂下。櫛描蛇行沈線。内面は横位ミガキ。		良好	角閃石	にぶい黄褐/黒褐	破片資料(口縁部)	覆土
38	深鉢	(4.2)/-/	口縁部内外面肥厚。刺突列。内面は横位ナデ。		良好	角閃石・雲母・長石	にぶい橙/灰黄褐	破片資料(口縁部)	上層
39	浅鉢	(5.4)/-/	横位隆帯。縦位沈線。内外面とも横位ナデ。口縁部内外面に赤彩。		良好	角閃石・雲母	赤/にぶい黄橙	破片資料(頸部)	覆土
40	深鉢	(4.8)/-/	横位隆線。矢羽状沈線。内面はナデ。		良好	角閃石・雲母	にぶい褐/橙	破片資料(頸部)	上層
75-41	深鉢	(11.9)/-/	口縁部(頸部)無文帯。多条斜行沈線。内外面とも横位ナデ。		良好	角閃石	褐/にぶい褐	破片資料(頸部)	覆土
42	深鉢	(7.0)/-/	渦巻つなぎ弧文?。斜行沈線。内面はナデ。		良好	角閃石・長石・石英	にぶい褐/黒褐	破片資料(頸部)	上層
43	深鉢	(4.3)/-/	斜位隆線。交互刺突文。内面は横位ナデ。		良好	角閃石	黒褐/明黄褐	破片資料(頸部)	覆土
44	深鉢	(4.8)/-/	横位隆線間に交互刺突文。内面はナデ。		良好	雲母	灰褐/黒褐	破片資料(胴部)	覆土
45	深鉢	(4.8)/-/	隆線区画・交互刺突文。内面は横位ナデ。		良好	角閃石・雲母・長石	褐/にぶい褐	破片資料(胴部)	覆土
46	深鉢	(4.1)/-/	隆帯。有刻隆線垂下。斜行沈線。内面はナデ。有刻隆線垂下。条線・2条単位の横線2段以上。内面はナデ。		良好	角閃石・雲母	褐/にぶい橙	破片資料(頸部)46・47は同一個体。覆土	覆土
47	深鉢	(6.6)/-/	条線上に2条単位横線。内面は横位ナデ。		良好	角閃石・雲母	褐/にぶい橙	破片資料(胴部)46・47は同一個体。覆土	覆土
48	深鉢	(5.3)/-/	縦位隆線。鱗状沈線。内面はナデ。		良好	角閃石	明褐/にぶい黄褐	破片資料(胴部)	覆土
49	深鉢	(4.3)/-/	縦位隆線。鱗状沈線。内面はナデ。		良好	角閃石	にぶい黄褐	破片資料(頸部)	覆土
50	深鉢	(7.5)/-/	槽凹区画・斜行沈線。2条単位沈線垂下。多条斜行沈線。内面はミガキ。		良好	角閃石	にぶい褐/黒褐	破片資料(頸部)	覆土
51	深鉢	(6.5)/-/	隆線垂下。多条斜行沈線交互施文。内面は横位ナデ。		良好	雲母	褐/にぶい褐	破片資料(胴部)	下層
52	深鉢	(6.1)/-/	鱗状沈線。内面はナデ。		良好		破片資料(胴部)	上層	
53	深鉢	(5.0)/-/	隆線・斜行細沈線。内面は横位ナデ。		良好	角閃石・雲母	灰褐/にぶい黄橙	破片資料(胴部)	上層
54	深鉢	(10.2)/-/	2条単位渦巻状隆線。多条斜行細沈線。内面は横位ナデ。		良好		褐/黒褐	破片資料(胴部)	覆土
55	深鉢	(6.4)/-/	大柄渦巻隆線文。斜行沈線。内面はナデ。		良好	角閃石	にぶい褐/黒褐	破片資料(胴部)	覆土
56	深鉢	(14.4)/-/	渦巻状隆線。多条斜行細沈線交互施文。内面は横位ナデ。		良好	角閃石・雲母	灰褐/にぶい黄橙	破片資料(胴部)	上層
57	深鉢	(16.2)/-/	2条単位大柄渦巻隆線文。斜行沈線。内面はナデ。		良好	角閃石・長石	にぶい黄橙	破片資料(胴部)	下層
58	深鉢	(5.1)/-/	隆線。沈線文。内面はナデ。		良好	小石	橙/灰褐	破片資料(胴部)	覆土
59	深鉢	(8.3)/-/	沈線文。内面は縦位ミガキ。		良好	角閃石	にぶい赤褐/黒褐	破片資料(胴部)内面に煤付着。	覆土
60	浅鉢	(5.6)/-/	口縁部外面肥厚。内外面とも横位ミガキ・赤彩。	縄文RL	良好	長石	にぶい黄橙	破片資料(口縁部)	上層
61	浅鉢	(6.5)/-/	内外面とも横位ミガキ。		良好	角閃石	灰黄褐	破片資料(口縁部)	下層
62	鉢?	(7.8)/-/	内外面とも横位ナデ。		良好	角閃石・長石	橙/にぶい橙	破片資料(口縁部)	覆土
76-63	浅鉢	(20.8)/-/	内面~口縁部外面は横位ミガキ・赤彩。胴部外面は縦位ミガキ。		良好	角閃石・長石	にぶい赤褐/橙	破片資料(口縁部~胴部)S108と接合関係。	覆土

挿図No	器種	法量(器高/口径/底径) (cm)	文様と調整	原 体	焼 成	混 和 材	色調(外面/内面)	備 考
64	浅鉢	(4.1)/-/	口縁部内面肥厚。内外面とも横位ミガキ。		良好	角閃石	にぶい赤褐	破片資料(口縁部)
65	浅鉢?	(5.9)/-/	口縁部内面肥厚。内外面とも横位ナデ。		良好	角閃石	灰褐/にぶい褐	破片資料(口縁部)

S111出土土器観察表

挿図No	器種	法量(器高/口径/底径) (cm)	文 様 と 調 整	原 体	焼 成	混 和 材	色調(外面/内面)	備 考
72-1	深鉢	(11.6)/-/	隆帯。内外面ミガキ調整。	縄文RL	良好	雲母・石英	黒褐/明褐	破片資料(口縁部)
2	深鉢	(6.0)/-/	口縁部内面肥厚。渦巻文。楕円区画文に斜行沈線充填。内面は横位ナデ。		良好	角閃石	褐/にぶい黄褐	破片資料(口縁部)
3	深鉢	(6.1)/-/	口縁部楕円区画文に斜行沈線充填。内面は横位ナデ。		良好		明黄褐/にぶい黄	破片資料(口縁部)
4	深鉢	(2.8)/-/	口縁部内面肥厚。口唇部指頭押捺。麻手文・条線。内面は横位ナデ。		良好		明赤褐/黒褐	破片資料(口縁部)
5	深鉢	(5.6)/-/	隆帯。内外面横位ナデ。		良好	角閃石	褐/灰黄褐	破片資料(口縁部)
6	深鉢	(4.2)/-/	口縁部内外面肥厚。ナデ調整後横位ミガキ。		良好	角閃石	明赤褐	破片資料(口縁部)
7	鉢	(3.5)/-/	内外面横位ミガキ。		良好		にぶい橙	破片資料(口縁部)
8	深鉢	(4.6)/-/	磨消縄文。U字文?。内面は横位ナデ。	縄文RL	良好	角閃石	にぶい橙/明赤褐	破片資料(胴部)11と同一個体か。
9	深鉢	(14.7)/-/	3条単位十字状沈線・縦位蛇行沈線。内面は横位ナデ。	縄文LR	良好		赤褐/褐	破片資料(胴部)列石焼土と接合。
10	深鉢	(17.3)/-/	磨消縄文。U字文。磨消部に縦位沈線。内面は横位ナデ。	縄文LR	良好	角閃石	明赤褐/にぶい褐	破片資料(胴部)被熱。
11	深鉢	(5.4)/-/	磨消縄文。逆U字文。磨消部に縦位沈線。内面は横位ナデ。	縄文RL	良好	角閃石	にぶい橙/黒褐	破片資料(胴部)8と同一個体か。
12	深鉢	(7.1)/-/	磨消縄文。U字文。内面は縦位ミガキ。	縄文RL	良好		赤褐/にぶい赤褐	破片資料(胴部)
13	深鉢	(5.7)/-/	ハの字文。内面は横位ナデ。		良好		橙/にぶい橙	破片資料(胴部)
14	深鉢	(5.0)/-/	条線。内面は縦位ミガキ。		良好		にぶい赤褐	破片資料(胴部)
15	深鉢	(10.8)/-/	十字状把手。麻手文。区画内は刺突列充填。内面はナデ。		良好		橙/にぶい褐	破片資料(把手部)
16	深鉢	(8.2)/-/	棒(ラツパ)状突起・把手。内面はミガキ。	縄文LR	良好	角閃石	橙/灰褐	破片資料(把手部)

S113出土土器観察表

挿図No	器種	法量(器高/口径/底径) (cm)	文 様 と 調 整	原 体	焼 成	混 和 材	色調(外面/内面)	備 考
72-1	深鉢	<24.8>/<16.2>/<6.2>	山形突起。双頭渦巻きV字文。胴部上半は三角形区画文を交互。胴部下半は逆U字文間に麻手文。内外面ともミガキ。	縄文LR	良好		黒褐/灰褐	口縁部～胴部30%、底部20%残存。 炉跡
2	鉢	(2.8)/<5.6>/-	小形。隆帯。細条線。内面はナデ。		良好		にぶい黄橙	口縁部～胴部30%残存。
3	深鉢	(18.4)/-/7.8	区画隆線内に蛇行隆線・斜行沈線。内面はナデ。		良好	砂礫	にぶい赤褐/にぶい黄橙	胴部～底部80%残存。 炉体土器
4	深鉢	(6.3)/-/	渦巻文・懸垂文。内面は横位ナデ。		良好	長石	灰黄褐/にぶい黄褐	破片資料(口縁部)
5	深鉢	(5.7)/-/	口縁部内外面肥厚。捻り文。麻手文。交互刺突文による楕円区画に斜行沈線充填。内面は横位ナデ。		良好		灰褐	破片資料(口縁部)
6	深鉢	(3.0)/-/	口縁部内面肥厚。隆線。交互刺突文。内面は横位ナデ。		良好	雲母	橙/黄褐	破片資料(口縁部)

挿図No	器種	法量(器高/口径/底径) (cm)	文様と調整	原 体	焼 成	混 和 材	色調(外面/内面)	備 考
7	深鉢	(3.8)/-/—	口縁部内面肥厚。隆線区画に矢羽状沈線充填。内面は横位ナデ。		良好	角閃石・長石	にぶい褐	破片資料(口縁部) 覆土
8	深鉢	(5.1)/-/—	口縁部内外面肥厚。楕円区画に斜行沈線充填。内面は横位ナデ。		良好	角閃石	にぶい橙	破片資料(口縁部) 覆土
9	深鉢	(4.0)/-/—	波状粘土紐貼付。縄文地に沈線文。内面は横位ナデ。	縄文RL	良好	角閃石	にぶい黄褐	破片資料(頸部) 覆土
10	深鉢	(9.3)/-/—	隆帯。縄文地に沈線文。内面は横位ナデ。	縄文LR	良好	角閃石・雲母	褐/黒褐	破片資料(頸部) 覆土
11	深鉢	(8.4)/-/—	縄文地に腕手状沈線文。内面は縦位ミガキ。	縄文RL	良好	長石	明黄褐/灰黄褐	破片資料(胴下部) 覆土
12	深鉢	(5.7)/-/—	2条単位懸垂文。多条斜行沈線交互施文。内面は横位ナデ。		良好	角閃石	明赤褐/黒褐	破片資料(頸部) 覆土
13	深鉢	(5.5)/-/—	2条単位隆線による渦巻文。間に沈線充填。内面は横位ナデ。		良好	角閃石	灰褐/黒褐	破片資料(胴部) 覆土
14	深鉢	(7.0)/-/—	懸垂文。多条斜行細沈線交互施文。内面は横位ナデ。		良好	角閃石	黒褐/灰褐	破片資料(胴部) 覆土
15	浅鉢	(4.7)/-/—	内外面横位ミガキ・赤彩。		良好	長石	赤褐	破片資料(口縁部) 覆土
16	浅鉢	(4.3)/-/—	口縁部内面肥厚。内外面とも横位ミガキ。		良好		にぶい橙/灰黄褐	破片資料(口縁部) 覆土
17	浅鉢	(3.1)/-/—	内外面横位ミガキ。		良好		暗赤/にぶい褐	破片資料(口縁部) 覆土
18	浅鉢	(8.3)/-/—	渦巻文。楕円区画文に縦位沈線充填。内面は横位ナデ。		良好		にぶい黄橙/灰黄褐	破片資料(胴部) 覆土

SI14出土遺物観察表

挿図No	器種	法量(器高/口径/底径) (cm)	文様と調整	原 体	焼 成	混 和 材	色調(外面/内面)	備 考
84-1	深鉢	<36.5>/<24.8>/7.0	4単位波状口縁。波長部に刺突により人面状に描出。胴上半は2条単位蛇行沈線・腕手文、胴下半は同沈線により逆U字文。内面は横位ナデ。	縄文LR	良好		にぶい黄褐	85%残存。胴上半外面・胴下半内面に煤付着。埋蔵
2	深鉢	(8.5)/28.4/-	口唇部内径面取り。幅広沈線によりII状区画文・腕手文。内面はナデ。	縄文LR・RL	良好		黒褐	口縁部95%残存。床直
3	台付鉢	(13.0)/-/<7.4>	磨消縄文。胴上半は波状文、胴下半は逆U字文。内外面ともミガキ。	縄文RL	良好	長石	暗赤褐/暗赤灰	頸部〜胴部60%残存。SK46と接合。床直
4	深鉢	(5.2)/-/8.5	2条単位幅広沈線垂下。内面はナデ。	縄文LR	良好	長石・雲母	にぶい褐	底部50%残存。内面に煤付着。覆土
85-5	深鉢	<22.0>/16.6/<6.4>	幅広沈線・刺突列。胴上半は2条単位沈線による逆S字文、胴下半は逆U字文。内面は横位ナデ。	縄文LR・RL	良好	長石	橙/にぶい黄橙	口縁部〜胴部75%残存。炉体土器
6	深鉢	(4.4)/-/—	区画内に斜行沈線。内面はナデ。		良好		橙	破片資料(口縁部) 覆土
7	深鉢	(6.8)/-/—	II状区画文。内面はナデ。	縄文RL	良好		にぶい黄橙	破片資料(頸部) 覆土
8	深鉢	(3.8)/-/—	縄文地に3条単位沈線文。内面はナデ。	縄文LR	良好	角閃石	橙/暗灰黄	破片資料(胴部) 覆土
9	深鉢	(4.4)/-/—	幅広沈線。内面は横位ナデ。	縄文LR・RL	良好		灰黄褐/にぶい黄橙	破片資料(胴部) 覆土
13	土罐	長5.7/幅4.0/厚2.0	焼成前穿孔。孔径0.7cmでほぼ正円。全面ナデ調整。断面凸状。		良好	角閃石・長石	にぶい橙	ほぼ完存。覆土

SI15出土土器観察表

挿図No	器種	法量(器高/口径/底径) (cm)	文様と調整	原体	焼成	混和材	色調(外面/内面)	備	考
86-1	深鉢	(4.9)/-/—	内面はナデ。	縄文LR	良好	角閃石・長石	赤褐	破片資料(胴部)内面に煤付着。	覆土
2	深鉢	(4.8)/-/—	細条線。内面はナデ。		良好	角閃石・長石	明赤褐	破片資料(胴部)	覆土
3	深鉢	(2.9)/-/—	懸垂文。条線・横線。内面は斜位ナデ。		良好	角閃石・雲母・長石	橙/灰黄褐	破片資料(胴部)	覆土

SI17出土土器観察表

挿図No	器種	法量(器高/口径/底径) (cm)	文様と調整	原体	焼成	混和材	色調(外面/内面)	備	考
89-1	深鉢	<45.0>/<28.2>/<14.6>	砲弾形。T字隆帯。外面は縦位ナデ、内面は横位ナデ。		良好	石英	にぶい黄橙/黄灰	口縁部～胴部25%残存。	床直
2	深鉢	(16.5)/<11.4>/—	4単位波状口縁。2条単位の細隆線によるS字文・逆U字文。内面はナデ。	縄文RL	良好	長石・小石	にぶい赤褐/明赤褐	口縁部～胴部40%残存。	SK48
3	深鉢	<23.4>/22.5/8.0	磨消縄文。波状文・逆U字文。内面はナデ。	縄文LR	良好	長石・石英	にぶい橙/にぶい黄橙	50%残存。	炉体土器
4	深鉢	(30.0)/-/8.5	磨消縄文。U字文・逆U字文。内面はナデ。	縄文LR	良好	長石・小石	にぶい褐/褐灰	頸部～底部75%残存。	埋薬
5	深鉢	(17.4)/-/—	細隆線懸垂文。縄文地に2条単位の縦位沈線垂下。内面は横位ナデ。	縄文LR	良好	角閃石・石英	明赤褐	胴部25%残存。	SK48
6	深鉢	(6.4)/-/7.6	内外面ともナデ調整。底面は削りか。		良好	雲母	黒褐	底部55%残存。	床直
7	鉢	(17.0)/<29.8>/—	両耳把手。麻手文。内外面ともナデ。	縄文RL	良好	角閃石	にぶい黄褐	口縁部～胴上半30%残存。	床直
90-8	深鉢	(12.1)/-/—	口縁部精円区画文。内面は横位ナデ。	縄文RL	良好	角閃石	暗赤褐/灰褐	破片資料(口縁部)	床直
9	深鉢	(8.8)/-/—	口縁部精円区画文。内面は横位ミガキ。	縄文LR?	良好	角閃石	灰黄褐	破片資料(口縁部)	床直
10	深鉢	(7.7)/-/—	口縁部精円区画文。内面は横位ナデ。	縄文LR?	良好	角閃石	黒褐	破片資料(口縁部)	掘り方
11	深鉢	(6.9)/-/—	幅広い沈線。内面は横位ミガキ。	縄文RL	良好	角閃石	浅黄/にぶい黄	破片資料(口縁部)	西側
12	深鉢	(4.1)/-/—	内面は横位ナデ。	縄文LR・RL	良好	角閃石・石英	にぶい赤褐	破片資料(口縁部)	床直
13	深鉢	(6.3)/-/—	磨消縄文。逆U字文?・麻手文。内面は縦位ミガキ。	縄文RL	良好	角閃石	にぶい黄褐/明黄褐	破片資料(胴部)	床直
14	深鉢	(15.3)/-/—	隆帯。U字文。内面は横位ミガキ。	縄文LR	良好	角閃石・長石	にぶい黄褐/浅黄	破片資料(頸部)	床直
15	深鉢	(9.8)/-/—	磨消縄文。逆U字文?。内面はナデ。	縄文LR	良好	角閃石	明褐/灰黄褐	破片資料(胴部)	床直
16	深鉢	(4.8)/-/—	多条斜行沈線。内面は横位ナデ。		良好	角閃石・雲母・長石	にぶい黄橙	破片資料(胴部)	床直
17	深鉢	(6.5)/-/—	微隆起線文。内面は横位ミガキ。		良好		にぶい黄橙	破片資料(胴部)	覆土

SI18出土土器観察表

挿図No	器種	法量(器高/口径/底径) (cm)	文様と調整	原体	焼成	混和材	色調(外面/内面)	備	考
92-1	深鉢	<35.1>/32.1/<8.0>	4単位波状口縁。口縁部無文帯。充填縄文。U字文・逆U字文。内面はナデ。	縄文LR・RL	良好		褐/灰褐	口縁部～胴部85%残存。	埋薬
2	深鉢	25.0/18.0/7.4	口縁部横線。波状文。内面はナデ。底面に網代痕残す。	無筋L	良好	角閃石	赤褐/明褐	75%残存。	炉体土器
3	深鉢	(17.8)/<38.4>/—	4単位波状口縁。口縁部無文帯。充填縄文。2条単位の細隆線による逆U字文状区画。内面はナデ。	縄文LR	良好	石英	にぶい黄橙	口縁部～胴上半15%残存。	床直
4	深鉢	(8.6)/-/8.6	磨消縄文。逆U字文。内面は横位ナデ後縦位ミガキ調整。	縄文LR	良好		明赤褐/橙	胴下半～底部95%残存。	炉跡

挿図No	器種	法量(器高/口径/底径) (cm)	文様と調整	原体	焼成	混和材	色調(外面/内面)	備	考
5	深鉢	(8.4)/-/10.0	内外面ともナデ。	やや良				底部60%残存。	入口
6	深鉢	(3.3)/-/4.8	小形。内外面ともナデ。	良好			明赤褐	脚台部50%残存。	床直
7	深鉢	(5.0)/-/	隆帯。刺突文。内面は横位ナデ。	良好	角閃石	橙/明黄褐		破片資料(口縁部)	覆土
8	深鉢	(4.0)/-/	微隆起線区画。内面はナデ。	縄文RL	長石	褐		破片資料(胴部)	覆土
9	深鉢	(3.3)/-/	2条単位沈線による渦巻文。内面はナデ。	良好	長石	灰黄褐/黄褐		破片資料(胴部)	覆土
10	深鉢	(8.1)/-/	磨消縄文。内面は横位。	良好	角閃石	赤褐/灰褐		破片資料(胴部)	覆土
11	深鉢	(7.3)/-/	内面は横~斜位ミガキ。	良好	角閃石	にぶい黄褐/暗褐		破片資料(胴部)	P9
12	深鉢	(4.4)/-/	縦位区画文に細条線充填。内面は横位ミガキ。		角閃石	橙/明黄褐		破片資料(胴部)	覆土

SI19出土土器観察表

挿図No	器種	法量(器高/口径/底径) (cm)	文様と調整	原体	焼成	混和材	色調(外面/内面)	備	考
95-1	深鉢	(9.0)/<21.0>/-	樽形。口縁部内面肥厚。渦巻文。渦巻文上位に沿って刺突列。斜行沈線。内面は横位ナデ。		良好	角閃石・雲母	灰褐/灰黄褐	口縁部~胴上半30%残存。	覆土
2	深鉢	(16.5)/-/7.8	細隆帯による縦位区画。内面は横位ナデ。	無節L	良好	角閃石・雲母・長石	にぶい赤褐/黒褐	胴下半~底部50%残存。	埋護
3	深鉢	(9.6)/-/	口縁部内外面肥厚。渦巻文。楕円区画文に斜行沈線充填。頸部無文帯。内面は横位ナデ。		良好	長石	明赤褐/にぶい橙	破片資料(口縁部)	覆土
4	深鉢	(2.9)/-/	口縁部内外面肥厚。縦位沈線。内面は横位ミガキ。		良好	長石	にぶい黄橙/浅黄	破片資料(口縁部)	覆土
5	深鉢	(6.4)/-/	口縁部無文帯・波状区画。内面は横位ナデ。	縄文RL	良好	角閃石・石英	黒褐	破片資料(口縁部)	炉跡
6	深鉢	(5.1)/-/	口縁部無文帯。内面は横位ナデ。	縄文RL	良好	角閃石	にぶい黄橙	破片資料(口縁部)	覆土
7	深鉢	(2.9)/-/	口縁部無文帯。内面は横位ナデ。	縄文RL	良好	角閃石	黒褐/褐	破片資料(口縁部)	覆土
8	鉢	(8.6)/-/	口縁部無文帯。横線。外面はナデ調整後横位ミガキ。内面は横位ナデ。		良好	角閃石	褐/灰黄褐	破片資料(口縁部)	覆土
9	深鉢	(5.3)/-/	細条線。内面は横位ミガキ。		良好	角閃石	にぶい黄橙	破片資料(胴部)	覆土
10	深鉢	(4.5)/-/	内面は横位ナデ。		良好	角閃石	黒褐/にぶい黄	破片資料(胴部)	覆土
11	深鉢	(4.5)/-/	細隆帯。U字文?内面はナデ調整後横位ミガキ。		良好	角閃石	黒褐	破片資料(頸部)	覆土
12	深鉢	(5.7)/-/	縄文地に3条単位縦位沈線。内面は横位ナデ。	縄文LR	良好	長石	にぶい褐	破片資料(胴部)	覆土
13	鉢	(8.0)/-/	隆帯。逆U字文?・藤手文。内外面ともナデ。	縄文RL	良好	角閃石	灰黄	破片資料(頸部)	覆土
14	深鉢	(10.6)/-/	大柄渦巻文。内面は横位ナデ。	縄文LR	良好	角閃石・長石	褐/にぶい褐	破片資料(胴部)	床直
15	深鉢	(5.6)/-/	幅広沈線垂下。内面は横位ナデ。	復節	良好	角閃石	にぶい黄橙/明褐	破片資料(胴部)	覆土
16	深鉢	(17.0)/-/	U字文?。内外面とも横位ナデ調整後横位ミガキ。	縄文RL	良好	角閃石・石英	黒/灰黄褐	破片資料(胴部)	床直
17	鉢	(10.5)/-/	橋状把手。内外面とも横位ナデ。		良好	角閃石	にぶい褐/橙	破片資料(頸部)	床直
18	深鉢	(7.3)/-/	棒(ラッパ)状突起?。藤手文。内面は横位ナデ。	縄文LR	良好	角閃石	褐/赤褐	破片資料(口縁部)	床直
19	深鉢	(6.6)/-/	棒(ラッパ)状突起?。沈線文。内外面ともナデ。		やや良		黄褐	破片資料(突起部)	床直

屋外埋設遺構出土土器観察表

挿図No	器種	法量(器高/口径/底径) (cm)	文様と調整	原体	焼成	混和材	色調(外面/内面)	備考
100-1	深鉢	<55.0>/42.5/<11.2>	特大形。口縁部内面肥厚。捻り文・方形区画文・矢羽状沈線・刺突列。3条単位懸垂文・蛇行懸垂文。内面は横位ナデ。		良好	雲母	にぶい赤褐	口縁部～胴上部80%、底部40%残存。SK01
2	深鉢	(13.2)/-/<11.6>	特大形。2条単位懸垂文。多条斜行沈線交互施文。内面は横位ナデ。		良好		赤褐	胴下部～底部40%残存。SK03
3	深鉢	(23.3)/-/12.2	特大形。2条単位懸垂文。矢羽状沈線。内面は横位ナデ。		不良	角閃石	にぶい褐/灰褐	胴下部～底部70%残存。SK04
101-4	深鉢	(26.8)/52.0/-	特大形。4単位波状口縁。渦巻きつなぎ弧文。楕円区画に縦位沈線充填。胴部は縄文地に2条単位縦位沈線垂下。内面はナデ。	縄文LR	良好		にぶい黄/暗褐	口縁部～胴上半90%残存。5と同一個体。SK05
5	深鉢	(4.9)/-/<11.2>	内外面ともナデ。底面に網代痕残す。		良好	角閃石	にぶい黄/暗褐	底部65%残存。SK05
6	深鉢	(6.0)/-/	隆帯。楕円区画文。内面は横位ミガキ。	縄文RL	良好	角閃石	明褐/にぶい黄橙	破片資料(口縁部) SK05周辺
7	深鉢	(6.4)/-/	口縁部内面肥厚。区画文に斜行沈線充填。内面は横位ナデ。	縄文LR	良好	角閃石・長石	にぶい褐/褐	破片資料(口縁部) SK05周辺
8	深鉢	(3.6)/-/	横線。蛇行細条線。内面はナデ調整後ミガキ。		良好		にぶい赤褐	破片資料(口縁部) SK05周辺
9	深鉢	(3.3)/-/	波状沈線・斜行沈線。内面は横位ナデ。		良好	角閃石・雲母・長石	にぶい橙/灰褐	破片資料(頸部) SK05周辺
10	深鉢	(5.8)/-/	懸垂文。内面はナデ。	縄文RL	良好	角閃石・雲母	にぶい黄/黄灰	破片資料(胴部) SK05周辺
11	深鉢	(8.6)/-/	縄文地に2条単位十字状沈線・蛇行沈線。内面は横位ナデ。	縄文RL	良好	長石	にぶい赤褐/灰褐	破片資料(胴部) SK05周辺
12	深鉢	(5.0)/-/	2条単位弧状隆線・条線。内面はアバタ状剝離顕著。		良好	長石	明黄褐/にぶい褐	破片資料(胴部) SK05周辺
13	深鉢	(7.1)/-/	弧状隆線・半截工具による条線。内面は横位ナデ。		良好	角閃石・雲母・長石	にぶい赤褐/灰褐	破片資料(胴部) SK05周辺
102-14	深鉢	60.0/42.0/12.5	特大形。口縁部内面肥厚。3条単位隆線による腕骨文。そのうち一対は上端が剣先状。H状懸垂文。条線・3条単位横線2～3段。内面はナデ。		不良		褐	80%残存。14・15は入れ子関係。SK06
15	深鉢	38.2/27.0/9.5	大形。口縁部内面肥厚。斜行沈線。胴部は2条単位隆線による渦巻(唐草)文・H条懸垂文・蛇行懸垂文。条線。内面はナデ。		良好	石英	明赤褐	完存。外面上半に煤付着。SK06
103-16	深鉢	(8.6)/<26.0>/-	口縁部内面肥厚。籠目文・波状沈線・条線。内面は横位ナデ。		良好	雲母	暗褐/灰褐	口縁部～頸部15%残存。SK06焼土
17	深鉢	(15.0)/<23.0>/-	2～3条単位横線間に連弧文。条線。内面は横位ナデ。		良好		黒褐/暗褐	口縁部～胴部20%残存。SK06焼土
18	深鉢	<39.8>/<23.4>/<9.9>	樽形。突起・腕骨文。口縁部無文帯。腕骨文・蛇行懸垂文。条線・2～3条単位横線4段。内面はナデ。		良好		にぶい黄褐	45%残存。SK06焼土
19	深鉢	17.3/14.8/6.3	口縁部内面肥厚。捻り文。方形区画に矢羽状沈線充填。鱗状文。内面は横位ナデ。		良好	角閃石	にぶい赤褐/暗赤褐	65%残存。SK06焼土
20	浅鉢	<30.0>/<52.0>/<14.4>	口縁部内面肥厚。口唇部に懸垂文。胴部強い屈曲。渦巻文。楕円区画に縦位沈線充填。S字状沈線・刺突列。内外面ともミガキ調整。		良好		灰黄褐/にぶい黄橙	口縁部20%、胴部15%残存。SK06焼土
104-21	有孔鏝付	<29.1>/<30.8>/<9.3>	胴部に大柄渦巻沈線文。間に円形刺突充填。無文部はナデ・赤彩。内面は横位ナデ。		良好	砂礫	黒褐/暗赤褐	口縁部～胴部20%残存。SK06焼土
22	深鉢	(7.1)/-/	波状口縁。橋状突起。腕骨文。区画内に斜行沈線充填。内面は横位ミガキ。	縄文LR	良好	角閃石	灰黄褐	破片資料(口縁部) SK06焼土

挿図No	器種	法量(器高/口径/底径) (cm)	文	様	と	調	整	原	体	焼	成	混	和	材	色	調	(外	面	/	内	面)	備	考
23	深鉢	(5.0)/-/	橋状突起。楕円区画に縦位沈線充填。内面はナデ。							良好		角閃石・雲母		褐							破片資料(口縁部)	SK06焼土	
24	深鉢	(7.3)/-/	隆帯。円・楕円区画。内面はナデ。					縄文LR		良好		角閃石・長石		灰黄褐/にぶい黄褐							破片資料(口縁部)	SK06焼土	
25	深鉢	(4.7)/-/	縄文地に逆U字状沈線。内面は横位ナデ。					縄文LR?		良好		角閃石		にぶい褐/褐灰							破片資料(口縁部)	SK06焼土	
26	深鉢	(4.5)/-/	口縁部外面肥厚。内面は横位ナデ。					縄文LR		良好		角閃石・長石・石英		明黄褐/にぶい黄橙							破片資料(口縁部)	SK06焼土	
27	深鉢	(6.3)/-/	口縁部内外面肥厚。楕円区画文。内面は横位ナデ。					縄文RL		良好		角閃石		にぶい黄褐/灰褐							破片資料(口縁部)	SK06焼土	
28	深鉢	(6.2)/-/	縄文地に幅広沈線による逆U字文?。内面は横位ミガキ。					縄文LR		良好		角閃石		褐/黒褐							破片資料(頸部)	SK06焼土	
29	深鉢	(3.8)/-/	小突起。内面はナデ。					縄文LR		良好		角閃石		にぶい黄橙/にぶい橙							破片資料(頸部)	SK06焼土	
30	深鉢	(7.8)/-/	磨消縄文。内面は横位ミガキ。					縄文LR		良好		角閃石		にぶい黄褐/にぶい黄橙							破片資料(頸部)	SK06焼土	
31	深鉢	(15.6)/-/	隆帯。口縁部区画文。逆U字状沈線。内面は横位ナデ。					縄文RL		良好		角閃石		明黄褐/灰黄褐							破片資料(頸部)	SK06焼土	
32	深鉢	(10.0)/-/	充填縄文。内面はナデ。					縄文RL		良好		角閃石		にぶい黄橙							破片資料(胴部)	SK06焼土	
33	深鉢	(10.4)/-/	充填縄文。内面は縦位ミガキ。					縄文RL		良好		角閃石		橙/灰褐							破片資料(胴部)	SK06焼土	
34	深鉢	(6.3)/-/	懸垂文。内面は縦位ミガキ。					無節L		良好		角閃石・長石		褐							破片資料(胴部)	SK06焼土	
105-35	深鉢	(6.0)/-/	幅広沈線文。内面は縦位ナデ。							良好		角閃石・長石		明黄褐/灰黄褐							破片資料(胴部)	SK06焼土	
36	深鉢	(10.9)/-/	懸垂文。矢羽(葉脈)状沈線。内面は横位ナデ。							良好		角閃石・長石		にぶい黄褐							破片資料(胴部)	SK06焼土	
37	鉢	(6.2)/-/	屈曲。区画内縦位沈線上に粘土紐貼付。内面は横位ナデ。							良好				にぶい黄橙							破片資料(胴部)	SK06焼土	
38	鉢	(8.5)/-/	楕円区画文。内面は横位ミガキ。					縄文RL		良好		角閃石		明褐/灰褐							破片資料(胴部)	SK06焼土	
39	浅鉢	(6.7)/-/	内面に稜線。内外面横位ミガキ。内面~口唇部赤彩。							良好		角閃石・石英		灰褐/赤							破片資料(口縁部)	SK06焼土	
40	浅鉢	(4.3)/-/	口縁部内外面肥厚。内外面とも横位ミガキ。							良好		角閃石		にぶい褐/灰褐							破片資料(口縁部)	SK06焼土	
41	浅鉢	(5.2)/-/	内外面ともミガキ。内面~外面上位赤彩。							良好		角閃石		にぶい黄橙/赤褐							破片資料(口縁部)	SK06焼土	
42	深鉢	(7.4)/-/	眼鏡状突起。内面はナデ。							良好		角閃石・長石		にぶい褐							破片資料(突起部)	SK06焼土	
43	深鉢	(4.4)/-/	棒状突起。内面はナデ。							良好		角閃石・石英		褐							破片資料(突起部)	SK06焼土	
44	深鉢	36.7/27.0/15.0	両耳把手。渦巻文・蕨手文・逆U字文。磨消縄文。内外面ともナデ調整。							良好		砂礫		にぶい褐/にぶい橙							55%残存。	SK06焼土	
106-45	深鉢	(22.3)/28.6/	面耳把手。方形区画。蕨手文・逆U字文。内外面ともナデ調整。					縄文RL		良好				赤褐							口縁部~胴上半40%残存。	SK06焼土	
46	深鉢	(13.2)/-/9.2	大形。磨消縄文。沈線垂下。内面は横位ナデ。					縄文RL		やや良				明褐/灰黄褐							胴下部~底部70%残存。	SK56	
47	深鉢	(17.7)/-/11.0	特大形。2条単位懸垂文。刺突文。内面は横位ナデ。							良好				にぶい赤褐/にぶい褐							胴下部~底部70%残存。	SK55	
48	深鉢	(14.9)/-/8.4	大形。磨消縄文。内面は横位ナデ。							良好		角閃石		明褐/黒褐							胴下部~底部90%残存。	SK57	

土坑出土土器観察表(縄文時代中期後半)

挿図No	器種	法量(器高/口径/底径) (cm)	文	様	と	調	整	原	体	焼	成	混	和	材	色	調	(外	面	/	内	面)	備	考
116-1	深鉢	<30.0>/22.5/7.6	波状口縁。口縁部内面肥厚。渦巻文・棒状懸垂文。楕円区画に斜行沈線充填。縄文地に蛇行沈線垂下。内面はナデ。					縄文RL		良好		角閃石・砂礫		赤褐							50%残存。	SK02	

挿入No	図No	器 種	法量(器高/口径/底径) (cm)	文 様 と 調 整	原 体	焼 成	混 和 材	色調(外面/内面)	備 考
2	27	深鉢	(4.9)/<13.0/—	籠目文。内面は横位ナデ。		良好	長石	にぶい褐/灰褐	口縁部～頸部20%残存。 SK08
3		深鉢	(3.0)/—/—	口縁部内面肥厚。内外面ともナデ。		良好	雲母・砂礫	黒/暗赤褐	破片資料(口縁部) SK08
4		深鉢	(3.6)/—/—	懸垂文。内面はナデ。	縄文LR	良好	雲母	灰褐/褐	破片資料(胴部) SK08
5		深鉢	(3.4)/—/—	条線上に3条単位弧状沈線。内面はナデ。		良好		黒褐/にぶい黄橙	破片資料(胴部) SK08
6	27	深鉢	(6.6)/—/—	扇状突起。渦巻文・斜行沈線。内面はナデ調整で粘土紐貼付。		良好	雲母	赤褐	破片資料(突起部) SK08
7		浅鉢	<6.7>/<17.8>/<5.4>	口縁端部やや直立し内外面に稜を有する。内外面ともナデ。		良好		黒褐/褐	40%残存。 SK09
8		器台	<7.0>/—/<12.2>	箱形。円形透かし孔。沈線文。内外面ともナデ。		良好		赤褐	20%残存。 SK09
9		深鉢	(3.0)/—/—	弧状沈線・横線。内面はナデ。		良好		浅黄	破片資料(胴部) SK09
10		鉢?	(2.7)/—/—	縦位沈線。内面はナデ。		良好		にぶい褐	破片資料(胴部) SK09
11		浅鉢	(4.0)/—/—	内外面ともミガキ。		良好		黒褐	破片資料(口縁部) SK09
12		深鉢	(5.8)/—/—	隆帯。多条斜行沈線交互施文。内面はナデ。		良好		にぶい黄褐	破片資料(頸部) SK14
13		浅鉢	(2.9)/—/—	口縁部内面肥厚。幅広沈線。内外面ともミガキ。		良好		にぶい褐/赤褐	破片資料(口縁部) SK14
14		深鉢	(3.0)/—/—	細隆帯。内面はナデ。		良好	雲母	橙	破片資料(口縁部) SK15
15		深鉢	(3.1)/—/—	懸垂文。矢羽状沈線。内面はナデ。		良好	雲母	橙	破片資料(胴部) SK15
16		深鉢	(5.7)/—/—	縄文地に縦位沈線。内面は縦位ミガキ。		良好		明黄褐	破片資料(胴部) SK15
17		深鉢	(1.9)/—/<7.9>	内外面ともナデ。		良好	雲母・石英・長石	にぶい黄橙/にぶい橙	底部20%残存。 SK17
18		深鉢	(3.4)/—/—	細隆帯。内面は横位ナデ。		良好	雲母・石英	明赤褐	破片資料(口縁部) SK17
19		深鉢	(4.2)/—/—	有刻隆帯懸垂。ハの字文?。内面は横位ナデ。		良好	雲母・石英	橙	破片資料(胴部) SK17
20		深鉢	(3.0)/—/—	矢羽状沈線。内面は横位ナデ。		良好	雲母	明赤褐/明黄褐	破片資料(胴部) SK17
21		深鉢	(4.9)/—/—	3条単位懸垂文。斜行沈線。内面は横位ナデ。		良好	雲母	明赤褐/黒褐	破片資料(胴部)内面に煤の付着。 SK17
22		浅鉢	(3.5)/—/—	内面は横位ナデ。	縄文LR	良好	雲母	にぶい黄橙	破片資料(胴部) SK17
23		深鉢	(3.4)/—/—	内外面とも横位ナデ。		良好	雲母	にぶい黄橙	破片資料(口縁部) SK17
24		浅鉢?	(3.3)/—/—	幅広沈線文。内面はナデ。		良好	雲母	灰褐/にぶい黄褐	破片資料(胴部) SK19
25		深鉢	(3.7)/—/—	内外面とも横位ナデ。		良好	雲母・石英・長石	にぶい黄橙/浅黄	破片資料(口縁部) SK20
26		深鉢	(2.4)/—/—	沈線文。内面はナデ。	縄文LR?	良好		黒/明赤褐	破片資料(胴部) SK20
27		深鉢	(3.7)/—/—	弧状隆線。多条斜行沈線。内面は横位ナデ。		良好	長石	明赤褐/黒褐	破片資料(胴部) SK25
28		深鉢	(5.5)/—/—	隆帯。斜行沈線。内面は横位ナデ。		良好	角閃石・石英・長石	にぶい黄橙/明赤褐	破片資料(胴部) SK25
29		深鉢	(5.6)/—/—	縄文地に沈線文。内面は横位ナデ。	縄文RL	良好	角閃石・石英・長石	橙	破片資料(胴部) SK25
30		深鉢	(5.5)/—/—	内面はナデ。	撚糸R	良好	角閃石・長石	にぶい褐/黒	破片資料(胴部) SK25
31		深鉢	(6.4)/—/—	隆帯。多条斜行沈線?。内外面とも横位ナデ。		良好	角閃石・長石	明赤褐/黒褐	破片資料(頸部) SK25
32		深鉢	(3.6)/—/—	有刻隆帯懸垂。多条斜行沈線。内面は横位ナデ。		良好	雲母	明赤褐/暗灰黄	破片資料(口縁部) SK25
33		深鉢	(4.3)/—/—	隆帯。内面は横位ナデ。		良好	角閃石・長石	黒/橙	破片資料(頸部) SK25
117-34		有孔罎付鉢	(2.8)/—/—	内外面ミガキ調整で赤彩カ。		良好	角閃石	橙/にぶい黄橙	破片資料(頸部) SK25
35		鉢	(7.1)/—/—	屈曲。隆帯。内面はミガキ。	植物莖?	良好	角閃石	暗灰黄/にぶい黄橙	破片資料(胴部) SK25
36		深鉢	(9.3)/—/—	有刻隆帯。3条単位弧状沈線。内面はナデ。		良好	長石・砂礫	にぶい黄橙	破片資料(胴部) SK26

挿図No.	器種	法量(器高/口径/底径) (cm)	文 様	調 整	原 体	焼 成	混 和 材	色 調 (外 面 / 内 面)	備 考
37	深鉢	(4.7)/-/	楕円区画文?。内面はナデ。	楕円区画文?。内面はナデ。	縄文RL?	良好	長石・砂礫	灰黄褐/橙	破片資料(口縁部) SK26
38	深鉢	(4.5)/-/	縄文地に蛇行沈線。内面は横位ナデ。	縄文地に蛇行沈線。内面は横位ナデ。	縄文LR	良好		浅黄	破片資料(胴部) SK30
39	深鉢	(1.9)/-/	沈線文。内面はナデ。	沈線文。内面はナデ。		良好		灰褐	破片資料(口縁部) SK29
40	深鉢	(3.7)/-/	口縁部内面肥厚。内外面とも横ナデ。	口縁部内面肥厚。内外面とも横ナデ。		良好		黒褐/赤褐	破片資料(口縁部) SK32
41	深鉢	(4.4)/-/	幅広沈線区画。内面はナデ。	幅広沈線区画。内面はナデ。	縄文LR	良好		褐灰/灰黄	破片資料(胴部) SK32
42	深鉢	<29.0>/<29.0>/<7.0>	口縁部内面肥厚。斜行沈線。胴部に大柄渦巻隆沈線文・間に斜行沈線充墳。内面は横位ナデ。	口縁部内面肥厚。斜行沈線。胴部に大柄渦巻隆沈線文・間に斜行沈線充墳。内面は横位ナデ。		良好	石英・雲母・長石	灰黄褐/にぶい褐	口縁部～胴部40%残存。 SK33
43	深鉢	<25.0>/<16.6>/<10.0>	口縁部内外面肥厚。口縁部区画内に斜行沈線充墳。S字状隆線。2条単位・蛇行懸垂文。多条斜行沈線交互施文。内面は横位ナデ。	口縁部内外面肥厚。口縁部区画内に斜行沈線充墳。S字状隆線。2条単位・蛇行懸垂文。多条斜行沈線交互施文。内面は横位ナデ。		やや良	雲母・長石	灰黄褐/黒褐	口縁部～胴部20%残存。 SK33
44	台付鉢	<13.0>/<15.6>/<7.0>	小形。口縁外反。縄文地に蛇行沈線垂下。脚台部外面に半截工具による弧状文を2単位。内面はミガキ調整。	小形。口縁外反。縄文地に蛇行沈線垂下。脚台部外面に半截工具による弧状文を2単位。内面はミガキ調整。	縄文RL	良好	砂礫	暗褐/灰褐	口縁部～胴部15%、脚台部80%残存。 SK33
45	深鉢	(8.9)/-/	渦巻つなぎ弧文・懸垂文。口縁部区画内に矢羽状沈線充墳。多条斜行沈線。内面は横位ナデ。	渦巻つなぎ弧文・懸垂文。口縁部区画内に矢羽状沈線充墳。多条斜行沈線。内面は横位ナデ。		良好	角閃石	褐	破片資料(口縁部)45・52は同一個体。 SK33
46	深鉢	(6.1)/-/	槽形。口縁部内外面肥厚。逆S字状・剣先状?隆線。縦位沈線。内面は横位ナデ。	槽形。口縁部内外面肥厚。逆S字状・剣先状?隆線。縦位沈線。内面は横位ナデ。		良好		暗灰黄	破片資料(口縁部)46・48は同一個体。 SK33
47	鉢?	(2.4)/-/	弧状沈線・縦位沈線。内面は横位ナデ。	弧状沈線・縦位沈線。内面は横位ナデ。		良好		黒褐/赤褐	破片資料(口縁部) SK33
48	深鉢	(6.5)/-/	橋状突起。口縁部内面肥厚。口縁部区画内に縦位沈線充墳。内面はナデ。	橋状突起。口縁部内面肥厚。口縁部区画内に縦位沈線充墳。内面はナデ。		良好		暗灰黄	破片資料(口縁部)46・48は同一個体。 SK33
49	深鉢	(3.9)/-/	楕円区画文に斜行沈線充墳。内面はナデ。	楕円区画文に斜行沈線充墳。内面はナデ。		良好		褐/黒褐	破片資料(頸部)49～51は同一個体。 SK33
50	深鉢	(5.0)/-/	楕円区画文に斜行沈線充墳。内面はナデ。	楕円区画文に斜行沈線充墳。内面はナデ。		良好		褐/黒褐	破片資料(胴部)49～51は同一個体。 SK33
51	深鉢	(8.4)/-/	2条単位懸垂文。多条斜行沈線。内面は横位ナデ。	2条単位懸垂文。多条斜行沈線。内面は横位ナデ。		良好		褐/黒褐	破片資料(胴部)49～51は同一個体。 SK33
52	深鉢	(6.0)/-/	2条単位懸垂文。多条斜行沈線交互施文。内面は横位ナデ。	2条単位懸垂文。多条斜行沈線交互施文。内面は横位ナデ。		良好	角閃石	褐	破片資料(胴部)45・52は同一個体。 SK33
118-53	浅鉢	(5.6)/-/	内外面横位ミガキ。内面～口唇部赤彩。	内外面横位ミガキ。内面～口唇部赤彩。		良好	小石	黒褐/赤	破片資料(口縁部) SK33
54	深鉢	(5.1)/-/	磨消縄文。内面は縦位ミガキ。	磨消縄文。内面は縦位ミガキ。	縄文RL	良好		にぶい黄橙	破片資料(胴部) SK36
55	深鉢	(5.6)/-/	磨消縄文。内面は縦位ナデ。	磨消縄文。内面は縦位ナデ。	縄文RL	良好	長石	にぶい褐/褐灰	破片資料(胴部) SK36
56	深鉢	(3.8)/-/	隆線間に多条斜行沈線。内面は横位ナデ。	隆線間に多条斜行沈線。内面は横位ナデ。		良好	角閃石	赤褐/灰褐	破片資料(胴部) SK36
57	深鉢	(3.8)/-/	縦位沈線間に斜行沈線。内面はナデ。	縦位沈線間に斜行沈線。内面はナデ。		良好	石英	にぶい赤褐	破片資料(胴部) SK37
58	浅鉢	<9.3>/<38.2>/-	内外面とも横位ミガキ。内面及び外面上位は赤彩。	内外面とも横位ミガキ。内面及び外面上位は赤彩。		良好		にぶい褐/灰褐	15%残存。内外面とも付着物。 SK38
59	深鉢	(8.2)/-/	突起。渦巻文・交互刺突文・棘手文。内面はナデ。	突起。渦巻文・交互刺突文・棘手文。内面はナデ。		良好	雲母	にぶい橙	破片資料(突起部) SK38
60	浅鉢	(6.8)/-/	口縁部外面肥厚。3条単位弧状隆線。内外面ともミガキ。	口縁部外面肥厚。3条単位弧状隆線。内外面ともミガキ。		良好	角閃石	灰黄褐	破片資料(口縁部) SK39
61	深鉢	(10.1)/-/	屈曲。渦巻文・刺突文。区画内に斜行沈線充墳。内面はミガキ。	屈曲。渦巻文・刺突文。区画内に斜行沈線充墳。内面はミガキ。		良好	砂礫	灰黄褐	破片資料(頸部) SK39
62	深鉢	(3.6)/-/	渦巻文。円形刺突列。内面はナデ。	渦巻文。円形刺突列。内面はナデ。		良好	角閃石	明赤褐	破片資料(口縁部) SK39
63	深鉢	(9.1)/-/	2条単位逆U字隆線内に多条斜行沈線充墳。内面はナデ。	2条単位逆U字隆線内に多条斜行沈線充墳。内面はナデ。		良好	雲母・石英	にぶい赤褐/黒褐	破片資料(胴部) SK39

挿図No	器種	法量(器高/口径/底径) (cm)	文様と調整	原	体	焼成	混和材	色調(外面/内面)	備	考
64	深鉢	(5.4)/-/	渦巻(腕骨)文。矢羽状沈線。内面はナデ。			良好	長石	にぶい褐/にぶい黄褐	破片資料(胴部)	SK40
65	深鉢	(4.4)/-/	懸垂文。内面はナデ。			やや良	雲母	にぶい褐	破片資料(胴部)	SK40
66	深鉢	(4.5)/-/	磨消縄文。内面は横位ミガキ。			良好	角閃石	にぶい黄橙/灰黄褐	破片資料(胴部)	SK42
67	深鉢	(3.0)/-/	隆線区画。内面は横位ナデ。			良好	角閃石	にぶい褐/褐灰	破片資料(胴部)	SK45
68	深鉢	(4.8)/-/	縄文地に縦位沈線。内面は横位ナデ。		縄文LR	良好	角閃石	にぶい赤褐/にぶい黄褐	破片資料(胴部)	SK47
69	深鉢	(4.5)/-/	弧状隆線。内面は斜位ナデ。		縄文LR?	良好	角閃石	黄灰/黒褐	破片資料(胴部)外面に煤付着。	SK47
70	深鉢	(4.4)/-/	内面は横位ナデ。		縄文LR	良好	角閃石・雲母	黒褐	破片資料(胴部)70・71はSI14-2と同一。	SK46
71	深鉢	(4.7)/-/	幅広沈線。口縁部内面に内傾の面取り。内面は横位ナデ。		無節L?	良好	角閃石・雲母	黒褐	破片資料(口縁部)	SK46
72	深鉢	(3.1)/-/	縦位沈線。内面はナデ。			やや良	雲母	暗赤褐	破片資料(胴部)	SK48
73	深鉢	(9.6)/-/7.2	磨消縄文。2条単位逆U字文。内面はナデ。		縄文LR	良好	角閃石・長石	明赤褐/黒褐	胴下半~底部60%残存。	SK52
74	深鉢	(10.1)/-/	U字文?。内面は横位ナデ。		縄文LR	良好		にぶい黄褐/灰黄褐	破片資料(胴部)	SK52
119-75	深鉢	(20.0)/32.2/	磨消縄文。波状文・逆U字文。内面はナデ。		縄文LR	良好	角閃石・石英	明赤褐	口縁部~胴上半20%残存。	SK58
76	深鉢	(7.4)/-/	内面は横位ナデ。		縄文RL	良好	角閃石・長石	にぶい赤褐/にぶい黄橙	破片資料(胴部)	SK58

SK13出土土器観察表(縄文時代後期)

挿図No	器種	法量(器高/口径/底径) (cm)	文様と調整	原	体	焼成	混和材	色調(外面/内面)	備	考
120-1	深鉢	<35.0>/30.6/8.8	2条の有刻粘上帯・8の字状粘土貼付。8の字状粘土上位の口唇部は指頭庄痕。胴部は磨消縄文で方形区画。内外面ナデ。		無筋L	良好	角閃石・石英	橙	口縁部~胴部45%残存。胴上半に煤付着。	
2	注口	(7.1)/-/9.3	注口部外面肥厚。渦巻文・沈線区画の円形刺突列。外面は横位ミガキ。内面は横位ナデ。底面に網代痕僅かに残す。			堅緻		黒褐/灰黄	胴下半~底部35%残存。	

SK12出土土器観察表(弥生時代中期)

挿図No	器種	法量(器高/口径/底径) (cm)	文様と調整	原	体	焼成	混和材	色調(外面/内面)	備	考
120-1	壺	(3.2)/-/	斜位条痕上に横位沈線。内面は横位ナデ。			良好		橙	破片資料(胴部)	

SI20出土土(陶)器観察表(平安時代)

挿図No	器種	法量(器高/口径/底径) (cm)	成形と調整	原	体	焼成	混和材	色調(外面/内面)	備	考
123-1	土師器坏	4.6/14.0/6.0	内黒土器。外面はロクロ成形。内面は縦位・横位ミガキ。体部に「凡」の墨書。底面は回転糸切り。			良好		にぶい黄橙/黒	65%残存。	床直
2	土師器坏	<4.9>/<15.4>/<6.6>	外面はロクロ成形。内面は縦位・横位ミガキ。			良好	石英	明赤褐	体部25%残存。	カマド
3	土師器坏	<4.0>/<14.4>/<6.0>	内外面ともロクロ成形。			良好	石英	橙	体部40%残存。	カマド
4	土師器坏	(2.0)/-/7.2	内外面ともロクロ成形。底面は回転糸切り。			良好	小石	にぶい黄橙/褐灰	体部下半~底部20%残存。	カマド
5	須恵器坏	4.5/14.2/6.6	口縁部外反。内外面ともロクロ成形。底面は回転糸切り。			堅緻		黄灰	65%残存。	カマド
6	須恵器短頸壺	(10.7)/-/10.6	内外面ともロクロ成形。底面は回転糸切り。底面はヘラ削り後に高台貼付。			堅緻		灰褐/褐灰	胴下半~底部40%残存。内面底に自然釉付着。	カマド
7	須恵器長頸壺	(17.6)/-/	内外面ともロクロ成形。胴部上位に耳をもつ。			堅緻		オリーブ黒	胴部30%残存。胴上部に自然釉付着。	カマド

挿図No	器種	法量(器高/口径/底径) (cm)	成 形 と 調 整	焼 成	混 和 材	色 調 (外面/内面)	備 考
8	土師器甕	(7.0)/<21.2>/—	コの字口縁。口縁部内外面は横位ナデ。胴部内外面は横位ヘラ削り。	良好		明赤褐/橙	口縁部～胴上部15%残存。カマド
9	土師器甕	(6.9)/<21.2>/—	コの字口縁。口縁部内外面は横位ナデ。胴部外面は斜位ヘラ削り。胴部内面はナデ。	良好		橙	口縁部～胴上部25%残存。カマド
10	土師器甕	<25.0>/<21.6>/<4.4>	コの字口縁。口縁部内外面は横位ナデ。胴部内面・外面上位は横位、胴部下半は斜位ヘラ削り。	良好	角閃石	明赤褐/橙	口縁部～胴部40%残存。10・11同一個体。カマド
11	土師器甕	(7.6)/—/—	胴上部外面に「□田」の墨書。	良好	角閃石	明赤褐/橙	破片資料(頸部～胴上部)10と同一個体。カマド
12	土師器甕	27.0/<23.4>/4.4	コの字口縁。口縁部内外面は横位ナデ。胴部内面・外面上位は横～斜位、胴部下半は斜位ヘラ削り。	良好	砂礫	明赤褐/にぶい赤褐	30%残存。カマド
13	土師器甕	<33.9>/<20.6>/<4.2>	コの字口縁。口縁部内外面は横位ナデ。胴部内面・外面上位は横～斜位、胴部下半は斜位ヘラ削り。	良好		明赤褐	口縁部～胴上半60%、底部20%残存。カマド

1号配石出土遺物観察表

挿図No	器種	法量(器高/口径/底径) (cm)	成 形 と 調 整	焼 成	混 和 材	色 調 (外面/内面)	備 考
126-1	播鉢	10.1/—/11.4	軟質陶器。口縁は外反。ロクロ成形。底部外面は横位ヘラ削り、内面下半は槽面が顕著で若干凹む。底面は回転米切り。	良好		灰オリーブ/灰	40%残存。南側
2	平椀	<5.2>/<12.9>/<3.0>	体部中位で緩く折れる。高台部無釉。	堅緻		灰釉	体部15%残存。北側
3	天目碗	(5.1)/—/—	体部湾曲高台部無釉。	堅緻		鉄釉	体部20%残存。南側
4	砥石	現長7.4/幅3.7/厚2.5	折れ。片側小口面残。3面使用。うち1面に条線擦痕。重量87g。				流紋岩 南側
5	石鉢	(7.8)/—/—	使用面不明瞭。				破片資料(体部)粗粒輝石安山岩。北側
6	銅製品	現長4.5/幅1.5/厚0.7	縁首顕著。1mm厚の銅板を右巻。端部肥厚。内面に木質残存。				小把か。南側

1・2号集石出土遺物観察表

挿図No	器種	法量(器高/口径/底径) (cm)	成 形 と 調 整	焼 成	混 和 材	色 調 (外面/内面)	備 考
127-1	石鉢	10.1/—/11.4	内面下半に使用痕顕著。器全体にノミ状工具痕顕著。重量746.0g。				25%残存。粗粒輝石安山岩。集石1・2
2	石鉢	<5.2>/<12.9>/<3.0>	大形。使用面不明瞭。重量1153.0g。				破片資料(体部)粗粒輝石安山岩。集石1
3	皿	(5.1)/—/—	見込み格子状櫛目。底部米切り痕。	堅緻			破片資料(底部) 集石1
4	砥石	長16.9/幅5.4/厚4.4	両小口面残。3面使用。2面は研磨による擦痕顕著。1面は溝状擦痕。重量805.0g				粗粒輝石安山岩。集石1

SF01出土土器観察表

挿図No	器種	法量(器高/口径/底径) (cm)	文 様 と 調 整	原 体	焼 成	混 和 材	色 調 (外面/内面)	備 考
128-1	深鉢	(2.3)/—/—	口縁部内面肥厚。隆線による区画文。斜行沈線。内面は横位ナデ。		良好	角閃石	にぶい褐/にぶい橙	破片資料(口縁部)
2	深鉢	(6.5)/—/—	蛇行隆線。斜行沈線。内面はナデ。		良好	長石	にぶい褐	破片資料(口縁部)

SX01出土土器観察表

挿図No	器種	法量(器高/口径/底径) (cm)	文 様 と 調 整	原 体	焼 成	混 和 材	色 調 (外面/内面)	備 考
129-1	深鉢	(4.7)/—/—	縄文地に3条単位縦位沈線。内面は横位ナデ。		良好	長石	明黄褐/にぶい黄橙	破片資料(胴部)
2	深鉢	(5.0)/—/—	隆線・縦位沈線垂下。斜行沈線。内面は横位ナデ。		良好	角閃石・雲母	明褐/黒褐	破片資料(胴部)

挿図No.	器種	法量(器高/口径/底径) (cm)	文 様 と 調 整	原 体	焼 成	混 和 材	色 調 (外 面 / 内 面)	備 考
3	深鉢	(4.3) / - / -	矢羽状沈線。内面はナデ。		良好		黒褐/褐灰	破片資料(胴部)

SK11出土土器観察表

挿図No.	器種	法量(器高/口径/底径) (cm)	文 様 と 調 整	原 体	焼 成	混 和 材	色 調 (外 面 / 内 面)	備 考
129-1	深鉢	(5.0) / - / -	横位羽状縄文。内面は横位ナデ。	縄文LR・RL	良好	石英?	灰黄褐/黒褐	破片資料(胴部) 縄文時代前期初頭?

遺構外出土土器観察表

挿図No.	器種	法量(器高/口径/底径) (cm)	文 様 と 調 整	原 体	焼 成	混 和 材	色 調 (外 面 / 内 面)	備 考
130-1	深鉢	(4.8) / - / -	隆帯。燃糸文。内面は横位ナデ。	燃糸L・R	良好	石英・繊維	浅黄	破片資料(口縁部) 1・3は同一個体。 I-1群
2	深鉢	(3.1) / - / -	隆帯。燃糸文。内面は横位ナデ。	燃糸L・R	良好	石英・繊維	にぶい黄	破片資料(口縁部) I-1群
3	深鉢	(11.5) / - / -	燃糸文。内面は縦位ナデ。	燃糸L・R	良好	石英・繊維	にぶい黄橙/にぶい黄	破片資料(胴部) 1・3は同一個体 I-1群
4	深鉢	(6.4) / - / -	燃糸文。内面は縦位ナデ。	燃糸L・R	良好	石英・繊維	にぶい黄橙	破片資料(胴部) I-1群
5	深鉢	(5.2) / - / -	燃糸文。内面は横位ナデ。	燃糸L・R	良好	石英・繊維	にぶい黄橙/黒褐	破片資料(胴部) I-1群
6	深鉢	(5.0) / - / -	燃糸文。内面は縦位ナデ。	燃糸L・R	良好	角閃石・石英・繊維	明褐/灰黄褐	破片資料(胴部) I-1群
7	深鉢	(5.2) / - / -	燃糸文。内面は縦位ナデ。	燃糸L	良好	石英・繊維	にぶい黄/灰黄	破片資料(胴部) I-1群
8	深鉢	(4.1) / - / -	燃糸文(X字状)。内面は横位ナデ。	燃糸L・R	良好	石英・繊維	黄褐/灰黄褐	破片資料(胴部) I-1群
9	深鉢	(5.3) / - / -	燃糸文(X字状)。内面は横位ナデ。	燃糸L・R	良好	石英・繊維	にぶい黄褐/にぶい黄橙	破片資料(胴部) I-1群
10	深鉢	(3.6) / - / -	燃糸文。内面は横位ナデ。	燃糸L	良好	石英・繊維	明黄褐/にぶい黄橙	破片資料(胴部) I-1群
11	深鉢	(3.8) / - / -	燃糸文。内面は横位ナデ。	燃糸L	良好	長石・石英・繊維	灰褐/にぶい黄褐	破片資料(胴部) I-1群
12	深鉢	(6.4) / - / -	燃糸文。内面は横位ナデ。	燃糸L	良好	角閃石・長石・繊維	にぶい黄橙	破片資料(胴部) I-1群
13	深鉢	(5.5) / - / -	燃糸文・横位。内面は横位ナデ。	燃糸L・R	良好	繊維	明黄褐	破片資料(胴部) I-1群
14	深鉢	(5.6) / - / -	燃糸側面圧痕(菱形)。内面はナデ。	燃糸L・R/縄文LR	良好	繊維	にぶい黄橙	破片資料(口縁部) I-2群
15	深鉢	(2.2) / - / -	燃糸側面圧痕。内面は横位ナデ。	燃糸L・R	良好	長石・繊維	黄褐	破片資料(口縁部) I-2群
16	深鉢	(3.0) / - / -	燃糸側面圧痕。内面は横位ナデ。	燃糸L・R	良好	長石・繊維	にぶい黄橙	破片資料(口縁部) I-2群
17	深鉢	(5.8) / - / -	燃糸側面圧痕(矢羽状)。地文は菱形羽状縄文。内面は横位ナデ。	燃糸L・R/縄文LR・RL	良好	繊維	にぶい黄褐/明黄褐	破片資料(口縁部) I-2群
18	深鉢	(4.6) / - / -	燃糸側面圧痕(菱形)。内面はナデ。	燃糸L・R/縄文LR	良好	長石・繊維	にぶい黄橙	破片資料(口縁部) I-2群
19	深鉢	(3.6) / - / -	燃糸側面圧痕。内面はナデ。	燃糸L・R/縄文RL	良好	繊維	にぶい黄褐	破片資料(口縁部) I-2群
20	深鉢	(6.0) / - / -	燃糸側面圧痕。内面はナデ。	燃糸L・R/縄文RL	良好	石英・繊維	にぶい黄褐/にぶい黄橙	破片資料(口縁部) I-2群
21	深鉢	(4.7) / - / -	燃糸側面圧痕。内面はナデ。	燃糸L・R/縄文RL	良好	石英	明赤褐/にぶい黄橙	破片資料(口縁部) I-2群
22	深鉢	(6.0) / - / -	菱形羽状縄文。内面は横位ナデ。	縄文LR・RL	良好	繊維	にぶい黄橙	破片資料(胴部) I-3群
23	深鉢	(4.0) / - / -	菱形羽状縄文。内面は横位ナデ。	縄文LR・RL	良好	長石・繊維	暗褐/褐灰	破片資料(胴部) I-3群
24	深鉢	(5.9) / - / -	菱形羽状縄文。内面は横位ナデ。	縄文LR・RL	良好	繊維	明黄褐	破片資料(胴部) I-3群
25	深鉢	(6.8) / - / -	菱形羽状縄文。内面は横位ナデ。	縄文LR・RL	良好	石英・繊維	にぶい黄褐/褐灰	破片資料(胴部) I-3群
26	深鉢	(5.9) / - / -	菱形羽状縄文。内面は横位ナデ。	縄文LR・RL	良好	石英・繊維	明褐	破片資料(胴部) I-3群
27	深鉢	(4.3) / - / -	菱形羽状縄文。内面は横位ナデ。	縄文LR・RL	良好	角閃石・石英・繊維	にぶい黄	破片資料(胴部) I-3群

挿図No	図版No	器 種	法量(器高/口径/底径) (cm)	文 様	調 整	原 体	焼 成	混 和 材	色調(外面/内面)	備 考
28		深鉢	(5.6) / - / -	菱形羽状縄文。内面は横位ナデ。		縄文LR・RL	良好	繊維	にぶい褐/灰黄褐	破片資料(胴部) I-3群
29		深鉢	(4.1) / - / -	菱形羽状縄文。内面は横位ナデ。		縄文LR・RL	良好	長石・繊維	黒褐/にぶい黄褐	破片資料(胴部) I-3群
30		深鉢	(7.9) / - / -	口縁部外面肥厚。横位羽状縄文。内面は横位ナデ。		縄文LR・RL	良好	角閃石・繊維	浅黄/灰黄	破片資料(口縁部) I-4群
31		深鉢	(3.9) / - / -	口縁部外面肥厚。横位羽状縄文。内面は横位ナデ。		縄文LR・RL	良好	長石・繊維	にぶい黄褐/にぶい黄橙	破片資料(口縁部) I-4群
32		深鉢	(5.9) / - / -	横位羽状縄文。横位ナデ。		縄文LR・RL	良好	角閃石・繊維	暗黄/にぶい黄	破片資料(胴部) I-4群
33		深鉢	(3.3) / - / -	横位羽状縄文。横位ナデ。		縄文LR・RL	良好	石英・繊維	にぶい黄褐	破片資料(胴部) I-4群
34		深鉢	(5.0) / - / -	横位羽状縄文。横位ナデ。		縄文LR・RL	良好	繊維	にぶい黄橙	破片資料(胴部) I-4群
35		深鉢	(6.8) / - / -	横位羽状縄文。横位ナデ。		縄文LR・RL	良好	繊維	明赤褐	破片資料(胴部) I-4群
36		深鉢	(3.7) / - / -	横位羽状縄文。横位ナデ。		縄文LR・RL	良好	繊維	黒褐	破片資料(胴部) I-4群
37		深鉢	(4.4) / - / -	横位羽状縄文。横位ナデ。		縄文LR・RL	良好	繊維	浅黄/暗灰黄	破片資料(胴部) I-4群
38		深鉢	(3.9) / - / -	隆帯。横位羽状縄文?。内面は横位ナデ。		縄文LR	良好	石英・繊維	にぶい黄橙	破片資料(口縁部) I-4群
39		深鉢	(6.5) / - / -	波状口縁。逆T字状有刻隆帯。内面は横位ナデ。		縄文RL?	良好	石英・繊維	黄灰/浅黄	破片資料(口縁部) I-4群
131-40		深鉢	(9.9) / - / -	尖底。横位羽状縄文。内面は横位ナデ。		縄文LR・RL	良好	繊維	明黄褐/浅黄	破片資料(底部) I-4群
41		深鉢	(1.4) / - / (11.3)	上げ底気味。横位羽状縄文。底面にも縄文施文。内面は横位ナデ。		縄文LR・RL	良好	繊維	にぶい黄褐/黒褐	破片資料(底部) I-4群
42		深鉢	(5.5) / - / -	横位羽状縄文。横位ナデ。		縄文LR・RL	良好	角閃石・繊維	灰黄褐	破片資料(口縁部) I-5群
43		深鉢	(4.0) / - / -	横位羽状縄文。横位ナデ。		縄文LR・RL	良好	長石・繊維	にぶい黄橙	破片資料(口縁部) I-5群
44		深鉢	(4.3) / - / -	横位羽状縄文。横位ナデ。		縄文LR・RL	良好	石英・繊維	にぶい黄/暗灰黄	破片資料(口縁部) I-5群
45		深鉢	(3.8) / - / -	横位羽状縄文。横位ナデ。		縄文LR・RL	良好	角閃石・繊維	にぶい黄褐	破片資料(口縁部) I-5群
46		深鉢	(4.4) / - / -	横位羽状縄文。横位ナデ。		縄文LR・RL	良好	繊維	灰黄褐/にぶい黄	破片資料(口縁部) I-5群
47		深鉢	(4.8) / - / -	波状口縁。横位羽状縄文。内面は横位ナデ。		縄文LR・RL	良好	石英・繊維	黒褐/にぶい褐	破片資料(口縁部) I-5群
48		深鉢	(7.6) / - / -	横位羽状縄文。横位ナデ。		縄文LR・RL	良好	角閃石・石英・繊維	黒褐/褐灰	破片資料(口縁部) I-5群
49		深鉢	(7.5) / - / -	横位羽状縄文。横位ナデ。		縄文LR・RL	良好	長石・繊維	黄褐/橙	破片資料(胴部) I-5群
50		深鉢	(6.0) / - / -	横位羽状縄文。横位ナデ。		縄文LR・RL	良好	角閃石・繊維	黒褐	破片資料(胴部) I-5群
51		深鉢	(5.5) / - / -	横位羽状縄文。横位ナデ。		縄文LR・RL	良好	長石・繊維	にぶい褐	破片資料(胴部) I-5群
52		深鉢	(3.6) / - / -	横位羽状縄文。横位ナデ。		縄文LR・RL	良好	角閃石・繊維	にぶい黄	破片資料(胴部) I-5群
53		深鉢	(9.8) / - / -	横位羽状縄文。横位ナデ。		無節L・R	良好	角閃石・繊維	にぶい黄褐	破片資料(口縁部) I-6群
54		深鉢	(3.3) / - / -	横位羽状縄文?。横位ナデ。		無節L	良好	繊維	明黄褐/にぶい黄	破片資料(口縁部) I-6群
55		深鉢	(4.0) / - / -	隆帯。横位羽状縄文?。横位ナデ。		無節L	良好	石英・繊維	明黄褐/黒	破片資料(口縁部) I-6群
56		深鉢	(19.5) / - / -	ランダムな施文。内面はナデ。		無節R	良好	角閃石・長石・繊維	にぶい褐	破片資料(口縁部~胴部) I-6群
57		深鉢	(11.8) / - / -	横位羽状縄文。横位ナデ。		無節L・R	良好	角閃石・繊維	黄褐/灰黄褐	破片資料(胴部) I-6群
58		深鉢	(4.1) / - / -	横位斜状縄文。横位ナデ。		無節R	良好	長石・繊維	にぶい黄橙/にぶい黄褐	破片資料(胴部) I-6群
59		深鉢	(6.7) / - / -	横位羽状縄文(ループ文?)。横位ナデ。		縄文LR・RL	良好	繊維	にぶい黄橙/灰黄褐	破片資料(胴部) I-7群
60		深鉢	(3.7) / - / -	多条ループ文。内面は横位ナデ。		縄文RL	良好	繊維	にぶい黄褐	破片資料(胴部) I-7群
61		深鉢	(4.4) / - / -	多条ループ文。内面は横位ナデ。		縄文RL	良好	繊維	にぶい黄橙	破片資料(胴部) I-7群
62		深鉢	(4.5) / - / -	波状屈曲口縁。有刻細隆線を貼付。内面は横位ナデ。		縄文RL	良好	角閃石	にぶい黄褐/にぶい黄橙	破片資料(口縁部) 諸磯b式 2群

挿図No	器種	法量(器高/口径/底径) (cm)	成 形 与 調 整	焼 成	混 和 材	色 調 (外 面 / 内 面)	備 考
63	深鉢	(7.2)/-/—	弧状爪形文。内面は横位ミガキ。	良好	角閃石	にぶい黄橙	破片資料(胴部)63・64は同一個体。3群
64	深鉢	(5.3)/-/—	弧状爪形文。内面は横位ミガキ。	良好	角閃石	明褐/褐灰	破片資料(胴部)63・64は同一個体。3群
65	深鉢	(4.5)/-/—	爪形文。横位ミガキ。	良好	長石	橙/黒褐	破片資料(頸部)65・66は同一個体。3群
66	深鉢	(4.1)/-/—	刺突列。爪形文。横位ミガキ。	良好	長石	橙/黒褐	破片資料(頸部)65・66は同一個体。3群
132-67	深鉢	<28.0>/23.4/<6.0>	受口状口縁。有刻隆帯。3条単位の隆線垂下。渦巻文・刺先文。2条単位の横線・矢羽状沈線・凹形刺突列。内面は横位ナデ。	良好	角閃石・雲母・長石	明黄褐	口縁部～胴部60%残存。4群
68	深鉢	22.2/<20.2>/<6.6>	口縁部内外面肥厚。渦巻文・区内に縦位沈線・ハの字文。内面はナデ。	良好	長石	にぶい黄橙/灰黄褐	30%残存。4群
69	深鉢	(12.3)/<47.0>/—	口縁部区画内組状区画文。内面は横位ナデ。	良好	角閃石・長石	にぶい黄	口縁部25%残存。4群
70	深鉢	(5.0)/-/—	口縁部内外面肥厚。細文地に縦位蛇行沈線。内面は横位ナデ。	良好	角閃石・雲母	暗褐	破片資料(口縁部)4群
71	深鉢	(4.6)/-/—	口縁部内外面肥厚。渦巻文・斜行沈線。内面は横位ナデ。	良好	角閃石・雲母	褐/黒褐	破片資料(口縁部)4群
72	深鉢	(4.6)/-/—	口縁部区画内に矢羽状沈線充填。内面は横位ナデ。	良好	角閃石	褐	破片資料(口縁部)4群
73	深鉢	(5.6)/-/—	6条単位の横位蛇行沈線。内面は横位ナデ。	良好	角閃石	黒褐/暗灰黄	破片資料(口縁部)4群
74	深鉢?	(4.4)/-/—	波状口縁。横位蛇行沈線。内面は横位ミガキ。	良好	角閃石	灰褐/にぶい黄橙	破片資料(口縁部)4群
75	深鉢	(6.7)/-/—	隆線垂下。条線上に3条単位の横線。内面はナデ。	良好	雲母・石英	赤褐/にぶい黄褐	破片資料(胴部)4群
76	深鉢	(4.7)/-/—	有刻隆線垂下。多条斜行沈線。内面はナデ。	良好	雲母	黒褐	破片資料(胴部)4群
77	深鉢	(8.6)/-/—	口縁部横位区画文。内面は横位ミガキ。	良好	角閃石	にぶい黄褐/黒褐	破片資料(口縁部)4群
78	深鉢	(5.6)/-/—	内面は横位ナデ。	良好	角閃石・長石	灰黄褐/にぶい黄褐	破片資料(口縁部)4群
79	深鉢	(7.7)/-/—	微隆起線文。内面は横位ナデ。	良好	角閃石	黒褐	破片資料(口縁部)4群
133-80	深鉢	(9.5)/-/—	微隆起線文。内面は横位ナデ。	良好	角閃石	にぶい黄褐/にぶい黄橙	破片資料(口縁部)4群
81	深鉢	(10.0)/-/—	隆線。横位区画文。藤手文。内面は横位ナデ。	良好	角閃石	にぶい黄橙	破片資料(口縁部)4群
82	深鉢	(6.7)/-/—	刺突列2段以上。磨消粗文。内面は横位ナデ。	良好	角閃石・長石	にぶい黄橙/黒褐	破片資料(頸部)4群
83	深鉢	(16.2)/-/—	隆線垂下。内面はナデ。	良好	角閃石	明黄褐/黒褐	破片資料(頸部)4群
84	深鉢	(5.5)/-/—	山形突起。渦巻文・藤手文。内面はナデ。	良好		にぶい黄	破片資料(突起部)4群
85	34 深鉢	(9.6)/-/—	腕骨状突起。内外面ともナデ。	良好		灰褐	破片資料(突起部)4群
86	深鉢	(6.6)/-/—	縄文地に4条単位の沈線による縦・横線・O状文?。内面は横位ナデ。	良好	長石	にぶい黄褐	破片資料(胴部)5群
87	34 鉢	(3.9)/<17.0>/—	口縁部内外面肥厚。口唇部押捺。内外面とも横位ナデ。	良好	角閃石	にぶい黄褐/暗褐	口縁部～胴上半25%残存。6群
88	埴	(5.1)/-/—	頸部で強い屈曲。外面は縦位ミガキ、内面は斜位ミガキ。	良好		明赤褐	頸部25%残存。7群
89	34 青磁碗	(4.0)/<16.4>/—	外面は片切り技法による蓮弁文。内面は無文。龍泉窯系。	堅緻			体部15%残存。8群

付編 第1次調査出土の弥生中期土器

挿図No	器種	法量(器高/口径/底径) (cm)	文 様 与 調 整	原 体	焼 成	混 和 材	色 調 (外 面 / 内 面)	備 考
130-1	蓋	5.2/<7.0>/<13.6>	大きく開くつまみ。口縁部は縦く外反する。つまみ内面は横位ナデ、外面・口縁内面は横位ミガキ。		良好	角閃石	にぶい黄褐	60%残存。D-3

挿図No	器種	法量(器高/口径/底径) (cm)	文様と調整	原体	焼成	混和材	色調(外面/内面)	備考
2	台付鉢?	(2.8)/-/ <12.0>	外反して大きく開く脚台部。内外面とも横位ナデ。		良好	長石	明黄褐	脚台部25%残存。 C-3
3	広口壺	(8.0)/-/ -	縄文地文を胴下部に残す。胴中部は磨消縄文手法により方形を基調としたモチーフを描出。内面は横位ミガキ。	縄文LR	良好	角閃石	黒褐/褐灰	胴中部～胴下部25%残存。 表土
4	広口壺	(3.8)/-/ -	沈線区画の横位縄文帯を2段以上。内面は横位ミガキ。	縄文LR	良好	角閃石	黒褐/褐灰	破片資料(口縁部) D-3
5	広口壺	(3.8)/-/ -	口縁部外面に沈線区画横位縄文、隅丸三角区画文。内面は横位ナデ。	縄文LR	良好	角閃石	黒褐/にぶい黄橙	破片資料(口縁部) 5・7は同一個体。 C-3
6	鉢?	(2.7)/-/ -	縄文地に3条の太い横線。内面は横位ミガキ。	縄文LR	良好	角閃石	黒褐	破片資料(口縁部) D-3
7	広口壺	(3.7)/-/ -	磨消縄文手法により文様を描出。内面は横位ナデ。	縄文LR	良好	角閃石	黒/黒褐	破片資料(胴部) 5・7は同一個体。表土
8	壺	(3.2)/-/ -	口唇部に上方からの指頭圧痕。口縁部外面に縄文帯。内面は横位ナデ。	縄文LR	良好	角閃石	にぶい黄褐	破片資料(口縁部) 8・9は同一個体? D-3
9	壺	(6.9)/-/ -	縄文地にヘラ描沈線による三角連繫文。内面は横位ナデ。	縄文LR	良好	角閃石	灰黄褐/浅黄	破片資料(胴部) 8・9は同一個体? 確認面
10	鉢?	(4.4)/-/ -	波状口縁。口縁部外面に横位縄文帯、精円文?。内面は横位ナデ。	縄文LR	良好	角閃石・砂礫	明黄褐/浅黄	破片資料(口縁部) 確認面
11	壺	(3.4)/-/ -	磨消縄文手法により工字状文?を描出。内面は横位ナデ。	縄文LR	良好	角閃石	灰黄/暗褐黄	破片資料(胴部) C-3
12	壺	(2.6)/-/ -	磨消縄文手法により文様を描出。内面は横位ナデ。	縄文LR	良好	角閃石	浅黄/暗灰黄	破片資料(胴部) D-3
13	壺	(2.2)/-/ -	縄文帯による波状文。横位ナデ。	縄文LR	良好	角閃石	暗灰黄/黒褐	破片資料(胴部) D-3
14	壺	(4.1)/-/ -	縄文地にヘラ描沈線文。内面は斜位ナデ。	縄文LR	良好	角閃石	明赤褐	破片資料(胴部) 確認面
15	壺	(6.4)/-/ -	ヘラ描横線・矢羽文。内面はアバタ状斜離顕著。		良好	角閃石・砂礫	にぶい黄橙	破片資料(胴部) 確認面
16	壺	(6.0)/-/ -	縄文帯。横位条痕。内面は横位ナデ。	縄文LR	良好		にぶい黄	破片資料(胴部) C-3
17	壺	(3.7)/-/ -	ヘラ描沈線による重四角文。内面はナデ。		良好	長石・石英	にぶい黄褐/灰黄褐	破片資料(胴部) 確認面
18	壺	(6.9)/-/ -	斜位沈線。内面は横位ナデ。		やや良		にぶい黄橙/にぶい黄褐	破片資料(胴部) D-3
19	壺	(4.6)/-/ -	斜位沈線。内面は横位ナデ。		良好	角閃石	褐	破片資料(胴部) 確認面
20	壺	(4.4)/-/ -	斜位沈線。内面は横位ナデ。		良好	角閃石	褐/暗灰黄	破片資料(胴部) 確認面

縄文時代石器一覧

※分類項目・基準一覧

①礫石器類：原礫形状をそのまま利用した石器、または大形の石器

a) 敲石：礫の一端、ないしは複数の端部に、敲打痕をもつ石器。

平形：比較的平坦な2面をもつもの

長形：細長い、棒状に近い形状のもの

小長形：

箱形：直方体に近い形状のもの

円形：球形に近い形状のもの

小円形：

不整形：上述の形態から外れる、輪郭の一定しないもの
b) 磨石：礫の円周、ないしは面上に、使用によると思われる平滑面、ないしは擦過痕をもつ石器。

平形：比較的平坦な2面をもつもの

長形：細長い、棒状に近い形状のもの

小長形：

箱形：直方体に近い形状のもの

円形：球形に近い形状のもの

小円形：

平円形：円盤状に近い形状のもの

大形：大きなもの

不整形：上述の形態から外れる、輪郭の一定しないもの
c) 凹石：礫の面上に、敲打等により生じた(作られた)凹みをもつ石器。

長形：細長い、棒状に近い形状のもの

箱形：直方体に近い形状のもの

大形：大きなもの

不整形：上述の形態から外れる、輪郭の一定しないもの
d) a～cの複合石器

e) 石皿：礫の面上に、使用によると思われる平滑面をもつ石器。磨石より大形で扁平なもの。また、皿状に凹んだ平滑面の形成されている石器。

f) 砥石：石器(ないしは骨角器)の製作のための砥ぎ面を持つ石器。

g) 有孔砥石：直線的な、細い溝状の砥ぎ面を持つ石器。

h) 石錘：紐をかけるための細い溝、ないしは溝状の紐ずれ痕をもつ石器。

②打製石斧類：安山岩、黒色頁岩など、比較的重量感のある石材を用いた、打製石斧と、その関連石器。

a) 打製石斧：主として剥片を素材とし、敲打ではなく、粗い階段状剥離などで側縁を整形された、斧状の形態の石器。

平形：長方形に近い平面形状で、厚みの小さい、横断面形が比較的平坦なもの

平小形：最大長5cm未満のもの

平大形：最大長15cm、または最大幅5cm以上のもの

平細形：長さに対して、幅の比率が2：1より小さなもの

平バチ形：基部側の幅が狭く、刃部側が開く形状のもの

平大バチ形：最大長15cm、または最大幅5cm以上のもの

平分銅形：器体中央部付近の幅が狭く、両端が開く形状のもの

平分銅形：最大長15cm、または最大幅5cm以上のもの

凸形：厚みの大きい、横断面形がふくらむもの

凸大形：最大長15cm、または最大幅5cm以上のもの

b) 打斧未製品：上記打製石斧の、製作途中の資料。

平形：長方形に近い平面形状で、厚みの小さい、横断面形が比較的平坦なもの

凸形：厚みの大きい、横断面形がふくらむもの

c) 打斧整形剥片：上記打製石斧の、側縁の整形の際に生じた剥片。打面、および打面周辺部に、側縁整形の際の階段状剥離痕が残るもの。剥離軸方向の断面形が、側縁整形の際に生じる特徴的な湾曲を示すもの。
階段状：打面部に、階段状剥離痕が残るもの
単剥離面打面：
複剥離面打面：

単剥離面打面：

複剥離面打面：

d) 剥片：上記の打斧整形剥片に含まれない剥片類。打製石斧の素材と考えられるものも含む。
礫面打面：
単剥離面打面：
複剥離面打面：

大形：

e) 割器A：剥片の縁辺に、連続的な加工による刃部が作り出されている石器。
横形片刃：剥離軸に対して幅の大きな剥片の、端辺、ないしは打面部に、表裏いずれかの面からのみ、刃付けを行なったもの

るもの

横形両刃：剥離軸に対して幅の大きな剥片の、端辺、ないしは打面部に、表裏両面から刃付けを行なったもの

横形錯向：剥離軸に対して幅の大きな剥片の、端辺、ないしは打面部に、一部は表面から、一部は裏面から、刃付けを行なったもの

f) 二次加工ある剥片：剥片の縁辺の一部に、部分的な加工が施されている石器。

g) 楔形石器：上下両端に階段状剥離痕をもつ、あるいは、面極剥離痕をもつ、断面楔形の石器。

h) 礫器：礫の一端に、剥離により刃部を作り出されている石器。

片刃礫器：一方向からの剥離により、刃部を作り出されている石器

両刃礫器：相反する二方向からの剥離により、刃部を作り出されている石器

③剥片石器類：黒曜石、チャートなど、緻密で鋭利な剥離面の生じる石材を用いた各種石器と、それらの製作に関わる残核、剥片など。

a) 石鏃：主として両面に、面的な調整加工が施され、鋭い先端と、幅広い基部を作り出された、平面形状三角形の、鏃形の石器。

凹基：基部を扶入状に加工したもの

凹基三角：凹基のものうち、長さの比率が大きくない、正三角形に近いもの

凹基長形：凹基のものうち、長さの比率が大きい、縦長の二等辺三角形のもの

平基：基部の扶入が弱くほとんど認められないもの。直線状の基部のものも含む

平基長形：平基のものうち、長さの比率が大きくない、正三角形に近いもの。

b) 石鏃未製品：石鏃の製作途中のものと考えられる、両面・半両面加工の石器。

c) 石匙：両面加工により作り出された刃部と、扶入加工により作り出されたつまみ部をもつ石器。

横形：横長の刃部をもつもの

小形特殊：周辺加工によるもので、スベード状の刃部。1点

残滓。

のみ。

- d) 採錐器：細長い錐状の刃部をもつ石器。
- e) 削器B：剥片の縁辺に、連続的な加工による刃部が作り出されている石器。
- f) 二次加工ある剥片：剥片の縁辺の一部に、部分的な加工が施されている石器。
- g) 片面加工石器：素材の平坦な一面に面的な加工を施した石器。石鏃未製品?(1点のみ)
- h) 両面加工石器：素材の両面に面的な加工を施した石器。石鏃未製品?(1点のみ)
- i) 残核：剥片を剥がした際に残る核の部分。石器製作の残滓。
- j) 剥片：石核から剥がされた、石器の素材および石器製作の

⑤その他：上記項目に含まれない石器、石製品。

a) 玉：研磨により玉状に形を整え、穿孔を施したもの。装飾品

と考えられる。

- b) 垂飾：研磨により棒状に形を整え、穿孔を施したもの。装飾品と考えられる。
- c) 磨製石斧：敲打による整形の後、研磨により仕上げた斧状の形態の石器。定角式
- d) 磨斧剥片：上記磨製石斧の整形に伴う研磨面の残されている剥片。磨製石斧の破損時に偶発的に生じたもの、または再加工の際に意図的に剥離されたもの。
- e) 磨斧未製品：磨製石斧を製作する途上の敲打による整形段階のもの。

石器参帳 (除く黒耀石)

石器No.	種別No.	図No.	遺構区分	注記番号	区分	器種	形態	石材	遺存率	長さ	折れ1	幅	折れ2	厚さ	折れ3	重さ	備考
1		SI10		41	礫石器	敲石	平形	粗粒輝石安山岩	完形	13.7cm		10.3cm		5.2cm		951.0g	
2		SI10		42	礫石器	敲石	長形	粗粒輝石安山岩	一部欠	16.2cm		8.3cm		4.4cm		632.0g	
3		SI10		24	礫石器	敲石	長形	粗粒輝石安山岩	完形	11.3cm		5.3cm		3.7cm		317.0g	
4		SI10			礫石器	敲石	長形	粗粒輝石安山岩	完形	13.5cm		5.6cm		3.8cm		434.0g	
5		SI10		1	礫石器	敲石	長形	粗粒輝石安山岩	完形	16.2cm		6.2cm		4.1cm		378.0g	
6	78-95	31		38	礫石器	敲石	長形	細粒輝石安山岩	完形	12.7cm		5.0cm		4.5cm		423.0g	
7		SI10		10	礫石器	磨石	円形	粗粒輝石安山岩	完形	11.5cm		9.6cm		6.5cm		915.0g	
8		SI10		31	礫石器	磨石+凹石	箱形	粗粒輝石安山岩	2/3	10.0g		6.0cm	+	4.0cm		425.0g	
9	85-10	29		4	打製石斧類	打製石斧	平形	細粒輝石安山岩	完形	12.8cm		5.2cm		1.7cm		141.0g	
10		SI10		31	礫石器	磨石+凹石	箱形	粗粒輝石安山岩	1/2	7.8cm	+	8.0cm		4.5cm		426.0g	
11		SI10		a	礫石器	磨石+凹石	箱形	粗粒輝石安山岩	完形	8.6cm		7.4cm		5.1cm		410.0g	
12		SI09			打製石斧類	打斧整形剥片	階段状	黑色頁岩	完形	—		—		—		—	
13		SI10		44	礫石器	磨石	平円形	粗粒輝石安山岩	完形	8.4cm		7.7cm		4.0cm		359.0g	
14	63-30	31		b下	打製石斧類	剥片	大形	細粒輝石安山岩	完形	6.5cm		11.5cm		1.8cm		102.0g	
15		SI09		17	打製石斧類	打斧整形剥片	階段状	黑色頁岩	一部欠	—		—		—		—	
16		SI09			打製石斧類	打斧整形剥片	階段状	頁岩	2/3	—		—		—		—	
17		SI09			打製石斧類	打斧整形剥片	折れ	粗粒輝石安山岩	2/3	—		—		—		—	
18		SI10		45	礫石器	凹石	不整形	粗粒輝石安山岩	完形	13.3cm		10.1cm		7.4cm		840.0g	
19	78-92	31		SI10	礫石器	磨石+凹石	箱形	粗粒輝石安山岩	完形	10.4cm		6.6cm		4.3cm		510.0g	
20	76-70	32		SI10	礫石器	石鏃	不整形	粗粒輝石安山岩	完形	9.5cm		7.7cm		3.4cm		324.0g	
21		31		SI10	礫石器	敲石	長形	粗粒輝石安山岩	一部欠	15.2cm	+	6.9cm		4.4cm		741.0g	
22		SI14		炉	礫石器	敲石	長形	粗粒輝石安山岩	完形	13.1cm		5.9cm		3.6cm		424.0g	
23		SI14		11	礫石器	敲石	長形	熔結凝灰岩	完形	11.0cm		5.8cm		5.7cm		414.0g	
24		SI14		8	礫石器	敲石	長形	粗粒輝石安山岩	完形	11.5cm		5.7cm		6.0cm		456.0g	
25		SI14			礫石器	敲石	長形	粗粒輝石安山岩	完形	12.2cm		4.0cm		4.5cm		522.0g	

観 察 表

石器No	挿図No	遺構区分	注記番号	区分	器 種	形 態	石 材	遺存率	長 さ	折れ1	幅	折れ2	厚 さ	折れ3	重 さ	備 考
26	85-15	31	S114	礫石器	敲石	小長形	粗粒輝石安山岩	完形	7.4cm		3.7cm		3.2cm		128.0g	
27			S114	礫石器	磨石	円形	粗粒輝石安山岩	一部欠	8.3cm		7.5cm		5.7cm		506.0g	
28	85-14	31	S114	礫石器	磨石+凹石	平円形	粗粒輝石安山岩	完形	11.3cm		10.0cm		6.5cm		869.0g	
29			S114	礫石器	磨石+凹石	平円形	粗粒輝石安山岩	完形	11.4cm		7.9cm		3.6cm		389.0g	
30			S114	礫石器	凹石	不整形	粗粒輝石安山岩	完形	9.8cm		7.1cm		5.6cm		354.0g	
31			S109	打製石斧類	打斧整形剝片	階段状	黒色頁岩	完形	—		—		—		—	
32			S109	打製石斧類	打斧整形剝片	階段状	黒色頁岩	2/3	—		—		—		—	
33	78-89	31	S110	礫石器	磨石	大形	石英閃緑岩	完形	22.2cm		16.6cm		12.9cm		7,500.0g	
34	78-90	32	S110	礫石器	凹石	大形	粗粒輝石安山岩	完形	17.6cm		13.6cm		10.5cm		3,000.0g	
35			S108	打製石斧類	剝片	大形	粗粒輝石安山岩	完形	9.5cm		6.0cm		1.6cm		62.0g	
36			S110	礫石器	敲石	小円形	粗粒輝石安山岩	完形	5.7cm		5.0cm		4.0cm		154.0g	
37			S110	礫石器	敲石	長形	粗粒輝石安山岩	完形	14.8cm		7.0cm		3.4cm		555.0g	
38			S104	礫石器	敲石	不整形	ヒン岩	完形	9.4cm		6.6cm		4.8cm		346.0g	
39			S102	礫石器	敲石	長形	粗粒輝石安山岩	完形	11.0cm		4.9cm		3.0cm		204.0g	
40	31-16	31	S102	礫石器	敲石	長形	粗粒輝石安山岩	完形	11.5cm		5.1cm		4.5cm		283.0g	
41	30-74	31	S102	礫石器	敲石	長形	粗粒輝石安山岩	完形	10.9cm		5.4cm		3.0cm		264.0g	
42	30-75	31	S102	礫石器	敲石	平形	粗粒輝石安山岩	完形	8.0cm		6.4cm		2.6cm		202.0g	
43			S102	礫石器	敲石	円形	粗粒輝石安山岩	完形	7.0cm		6.7cm		4.0cm		259.0g	
44			S109	打製石斧類	打斧整形剝片	階段状	粗粒輝石安山岩	2/3	—		—		—		—	
45			S109	打製石斧類	打斧整形剝片	階段状	黒色頁岩	完形	—		—		—		—	
46	63-31	31	S108	打製石斧類	剝片	大形	粗粒輝石安山岩	2/3	11.9cm		12.2cm		4.1cm		585.0g	
47	68-33	31	S109	礫石器	敲石	大形	粗粒輝石安山岩	完形	21.2cm		11.9cm		6.5cm		2,000.0g	
48			S109	礫石器	敲石	長形	粗粒輝石安山岩	完形	14.2cm		7.7cm		4.7cm		746.0g	
49			S109	礫石器	敲石	長形	粗粒輝石安山岩	1/2	9.9cm	+	5.7cm		4.3cm		282.0g	
50			S109	礫石器	敲石	小円形	粗粒輝石安山岩	完形	13.7cm		7.5cm		5.0cm		168.0g	
51			S109	礫石器	磨石	平形	粗粒輝石安山岩	完形	12.0cm		9.9cm		5.5cm		818.0g	
52	68-34	31	S109	礫石器	磨石	大形	粗粒輝石安山岩	一部欠	18.7cm		10.7cm		5.8cm		2,005.0g	
53			S109	礫石器	石皿		粗粒輝石安山岩	破片	7.7cm	+	8.5cm	+	8.9cm	+	888.0g	
54	68-35	32	S109	礫石器	石皿		粗粒輝石安山岩	破片	15.0cm	+	9.5cm	+	2.2cm	+	525.0g	
55			S103	礫石器	磨石	長形	粗粒輝石安山岩	完形	7.8cm		7.0cm		5.0cm		686.0g	
56			S103	礫石器	磨石	長形	粗粒輝石安山岩	完形	8.5cm		7.5cm		5.0cm		697.0g	
57			S103	礫石器	敲石	円形	粗粒輝石安山岩	完形	9.5cm		8.3cm		6.0cm		589.0g	
58			S103	礫石器	敲石	小長形	粗粒輝石安山岩	完形	7.4cm		4.5cm		3.2cm		147.0g	
59			S103	礫石器	敲石	小円形	粗粒輝石安山岩	完形	6.1cm		4.7cm		3.0cm		95.0g	
60			S103	礫石器	敲石	小円形	粗粒輝石安山岩	完形	4.9cm		3.3cm		3.0cm		66.0g	
61			S103	礫石器	磨石	円形	粗粒輝石安山岩	完形	8.7cm		7.5cm		5.5cm		438.0g	
62			S103	礫石器	磨石	平円形	粗粒輝石安山岩	完形	9.4cm		7.2cm		3.3cm		260.0g	
63	39-78	31	S103	礫石器	磨石	円形	粗粒輝石安山岩	完形	8.9cm		8.5cm		5.3cm		511.0g	
64			S103	礫石器	磨石	平円形	粗粒輝石安山岩	1/2	7.3cm	+	9.9cm	+	6.0cm	+	591.0g	
65			S103	礫石器	磨石+凹石	箱形	粗粒輝石安山岩	完形	11.0cm		6.9cm		3.7cm		—	

石壁No	插图No	図例No	遺構区分	注記番号	区 分	器 種	形 態	石 材	遺存率	長 さ	折れ1	幅	折れ2	厚 さ	折れ3	重 さ	備 考
66	39-79	32	SI03	83	礎石器	砥石		砂岩	完形	8.6cm		8.7cm		4.7cm		446.0g	
67			SI03	81	礎石器	砥石	長形	粗粒輝石安山岩	完形	14.1cm		7.4cm		4.7cm		625.0g	
68			SI05		礎石器	砥石	円形	粗粒輝石安山岩	1/2	7.2cm		5.3cm		3.2cm		349.0g	
69			SI05	10	礎石器	砥石+凹石	長形	粗粒輝石安山岩	完形	14.2cm		7.6cm		4.5cm		647.0g	
70			SI12		礎石器	砥石	平形	粗粒輝石安山岩	完形	11.3cm		9.1cm		4.4cm		469.0g	
71			SI05	炉	礎石器	石皿		粗粒輝石安山岩	破片	12.1cm	+	6.4cm	+	10.5cm	+	516.0g	
72	63-32	32	SI08	c下	有孔砥石			牛伏砂岩?	完形	10.8cm		6.6cm		2.2cm		141.0g	
73			SI08	c上	砥石	砥石		粗粒輝石安山岩	完形	4.9cm		4.6cm		2.9cm		78.0g	
74			SI11	1	礎石器	砥石	小円形	粗粒輝石安山岩	完形	6.9cm		6.0cm		5.3cm		252.0g	
75			SI11		礎石器	砥石	長形	粗粒輝石安山岩	一部欠	10.8cm	+	7.3cm		4.5cm		470.0g	
76			SI11	3	礎石器	石皿		粗粒輝石安山岩	1/3	18.8cm	+	13.9cm	+	10.2cm	+	3,500.0g	
77	51-74	32	SI05		礎石器	石皿		粗粒輝石安山岩	1/3	18.0cm	+	14.9cm	+	6.4cm	+	2,500.0g	
78			SI05		礎石器	砥石	不整形	粗粒輝石安山岩	完形	11.3cm		9.1cm		5.3cm		777.0g	
79			SI05		礎石器	砥石	長形	粗粒輝石安山岩	完形	12.0cm		5.6cm		4.8cm		410.0g	
80		31	SI05	c下	礎石器	砥石	小長形	石英閃緑岩	完形	7.8cm		3.1cm		2.8cm		101.0g	
81	51-79		SI05	c44	礎石器	砥石	小平形	粗粒輝石安山岩	完形	5.8cm		4.4cm		2.5cm		94.0g	
82	51-78		SI05		礎石器	磨石	小円形	粗粒輝石安山岩	完形	5.1cm		4.9cm		3.2cm		94.0g	
83			SI05	82	礎石器	磨石	長形	粗粒輝石安山岩	完形	11.9cm		7.2cm		4.2cm		546.0g	
84			SI05	265	礎石器	石皿		粗粒輝石安山岩	破片	10.6cm	+	7.0cm	+	2.6cm	+	265.0g	
85			SI05	入	礎石器	石皿		粗粒輝石安山岩	破片	19.9cm	+	21.4cm	+	6.8cm	+	580.0g	
86			SI05		礎石器	石皿	凹面	粗粒輝石安山岩	1/3	16.6cm	+	6.1cm	+	6.4cm	+	479.0g	
87			SI06		礎石器	砥石	円形	粗粒輝石安山岩	完形	7.8cm		6.3cm		4.3cm		250.0g	
88			SI06	ベルト	礎石器	砥石	平円形	粗粒輝石安山岩	完形	8.9cm		7.2cm		5.1cm		507.0g	
89			SI06	上	礎石器	砥石	小平形	粗粒輝石安山岩	完形	7.0cm		5.4cm		3.1cm		176.0g	
90			SI06		礎石器	砥石	小長形	粗粒輝石安山岩	完形	8.0cm		5.0cm		4.1cm		203.0g	
91			SI06	上	礎石器	砥石	小長形	粗粒輝石安山岩	完形	7.4cm		3.9cm		1.8cm		77.0g	
92			SI06	ベルト	礎石器	砥石	不整形	粗粒輝石安山岩	1/3	4.5cm	+	7.0cm	+	4.6cm	+	123.0g	
93	57-44	31	SI06	c上	礎石器	磨石	長形	石英閃緑岩	完形	12.2cm		6.3cm		2.4cm		527.0g	
94			SI06	ベルト	礎石器	磨石	箱形	粗粒輝石安山岩	完形	11.0cm		8.1cm		4.7cm		647.0g	
95	57-45	32	SI06		礎石器	石皿	凹面	粗粒輝石安山岩	破片	14.8cm	+	13.0cm	+	7.7cm	+	1,635.0g	
96			SI06	b下	有孔砥石			粗粒輝石安山岩	1/3	8.7cm	+	7.3cm	+	3.0cm	+	221.0g	
97			SI06	c上	砥石	石皿		粗粒輝石安山岩	破片	10.3cm	+	7.1cm	+	4.8cm	+	192.0g	
98			SI08	6	礎石器	砥石	長形	粗粒輝石安山岩	完形	13.2cm		8.7cm		6.1cm		950.0g	
99			SI08		礎石器	磨石	箱形	粗粒輝石安山岩	完形	10.2cm		6.9cm		4.5cm		499.0g	
100			SI08	1	礎石器	磨石	平円形	粗粒輝石安山岩	一部欠	7.4cm		7.0cm		3.9cm		223.0g	
101			SI08	4	礎石器	石皿	大形	粗粒輝石安山岩	完形	18.1cm		10.8cm		6.5cm		1,715.0g	
102			SI08	3	礎石器	磨石	長形	粗粒輝石安山岩	完形	15.5cm		12.1cm		10.0cm		2,150.0g	
103			列石		礎石器	砥石	長形	粗粒輝石安山岩	完形	15.3cm		6.1cm		3.1cm		391.0g	
104			列石	焼土	礎石器	砥石	箱形	細粒輝石安山岩	完形	12.1cm		7.0cm		3.9cm		564.0g	
105	21-20	31	列石	焼土	礎石器	砥石	小長形	粗粒輝石安山岩	完形	7.4cm		3.1cm		1.8cm		56.0g	

観 覧 表

石器No.	図例No.	遺構区分	注記番号	区分	器 種	形 態	石 材	遺存率	長 さ	折れ1	幅	折れ2	厚 さ	折れ3	重 さ	備 考
106		列石	焼土	礫石器	敲石	小平形	粗粒輝石安山岩	完形	5.8cm		4.8cm		2.6cm		98.0g	
107	21-21	列石	焼土	礫石器	敲石	小円形	粗粒輝石安山岩	完形	3.8cm		3.4cm		2.4cm		49.0g	
108		列石	焼土	礫石器	敲石	平形	粗粒輝石安山岩	完形	7.5cm		5.4cm		2.6cm		147.0g	
109	21-19	2区	13	礫石器	磨石	平形	粗粒輝石安山岩	完形	15.1cm		10.5cm		5.3cm		1,079.0g	
110	21-18	列石	3	礫石器	石皿	凹面	粗粒輝石安山岩	破片	9.3cm	+	27.1cm	+	10.3cm		2,000.0g	
111	21-17	列石		礫石器	石棒?		粗粒輝石安山岩	破片	11.0cm		10.4cm		9.5cm		1,387.0g	
112		SI17	24	礫石器	敲石	平形	粗粒輝石安山岩	完形	11.1cm		8.2cm		3.1cm		375.0g	
113		SI17	21	礫石器	敲石+磨石	平形	粗粒輝石安山岩	完形	12.7cm		7.8cm		3.9cm		55-	
114	90-22	31	SI17	礫石器	敲石	箱形	粗粒輝石安山岩	完形	10.6cm		7.5cm		4.6cm		538.0g	
115	90-21	31	SI17	礫石器	敲石	小平形	粗粒輝石安山岩	完形	7.4cm		4.8cm		2.4cm		116.0g	
116		SI17	掘	礫石器	敲石	小円形	粗粒輝石安山岩	完形	4.5cm		3.2cm		3.0cm		63.0g	
117		SI17	24	礫石器	磨石+凹石	箱形	粗粒輝石安山岩	完形	11.3cm		7.4cm		4.1cm		447.0g	
118		SI17	19	礫石器	磨石	平形	粗粒輝石安山岩	1/2	10.5cm	+	6.0cm	+	2.5cm	+	189.0g	
119		SI17	8	礫石器	磨石	平形	粗粒輝石安山岩	1/2	10.6cm	+	7.4cm	+	3.5cm	+	37-	
120	90-23	32	SI17	礫石器	石皿		粗粒輝石安山岩	1/3	15.6cm	+	10.0cm	+	3.7cm	+	684.0g	
121		SI17	17	礫石器	石皿		粗粒輝石安山岩	1/3	21.0cm	+	24.1cm	+	8.1cm	+	5,900.0g	
122		SI18		礫石器	敲石	長形	粗粒輝石安山岩	完形	16.6cm		6.6cm		3.4cm		385.0g	
123		SI18		礫石器	敲石	長形	粗粒輝石安山岩	完形	8.9cm		4.6cm		2.3cm		142.0g	
124		SI18		礫石器	敲石	長形	粗粒輝石安山岩	完形	9.2cm		5.6cm		2.8cm		205.0g	
125		SI18		礫石器	敲石	箱形	粗粒輝石安山岩	完形	11.6cm		7.4cm		4.3cm		557.0g	
126		SI18	13	礫石器	敲石	長形	粗粒輝石安山岩	完形	12.2cm		5.0cm		3.2cm		303.0g	
127		SI18	炉	礫石器	敲石	小長形	粗粒輝石安山岩	完形	6.3cm		4.0cm		3.1cm		116.0g	
128		SI18	埋	礫石器	磨石	平形	粗粒輝石安山岩	完形	9.5cm		6.9cm		2.9cm		270.0g	
129	93-18	32	SI18	礫石器	石皿	平形	粗粒輝石安山岩	完形	15.2cm		12.1cm		3.2cm		1,076.0g	
130	93-17		SI18	礫石器	敲石+磨石		粗粒輝石安山岩	完形	14.1cm		9.5cm		3.8cm		808.0g	
131		SI19	炉	礫石器	敲石+凹石	平形	粗粒輝石安山岩	完形	11.0cm		7.7cm		4.0cm		496.0g	
132	96-21	31	SI19	礫石器	敲石	長形	粗粒輝石安山岩	完形	14.5cm		5.2cm		4.0cm		512.0g	
133		SI14	18	礫石器	敲石	長形	粗粒輝石安山岩	完形	13.6cm		6.9cm		5.3cm		675.0g	
134		SI19		礫石器	磨石	平形	粗粒輝石安山岩	2/3	10.4cm	+	9.2cm		4.3cm		615.0g	
135	96-20	32	SI19	礫石器	石棒?		粗粒輝石安山岩	破片	8.5cm		7.7cm		5.2cm		467.0g	
136	96-22	32	SI19	礫石器	石皿	凹面	粗粒輝石安山岩	破片	12.6cm	+	7.2cm	+	3.5cm	+	270.0g	
137	57-46	32	SI06	礫石器	石皿	凹面	粗粒輝石安山岩	1/2	33.8cm		28.6cm		10.8cm		12500g	
138	60-17	32	SI07	礫石器	石皿	凹面	熔結凝灰岩	完形	40.1cm		31.0cm		11.1cm		17300g	相席太子火砕流堆積物
139		SI05	169	礫石器	敲石	箱形	粗粒輝石安山岩	完形	10.5cm		6.2cm		3.7cm		380.0g	
140		SI05	28	礫石器	敲石	箱形	粗粒輝石安山岩	完形	11.1cm		8.0cm		5.8cm		748.0g	
141	51-77	31	SI05	礫石器	磨石	大形	粗粒輝石安山岩	完形	14.0cm		11.9cm		8.9cm		1,822.0g	
142		SI05	27	礫石器	磨石	大形	粗粒輝石安山岩	完形	16.9cm		13.9cm		10.7cm		2,950.0g	
143		SI01		礫石器	敲石	円形	粗粒輝石安山岩	完形	7.3cm		7.2cm		5.0cm		335.0g	
144	134-97	32	2区	礫石器	石鏟		粗粒輝石安山岩	完形	6.5cm		6.6cm		5.5cm		274.0g	
145		SK06	焼土	礫石器	敲石	長形	粗粒輝石安山岩	完形	11.6cm		6.3cm		5.4cm		535.0g	

観 察 表

石器No	挿区No	図例No	遺構区分	注記番号	区分	器 種	形 態	石 材	遺存率	長 さ	折れ1	幅	折れ2	厚 さ	折れ3	重 さ	備 考
146	107-64	31	礫石器	埋藏1	磨石	扁平形	粗粒輝石安山岩	完形	7.4cm		7.0cm		4.0cm		276.0g		
147			礫石器		敲石	小長形	粗粒輝石安山岩	完形	7.0cm		5.0cm		3.3cm		138.0g		
148			礫石器		敲石	小長形	粗粒輝石安山岩	完形	10.3cm		4.1cm		4.0cm		255.0g		
149	119-81	32	礫石器		凹石	長形	粗粒輝石安山岩	2/3	13.0cm		6.2cm		3.2cm	+	265.0g		
150	13-3	32	礫石器		凹石	長形	粗粒輝石安山岩	完形	9.8cm		6.1cm		4.0cm		279.0g		
151			礫石器		敲石	平形	粗粒輝石安山岩	完形	8.5cm		6.3cm		2.6cm		224.0g		
152			礫石器		磨石+凹石	箱形	粗粒輝石安山岩	完形	12.0cm		7.9cm		5.4cm		663.0g		
153			礫石器		敲石	平形	珪質安山岩	完形	9.5cm		5.4cm		3.5cm		231.0g		
154			礫石器		磨石	平形	粗粒輝石安山岩	完形	10.8cm		9.5cm		5.5cm		805.0g		
155			礫石器	焼土	磨石	不明	石英閃緑岩	破片	7.5cm		6.9cm	+	2.8cm	+	129.0g		
156			礫石器	焼土	敲石	長形	粗粒輝石安山岩	完形	10.0cm		5.2cm		2.1cm		151.0g		
157			礫石器	焼土	敲石	箱形	粗粒輝石安山岩	一部欠	11.0cm		8.4cm		6.1cm		550.0g		
158	107-63		礫石器	焼土	磨石	箱形	粗粒輝石安山岩	完形	12.2cm		6.4cm		4.9cm		491.0g		
159	30-72	31	礫石器		磨石	箱形	粗粒輝石安山岩	完形	10.0cm		7.4cm		5.0cm		473.0g		
160			礫石器		磨石	箱形	粗粒輝石安山岩	完形	7.8cm		6.9cm		6.2cm		400.0g		
161			礫石器		敲石	円形	粗粒輝石安山岩	完形	12.3cm		6.7cm		5.0cm		593.0g		
162			礫石器		有孔砥石	箱形	粗粒輝石安山岩	1/2	6.8cm		4.5cm	+	1.1cm		36.0g		
163			礫石器		有孔砥石	平形?	粗粒輝石安山岩	1/2	8.1cm		6.7cm	+	2.0cm	+	85.0g		
164			礫石器		磨石	平形?	粗粒輝石安山岩	破片	9.7cm		9.0cm	+	2.5cm	+	262.0g		
165	51-75	31	礫石器		磨石+凹石	箱形	粗粒輝石安山岩	完形	10.2cm		7.7cm		4.6cm		498.0g		
166			礫石器		磨石+凹石	箱形	粗粒輝石安山岩	完形	8.9cm		6.5cm		3.5cm		262.0g		
167	51-76	31	礫石器		磨石+凹石	小平形	粗粒輝石安山岩	完形	5.6cm		5.6cm		2.6cm		92.0g		
168	78-94	31	礫石器		敲石	長形	粗粒輝石安山岩	完形	16.1cm		7.1cm		4.5cm		657.0g		
169			礫石器		敲石	長形	粗粒輝石安山岩	完形	10.8cm		3.7cm		3.7cm		267.0g		
170	78-93	31	礫石器		敲石	箱形	粗粒輝石安山岩	完形	8.5cm		5.7cm		4.4cm		300.0g	赤色顔料原石?	
171			その他		原石		粗粒輝石安山岩	完形	5.2cm		4.2cm		4.5cm		78.0g		
172			礫石器	P20	凹石	箱形	粗粒輝石安山岩	完形	8.9cm		7.4cm		5.8cm		507.0g		
173			礫石器	周1	磨石+凹石	箱形	粗粒輝石安山岩	完形	9.3cm		7.0cm		4.1cm		407.0g		
174	63-33	31	礫石器		敲石+凹石	箱形	粗粒輝石安山岩	完形	10.1cm		7.0cm		5.0cm		443.0g		
175	13-2	31	礫石器		磨石	平形	粗粒輝石安山岩	完形	10.3cm		7.0cm		3.7cm		344.0g		
176			礫石器	11	磨石	長形	粗粒輝石安山岩	完形	10.0cm		4.4cm		3.2cm		180.0g		
177			礫石器		敲石	箱形	粗粒輝石安山岩	一部欠	10.9cm		7.6cm	+	5.5cm		619.0g		
178			礫石器		磨石+凹石	箱形	粗粒輝石安山岩	完形	12.1cm		6.0cm		4.4cm		463.0g		
179			礫石器		敲石	長形	粗粒輝石安山岩	破片	9.6cm		5.5cm	+	5.3cm	+	275.0g		
180			礫石器		石皿	凹面	粗粒輝石安山岩	2/3	13.3cm		5.4cm	+	5.4cm	+	409.0g		
181			礫石器		敲石	長形	ヒン岩	2/3	13.3cm		5.4cm	+	5.4cm	+	409.0g		
182			礫石器		磨石+凹石	箱形	粗粒輝石安山岩	1/2	7.3cm		7.8cm		3.9cm		332.0g		
183			礫石器		敲石	小長形	粗粒輝石安山岩	完形	5.4cm		3.3cm		2.6cm		70.0g		
184			礫石器		敲石	平形	粗粒輝石安山岩	完形	9.6cm		5.6cm		3.5cm		286.0g		
185	119-83	31	礫石器		磨石	円形	粗粒輝石安山岩	完形	8.9cm		8.3cm		8.0cm		821.0g		
			礫石器		石皿		粗粒輝石安山岩	破片	18.0cm		8.3cm		8.4cm		1,170.0g		

製 表

石器No	挿図No	國産No	遺構区分	注記番号	区分	器種	形態	石材	遺存率	長さ	折れ1	幅	折れ2	厚さ	折れ3	重さ	備考
186	119-85	32	SK27		石器	石器		粗粒輝石安山岩	一部欠	19.2cm		18.7cm		6.4cm		3,000.0g	
187	38-68	32	SI03	49	石器製品	容器状		軽石	1/2	9.2cm	+	7.7cm		7.0cm		74.0g	
188	134-98	32	2区		石器製品	球形		軽石	完形	6.3cm		5.8cm		3.6cm		62.0g	
189	76-69	32	SI10	上	石器製品	棒状		軽石	完形	4.3cm		3.2cm		3.2cm		18.0g	
190	57-37	32	SI06	d上	石器製品	棒状		軽石	完形	7.2cm		4.1cm		3.1cm		49.0g	
191	38-69		SI03	42	石器製品	容器状		軽石	完形	8.3cm		7.0cm		4.1cm		80.0g	
192			SK51		石器製品	その他		軽石	1/2	5.1cm	+	2.8cm	+	2.7cm		11.0g	有孔
193	49-58	32	SI05		石器製品	板状		軽石	完形	9.7cm		5.7cm		1.8cm		55.0g	
194			SI06	c上	石器製品	その他		軽石	完形	6.3cm		5.0cm		4.1cm		28.0g	
195			SI06		石器製品	その他		軽石	完形	5.3cm		3.9cm		3.2cm		16.0g	
196		32	SI06		石器製品	その他		軽石	完形	4.4cm		3.1cm		1.8cm		6.0g	
197			SI06	ベルト	石器製品	その他		軽石	完形	6.3cm		3.0cm		2.0cm		9.0g	
198			SI02	b	石器製品	その他		軽石	完形	2.4cm		2.3cm		1.3cm		4.0g	
199			SI10		石器製品	その他		軽石	完形	6.1cm		5.3cm		3.7cm		27.0g	
200			SI18		石器製品	板状		軽石	1/2	6.0cm		3.6cm		1.3cm		11.0g	
201	85-12	32	SI14	3	石器製品	板状		軽石	完形	10.3cm		5.2cm		2.3cm		127.0g	
202			SI02		石器製品	その他		軽石	一部欠	4.8cm	+	3.4cm		1.4cm		7.0g	
203			SI02		石器製品	球形		軽石	完形	4.9cm		3.6cm		3.1cm		15.0g	
204	29-65	32	SI02		石器製品	棒状		軽石	完形	5.2cm		4.3cm		2.8cm		61.0g	
205			SI03		石器製品	その他		軽石	完形	8.7cm		4.0cm		2.0cm		10.0g	
206		1区			石器製品	その他		軽石	完形	4.1cm		2.9cm		1.4cm		5.0g	
207			SI03	a下	石器製品	その他		軽石	完形	4.3cm		4.3cm		2.9cm		15.0g	
208			SI05		石器製品	球形		軽石	完形	3.8cm		3.6cm		3.0cm		26.0g	
209			SI03		石器製品	その他		軽石	完形	7.6cm		6.0cm		2.3cm		23.0g	
210	49-57		SI05	入	石器製品	球形		軽石	完形	4.5cm		2.5cm		2.1cm		15.0g	
211			SI05	上	石器製品	その他		軽石	完形	3.5cm		3.2cm		1.3cm		6.0g	
212			SI10		石器製品	その他		軽石	1/2	3.1cm	+	4.0cm	+	2.0cm		11.0g	
213		32	SI10		石器製品	球形		軽石	完形	3.4cm		3.1cm		2.3cm		9.0g	
214			1区		石器製品	球形		軽石	1/3	3.1cm	+	4.5cm	+	3.7cm		56.0g	
215			2区		石器製品	その他		軽石	破片	3.1cm	+	2.5cm	+	1.2cm		3.0g	
216			SI07	2	石器	平形		粗粒輝石安山岩	完形	8.9cm		7.2cm		3.9cm		336.0g	赤色付着物
217	119-82	31	SK33		石器	箱形		粗粒輝石安山岩	完形	12.0cm		8.7cm		4.4cm		729.0g	
218	119-84	31	SK33		石器	平形		粗粒輝石安山岩	完形	11.1cm		8.9cm		4.4cm		655.0g	
219			SK33		石器	箱形		粗粒輝石安山岩	完形	12.6cm		8.2cm		5.0cm		636.0g	
220			SK33		石器	箱形		石英閃緑岩	破片	14.0cm	+	10.5cm	+	5.4cm		1,098.0g	
221			SI03		石器製品	その他		粗粒輝石安山岩	破片	2.2cm	+	1.9cm	+	1.4cm		2.0g	
222			SI10	a	石器	箱形		粗粒輝石安山岩	1/2	7.8cm	+	7.1cm	+	6.1cm		410.0g	
223	78-91	31	SI10	36	石器	箱形		粗粒輝石安山岩	完形	11.3cm		7.4cm		4.9cm		673.0g	
224			SI02	b炉	石器	箱形		粗粒輝石安山岩	破片	9.8cm	+	5.4cm	+	5.4cm		315.0g	
225			SI02	b炉	石器	箱形		粗粒輝石安山岩	破片	17.3cm	+	11.9cm	+	7.5cm		2,500.0g	

石器No	挿図No	図説No	遺構区分	注記番号	区分	器種	形態	石材	遺存率	長さ	折れ口	幅	折れ2	厚さ	折れ3	重さ	備考
226			SI10		礫石器	磨石	長形	粗粒輝石安山岩	1/2	8.5cm	+	5.4cm		3.1cm		240.0g	
227			SI02		打製石斧類	剝片	単剝離面打面	黑色頁岩	完形	2.0cm	+	3.4cm	+	0.8cm		4.0g	
228			SI05		礫石器	敲石	凹形	粗粒輝石安山岩	1/2	9.1cm		7.4cm		4.3cm	+	350.0g	
229	68-30	29	SI05		打製石斧類	打製石斧	凸形	粗粒輝石安山岩	一部欠	11.0cm	+	5.9cm		3.1cm		223.0g	
230			SI09	c	打製石斧類	打製石斧	平形	粗粒輝石安山岩	一部欠	10.6cm	+	5.6cm		2.0cm		124.0g	
231	68-29	29	SI09		打製石斧類	打製石斧	凸バチ形	粗粒輝石安山岩	一部欠	10.5cm	+	6.2cm		2.6cm		209.0g	
232			SI09	c上	打製石斧類	打製石斧	平細形	黑色頁岩	2/3	7.6cm	+	2.7cm		0.9cm		22.0g	
233			SI09	b下	打製石斧類	打製石斧	平形	粗粒輝石安山岩	1/2	7.1cm	+	3.9cm		1.6cm		52.0g	
234			SI09		打製石斧類	打製石斧	平形	粗粒輝石安山岩	破片	6.9cm	+	4.8cm		1.5cm		56.0g	
235			SI09	c上	打製石斧類	打製石斧	平形	粗粒輝石安山岩	完形	6.3cm	+	5.3cm	+	1.9cm		57.0g	
236	68-32	30	SI09	b上	打製石斧類	削器A	横形両刃	黑色頁岩	完形	7.6cm	+	6.0cm		1.4cm		53.0g	
237	68-31		SI09		打製石斧類	削器A	横形斜向	頁岩	完形	7.6cm	+	3.2cm	+	0.7cm		19.0g	
238			SI09		打製石斧類	二次加工ある剝片		細粒輝石安山岩	1/2	3.4cm	+	4.0cm	+	1.1cm		15.0g	
239			SI09		打製石斧類	剝片	礫面打面	粗粒輝石安山岩	一部欠								
240			SI09		打製石斧類	剝片	折れ	黑色頁岩	2/3								
241			SI10	22	礫石器	敲石	小平形	粗粒輝石安山岩	完形	4.8cm		4.7cm		2.3cm		77.0g	
242			SI09		礫石器	敲石	小凹形	粗粒輝石安山岩	完形	6.4cm		5.0cm		4.8cm		168.0g	
243			SI10	上	礫石器	敲石	小長形	粗粒輝石安山岩	完形	5.9cm		3.8cm		2.6cm		83.0g	
244			SI10	29	礫石器	磨石+凹石	箱形	粗粒輝石安山岩	1/2	7.8cm	+	7.6cm	+	5.0cm	+	358.0g	
245			SI10	a	礫石器	敲石	小凹形	粗粒輝石安山岩	完形	5.4cm		4.8cm		3.6cm		111.0g	
246	30-73	31	SI02	b周	礫石器	磨石	平凹形	粗粒輝石安山岩	完形	10.1cm		9.5cm		5.1cm		784.0g	
247			SI14	14	礫石器	石皿	凹面	粗粒輝石安山岩	1/2	15.8cm		11.5cm		3.6cm		1,027.0g	
248			SI14	12	礫石器	石皿	凹面	粗粒輝石安山岩	1/2	21.3cm		16.7cm		6.1cm		3,500.0g	
249			SF01		打製石斧類	打製石斧	平形	粗粒輝石安山岩	1/3	4.0cm	+	5.6cm		1.1cm		38.0g	
250	128-3	30	SF01		打製石斧類	削器A	横形両刃	黑色頁岩	完形	5.0cm		6.2cm		0.9cm		27.0g	
251			SF01		打製石斧類	剝片	礫面打面	黑色頁岩	完形								
252			SF01		打製石斧類	剝片	単剝離打面	細粒輝石安山岩	完形								
253	30-69	29	SI02	b	打製石斧類	打製石斧	平形	珪質頁岩	完形	10.2cm		4.2cm		1.6cm		72.0g	
254	30-67	29	SI02	b	打製石斧類	打製石斧	凸形	珪質頁岩	完形	12.3cm		5.1cm		2.4cm		172.0g	
255	30-70	29	SI02	b	打製石斧類	打製石斧	平形	黑色頁岩	一部欠	9.8cm	+	5.1cm		2.4cm		172.0g	
256	30-68	29	SI02		打製石斧類	打製石斧	凸形	黑色頁岩	完形	11.0cm		4.5cm		2.3cm		138.0g	
257			SF01		打製石斧類	打製石斧	平形	細粒輝石安山岩	1/2	8.8cm	+	5.6cm		1.5cm		89.0g	
258			SI02	15	打製石斧類	打製石斧	平形	黑色頁岩	2/3	8.1cm	+	4.7cm		1.0cm		57.0g	
259			SI02		打製石斧類	打製石斧	凸形	硬質泥岩	1/2	7.0cm	+	4.6cm		2.2cm		94.0g	
260			SI02	b上	打製石斧類	打製石斧	凸バチ形	細粒輝石安山岩	2/3	6.9cm	+	4.7cm		1.7cm		62.0g	
261			SI02	b炉	打製石斧類	打製石斧	凸形	細粒輝石安山岩	1/3	5.1cm	+	4.3cm		1.9cm		44.0g	
262			SI02	c上	打製石斧類	打製石斧	平形	黑色頁岩	破片	2.4cm	+	4.5cm	+	1.0cm		9.0g	
263			SI02		打製石斧類	打製石斧	平形	黑色頁岩	破片	2.8cm	+	3.6cm	+	1.1cm		14.0g	
264			SI02	c上	打製石斧類	打製石斧	平形	變質安山岩	破片	4.8cm	+	5.8cm	+	1.1cm		41.0g	
265			SI02	b上	打製石斧類	剝片	大形	細粒輝石安山岩	2/3								

観 察 表

石器No	図No	図No	遺構区分	注記番号	区分	器種	形態	石材	材	遺存率	長さ	折れ1	幅	折れ2	厚さ	折れ3	重さ	備	考
266			S102		打製石斧類	剝片	大形	細粒輝石安山岩		一部欠	—				—		—		
267		31	S104	d上	打製石斧類	剝片	単剥離面打面	細粒輝石安山岩		完形	—				—		—		
268			S102	b上	打製石斧類	打斧整形剝片	階段状	黒色頁岩		完形	—				—		—		
269		30	S102	c上	打製石斧類	削器A	楕形両刃	黒色頁岩		1/2	4.5cm		9.0cm		1.4cm		46.0g		
270			S102	c上	打製石斧類	削器A	横形両刃	黒色頁岩		1/3	4.3cm		4.0cm		0.6cm		10.0g		
271			S102	c上	打製石斧類	打斧整形剝片	階段状	黒色頁岩		完形	—				—		—		
272			S102	c上	打製石斧類	剝片	折れ	粗粒輝石安山岩		1/3	—				—		—		
273			S102	b上	打製石斧類	剝片	単剥離面打面	黒色頁岩		完形	—				—		—		
274			S102	c上	打製石斧類	打斧整形剝片	階段状	黒色頁岩		完形	—				—		—		
275			S102	c上	打製石斧類	剝片	礫面打面	粗粒輝石安山岩		完形	—				—		—		
276			S104	d上	打製石斧類	打斧整形剝片	折れ	粗粒輝石安山岩		一部欠	—				—		—		
277			S102	c上	打製石斧類	打斧整形剝片	折れ	黒色頁岩		完形	—				—		—		
278			S102		打製石斧類	剝片	礫面打面	細粒輝石安山岩		一部欠	—				—		—		
279			S102	c上	打製石斧類	打斧整形剝片	折れ	細粒輝石安山岩		1/2	—				—		—		
280			S102		打製石斧類	打斧整形剝片	階段状	粗粒輝石安山岩		一部欠	—				—		—		
281			S102	b上	打製石斧類	打斧整形剝片	折れ	粗粒輝石安山岩		一部欠	—				—		—		
282			S102		打製石斧類	打斧整形剝片	階段状	細粒輝石安山岩		一部欠	—				—		—		
283			S102	c上	打製石斧類	打斧整形剝片	階段状	粗粒輝石安山岩		一部欠	—				—		—		
284			S102	c上	打製石斧類	打斧整形剝片	階段状	頁岩		一部欠	—				—		—		
285			S102	c上	打製石斧類	打斧整形剝片	折れ	粗粒輝石安山岩		一部欠	—				—		—		
286			S102	c上	打製石斧類	打斧整形剝片	階段状	黒色安山岩		完形	—				—		—		
287			S102	b上	打製石斧類	打斧整形剝片	階段状	粗粒輝石安山岩		完形	—				—		—		
288			S102	b上	打製石斧類	打斧整形剝片	階段状	粗粒輝石安山岩		完形	—				—		—		
289			S102	c上	打製石斧類	剝片	単剥離面打面	黒色安山岩		完形	—				—		—		
290			S109		打製石斧類	剝片	折れ	粗粒輝石安山岩		一部欠	—				—		—		
291			S108		打製石斧類	削器A	横形両刃	頁岩		1/2	4.4cm		3.3cm		0.8cm		11.0g		
292			S108		打製石斧類	剝片	折れ	粗粒輝石安山岩		1/2	—				—		—		
293			S108		打製石斧類	打製石斧	平形	細粒輝石安山岩		破片	4.8cm		5.2cm		1.0cm		30.0g		
294			S108		打製石斧類	剝片	複剥離面打面	黒色頁岩		完形	4.6cm		4.8cm		1.9cm		41.0g		
295			S108	ab上	打製石斧類	打製石斧	平形	黒色頁岩		1/3	4.3cm		4.3cm		1.0cm		18.0g		
296			S108	d上	打製石斧類	打斧整形剝片	折れ	粗粒輝石安山岩		一部欠	3.3cm		3.4cm		0.5cm		5.0g		
297			列石	焼土	打製石斧類	打製石斧	平バチ形	粗粒輝石安山岩		1/2	7.3cm		5.0cm		1.5cm		65.0g		
298			列石		打製石斧類	打製石斧	平形	黒色頁岩		破片	4.2cm		3.7cm		1.6cm		22.0g		
299			列石	焼土	打製石斧類	打製石斧	平形	粗粒輝石安山岩		1/2	5.9cm		4.2cm		1.1cm		38.0g		
300			列石	焼土	打製石斧類	打製石斧	平形	粗粒輝石安山岩		破片	5.0cm		4.9cm		1.1cm		42.0g		
301			列石	焼土	打製石斧類	削器A	横形両刃	黒色頁岩		完形	3.3cm		6.2cm		1.0cm		16.0g		
302			列石	焼土	打製石斧類	削器A	横形錯向	黒色頁岩		完形	4.0cm		0.8cm		1.1cm		29.0g		
303			列石	焼土	打製石斧類	剝片	大形	粗粒輝石安山岩		一部欠	—				—		—		
304			列石	焼土	打製石斧類	打斧整形剝片	階段状	細粒輝石安山岩		1/2	—				—		—		
305			列石	焼土	打製石斧類	剝片	大形	細粒輝石安山岩		1/2	—				—		—		

石器No	挿図No	図説No	遺構区分	注記番号	区分	器 種	形 態	石 材	遺存率	長 さ	折れ1	幅	折れ2	厚 さ	折れ3	重 さ	備 考
306			列石	焼土	打製石斧類	剝片	単刃離打面	細粒輝石安山岩	1/2	—	—	—	—	—	—	—	—
307			列石	焼土	打製石斧類	打斧整形剝片	単刃離打面	黒色頁岩	完形	—	—	—	—	—	—	—	—
308			列石	焼土	打製石斧類	打斧整形剝片	階段状	黒色頁岩	完形	—	—	—	—	—	—	—	—
309			列石	焼土	打製石斧類	打斧整形剝片	階段状	黒色頁岩	完形	—	—	—	—	—	—	—	—
310	20-9	29	列石	6	打製石斧類	打製石斧	平大形	黒色頁岩	完形	15.3cm	+	5.5cm	—	1.9cm	—	156.0g	—
311	20-6	29	列石	17	打製石斧類	打製石斧	平大形	黒色頁岩	完形	18.6cm	+	6.3cm	—	2.9cm	—	296.0g	—
312	21-12	29	列石	7	打製石斧類	打製石斧	平大バチ形	細粒輝石安山岩	完形	18.6cm	+	6.8cm	—	2.1cm	—	327.0g	—
313	20-5	29	列石	焼土	打製石斧類	打製石斧	凸大形	粗粒輝石安山岩	完形	19.4cm	+	9.0cm	—	4.2cm	—	705.0g	石核素材?
314			列石	25	打製石斧類	打製石斧	平形	黒色頁岩	一部欠	10.4cm	+	4.1cm	—	1.8cm	—	86.0g	—
315	21-13	29	列石	24	打製石斧類	打製石斧	平形	細粒輝石安山岩	2/3	9.0cm	+	5.5cm	—	1.4cm	—	101.0g	—
316			列石	12	打製石斧類	打製石斧	平形	細粒輝石安山岩	2/3	9.8cm	+	5.3cm	—	2.4cm	—	154.0g	—
317	21-14	29	列石	14	打製石斧類	打製石斧	平形	細粒輝石安山岩	完形	7.8cm	+	5.0cm	—	1.9cm	—	103.0g	刃部再生?
318			列石		打製石斧類	打製石斧	平形	粗粒輝石安山岩	2/3	7.1cm	+	4.5cm	—	1.9cm	—	69.0g	—
319	20-8	29	列石	焼土	打製石斧類	打製石斧	平形	黒色頁岩	完形	10.0cm	+	5.2cm	—	2.0cm	—	82.0g	石核素材?
320	20-11	29	列石	20	打製石斧類	打製石斧	平形	黒色頁岩	完形	10.3cm	+	5.7cm	—	1.8cm	—	82.0g	—
321	20-4	29	列石	18	打製石斧類	打製石斧	平形	細粒輝石安山岩	完形	12.4cm	+	5.8cm	—	2.0cm	—	145.0g	—
322			列石		打製石斧類	打製石斧	凸形	細粒輝石安山岩	2/3	11.3cm	+	6.6cm	—	3.0cm	—	266.0g	—
323			列石		打製石斧類	打製石斧	平形	粗粒輝石安山岩	2/3	9.8cm	+	5.1cm	—	2.1cm	—	128.0g	—
324	20-7	29	列石	焼土	打製石斧類	打製石斧	平形	細粒輝石安山岩	完形	10.9cm	+	4.5cm	—	1.2cm	—	80.0g	一側縁
325	21-15	29	列石	焼土	打製石斧類	打製石斧	平形	黒色頁岩	2/3	8.5cm	+	5.6cm	—	1.7cm	—	99.0g	—
326	21-16	29	列石	21	打製石斧類	打製石斧	平大形	細粒輝石安山岩	1/2	9.8cm	+	8.7cm	—	2.1cm	—	183.0g	—
327	20-10		列石	7	打製石斧類	打斧未製品	平形	黒色頁岩	完形	11.9cm	+	4.8cm	—	1.4cm	—	74.0g	—
328	39-73	29	S103		打製石斧類	打製石斧	平形	変質安山岩	2/3	10.1cm	+	5.7cm	—	1.3cm	—	96.0g	—
329			S103	床	打製石斧類	打製石斧	凸形	黒色頁岩	一部欠	9.3cm	+	3.8cm	+	1.8cm	—	89.0g	—
330			S103	b下	打製石斧類	打製石斧	平形	黒色頁岩	破片	4.0cm	+	3.6cm	+	1.1cm	—	20.0g	—
331			S103		打製石斧類	打製石斧	平形	細粒輝石安山岩	1/3	7.7cm	+	5.1cm	—	1.2cm	—	66.0g	—
332	39-74	29	S103		打製石斧類	打製石斧	平形	緑色片岩	1/2	8.2cm	+	4.3cm	—	1.4cm	—	68.0g	—
333	39-75	29	S103		打製石斧類	打製石斧	平形	黒色頁岩	完形	6.7cm	+	3.9cm	—	1.5cm	—	42.0g	—
334	39-77	30	S103	21	打製石斧類	片刃礫器	平形	黒色頁岩	完形	7.8cm	+	10.1cm	—	4.3cm	—	377.0g	—
335			S103	b下	打製石斧類	打製石斧	平形	緑色片岩	破片	3.3cm	+	6.4cm	—	1.1cm	—	28.0g	—
336			S103	113	打製石斧類	削器A	横形片刃	黒色頁岩	2/3	4.4cm	+	6.9cm	—	0.5cm	—	16.0g	階段状打面
337			S103		打製石斧類	削器A	縦形両刃	ガラス質安山岩	1/2	5.4cm	+	2.8cm	—	1.0cm	—	18.0g	八風山?
338	38-72	31	S103	b下	打製石斧類	削器A	横形両刃	細粒輝石安山岩	1/2	7.2cm	+	7.3cm	—	2.1cm	—	104.0g	—
339			S103	b131	打製石斧類	剝片	折れ	細粒輝石安山岩	2/3	15.0cm	+	5.8cm	—	2.5cm	—	172.0g	—
340			S103	d上	打製石斧類	剝片	礫面打面	細粒輝石安山岩	完形	7.0cm	+	7.1cm	—	1.4cm	—	61.0g	—
341			S103	76	打製石斧類	剝片	復刻離打面	細粒輝石安山岩	完形	5.3cm	+	9.0cm	—	3.0cm	—	119.0g	—
342			S103		打製石斧類	剝片	折れ	細粒輝石安山岩	1/2	—	+	—	—	—	—	—	—
343			S103	118	打製石斧類	剝片	単刃離打面	粗粒輝石安山岩	完形	—	+	—	—	—	—	—	—
344			S103		打製石斧類	剝片	単刃離打面	粗粒輝石安山岩	完形	—	+	—	—	—	—	—	—
345			S103	b上	打製石斧類	剝片	折れ	細粒輝石安山岩	完形	—	+	—	—	—	—	—	—

観 察 表

石器№	挿図№	図説№	遺構区分	注記番号	区 分	器 種	形 態	石 材	遺存率	長 さ	折れ1	幅	折れ2	厚 さ	折れ3	重 さ	備 考
346			SI03		打製石斧類	剝片	礫面打面	細粒輝石安山岩	1/2	—	—	—	—	—	—	—	
347			SI03		打製石斧類	剝片	折れ	細粒輝石安山岩	1/2	—	—	—	—	—	—	—	
348			SI03		打製石斧類	剝片	折れ	ガラス質安山岩	1/2	—	—	—	—	—	—	—	
349			SI03		打製石斧類	剝片	単刺離打面	黒色頁岩	1/2	—	—	—	—	—	—	—	
350			SI03	102	打製石斧類	剝片	階段状	黒色頁岩	完形	—	—	—	—	—	—	—	
351			SI03		打製石斧類	削器A	横形両刃	黒色安山岩	一部欠	4.2cm	—	3.5cm	—	0.7cm	—	13.0g	
352			SI03	b上	打製石斧類	剝片	階段状	細粒輝石安山岩	1/2	—	—	—	—	—	—	—	
353			SI03		打製石斧類	剝片	折れ	粗粒輝石安山岩	一部欠	—	—	—	—	—	—	—	
354			SI03	c下	打製石斧類	剝片	階段状	ガラス質安山岩	1/2	—	—	—	—	—	—	—	
355			SI03		打製石斧類	剝片	階段状	細粒輝石安山岩	完形	—	—	—	—	—	—	—	
356			SI03		打製石斧類	剝片	階段状	粗粒輝石安山岩	1/2	—	—	—	—	—	—	—	
357			SI03	b上	打製石斧類	剝片	折れ	細粒輝石安山岩	一部欠	—	—	—	—	—	—	—	
358			SI03		打製石斧類	剝片	階段状	黒色頁岩	一部欠	—	—	—	—	—	—	—	
359			SI03	105	打製石斧類	剝片	階段状	黒色頁岩	2/3	—	—	—	—	—	—	—	
360			SI03		打製石斧類	剝片	階段状	黒色頁岩	完形	—	—	—	—	—	—	—	
361	92-14	29	SI18		打製石斧類	打製石斧	平ハナ形	黒色頁岩	完形	5.3cm	—	4.4cm	—	1.1cm	—	25.0g	刃部再生?
362	93-15	29	SI18		打製石斧類	打製石斧	平形	黒色頁岩	一部欠	12.0cm	+	4.3cm	—	1.2cm	—	64.0g	
363			SI18		打製石斧類	打製石斧	平分銅形	細粒輝石安山岩	2/3	9.3cm	+	5.0cm	—	1.9cm	—	108.0g	
364	93-16	29	SI18	14	打製石斧類	打製石斧	平形	細粒輝石安山岩	2/3	6.5cm	+	4.9cm	—	1.5cm	—	94.0g	
365	90-20	29	SI17		打製石斧類	打製石斧	平形	細粒輝石安山岩	一部欠	11.3cm	+	5.6cm	—	1.2cm	—	85.0g	
366	90-19	29	SI17		打製石斧類	打製石斧	凸形	粗粒輝石安山岩	2/3	9.8cm	+	5.2cm	—	2.6cm	—	118.0g	
367			SI17		打製石斧類	打製石斧	平形	粗粒輝石安山岩	1/2	8.5cm	+	6.4cm	—	2.7cm	—	180.0g	
368	90-18	30	SI17	10	打製石斧類	削器A	横形両刃	黒色頁岩	完形	14.9cm	—	4.5cm	—	1.2cm	—	92.0g	
369	92-13	30	SI18	9	打製石斧類	削器A	横形両刃	黒色頁岩	完形	—	—	—	—	—	—	—	
370			SI18		打製石斧類	打斧整形剝片	階段状		2/3	—	—	—	—	—	—	—	
371			SI18	炉	打製石斧類	打斧整形剝片	階段状	黒色頁岩	一部欠	—	—	—	—	—	—	—	
372			SI18		打製石斧類	打斧整形剝片	階段状	粗粒輝石安山岩	1/2	—	—	—	—	—	—	—	
373			SI18	炉	打製石斧類	削器A	横形片刃	黒色頁岩	1/3	3.2cm	—	5.4cm	—	1.0cm	—	17.0g	
374			SI18		打製石斧類	剝片	大形	細粒輝石安山岩	完形	—	—	—	—	—	—	—	
375			SI18		打製石斧類	剝片	折れ	細粒輝石安山岩	1/2	—	—	—	—	—	—	—	
376			SI18		打製石斧類	剝片	礫面打面	黒色頁岩	2/3	—	—	—	—	—	—	—	
377			SI18		打製石斧類	剝片	礫面打面	黒色頁岩	一部欠	—	—	—	—	—	—	—	
378			SI17		打製石斧類	剝片	単刺離打面	黒色頁岩	完形	—	—	—	—	—	—	—	
379			SI18		打製石斧類	剝片	複刺離面打面	細粒輝石安山岩	完形	—	—	—	—	—	—	—	
380			SI17		打製石斧類	剝片	折れ	細粒輝石安山岩	一部欠	—	—	—	—	—	—	—	
381			SI19	19	打製石斧類	剝片	単刺離打面	細粒輝石安山岩	完形	—	—	—	—	—	—	—	
382	57-41	29	SI06		打製石斧類	打製石斧	平形	細粒輝石安山岩	一部欠	9.2cm	+	4.6cm	—	1.8cm	—	98.0g	
383			SI06	c上	打製石斧類	打製石斧	平形	細粒輝石安山岩	2/3	9.8cm	+	5.2cm	—	1.8cm	—	124.0g	
384			SI06		打製石斧類	打製石斧	平形	細粒輝石安山岩	1/2	7.3cm	+	6.6cm	—	2.2cm	—	134.0g	
385			SI06	c上	打製石斧類	打製石斧	平形	細粒輝石安山岩	1/2	8.8cm	+	5.4cm	—	1.7cm	—	76.0g	

石器No.	押図No.	図例No.	遺構区分	注記番号	区分	器 種	形 態	石 材	遺存率	長さ	折れ1	幅	折れ2	厚 さ	折れ3	重 さ	備 考
386			S106	c上	打製石斧類	打製石斧	平バチ形	細粒輝石安山岩	一部欠	12.1cm	+	5.8cm		1.5cm		107.0g	
387	57-42	29	S106	c上	打製石斧類	打製石斧	平小形	黑色頁岩	完形	4.3cm		3.4cm		1.4cm		24.0g	再生?
388	57-40	30	S106	c上	打製石斧類	削器A	両刃	黑色頁岩	1/2	9.2cm		6.9cm		1.4cm		72.0g	
389			S106	c下	打製石斧類	削器A	横形片刃	黑色頁岩	完形	3.3cm		4.0cm		0.8cm		12.0g	
390			S106	b下	打製石斧類	打製石斧	凸形	細粒輝石安山岩	破片	4.4cm	+	5.2cm		1.6cm		43.0g	
391	57-43	31	S106	c下	打製石斧類	楔形石器	複刻離面打面	綠色凝灰岩	一部欠	3.9cm		3.5cm		0.9cm		9.0g	
392			S106	c下	打製石斧類	打斧整形剝片	複刻離面打面	黑色頁岩	完形	—		—		—		—	
393			S106	ベルト	打製石斧類	打斧整形剝片	階段状	黑色頁岩	完形	—		—		—		—	
394			S106		打製石斧類	剝片	折れ	細粒輝石安山岩	2/3	—		—		—		—	
395			S106	上	打製石斧類	打斧整形剝片	階段状	細粒輝石安山岩	完形	—		—		—		—	
396			S106	上	打製石斧類	打斧整形剝片	階段状	細粒輝石安山岩	完形	—		—		—		—	
397			S106	上	打製石斧類	剝片	礫面打面	細粒輝石安山岩	完形	—		—		—		—	
398			S106	上	打製石斧類	剝片	単刻離面打面	粗粒輝石安山岩	完形	—		—		—		—	
399			2区		打製石斧類	打製石斧	平形	粗粒輝石安山岩	2/3	10.3cm	+	6.5cm		1.5cm		135.0g	
400			2区		打製石斧類	打製石斧	平形	粗粒輝石安山岩	2/3	10.9cm	+	5.1cm		2.0cm		99.0g	
401	134-99	29	2区		打製石斧類	打製石斧	平形	粗粒輝石安山岩	完形	11.5cm		5.6cm		1.9cm		125.0g	
402			2区		打製石斧類	打製石斧	平形	珪質頁岩	完形	8.6cm		4.5cm		2.1cm		86.0g	
403	134-100	29	2区		打製石斧類	打製石斧	平形	粗粒輝石安山岩	完形	8.4cm		4.6cm		1.5cm		80.0g	刃部再生?
404			2区		打製石斧類	打製石斧	凸形	粗粒輝石安山岩	2/3	7.1cm	+	5.1cm		2.8cm		110.0g	
405			2区		打製石斧類	打製石斧	凸形	燐安山岩	1/2	7.4cm	+	5.6cm		2.0cm		107.0g	
406	134-103	30	2区		打製石斧類	打斧未製品	凸形	粗粒輝石安山岩	完形	11.6cm		5.2cm		3.1cm		173.0g	
407			2区		打製石斧類	打製石斧	平形	粗粒輝石安山岩	破片	4.5cm	+	4.8cm		1.8cm		51.0g	
408			2区		打製石斧類	打製石斧	平形	粗粒輝石安山岩	破片	3.5cm	+	6.6cm	+	1.8cm		31.0g	
409			2区		打製石斧類	打製石斧	平形	粗粒輝石安山岩	破片	5.9cm	+	4.9cm		2.2cm		77.0g	一御縁
410			2区		打製石斧類	打製石斧	平形	黑色頁岩	破片	4.9cm	+	4.1cm	+	1.2cm		29.0g	
411			2区		打製石斧類	打製石斧	平形	黑色頁岩	破片	4.3cm	+	4.2cm	+	0.9cm		16.0g	
412			2区		打製石斧類	打製石斧	平形	黑色頁岩	一部欠	4.6cm	+	4.4cm		1.2cm		28.0g	再生?
413			2区		打製石斧類	打製石斧	平小形	黑色頁岩	破片	3.5cm	+	3.6cm	+	1.4cm		17.0g	
414			2区		打製石斧類	打製石斧	平形	粗粒輝石安山岩	破片	4.3cm	+	6.9cm		2.1cm		60.0g	
415	134-104	30	2区		打製石斧類	削器A	周縁錯向	細粒輝石安山岩	完形	8.4cm		8.5cm		1.5cm		120.0g	
416			2区		打製石斧類	打製石斧	平形	細粒輝石安山岩	破片	3.9cm	+	4.3cm		1.3cm		19.0g	
417			2区		打製石斧類	剝片	単刻離打面	黑色頁岩	完形	—		—		—		—	
418			2区		打製石斧類	剝片	単刻離打面	黑色頁岩	完形	—		—		—		—	
419			2区		打製石斧類	剝片	折れ	細粒輝石安山岩	一部欠	—		—		—		—	
420			2区		打製石斧類	剝片	複刻離打面	細粒輝石安山岩	完形	—		—		—		—	
421			2区		打製石斧類	剝片	折れ	粗粒輝石安山岩	一部欠	—		—		—		—	
422			2区		打製石斧類	打斧整形剝片	階段状	粗粒輝石安山岩	一部欠	—		—		—		—	
423			2区		打製石斧類	剝片	単刻離打面	細粒輝石安山岩	完形	—		—		—		—	
424			2区		打製石斧類	剝片	折れ	細粒輝石安山岩	一部欠	—		—		—		—	
425			2区		打製石斧類	打斧整形剝片	階段状	黑色頁岩	完形	—		—		—		—	

石器No.	図No.	遺構区分	注記番号	区分	器 種	形 態	石 材	材	長さ	折れ1	幅	折れ2	厚 さ	折れ3	重 さ	備 考
426		2区		打製石斧類	打斧整形剝片	階段状	細粒輝石安山岩		—	—	—	—	—	—	—	
427	107-58	SK05	焼土	打製石斧類	打製石斧	凸欠形	粗粒輝石安山岩	+	14.9cm	—	6.1cm	—	3.3cm	—	341.0g	
428	107-56	SK05		打製石斧類	打製石斧	平分銅形	黑色頁岩	+	10.8cm	—	5.1cm	—	1.4cm	—	92.0g	
429		SK05	焼土	打製石斧類	打製石斧	平形	黑色頁岩	+	6.4cm	—	4.4cm	—	1.6cm	—	39.0g	
430		SK05		打製石斧類	打製石斧	平形	黑色頁岩	+	6.4cm	—	4.5cm	—	0.9cm	—	32.0g	
431	107-61	SK05	焼土	打製石斧類	打製石斧	平形	黑色頁岩	+	6.7cm	—	5.4cm	—	1.9cm	—	80.0g	再生?
432		SK05		打製石斧類	削器A	楕形両刃	黑色頁岩	—	6.8cm	—	4.9cm	—	1.6cm	—	59.0g	
433		SK05		打製石斧類	剝片	折れ	細粒輝石安山岩	—	—	—	—	—	—	—	—	
434		SK05	焼土	打製石斧類	剝片	折れ	粗粒輝石安山岩	—	—	—	—	—	—	—	—	
435		SK05	焼土	打製石斧類	打斧整形剝片	階段状	黑色頁岩	—	—	—	—	—	—	—	—	
436		S105		打製石斧類	打製石斧	平形	黑色頁岩	+	10.5cm	—	4.5cm	—	1.5cm	—	120.0g	
437	30-71	S102		打製石斧類	打製石斧	平形	黑色安山岩	+	9.3cm	—	4.7cm	—	1.9cm	—	82.0g	
438	107-60	SK05	焼土	打製石斧類	打製石斧	平形	黑色頁岩	—	9.4cm	—	5.0cm	—	1.6cm	—	76.0g	
439	119-80	SK09		打製石斧類	打製石斧	凸形	黑色頁岩	+	11.5cm	—	5.0cm	—	2.5cm	—	153.0g	
440		S105		打製石斧類	打製石斧	平形	細粒輝石安山岩	+	9.5cm	—	5.5cm	—	2.2cm	—	149.0g	
441		2区		打製石斧類	打製石斧	平細形	黑色頁岩	+	8.9cm	—	3.3cm	—	1.5cm	—	43.0g	
442	49-60	S105		打製石斧類	打製石斧	平バナ形	珪質燧質岩	—	4.7cm	—	5.9cm	—	2.1cm	—	126.0g	
443		S105		打製石斧類	削器A	小形	黑色頁岩	—	3.2cm	—	2.6cm	—	0.8cm	—	5.0g	
444		S105		打製石斧類	削器A	楕形両刃	黑色頁岩	—	5.8cm	—	4.2cm	—	1.1cm	—	25.0g	
445		S105		打製石斧類	削器A	周縁両刃	黑色頁岩	—	3.0cm	—	4.3cm	—	1.0cm	—	16.0g	
446		SK05	焼土	打製石斧類	打斧整形剝片	階段状	細粒輝石安山岩	—	—	—	—	—	—	—	—	
447		SK05	焼土	打製石斧類	打斧整形剝片	階段状	砂岩	—	—	—	—	—	—	—	—	
448		SK05	焼土	打製石斧類	打斧整形剝片	折れ	黑色頁岩	—	—	—	—	—	—	—	—	
449		SK05	焼土	打製石斧類	打斧整形剝片	折れ	細粒輝石安山岩	—	—	—	—	—	—	—	—	
450		SK05	焼土	打製石斧類	打斧整形剝片	階段状	黑色頁岩	—	—	—	—	—	—	—	—	
451		SK05	焼土	打製石斧類	打斧整形剝片	階段状	黑色頁岩	—	—	—	—	—	—	—	—	
452		SK05	焼土	打製石斧類	打斧整形剝片	階段状	黑色頁岩	—	—	—	—	—	—	—	—	
453		SK05	焼土	打製石斧類	打斧整形剝片	階段状	黑色頁岩	—	—	—	—	—	—	—	—	
454		SK05	焼土	打製石斧類	打斧整形剝片	階段状	細粒輝石安山岩	—	—	—	—	—	—	—	—	
455		SK05	焼土	打製石斧類	打斧整形剝片	階段状	文象斑岩?	—	—	—	—	—	—	—	—	
456		SK05	焼土	打製石斧類	打斧整形剝片	階段状	黑色頁岩	—	—	—	—	—	—	—	—	
457		SK05	焼土	打製石斧類	打斧整形剝片	階段状	珪質頁岩	—	—	—	—	—	—	—	—	
458		SK05	焼土	打製石斧類	打斧整形剝片	階段状	黑色頁岩	—	—	—	—	—	—	—	—	
459		SK05	焼土	打製石斧類	打斧整形剝片	階段状	細粒輝石安山岩	—	—	—	—	—	—	—	—	
460		SK05	焼土	打製石斧類	打斧整形剝片	階段状	黑色頁岩	—	—	—	—	—	—	—	—	
461		S110		打製石斧類	剝片	大形	細粒輝石安山岩	—	—	—	—	—	—	—	—	
462		S110		打製石斧類	剝片	単剝離打面	細粒輝石安山岩	—	—	—	—	—	—	—	—	
463		SK25		打製石斧類	剝片	単剝離打面	細粒輝石安山岩	—	6.8cm	—	5.9cm	—	2.6cm	—	92.0g	
464		S102		打製石斧類	剝片	単剝離打面	黑色頁岩	—	—	—	—	—	—	—	—	
465		S102		打製石斧類	剝片	折れ	黑色頁岩	—	—	—	—	—	—	—	—	

石器No	挿図No	図版No	遺構区分	注記番号	区 分	器 種	形 態	石 材	遺存率	長 さ	折れ1	幅	折れ2	厚 さ	折れ3	重 さ	備 考
466			打製石斧類		剥片	単刃離打面	黑色頁岩	完形	—	—	—	—	—	—	—	—	
467			打製石斧類		剥片	単刃離打面	細粒輝石安山岩	完形	—	—	—	—	—	—	—	—	
468			打製石斧類		剥片	折れ	細粒輝石安山岩	一部欠	—	—	—	—	—	—	—	—	
469			打製石斧類		剥片	単刃離打面	細粒輝石安山岩	完形	—	—	—	—	—	—	—	—	
470	119-79	29	打製石斧類		打製石斧	平形	細粒輝石安山岩	一部欠	12.5cm	+	6.3cm	+	2.0cm	196.0g			
471			打製石斧類		打製石斧	平形	黑色頁岩	破片	5.5cm	+	7.0cm	+	1.4cm	50.0g			
472			打製石斧類		打製石斧	平形	黑色頁岩	1/2	4.9cm	+	5.0cm	+	1.1cm	36.0g			
473			打製石斧類		打製石斧	平形	細粒輝石安山岩	2/3	7.5cm	+	4.9cm	+	2.0cm	60.0g			
474			打製石斧類		打製石斧	平形	珪質頁岩	2/3	8.3cm	+	5.1cm	+	1.3cm	67.0g			
475			打製石斧類		剥片	単刃離打面	粗粒輝石安山岩	1/2	—	—	—	—	—	—	—	—	
476			打製石斧類		剥片	大形	粗粒輝石安山岩	一部欠	—	—	—	—	—	—	—	—	
477			打製石斧類		剥片	単刃離打面	細粒輝石安山岩	完形	—	—	—	—	—	—	—	—	
478			打製石斧類		剥片	折れ	頁岩	一部欠	—	—	—	—	—	—	—	—	
479			打製石斧類		剥片	大形	細粒輝石安山岩	完形	7.9cm	+	10.2cm	+	4.5cm	287.0g			
480			打製石斧類		剥片	大形	細粒輝石安山岩	一部欠	12.5cm	+	9.1cm	+	4.5cm	436.0g			
481			打製石斧類		打製石斧	凸形	粗粒輝石安山岩	1/3	8.9cm	+	4.9cm	+	2.6cm	106.0g			
482			打製石斧類		打製石斧	平形	細粒輝石安山岩	1/2	8.0cm	+	5.3cm	+	1.2cm	60.0g			
483	49-59	29	打製石斧類		打製石斧	平大分鋤形	細粒輝石安山岩	2/3	8.8cm	+	11.2cm	+	2.8cm	268.0g			
484			打製石斧類		打斧整形剥片	階段状	黑色頁岩	一部欠	—	—	—	—	—	—	—	—	
485			打製石斧類		剥片	礫面打面	粗粒輝石安山岩	完形	—	—	—	—	—	—	—	—	
486			打製石斧類		剥片	礫面打面	細粒輝石安山岩	完形	—	—	—	—	—	—	—	—	
487			打製石斧類		剥片	単刃離打面	細粒輝石安山岩	完形	—	—	—	—	—	—	—	—	
488			打製石斧類		剥片	単刃離打面	細粒輝石安山岩	完形	—	—	—	—	—	—	—	—	
489			打製石斧類		剥片	折れ	細粒輝石安山岩	一部欠	—	—	—	—	—	—	—	—	
490			打製石斧類		剥片	折れ	細粒輝石安山岩	一部欠	—	—	—	—	—	—	—	—	
491			打製石斧類		打斧整形剥片	階段状	細粒輝石安山岩	完形	—	—	—	—	—	—	—	—	
492			打製石斧類		打斧整形剥片	階段状	細粒輝石安山岩	1/2	—	—	—	—	—	—	—	—	
493			打製石斧類		打斧整形剥片	階段状	珪質頁岩	完形	—	—	—	—	—	—	—	—	
494			打製石斧類		打斧整形剥片	階段状	黑色頁岩	完形	—	—	—	—	—	—	—	—	
495			打製石斧類		打斧整形剥片	単刃離打面	細粒輝石安山岩	完形	—	—	—	—	—	—	—	—	
496			打製石斧類		打斧整形剥片	折れ	細粒輝石安山岩	1/2	—	—	—	—	—	—	—	—	
497			打製石斧類		打斧整形剥片	折れ	ヒン岩	1/2	—	—	—	—	—	—	—	—	
498			打製石斧類		打斧整形剥片	階段状	粗粒輝石安山岩	1/2	—	—	—	—	—	—	—	—	
499			打製石斧類		打斧整形剥片	階段状	細粒輝石安山岩	完形	—	—	—	—	—	—	—	—	
500			打製石斧類		打斧整形剥片	階段状	細粒輝石安山岩	完形	—	—	—	—	—	—	—	—	
501			打製石斧類		打斧整形剥片	階段状	細粒輝石安山岩	一部欠	—	—	—	—	—	—	—	—	
502	51-73	30	打製石斧類		打製石斧類 削器A	線形片刃	細粒輝石安山岩	一部欠	9.1cm	+	4.0cm	+	1.9cm	53.0g			
503			打製石斧類		剥片	単刃離打面	細粒輝石安山岩	一部欠	3.9cm	+	5.5cm	+	1.6cm	28.0g			
504	76-73	29	打製石斧類		打製石斧	平形	變質安山岩	完形	14.2cm	+	5.8cm	+	2.0cm	193.0g			摩耗
505	77-76	29	打製石斧類		打製石斧	平形	細粒輝石安山岩	完形	14.2cm	+	5.7cm	+	2.2cm	184.0g			

石器No	挿図No	図版No	遺構区分	注記番号	区 分	器 種	形 態	石 材	遺存率	長 さ	折れ1	幅	折れ2	厚 さ	折れ3	重 さ	備 考
506	76-74	29	SI10		打製石斧類	打製石斧	平形	細粒輝石安山岩	完形	12.2cm		6.1cm		2.1cm		145.0g	刃部再生?
507			SI10		打製石斧類	打製石斧	平形	黑色頁岩	完形	10.2cm		5.5cm		1.7cm		94.0g	
508			SI10		打製石斧類	打製石斧	平形	細粒輝石安山岩	完形	10.4cm		4.6cm		1.6cm		90.0g	
509			SI10		打製石斧類	打製石斧	平形	粗粒輝石安山岩	完形	9.8cm		5.4cm		2.0cm		110.0g	
510			SI10		打製石斧類	打製石斧	平形	粗粒輝石安山岩	完形	11.5cm		5.3cm		2.2cm		152.0g	
511			SI10		打製石斧類	打製石斧	平形	細粒輝石安山岩	一部欠	13.0cm	+	6.6cm		2.6cm		207.0g	
512			SI10	a	打製石斧類	打製石斧	平形	粗粒輝石安山岩	2/3	9.3cm	+	5.6cm		2.0cm		94.0g	
513			SI10	7	打製石斧類	打製石斧	凸形	粗粒輝石安山岩	1/2	7.5cm	+	5.9cm		2.9cm		147.0g	
514	39-76	29	SI03	d下	打製石斧類	打製石斧	平形	黑色頁岩	完形	13.5cm		5.1cm		1.2cm		47.0g	
515			SI10	b上	打製石斧類	打製石斧	平形	黑色頁岩	1/2	5.8cm	+	4.2cm		0.7cm		24.0g	
516			SI10		打製石斧類	打製石斧	平形	粗粒輝石安山岩	1/2	5.6cm	+	5.2cm		1.7cm		68.0g	
517			SI10	a	打製石斧類	打製石斧	平形	細粒輝石安山岩	2/3	9.3cm	+	4.8cm		1.9cm		103.0g	
518	77-77	29	SI10	26	打製石斧類	打製石斧	平形	細粒輝石安山岩	完形	9.8cm		4.9cm		1.9cm		101.0g	
519			SI10		打製石斧類	打製石斧	平形	粗粒輝石安山岩	一部欠	10.0cm	+	4.7cm		1.6cm		79.0g	
520			SI10	d	打製石斧類	打製石斧	平形	細粒輝石安山岩	破片	9.0cm	+	4.1cm		1.3cm		44.0g	
521			SI10		打製石斧類	打製石斧	平形	細粒輝石安山岩	破片	3.2cm	+	2.6cm	+	0.9cm		9.0g	
522			SI10	上	打製石斧類	打製石斧	平形	細粒輝石安山岩	破片	2.5cm	+	4.4cm		1.3cm		22.0g	
523	77-75	29	SI10		打製石斧類	打製石斧	平形	黑色頁岩	一部欠	10.4cm	+	5.4cm		2.2cm		121.0g	
524	77-84	30	SI10		打製石斧類	打製石斧	平形	細粒輝石安山岩	一部欠	10.2cm	+	5.4cm		2.8cm		164.0g	刃部再生?
525	77-83	30	SI10		打製石斧類	打製石斧	平形	黑色頁岩	完形	10.1cm		5.0cm		1.5cm		114.0g	
526	77-81	30	SI10	d	打製石斧類	打製石斧	平形	細粒輝石安山岩	完形	9.5cm		5.1cm		2.2cm		120.0g	刃部再生?
527	77-78	30	SI10	32	打製石斧類	打製石斧	平形	黑色頁岩	完形	9.5cm		4.6cm		2.0cm		90.0g	刃部再生? 摩耗
528			SI10		打製石斧類	打製石斧	平形	細粒輝石安山岩	一部欠	10.1cm	+	4.7cm		1.6cm		96.0g	
529	77-80	30	SI10	9	打製石斧類	打製石斧	平形	粗粒輝石安山岩	完形	5.3cm		5.1cm		2.0cm		122.0g	
530	77-82	30	SI10		打製石斧類	打製石斧	凸形	粗粒輝石安山岩	一部欠	7.2cm	+	5.1cm		2.5cm		186.0g	摩耗
531			SI10	c	打製石斧類	打製石斧	平細形	細粒輝石安山岩	一部欠	9.4cm	+	3.7cm		1.6cm		54.0g	
532			SI10		打製石斧類	打製石斧	平細形	粗粒輝石安山岩	一部欠	9.8cm	+	3.5cm		1.6cm		49.0g	破損品再生?
533			SI10		打製石斧類	打製石斧	凸形	粗粒輝石安山岩	一部欠	11.9cm	+	5.4cm		2.1cm		153.0g	摩耗
534			SI10	上	打製石斧類	打製石斧	平形	黑色頁岩	一部欠	7.0cm	+	4.6cm		1.0cm		40.0g	
535			SI10		打製石斧類	打製石斧	平形	細粒輝石安山岩	1/3	5.8cm	+	5.1cm	+	1.3cm		47.0g	
536			SI10	a	打製石斧類	打製石斧	平形	細粒輝石安山岩	1/2	7.3cm	+	5.6cm		1.4cm		73.0g	
537			SI10	d	打製石斧類	打製石斧	平形	細粒輝石安山岩	破片	3.3cm	+	5.3cm		2.1cm		92.0g	
538			SI10	a	打製石斧類	打製石斧	平形	細粒輝石安山岩	破片	3.8cm	+	3.8cm	+	1.2cm		9.0g	
539			SI10	d	打製石斧類	打製石斧	平形	細粒輝石安山岩	一部欠	8.5cm	+	5.4cm		1.5cm		63.0g	
540			SI10		打製石斧類	打製石斧	平形	細粒輝石安山岩	一部欠	8.0cm	+	4.7cm		1.3cm		60.0g	
541	77-86	30	SI10		打製石斧類	打製石斧	平小形	黑色頁岩	完形	5.5cm		4.3cm		1.9cm		53.0g	再生?
542			SI10	d	打製石斧類	打製石斧	平バネ形	黑色頁岩	一部欠	6.7cm	+	4.9cm		1.2cm		40.0g	
543			SI10	d	打製石斧類	打製石斧	平形	細粒輝石安山岩	一部欠	10.0cm	+	4.2cm		1.8cm		77.0g	一側縁
544			SI10	a	打製石斧類	打製石斧	平形	粗粒輝石安山岩	2/3	9.3cm	+	5.5cm		1.2cm		81.0g	
545			SI10		打製石斧類	打製石斧	平形	粗粒輝石安山岩	破片	3.7cm	+	4.2cm		1.6cm		21.0g	

石器№	挿図№	図版№	遺構区分	注記番号	区分	器種	形態	石材	遺存率	長さ	折れ1	幅	折れ2	厚さ	折れ3	重さ	備考
546			SI10	c	打製石斧類	打製石斧	平形	細粒輝石安山岩	破片	2.2cm	+	4.2cm		1.1cm		13.0g	
547			SI10		打製石斧類	打製石斧	平形	細粒輝石安山岩	破片	2.6cm	+	4.1cm		1.4cm		14.0g	
548			SI10		打製石斧類	打製石斧	平形	粗粒輝石安山岩	破片	3.4cm	+	4.3cm		0.9cm		14.0g	
549			SI10		打製石斧類	打製石斧	平細形	黒色頁岩	2/3	4.2cm	+	3.1cm	+	1.2cm		19.0g	
550			SI10		打製石斧類	打製石斧	平形	粗粒輝石安山岩	1/2	5.7cm	+	5.1cm		1.4cm		60.0g	
551			SI11	c	打製石斧類	打製石斧	平形	黒色頁岩	一部欠	9.5cm	+	4.0cm		1.7cm		62.0g	
552	77-85	30	SI10	d	打製石斧類	打製石斧	平形	黒色頁岩	完形	8.1cm	+	4.4cm		2.2cm		96.0g	摩耗
553			SI11	c	打製石斧類	打製石斧	平形	細粒輝石安山岩	1/2	5.7cm	+	4.3cm		1.7cm		57.0g	
554	77-79	30	SI10	d	打製石斧類	打製石斧	平形	細粒輝石安山岩	1/3	7.1cm	+	6.6cm		2.1cm		114.0g	
555			SI10		打製石斧類	打製石斧	平形	粗粒輝石安山岩	完形	5.2cm		4.9cm		1.6cm		93.0g	
556			SI10	a	打製石斧類	打製石斧	平形	細粒輝石安山岩	破片	4.3cm	+	10.6cm		1.9cm		57.0g	
557			SI10	d	打製石斧類	剥片	大形	細粒輝石安山岩	完形	9.6cm		6.8cm		1.3cm		61.0g	
558			SI10		打製石斧類	打斧未製品	平形	細粒輝石安山岩	2/3	7.6cm	+	4.4cm		0.7cm		25.0g	
559	77-87	30	SI10		打製石斧類	打斧未製品	平形	細粒輝石安山岩	1/2	11.5cm	+	5.3cm		1.3cm		89.0g	
560	77-88	30	SI10		打製石斧類	打斧未製品	平形	細粒輝石安山岩	一部欠	9.8cm	+	7.8cm		1.9cm		114.0g	
561			SI10	a	打製石斧類	削器A	横形片刃	黒色頁岩	完形	4.7cm		4.9cm		1.4cm		29.0g	
562			SI10		打製石斧類	剥片	折れ	黒色頁岩	1/2	—		—		—		—	
563	76-71	30	SI10		打製石斧類	削器A	横形両刃	黒色頁岩	完形	5.0cm		8.2cm		0.9cm		42.0g	
564			SI10		打製石斧類	剥片	大形	細粒輝石安山岩	完形	7.0cm		7.9cm		2.8cm		161.0g	
565			SI10	40	打製石斧類	剥片	大形	黒色頁岩	1/2	9.2cm		7.5cm	+	2.6cm		176.0g	
566			SI10	46	打製石斧類	剥片	大形	細粒輝石安山岩	1/2	12.0cm	+	14.3cm		5.3cm		549.0g	
567	76-72		SI10	d	打製石斧類	剥片	大形	黒色頁岩	一部欠	6.5cm	+	9.4cm		1.3cm		83.0g	
568			SI10	上	打製石斧類	剥片	単剥離面打面	細粒輝石安山岩	完形	—		—		—		—	
569			SI10	上	打製石斧類	剥片	単剥離面打面	黒色頁岩	完形	—		—		—		—	
570			SI10	a	打製石斧類	剥片	折れ	粗粒輝石安山岩	1/2	—		—		—		—	
571			SI10	上	打製石斧類	剥片	単剥離面打面	粗粒輝石安山岩	完形	—		—		—		—	
572			SI10	d	打製石斧類	剥片	単剥離面打面	細粒輝石安山岩	完形	—		—		—		—	
573			SI10	d	打製石斧類	剥片	複剥離面打面	細粒輝石安山岩	一部欠	—		—		—		—	
574			SI10		打製石斧類	剥片	折れ	細粒輝石安山岩	一部欠	—		—		—		—	
575			SI10		打製石斧類	剥片	折れ	細粒輝石安山岩	2/3	—		—		—		—	
576			SI10	c	打製石斧類	剥片	折れ	細粒輝石安山岩	一部欠	—		—		—		—	
577			SI10		打製石斧類	剥片	単剥離面打面	細粒輝石安山岩	完形	—		—		—		—	
578			SI10	d	打製石斧類	打斧整形剥片	階段状	細粒輝石安山岩	完形	—		—		—		—	
579			SI10		打製石斧類	剥片	折れ	細粒輝石安山岩	1/2	—		—		—		—	
580			SI10		打製石斧類	剥片	折れ	細粒輝石安山岩	1/2	—		—		—		—	
581			SI10		打製石斧類	剥片	単剥離面打面	細粒輝石安山岩	完形	—		—		—		—	
582			SI10		打製石斧類	剥片	単剥離面打面	粗粒輝石安山岩	完形	—		—		—		—	
583			SI10		打製石斧類	剥片	単剥離面打面	粗粒輝石安山岩	完形	—		—		—		—	
584			SI10		打製石斧類	打斧整形剥片	階段状	粗粒輝石安山岩	完形	—		—		—		—	
585			SI10		打製石斧類	打斧整形剥片	階段状	粗粒輝石安山岩	完形	—		—		—		—	

観 察 表

石器No	插图No	図説No	遺構区分	注記番号	区分	器 種	形 態	石 材	遺存率	長 さ	折れ1	幅	折れ2	厚 さ	折れ3	重 さ	備 考
586		S110	打製石斧類	d	打製石斧類	打斧整形剝片	階段状	細粒輝石安山岩	完形	—	—	—	—	—	—	—	
587		S110	打製石斧類	d	打製石斧類	打斧整形剝片	階段状	細粒輝石安山岩	一部欠	—	—	—	—	—	—	—	
588		S110	打製石斧類		打製石斧類	打斧整形剝片	階段状	黑色頁岩	完形	—	—	—	—	—	—	—	
589		S110	打製石斧類		打製石斧類	打斧整形剝片	階段状	黑色頁岩	完形	—	—	—	—	—	—	—	
590		S110	打製石斧類		打製石斧類	打斧整形剝片	階段状	ホルンフェルス	完形	—	—	—	—	—	—	—	
591		S110	打製石斧類	8	打製石斧類	打斧整形剝片	階段状	細粒輝石安山岩	完形	—	—	—	—	—	—	—	
592		S110	打製石斧類		打製石斧類	打製石斧類	平面	細粒輝石安山岩	破片	4.1cm	+	2.2cm	—	0.9cm	—	6.0g	
593		S110	打製石斧類		打製石斧類	打斧整形剝片	階段状	細粒輝石安山岩	完形	—	—	—	—	—	—	—	
594		S110	打製石斧類		打製石斧類	打斧整形剝片	階段状	粗粒輝石安山岩	完形	—	—	—	—	—	—	—	
595		S110	打製石斧類		打製石斧類	打斧整形剝片	折れ	細粒輝石安山岩	一部欠	—	—	—	—	—	—	—	
596		S111	打製石斧類	b	打製石斧類	剝片	礫面打面	細粒輝石安山岩	2/3	—	—	—	—	—	—	—	
597		S111	打製石斧類		打製石斧類	剝片	単削離面打面	黑色頁岩	2/3	—	—	—	—	—	—	—	
598		S111	打製石斧類	b	打製石斧類	剝片	単削離面打面	細粒輝石安山岩	完形	—	—	—	—	—	—	—	
599		S114	打製石斧類		打製石斧類	打斧未製品	凸形	粗粒輝石安山岩	完形	13.7cm	—	8.4cm	—	3.8cm	—	444.0g	
600	85-11	S114	打製石斧類	6	打製石斧類	西刃礫器	凸形	粗粒輝石安山岩	完形	7.4cm	—	12.2cm	—	3.3cm	—	599.0g	
601		S105	打製石斧類		打製石斧類	打製石斧	凸形	粗粒輝石安山岩	2/3	9.1cm	+	5.0cm	—	2.3cm	—	149.0g	
602		S105	打製石斧類	174	打製石斧類	打製石斧	凸形	粗粒輝石安山岩	1/2	7.8cm	+	6.0cm	—	2.2cm	—	103.0g	
603		S105	打製石斧類	173	打製石斧類	打製石斧	平面	粗粒輝石安山岩	2/3	9.8cm	+	6.5cm	—	1.8cm	—	122.0g	
604	50-62	S105	打製石斧類		打製石斧類	打製石斧	平面	珪質頁岩	完形	10.3cm	+	4.9cm	—	2.1cm	—	92.0g	
605		SK14	剝片石器類		剝片石器類	剝片		チャート	完形	—	—	—	—	—	—	—	
606	50-67	S105	打製石斧類		打製石斧類	打製石斧	平面	細粒輝石安山岩	一部欠	10.0cm	+	4.7cm	—	1.5cm	—	96.0g	摩耗
607		S105	打製石斧類		打製石斧類	打製石斧	平面	粗粒輝石安山岩	一部欠	10.6cm	+	5.6cm	—	1.7cm	—	112.0g	
608		S105	打製石斧類		打製石斧類	打製石斧	平面	珪質頁岩	一部欠	8.0cm	+	4.9cm	—	2.0cm	—	92.0g	
609		S110	打製石斧類	d	打製石斧類	打製石斧	平面	変質安山岩	破片	5.4cm	+	6.6cm	—	1.9cm	—	66.0g	
610		S105	打製石斧類		打製石斧類	打製石斧	平面	粗粒輝石安山岩	1/2	7.0cm	+	6.2cm	—	2.0cm	—	10.0g	
611		S105	打製石斧類		打製石斧類	打製石斧	平面	粗粒輝石安山岩	2/3	7.2cm	+	4.7cm	—	1.6cm	—	61.0g	
612	50-64	S105	打製石斧類	191	打製石斧類	打製石斧	平大形	粗粒輝石安山岩	一部欠	17.1cm	+	6.5cm	—	2.9cm	—	358.0g	
613	50-70	S105	打製石斧類		打製石斧類	打製石斧	平面	粗粒輝石安山岩	完形	9.7cm	—	6.3cm	—	1.9cm	—	244.0g	
614	50-65	S105	打製石斧類		打製石斧類	打製石斧	凸形	粗粒輝石安山岩	完形	12.8cm	—	6.0cm	—	2.9cm	—	206.0g	
615	50-63	S105	打製石斧類	179	打製石斧類	打製石斧	平面	粗粒輝石安山岩	完形	11.8cm	—	5.5cm	—	2.3cm	—	190.0g	摩耗
616	50-68	S105	打製石斧類		打製石斧類	打製石斧	平面	変質安山岩	一部欠	6.7cm	+	4.4cm	—	1.9cm	—	113.0g	
617		S105	打製石斧類		打製石斧類	打製石斧	平面	細粒輝石安山岩	一部欠	11.6cm	+	5.0cm	—	2.3cm	—	186.0g	刃部再生?
618	50-69	S105	打製石斧類		打製石斧類	打製石斧	平バチ形	粗粒輝石安山岩	完形	11.7cm	—	5.8cm	—	2.5cm	—	170.0g	摩耗
619	50-66	S105	打製石斧類	83	打製石斧類	打製石斧	平面	珪質頁岩	完形	9.9cm	—	5.8cm	—	2.3cm	—	128.0g	刃部再生?
620		S105	打製石斧類		打製石斧類	打製石斧	平面	珪質頁岩	完形	10.5cm	—	5.1cm	—	1.8cm	—	100.0g	
621	50-61	S105	打製石斧類	2	打製石斧類	打製石斧	平面	粗粒輝石安山岩	完形	11.5cm	—	5.5cm	—	1.2cm	—	77.0g	
622	51-71	S105	打製石斧類	61	打製石斧類	打斧未製品	平面	珪質頁岩	完形	11.5cm	—	4.6cm	—	1.6cm	—	81.0g	一側縁
623	51-72	S105	打製石斧類		打製石斧類	打斧未製品	平面	珪質頁岩	完形	11.5cm	—	4.8cm	—	0.9cm	—	45.0g	
624		S105	打製石斧類	164	打製石斧類	剝片	単削離面打面	珪質頁岩	完形	—	—	—	—	—	—	—	
625		S105	打製石斧類		打製石斧類	剝片	単削離面打面	黑色頁岩	完形	—	—	—	—	—	—	—	

石器No	挿図No	図記No	遺構区分	注記番号	区分	器種	形態	石材	遺存率	長さ	折れ1	幅	折れ2	厚さ	折れ3	重さ	備考
626		SI05			打製石斧類	打斧整形剝片	階段状	黑色安山岩	完形	—	—	—	—	—	—	—	
627		SK06		焼土	打製石斧類	打製石斧	平形	細粒輝石安山岩	破片	4.4cm	+	6.6cm	+	2.1cm	—	54.0g	
628		SK06		焼土	打製石斧類	打製石斧	平形	粗粒輝石安山岩	破片	4.8cm	+	4.8cm	+	1.0cm	—	30.0g	
629		SK06		焼土	打製石斧類	剝片	単削離面打面	細粒輝石安山岩	2/3	—	—	—	—	—	—	—	
630	107-54	30		焼土	打製石斧類	削器A	横形両刃	細粒輝石安山岩	完形	7.3cm	+	10.0cm	+	2.3cm	—	141.0g	
631	107-53	30		焼土	打製石斧類	削器A	横形片刃	黑色頁岩	完形	6.1cm	+	8.6cm	+	1.1cm	—	60.0g	
632		SK06		焼土	打製石斧類	打製石斧	平形	粗粒輝石安山岩	2/3	6.7cm	+	4.7cm	+	1.0cm	—	39.0g	
633		SK06		焼土	打製石斧類	打製石斧	平形	粗粒輝石安山岩	1/3	5.0cm	+	5.3cm	+	1.7cm	—	56.0g	
634		SK06		焼土	打製石斧類	打製石斧	平形	頁岩	1/3	4.3cm	+	4.7cm	+	1.2cm	—	29.0g	
635		SK06		焼土	打製石斧類	打製石斧	平形	黑色頁岩	1/3	4.8cm	+	3.9cm	+	0.9cm	—	24.0g	
636	107-57	30		焼土	打製石斧類	打製石斧	凸形	黑色頁岩	完形	11.7cm	—	5.0cm	—	2.4cm	—	171.0g	
637	107-59	30		焼土	打製石斧類	打製石斧	平形	黑色頁岩	完形	10.1cm	—	4.3cm	—	1.5cm	—	86.0g	摩耗
638		SK06		焼土	打製石斧類	打製石斧	平形	頁岩	完形	10.6cm	—	5.1cm	—	1.6cm	—	65.0g	摩耗
639	107-62	30		焼土	打製石斧類	打製石斧	平形	黑色頁岩	完形	10.0cm	—	5.2cm	—	1.9cm	—	118.0g	
640		SI02		b上	打製石斧類	打斧整形剝片	階段状	—	完形	—	—	—	—	—	—	—	
641		SK06		焼土	打製石斧類	打斧整形剝片	階段状	黑色頁岩	1/2	—	—	—	—	—	—	—	
642		SK06		焼土	打製石斧類	打斧整形剝片	階段状	黑色頁岩	完形	—	—	—	—	—	—	—	
643		SK06		焼土	打製石斧類	打斧整形剝片	階段状	黑色頁岩	完形	—	—	—	—	—	—	—	
644		SK06		焼土	打製石斧類	打斧整形剝片	階段状	粗粒輝石安山岩	完形	—	—	—	—	—	—	—	
645		SK06		焼土	打製石斧類	打斧整形剝片	階段状	黑色頁岩	完形	—	—	—	—	—	—	—	
646		SK06		焼土	打製石斧類	剝片	折れ	黑色頁岩	1/2	—	—	—	—	—	—	—	
647		SK06		焼土	打製石斧類	剝片	単削離面打面	細粒輝石安山岩	完形	—	—	—	—	—	—	—	
648		SK06		焼土	打製石斧類	打斧整形剝片	階段状	細粒輝石安山岩	1/2	—	—	—	—	—	—	—	
649		SK06		焼土	打製石斧類	剝片	単削離面打面	細粒輝石安山岩	完形	—	—	—	—	—	—	—	
650		SK06		焼土	打製石斧類	剝片	礫面打面	細粒輝石安山岩	完形	7.1cm	—	5.8cm	—	2.0cm	—	77.0g	
651	38-70	31		SI03 58	その他	磨製石斧	定角式	蛇紋岩	完形	11.6cm	—	4.5cm	—	1.9cm	—	188.6g	
652	38-71	31		SI03 122	その他	磨製石斧	定角式	蛇紋岩	完形	11.2cm	—	4.8cm	—	1.8cm	—	179.3g	
653	107-55	31		焼土	その他	磨製石斧		凝灰質砂岩	1/2	7.2cm	—	4.3cm	—	2.6cm	—	132.5g	
654		SI18		11	その他	磨製石斧		変輝緑岩	1/2	6.8cm	—	4.5cm	—	2.7cm	—	25.3g	
655		SI01			礫石器	石皿		砂岩	完形	19.0cm	—	17.0cm	—	10.0cm	—	5,400.0g	
656		SI19		掘	その他	磨斧未製品		蛇紋岩	完形	—	—	—	—	—	—	25.0g	
657		SI19		6	その他	磨斧未製品		輝緑岩	完形	14.3cm	—	6.4cm	—	3.9cm	—	593.0g	
658		SI19			その他	磨斧剝片		輝緑岩	完形	—	—	—	—	—	—	1.8g	研磨面付
659		SI05			その他	原石		珪質変質岩	完形	12.5cm	—	11.5cm	—	5.6cm	—	726.0g	
660		2区			打製石斧類	打製石斧	平細形	頁岩	一部欠	6.2cm	—	2.5cm	—	0.9cm	—	14.0g	
661		2区			剝片石器類	石匙	横形	黒耀石	完形	3.64cm	—	5.68cm	—	1.14cm	—	17.7g	製作途上
662		SI01			剝片石器類	石鏃	凹基長形	黒耀石	完形	2.91cm	—	1.48cm	+	0.63cm	—	0.7g	
663	79-17	28		SI11	剝片石器類	揉雜器		黒耀石	完形	—	—	—	—	—	—	0.8g	
664		SI03			剝片石器類	石鏃未製品		黒耀石	一部欠	2.71cm	—	2.18cm	+	0.73cm	—	0.9g	
665		SI03			剝片石器類	石鏃未製品		珪質頁岩	完形	—	—	—	—	—	—	3.5g	

石器No	挿図No	図説No	遺構区分	注記番号	区分	器種	形態	石材	遺存率	長さ	折れ1	幅	折れ2	厚さ	折れ3	重さ	備考
666	59-15	28	SI07	下	剥片石器類	石匙		黒耀石	完形	3.8cm		2.83cm		0.77cm		6.3g	
667		28	SI07	下	剥片石器類	揉雜器		黒耀石	完形	3.34cm		0.69cm		0.49cm		1.0g	つまみ無し
668		28	SI07	下	剥片石器類	石鏃	凹基長形	黒耀石	完形	2.57cm	+	1.77cm		0.3cm		0.9g	
669	133-90	28	2区		剥片石器類	石鏃未製品		チャート	一部欠	3.6cm		2.45cm		0.95cm		7.5g	
670			SK06	焼土	剥片石器類	片面加工石器		黒耀石	完形	2.48cm		2.36cm		0.78cm		3.5g	
671		28	SK06	焼土	剥片石器類	揉雜器		黒耀石	2/3	3.23cm	+	2.3cm		0.79cm		3.9g	
672			SI10		剥片石器類	片面加工石器		黒耀石	1/2	2.09cm		2.02cm		1.05cm		5.5g	
673	76-66	28	SI10		剥片石器類	石鏃未製品		黒耀石	一部欠	1.76cm		1.97cm		0.63cm		1.7g	
674		28	SI17		剥片石器類	石鏃	凹基	黒耀石	一部欠	2.14cm		1.3cm	+	0.37cm		0.8g	
675		27	SI12	1	その他	玉		葉礫石?	完形	2.4cm		0.8cm		0.8cm		1.5g	
676	49-52	28	SI05		剥片石器類	石鏃	平基	黒耀石	完形	1.99cm	+	1.66cm		0.34cm		1.0g	
677		28	SK14		剥片石器類	石匙	横形	チャート	一部欠	3.0cm		4.55cm		8.50cm		7.2g	
678	20-2	28	列石		剥片石器類	石鏃	平基長形	チャート	一部欠	1.85cm		1.68cm		0.49cm		1.2g	
679		28	SK06	焼土	剥片石器類	石匙	横形	珪質変質岩	完形	2.6cm		3.0cm		0.43cm		2.5g	
680	133-92	28	2区		剥片石器類	石鏃	凹基	珪質変質岩	完形	2.5cm		1.8cm		0.48cm		1.5g	
681		28	SI10		剥片石器類	石鏃未製品		黒耀石	完形	2.12cm		1.39cm		0.46cm		1.2g	
682		28	SI12	3	剥片石器類	石鏃	平基	珪質変質岩	完形	2.25cm		1.9cm		0.5cm		1.8g	
683		28	SI12	2	剥片石器類	石鏃	平基	チャート	完形	2.42cm		2.1cm		0.82cm		3.6g	
684		28	SI12		剥片石器類	石鏃	平基	珪質頁岩	完形	2.4cm		1.95cm		0.5cm		2.3g	
685		28	列石		剥片石器類	石鏃	凹基	黒耀石	1/2	1.34cm	+	1.84cm		0.34cm		0.9g	
686		28	SI05		剥片石器類	石鏃	平基	珪質頁岩	完形	2.1cm		1.6cm		0.35cm		0.9g	
687	76-67	28	SI10		剥片石器類	石鏃	平基長形	珪質変質岩	一部欠	2.8cm		1.78cm		0.48cm		2.0g	
688		28	SI12		剥片石器類	石鏃未製品		珪質変質岩	2/3	3.1cm		2.61cm		0.98cm		9.0g	
689	133-93	28	1区		剥片石器類	石鏃	凹基長形	黒耀石	完形	2.83cm		1.85cm	+	0.38cm		1.5g	
690		28	SI12	c	剥片石器類	石鏃未製品		珪質変質岩	完形	3.15cm		2.8cm		0.92cm		6.1g	
691	76-68	27	SI10	1	その他	垂飾		葉礫石	完形	3.5cm		2.3cm		2.6cm		20.6g	
692	49-56	27	SI05	a上	その他	垂飾		葉礫石	完形	3.0cm		2.4cm		1.1cm		12.3g	
693	49-53	28	SI05		剥片石器類	石鏃	凹基長形	珪質変質岩	完形	2.38cm		1.8cm		0.48cm		1.4g	
694	107-50	28	SK06	焼土	剥片石器類	石鏃	凹基長形	黒耀石	完形	2.4cm		1.6cm		0.3cm		0.9g	
695	20-3	28	列石		剥片石器類	石匙	小形特殊	黒耀石	完形	4.28cm		1.32cm		1.06cm		3.1g	
696		28	SI04	c上	剥片石器類	揉雜器		黒色安山岩	完形	2.850cm		9.0cm		5.0cm		1.1g	つまみ無し
697	31-15		SI04		剥片石器類	微細磨痕ある剥片		黒耀石	完形	6.08cm		6.64cm		1.01cm		28.5g	
698	133-95	28	2区		剥片石器類	石匙	横形	黒色頁岩	完形	4.65cm		5.42cm		1.08cm		30.0g	
699	119-78	28	SK33		剥片石器類	石鏃	凹基	黒耀石	完形	1.75cm		1.32cm		0.36cm		0.6g	
700		28	SI12	c	剥片石器類	石鏃	平基	珪質変質岩	完形	—		—		—		5.8g	
701			SK33		打製石斧類	打製石斧	平形	細粒輝石安山岩	2/3	6.6cm		4.4cm		1.6cm		50.0g	
702			SK33		打製石斧類	打製石斧	凸形	細粒輝石安山岩	破片	3.0cm		3.9cm		1.6cm		24.0g	
703			SK33		打製石斧類	剥片	折れ	細粒輝石安山岩	2/3	—		—		—		—	
704			SK33		打製石斧類	剥片	折れ	細粒輝石安山岩	1/2	—		—		—		—	
705			SK33		打製石斧類	剥片	折れ	細粒輝石安山岩	2/3	—		—		—		—	

石器№	挿図№	図解%	遺構区分	注記番号	区 分	器 種	形 態	石 材	遺存率	長 さ	折れ1	幅	折れ2	厚 さ	折れ3	重 さ	備 考
706			SK33		打製石斧類	打斧整形剥片	階段状	細粒輝石安山岩	完形	—	—	—	—	—	—	—	
707			SK33		打製石斧類	打斧整形剥片	階段状	細粒輝石安山岩	完形	—	—	—	—	—	—	—	
708			SK33		打製石斧類	打斧整形剥片	階段状	細粒輝石安山岩	完形	—	—	—	—	—	—	—	
709			SI12	c	剥片石器類	残核		チャート	完形	—	—	—	—	—	—	—	
710			SI12		剥片石器類	剥片		チャート	完形	—	—	—	—	—	—	—	
711		28	SI12		剥片石器類	石鏃未製品		チャート	1/2	—	—	—	—	—	—	6.5g	
712			SI12		剥片石器類	二次加工ある剥片		チャート	完形	—	—	—	—	—	—	7.2g	
713			SI12	c	剥片石器類	剥片		チャート	完形	—	—	—	—	—	—	—	
714			SI12		剥片石器類	剥片		チャート	完形	—	—	—	—	—	—	—	
715			SI12	c	剥片石器類	剥片		チャート	完形	—	—	—	—	—	—	—	
716		28	SI12		剥片石器類	石鏃未製品		チャート	2/3	—	—	—	—	—	—	3.2g	
717			SI12		剥片石器類	剥片		チャート	完形	—	—	—	—	—	—	—	
718			SI12		剥片石器類	剥片		チャート	完形	—	—	—	—	—	—	—	
719			SI12		剥片石器類	二次加工ある剥片		チャート	完形	—	—	—	—	—	—	7.8g	
720			SI12		剥片石器類	剥片		チャート	完形	—	—	—	—	—	—	—	
721			SI12		剥片石器類	剥片		チャート	完形	—	—	—	—	—	—	—	
722			SI12		剥片石器類	剥片		珪質変質岩	1/2	—	—	—	—	—	—	—	
723			SI12		剥片石器類	剥片		珪質変質岩	完形	—	—	—	—	—	—	—	
724			SI12		剥片石器類	剥片		珪質変質岩	完形	—	—	—	—	—	—	—	
725			SI12		剥片石器類	二次加工ある剥片		珪質変質岩	完形	—	—	—	—	—	—	—	
726			SI12		剥片石器類	二次加工ある剥片		珪質変質岩	完形	—	—	—	—	—	—	—	
727		28	SI12		剥片石器類	石鏃未製品		珪質変質岩	完形	—	—	—	—	—	—	8.5g	
728			SI12	c	剥片石器類	二次加工ある剥片		珪質変質岩	完形	—	—	—	—	—	—	—	
729			SI12		剥片石器類	剥片		珪質変質岩	完形	—	—	—	—	—	—	—	
730			SI12		剥片石器類	剥片		珪質変質岩	完形	—	—	—	—	—	—	—	
731			SI12	c	剥片石器類	剥片		珪質変質岩	完形	—	—	—	—	—	—	—	
732			SI12	c	剥片石器類	二次加工ある剥片		珪質変質岩	完形	—	—	—	—	—	—	12.7g	
733			SI12	c	剥片石器類	二次加工ある剥片		珪質変質岩	完形	—	—	—	—	—	—	—	
734			SI12		剥片石器類	剥片		珪質変質岩	完形	—	—	—	—	—	—	—	
735			SI12		剥片石器類	剥片		珪質変質岩	完形	—	—	—	—	—	—	—	
736			SI12	c	剥片石器類	剥片		珪質変質岩	完形	—	—	—	—	—	—	—	
737			SI12		剥片石器類	剥片		珪質変質岩	完形	—	—	—	—	—	—	—	
738			SI12		剥片石器類	剥片		珪質変質岩	完形	—	—	—	—	—	—	—	
739			SI12		剥片石器類	剥片		珪質変質岩	完形	—	—	—	—	—	—	—	同極剥離痕
740		28	SI12	c	剥片石器類	石鏃未製品		珪質変質岩	完形	—	—	—	—	—	—	6.2g	
741			SI12		剥片石器類	残核		珪質変質岩	完形	—	—	—	—	—	—	—	
742			SI12	c	剥片石器類	剥片		珪質変質岩	完形	—	—	—	—	—	—	—	
743			SI12		剥片石器類	二次加工ある剥片		珪質変質岩	完形	—	—	—	—	—	—	—	
744			SI12		剥片石器類	剥片		珪質変質岩	完形	—	—	—	—	—	—	—	
745			SI12		剥片石器類	剥片		珪質変質岩	完形	—	—	—	—	—	—	—	

石器No.	挿図No.	図説No.	遺構区分	注記番号	区 分	器 種	形 態	石 材	遺存率	長 さ	折れ1	幅	折れ2	厚 さ	折れ3	重 さ	備 考
746			SI12		剥片石器類	剥片		珪質変質岩	1/2	—	—	—	—	—	—	—	
747			SI12		剥片石器類	剥片		珪質変質岩	完形	—	—	—	—	—	—	—	
748			SI12	c	剥片石器類	剥片		珪質変質岩	完形	—	—	—	—	—	—	—	
749			SI12		剥片石器類	剥片		珪質変質岩	完形	—	—	—	—	—	—	—	
750			SI12	c	剥片石器類	剥片		珪質変質岩	完形	—	—	—	—	—	—	—	
751			SI12		剥片石器類	剥片		珪質変質岩	完形	—	—	—	—	—	—	—	
752			SI12		剥片石器類	剥片		珪質変質岩	完形	—	—	—	—	—	—	—	
753			SI12	6	打製石斧類	礫器		粗粒輝石安山岩	一部欠	10.4cm	+	8.8cm	4.0cm	—	—	427.0g	
754			SI12	c	剥片石器類	剥片		珪質頁岩	完形	—	—	—	—	—	—	—	
755			SI12		剥片石器類	残核		珪質頁岩	完形	—	—	—	—	—	—	—	
756			SI12		剥片石器類	剥片		珪質頁岩	2/3	—	—	—	—	—	—	—	
757			SI12		剥片石器類	剥片		珪質頁岩	2/3	—	—	—	—	—	—	—	
758			SI12		剥片石器類	残核		珪質頁岩	完形	—	—	—	—	—	—	—	
759			SI12		剥片石器類	剥片		珪質頁岩	完形	—	—	—	—	—	—	—	
760			SI12		剥片石器類	剥片		珪質頁岩	完形	—	—	—	—	—	—	—	
761			SI12		剥片石器類	剥片		珪質頁岩	一部欠	—	—	—	—	—	—	—	
762			SI12		剥片石器類	剥片		珪質頁岩	完形	—	—	—	—	—	—	—	
763			SI12		剥片石器類	剥片		珪質頁岩	一部欠	—	—	—	—	—	—	—	
764			SI12	c	剥片石器類	剥片		珪質頁岩	完形	—	—	—	—	—	—	—	
765			SI12		剥片石器類	剥片		珪質頁岩	一部欠	—	—	—	—	—	—	—	
766			SI12		剥片石器類	剥片		珪質頁岩	一部欠	—	—	—	—	—	—	—	
767			SI12		打製石斧類	打製石斧？		黒色頁岩	破片	—	—	—	—	—	—	—	
768			SI12		打製石斧類	打斧整形剥片	階段状	黒色頁岩	完形	—	—	—	—	—	—	—	
769			SI12		打製石斧類	打斧整形剥片	階段状	黒色頁岩	完形	—	—	—	—	—	—	—	
770			SI12		打製石斧類	打斧整形剥片		黒色頁岩	1/2	—	—	—	—	—	—	—	
771			SI12		打製石斧類	打斧整形剥片	階段状	黒色頁岩	完形	—	—	—	—	—	—	—	
772			SI12	c	剥片石器類	剥片		黒耀石	完形	1.84cm	—	2.98cm	0.55cm	—	—	2.5g	
773			SI12		剥片石器類	残核		黒耀石	完形	2.01cm	—	2.44cm	1.24cm	—	—	—	
774			SI05		剥片石器類	剥片		珪質変質岩	完形	—	—	—	—	—	—	—	
775			SI05		剥片石器類	剥片		珪質変質岩	完形	—	—	—	—	—	—	—	
776			SI05		剥片石器類	剥片		珪質変質岩	完形	—	—	—	—	—	—	—	
777			SI05		剥片石器類	剥片		珪礫土質岩石	1/2	—	—	—	—	—	—	—	
778			SI05		剥片石器類	剥片		珪質変質岩	1/2	—	—	—	—	—	—	—	
779			SI05	入P	剥片石器類	剥片		珪質頁岩	1/2	—	—	—	—	—	—	—	
780			SI10		剥片石器類	剥片		珪質変質岩	完形	—	—	—	—	—	—	—	
781			SI10		剥片石器類	剥片		珪質変質岩	完形	—	—	—	—	—	—	—	
782			SI10		剥片石器類	剥片		珪質変質岩	完形	—	—	—	—	—	—	—	
783			SI10		剥片石器類	二次加工ある剥片		珪礫土質岩石？	完形	—	—	—	—	—	—	—	両極剝離痕
784			SI10		剥片石器類	剥片		珪質変質岩	完形	—	—	—	—	—	—	—	
785			SI10		剥片石器類	剥片		珪質変質岩	破片	—	—	—	—	—	—	—	

石器No	挿区No	図説No	遺構区分	注記番号	区分	器種	形態	石材	遺存率	長さ	折れ1	幅	折れ2	厚さ	折れ3	重さ	備	考
786			SI10		剥片石器類	剥片		珩質変質岩	完形	—	—	—	—	—	—	—		
787			SI10		剥片石器類	剥片		珩質変質岩	完形	—	—	—	—	—	—	—		
788			SI10		剥片石器類	剥片		珩質変質岩	一部欠	—	—	—	—	—	—	—		
789			SI10		剥片石器類	剥片		珩質変質岩	2/3	—	—	—	—	—	—	—		
790			SI10		剥片石器類	剥片		チャート	完形	—	—	—	—	—	—	—		
791			SI10		剥片石器類	剥片		チャート	完形	—	—	—	—	—	—	—		
792			SI18	16	剥片石器類	剥片		流紋岩	完形	—	—	—	—	—	—	—		
793			SI18	14	剥片石器類	剥片		珩質変質岩	完形	—	—	—	—	—	—	—		
794			SI18		剥片石器類	剥片		珩化木	完形	—	—	—	—	—	—	—		メノウ?
795			SI18	炉	剥片石器類	剥片		ガラス質安山岩	完形	—	—	—	—	—	—	—		
796			SI18		剥片石器類	剥片		珩化木	完形	—	—	—	—	—	—	—		メノウ?
797			SI18		剥片石器類	剥片		チャート	完形	—	—	—	—	—	—	—		
798			SI11		剥片石器類	剥片		珩質変質岩	完形	—	—	—	—	—	—	—		
799			2区		剥片石器類	剥片		チャート	完形	—	—	—	—	—	—	—		
800			2区		剥片石器類	剥片		珩質頁岩	完形	—	—	—	—	—	—	—		
801			2区		剥片石器類	剥片		珩質頁岩	2/3	—	—	—	—	—	—	—		
802			2区		剥片石器類	剥片		珩質変質岩	1/2	—	—	—	—	—	—	—		
803			2区		打製石斧類	剥片	折れ	粗粒輝石安山岩	一部欠	—	—	—	—	—	—	—		
804			2区		剥片石器類	剥片		チャート	一部欠	—	—	—	—	—	—	—		
805			2区		剥片石器類	剥片		珩質変質岩	1/2	—	—	—	—	—	—	—		
806		28	2区		剥片石器類	楔形石器		チャート	完形	—	—	—	—	—	—	3.5g		
807			2区		剥片石器類	剥片		珩質頁岩	完形	—	—	—	—	—	—	—		
808			2区		剥片石器類	剥片		珩質頁岩	一部欠	—	—	—	—	—	—	—		
809			2区		剥片石器類	剥片		珩質変質岩	完形	—	—	—	—	—	—	—		
810			2区		打製石斧類	削器A	横形両刃	細粒輝石安山岩	1/3	—	—	—	—	—	—	—		
811			2区		打製石斧類	打斧	階段状	珩質頁岩	完形	—	—	—	—	—	—	—		
812			2区		剥片石器類	剥片		珩質変質岩	1/3	—	—	—	—	—	—	—		
813			2区		剥片石器類	剥片		珩質変質岩	完形	—	—	—	—	—	—	—		
814			2区		剥片石器類	剥片		チャート	完形	—	—	—	—	—	—	—		
815			2区		剥片石器類	剥片		珩質変質岩	完形	—	—	—	—	—	—	—		
816			2区		剥片石器類	剥片		赤碧玉	一部欠	—	—	—	—	—	—	—		
817			2区		剥片石器類	剥片		チャート	一部欠	—	—	—	—	—	—	—		
818			2区		剥片石器類	剥片		珩質変質岩	一部欠	—	—	—	—	—	—	—		
819			2区		剥片石器類	剥片		珩質変質岩	1/2	—	—	—	—	—	—	—		
820			2区		剥片石器類	剥片		珩質頁岩	完形	—	—	—	—	—	—	—		
821			2区		剥片石器類	剥片		珩質変質岩	一部欠	—	—	—	—	—	—	—		
822			2区		剥片石器類	剥片		赤碧玉	完形	—	—	—	—	—	—	—		
823			2区		剥片石器類	剥片		珩質変質岩	完形	—	—	—	—	—	—	—		
824			2区		剥片石器類	剥片		珩質変質岩	完形	—	—	—	—	—	—	—		
825			2区		剥片石器類	剥片		チャート	1/2	—	—	—	—	—	—	—		
			2区		剥片石器類	剥片		珩質頁岩	完形	—	—	—	—	—	—	—		

観 察 表

石器No	挿図No	図解No	遺構区分	注記番号	区 分	器 種	形 態	石 材	遺存率	長 さ	折れ1	幅	折れ2	厚 さ	折れ3	重 さ	備 考
826			2区		剝片石器類	剝片		珪質頁岩	完形	—	—	—	—	—	—	—	
827			2区		剝片石器類	剝片		チャート	1/2	—	—	—	—	—	—	—	
828			2区		剝片石器類	剝片		珪質変質岩	完形	—	—	—	—	—	—	—	
829			SI03		剝片石器類	剝片		チャート	1/2	—	—	—	—	—	—	—	
830			SI03	a上	剝片石器類	剝片		珪質変質岩	完形	—	—	—	—	—	—	—	
831			SI03		剝片石器類	剝片		チャート	完形	—	—	—	—	—	—	—	
832			SI03		剝片石器類	剝片		珪質変質岩	完形	—	—	—	—	—	—	—	
833		28	SI03		剝片石器類	石鏃未製品		珪質変質岩	完形	—	—	—	—	—	—	1.2g	
834			SI03		剝片石器類	剝片		チャート	一部欠	—	—	—	—	—	—	—	
835			SI03		剝片石器類	剝片		珪質変質岩	完形	—	—	—	—	—	—	—	
836			SI09	b下	剝片石器類	剝片		赤碧玉	1/2	—	—	—	—	—	—	—	
837			SI09		剝片石器類	剝片		珪質変質岩	1/2	—	—	—	—	—	—	—	
838			SI09		剝片石器類	剝片		珪質頁岩	完形	—	—	—	—	—	—	—	
839			SI09		剝片石器類	剝片		珪質変質岩	完形	—	—	—	—	—	—	—	
840			SI09	d下	剝片石器類	剝片		珪質頁岩	完形	—	—	—	—	—	—	—	
841			SI09	d下	剝片石器類	剝片		珪質変質岩	1/2	—	—	—	—	—	—	—	
842			SI09		剝片石器類	剝片		珪質燧灰岩	完形	—	—	—	—	—	—	—	
843			SI09	d下	剝片石器類	剝片		珪質頁岩	完形	—	—	—	—	—	—	—	
844			SI09	d下	剝片石器類	剝片		赤碧玉	完形	—	—	—	—	—	—	—	
845			SI09		剝片石器類	剝片		珪質頁岩	完形	—	—	—	—	—	—	—	
846			SI09		剝片石器類	剝片		珪質頁岩	完形	—	—	—	—	—	—	—	
847			SI09		剝片石器類	剝片		珪質変質岩	1/2	—	—	—	—	—	—	—	
848	49-55		SI05		剝片石器類	削器B		珪質頁岩	完形	4.1cm	—	2.6cm	—	1.28cm	—	11.0g	前期?
849			SI05		剝片石器類	剝片		珪質変質岩	完形	—	—	—	—	—	—	—	
850			SI05		剝片石器類	剝片		珪質変質岩	1/2	—	—	—	—	—	—	—	
851			SI10		剝片石器類	剝片		珪質頁岩	1/2	—	—	—	—	—	—	—	
852			SI05		剝片石器類	剝片		チャート	完形	—	—	—	—	—	—	—	
853			SI10		剝片石器類	剝片		赤碧玉	1/2	—	—	—	—	—	—	—	
854			SI05		剝片石器類	剝片		チャート	完形	—	—	—	—	—	—	—	
855			SI05	a上	剝片石器類	剝片		珪質土質岩石	完形	—	—	—	—	—	—	—	
856			SI02	c上	剝片石器類	剝片		珪質変質岩	完形	—	—	—	—	—	—	—	
857			SI02		剝片石器類	剝片		蛋白石?	完形	—	—	—	—	—	—	—	
858			SI02		剝片石器類	剝片		蛋白石?	完形	—	—	—	—	—	—	—	
859			SI02	c上	剝片石器類	剝片		珪質変質岩	完形	—	—	—	—	—	—	—	
860			SI02		剝片石器類	剝片		蛋白石?	完形	—	—	—	—	—	—	—	
861			SI02		剝片石器類	剝片		珪質燧灰岩	2/3	—	—	—	—	—	—	—	
862			SI02		剝片石器類	剝片		黒色安山岩	一部欠	—	—	—	—	—	—	—	
863			SI02	9	剝片石器類	剝片		珪質変質岩	2/3	—	—	—	—	—	—	—	
864			SI04		剝片石器類	剝片		黒色安山岩	一部欠	—	—	—	—	—	—	—	
865			SI02	c上	剝片石器類	剝片		珪質変質岩	完形	—	—	—	—	—	—	—	

石器No	插图No	図説No	遺構区分	注記番号	区 分	器 種	形 態	石 材	遺存率	長 さ	折れ1	幅	折れ2	厚 さ	折れ3	重 さ	備 考
866			S102	b床	剥片石器類	剥片		珪質変質岩	完形	—	—	—	—	—	—	—	
867			S102		剥片石器類	剥片		珪質変質岩	完形	—	—	—	—	—	—	—	
868			S102		剥片石器類	剥片		蛋白石?	一部欠	—	—	—	—	—	—	—	
869			S102		剥片石器類	剥片		珪質変質岩	1/3	—	—	—	—	—	—	—	
870			S108		剥片石器類	剥片		赤碧玉	完形	—	—	—	—	—	—	—	
871			S108	d下	剥片石器類	剥片		珪質変質岩	1/3	—	—	—	—	—	—	—	
872		28	S108		剥片石器類	削器B		珪質変質岩	1/2	—	—	—	—	—	—	5.7g	
873			S108	ab上	剥片石器類	剥片		チャート	1/2	—	—	—	—	—	—	—	
874			S108		剥片石器類	剥片		チャート	1/2	—	—	—	—	—	—	—	
875			S108		剥片石器類	剥片		珪質頁岩	2/3	—	—	—	—	—	—	—	
876			SK06	焼土	剥片石器類	剥片		チャート	完形	—	—	—	—	—	—	—	
877		28	SK06	焼土	剥片石器類	削器B		チャート	完形	—	—	—	—	—	—	—	
878			SK06	焼土	剥片石器類	剥片		チャート	完形	—	—	—	—	—	—	—	
879			SF01		剥片石器類	剥片		珪質頁岩	一部欠	—	—	—	—	—	—	—	
880			SF01		剥片石器類	剥片		珪質頁岩	完形	—	—	—	—	—	—	—	
881			SF01		打製石斧類	剥片	折れ	細粒輝石安山岩	一部欠	—	—	—	—	—	—	—	
882			SF01		剥片石器類	剥片		チャート	完形	—	—	—	—	—	—	—	
883			SF01		剥片石器類	二次加工ある剥片		珪質頁岩	完形	—	—	—	—	—	—	—	
884			SF01		剥片石器類	剥片		赤碧玉	一部欠	—	—	—	—	—	—	—	
885			S107	下	剥片石器類	剥片		珪質変質岩	完形	—	—	—	—	—	—	—	
886			S107		剥片石器類	剥片		珪質変質岩	完形	—	—	—	—	—	—	—	
887			S107		剥片石器類	剥片		珪質変質岩	1/2	—	—	—	—	—	—	—	
888			S107		剥片石器類	剥片		珪質変質岩	完形	—	—	—	—	—	—	—	
889		28	S107		剥片石器類	石鏝未製品		珪質変質岩	完形	—	—	—	—	—	—	2.6g	
890	59-16	28	S107	下	剥片石器類	削器B		チャート	完形	3.05cm	—	5.1cm	—	1.2cm	—	13.2g	
891			S107		剥片石器類	剥片		チャート	完形	—	—	—	—	—	—	—	
892			S107		剥片石器類	剥片		珪質変質岩	完形	—	—	—	—	—	—	—	
893			S107		剥片石器類	剥片		珪質頁岩	完形	—	—	—	—	—	—	—	
894			S107	a上	剥片石器類	剥片		珪質変質岩	2/3	—	—	—	—	—	—	—	
895			S107		剥片石器類	剥片		珪質変質岩	完形	—	—	—	—	—	—	—	
896			列石		剥片石器類	剥片		珪質頁岩	完形	—	—	—	—	—	—	—	
897			列石		剥片石器類	剥片		硬質頁岩	完形	—	—	—	—	—	—	—	
898			列石	焼土	剥片石器類	剥片		珪質変質岩	完形	—	—	—	—	—	—	—	焼けはじけ
899			列石	焼土	剥片石器類	剥片		珪質変質岩	完形	—	—	—	—	—	—	—	
900			S101		剥片石器類	剥片		チャート	完形	—	—	—	—	—	—	—	
901			S101		打製石斧類	打斧整形剥片	階段状	粗粒輝石安山岩	完形	—	—	—	—	—	—	—	
902	57-38		S106	ヘルト	剥片石器類	剥片		チャート	完形	—	—	—	—	—	—	—	
903			S106	焼土	剥片石器類	石核		珪質変質岩	完形	4.1cm	+	3.7cm	—	1.4cm	—	20.0g	
904			S106		剥片石器類	剥片		珪質変質岩	完形	—	—	—	—	—	—	—	
905			SK05		剥片石器類	剥片		チャート	1/2	—	—	—	—	—	—	—	
					剥片石器類	剥片		珪質変質岩	一部欠	—	—	—	—	—	—	—	

観察表

石器No	挿入No	図説No	遺構区分	注記番号	区分	器種	形態	石材	遺存率	長さ	折れ1	幅	折れ2	厚さ	折れ3	重さ	備考
906			SK05	焼土	剝片石器類	剝片		珪質変質岩	完形	—	—	—	—	—	—	—	
907			SK05	焼土	剝片石器類	剝片		チャート	一部欠	—	—	—	—	—	—	—	
908			SK05	焼土	剝片石器類	剝片		赤碧玉	一部欠	—	—	—	—	—	—	—	
909			SK05		剝片石器類	剝片		珪質変質岩	完形	—	—	—	—	—	—	—	
910			SK05		剝片石器類	剝片		チャート	完形	—	—	—	—	—	—	—	
911			SK05	焼土	剝片石器類	剝片		珪質頁岩	1/2	—	—	—	—	—	—	—	
912			SK05	焼土	剝片石器類	二次加工ある剝片		石英	完形	—	—	—	—	—	—	—	
913			SK05		剝片石器類	剝片		細粒軟質凝灰岩	完形	—	—	—	—	—	—	—	
914			SK05	焼土	剝片石器類	二次加工ある剝片		珪質変質岩	完形	—	—	—	—	—	—	—	
915			SK14		剝片石器類	剝片		珪質変質岩	1/2	—	—	—	—	—	—	—	
916			SK14		剝片石器類	剝片		チャート	完形	—	—	—	—	—	—	—	
917			SK21		剝片石器類	剝片		珪質変質岩	完形	—	—	—	—	—	—	—	
918			SK18		剝片石器類	剝片		チャート	完形	—	—	—	—	—	—	—	
919			SK38		剝片石器類	剝片		チャート	完形	—	—	—	—	—	—	—	
920			SK18		剝片石器類	剝片		チャート	完形	—	—	—	—	—	—	—	
921			SK41		剝片石器類	剝片		珪質頁岩	完形	—	—	—	—	—	—	—	
922	119-77	28	SK33		剝片石器類	削器B		珪質頁岩	完形	2.38cm	3.16cm	1.0cm	—	—	—	8.0g	
923			SF01		剝片石器類	剝片		チャート	完形	—	—	—	—	—	—	—	
924			SF01		剝片石器類	剝片		チャート	完形	—	—	—	—	—	—	—	
925			S103	下	剝片石器類	剝片		チャート	完形	—	—	—	—	—	—	—	
926			S105		剝片石器類	残核		チャート	完形	—	—	—	—	—	—	—	
927			S103		剝片石器類	剝片		ガラス質安山岩	一部欠	—	—	—	—	—	—	—	
928			S110		剝片石器類	剝片		チャート	一部欠	—	—	—	—	—	—	—	
929	29-64		S102		剝片石器類	石鏃	凹基	黒耀石	1/2	—	—	—	—	—	—	—	
930		28	S104	d上	剝片石器類	石鏃未製品	平基	黒耀石	完形	—	—	—	—	—	—	2.8g	
931	38-66	28	S103		剝片石器類	石鏃	平基	黒耀石	一部欠	1.15cm	1.71cm	0.29cm	—	—	—	0.5g	
932	38-67	28	S103		剝片石器類	採掘器		黒耀石	一部欠	2.3cm	1.0cm	0.5cm	—	—	—	1.3g	つまみ無し
933		28	S103		剝片石器類	石鏃未製品	平基	黒耀石	破片	—	—	—	—	—	—	0.5g	
934		28	S105		剝片石器類	石鏃	平基	黒耀石	完形	2.05cm	1.46cm	0.35cm	—	—	—	0.7g	
935	49-54	28	S105		剝片石器類	採掘器		黒耀石	一部欠	—	—	—	—	—	—	—	
936		28	S105		剝片石器類	石鏃未製品		黒耀石	2/3	—	—	—	—	—	—	—	
937		28	S105		剝片石器類	石鏃未製品		黒耀石	完形	—	—	—	—	—	—	—	
938			S111		剝片石器類	石鏃未製品		黒耀石	一部欠	1.79cm	+	1.43cm	+	0.37cm	—	0.8g	
939		28	S111		剝片石器類	石鏃未製品		黒耀石	1/2	—	—	—	—	—	—	—	
940	107-51	28	SK05		剝片石器類	石鏃	凹基三角	黒耀石	一部欠	—	—	—	—	—	—	—	
941		28	SK05		剝片石器類	石鏃	凹基	黒耀石	1/2	—	—	—	—	—	—	—	
942	107-52	28	SK06		剝片石器類	石鏃未製品		黒耀石	2/3	—	—	—	—	—	—	—	
943		28	列石	焼土	剝片石器類	石鏃未製品		黒耀石	2/3	—	—	—	—	—	—	—	
944	133-91		2区		剝片石器類	石鏃	凹基三角	黒耀石	完形	1.28cm	1.34cm	0.4cm	—	—	—	0.4g	
945		28	2区		剝片石器類	石鏃	凹基長形	黒耀石	一部欠	1.88cm	0.94cm	+	0.43cm	—	—	0.5g	

石器No.	挿図No.	図解No.	遺構区分	注記番号	区分	器	種	形	態	石	材	遺存率	長さ	折れ1	幅	折れ2	厚さ	折れ3	重さ	備	考
946			2区		剥片石器類	石鏃木製品				黒耀石		完形	—	—	—	—	—	—	2.0g		
947			SI05	105	礫石器	石皿				粗粒輝石安山岩		破片	214.0cm	+	117.0cm	+	78.0cm		3,100.0g		
948			SI05	103	礫石器	石皿				粗粒輝石安山岩		1/2	213.0cm	+	195.0cm		122.0cm		7,200.0g		
949			SK05	焼土	礫石器	石皿				粗粒輝石安山岩		1/3	272.0cm	+	169.0cm	+	75.0cm		4,500.0g		
950			SK05	焼土	礫石器	石皿				粗粒輝石安山岩		破片	290.0cm	+	202.0cm	+	172.0cm		10,000.0g		
951			SI05	116	礫石器	石皿				粗粒輝石安山岩		破片	118.0cm	+	93.0cm	+	85.0cm		1,502.0g		
952			SF01	2	打製石斧類	打製石斧		平形		粗粒輝石安山岩		2/3	85.0cm	+	48.0cm		18.0cm		97.0g		
953			SI19	11	その他	磨製石斧		定角式		蛇紋岩		1/2	83.0cm	+	60.0cm		38.0cm		230.0g		
954			SI19		剥片石器類	二次加工ある剥片				黒耀石		完形	1.66cm		2.18cm		0.75cm		2.0g		
955			SI19		打製石斧類	削器A				細粒輝石安山岩		破片	30.0cm	+	19.0cm	+	7.0cm		5.0g		
956			SI19		剥片石器類	残核				黒耀石		完形	1.92cm		1.7cm		3.18cm		—		
957			SI19		剥片石器類	剥片				蛋白石		完形	—		—		—		—		
958			SI18	掘	剥片石器類	剥片				黒耀石		完形	1.99cm		1.06cm		0.71cm		1.0g		
959			SI05	123	礫石器類	石皿				粗粒輝石安山岩		破片	79.0cm	+	119.0cm	+	79.0cm		773.0g		
960			SI13	6	礫石器類	石皿		凹面		石英閃緑岩		破片	129.0cm	+	70.0cm	+	49.0cm		393.0g		
961			SI13		その他	磨製石斧				蛇紋岩		破片	46.0cm	+	34.0cm	+	5.0cm		14.6g		
962					剥片石器類	剥片				黒耀石		完形	—		—		—		—		
963		28	2区		剥片石器類	石鏃木製品				黒耀石		一部欠	1.85cm		1.7cm		0.57cm		2.0g		
964			2区		剥片石器類	剥片				黒耀石		完形	—		—		—		—		
965			2区		剥片石器類	剥片				黒耀石		完形	—		—		—		0.7g		
966			2区		剥片石器類	剥片				黒耀石		完形	—		—		—		0.4g		
967			1区		剥片石器類	剥片				珪質安山岩		完形	—		—		—		—		
968			1区		剥片石器類	剥片				黒耀石		完形	3.63cm		1.65cm		0.83cm		3.4g		
969			1区		剥片石器類	剥片				黒耀石		完形	2.37cm		1.81cm		1.39cm		4.3g		
970			1区		剥片石器類	剥片				黒耀石		完形	2.16cm	+	4.47cm		1.39cm		4.1g		
971			1区		剥片石器類	剥片				黒耀石		完形	1.77cm		2.69cm		0.96cm		3.4g		
972			1区		剥片石器類	剥片				黒耀石		完形	2.56cm		1.14cm		1.56cm		3.6g		
973	133-94	28	1区		剥片石器類	石鏃				黒耀石		完形	—		—		—		2.0g		
974			1区		剥片石器類	剥片				黒耀石		完形	2.35cm		1.38cm		0.43cm		1.3g		
975			1区		剥片石器類	剥片				黒耀石		完形	1.42cm		2.0cm		0.55cm		0.8g		
976			1区		剥片石器類	剥片				黒耀石		完形	1.94cm		2.21cm		0.53cm		2.0g		
977			1区		剥片石器類	剥片				黒耀石		完形	1.63cm		1.68cm		0.33cm		0.7g		
978			1区		剥片石器類	剥片				黒耀石		完形	—		—		—		0.4g		
979			1区		剥片石器類	石鏃				黒耀石		完形	—		—		—		1.5g		
980		SI13	c		礫石器	磨石		平小形		粗粒輝石安山岩		完形	75.0cm		50.0cm		34.0cm		171.0g		
981		SI13	b		軽石製品	軽石製品		不定形		軽石		完形	95.0cm		80.0cm		50.0cm		166.0g		
982		SI05	99		礫石器	石皿				粗粒輝石安山岩		破片	149.0cm	+	111.0cm	+	70.0cm		1,860.0g		
983		SI13	d		礫石器	破石+凹石		細形		粗粒輝石安山岩		完形	100.0cm		52.0cm		50.0cm		351.0g		
984	81-22	30	SI13		打製石斧類	打製石斧		平形		細粒輝石安山岩		2/3	98.0cm	+	45.0cm		15.0cm		61.0g		

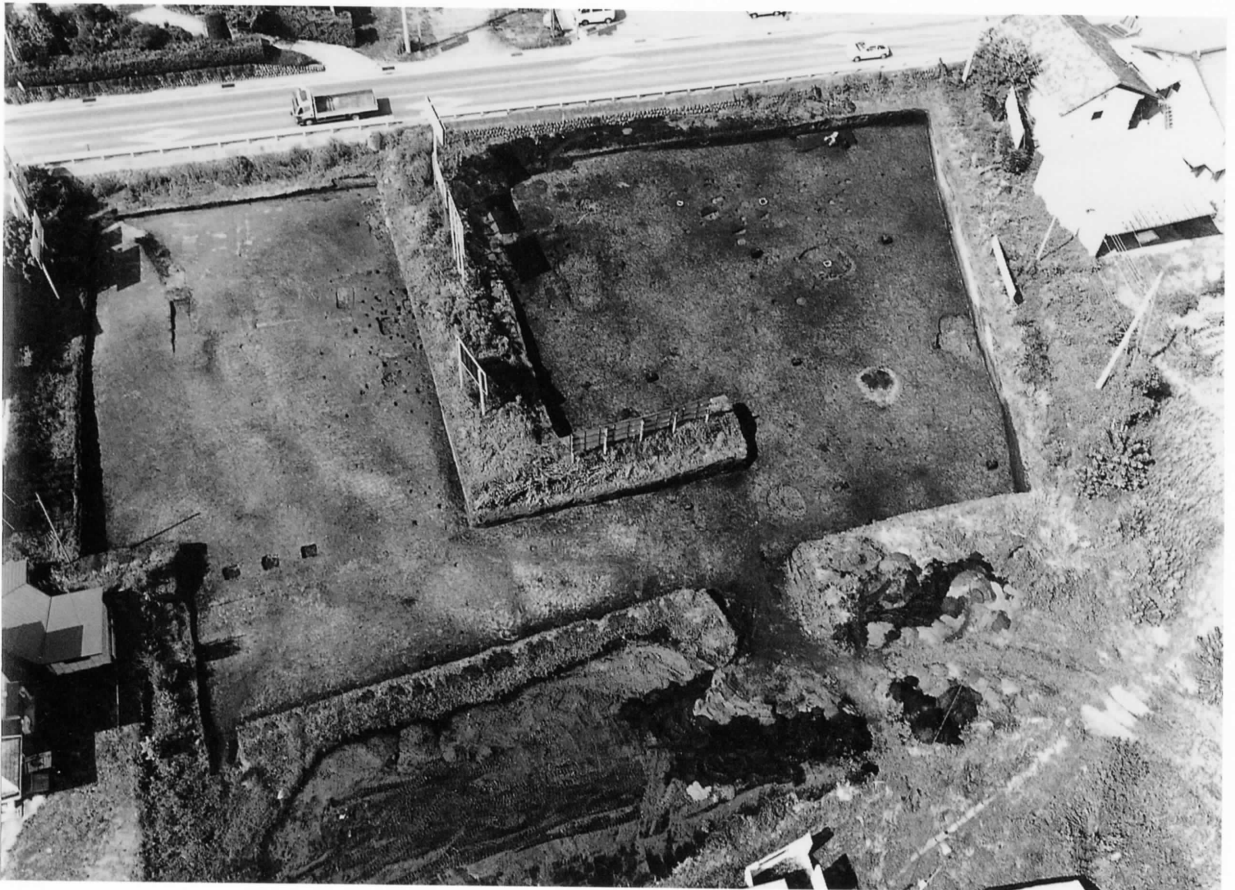
観 察 表

石器No	挿図No	図No	遺構区分	注記番号	区 分	器 種	形 態	石 材	遺存率	長 さ	折れ1	幅	折れ2	厚 さ	折れ3	重 さ	備 考
985		SI13			打製石斧類	打製石斧	凸形	粗粒輝石安山岩	完形	115.0cm		53.0cm		27.0cm		191.0g	
986		SI13	c		打製石斧類	打製石斧	平形	粗粒輝石安山岩	2/3	92.0cm	+	47.0cm		18.0cm		50.0g	
987	81-21	SI13	c		打製石斧類	打製石斧	平撥形	細粒輝石安山岩	完形	106.0cm		45.0cm		13.0cm		77.0g	
988		SI13	c		打製石斧類	打製石斧	単刺離面	細粒輝石安山岩	1/2	75.0cm		24.0cm	+	18.0cm		27.0g	
989		SI13	c		打製石斧類	打斧整形剝片	階段状	細粒輝石安山岩	完形	16.0cm		32.0cm		6.0cm		3.0g	
990	81-20	SI13			打製石斧類	打製石斧	平撥形	粗粒輝石安山岩	完形	104.0cm		56.0cm		22.0cm		132.0g	
991		SI13	a		剝片石器類	剝片	黒耀石	黒耀石	完形	1.68cm		1.50cm		0.43cm		0.8g	
992		SI13	d		剝片石器類	剝片	黒耀石	黒耀石	1/2	2.15cm	+	2.91cm		1.13cm		6.6g	
993		SI13	d		剝片石器類	剝片	黒耀石	黒耀石	完形	1.93cm		0.92cm		0.64cm		0.7g	
994		SI13	b		剝片石器類	剝片	黒耀石	黒耀石	完形	1.26cm	+	1.83cm		0.46cm		0.9g	
995		SI13	b		剝片石器類	剝片	黒耀石	黒耀石	完形	1.63cm		1.52cm		0.45cm		0.9g	
996		SI13	c		剝片石器類	剝片	黒耀石	黒耀石	完形	2.21cm		1.01cm		0.77cm		101g	
997		SI13	c		剝片石器類	剝片	黒耀石	黒耀石	完形	2.38cm		1.99cm		0.64cm		2.4g	
998		SI13			剝片石器類	剝片	黒耀石	黒耀石	2/3	1.43cm		1.69cm		0.34cm		0.5g	
999		SI13	c		剝片石器類	剝片	黒耀石	黒耀石	一部欠	1.72cm	+	2.3cm		0.57cm		1.5g	
1000	81-19	SI13	c		礫石器類	石皿	石英閃緑岩	黒耀石	破片	114.0cm	+	95.0cm	+	44.0cm	+	503.0g	
1001		SI13	b		礫石器類	敲石	不整形	粗粒輝石安山岩	完形	57.0cm		50.0cm		47.0cm		151.0g	
1002		SI06	40		剝片石器類	原石		黒耀石	完形	9.37cm		5.64cm		3.03cm		140.9g	
1003		SI06	8		礫石器類	石皿		粗粒輝石安山岩	破片	116.0cm	+	77.0cm	+	72.0cm	+	857.0g	
1004		列石	焼土		礫石器類	磨石		粗粒輝石安山岩	一部欠	113.0cm		87.0cm		47.0cm		554.0g	
1005		SB01	P2		剝片石器類	剝片		黒耀石	一部欠	2.63cm	+	2.06cm		1.04cm		2.6g	
1006		SI06	12		礫石器類	凹石	箱形	石英閃緑岩	完形	132.0cm		91.0cm		48.0cm		552.0g	
1007		SI06	33		礫石器類	敲石	平形	粗粒輝石安山岩	完形	106.0cm		68.0cm		35.0cm		340.0g	
1008		SI06	25		剝片石器類	原石		チャート	完形	126.0cm		111.0cm		89.0cm		1,385.0g	
1009	57-39	SI06	34		打製石斧類	剝片	礫面	細粒輝石安山岩	完形	116.0cm		47.0cm		14.0cm		75.0g	
1010		SI06	15		剝片石器類	原石		珪質変質岩	完形	186.0cm		65.0cm		57.0cm		375.0g	
1011		SI06	3	ピサイ	礫石器類	敲石+凹石	箱形	粗粒輝石安山岩	完形	132.0cm		98.0cm		50.0cm		651.0g	
1012		SI06	21		礫石器類	敲石	棒状大形	粗粒輝石安山岩	一部欠	159.0cm		70.0cm		65.0cm		1,063.0g	
1013	134-102	30	1区		打製石斧類	打製石斧	平形	細粒輝石安山岩	一部欠	84.0cm	+	42.0cm		13.0cm		52.0g	
1014		SI10	a		打製石斧類	打製石斧		粗粒輝石安山岩	破片	44.0cm		22.0cm		9.0cm		12.0g	
1015	134-101	30	1区		打製石斧類	打製石斧	平形	細粒輝石安山岩	一部欠	83.0cm	+	43.0cm		9.0cm		36.0g	
1016		SI18			軽石製品	軽石製品	不定形	軽石	完形	45.0cm		37.0cm		19.0cm		9.0g	

写 真 图 版



遺跡遠景（南西より）



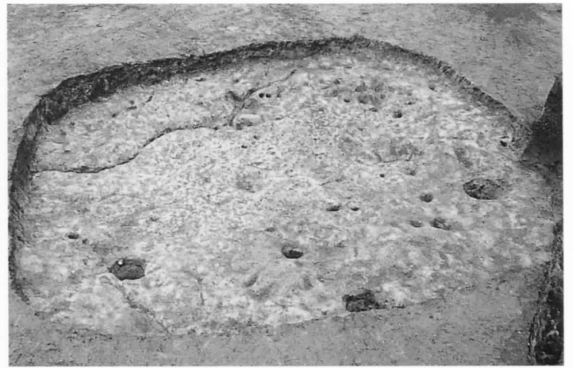
1区全景（南より）



2区全景 (南より)



1区近景 (南より)



SI12 (南より)



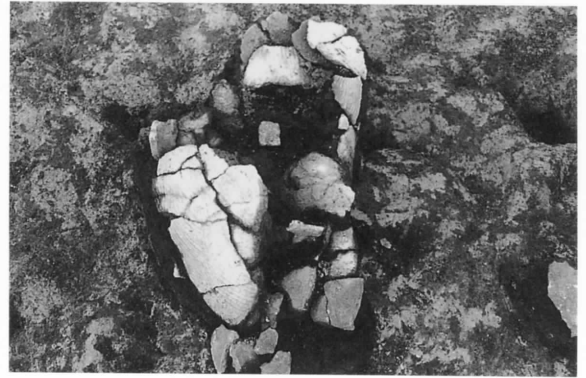
2区近景 (南東より)



SI12遺物出土状況



SK18 (北より)



SK35遺物出土状況①



SK21 (南より)



SK35遺物出土状況②



SK28 (南より)



弧状列石① (南東より)



SK35 (北より)



弧状列石② (西より)



立石 (SK44)



SI02炉 (南より)



SI01 (南より)



SI02遺物出土状況



SI02・04遺物検出状況 (東より)



SI04 (南より)



SI02 (南より)



SI04炉 (南より)



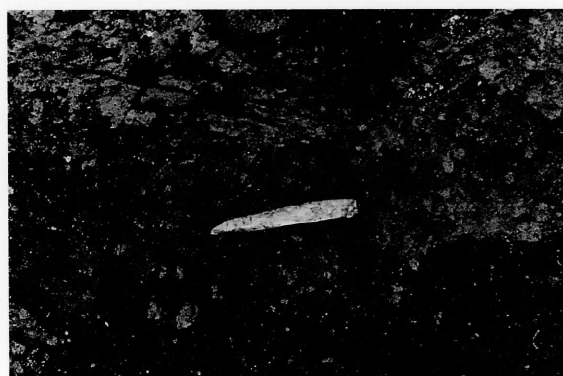
SI03 (南より)



SI03遺物出土状況②



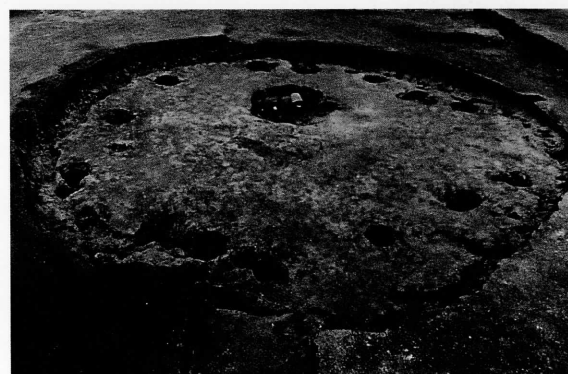
SI03遺物検出状況 (南より)



SI03遺物出土状況③ (磨製石斧)



SI03 (南より)



SI05 (南より)



SI03遺物出土状況①



SI05遺物検出状況 (南より)



SI05炉1 (南より)



SI06遺物検出状況 (東より)



SI05炉2 (南より)



SI06炉 (南より)



SI05遺物出土状況



SI06遺物出土状況①



SI06 (南より)



SI06遺物出土状況②



SI06遺物出土状況③



SI07 (南より)



SI06遺物出土状況④



SI08 (南東より)



SI06遺物出土状況⑤



SI08遺物検出状況 (南東より)



SI06遺物出土状況⑥



SI08炉



SI09 (南より)



SI09遺物出土状況①



SI09遺物検出状況 (南より)



SI09遺物出土状況②



SI09炉 (南より)



SI10・11 (南西より)



SI09埋甕



SI10・11遺物検出状況



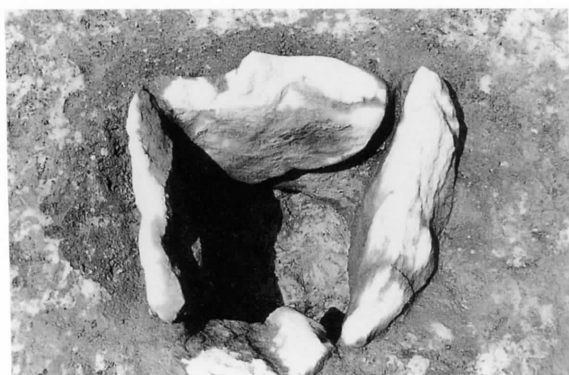
SI10 炉



SI11 遺物検出状況 (西より)



SI10 遺物出土状況①



SI11 炉



SI10 遺物出土状況②



SI13 (南西より)



SI11 (東より)



SI13 炉体土器



SI14 (南より)



SI17① (南より)



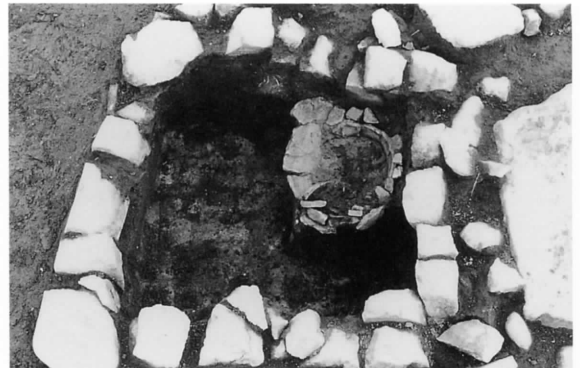
SI14遺物検出状況 (南より)



SI17② (北西より)



SI15 (南より)



SI17炉



SI16 (南より)



SI17埋甕



SI18 (南より)



SI19 (南より)



SI18炉



SI19検出状況 (南東より)



SI18埋甕



SK01 (東より)



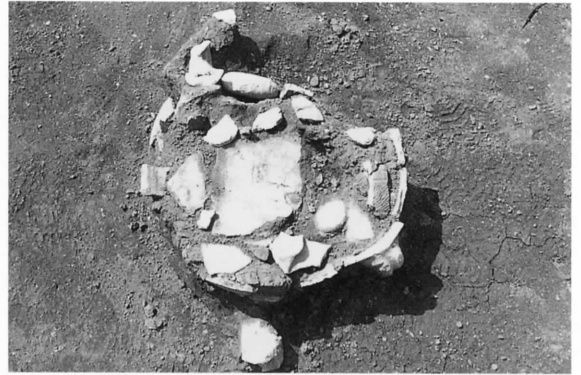
SI18遺物出土状況



SK03 (南より)



SK04 (南より)



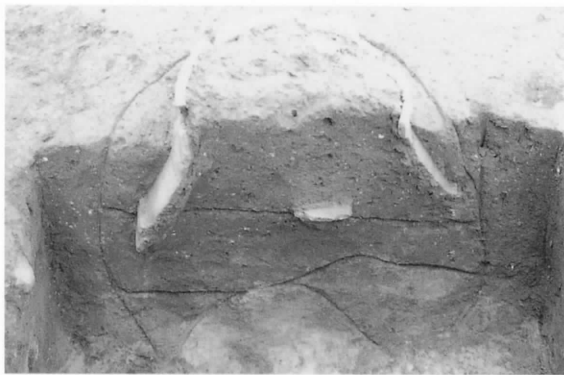
SK53 (南東より)



SK05 (南より)



SK54・55 (西より)



SK05半截状況 (南より)



SK57 (東より)



SK06 (東より)



SK58 (石組遺構) (南西より)



SK02 (西より)



SK10 (西より)



SK07 (西より)



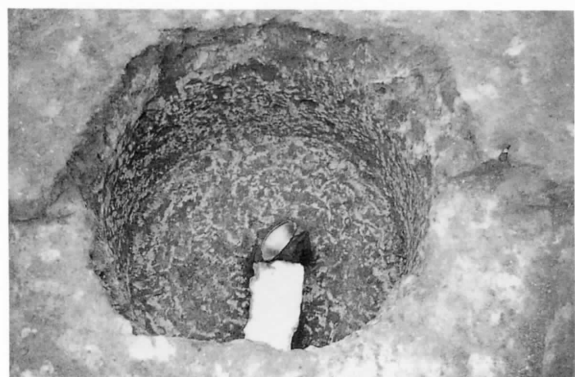
SK14 (南より)



SK08 (北東より)



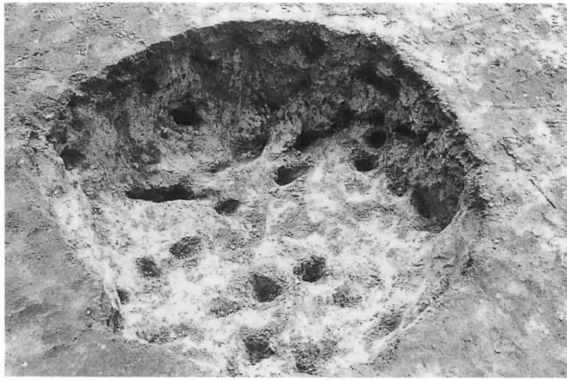
SK15 (南西より)



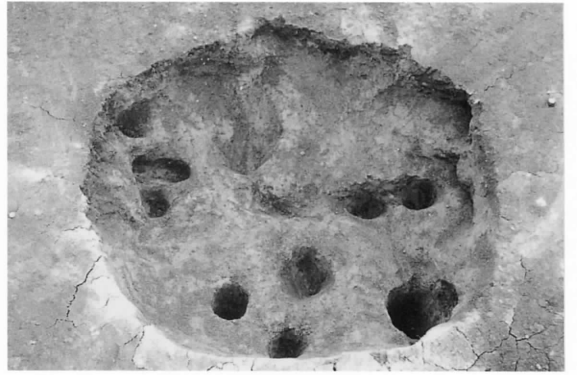
SK09 (東より)



SK16 (南より)



SK17 (南より)



SK23 (南西より)



SK19 (南西より)



SK24 (西より)



SK20 (南より)



SK25 (南より)



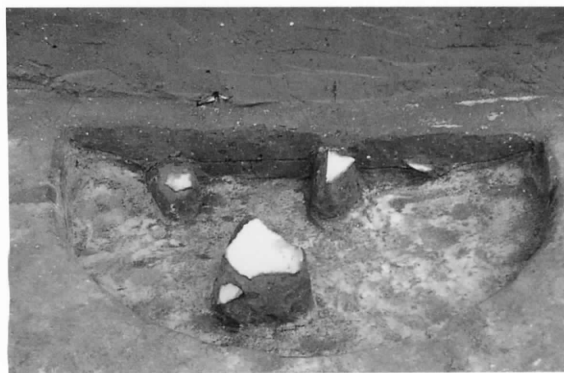
SK22 (北より)



SK26 (北東より)



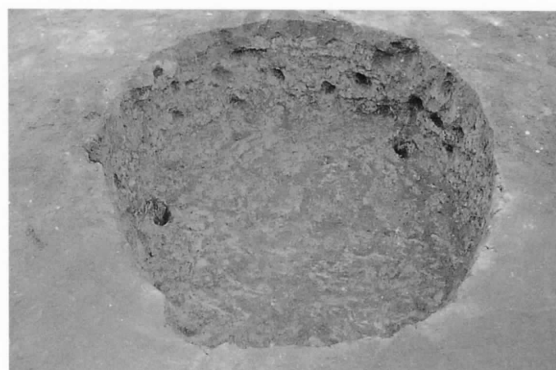
SK32・33 (南より)



SK13 (西より)



SK34 (西より)



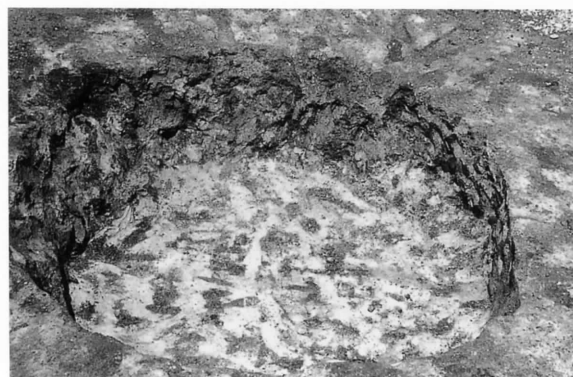
SK12 (南より)



SK36 (南西より)



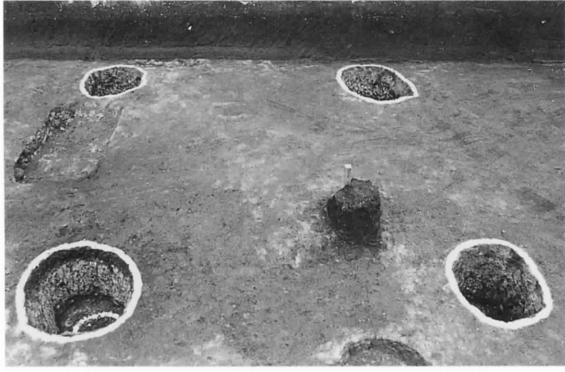
SI20 (南西より)



SK51 (南より)



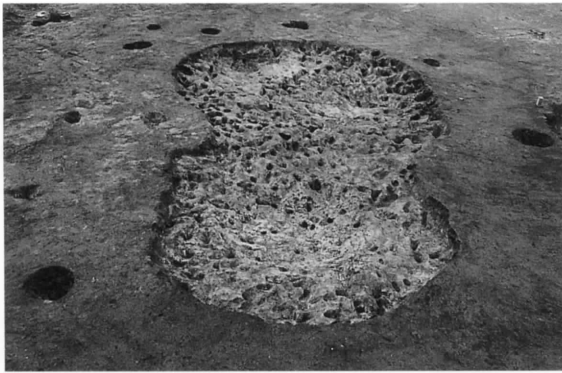
SI20カマド検出状況 (南西より)



SB01 (南より)



集石2 (北より)



1号配石 (南より)



SF01 (東より)



1号配石検出状況 (南より)



SX01 (南より)

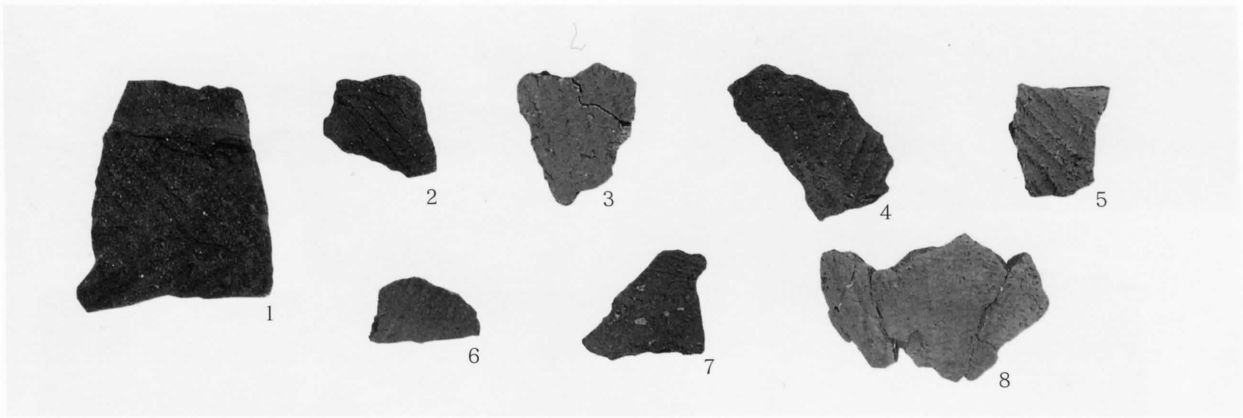


集石1 (北より)

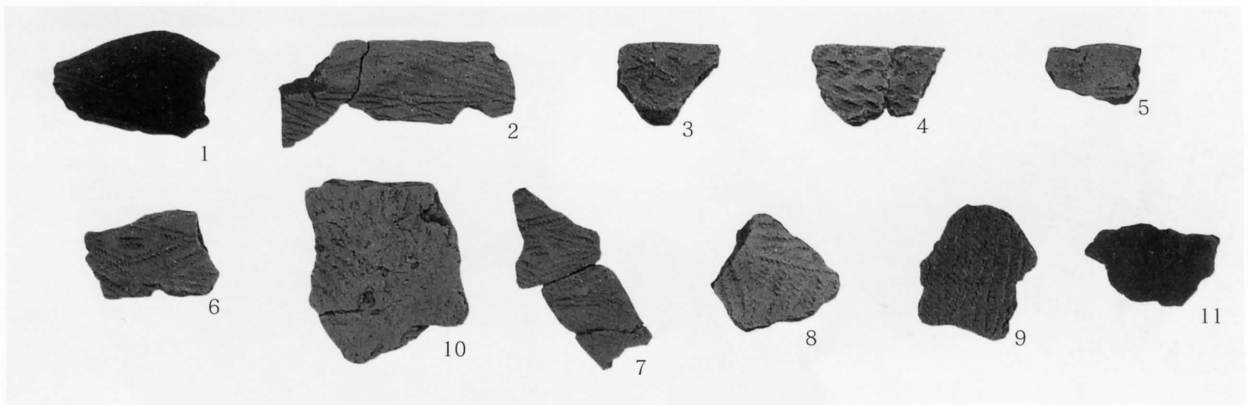


作業風景

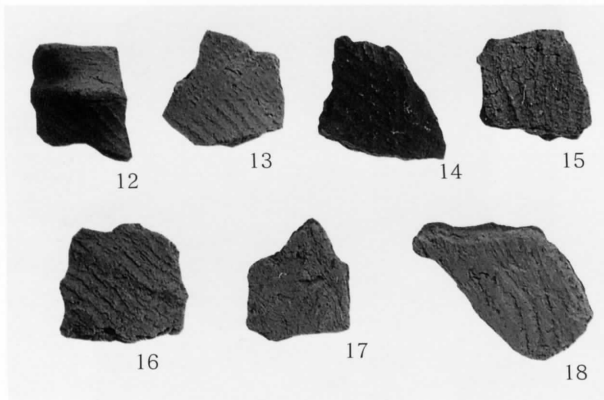
— SI12·土抗出土遺物 —



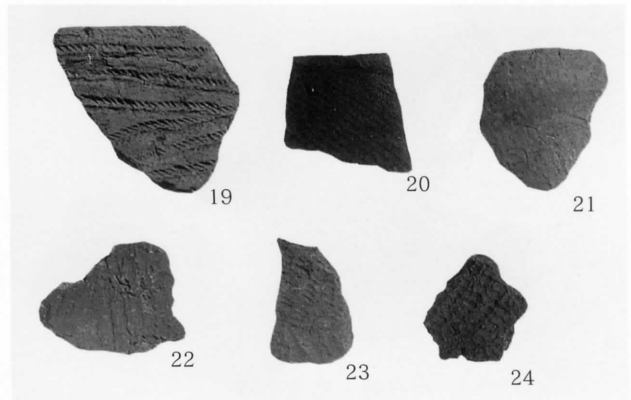
SI12出土土器



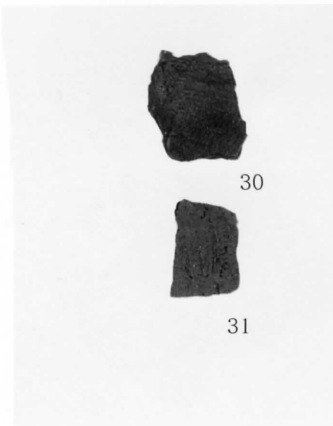
SK18出土土器



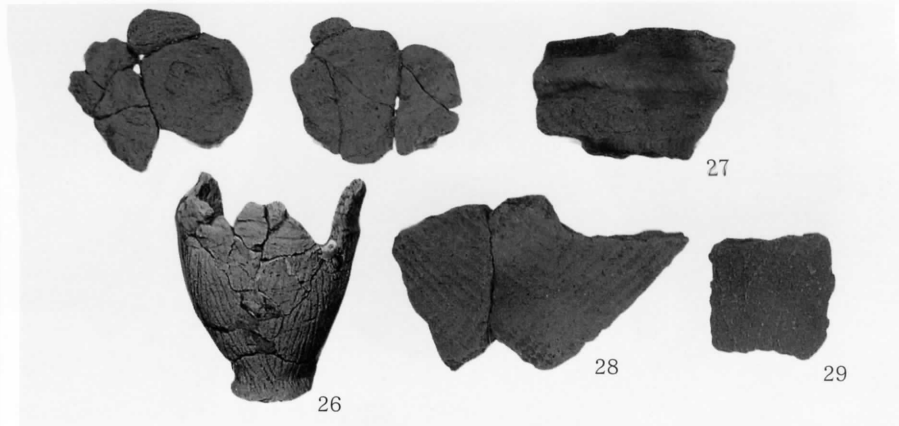
SK21出土土器



SK28出土土器

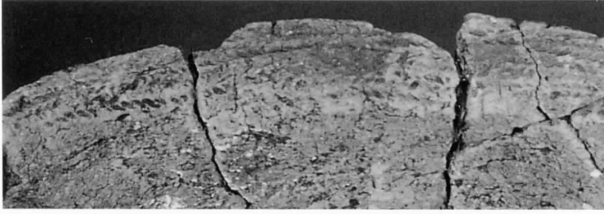


SK43出土土器

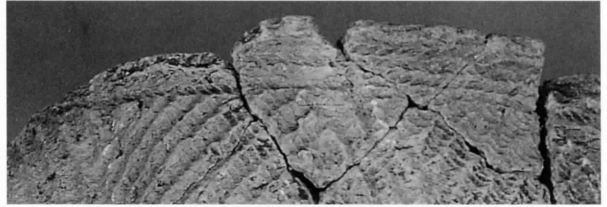


SK35出土土器①

—— 土抗・列石焼土・SI02出土遺物 ——



口縁部内面



口縁部外面



25

SK35出土土器②



1

列石焼土出土土器



1

7

SI02出土土器



5

— SI03・04出土遺物 —



SI03出土土器

SI04出土土器

— SI05出土遺物 —



SI05出土土器①

— SI05・06出土遺物 —



SI05出土土器②



SI06出土土器①

— SI06 · 07 · 08出土遺物 —



SI06出土土器②



SI07出土土器

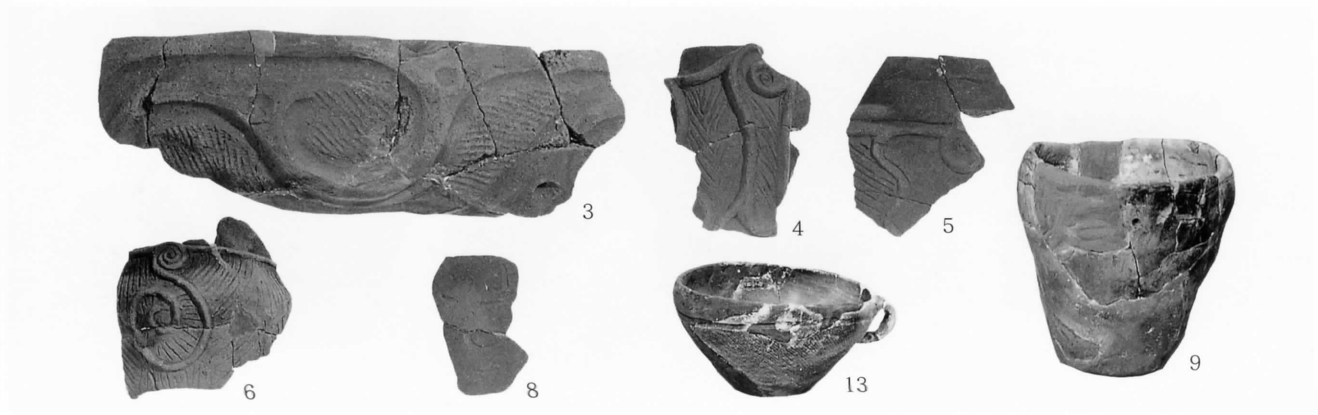


SI08出土土器

— SI09 · 10出土遺物 —



SI09出土土器

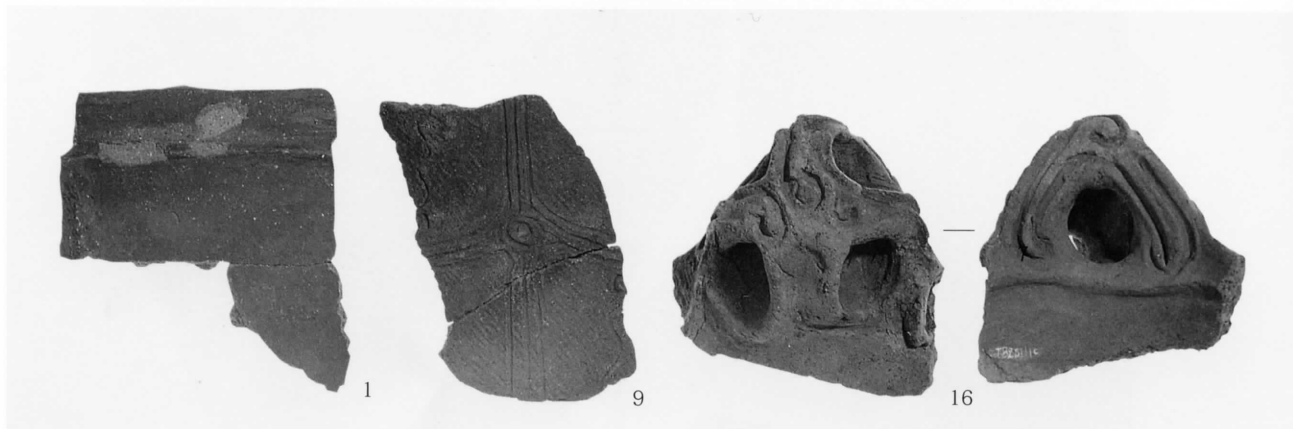


SI10出土土器①

— SI10 · 11 · 13 · 14出土遺物 —



SI10出土土器②



SI11出土土器



SI13出土土器



SI14出土土器

— SI17 · 18 · 19出土遺物 —



SI17出土土器



SI18出土土器



SI19出土土器

— 屋外埋設遺構出土遺物 —



1 (SK01)



4 (SK05)



14 (SK06)



15 (SK06)



16 (SK06燒土)



21 (SK06燒土)



19 (SK06燒土)

— 屋外埋設遺構・土坑出土遺物・アクセサリー類・土製品 —



44 (SK53)



47 (SK55)

屋外埋設遺構出土土器②



1 (SK02)



2 (SK08)



6 (SK08)



42 (SK33)

土坑出土土器



SI02-63



SI05-56



SI10-68



SI12-12

アクセサリー類 (1 : 2)



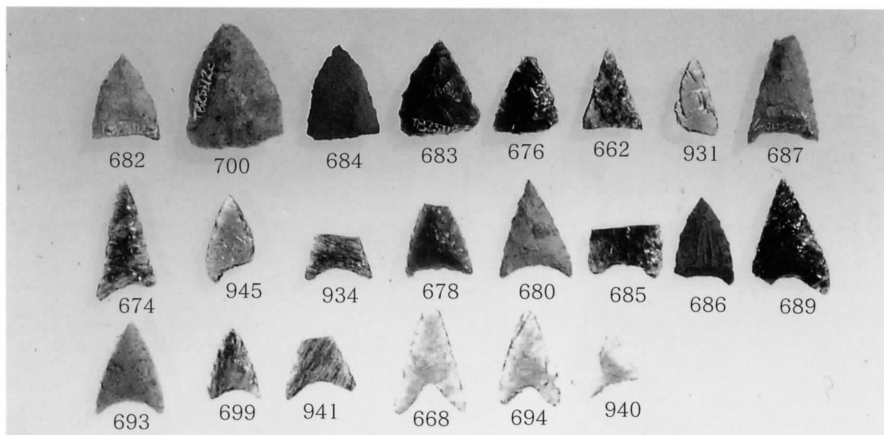
SI07-14



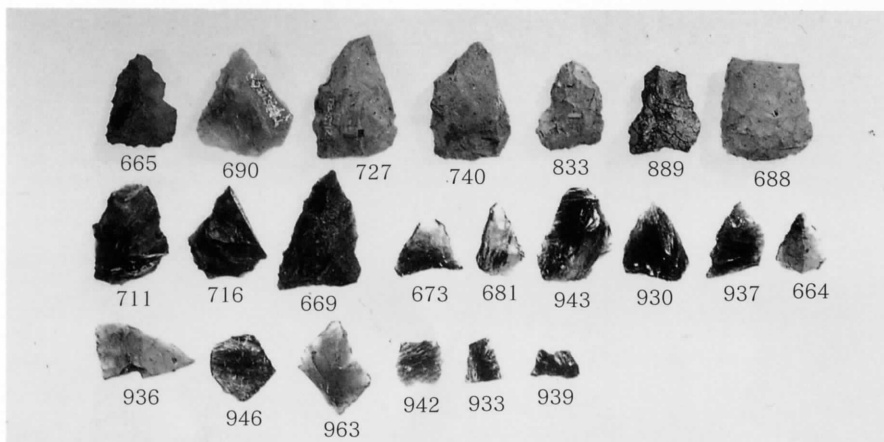
SI04-13

土製品 (1 : 2)

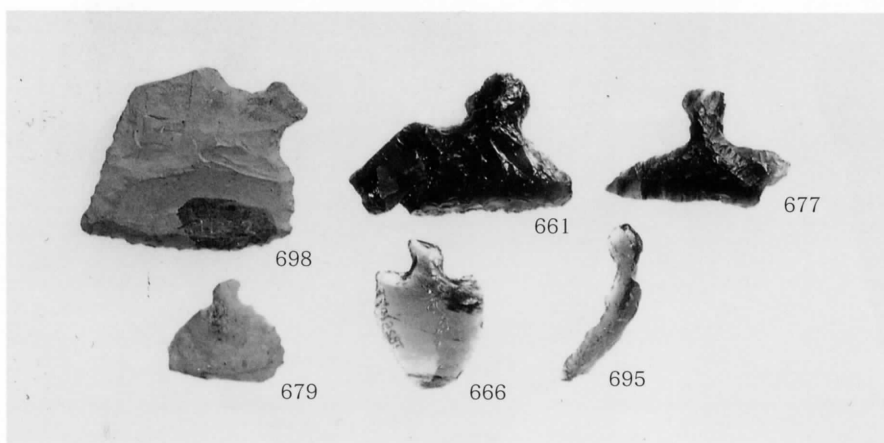
—— 剥片石器類 ——



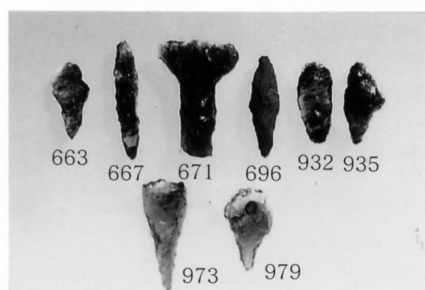
石鏃 (1:2)



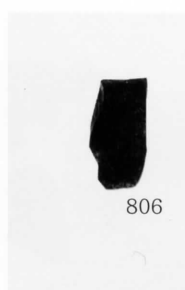
石鏃未製品 (1:2)



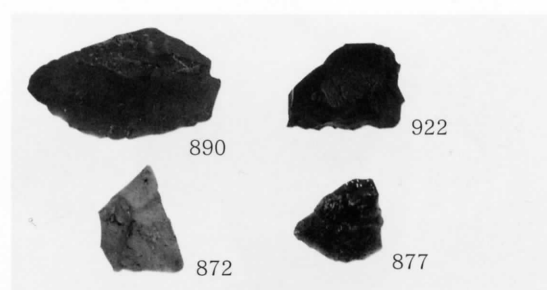
石匙 (1:2)



揉錘器 (1:2)

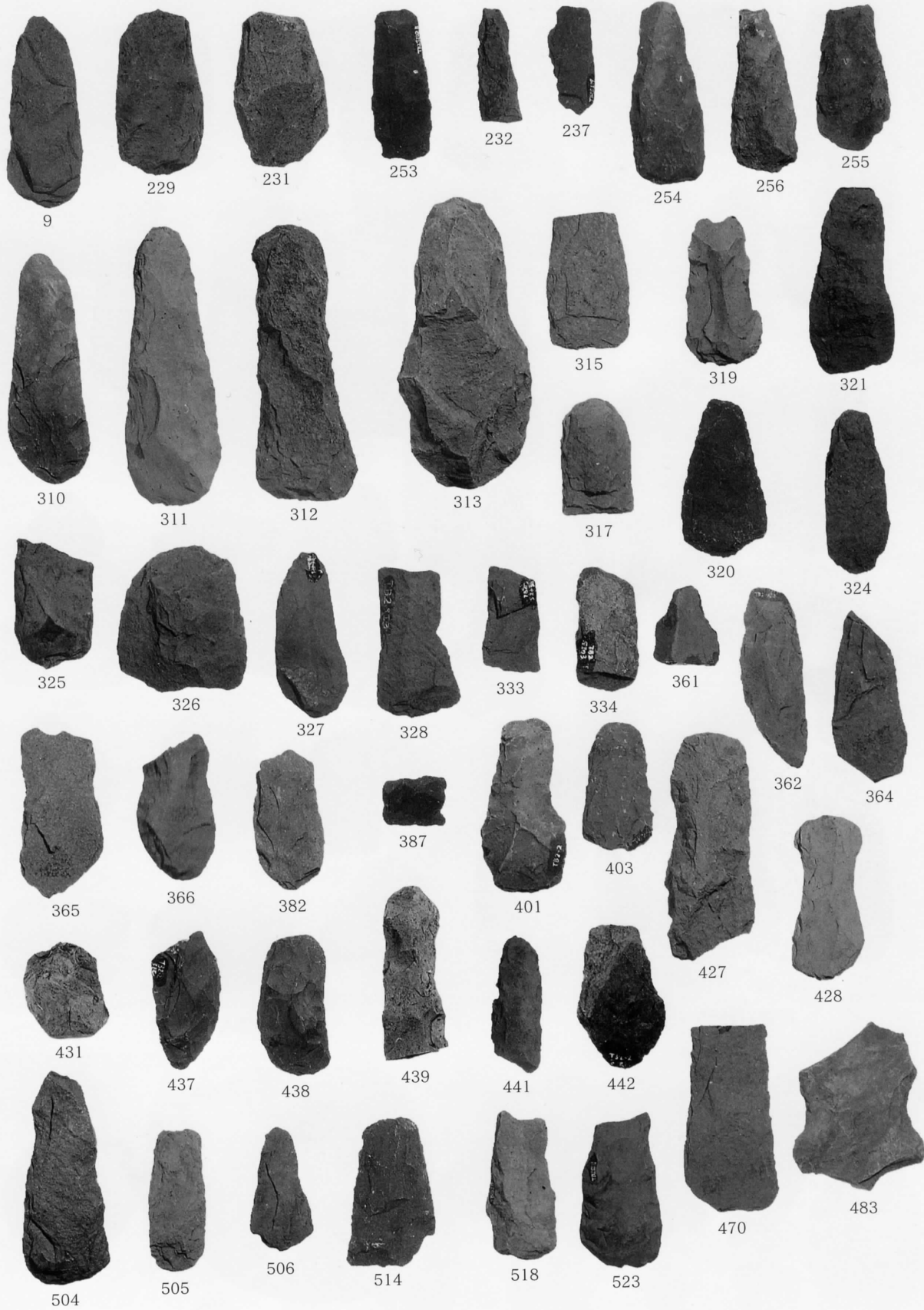


楔形石器 (1:2)



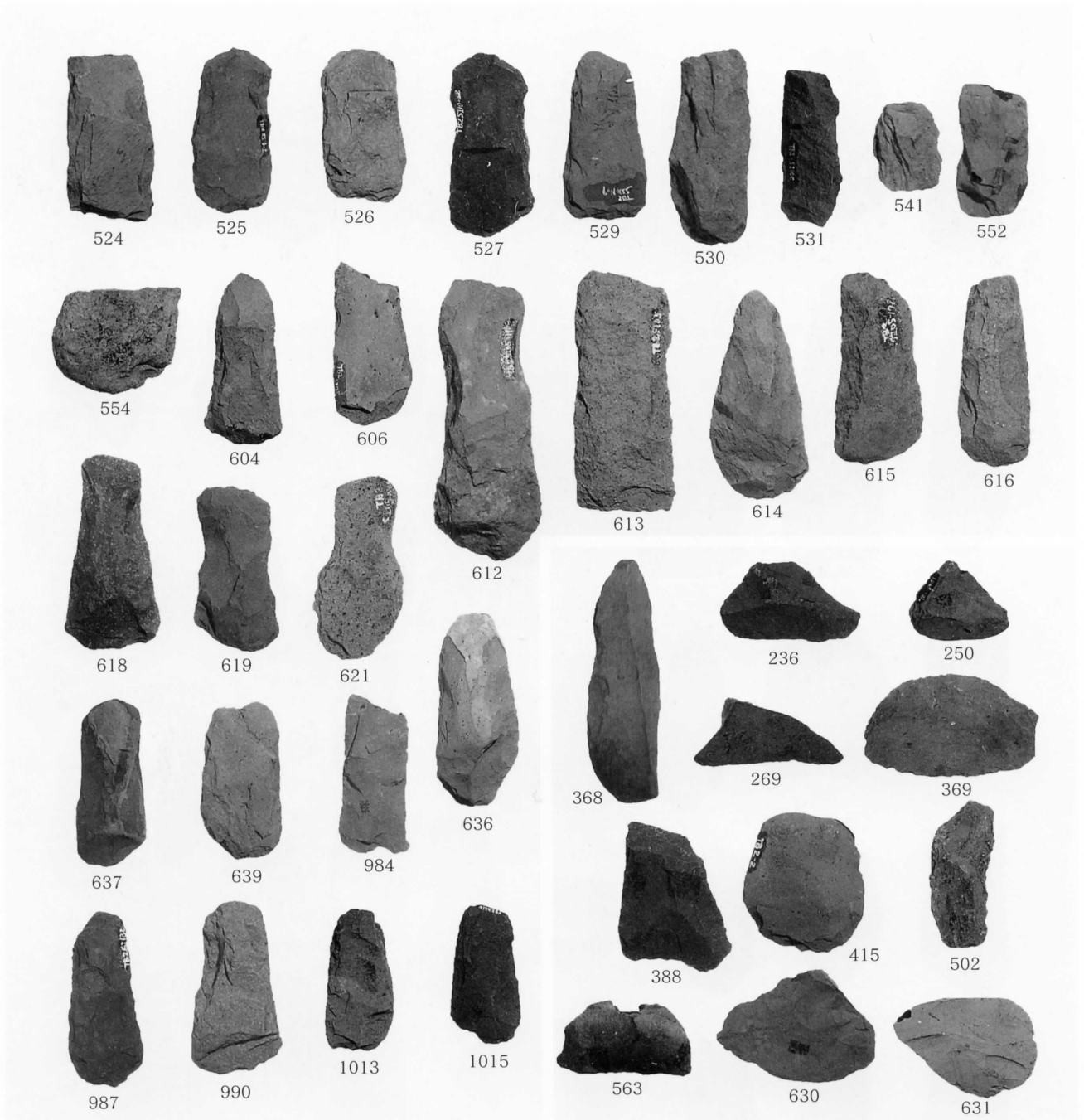
削器B (1:2)

— 打製石斧類 —



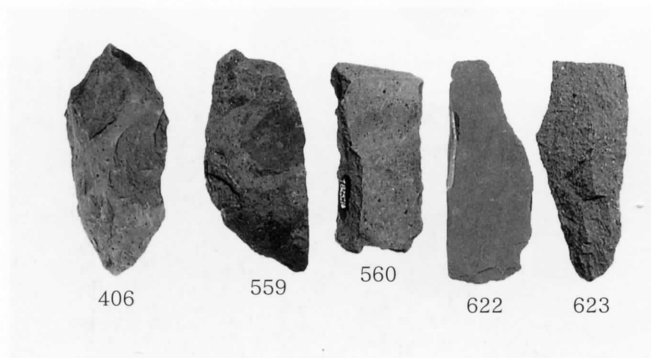
打製石斧① (1 : 4)

— 打製石斧類 —

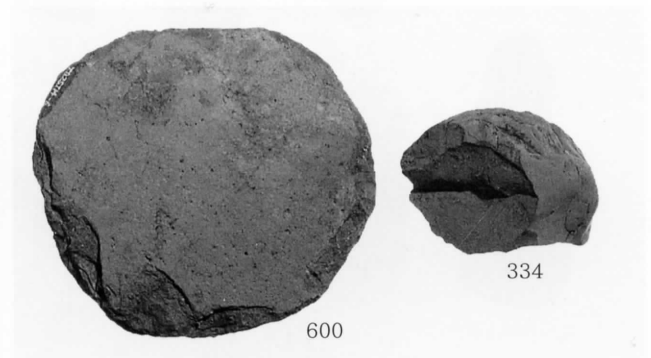


打製石斧② (1 : 4)

削器A (1 : 4)

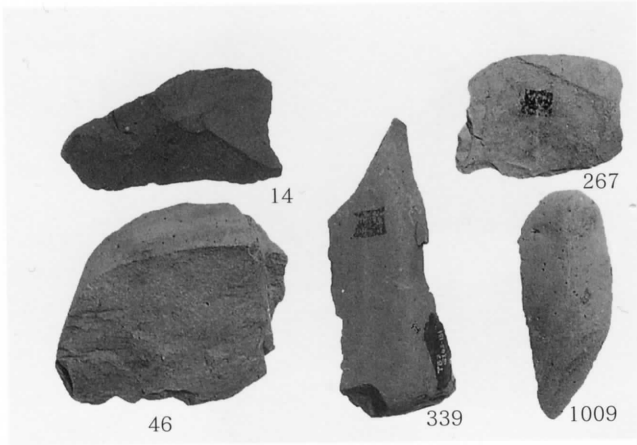


打製石斧未製品 (1 : 4)

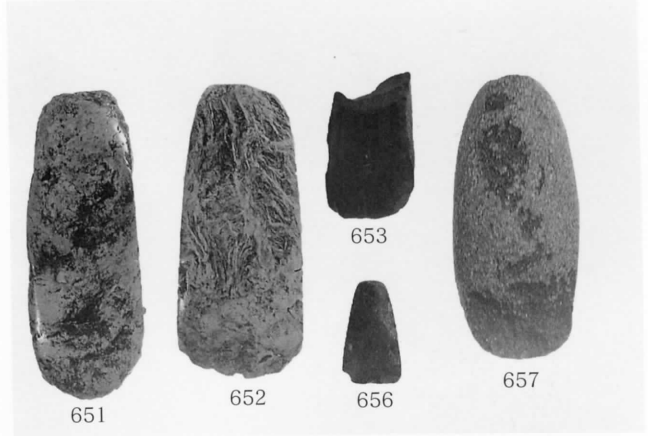


兩刃・片刃礫器 (1 : 4)

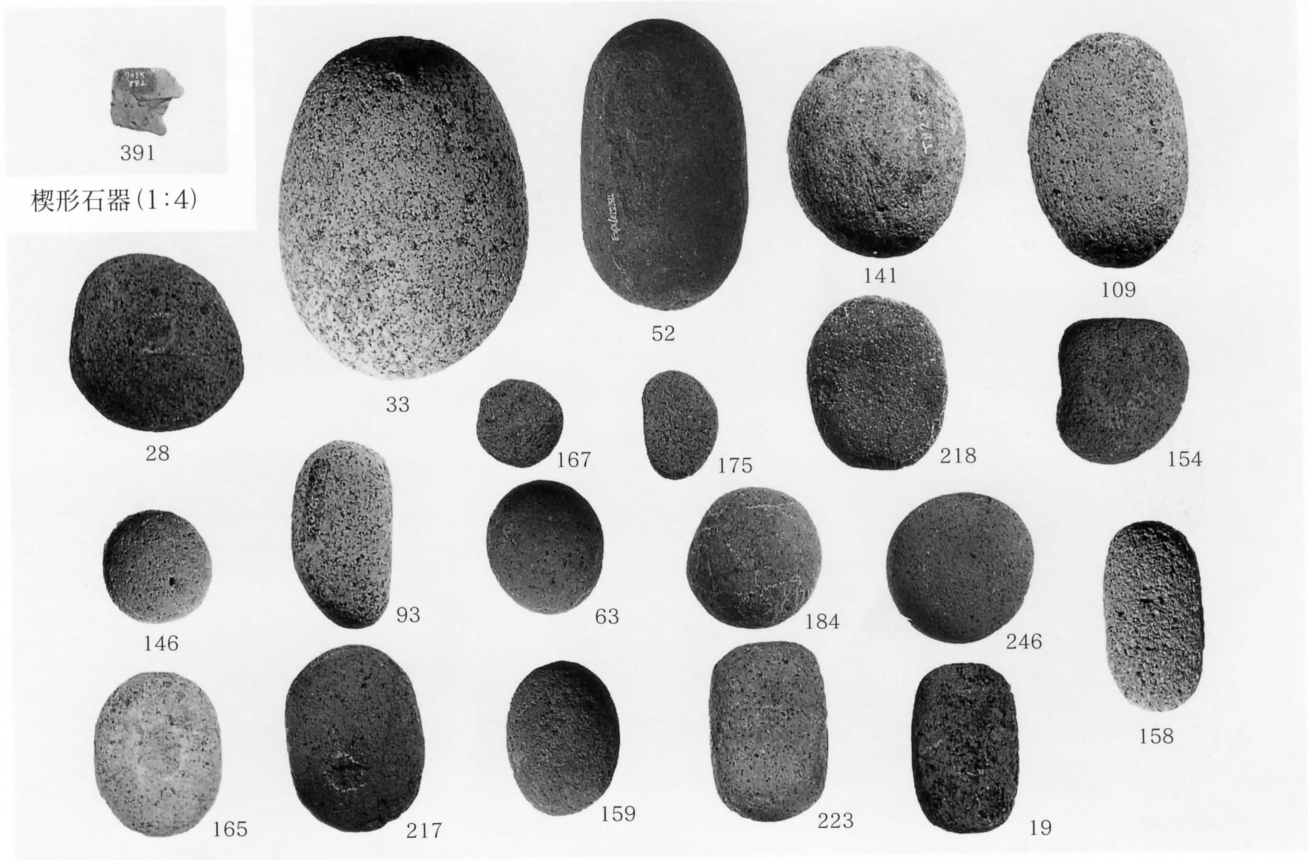
—— 打製石斧類・磨製石斧・礫石器類 ——



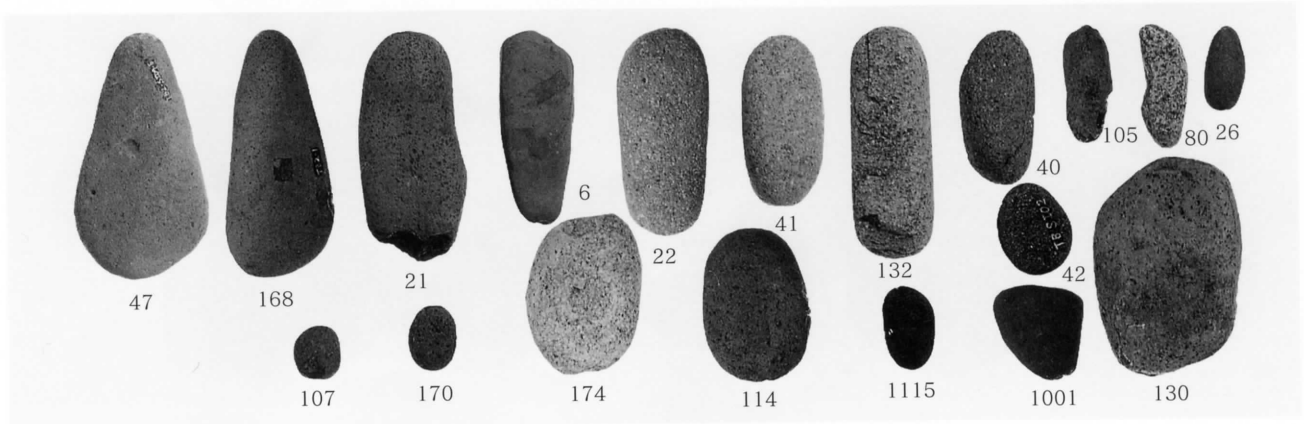
打製石斧剥片 (1:4)



磨製石斧 (1:4)



磨石 (1:5)

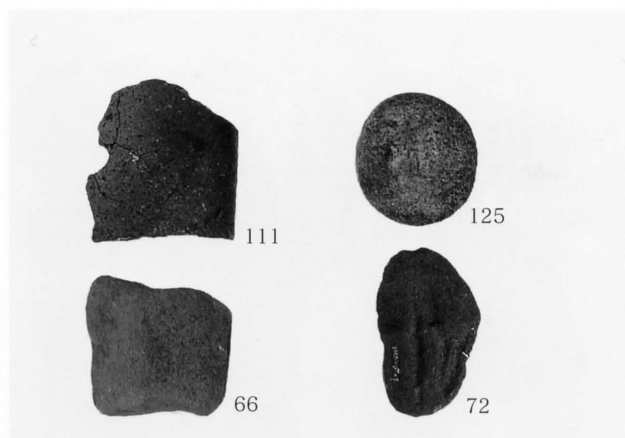


敲石 (1:5)

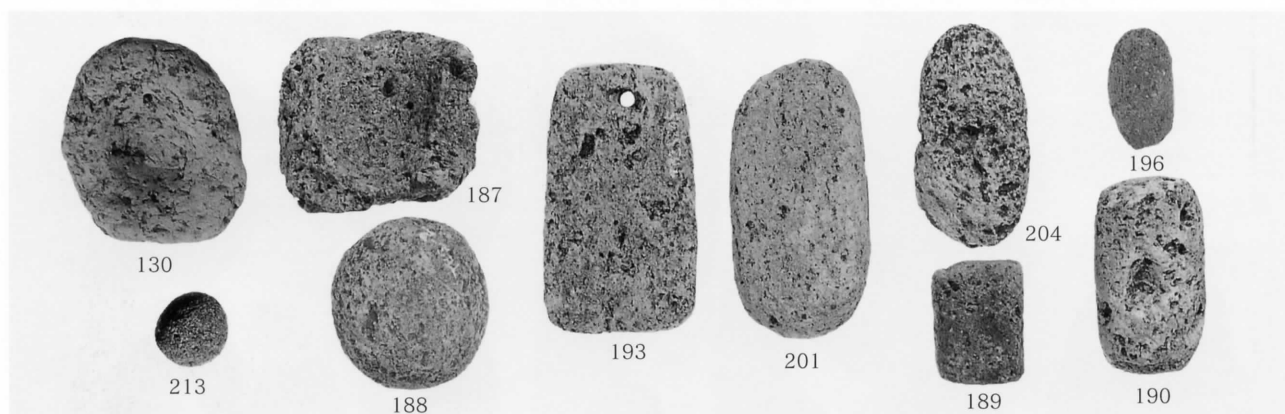
— 礫石器類・軽石製品 —



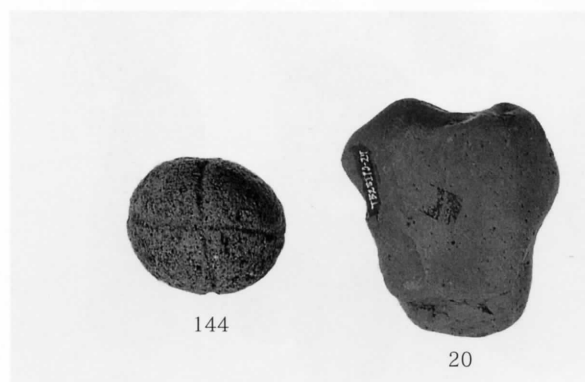
凹石 (1 : 5)



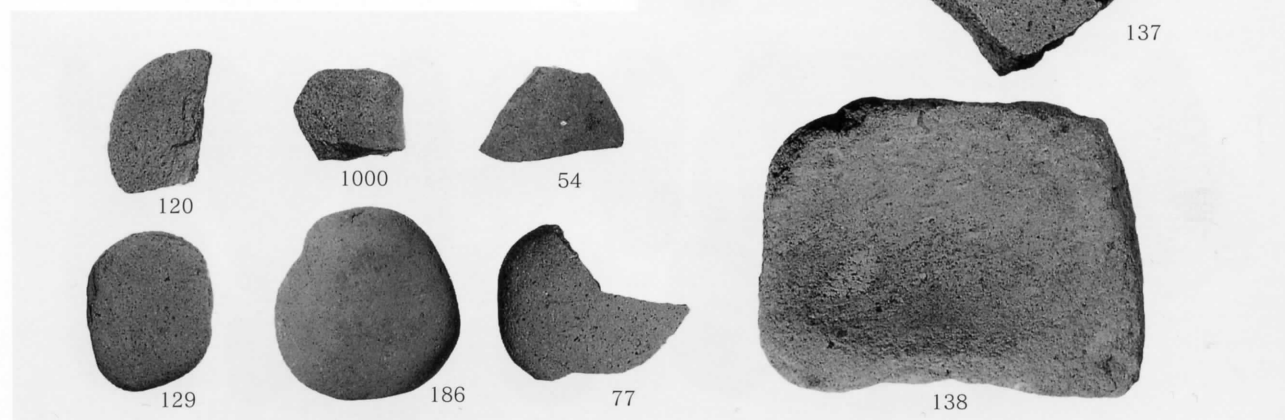
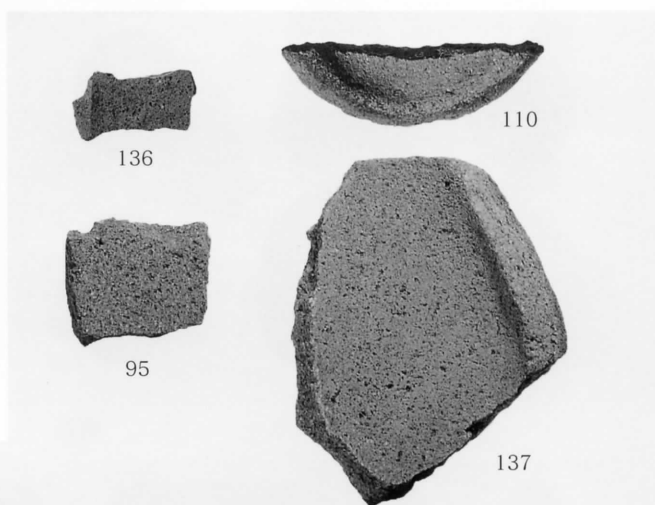
石棒・砥石 (1 : 5)



軽石製品 (1 : 3)



石錘 (1 : 3)



石皿 (1 : 8)

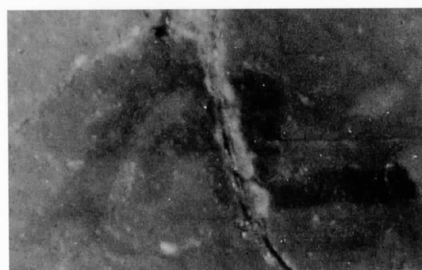
— SK12 · 13 · SI20 · 1号配石 —



SK13出土土器



SK12出土土器



「凡」



11

7



1



5



12



13



10

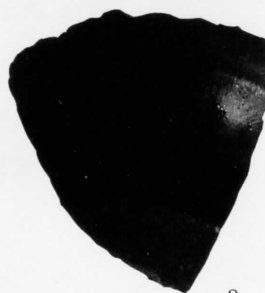
SI20出土土器



1



2



3



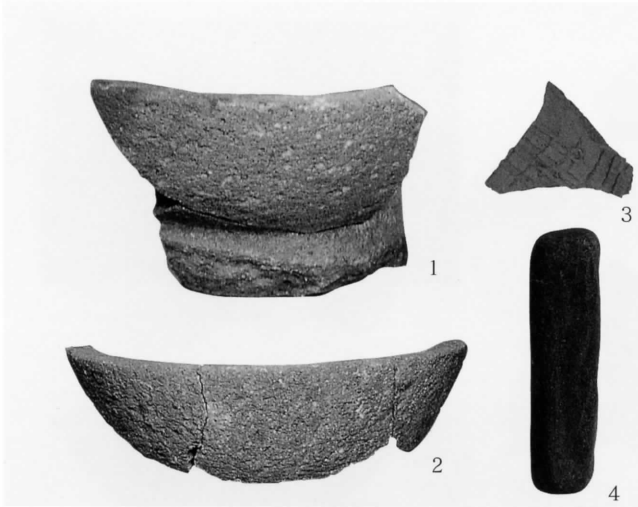
4



6

1号配石出土遺物

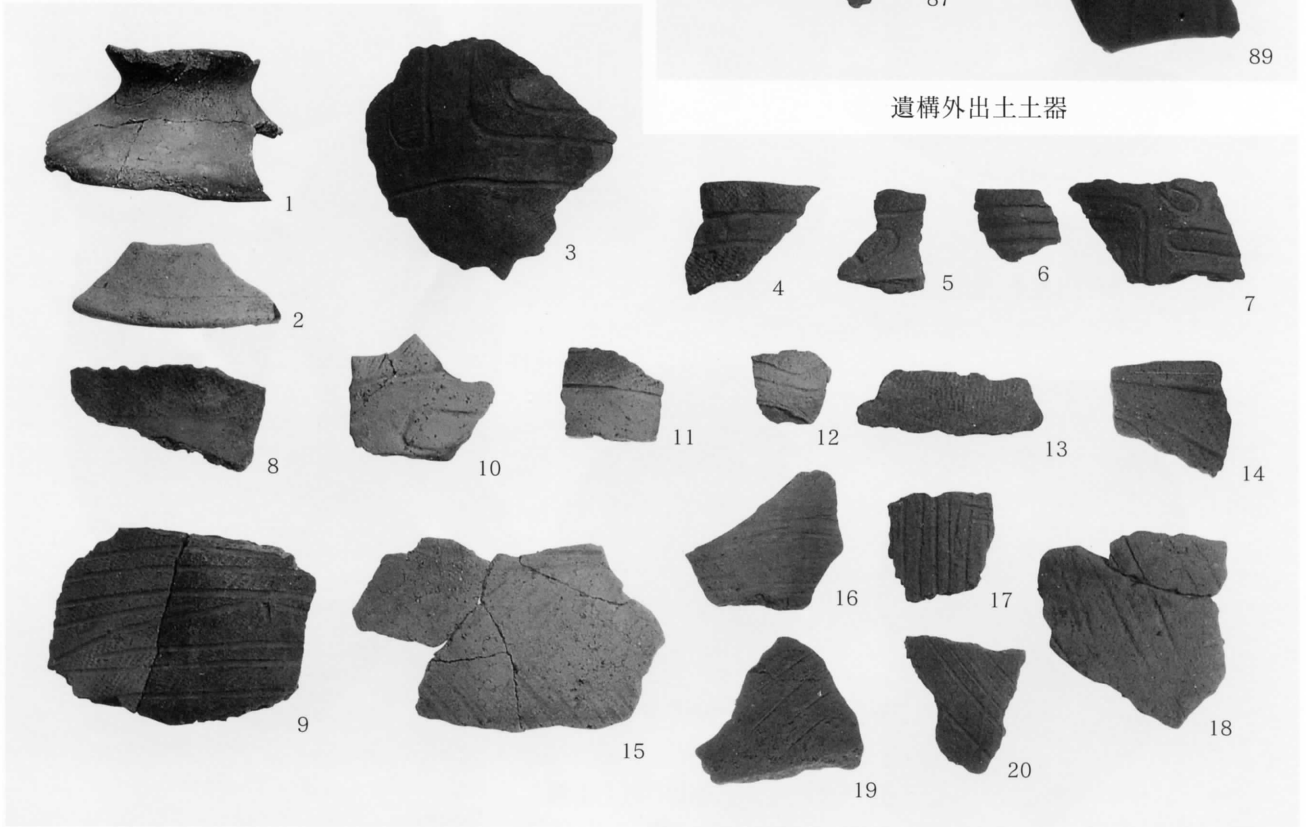
— 集石1・2・遺構外出土遺物・弥生中期土器 —



集石1・2 出土遺物



遺構外出土土器



第1次調査出土の弥生中期土器

報告書抄録

ふりがな	つばいいせき							
書名	坪井遺跡II							
副書名								
巻次								
シリーズ名	長野原町埋蔵文化財調査報告							
シリーズ番号	第7集							
編著者名	富田孝彦							
編集機関	長野原町教育委員会							
所在地	〒377-1305 群馬県吾妻郡長野原町大字与喜屋174 TEL 0279-82-4517							
発行年月日	西暦2000年3月30日							
ふりがな 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
つばいいせき 坪井遺跡	ながの ほらまち おおあぎ 長野原町大字 おおつ あぎ つばいい 大津字坪井	10424	86	36° 33' 16"	138° 37' 40"	980507 ~980831	5,824	(仮称)長野原 ショッピング センター建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項		
坪井	集落跡	縄文時代 前期初頭 中期後半 後期 弥生時代中期 平安時代 中世 時期不明	竪穴式住居跡 土坑 孤状列石 立石 竪穴(敷石)住居跡 土坑(屋内埋設遺構 石組遺構含む) 土坑 土坑 竪穴式住居跡 掘立柱建物跡 配石遺構 集石遺跡 溝状遺構 道路状遺構 不明遺構 土坑	1軒 6基 1基 1基 19軒 48基 1基 1基 1軒 1棟 1基 2基 1条 1条 2基 1基	縄文土器、土偶 縄文石器(打製 石斧類・礫石器・ 剝片石器類・磨 製石斧・玉類) 弥生土器 土師器 須恵器 陶(磁)器 砥石 銅製品	縄文時代前期初頭の花積 下層I式と塚田式の共伴 縄文時代中期後半の拠点 的集落跡		

坪井遺跡II

—(仮称)長野原ショッピングセンター
建設工事に伴う発掘調査報告書—

平成12年3月20日 印刷

平成12年3月30日 発行

発行 群馬県吾妻郡長野原町教育委員会

〒377-1305 群馬県吾妻郡長野原町大字与喜屋174

TEL 0279 (82) 4517 FAX 0279 (82) 4519

印刷 朝日印刷工業株式会社

